岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第693集

町屋敷（まちやしき）遺跡発掘調査報告書

一般国道４号水沢東バイパス建設事業関連遺跡発掘調査

２０１９

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
（公財）岩手県文化振興事業団

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第693集
町屋敷遺跡発掘調査報告書
２０１９
国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
（公財）岩手県文化振興事業団

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第693集

町屋敷遺跡発掘調査報告書

まちやしき

一般国道４号水沢東バイパス建設事業関連遺跡発掘調査

２０１９

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

（公財）岩手県文化振興事業団

町屋敷遺跡発掘調査報告書

一般国道４号水沢東バイパス建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されております。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行ない、その調査の記録を保存とする措置をとってまいりました。

本報告書は、一般国道４号水沢東バイパス建設事業に関連して、平成29年度に実施した町屋敷遺跡の調査成果をまとめたものであります。

今回の調査では、近世の屋敷を構成する掘立柱建物、区画溝などの遺構や多くの陶磁器が検出され、近世仙台藩領北部での屋敷地割や生活の様子を明らかにすることができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、奥州市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成31年３月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　菅　野　洋　樹

例　　言

1．本報告書は、岩手県奥州市水沢真城字町屋敷64－１ほかに所在する町屋敷遺跡の発掘調査成果を収録したものである。

2．本報告書掲載の遺跡の調査は、一般国道４号水沢東バイパス建設に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課との協議を経て、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが委託を受け、受諾事業として実施した。

3．町屋敷跡の岩手県遺跡台帳の登録の遺跡コード番号並びに遺跡略号は以下のとおりである。
町屋敷遺跡　番号：ＮＥ27 － 1029　略号：ＭＹ － 17

4．野外調査面積及び調査期間、室内整理期間、及び担当者は以下の通りである。

	面積	期間	担当者
野外調査	5,020㎡	平成29年７月４日～11月30日	羽柴直人　對馬利彦　出町拓也
室内整理		平成29年11月１日～平成30年３月31日	出町拓也

5．野外調査での遺構写真撮影は調査担当者、遺物写真撮影は当センター写真撮影を専門とする期限付職員が担当した。

6．本報告書の執筆は第Ⅰ章第１節を国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所が、その他を羽柴、對馬、出町が各担当部分を分担して執筆した。

7．実測委託・各種鑑定・分析等は以下の機関に委託した。
航空写真撮影……東邦航空株式会社
遺構写真撮影業務……水沢ラジコン
座標原点の測量……株式会社中央測量設計
表土除去、排土処理等……有限会社勝工業

8．野外調査及び報告書作成にあたり、次の方々の協力を得た（敬称略・順不同）。
高橋千晶（奥州市教育委員会）　佐藤良和（奥州市埋蔵文化財調査センター）

9．調査成果の一部は平成29年度調査概報（岩埋文第692集）現地説明会資料等で公開してきたが、本書の内容が優先するものである

10．本遺跡から出土した遺物及び調査に関わる資料は岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

目　　次

序
例言

Ⅰ　調査に至る経過 …… 1

Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 2
1　地理的環境 …… 2
（1）遺跡の位置（第1・2図）…… 2
（2）遺跡の地理、地形的環境（第1図）…… 2
2　周辺の遺跡（近世の遺跡周辺の状況）（第2図）…… 2

Ⅲ　調査と整理の方法 …… 7
1　調査の経過 …… 7
2　野外調査の方法 …… 7
3　室内整理の方法 …… 8
4　基本土層 …… 8

Ⅳ　検出された遺構 …… 29
1　竪穴住居 …… 29
2　掘立柱建物 …… 34
3　柱列 …… 102
4　溝 …… 108
5　土坑 …… 117
6　陥し穴 …… 169

Ⅴ　出土遺物 …… 178
1　土師器・土製品 …… 178
2　中世陶磁器 …… 178
3　近世磁器 …… 180
4　近世～近代陶器 …… 194
5　近代磁器 …… 211
6　ガラス・樹脂製品 …… 215
7　金属製品 …… 217
8　石製品 …… 221

Ⅵ　まとめ …… 231
1　町屋敷遺跡全体の概要 …… 231
2　町屋敷遺跡周辺の概要 …… 231
3　今回調査の内容 …… 231
4　まとめ …… 232

写真図版 …… 233
報告書抄録 …… 385

表　目　次

第１表　柱穴一覧表…… 172
第２表　土師器・土製品観察表…… 178
第３表　中世陶磁器観察表…… 178
第４表　近世磁器観察表…… 180
第５表　近世～近代陶器観察表…… 194
第６表　近代磁器観察表…… 211
第７表　ガラス・樹脂製品観察表…… 215
第８表　金属製品観察表…… 217
第９表　石製品観察表…… 221

図版目次

第１図　地形分類図…… 3
第２図　近世の町屋敷遺跡の周辺…… 6
第３図　基本土層…… 9
第４図　グリッド、遺構配置全体図…… 10
第５図　遺構配置図a …… 11
第６図　遺構配置図b …… 12
第７図　遺構配置図c …… 13
第８図　遺構配置図d …… 14
第９図　遺構配置図e …… 15
第10図　遺構配置図f …… 16
第11図　遺構配置図g …… 17
第12図　遺構配置図h …… 18
第13図　遺構配置図i …… 19
第14図　遺構配置図j …… 20
第15図　遺構配置図k …… 21
第16図　遺構配置図l …… 22
第17図　遺構配置図m…… 23
第18図　遺構配置図n …… 24
第19図　遺構配置図o …… 25
第20図　掘立柱建物遺構配置図（南側調査区）… 26
第21図　掘立柱建物遺構配置図（北側調査区）… 27
第22図　町屋敷遺跡調査範囲と地割…… 28
第23図　SI101 …… 31
第24図　SI102 …… 32
第25図　SI103 …… 33
第26図　SB1 …… 35
第27図　SB2 …… 36
第28図　SB3 …… 37
第29図　SB4 …… 38
第30図　SB5 …… 40
第31図　SB6 …… 41
第32図　SB7 …… 42
第33図　SB8 …… 43
第34図　SB9 …… 45
第35図　SB10 …… 46
第36図　SB11 …… 47
第37図　SB12 …… 48
第38図　SB13 …… 50
第39図　SB14 …… 51
第40図　SB101 …… 52
第41図　SB102 …… 53
第42図　SB103 …… 54
第43図　SB104 …… 55
第44図　SB105 …… 57
第45図　SB106 …… 58
第46図　SB107 …… 60
第47図　SB108 …… 61
第48図　SB109 …… 62
第49図　SB110 …… 63
第50図　SB111 …… 65
第51図　SB112 …… 66
第52図　SB113 …… 67
第53図　SB114 …… 68
第54図　SB115 …… 70
第55図　SB116 …… 71
第56図　SB117 …… 72
第57図　SB118 …… 73
第58図　SB119 …… 75
第59図　SB120 …… 76
第60図　SB121 …… 77
第61図　SB122 …… 78
第62図　SB123 …… 80
第63図　SB124 …… 81
第64図　SB125 …… 82
第65図　SB126 …… 83
第66図　SB127 …… 85
第67図　SB128 …… 86
第68図　SB129 …… 87
第69図　SB130 …… 88
第70図　SB131 …… 90
第71図　SB132 …… 91
第72図　SB133 …… 92
第73図　SB134 …… 93
第74図　SB135 …… 95
第75図　SB136 …… 96
第76図　SB137 …… 97
第77図　SB138 …… 98
第78図　SB139 …… 100
第79図　SB140 …… 101
第80図　SA101 …… 103
第81図　SA102 …… 104
第82図　SA103 …… 105
第83図　SA104 …… 106
第84図　SA105 …… 107
第85図　SD1 …… 109
第86図　SD2 …… 110
第87図　SD3 …… 112
第88図　SD4 …… 113

第89図　SD101 …… 114
第90図　SD102 …… 116
第91図　SK1 ～ SK6 …… 118
第92図　SK7 ～ SK11 …… 120
第93図　SK12 ～ SK16 …… 122
第94図　SK17 ～ SK22 …… 124
第95図　SK23 ～ SK28 …… 126
第96図　SK29 ～ SK33 …… 128
第97図　SK34 ～ SK37 …… 130
第98図　SK38 ～ SK43 …… 132
第99図　SK44 ～ SK47 …… 134
第100図　SK101 ～ SK106 …… 136
第101図　SK107 ～ SK112 …… 138
第102図　SK113 ～ SK117 …… 140
第103図　SK118 ～ SK121 …… 142
第104図　SK122 ～ SK128 …… 144
第105図　SK129 ～ SK134、SK142 …… 147
第106図　SK135 ～ SK138 …… 149
第107図　SK139 ～ SK141、SK143 ～ SK145 …… 151
第108図　SK146 ～ SK149 …… 153
第109図　SK150、SK166 …… 155
第110図　SK151 ～ SK155 …… 157
第111図　SK156 ～ SK158 …… 158
第112図　SK159 ～ SK164 …… 160
第113図　SK165、SK167 ～ SK172 …… 162
第114図　SK173 ～ SK178 …… 164
第115図　SK179 ～ SK184 …… 167
第116図　SK186 ～ SK188、陥し穴1 …… 170
第117図　陥し穴2、陥し穴3 …… 171
第118図　古代の土師器・土製品、中世の陶磁器 …… 179
第119図　近世の磁器（１）…… 186
第120図　近世の磁器（２）…… 187
第121図　近世の磁器（３）…… 188
第122図　近世の磁器（４）…… 189
第123図　近世の磁器（５）…… 190
第124図　近世の磁器（６）…… 191
第125図　近世の磁器（７）…… 192
第126図　近世の磁器（８）…… 193
第127図　近世～近代の陶器（１）…… 200
第128図　近世～近代の陶器（２）…… 201
第129図　近世～近代の陶器（３）…… 202
第130図　近世～近代の陶器（４）…… 203
第131図　近世～近代の陶器（５）…… 204
第132図　近世～近代の陶器（６）…… 205
第133図　近世～近代の陶器（７）…… 206
第134図　近世～近代の陶器（８）…… 207
第135図　近世～近代の陶器（９）…… 208
第136図　近世～近代の陶器（10）…… 209
第137図　近世～近代の陶器（11）…… 210
第138図　近代の磁器（１）…… 213
第139図　近代の磁器（２）…… 214
第140図　ガラス・合成樹脂製品 …… 216
第141図　金属製品（１）…… 219
第142図　金属製品（２）…… 220
第143図　石製品（１）…… 223
第144図　石製品（２）…… 224
第145図　石製品（３）…… 225
第146図　石製品（４）…… 226
第147図　石製品（５）…… 227
第148図　石製品（６）…… 228
第149図　石製品（７）…… 229
第150図　石製品（８）…… 230

写真図版目次

写真図版１　町屋敷遺跡遠景・全景…… 235
写真図版２　出土陶磁器（１）…… 236
写真図版３　出土陶磁器（２）…… 237
写真図版４　出土陶磁器（３）・ガラス製品 …… 238
写真図版５　航空写真１…… 239
写真図版６　航空写真２…… 240
写真図版７　SI101完掘・断面 …… 241
写真図版８　SI101カマド断面 …… 242
写真図版９　SI101貼床・Pit １～３断面…… 243
写真図版10　SI102完掘・断面 …… 244
写真図版11　SI102カマド・Pit １・２断面…… 245
写真図版12　SI102貼床 …… 246
写真図版13　SI103検出・断面・完掘 …… 247
写真図版14　SB １完掘・柱穴断面 …… 248
写真図版15　SB ２・SB ３完掘…… 249
写真図版16　SB ２柱穴断面 …… 250
写真図版17　SB ３柱穴断面 …… 251
写真図版18　SB ４・SB ５完掘…… 252
写真図版19　SB ４柱穴断面 …… 253
写真図版20　SB ５柱穴断面 …… 254
写真図版21　SB ６・SB ７完掘…… 255
写真図版22　SB ６・SB ７柱穴断面…… 256
写真図版23　SB ８・SB ９完掘…… 257
写真図版24　SB ８柱穴断面 …… 258
写真図版25　SB ９柱穴断面 …… 259
写真図版26　SB10完掘・柱穴断面 …… 260
写真図版27　SB11・SB12完掘 …… 261
写真図版28　SB11・SB12柱穴断面 …… 262
写真図版29　SB13・SB14完掘 …… 263
写真図版30　SB13・SB14柱穴断面 …… 264
写真図版31　SB101完掘・柱穴断面 …… 265
写真図版32　SB102・SB103完掘 …… 266
写真図版33　SB102・SB103柱穴断面 …… 267
写真図版34　SB104完掘・柱穴断面 …… 268
写真図版35　SB105・SB106完掘 …… 269
写真図版36　SB107・SB108完掘 …… 270
写真図版37　SB109・SB110完掘 …… 271
写真図版38　SB105 ～ SB110柱穴断面…… 272
写真図版39　SB111・SB112完掘 …… 273
写真図版40　SB113完掘
SB111 ～ SB113柱穴断面 …… 274
写真図版41　SB114完掘・柱穴断面 …… 275

写真図版42　SB115・SB116完掘 …… 276
写真図版43　SB115・SB116柱穴断面 …… 277
写真図版44　SB117・SB118完掘 …… 278
写真図版45　SB117・SB118柱穴断面 …… 279
写真図版46　SB119完掘・柱穴断面 …… 280
写真図版47　SB120完掘・柱穴断面 …… 281
写真図版48　SB121・SB122完掘 …… 282
写真図版49　SB121柱穴断面 …… 283
写真図版50　SB123・SB124完掘 …… 284
写真図版51　SB122 ～ SB124柱穴断面…… 285
写真図版52　SB125・SB126完掘 …… 286
写真図版53　SB125・SB126柱穴断面 …… 287
写真図版54　SB127・SB128完掘 …… 288
写真図版55　SB127・SB128柱穴断面 …… 289
写真図版56　SB129・SB130完掘 …… 290
写真図版57　SB129・SB130柱穴断面 …… 291
写真図版58　SB131・SB132完掘 …… 292
写真図版59　SB133・SB134完掘 …… 293
写真図版60　SB131 ～ SB134柱穴断面…… 294
写真図版61　SB135完掘・柱穴断面 …… 295
写真図版62　SB136完掘・柱穴断面 …… 296
写真図版63　SB137・SB138完掘 …… 297
写真図版64　SB139・SB140完掘 …… 298
写真図版65　SB137 ～ SB140柱穴断面…… 299
写真図版66　SA101完掘・柱穴断面…… 300
写真図版67　SA102完掘・柱穴断面…… 301
写真図版68　SA103完掘・柱穴断面…… 302
写真図版69　SA104完掘・柱穴断面…… 303
写真図版70　SA105完掘・柱穴断面…… 304
写真図版71　SD １完掘 …… 305
写真図版72　SD ２完掘 …… 306
写真図版73　SD ３完掘 …… 307
写真図版74　SD １・SD ２断面 …… 308
写真図版75　SD ２・SD ３断面 …… 309
写真図版76　SD ４断面・完掘 …… 310
写真図版77　SD101断面・完掘…… 311
写真図版78　SD102断面・完掘…… 312
写真図版79　SK １～ SK ３断面・完掘 …… 313
写真図版80　SK ４～ SK ７断面・完掘 …… 314
写真図版81　SK ８～ SK11断面・完掘 …… 315
写真図版82　SK12 ～ SK15断面・完掘 …… 316
写真図版83　SK16 ～ SK19断面・完掘 …… 317
写真図版84　SK20 ～ SK23断面・完掘 …… 318
写真図版85　SK24 ～ SK28断面・完掘 …… 319
写真図版86　SK29断面・完掘 …… 320
写真図版87　SK30 ～ SK33断面・完掘 …… 321
写真図版88　SK34 ～ SK36・SK38断面・完掘 … 322
写真図版89　SK37・SK39断面・完掘 …… 323
写真図版90　SK40 ～ SK43断面・完掘 …… 324
写真図版91　SK44 ～ SK47断面・完掘 …… 325
写真図版92　SK101 ～ SK104断面・完掘 …… 326
写真図版93　SK105 ～ SK108断面・完掘 …… 327
写真図版94　SK109 ～ SK112断面・完掘 …… 328
写真図版95　SK113 ～ SK116断面・完掘 …… 329
写真図版96　SK117 ～ SK119断面・完掘 …… 330
写真図版97　SK120 ～ SK122断面・完掘 …… 331
写真図版98　SK123 ～ SK126断面・完掘 …… 332
写真図版99　SK127 ～ SK130断面・完掘 …… 333
写真図版100　SK131 ～ SK134断面・完掘 …… 334
写真図版101　SK135 ～ SK137断面・完掘 …… 335
写真図版102　SK138 ～ SK141断面・完掘 …… 336
写真図版103　SK142 ～ SK145断面・完掘 …… 337
写真図版104　SK146 ～ SK149断面・完掘 …… 338
写真図版105　SK150 ～ SK152断面・完掘 …… 339
写真図版106　SK153 ～ SK156断面・完掘 …… 340
写真図版107　SK157 ～ SK160断面・完掘 …… 341
写真図版108　SK161 ～ SK164断面・完掘 …… 342
写真図版109　SK165 ～ SK168断面・完掘 …… 343
写真図版110　SK169 ～ SK172断面・完掘 …… 344
写真図版111　SK173 ～ SK176断面・完掘 …… 345
写真図版112　SK177 ～ SK180断面・完掘 …… 346
写真図版113　SK181 ～ SK184断面・完掘 …… 347
写真図版114　SK186 ～ SK188
陥し穴１断面・完掘 …… 348
写真図版115　陥し穴２～陥し穴３断面・完掘、
現地説明会 …… 349
写真図版116　古代の土師器・土製品、
中世の陶磁器 …… 350
写真図版117　近世の磁器（１）…… 351
写真図版118　近世の磁器（２）…… 352
写真図版119　近世の磁器（３）…… 353
写真図版120　近世の磁器（４）…… 354
写真図版121　近世の磁器（５）…… 355
写真図版122　近世の磁器（６）…… 356
写真図版123　近世の磁器（７）…… 357
写真図版124　近世の磁器（８）…… 358
写真図版125　近世～近代の陶器（１）…… 359
写真図版126　近世～近代の陶器（２）…… 360
写真図版127　近世～近代の陶器（３）…… 361
写真図版128　近世～近代の陶器（４）…… 362
写真図版129　近世～近代の陶器（５）…… 363
写真図版130　近世～近代の陶器（６）…… 364
写真図版131　近世～近代の陶器（７）…… 365
写真図版132　近世～近代の陶器（８）…… 366
写真図版133　近世～近代の陶器（９）…… 367
写真図版134　近世～近代の陶器（10）…… 368
写真図版135　近世～近代の陶器（11）…… 369
写真図版136　近世～近代の陶器（12）…… 370
写真図版137　近世～近代の陶器（13）…… 371
写真図版138　近世～近代の陶器（14）…… 372
写真図版139　近代の磁器（１）…… 373
写真図版140　近代の磁器（２）…… 374
写真図版141　近代の磁器（３）…… 375
写真図版142　近代の磁器（４）、ガラス製品…… 376
写真図版143　ガラス製品・合成樹脂製品 …… 377
写真図版144　金属製品（１）…… 378
写真図版145　金属製品（２）…… 379
写真図版146　石製品（１）…… 380
写真図版147　石製品（２）…… 381
写真図版148　石製品（３）…… 382
写真図版149　石製品（４）…… 383
写真図版150　石製品（５）…… 384

Ⅰ　調査に至る経過

町屋敷遺跡は、一般国道４号水沢東バイパス事業の施行に伴って、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することになったものである。

一般国道４号は、東京を起点として福島県、宮城県、岩手県を経て青森県に至る東北地方の暮らしや物流・産業を支え、社会経済の発展に重要な役割を担っている主要幹線道路である。水沢東バイパスは、奥州市水沢区内の国道４号の交通混雑解消と、交通安全の確保、沿道環境の改善を図るとともに、東北縦貫自動車道や東北新幹線水沢江刺駅とのアクセス向上等を目的として、昭和60年度に事業着手し、現在までに事業の終点（北側）より国道397号交差点までの延長4.6㎞について、暫定２車線の供用を行っている。

町屋敷遺跡が位置する事業区域は、国道397号交差点より約１㎞南側の区間に位置し、平成19年度に地元説明に着手し、用地買収が進捗した区域より一部工事に着手している。

町屋敷遺跡は、岩手県教育委員会遺跡台帳に登録されている周知の埋蔵文化財包蔵地である。当事業の施行に係わる埋蔵文化財の取扱いについては、遺跡に係わる区域が住宅地で地権者が多数存在したため、用地買収の進捗に応じて２回にわたり試掘調査を行っている。

１回目は、岩手河川国道事務所より岩手県教育委員会あて平成27年12月18日付け国東整岩二工第134号「道路事業における埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」により依頼を行った。依頼を受けた岩手県教育委員会が平成28年１月25日から26日に試掘調査を行った結果、工事予定地内に埋蔵文化財が確認され、工事に先立って発掘調査が必要となる旨、平成28年１月28日付け教生第1631号「埋蔵文化財の試掘調査結果について（回答）」により当事務所あて回答がなされた。

２回目は、同様に平成28年10月５日付け国東整岩二工第61号「一般国道４号水沢東バイパス事業における埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」により依頼を行った。依頼を受けた県教育委員会が、平成28年10月11日から13日にかけて試掘調査を行った結果、調査範囲内に埋蔵文化財が確認されたため、工事に先立って発掘調査が必要になる旨、平成28年10月21日付け教生第1083号「埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により当事務所あて回答がなされた。

なお、用地買収の進捗上、２回の試掘調査で町屋敷遺跡に係わる全ての区域について試掘調査が完了しなかったため、当事務所より岩手県教育委員会あて、平成28年11月10日付け国東整岩二工第67号「一般国道４号水沢東バイパス事業に係わる未試掘調査区域の対応について（協議）」を行い、同教育委員会より、平成28年11月17日付け教生1217号「一般国道４号水沢東バイパス事業に係わる未試掘調査の対応について（回答）」を受け、町屋敷遺跡については、平成27・28年度に試掘調査した状況より発掘調査が必要な区域との回答を受けた。これにより、町屋敷遺跡は、試掘調査を実施していない区域を含めて事業に係わる全域で発掘調査が必要との結論に至ったものである。

この結果を踏まえ、当事務所は岩手県教育委員会と協議を行い、発掘調査を公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とする事とした。これにより平成29年６月30日付けで岩手河川国道事務所長と公益財団法人岩手県文化振興事業団理事長との間で受託事業を締結し、町屋敷遺跡の発掘調査を実施することとなった。

（国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所）

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

（1）遺跡の位置（第１・２図）

町屋敷遺跡は、岩手県奥州市水沢真城字町屋敷64-1ほかに所在する。JR水沢駅からは南西約2.1kmの距離にある。本遺跡は国土地理院５万分の１地形図「水沢」の図幅に含まれ、その地点は北緯39°07分33秒、東経141度09分45秒付近である（世界測地系）。標高は約41ｍで、遺跡の東方1,400ｍを南流する北上川との比高差は約11ｍである。

奥州市は、平成18年に２市２町１村による広域合併により成立したもので、北は北上市・花巻市・金ケ崎町、南は一関市・平泉町、東は遠野市・住田町、西は秋田県東成瀬村に接し、面積は県内第３位、人口118,638人（平成30年２月現在）である。遺跡の所在する水沢区域は、旧水沢市の範囲に相当し、北上山地と奥羽山脈に挟まれた低地帯に位置し、県庁所在地盛岡市からは、南に65kmの位置にある。南北に東北新幹線・東北本線・東北縦貫自動車道・国道４号、東西に国道343号・397号が走る。また、北上川と胆沢川の合流点にも近く、古くから胆沢地区の交通の要衝・中心的役割を果たしてきており、現在も奥州市の中心市街地を構成している。

（2）遺跡の地理、地形的環境（第１図）

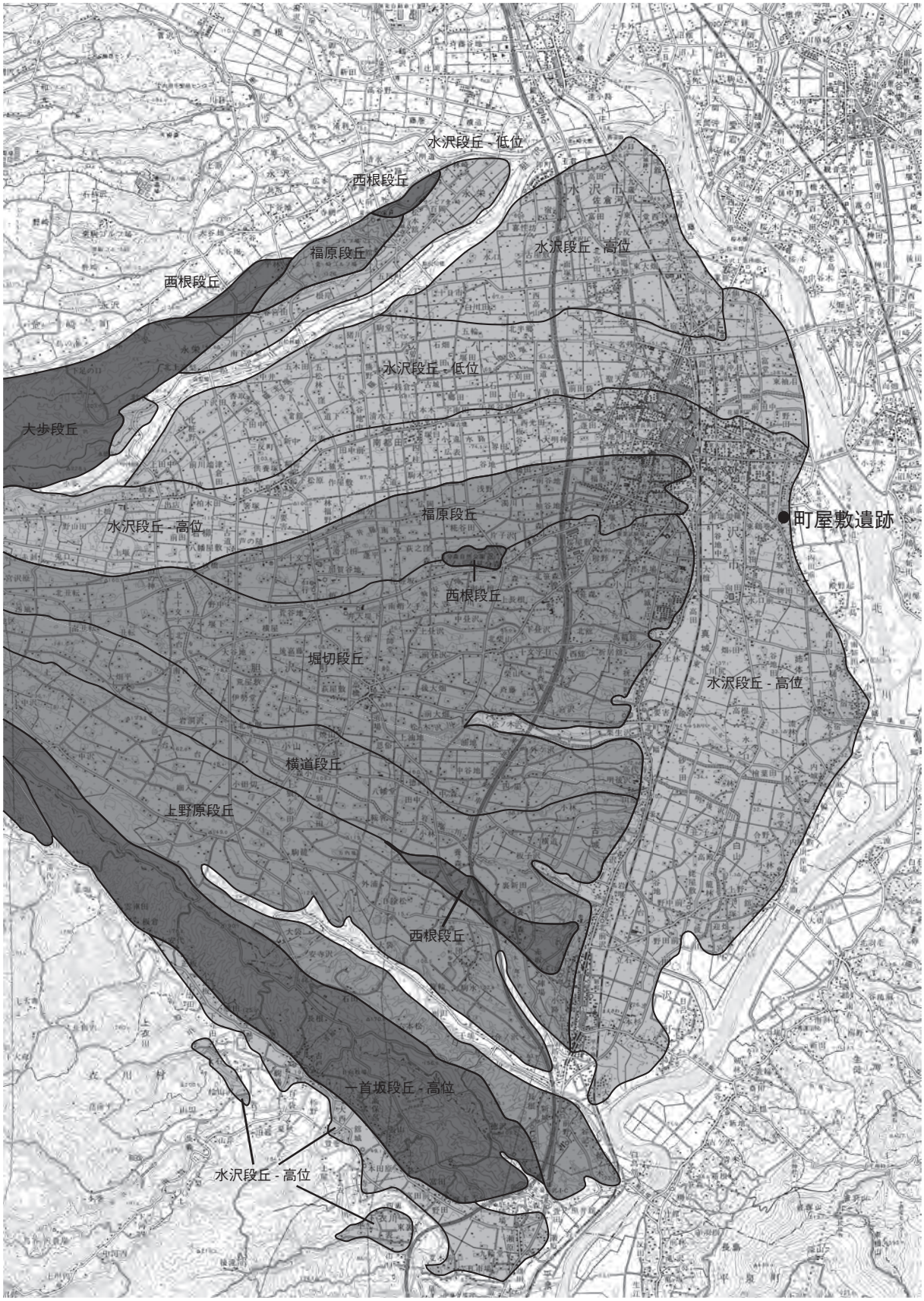
奥州市水沢は北上川中流域に属し、ほぼ中央を北上川が南流する。北上川を境にして、東西の地形は大きく異なる。東岸の地質は主として古生層から成り、北上山地に連なる丘陵が迫る。一方、西岸は新第三系から構成され、胆沢扇状地が広がる。胆沢扇状地は、奥羽山脈の隆起と胆沢川の浸食・堆積によって形成され、県内最大、北上川流域最大の面積を持つ。扇状地の上には、広大な段丘群が展開している。段丘群は南から北に向かって低下しており、高位のものから一首坂段丘、胆沢段丘、水沢段丘と大別される。胆沢段丘はさらに上野原・横道・堀切・福原の各段丘に、水沢段丘は高位段丘・低位段丘に細別できる。奥州市水沢区域の多くの地域は水沢段丘に属する。

町屋敷遺跡は水沢高位段丘の東縁辺部に立地し、東面は北上川旧河道の崖面で画される。標高は約41ｍである。調査前は住宅、及び果樹の畑として利用されていた。

2　周辺の遺跡（近世の遺跡周辺の状況）（第２図）

今回の町屋敷遺跡の調査で検出された遺構、遺物はの主体は近世（江戸時代）のものである。報告書を記述する前提としてここでは、近世の町屋敷遺跡周辺の概要を記しておく。

近世には、遺跡の所在する町屋敷地区は、仙台藩奥郡奉行管轄の上胆沢瀬台野村に属していた。安永５年（1776）に書かれた「瀬台野村風土記御用書出（以下安永風土記）」には、田が41貫673文、畑が38貫57文の合計79貫730文、その内29貫919文が「御蔵入り」、48貫59文が「御給所」、１貫758文が「御百姓御知行」となっている。「御蔵入り」は藩主の直轄地、「御給所」は伊達家家臣（給人）に宛てられた知行地である。安永風土記記載の「御給所」には、具体的な給人の内訳は記されていないが、水沢市史（水沢市史編纂委員会1981）所収の天保十三年（1842）の水沢伊達家の「知行



1:100,000（1:50,000 北上・水沢を転用）

高位段丘　中位段丘　低位段丘

第１図　地形分類図

御割目録」には「一、四拾八貫百五拾四文　同(胆沢)郡瀬台野村之内」とあり、安永風土記の「御給所」48貫59文に概ね相当し、瀬台野村の「御給所」は全て水沢伊達家の知行地であったと判断できる。村高の約60％が水沢伊達家の知行地､38％が仙台藩直轄地（２％は百姓知行地）という配分状況である。

また「家数」は52軒、人数は241人、馬30疋となっており、この他､「舟」八艘（御石艜７、艜１）の記載も注目される。「屋敷名」は４で町屋敷44軒、大学屋敷１軒、谷木屋敷３軒、熊畑屋敷３軒となっている。実に家数51軒（寺１軒分を除くとある）の内、44軒が「町屋敷」に所在しており、通常の純粋な農村とは異なる景観を呈する村と捉えられる。現在、字町屋敷地内では、国道343号沿いに面して規則的に区割された屋敷群を見ることができる。これが安永風土記記載の「町屋敷」の区域に相当すると考えられる。つまり「町屋敷」は道路に沿って規格的に屋敷を設置された「街村」と理解すべきである。この規則的な屋敷の区割りは、国道343号から桝形に続く調査区付近の道路沿いにも連続しており、発掘された屋敷も「町屋敷」を構成する屋敷群と判断できる。また瀬台野村の西隣には水沢要害の城下が位置する。水沢要害及び城下は塩竈村の範囲内に所在するが、行政上は別扱いとなっている。寛永六年（1629）以降は仙台藩主一門の水沢伊達氏（留守氏）の支配となり、石高約一万六千石に相応しい城下町を形成している。また「町屋敷」の屋敷が配置される現在の国道343号は、水沢城下から発し、江刺郡黒石村に達する「黒石道」と通称されていた。北上川東岸の黒石村から道筋は沿岸部まで続き、「黒石道」は内陸部と海岸部を結ぶ交通路と捉えられる。このように「町屋敷」は、仙台藩北部の要衝水沢城下と沿岸部を結ぶ主要路に面していることになる。

瀬台野村には年貢米を集積、検査、出荷する公的な施設「瀬台野御蔵」が存在していた。その所在地は、今回の調査範囲の東側約100ｍの位置とされており、2000年、2001年に（財）水沢市埋蔵文化財調査センターにより発掘調査がおこなわれている（(財）水沢市埋蔵文化財調査センター 2002)。調査では御蔵の施設と推測される２間×10間の長大な掘立柱建物も検出されており、当該地が御蔵場であることを裏付ける成果が得られている。「瀬台野御蔵場」は設置、廃止年は定かではないが、水沢市史（水沢市史編纂委員会1981）では瀬台野御蔵場の後身とされる「跡呂井御蔵場」の設置年を享保三年（1718）とし、瀬台野御蔵場の廃止年もその時期としている。また、設置年については正保四年（1645）としている。一方、北上川第六輯（東北地方建設局岩手工事事務所1977）では瀬台野御蔵場の設置を1718年、廃止･跡呂井移転を宝暦六年（1756）としているが、元禄十二年（1699）作成の「上胆沢郡大絵図」には瀬台野御蔵場が記されており、水沢市史の年代に整合性が見出され、本報告書では、瀬台野御蔵場の設置年を正保四年（1645)、廃止年を享保三年（1718）と捉えておく。瀬台野御蔵場の廃止は北上川の河道変化により、川湊に適した立地が損なわれたためとされる。しかしながら、上記の安永風土記には瀬台野村に「舟」が所在する旨が記され、水沢市史所収の享保十六年（1731）以降の北上川舟運関係の文書に「瀬台野舟場」の記載があり、御蔵場廃止後も瀬台野村に舟運関連の施設が存在し続けたことを物語っている。

道路に面して屋敷が配置される「町屋敷」は、明らかに一貫した計画により人為的に設置されたものである。これについて水沢市史では「「町屋敷」という河港集落がある」と記され､『岩手県の地名』（森嘉兵衛監修1990）の「瀬台野村」の項では「町屋敷の屋敷地は整然と区画されているが、中世以後瀬台野館が築かれたこと、正保二年仙台藩本石蔵が置かれ河岸場になったことから早くから屋敷割が行われたものと考えられる」と記されるが、具体的な来歴、設置の意図は示されてはいない。この他、管見では記録類、論述は見いだせておらず、残念ながら瀬台野村町屋敷の具体的な成り立ちは不明とせざるを得ない。一般的に街道に面して屋敷が短冊形に配置される街村の形態は､「宿場」「町屋」「武家屋敷」「足軽屋敷」などがあるが、この中で瀬台野村町屋敷の形態に最も該当するのは間口

の広さ、敷地内に庭・耕地があること、城下町の範囲から外れていること、宿場としての記録がないことから「足軽屋敷」が最も蓋然性が高いと考える。私見としては、「町屋敷」は年貢米を管理する「御蔵場」の警備に係る足軽を集住させる施設であった可能性を想定したい。その記録が残っていないのは、享保３年(1718年)の瀬台野御蔵場の廃止により、足軽組も解散、又は移転したためではないだろうか。

この他、近世の瀬台野村の範囲内には瀬台野館（大学Ⅱ遺跡)、片子沢館の２つの城館跡がある。瀬台野館は安永風土記では「沼の上、古舘」とされ、仙台藩士「横山弥右衛門」が寛文十一年（1671）の改易まで居住し、その後畑地となったと記される。また片子沢館は城主、来歴不明の旨安永風土記に記される。岩手県中世城館跡分布調査報告書（岩手県教育委員会1986）では「平地単郭式」と記される。

また、字町北浦に所在の長泉寺は現在臨済宗妙心寺派で正保二年（1643）に水沢町増長寺松屋玄貞が隠居寺として開基されたとされる。熊野神社は現在字町屋敷の瀬台野分館隣接地に鎮座するが、旧鎮座地は字熊野堂地内であったという。安永風土記には「小名　船戸」に所在する旨記される。これにより字熊野道付近が「船戸」と呼称されていたと理解される。

参考・引用文献

岩手県教育委員会　1986『岩手県中世城館跡分布調査報告書』第82集
奥州市水沢区真城地区振興会　2010『昔のおもかげ探す瀬台野散策』真城ふるさと探訪パンフレット
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2004『杉の堂遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第425集
（財）水沢市埋蔵文化財調査センター　2002『町屋敷遺跡』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第15集
瀬川貞清　2016『瀬台野の歴史物語』
東北地方建設局岩手工事事務所　1977『北上川』第六輯
水沢市史編纂委員会　1981『水沢市史３　近世〈上〉』水沢市史刊行会
森嘉兵衛監修　1990『岩手県の地名』平凡社

第２図　近世の町屋敷遺跡の周辺

Ⅲ　調査と整理の方法

１　調査の経過

平成29年７月３日（月）に夜、奥州市常盤地区センターにおいて、岩手河川国道事務所水沢国道維持出張所主催による地域住民対象の「水沢東バイパス工事説明会」が開催され、当該工事区域に係る町屋敷遺跡の調査計画、調査方法について担当調査員が説明をおこなった。４日（火）器材の一部を埋文センターから現地に搬入し、同日より調査事務所設置の整地作業をおこない、引き続き調査区域内の雑物撤去、防護柵設置をおこなった。また、重機による粗掘作業も開始した。７月10日（月）に４ｔトラックにて器材を搬入した。同日から屋外作業員も勤務している。11日（火）からは重機による粗掘と並行して人力による粗掘も開始した。人力による粗掘は、重機粗掘後の残土除去、調査区境の壁面掘削が主である。重機、人力による粗掘は7月27日（木）までに終了した。7月31日（月）からは遺構検出を開始した。遺構検出は調査区全面について８月31日（木）に終了したが、この間にも一部遺構の精査もおこなっている。遺構検出は、検出の平面形を図化し、掘立柱建物のプラン検討をおこなっている。９月１日（金）からは本格的に遺構精査、実測を開始した。調査の進展に合わせ、10月28日（土）には現地説明会を開催している。また、11月７日（月）には航空写真撮影を実施した。この後、調査終了間際まで遺構精査、実測は続き11月28日（火）に終了した。なお、11月10日（金）には、岩手河川国道事務所、県生涯学習文化財課の立会で部分終了確認をいただき、742㎡の調査を終了した。11月24日（金）には残り分の終了確認がおこなわれ、計5,020㎡分の終了確認をいただいた。11月30日（木）には器材を搬出し、町屋敷遺跡の野外調査を終了した。

２　野外調査の方法

グリッドの設定

グリッドは平面直角座標のＸ系（世界測地系）に沿って設定している。座標値は第４図に示すとおりである。グリッドは一辺５ｍとし、東西は西から東に向かってグリッド毎にＡ、Ｂ・・・とアルファベットの大文字を５ｍ毎に付し、南北は南から北へ向かって０、１、２・・・と算用数字を５ｍ毎に付している。グリッドの呼称は南北ラインの算用数字と東西ラインのアルファベット大文字との組み合わせで「１Ａ」「２Ｂ」というように表す。各々のグリッドの呼称は、グリッドの南西隅の杭に表示されることとなる。「０Ａ」の座標値はＸ＝－96,980ｍ、Ｙ＝28,455ｍ、24Ｆの座標はＸ＝－96,860ｍ、Ｙ＝28,480ｍとなる。なお、本報告の町屋敷遺跡の調査範囲は、東西Ａ～Ｋ、南北０～26グリッドに納まっている。

遺構の名称

遺構の略号は、掘立柱建物ＳＢ、柱列ＳＡ、竪穴住居（建物）ＳＩ、土坑ＳＫ、溝ＳＤ、柱穴Ｐとした。なお、縄文時代の溝状の陥し穴については、略号を用いず「陥し穴」とする。そして、この略号の下に遺構の検出順に算用番号を付した。調査、整理の便宜を図るため、調査区を横断する町道町屋敷３号線を境に南側の遺構は「１」からの番号を付し、北側の遺構は「101」からの番号を付した。北側の柱穴については「1001」からの番号を付している。

掘立柱建物はＳＢ１～ＳＢ14・ＳＢ101～ＳＢ140の54棟がある。柱列はＳＡ101～ＳＡ105の５

条がある。竪穴住居（建物）はＳＩ101～ＳＩ103の３棟がある。土坑はＳＫ１～ＳＫ47、ＳＫ101～ＳＫ188（ＳＫ185は欠番）の134基がある。、溝はＳＤ１～ＳＤ４、ＳＤ101、ＳＤ102の６条がある。柱穴はＰ１～Ｐ348、Ｐ1001～1904の1,252個がある。陥し穴は陥し穴１～陥し穴３の３基がある。

粗掘り・遺構検出

雑物撤去後にトレンチを設定し、遺物の包含状況、遺構の検出面を把握した。その後、遺構検出面及び遺物包含層上面まで重機を用いて表土を除去した。遺構の確認は表土を除去した面をジョレン、両刃鎌で平滑にし、プランを確認するようにした。掘立柱建物については、個々の柱穴の検出に留まらず、検出の段階で建物プランを把握するように努めた。

遺構の精査

検出した遺構は、土層を観察するベルトを設定して掘り下げることを基本とした。柱穴も半裁し土層を観察しながら掘り下げることを基本とした。

遺物の取り上げ

遺物は遺構ごとに取り上げることを基本とした。必要と思われる場合、座標とレベルを記録した。また長い範囲に及ぶ溝については、グリッド毎の取り上げることとした。また、遺構外ではグリッド毎の取り上げを基本とした。

実測・写真撮影

地形測量、平面実測は電子平板（株式会社CUBIC　遺構実測支援システム）を使用しておこなった。また断面実測については、従来どおり、レベルを用いて水平を設定し手作業による実測を主体としておこなった。写真撮影は一眼レフデジタルカメラを主に使用した。撮影は埋土堆積状態や遺構の完掘状況などについて行った。

3　室内整理の方法

出土遺物は水洗の後、注記を行い、接合、復元作業を実施した。これらの作業終了後、報告書掲載遺物を選び出し、登録をおこなった。

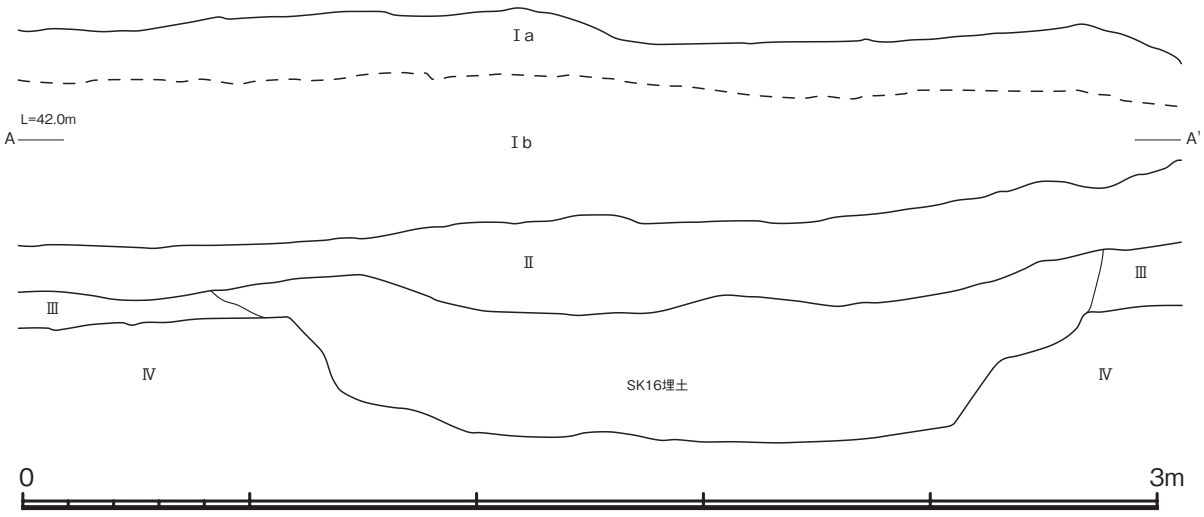
遺物実測は原則として実寸で行った。また、電子平板で実測した地形図、遺構データは点検を行い、等高線の補正、断面図の合成等を経て図版としての体裁を整えた。

野外調査で撮影したデジタル写真は台帳の作成をおこない、データごとにフォルダ整理を行った。また、報告書掲載分の遺物撮影もデジタルカメラでおこない、データごとに整理おこなった。そして、これらのデジタル写真データから報告書掲載写真を選択し、写真図版版下を作成した。

これらの作業の終了後、原稿の執筆を行い、報告書を編集した。

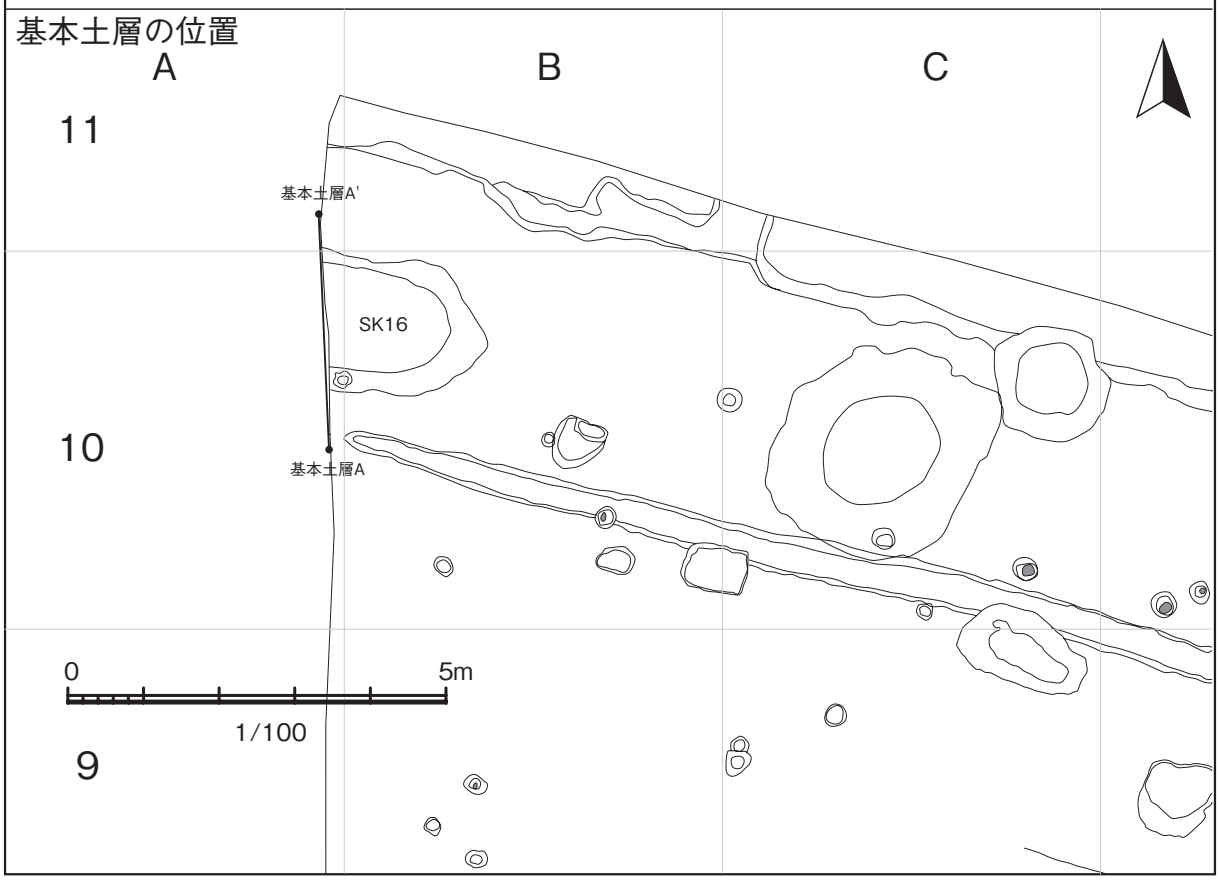
4　基本土層

調査区域は概ね平坦であり、土層の厚さも概ね均一である。基本土層は平均的な層厚と層序を有し、遺構断面もかかる南側調査区境界の西壁北側（10Ａ、11Ａグリッド付近）の層序を示す。

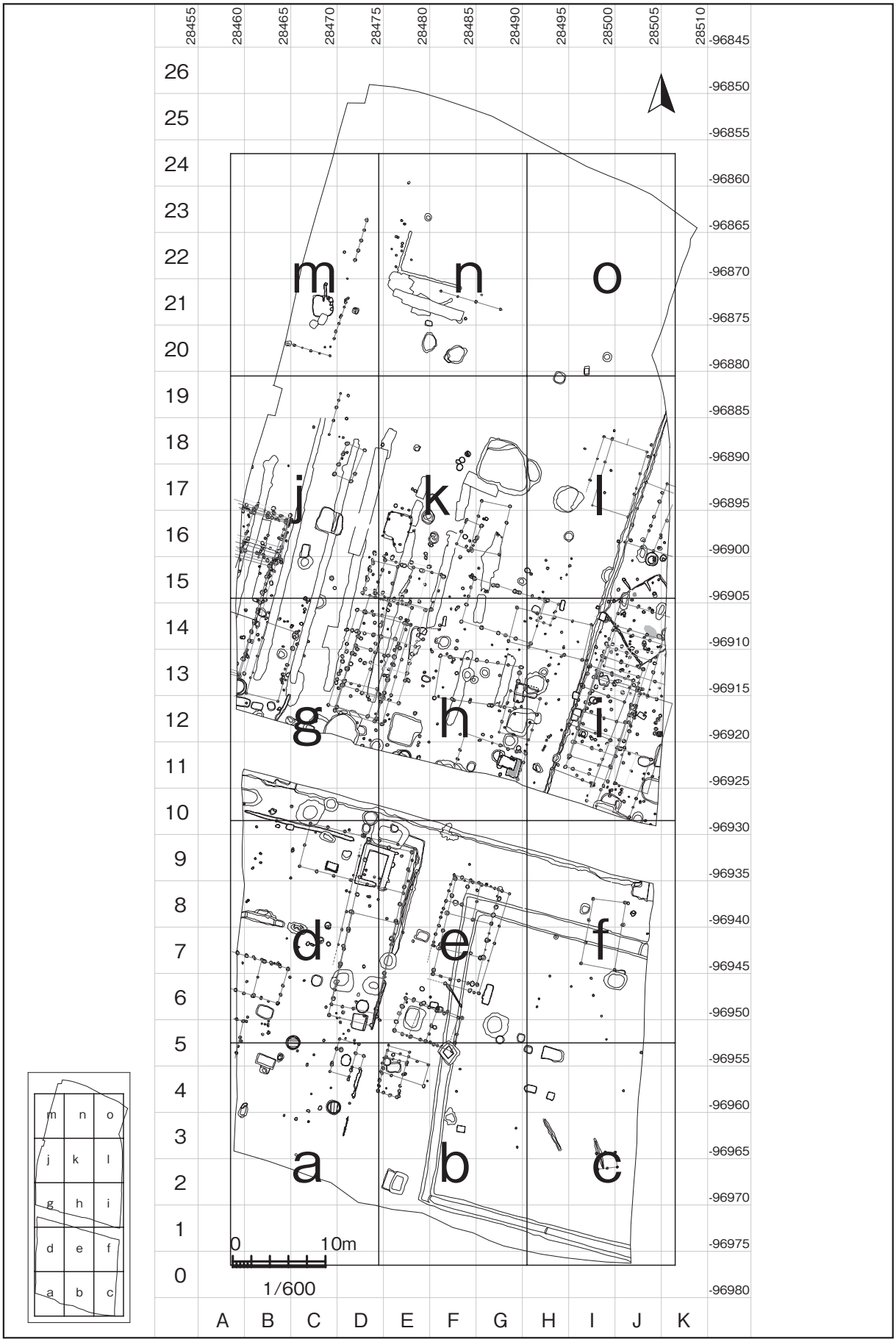


基本土層

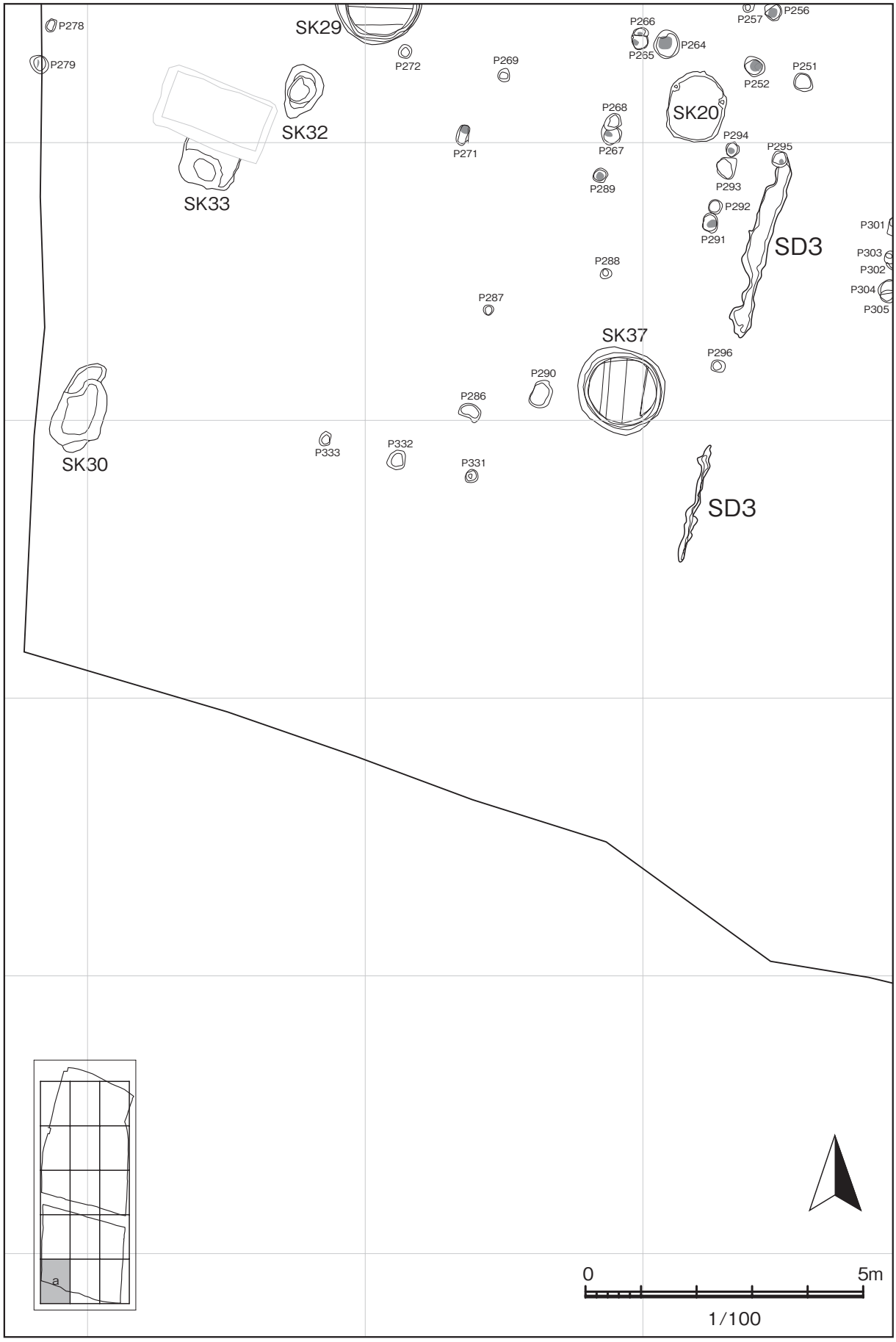
Ⅰa層	10YR3/1黒褐色土	草根多量混入　しまりなし
Ⅰb層	10YR4/1褐灰色土	10YR6/8明黄褐色土ブロック多量混入　人為的な盛土
Ⅱ 層	10YR3/2黒褐色土	炭化物粒・近世陶磁器など混入する
Ⅲ 層	10YR3/2黒褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土まだらに多量混入 この層の上面が理論上の遺構検出面
Ⅳ 層	10YR6/8明黄褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土まだらに多量混入 この層の上面が理論上の遺構検出面



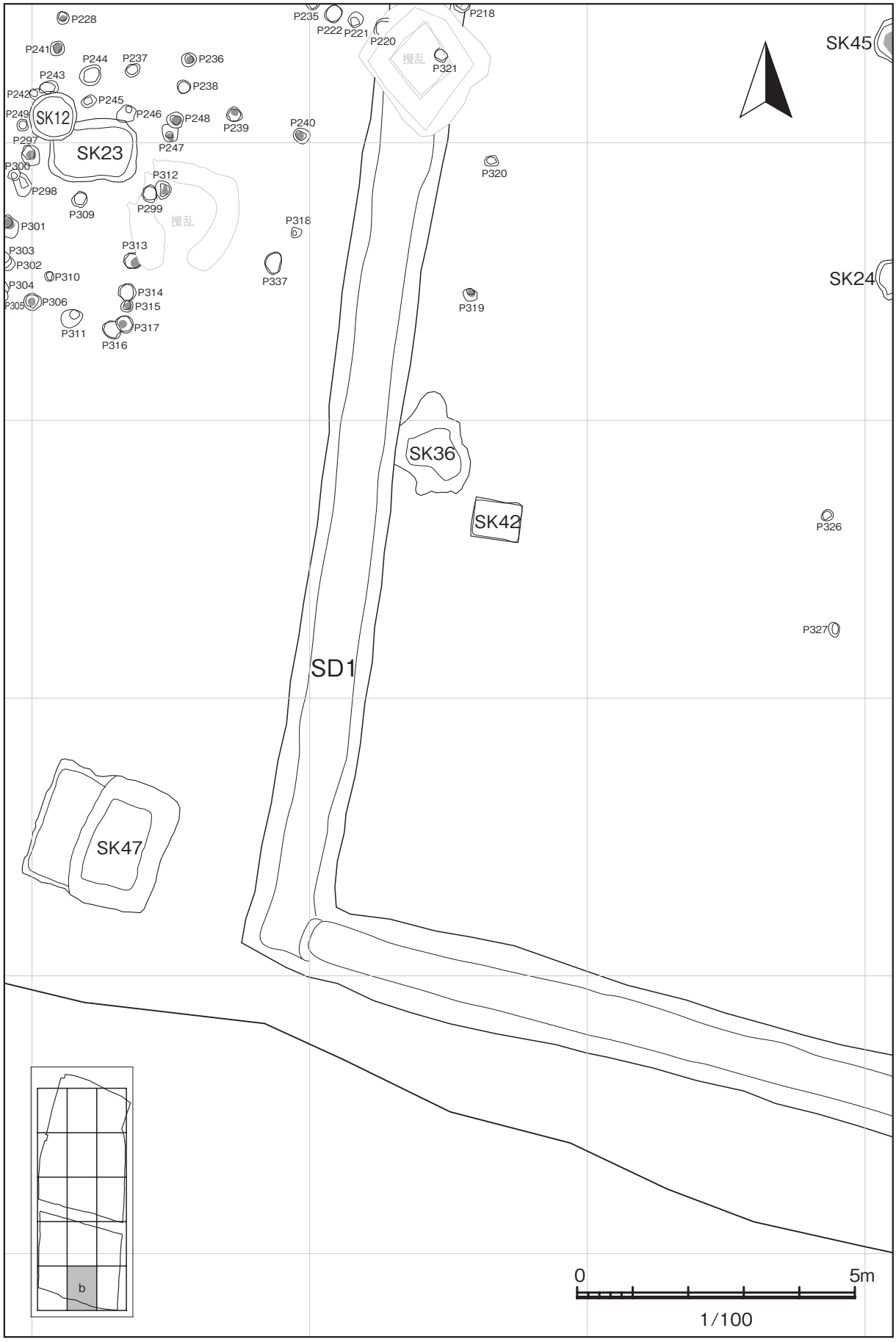
第３図　基本土層



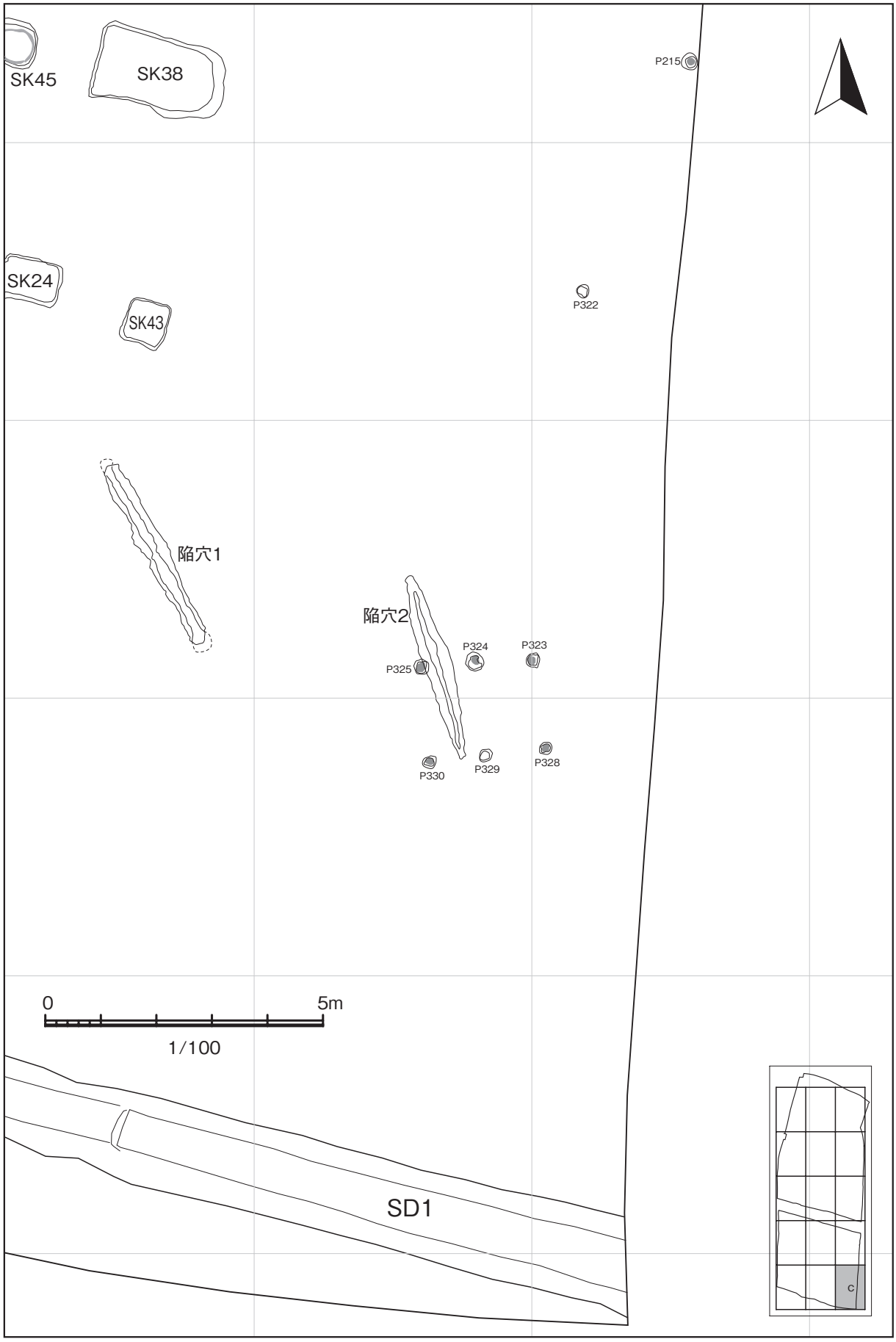
第４図　グリッド、遺構配置全体図


P278
P279
SK29
P272
P269
P266
P265
P264
P257
P256
P252
P251
SK20
P268
P267
P271
SK32
SK33
P294
P295
P293
P289
P292
P291
SD3
P301
P303
P302
P304
P305
P288
P287
SK37
P296
P290
P286
P333
P332
P331
SK30
SD3
a
0
5m
1/100

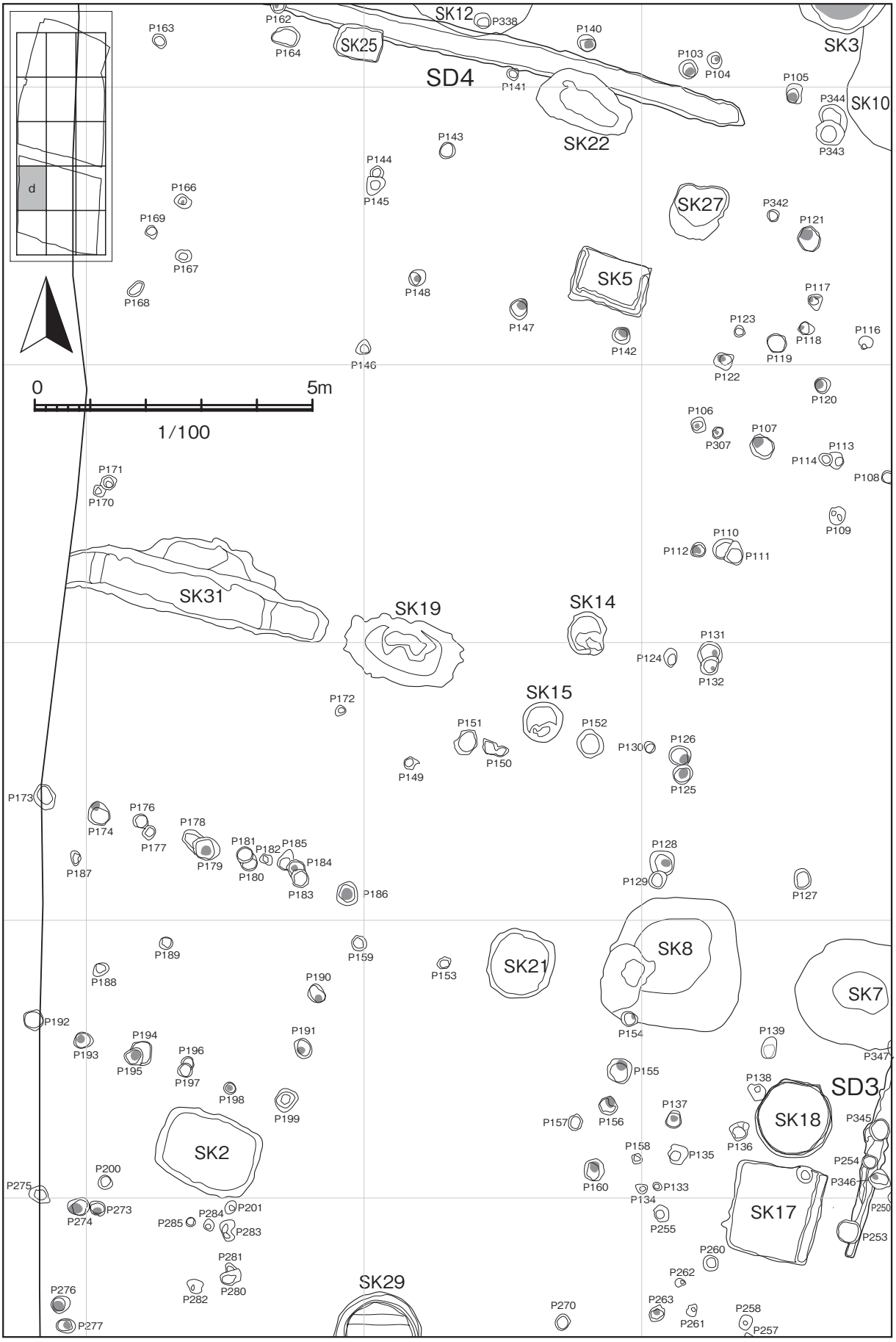
第５図　遺構配置図ａ


P228
P241
P244
P237
P236
P243
P238
P242
P245
P249
SK12
P246
P248
P239
P240
P297
SK23
P247
P308
P312
P298
P309
P299
P301
P318
P303
P313
P302
P310
P337
P304
P314
P305
P306
P315
P311
P317
P316
P235
P222
P221
P220
P218
P321
P320
P319
SK45
SK24
SK36
SK42
P326
P327
SD1
SK47
b
0
5m
1/100

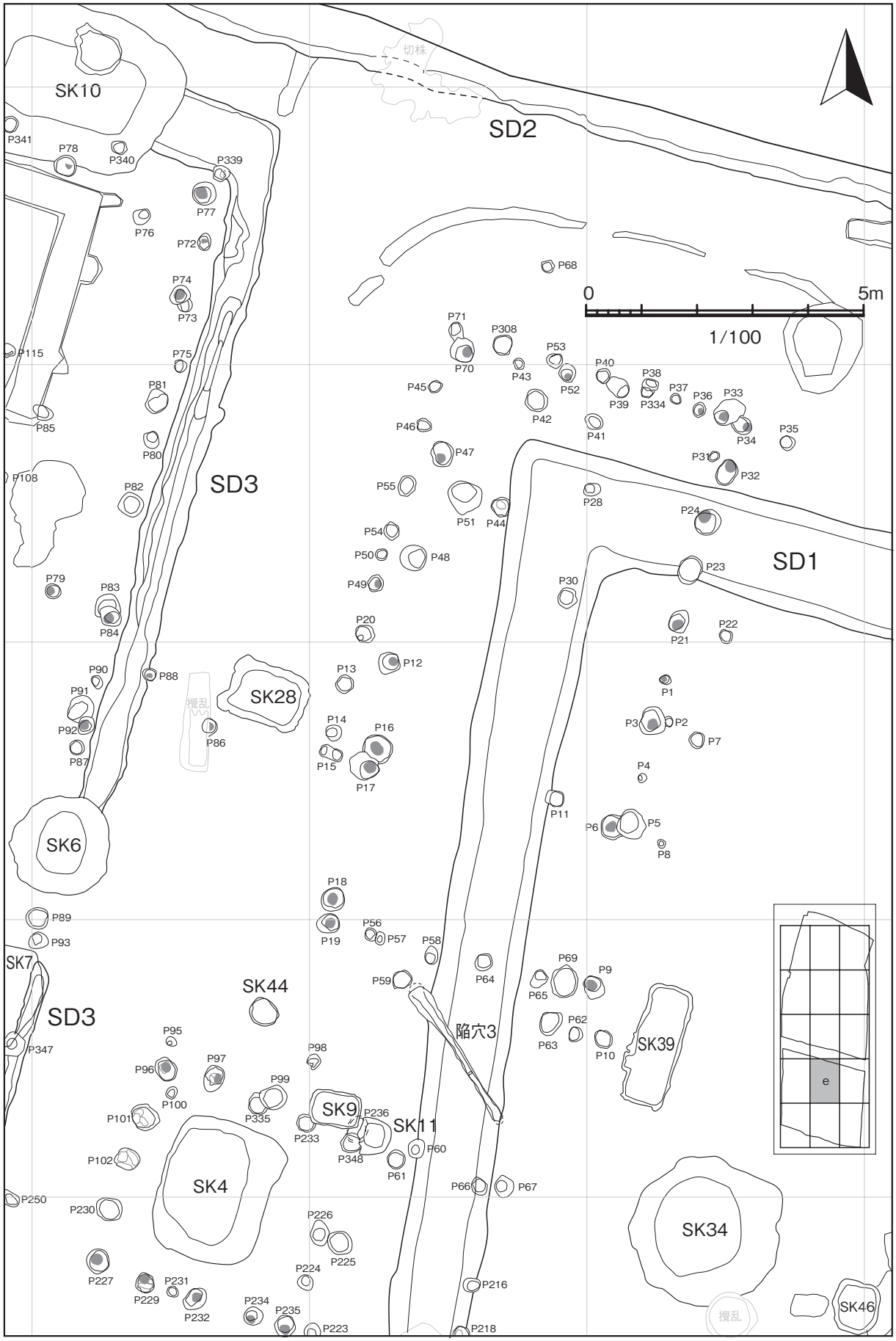
第6図　遺構配置図b


SK45
SK38
P215
SK24
SK43
P322
陥穴1
陥穴2
P324
P323
P325
P330
P329
P328
0
5m
1/100
SD1
c

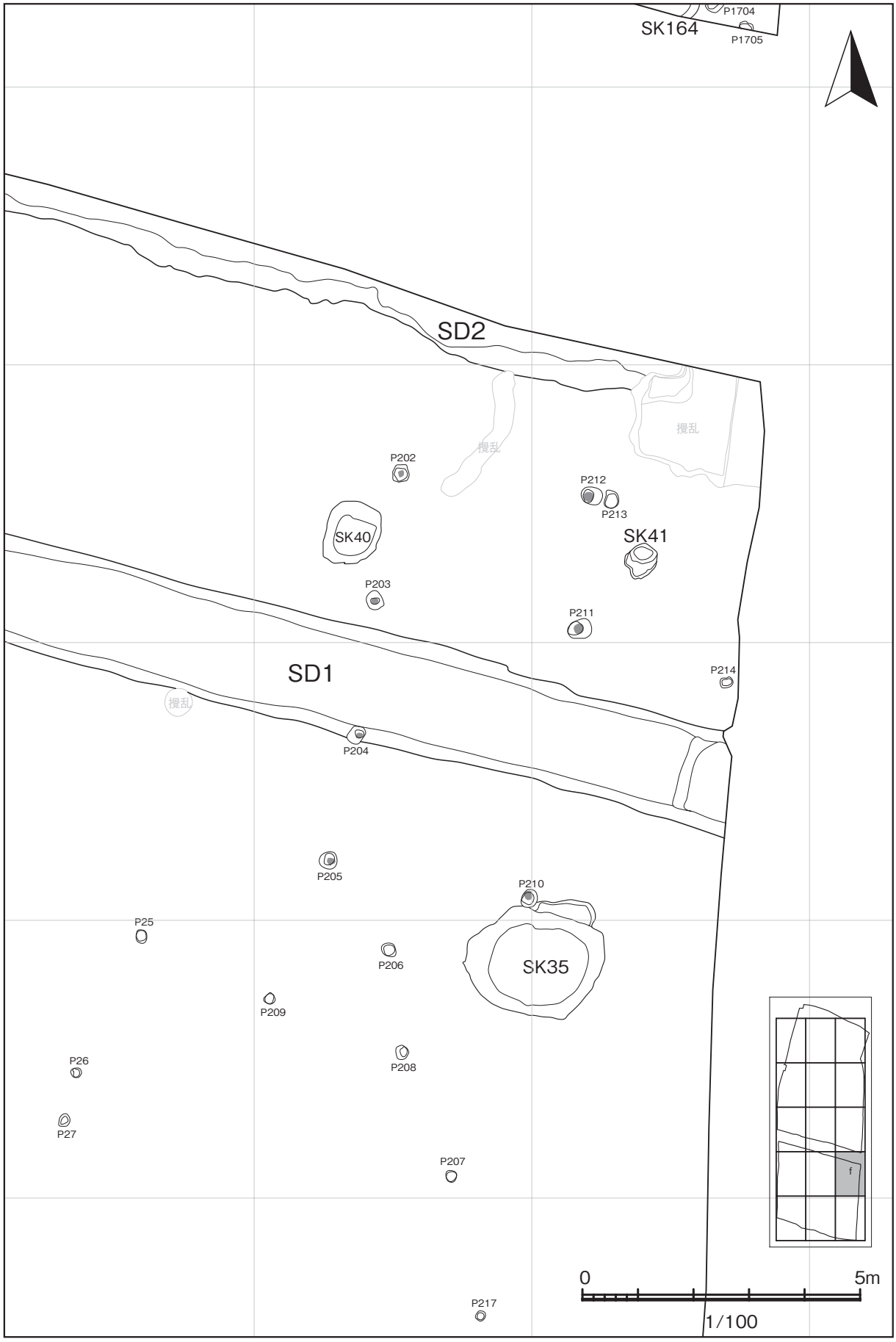
第７図　遺構配置図c


SK12
P338
P140
SK3
P163
P162
P164
SK25
SD4
P141
P103
P104
P105
P344
SK10
SK22
P343
P143
P144
P145
P166
P169
P167
P168
SK27
P342
P121
SK5
P148
P147
P142
P117
P123
P118
P116
P119
P146
P122
P120
0
5m
1/100
P106
P307
P107
P113
P114
P108
P171
P170
P109
P110
P112
P111
SK31
SK19
SK14
P131
P124
P132
SK15
P172
P151
P152
P150
P130
P126
P149
P125
P173
P176
P174
P178
P177
P179
P181
P182
P185
P184
P180
P183
P187
P186
P128
P129
P127
P189
P159
P153
SK21
SK8
SK7
P188
P190
P192
P154
P139
P194
P191
P193
P195
P196
P197
P155
P347
P138
SD3
P198
P199
P157
P156
P137
SK18
P345
SK2
P158
P135
P136
P254
P200
P160
P133
P346
P275
P134
P250
P274
P273
P201
P284
P285
P283
P255
SK17
P253
P260
P281
P262
P276
P282
P280
SK29
P263
P270
P261
P258
P277
P257

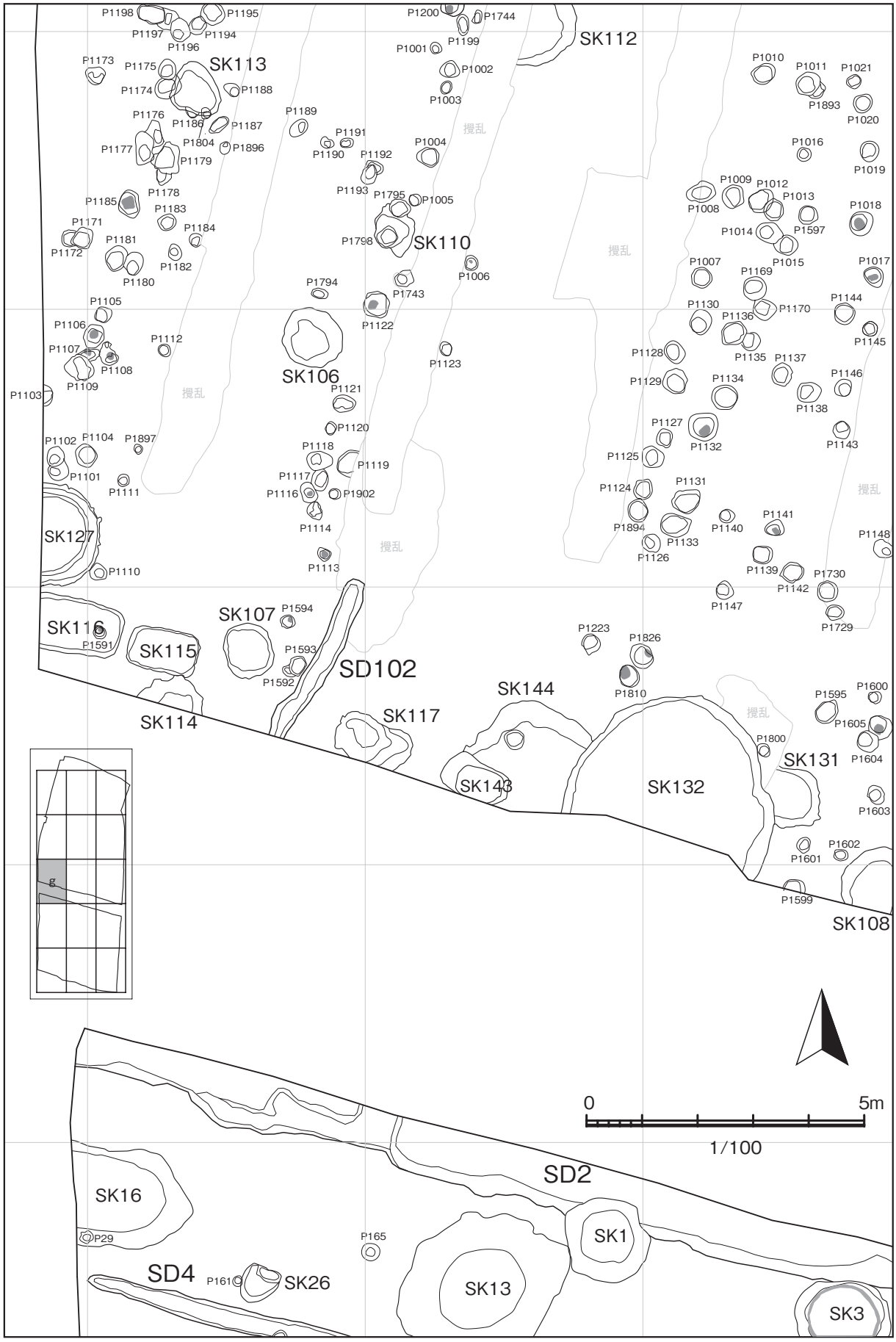
第8図　遺構配置図d


SK10
SD2
切株
SD3
SD1
SK28
SK6
SK7
SK44
SK4
SK9
SK11
SK39
SK34
SK46
陥穴3
撹乱
0
5m
1/100
e

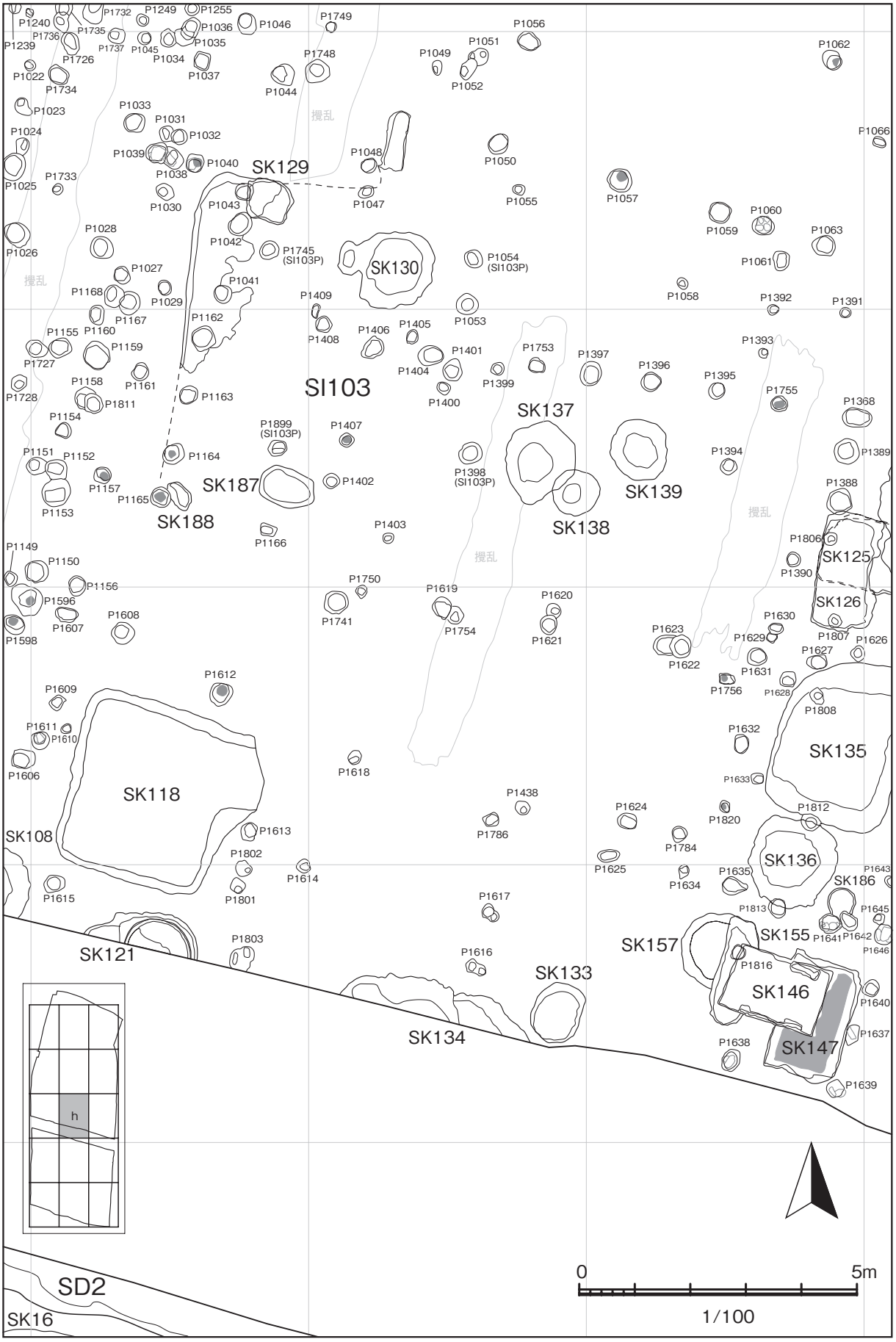
第９図　遺構配置図ｅ


SK164
P1704
P1705
SD2
撹乱
撹乱
P202
P212
P213
SK40
SK41
P203
P211
SD1
P214
撹乱
P204
P205
P210
P25
P206
SK35
P209
P26
P208
P27
P207
f
0
5m
P217
1/100

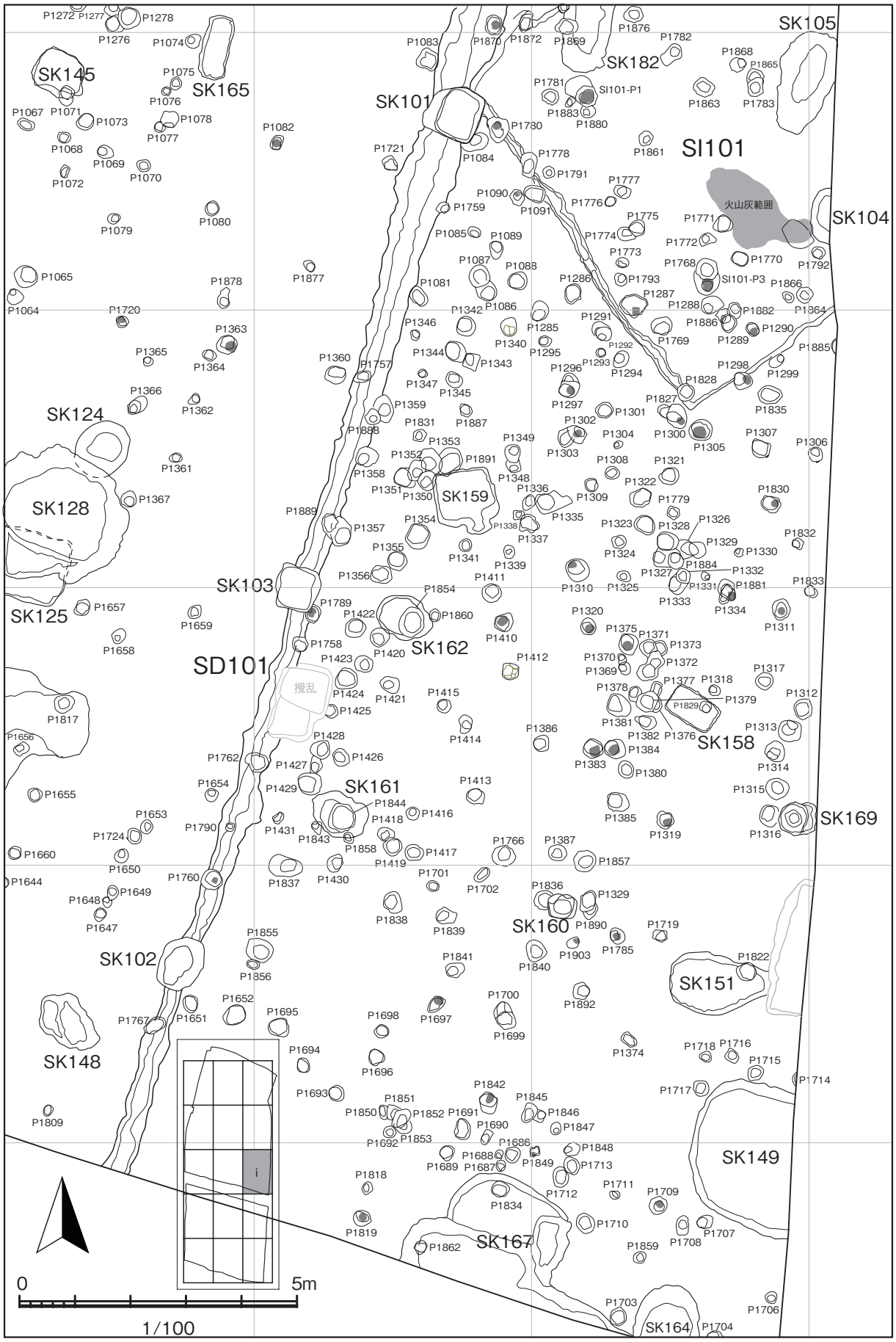
第10図　遺構配置図f


SK112
SK113
SK110
SK106
SK127
SK116
SK115
SK114
SK107
SD102
SK117
SK144
SK143
SK132
SK131
SK108
SD2
SK16
SK1
SK13
SK3
SD4
SK26
P29
P165
P161
0
5m
1/100

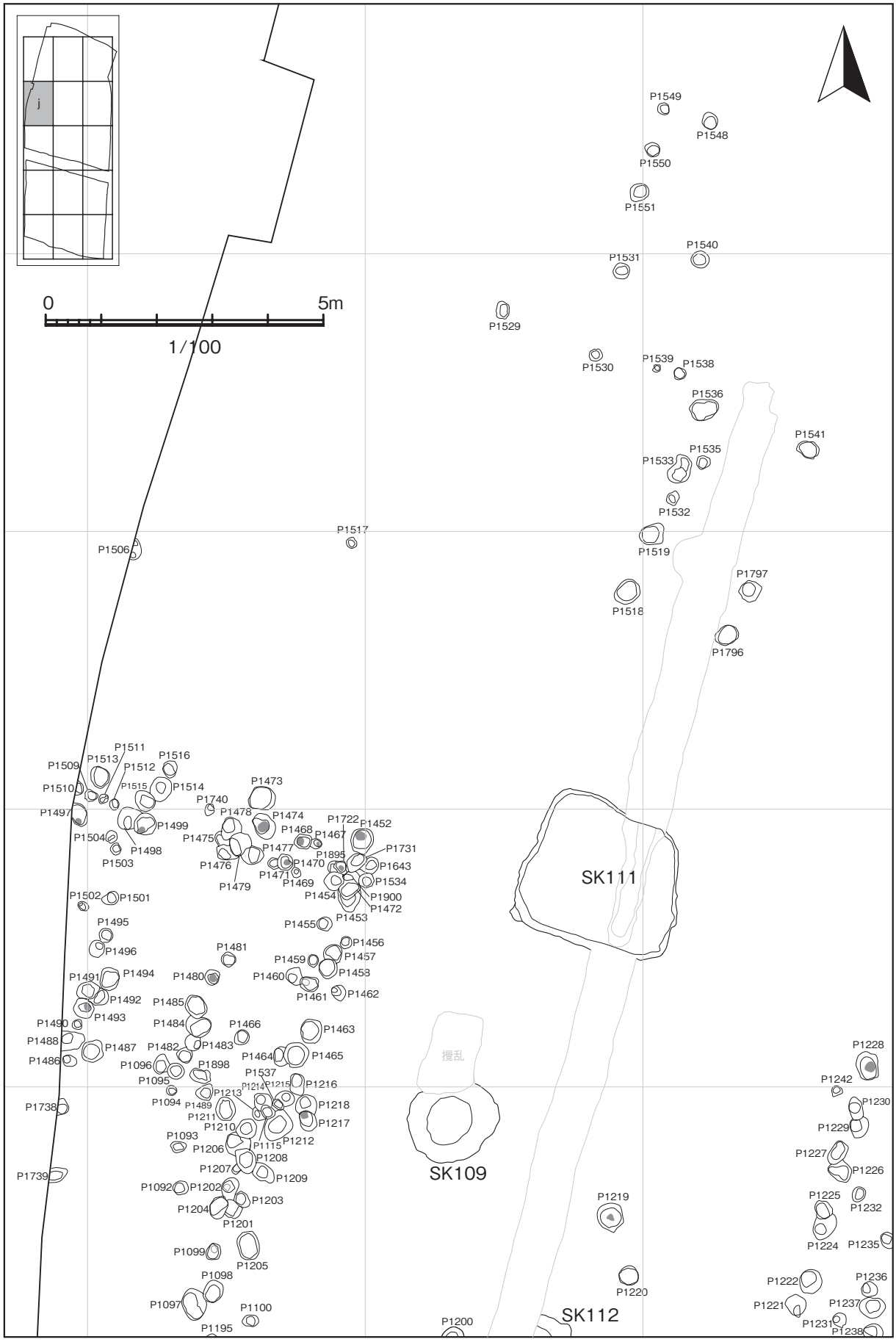
第11図　遺構配置図g


SK129
SK130
SI103
SK137
SK139
SK138
SK187
SK188
SK125
SK126
SK135
SK136
SK186
SK118
SK108
SK121
SK133
SK134
SK157
SK155
SK146
SK147
SD2
SK16
h
0
5m
1/100

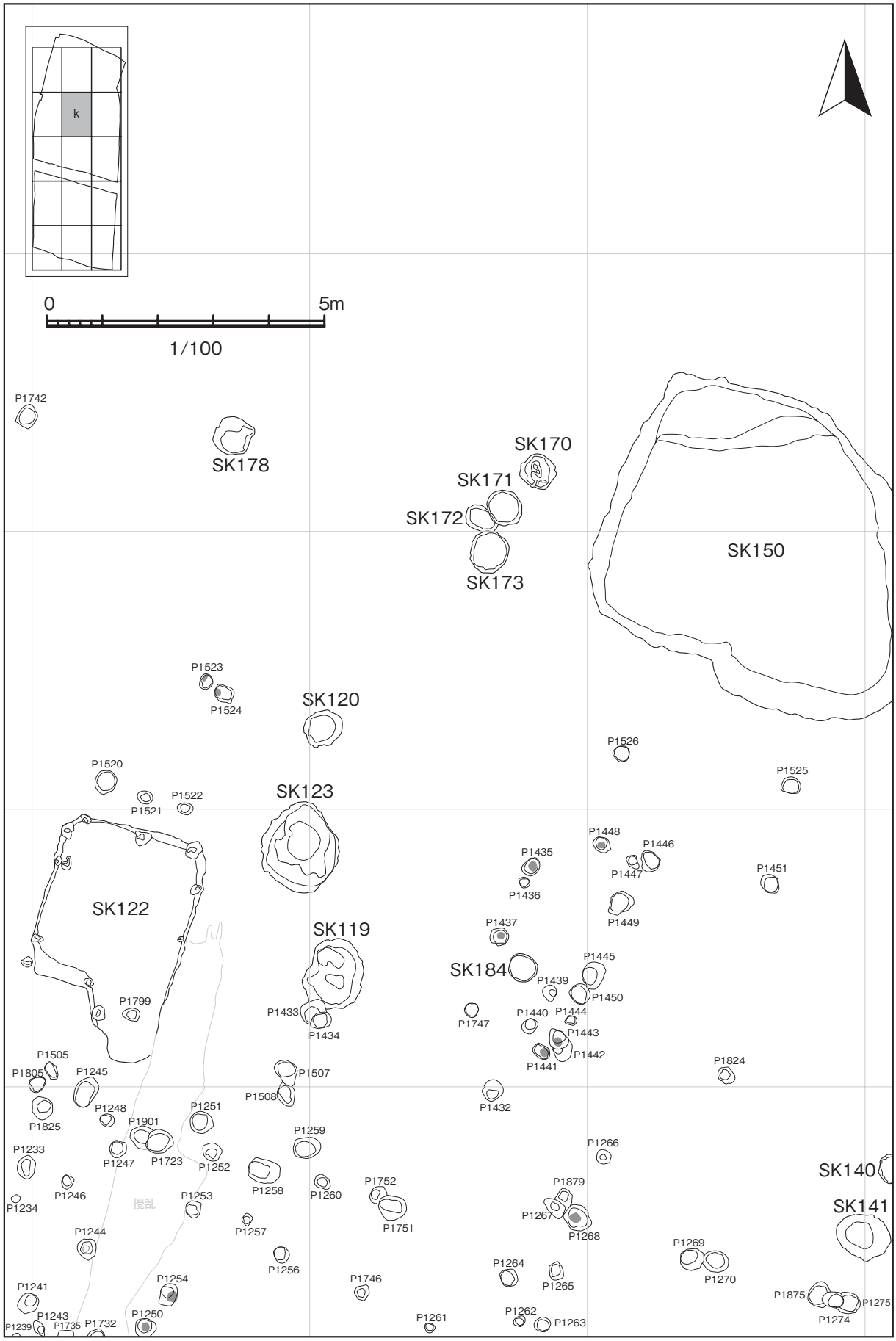
第12図　遺構配置図h


SK105
SK182
SK145
SK165
SK101
SI101
SI101-P1
SI101-P3
火山灰範囲
SK104
SK124
SK128
SK159
SK103
SK125
SK162
SD101
撹乱
SK158
SK161
SK169
SK160
SK102
SK151
SK148
SK149
SK167
SK164
i
0
5m
1/100

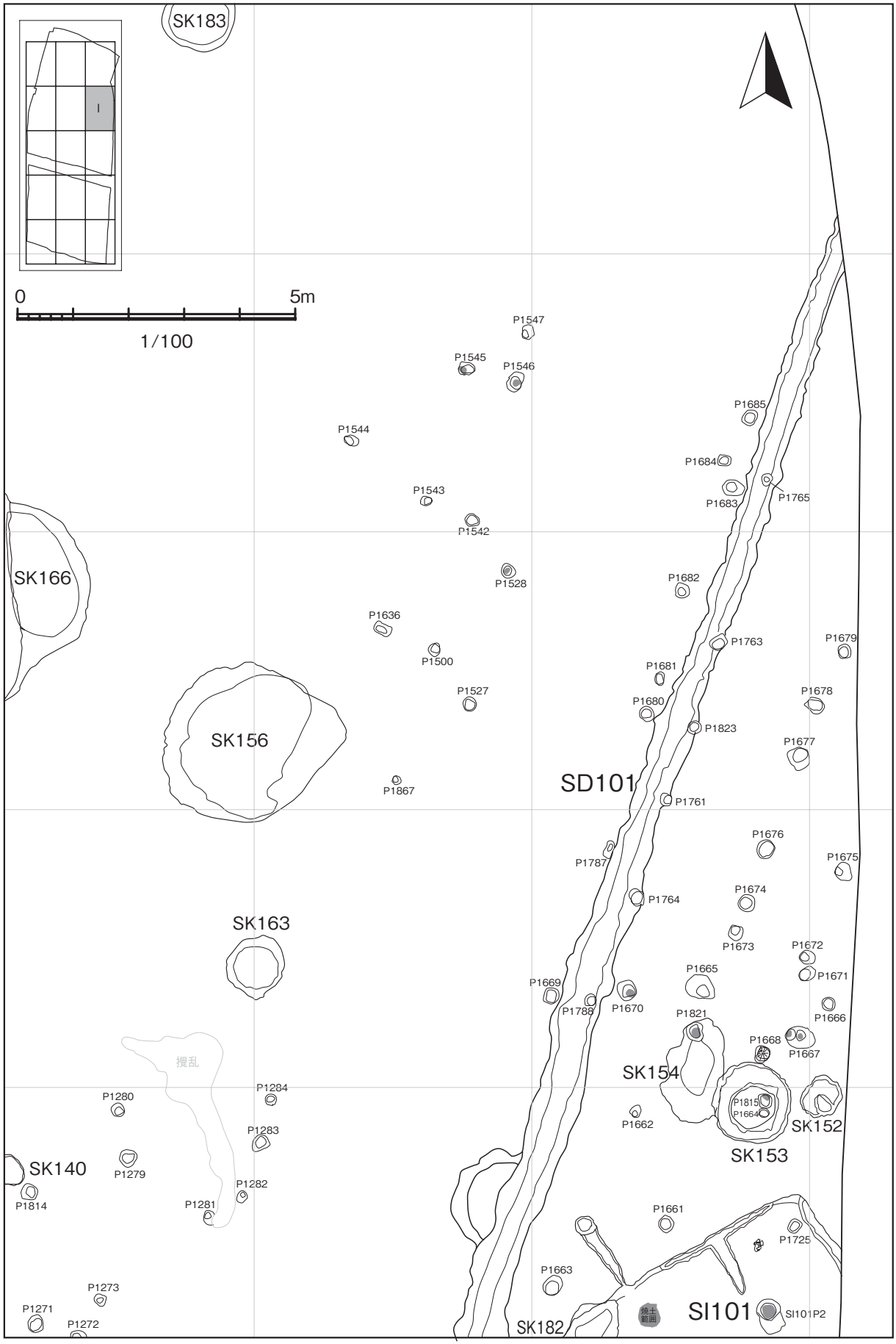
第13図　遺構配置図i


j
0
5m
1/100
P1549
P1548
P1550
P1551
P1540
P1531
P1529
P1530
P1539
P1538
P1536
P1541
P1535
P1533
P1532
P1517
P1506
P1519
P1797
P1518
P1796
P1511
P1513
P1512
P1516
P1509
P1510
P1515
P1514
P1473
P1740
P1497
P1478
P1474
P1722
P1452
P1499
P1468
P1467
P1504
P1475
P1498
P1477
P1895
P1731
P1503
P1476
P1470
P1643
P1471
P1534
P1479
P1469
P1900
P1454
P1472
P1502
P1501
P1453
P1455
P1495
P1456
P1496
P1481
P1459
P1457
P1494
P1480
P1460
P1453
P1491
P1461
P1462
P1492
P1485
P1493
P1490
P1484
P1466
P1463
P1488
P1487
P1482
P1483
P1486
P1464
P1465
P1096
P1898
P1537
P1095
P1214
P1215
P1216
P1094
P1489
P1213
P1218
P1211
P1217
P1210
P1093
P1212
P1206
P1115
P1208
P1207
P1209
P1092
P1202
P1203
P1204
P1201
P1099
P1205
P1098
P1097
P1100
P1195
P1200
P1738
P1739
SK111
SK109
SK112
攪乱
P1228
P1242
P1230
P1229
P1227
P1226
P1225
P1232
P1224
P1235
P1219
P1220
P1222
P1236
P1221
P1237
P1231
P1238

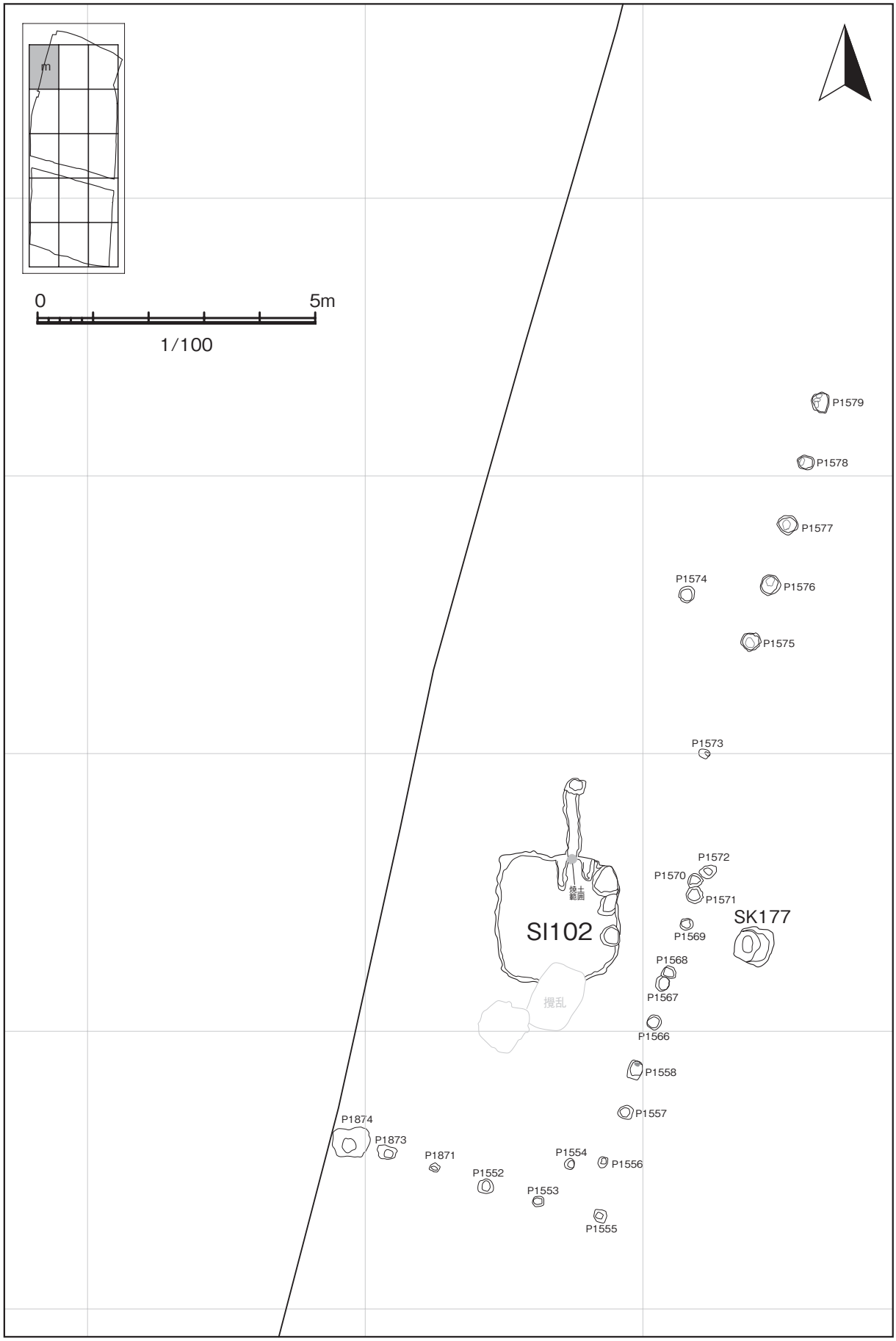
第14図　遺構配置図j


k
0
5m
1/100
P1742
SK178
SK170
SK171
SK172
SK173
SK150
P1523
P1524
SK120
P1526
P1525
P1520
P1521
P1522
SK123
P1448
P1446
P1435
P1447
P1451
P1436
P1449
SK122
SK119
P1437
SK184
P1445
P1439
P1450
P1799
P1433
P1434
P1747
P1440
P1444
P1443
P1442
P1441
P1824
P1505
P1805
P1245
P1507
P1508
P1432
P1825
P1248
P1251
P1901
P1259
P1266
P1233
P1247
P1723
P1252
P1258
P1260
P1752
P1879
SK140
P1246
P1234
撹乱
P1253
P1267
P1268
SK141
P1257
P1751
P1244
P1269
P1256
P1264
P1270
P1241
P1254
P1746
P1265
P1875
P1275
P1243
P1250
P1261
P1262
P1263
P1274
P1239
P1735
P1732

第15図　遺構配置図k


SK183
I
0
5m
1/100
P1547
P1545
P1546
P1544
P1685
P1684
P1683
P1765
P1543
P1542
SK166
P1528
P1682
P1636
P1763
P1679
P1500
P1681
P1527
P1678
P1680
P1823
SK156
P1677
P1867
SD101
P1761
P1676
P1787
P1675
P1764
P1674
SK163
P1673
P1672
P1665
P1671
P1669
P1788
P1670
P1821
P1666
P1668
P1667
撹乱
SK154
P1284
P1280
P1815
P1664
P1662
SK152
P1283
SK153
SK140
P1279
P1282
P1814
P1281
P1661
P1725
P1663
P1273
P1271
P1272
SK182
炭土範囲
SI101
SI101P2

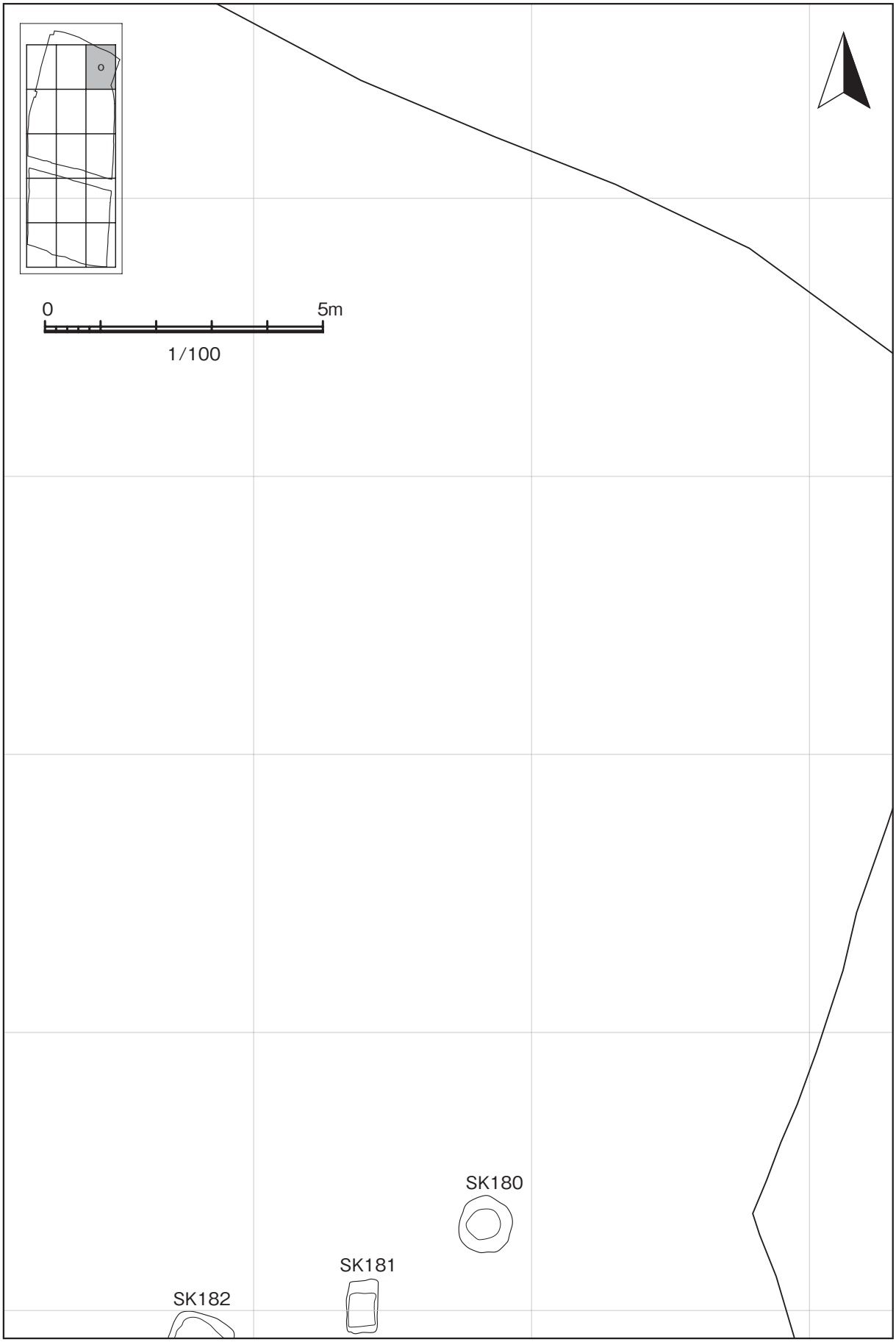
第16図　遺構配置図I


m
0
5m
1/100
P1579
P1578
P1577
P1574
P1576
P1575
P1573
P1572
P1570
P1571
SK177
P1569
SI102
P1568
P1567
撹乱
P1566
P1558
P1557
P1874
P1873
P1871
P1554
P1556
P1552
P1553
P1555

第17図　遺構配置図m

P1590
P1588
P1905
SK176
P1586
P1587
P1585
P1584
P1582
P1583
P1581
P1589
P1580
P1565
P1563
P1560
P1562
P1561
P1559
P1564
SK179
SK174
SK175
n
0
5m
1/100

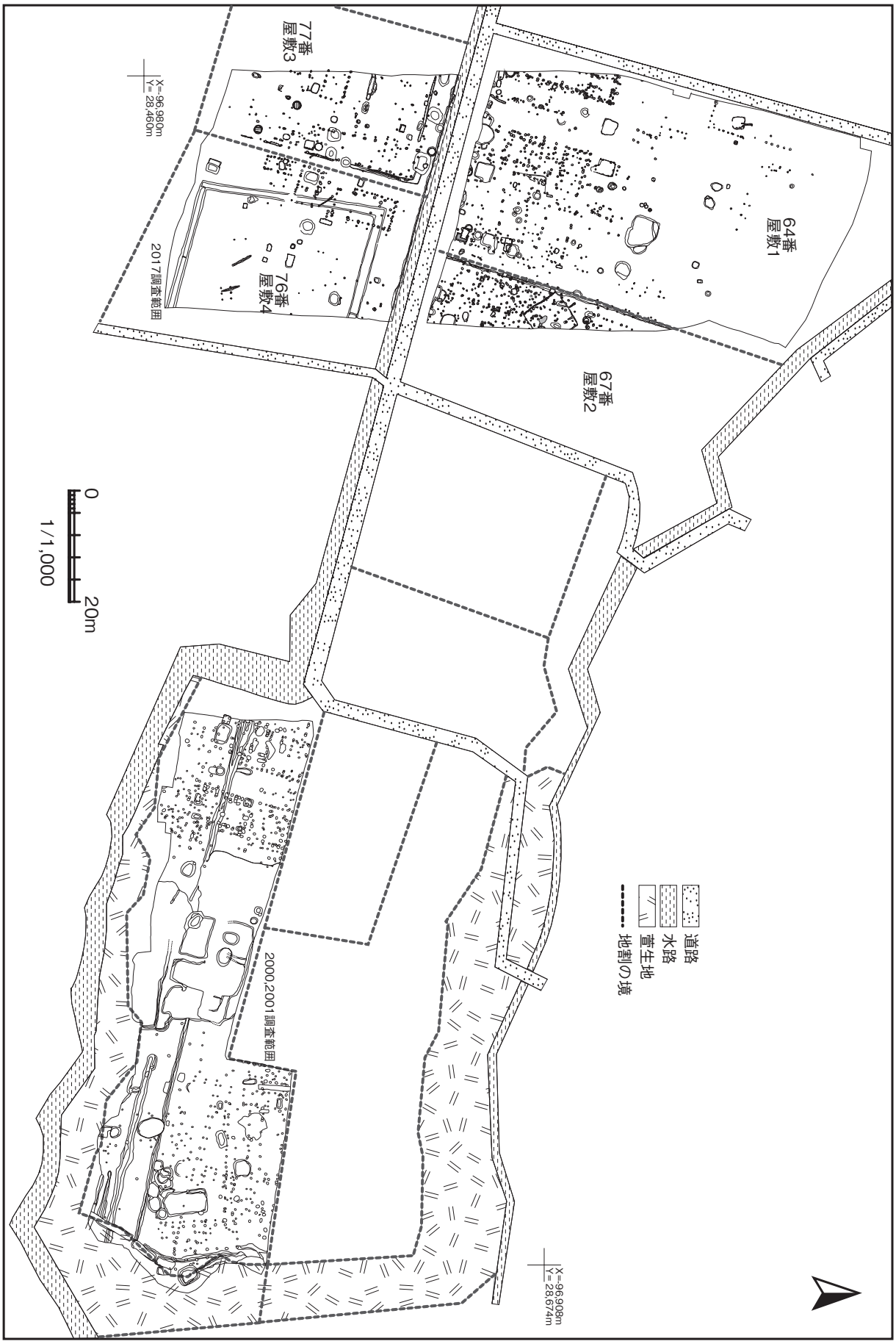
第18図　遺構配置図n



第19図　遺構配置図o

第20図　掘立柱建物遺構配置図（南側調査区）

第21図　掘立柱建物遺構配置図（北側調査区）



第22図　町屋敷遺跡調査範囲と地割

Ⅳ　検出された遺構

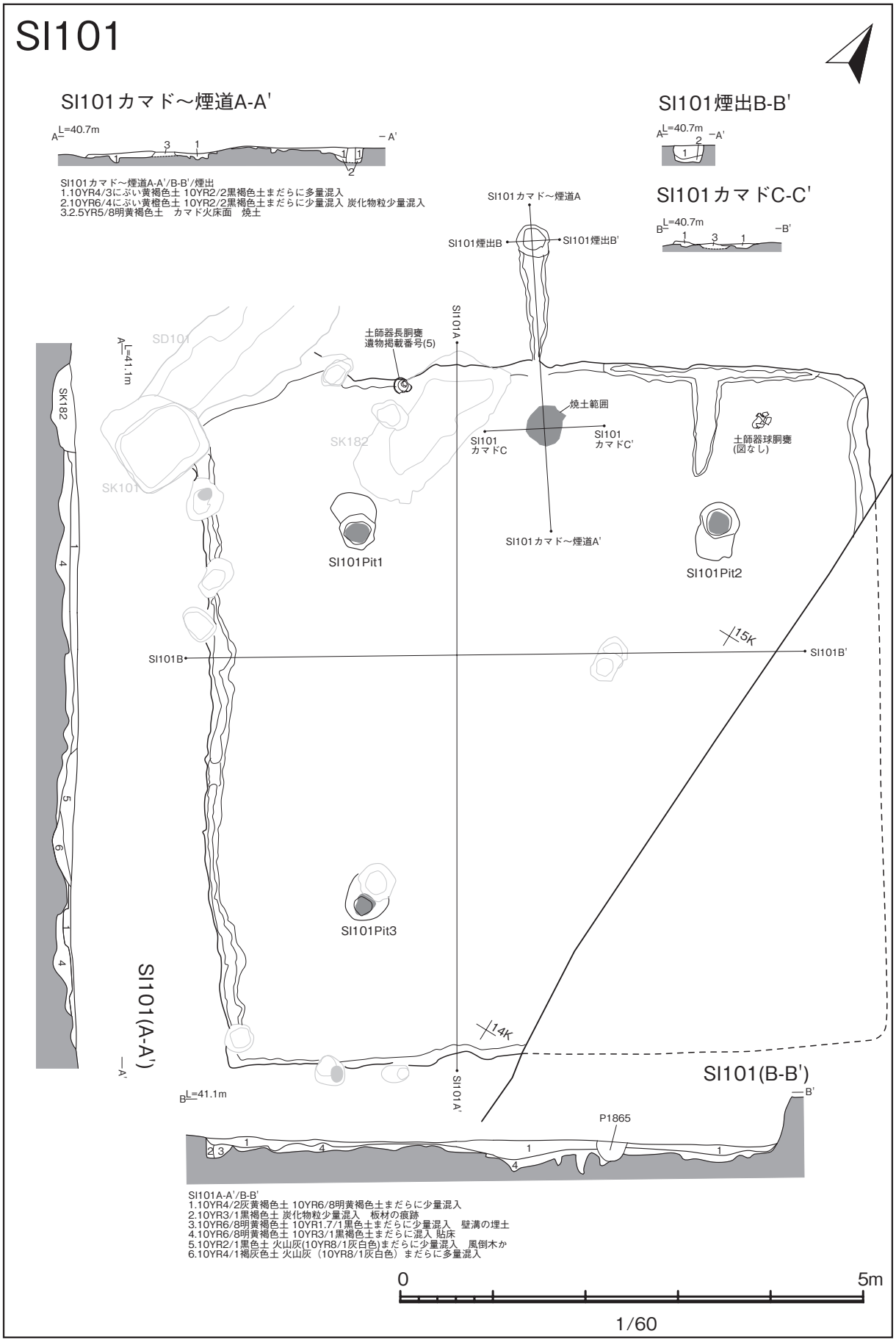
検出された遺構には、竪穴住居（略号ＳＩ）３棟、掘立柱建物（略号ＳＢ）54棟、柱列（略号ＳＡ）５条、土坑（略号ＳＫ）234基、陥し穴（略号なし）３基がある。

１　竪穴住居

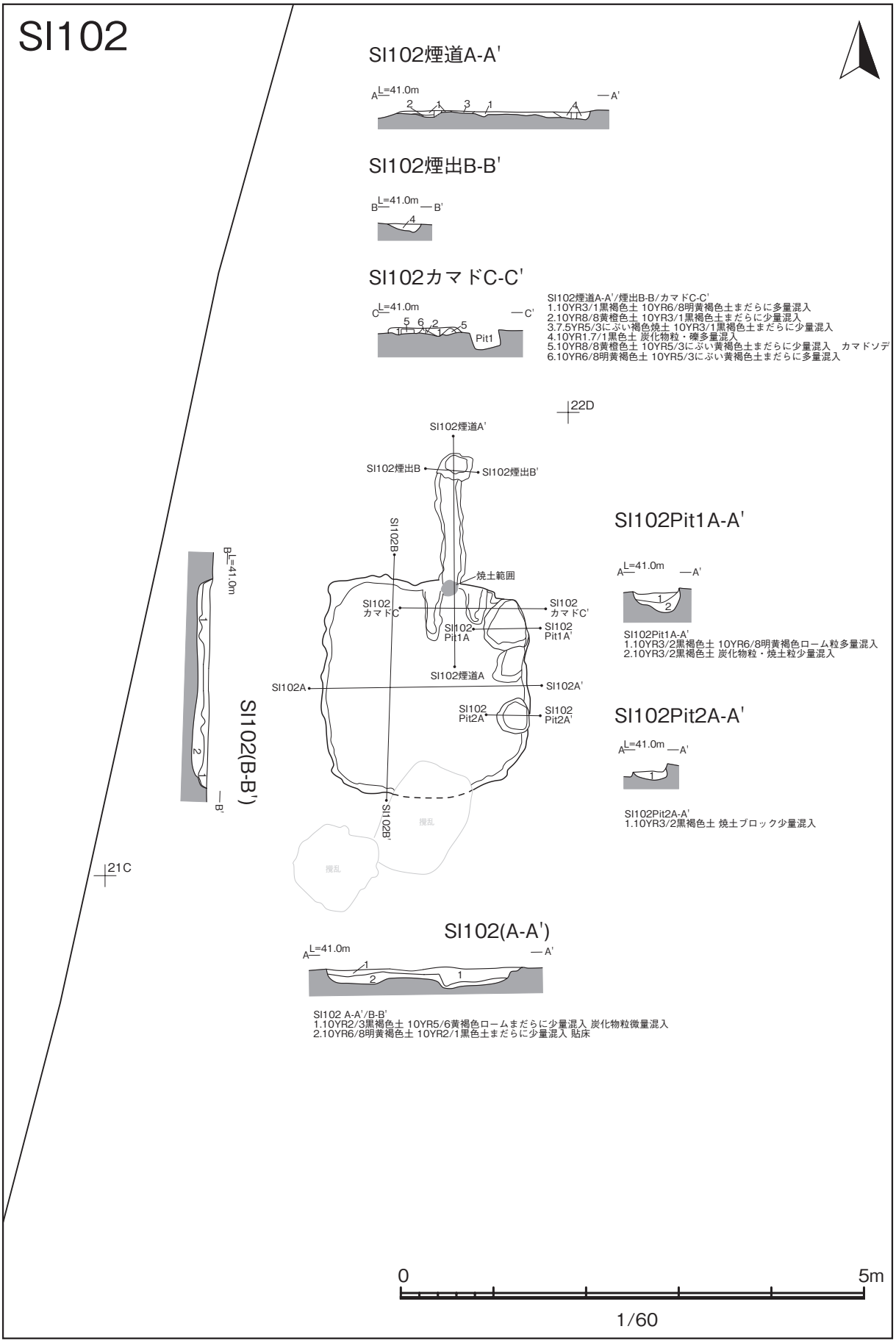
ＳＩ101　（第23図　写真図版７～９）	
位置　14Ｉ、13～15Ｊ、14Ｋ、15Ｋ	**カマド**　北西壁中央
北西～南東長　748㎝	**南西～北東長**　725㎝
面積　推定面積53.4㎡（16.2坪）　検出面積41.4㎡（12.5坪）	**軸方向**　Ｎ－33°－Ｗ
埋土　埋土は６層に分かれる。埋土の残存が薄く人為堆積、人為堆積の別は不明である。また、床は貼床が施されている。	
重複　ＳＢ103、ＳＢ109、ＳＢ111と重複するが、いずれも本竪穴が古い。また、ＳＫ101、ＳＫ104、ＳＫ105、ＳＫ182、ＳＤ101と重複するが本竪穴が古い。また、十和田ａ降下火山灰と推測される火山灰状の物質を埋土に含む風倒木痕？がプラン中央付近で床面を壊している。	
床面　貼床が施されているが、凹凸が著しい。	
付属施設　南西壁と北西壁、北東壁に壁溝が構築されている。また、北西壁東部から南東側に延びる間仕切と推測される溝が検出された。柱穴は３個検出された。配置から調査区外の範囲にもう一個柱穴があると推測される。柱間寸法は北西～北東間も、北西～南西間も約400㎝で、きれいな正方形の配置である。カマドは北西壁中央にあるが、遺存状態が悪く、カマドの袖は残存していなかった。煙道の残りも悪く、掘り込み式か刳り貫き式か判断が難しい。	
出土遺物　埋土中より土師器坏（１～３）、土師器高坏（４）、北西部床面で土師器長胴甕下半部（５）が出土した。また、口縁部、底部が無く図示していないが、北東部床面で土師器球胴甕の体部片が出土した。	
出土遺物から８世紀中葉の竪穴住居（建物）と推測される。遺存状態が悪く、調査区外にプランが伸びるが、北西壁、南西壁の全長、カマド火床面及び煙道、柱穴３個を検出できたことによって本竪穴の全容を理解することができた。	

ＳＩ102　（第24図　写真図版10～12）	
位置　21Ｃ	**カマド**　北壁中央やや東寄り
南北長　232㎝	**東西長**　224㎝
面積　4.7㎡（1.4坪）	**軸方向**　Ｎ－１°－Ｗ
埋土　２層に分かれる。埋土の残存が薄く人為堆積、人為堆積の別は不明である。また、床は貼床が施されている。	
重複　プラン南部を電柱設置と推測される攪乱で壊されているが、全体の形状は理解できる。	
床面　貼床が施されており凹凸がある。	
付属施設　北壁と東壁のコーナ付近とその南側に土坑状の掘込があり、住居内の施設と推測される。カマドは北壁にあるが、煙道の遺存状態が悪く、掘り込み式か刳り貫き式か判断が難しい。	
出土遺物　埋土中より縄文土器？の微細片が出土したのみである。図化は不能であった。	
出土遺物がないが、形態から古代の竪穴住居と判断される。今回調査のＳＩ101、ＳＩ103の年代観から、本竪穴住居も８世紀代と推測する。	

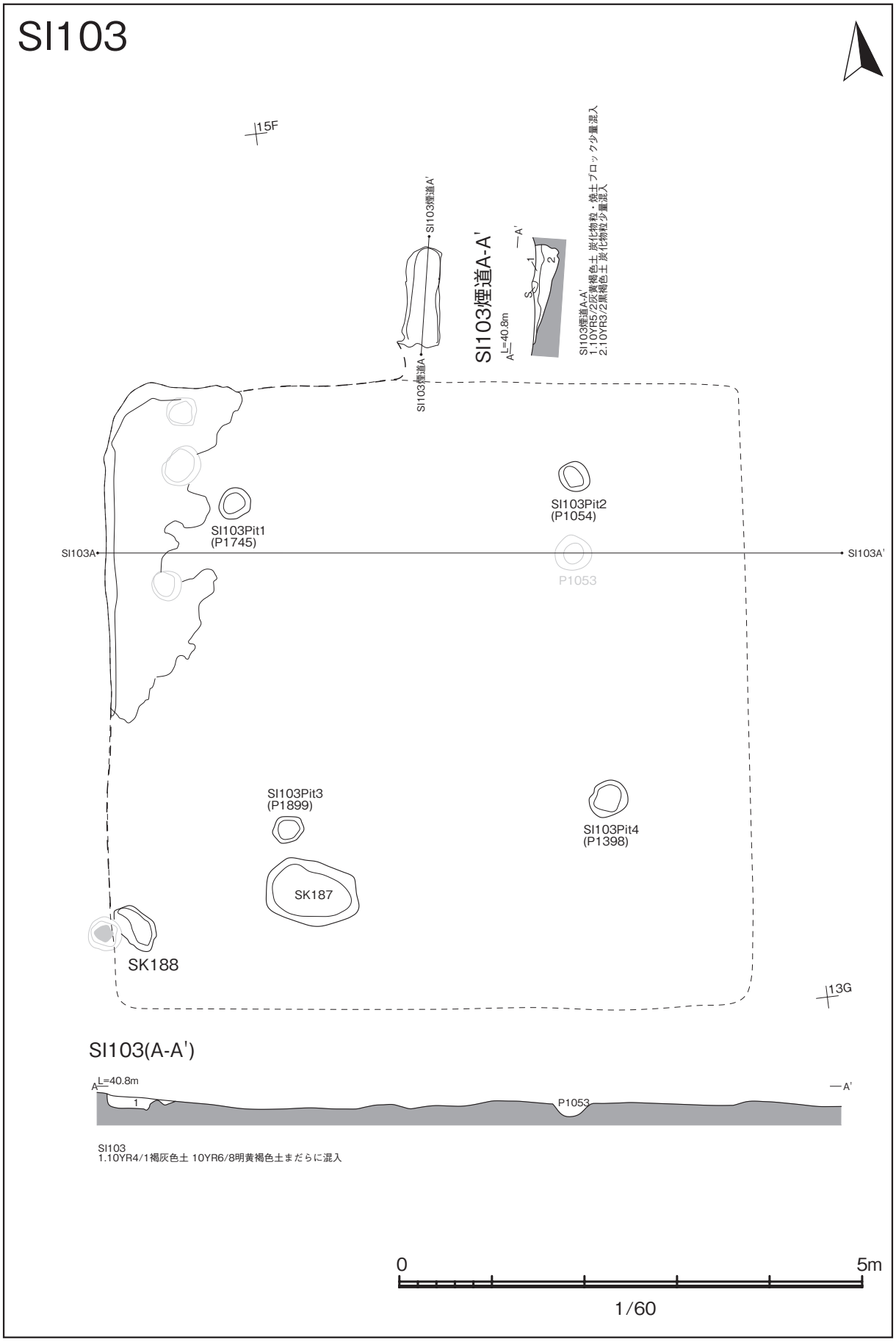
ＳＩ103　（第25図　写真図版13）	
位置　13Ｅ、13Ｆ、14Ｅ、14Ｆ	**カマド**　北壁中央か
推定南北長　620㎝	**推定東西長**　670㎝
推定面積　46.4㎡（14.0坪）	**軸方向**　Ｎ－３°－Ｅ
埋土　１層に分かれる。プランの大半の部分で埋土が残存せず、人為堆積、人為堆積の別は不明である。	
重複　ＳＢ118、ＳＢ122と重複するが本建物が古い。また推定プラン内にＳＫ187、ＳＫ188が位置するが、本竪穴に伴う内部施設の可能性がある。	
床面　ほとんど残存しておらず、状況は不明である。	
付属施設　カマドは煙道と推測される部分が検出された。北壁の中央に位置すると想定される。煙道は、煙出し方向に傾斜して深くなっており、刳り貫き式の煙道の可能性が高いが確定は難しい。推定プラン内に位置するＳＫ187、ＳＫ188が位置するが、それぞれ土師器細片、焼土粒が出土しており、本竪穴に伴う内部施設の可能性が想定される。しかし確定は難しい。また、本竪穴に伴うと推測される柱穴が４個検出されている。これらは、他の掘立柱建物に使用されないもので、配置状況から本竪穴の柱穴と想定した。南北の柱間寸法368㎝、東西の柱間寸法370㎝である。	
出土遺物　プラン内の13Ｆに位置するＰ1402から土師器坏（６）、14Ｆグリッドから土師器高坏（７）が出土している。これらは、本竪穴に伴う遺物と判断する。	
プランの大半が残存していない状況であるが、竪穴北西部分の残存と推測される箇所、煙道と解釈される部位の検出、竪穴の柱穴と解釈できる４個の柱穴の存在、想定プラン内での土師器の出土から、古代の竪穴住居（建物）の存在を認識した。プラン内から出土した土師器の年代観から８世紀中葉の竪穴住居と推測される。	


SI101
SI101カマド～煙道A-A'
SI101煙出B-B'
SI101カマドC-C'
SI101カマド～煙道A-A'/B-B'/煙出
1.10YR4/3にぶい黄褐色土 10YR2/2黒褐色土まだらに多量混入
2.10YR6/4にぶい黄橙色土 10YR2/2黒褐色土まだらに少量混入 炭化物粒少量混入
3.2.5YR5/8明黄褐色土　カマド火床面　焼土
SI101カマド～煙道A
SI101煙出B
SI101煙出B'
SI101A
土師器長胴甕
遺物掲載番号(5)
SD101
SK182
SK101
焼土範囲
SI101
カマドC
SI101
カマドC'
土師器球胴甕
(図なし)
SI101カマド～煙道A'
SI101Pit1
SI101Pit2
SI101Pit3
SI101B
SI101B'
15K
14K
SI101A'
SI101(A-A')
SI101(B-B')
P1865
SI101A-A'/B-B'
1.10YR4/2灰黄褐色土 10YR6/8明黄褐色土まだらに少量混入
2.10YR3/1黒褐色土 炭化物粒少量混入　板材の痕跡
3.10YR6/8明黄褐色土 10YR1.7/1黒色土まだらに少量混入　壁溝の埋土
4.10YR6/8明黄褐色土 10YR3/1黒褐色土まだらに混入 貼床
5.10YR2/1黒色土 火山灰(10YR8/1灰白色)まだらに少量混入　風倒木か
6.10YR4/1褐灰色土 火山灰（10YR8/1灰白色）まだらに多量混入
0
5m
1/60

第23図　SI101


SI102
SI102煙道A-A'
A L=41.0m A'
SI102煙出B-B'
B L=41.0m B'
SI102カマドC-C'
C L=41.0m C'
Pit1
SI102煙道A-A'/煙出B-B/カマドC-C'
1.10YR3/1黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土まだらに多量混入
2.10YR8/8黄橙色土 10YR3/1黒褐色土まだらに少量混入
3.7.5YR5/3にぶい褐色焼土 10YR3/1黒褐色土まだらに少量混入
4.10YR1.7/1黒色土 炭化物粒・礫多量混入
5.10YR8/8黄橙色土 10YR5/3にぶい黄褐色土まだらに少量混入　カマドソデ
6.10YR6/8明黄褐色土 10YR5/3にぶい黄褐色土まだらに多量混入
22D
SI102煙道A'
SI102煙出B
SI102煙出B'
SI102B
焼土範囲
SI102 カマドC
SI102 カマドC'
SI102 Pit1A
SI102 Pit1A'
SI102煙道A
SI102A
SI102A'
SI102 Pit2A
SI102 Pit2A'
SI102B'
撹乱
撹乱
SI102Pit1A-A'
A L=41.0m A'
SI102Pit1A-A'
1.10YR3/2黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒多量混入
2.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒・焼土粒少量混入
SI102Pit2A-A'
A L=41.0m A'
SI102Pit2A-A'
1.10YR3/2黒褐色土 焼土ブロック少量混入
B L=41.0m B'
SI102(B-B')
21C
SI102(A-A')
A L=41.0m A'
SI102 A-A'/B-B'
1.10YR2/3黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム まだらに少量混入 炭化物粒微量混入
2.10YR6/8明黄褐色土 10YR2/1黒色土まだらに少量混入 貼床
0
5m
1/60

第24図　SI102


SI103
15F
SI103煙道A'
SI103煙道A
SI103煙道A-A'
A L=40.8m
A'
1
2
S
SI103煙道A-A'
1.10YR5/2灰黄褐色土 炭化物粒・焼土ブロック少量混入
2.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒少量混入
SI103Pit1
(P1745)
SI103Pit2
(P1054)
SI103A
SI103A'
P1053
SI103Pit3
(P1899)
SI103Pit4
(P1398)
SK187
SK188
13G
SI103(A-A')
A L=40.8m
A'
1
P1053
SI103
1.10YR4/1褐灰色土 10YR6/8明黄褐色土まだらに混入
0
5m
1/60

第25図　SI103

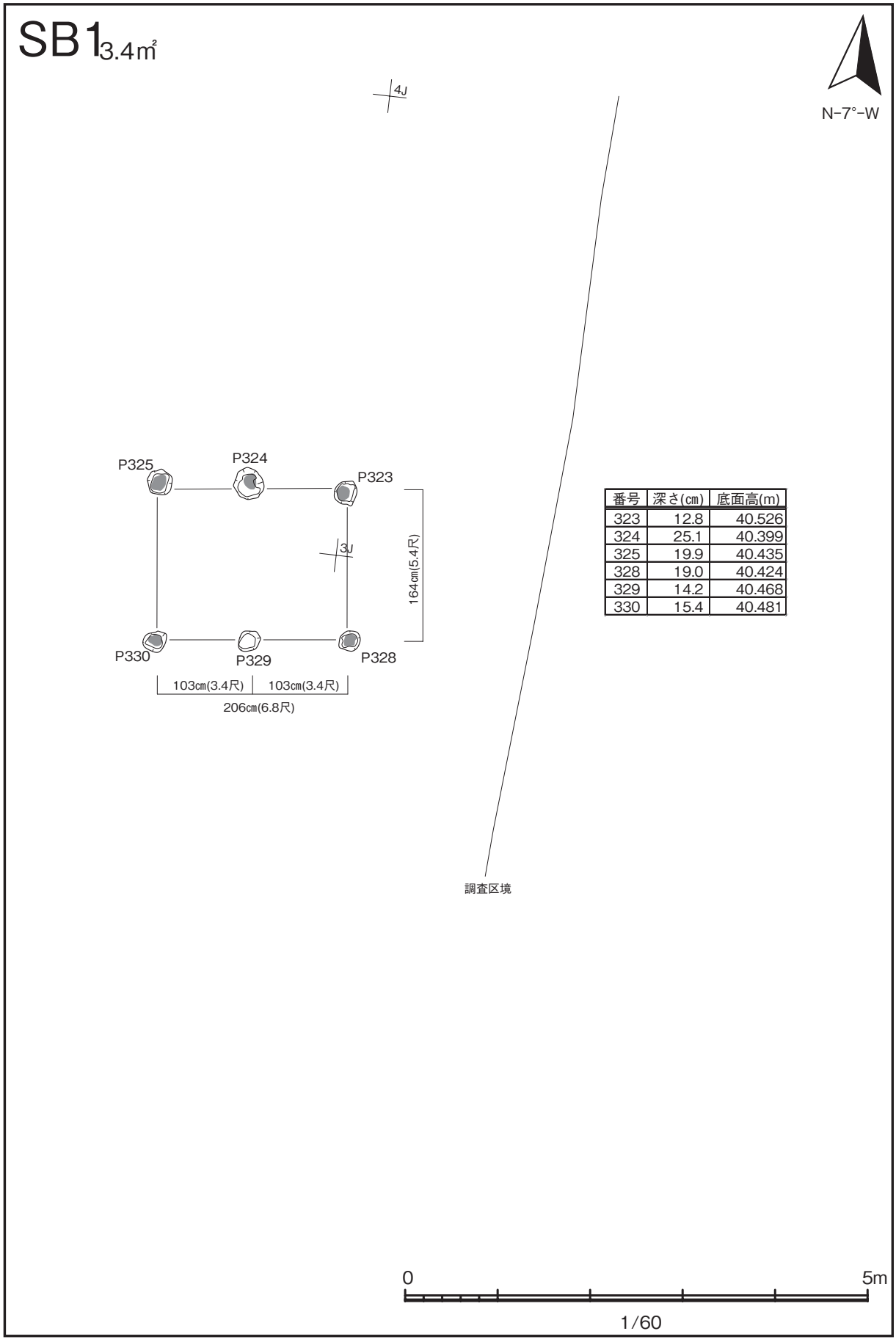
2　掘立柱建物

ＳＢ１　（第 26 図　写真図版 14）		
位置　２Ｉ、２Ｊ、３Ｉ、３Ｊ	**屋敷**　4	**使用した柱穴**　６個
桁行　206㎝（6.8 尺）		**梁間**　164㎝（5.4 尺）
面積　3.4㎡（1.0 坪）		**軸方向**　Ｎ－７°－Ｗ
柱間寸法　103㎝（３尺４寸）を多用する。		
重複　陥穴２と重複する。本建物が新しい。		
非常に小型の建物である。出土遺物もなく、遺構の重複関係からは縄文時代より新しいということしか明示できない。建物の性格も不詳である。確定はできないが、柱間寸法等から近世以降の臨時的な建物と想像される。		

ＳＢ２　（第 27 図　写真図版 15・16）		
位置　６～８Ｆ、６～８Ｇ	**屋敷**　4	**使用した柱穴**　23 個
桁行　1069㎝（35.25 尺）		**梁間**　500㎝（16.5 尺）
面積　51.1㎡（15.5 坪）		**軸方向**　Ｎ－13°－Ｅ
柱間寸法　200㎝（６尺６寸）を多用する		
重複　ＳＢ３、ＳＤ１と重複する。いずれも本建物が新しい。		
ＳＤ１とＳＢ３より新しい建物である。ＳＤ１は御蔵場に関わる区画溝で 1718 年廃絶、その後、ＳＢ３を経て、本建物が建築されたことになり、18 世紀中葉の建築年代と推測する。規模等から近世屋敷の主屋と推測される。間仕切りの想定は難しいが「広間型三間取」の間取りと推測される。屋敷の敷地から想定すると東側が「前」の建物であろう。		

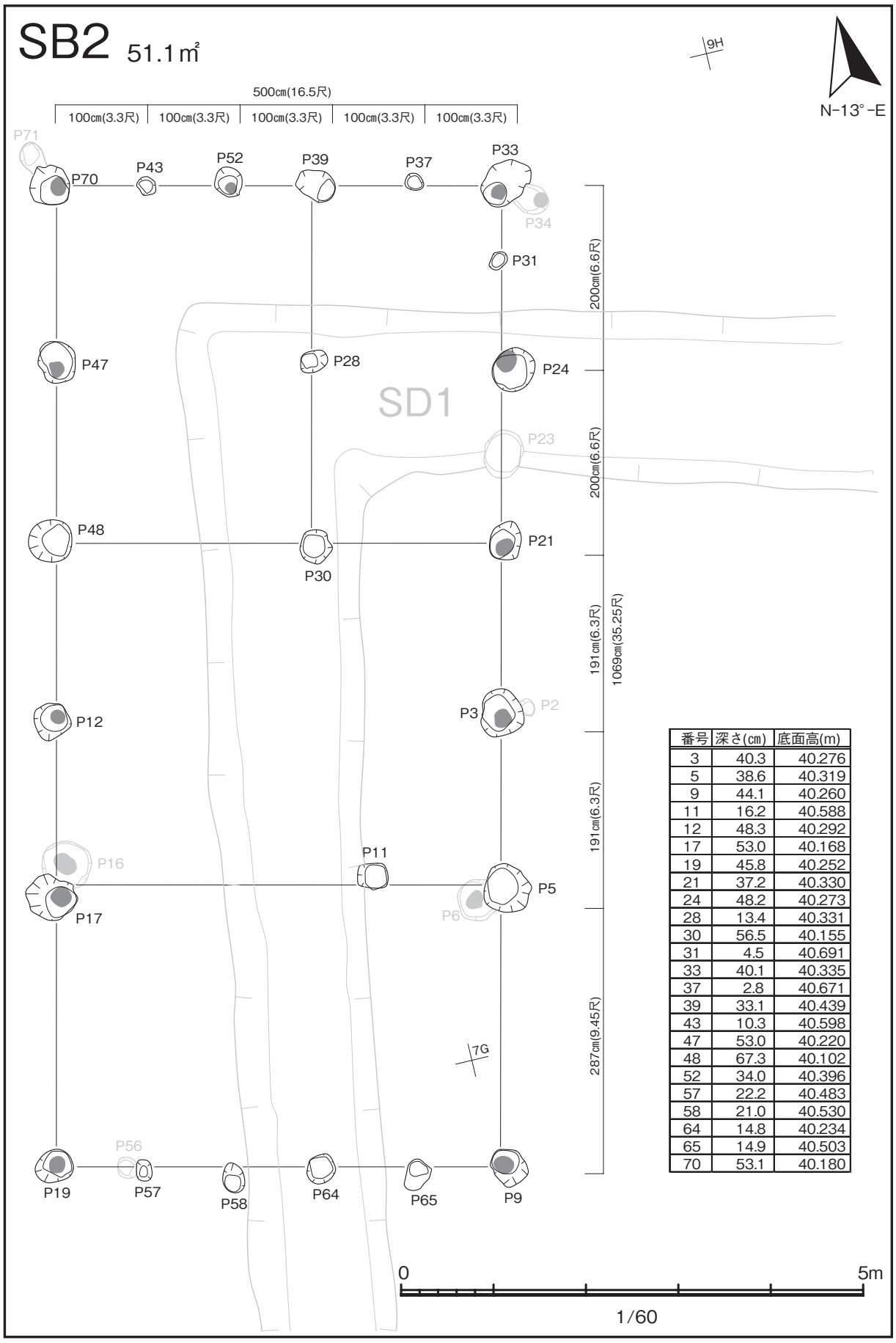
ＳＢ３　（第 28 図　写真図版 15・17）		
位置　６Ｅ、６～８Ｆ、６～８Ｇ	**屋敷**　4	**使用した柱穴**　26 個
桁行　1134㎝（37.4 尺）		**梁間**　637㎝（21.0 尺）
面積　71.8㎡（21.8 坪）		**軸方向**　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　桁行では 188㎝（6.2 尺）を基準とする。梁間では 182㎝（6.0 尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ２と重複し本建物が古い。ＳＤ１と重複し本建物が新しい。		
ＳＤ１より新しく、ＳＢ２より古い建物である。ＳＤ１は御蔵場に関わる区画溝で 1718 年廃絶であり、その後の 18 世紀前半の建築年代と推測する。規模等から近世屋敷の主屋と推測される。ＳＤ１との重複と柱穴の残存が浅く、柱穴検出が困難で間仕切りの想定は難しいが「広間型三間取」の間取りと推測される。東側に下屋の柱穴が配置される。		

ＳＢ４　（第 29 図　写真図版 18・19）		
位置　５Ｅ、６Ｅ、５Ｆ、６Ｆ	**屋敷**　4	**使用した柱穴**　20 個
桁行　652㎝（21.5 尺）		**梁間**　370㎝（12.2 尺）
面積　24.7㎡（7.5 坪）		**軸方向**　Ｎ－20°－Ｅ
柱間寸法　185㎝（6.1 尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ 14 とＳＤ１と重複し本建物が新しい。ＳＫ９、ＳＫ 11 と重複し本建物が古い。ＳＫ４とプランが重複するが配置から本建物の付属施設の可能性が高い。		
ＳＤ１より新しく、さらにＳＢ 14 より新しいことから 18 世紀中葉の建築と推測される。規模と配置関係から近世屋敷の付属建物と推測される。建物の重複関係から、主屋ＳＢ２に伴う付属屋と思われる。二部屋に間仕切りされ、西側の部屋にちょうど納まる形でＳＫ４が位置する。ＳＫ４は厩のくぼみと推測され、本建物は厩と判断される。		



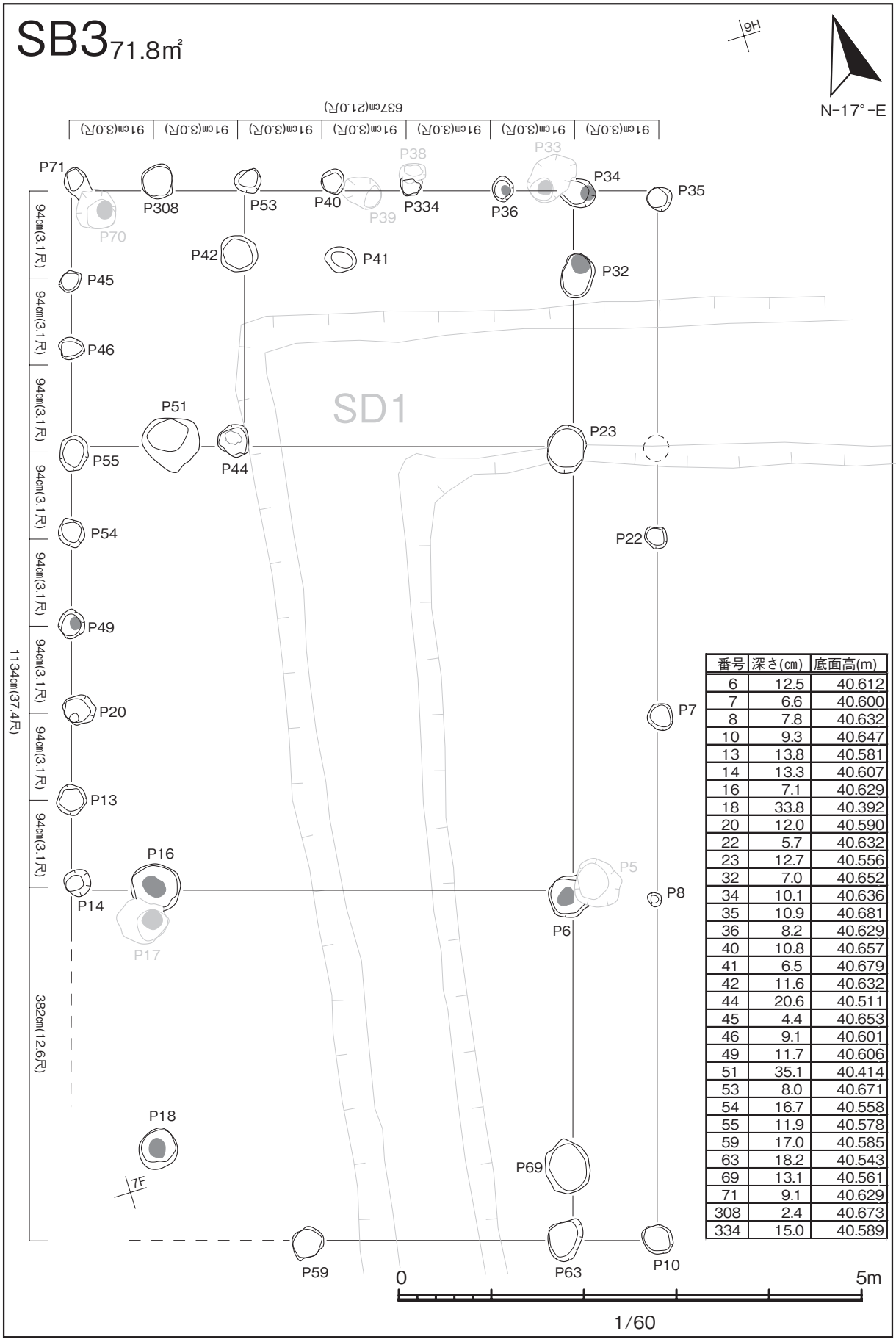
番号	深さ(㎝)	底面高(m)
323	12.8	40.526
324	25.1	40.399
325	19.9	40.435
328	19.0	40.424
329	14.2	40.468
330	15.4	40.481

第26図　SB1



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
3	40.3	40.276
5	38.6	40.319
9	44.1	40.260
11	16.2	40.588
12	48.3	40.292
17	53.0	40.168
19	45.8	40.252
21	37.2	40.330
24	48.2	40.273
28	13.4	40.331
30	56.5	40.155
31	4.5	40.691
33	40.1	40.335
37	2.8	40.671
39	33.1	40.439
43	10.3	40.598
47	53.0	40.220
48	67.3	40.102
52	34.0	40.396
57	22.2	40.483
58	21.0	40.530
64	14.8	40.234
65	14.9	40.503
70	53.1	40.180

第27図　SB2

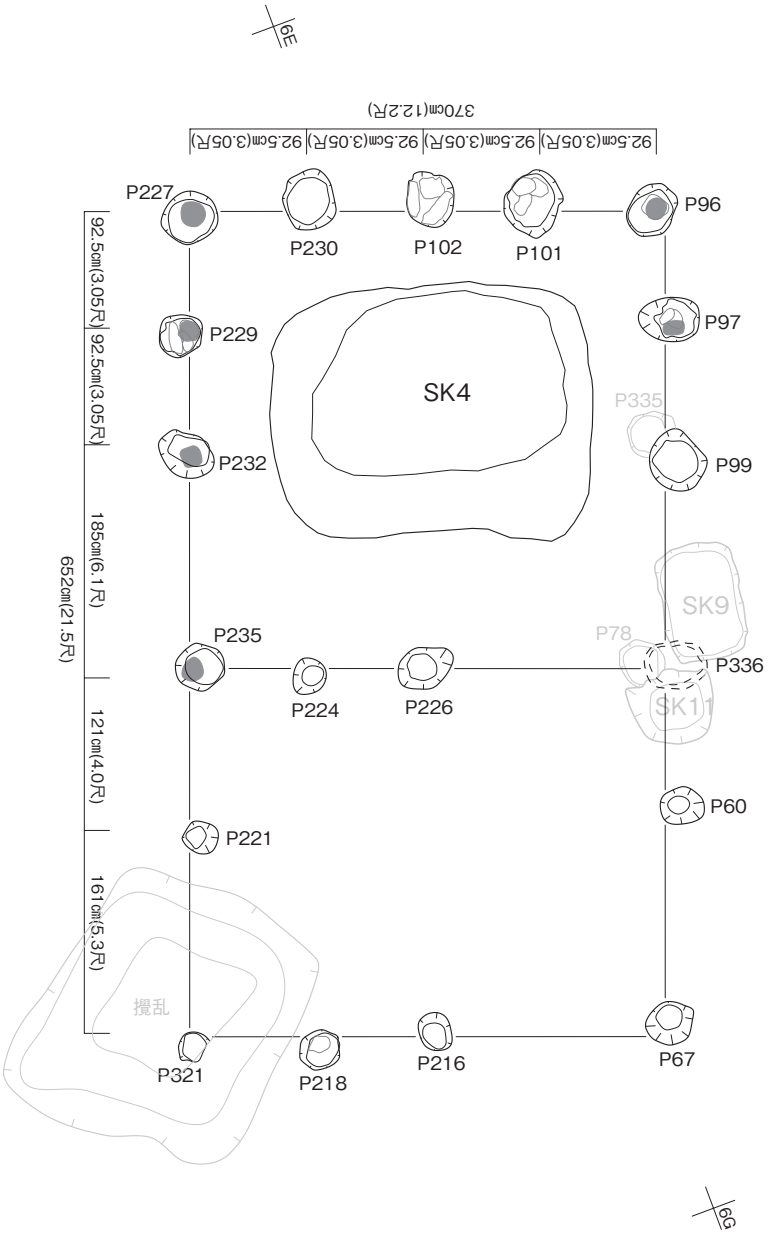


番号	深さ(cm)	底面高(m)
6	12.5	40.612
7	6.6	40.600
8	7.8	40.632
10	9.3	40.647
13	13.8	40.581
14	13.3	40.607
16	7.1	40.629
18	33.8	40.392
20	12.0	40.590
22	5.7	40.632
23	12.7	40.556
32	7.0	40.652
34	10.1	40.636
35	10.9	40.681
36	8.2	40.629
40	10.8	40.657
41	6.5	40.679
42	11.6	40.632
44	20.6	40.511
45	4.4	40.653
46	9.1	40.601
49	11.7	40.606
51	35.1	40.414
53	8.0	40.671
54	16.7	40.558
55	11.9	40.578
59	17.0	40.585
63	18.2	40.543
69	13.1	40.561
71	9.1	40.629
308	2.4	40.673
334	15.0	40.589

第28図　SB3

SB4 24.7㎡

N−20°−E



番号	深さ(cm)	底面高(m)
60	28.3	40.382
67	44.6	40.194
96	25.6	40.446
97	14.9	40.546
99	21.8	40.462
101	20.9	40.479
102	不明	不明
216	50.1	40.479
218	22.5	40.429
221	35.3	40.456
224	42.6	40.547
226	26.9	40.391
227	28.4	40.371
229	35.9	40.291
230	25.1	40.404
232	32.8	40.312
235	29.1	40.376
321	12.6	40.199
336	10.8	40.584

0　5m

1/60

第29図　SB4

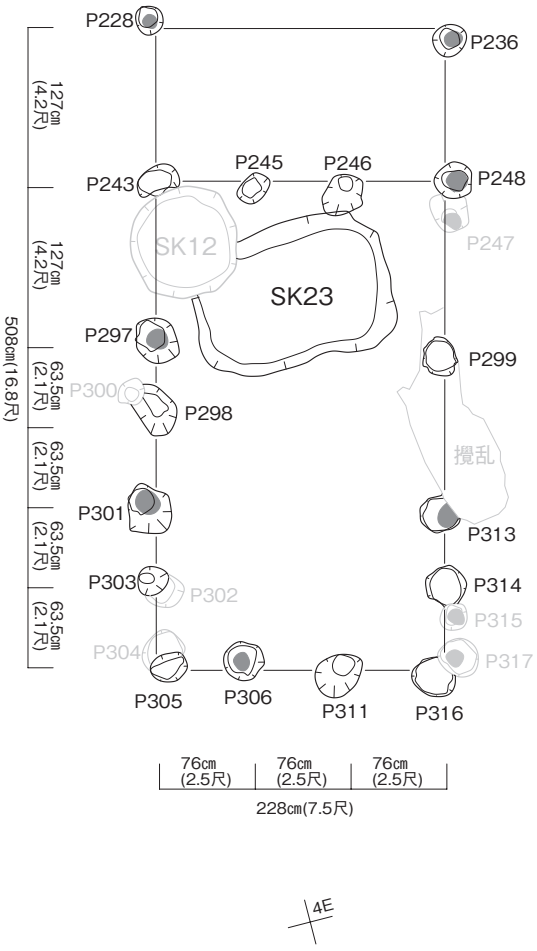
ＳＢ５　（第30図　写真図版18・20）		
位置　４Ｄ、４Ｅ、５Ｅ	**屋敷**　４	**使用した柱穴**　16個
桁行　508㎝（16.8尺）		**梁間**　228㎝（7.5尺）
面積　11.7㎡（3.5坪）		**軸方向**　Ｎ－15°－Ｅ
柱間寸法　桁行では127㎝（4.2尺）を基準とする。梁間では152㎝（5.0尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ６と重複し本建物が古いと推測される。ＳＫ12と重複し本建物が古い。ＳＫ23とプランが重複するが配置から本建物の付属施設の可能性がある。		
ＳＤ１より新しく、ＳＢ６より古いことから18世紀前葉の建築と推測される。規模と配置関係から近世屋敷の付属建物と推測される。建物の重複関係から、主屋ＳＢ３に伴う付属屋と思われる。建物内にちょうど納まる形でＳＫ23が位置し、本建物と配置の付属施設と推測される。規模、主屋、他の付属建物（ＳＢ14）との位置関係から、便所などの機能が想像される。		

ＳＢ６　（第31図　写真図版21・22）		
位置　４Ｄ、４Ｅ、５Ｅ	**屋敷**　４	**使用した柱穴**　10個
桁行　478㎝（15.8尺）		**梁間**　246㎝（8.1尺）
面積　11.9㎡（3.6坪）		**軸方向**　Ｎ－18°－Ｅ
柱間寸法　桁行では103㎝（4.3尺）と136㎝（4.5尺）を使用する。梁間では82㎝（2.7尺）を使用する。		
重複　ＳＢ５と重複し本建物が新しいと推測される。ＳＫ12と重複し本建物が古い。		
ＳＤ１より新しく、さらにＳＢ５より新しいことから18世紀中葉の建築と推測される。規模と配置関係から近世屋敷の付属建物と推測される。建物の重複関係と配置から、主屋ＳＢ２に伴う付属屋と思われる。規模、主屋、他の付属建物（ＳＢ４）との位置関係から、便所などの機能が想像される。南辺の柱穴は攪乱により失われているものが数個ある。		

ＳＢ７　（第32図　写真図版21・22）		
位置　７Ｉ、８Ｉ、７Ｊ、８Ｊ	**屋敷**　４	**使用した柱穴**　７個
桁行　727.5㎝（24.0尺）		**梁間**　364㎝（12.0尺）
面積　26.1㎡（7.9坪）		**軸方向**　Ｎ－10°－Ｅ
柱間寸法　242.5㎝（8.0尺）を基準とする。		
重複　ＳＤ１と重複するが前後関係を確定できない。おそらく本建物が古い。		
ＳＤ１と重複し、その部位の柱穴を１個欠く。おそらく本建物が古く、ＳＤ１構築時に失われたものと推測される。時期を判別する手掛かりは少ないが、他の近世建物の配置から外れ、ＳＤ１より古い可能性の高さから、中世～近世初頭の建築年代と推測する。柱間寸法が８尺と長いことも、近世の建物として違和感がある。		

ＳＢ８　（第33図　写真図版23・24）		
位置　９Ｃ、10Ｃ、８Ｄ、９Ｄ、10Ｄ、８Ｅ、９Ｅ	**屋敷**　３	**使用した柱穴**　16個
桁行　1146㎝（37.8尺）		**梁間**　485㎝（16.0尺）
面積　56.5㎡（17.1坪）		**軸方向**　Ｎ－14°－Ｅ
柱間寸法　桁行では191㎝（6.3尺）を基準とする。梁間では242.5㎝（8.0尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ９、ＳＫ10、ＳＫ13と重複し本建物が古い。ＳＤ３と重複するが前後関係を明確にできないが、本建物が古い可能性が高い		
ＳＢ９より古く、ＳＤ３より古い可能性が高いことから近世でも早い段階（17世紀前～中頃）の建築と推測される。面積が17坪を超え、近世民家の主屋に匹敵する面積であるが、位置、間取りから一般の民家の主屋とは思えない。柱間寸法も規格性が高く、瀬台野御蔵場が機能していた時代の、御蔵場に関連する建物と想像される。		

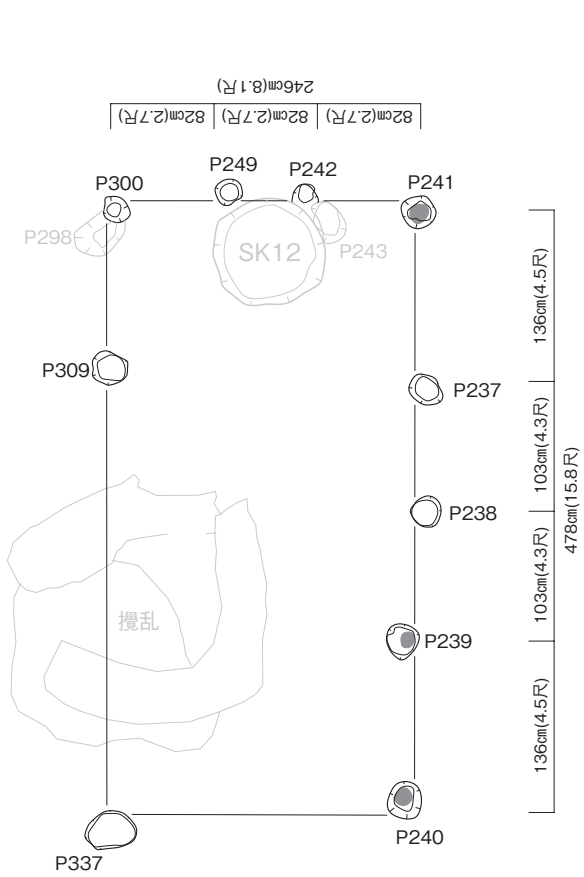
SB5 11.7㎡



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
228	25.8	40.354
236	31.6	40.364
243	14.3	40.500
245	11.5	40.550
246	14.3	40.562
248	20.8	40.507
297	23.6	40.449
298	7.8	40.609
299	8.3	40.538
301	14.3	40.522
303	13.8	40.547
305	9.3	40.587
306	9.9	40.586
311	26.9	40.446
313	12.0	40.563
314	9.5	40.612
316	10.1	40.629

第30図　SB5

SB6 11.9㎡

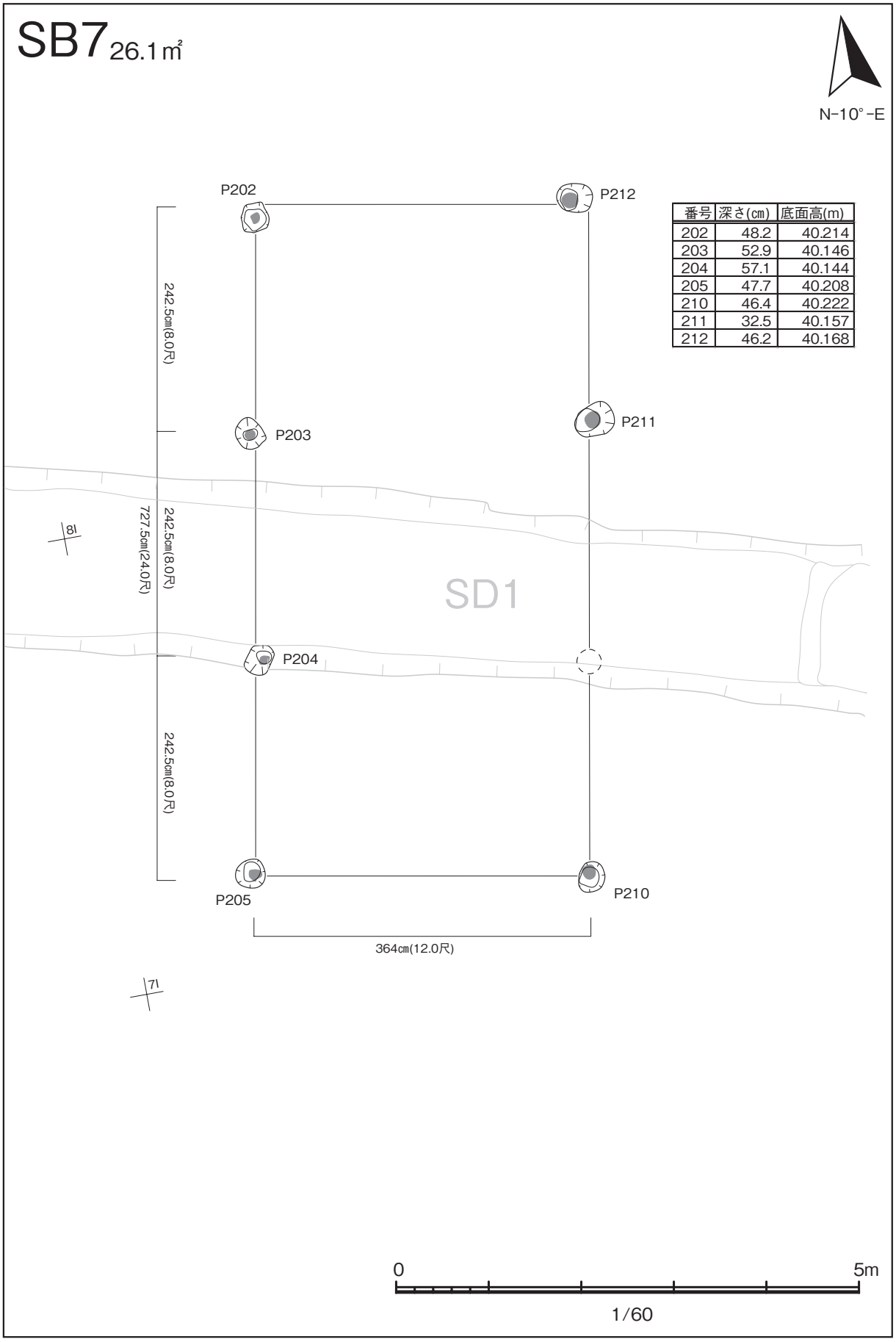


番号	深さ(cm)	底面高(m)
237	28.1	40.379
238	7.8	40.617
239	14.3	40.532
240	40.0	40.300
241	31.3	40.332
242	18.0	40.475
249	13.2	40.518
300	29.6	40.389
309	27.8	40.387
337	4.4	40.669

0　5m

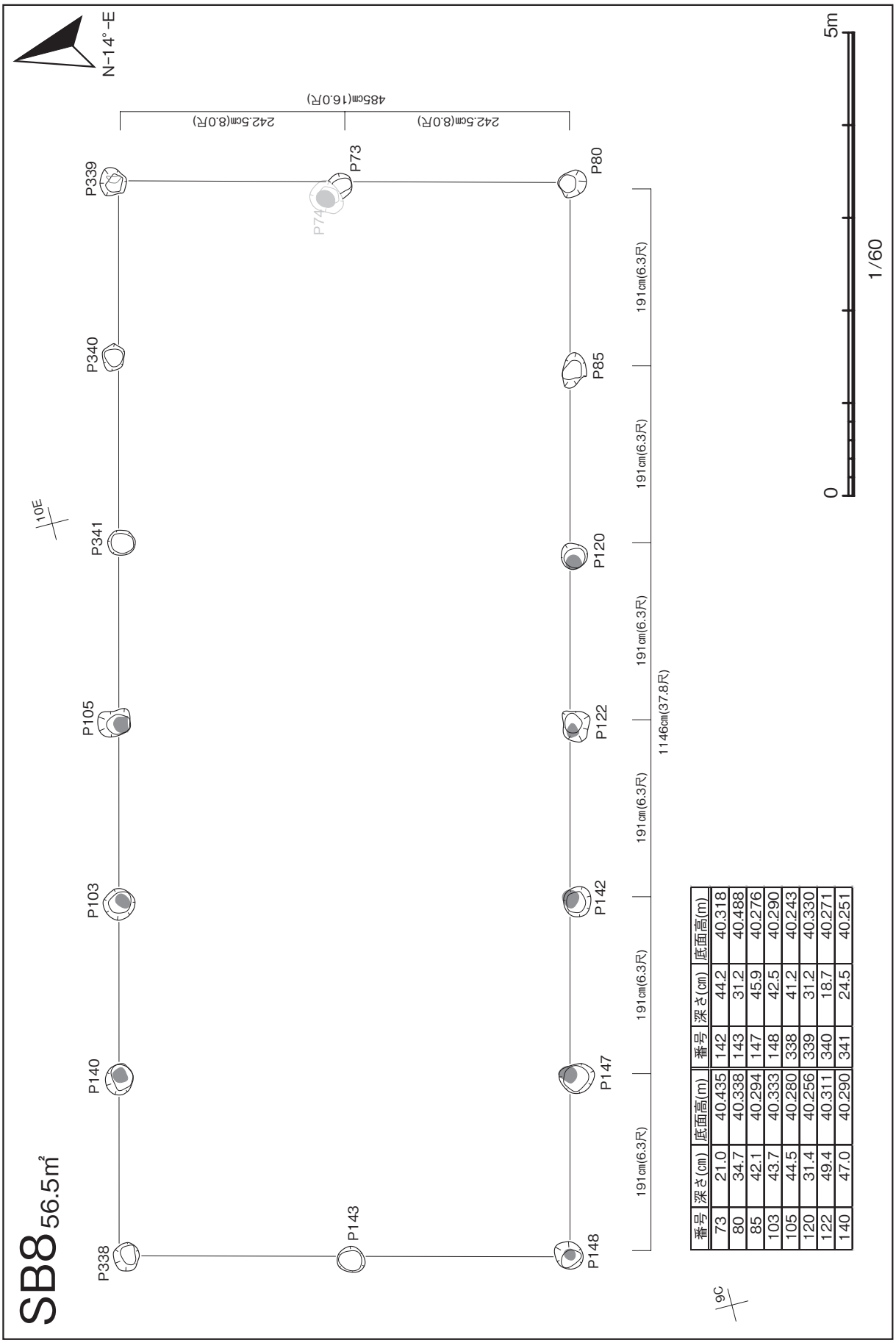
1/60

第31図　SB6



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
202	48.2	40.214
203	52.9	40.146
204	57.1	40.144
205	47.7	40.208
210	46.4	40.222
211	32.5	40.157
212	46.2	40.168

第32図　SB7



番号	深さ(㎝)	底面高(m)	番号	深さ(㎝)	底面高(m)
73	21.0	40.435	142	44.2	40.318
80	34.7	40.338	143	31.2	40.488
85	42.1	40.294	147	45.9	40.276
103	43.7	40.333	148	42.5	40.290
105	44.5	40.280	338	41.2	40.243
120	31.4	40.256	339	31.2	40.330
122	49.4	40.311	340	18.7	40.271
140	47.0	40.290	341	24.5	40.251

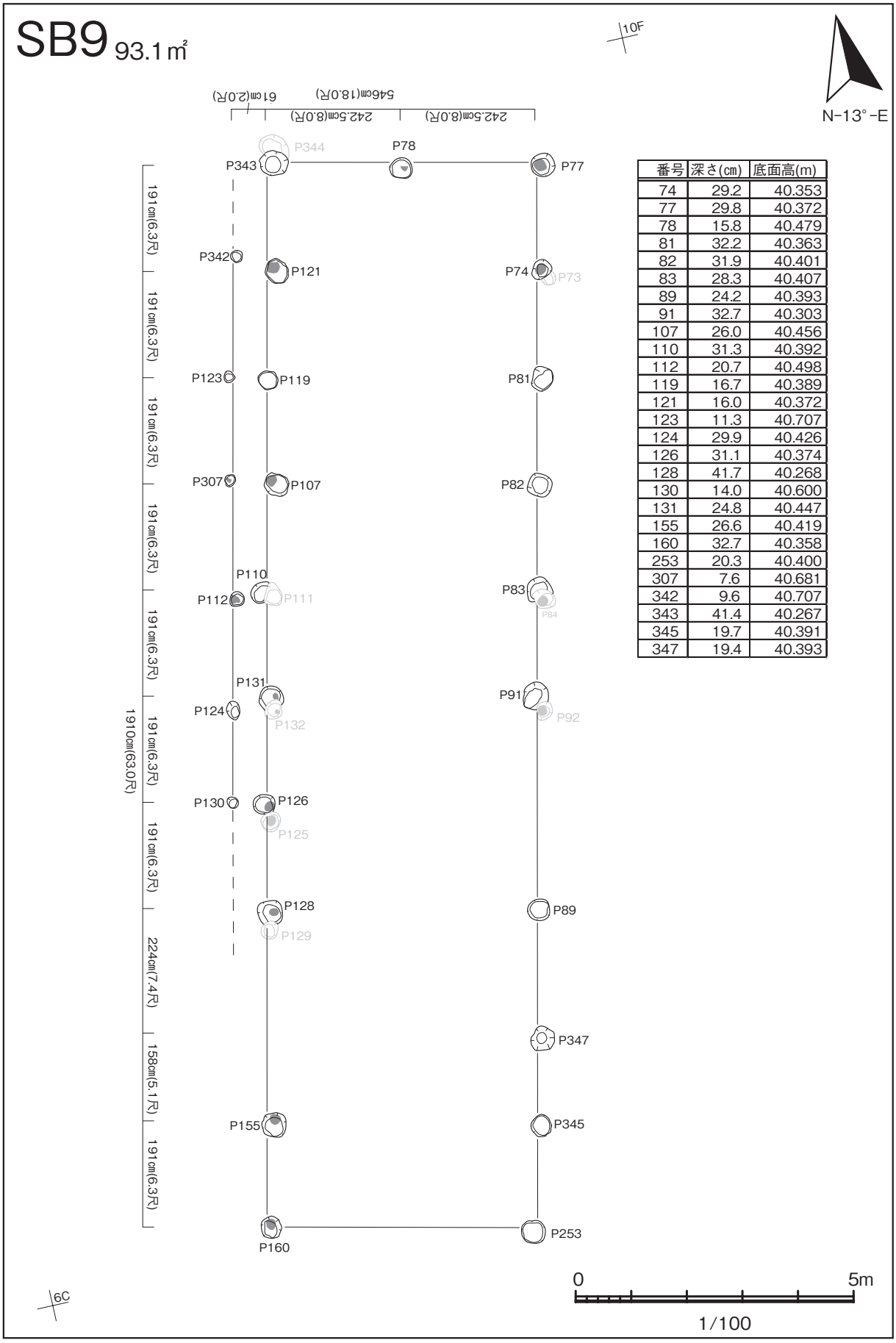
第33図　SB8

ＳＢ９　（第34図　写真図版23・25）		
位置　６Ｃ、５～９Ｄ、６～９Ｅ	**屋敷**　３	**使用した柱穴**　27個
桁行　1910cm（63.0尺）		**梁間**　546cm（18.0尺）
面積　93.1㎡（28.2坪）		**軸方向**　Ｎ－13°－Ｅ
柱間寸法　桁行では191cm（6.3尺）を基準とする。梁間では242.5cm（8.0尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ８と重複し本建物が新しい。ＳＢ10、ＳＫ６と重複し本建物が古い。ＳＤ３と重複するが前後関係を明確にできない。		
プランが10間×２間、面積が28坪を超える長大な建物であり、通常の近世屋敷に属する建物とは思えない。柱間寸法も規格性が高く、瀬台野御蔵場が機能していた時代の、御蔵場に関連する建物と想像される。17世紀前～中葉と推測されるＳＢ８より新しいことから、17世紀中葉～後半の建築と推測する。建物の西辺に下屋の柱列が付く。		

ＳＢ10　（第35図　写真図版26）		
位置　６Ｃ、６～８Ｄ、６～８Ｅ	**屋敷**　３	**使用した柱穴**　11個
桁行　1000cm（33.0尺）		**梁間**　485cm（16.0尺）
面積　49.4㎡（15.0坪）		**軸方向**　Ｎ－13°－Ｅ
柱間寸法　桁行では200cm（6.6尺）を基準とする。梁間では242.5cm（8.0尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ９と重複し本建物が新しい。ＳＫ６と重複し本建物が古い。ＳＤ３と重複するが前後関係を明確にできない。		
17世紀中～後半と推測されるＳＢ９より新しいことから、17世紀末の建築と推測する。プランがＳＢ９ほど長大ではないが、柱間寸法も規格性が高く、通常の近世屋敷に属する建物とは思えない。瀬台野御蔵場が機能していた時代の、御蔵場に関連する建物と想像される。瀬台野御蔵場の廃絶が1718年であるので、建物の下限年代を1718年と想定する。		

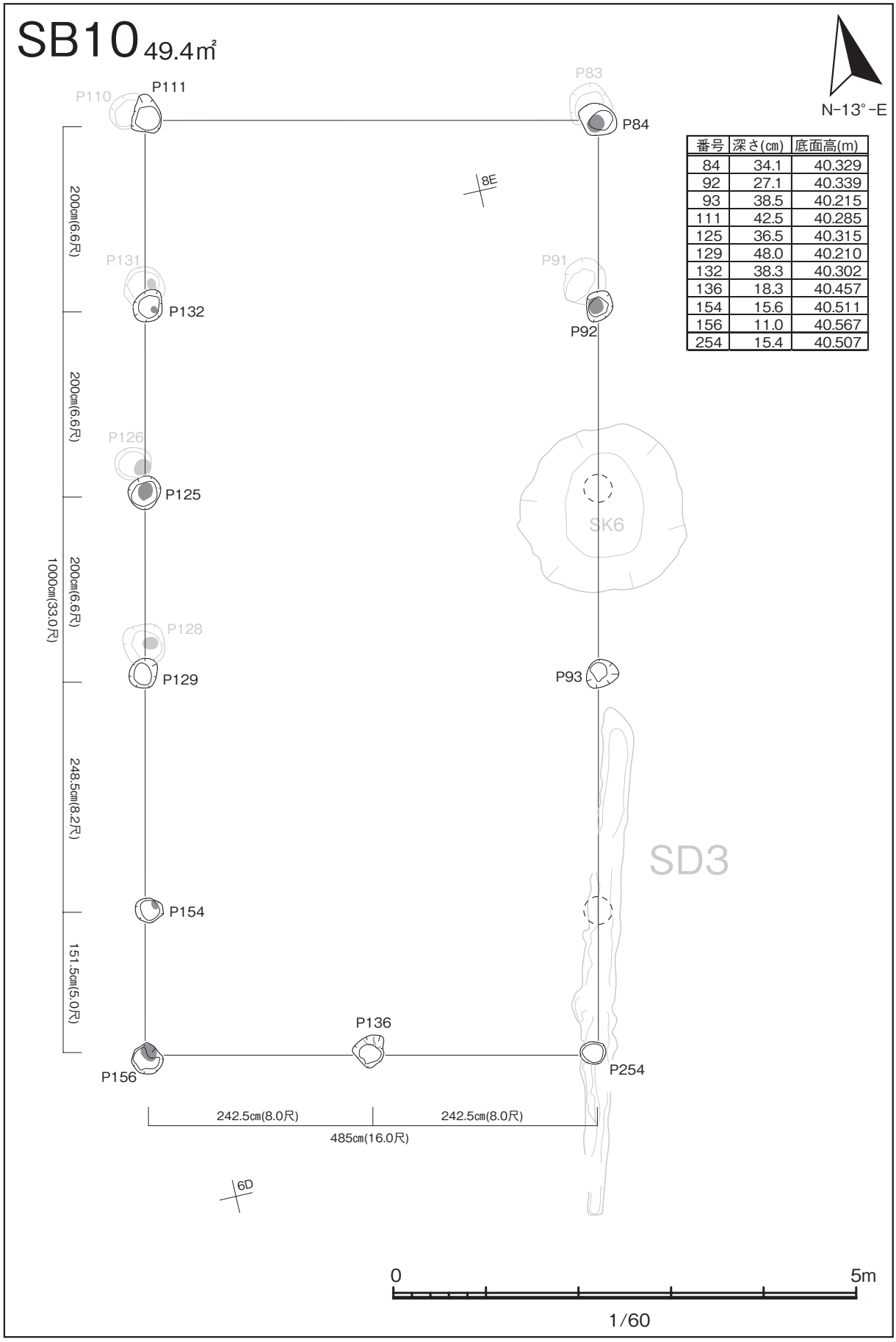
ＳＢ11　（第36図　写真図版27・28）		
位置　６Ａ、７Ａ、６Ｂ、７Ｂ	**屋敷**　３	**使用した柱穴**　16個
桁行（検出した分）　573cm（18.9尺）		**梁間**　394cm（13.0尺）
面積（検出した分）　20.6㎡（6.2坪）		**軸方向**　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　桁行では191cm（6.3尺）を基準とする。梁間では197cm（6.5尺）を基準とする。		
重複　なし。		
規模と配置関係から近世屋敷の付属建物と推測される。本建物が伴う主屋は調査区域外の西側に位置すると推測される。間仕切りにより二部屋に分かれている。規模から、厩などの機能が想像される。重複関係がなく建築年代の推測が難しいが、御蔵場廃絶後の18世紀代の所産であろうか。プランは調査区外の西側へ広がると推測される。		

ＳＢ12　（第37図　写真図版27・28）		
位置　５Ａ、６Ａ	**屋敷**　３	**使用した柱穴**　４個
桁行（検出した分）　364cm（12.0尺）		**梁間**（検出した分）　91cm（3.0尺）
面積（検出した分）　1.5㎡（0.5坪）		**軸方向**　Ｎ－12°－Ｅ
柱間寸法　182cm（6.0尺）を基準とする。		
重複　なし。		
プランの大部分が調査区外に広がり、全体形が不明であるが、近世屋敷の付属建物と推測する。本建物が伴う主屋も調査区域外の西側に位置すると推測する。ＳＢ11は同時存在の建物である可能性が、確証はない。重複関係がなく建築年代の推測が難しいが、御蔵場廃絶後の18世紀以降の所産であろうか。		



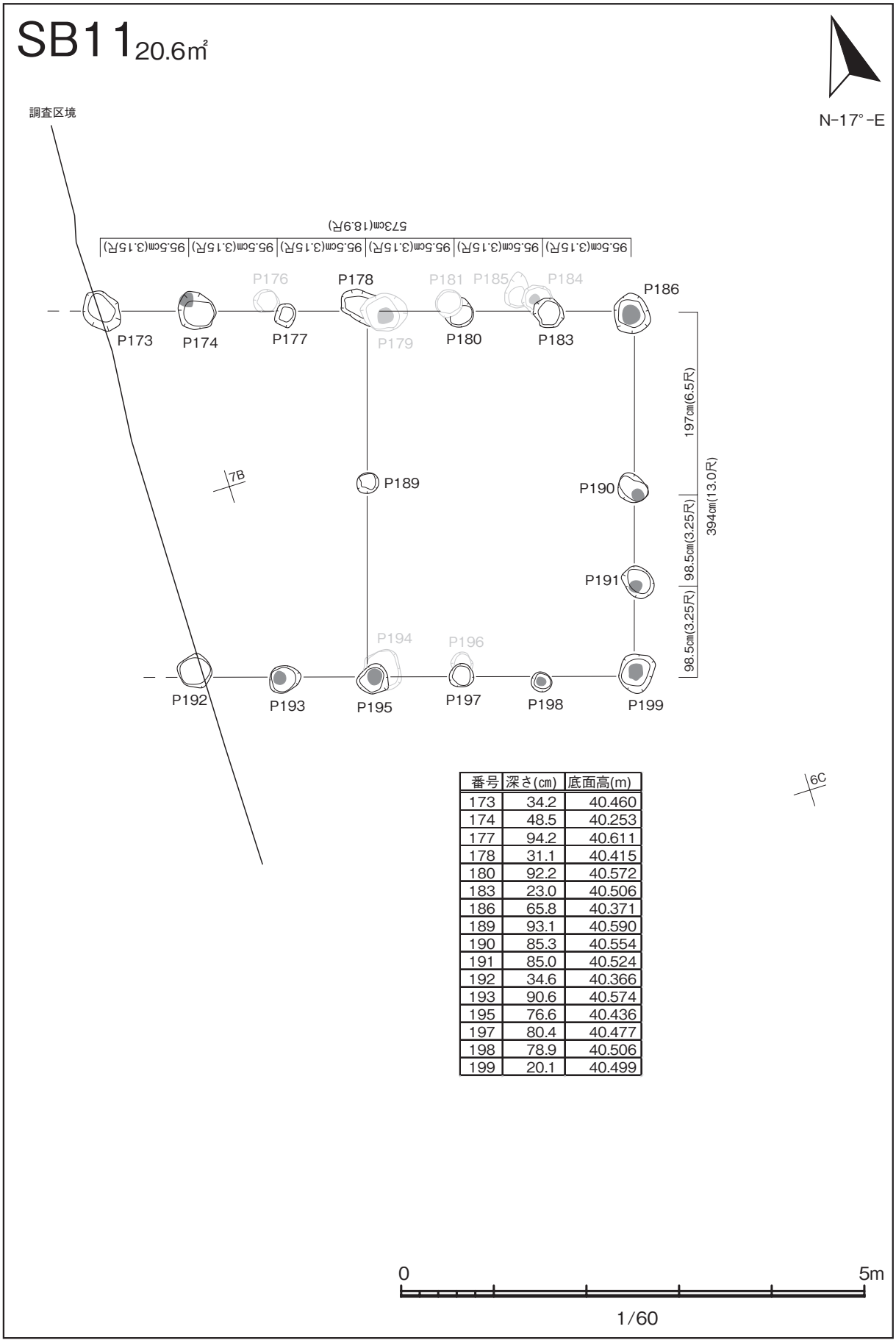
番号	深さ(cm)	底面高(m)
74	29.2	40.353
77	29.8	40.372
78	15.8	40.479
81	32.2	40.363
82	31.9	40.401
83	28.3	40.407
89	24.2	40.393
91	32.7	40.303
107	26.0	40.456
110	31.3	40.392
112	20.7	40.498
119	16.7	40.389
121	16.0	40.372
123	11.3	40.707
124	29.9	40.426
126	31.1	40.374
128	41.7	40.268
130	14.0	40.600
131	24.8	40.447
155	26.6	40.419
160	32.7	40.358
253	20.3	40.400
307	7.6	40.681
342	9.6	40.707
343	41.4	40.267
345	19.7	40.391
347	19.4	40.393

第34図　SB9



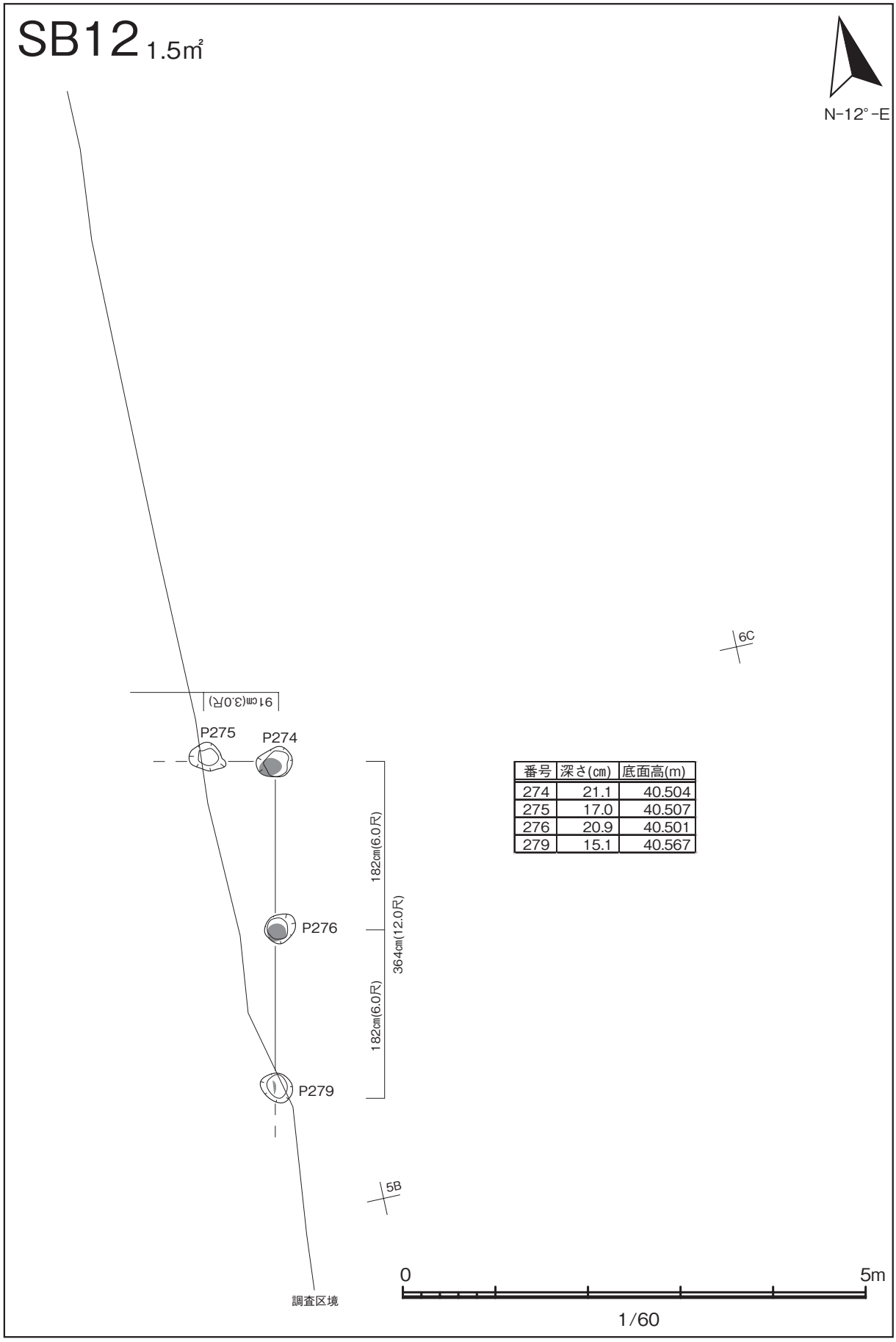
番号	深さ(cm)	底面高(m)
84	34.1	40.329
92	27.1	40.339
93	38.5	40.215
111	42.5	40.285
125	36.5	40.315
129	48.0	40.210
132	38.3	40.302
136	18.3	40.457
154	15.6	40.511
156	11.0	40.567
254	15.4	40.507

第35図　SB10



番号	深さ(cm)	底面高(m)
173	34.2	40.460
174	48.5	40.253
177	94.2	40.611
178	31.1	40.415
180	92.2	40.572
183	23.0	40.506
186	65.8	40.371
189	93.1	40.590
190	85.3	40.554
191	85.0	40.524
192	34.6	40.366
193	90.6	40.574
195	76.6	40.436
197	80.4	40.477
198	78.9	40.506
199	20.1	40.499

第36図　SB11



番号	深さ(cm)	底面高(m)
274	21.1	40.504
275	17.0	40.507
276	20.9	40.501
279	15.1	40.567

第37図　SB12

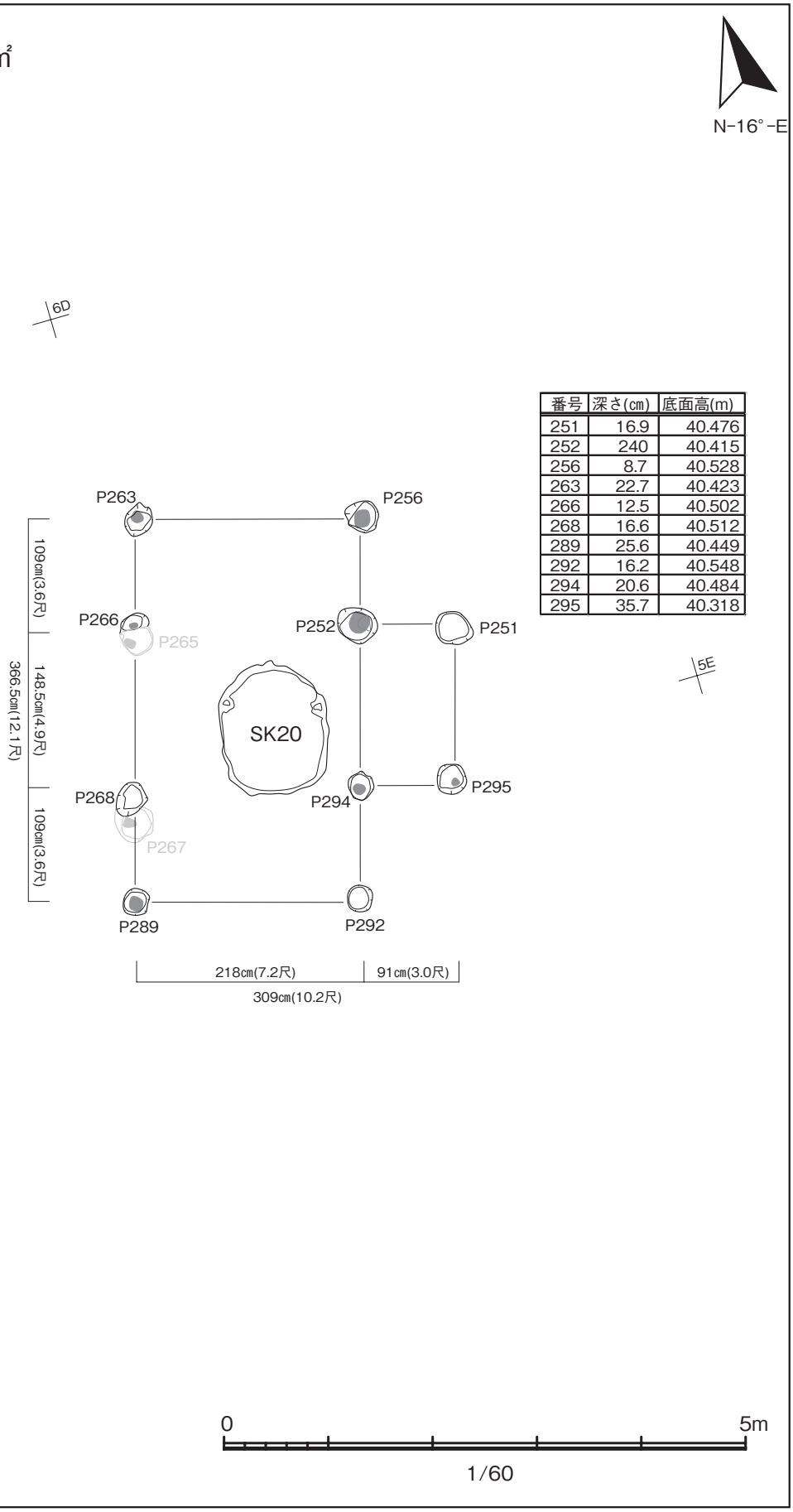
ＳＢ13　（第38図　写真図版29・30）		
位置　４Ｃ、５Ｃ、４Ｄ、５Ｄ	屋敷　３	使用した柱穴　10個
桁行　366.5㎝（12.1尺）		梁間　218㎝（7.2尺）
面積　9.3㎡（2.8坪）　突出部分も含める。		軸方向　Ｎ－16°－Ｅ
柱間寸法　109㎝（3.6尺）を多用する。		
重複　ＳＫ20とプランが重複するが配置から本建物の付属施設の可能性が高い。		
屋敷３に位置し、規模と配置関係から近世屋敷の付属建物と推測される。12.1尺×7.2尺のプランの東辺に4.9尺×3.0尺の突出部を有する。またプラン内にちょうど納まる位置にＳＫ20が位置し、本建物の内部に構築された付属施設と推測される。ＳＫ20は桶を埋設した遺構とも推測される。よって本建物は、規模、付属するＳＫ20から、便所の機能が想像される。		

ＳＢ14　（第39図　写真図版29・30）		
位置　５Ｅ、６Ｅ、５Ｆ、６Ｆ	屋敷　４	使用した柱穴　７個
桁行　415㎝（13.7尺）		梁間　354.5㎝（11.7尺）
面積　15.2㎡（4.6坪）		軸方向　Ｎ－20°－Ｅ
柱間寸法　157.5㎝（5.2尺）を多用する。		
重複　ＳＢ４、ＳＫ９、ＳＫ11と重複するが本建物が古い。ＳＤ１と重複するが本建物が新しい。		
ＳＤ１より新しく、ＳＢ４より古いことから18世紀前半の建築と推測される。規模と配置関係から近世屋敷の付属建物と推測される。主屋の前後関係から、主屋ＳＢ３に伴う付属屋と想定される。本建物の南に位置するＳＢ５も同時存在の建物と推測される。また、本建物の後身建物であるＳＢ４が厩と判断されており、本建物も厩の可能性が高い。		

ＳＢ101　（第40図　写真図版31）		
位置　13Ｈ、13Ｉ、14Ｇ～Ｉ	屋敷　１	使用した柱穴　10個
桁行　821㎝（20.1尺）		梁間　388㎝（12.8尺）
面積　31.8㎡（9.6坪）		軸方向　Ｎ－14°－Ｅ
柱間寸法　200㎝（6.6尺）を多用する。		
重複　ＳＢ127、ＳＫ145と重複し本建物が新しい。ＳＢ102とプランが重複するが前後関係は不明である。		
鍵となる遺構との重複がなく、建築年代は不明である。一応、近世（17～18世紀）の建物と想定するが、客観的な根拠はない。また、建物の性格も不明である。		

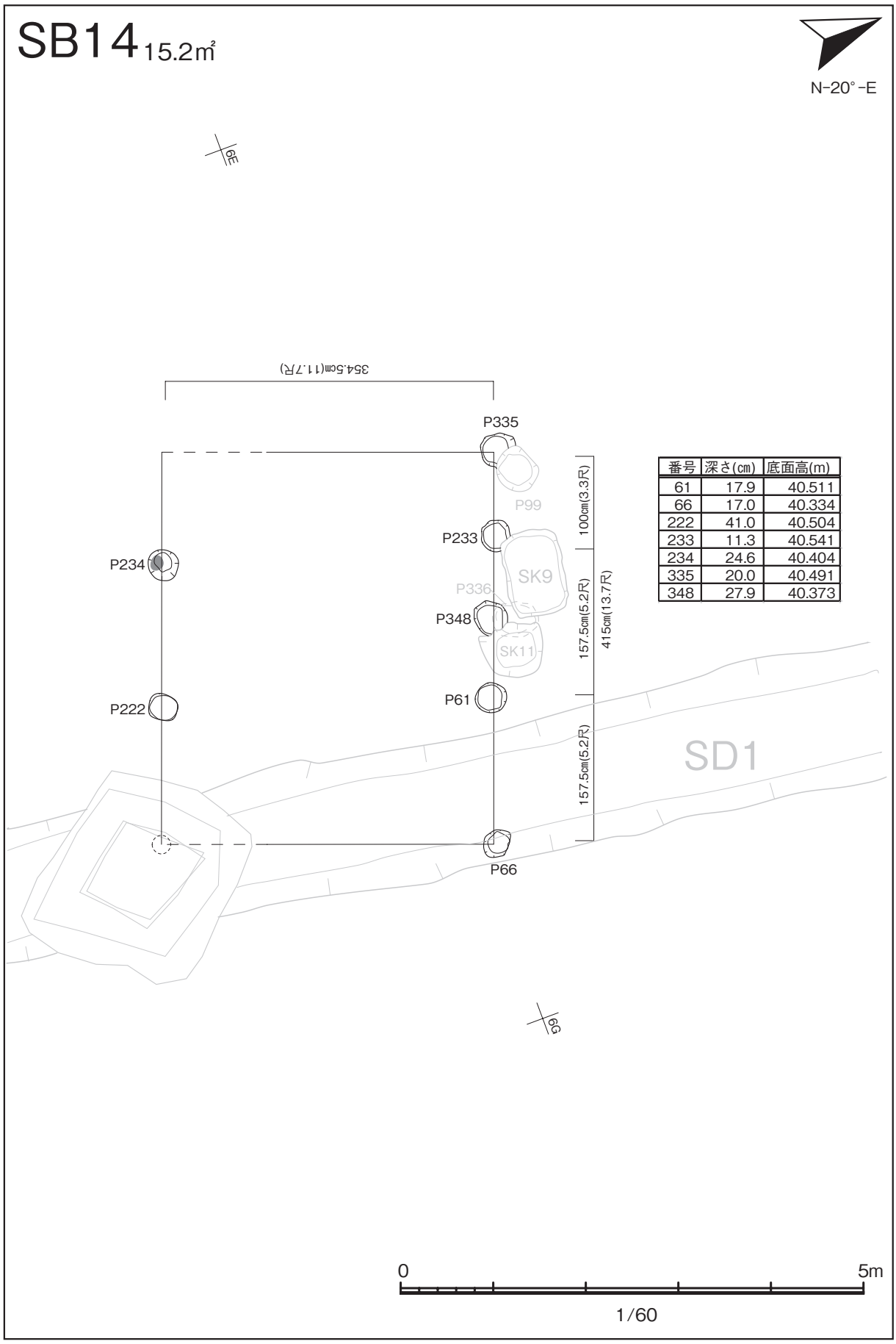
ＳＢ102　（第41図　写真図版32・33）		
位置　14Ｆ～Ｈ、15Ｆ～Ｈ	屋敷　１	使用した柱穴　15個
桁行　800㎝（26.4尺）		梁間　485㎝（16.0尺）
面積　39.5㎡（12.0坪）		軸方向　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　桁行では212㎝（7.0尺）を基準とする。梁間では194㎝（6.4尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ127と重複し本建物が新しい。ＳＢ101とプランが重複するが前後関係は不明である。		
鍵となる遺構との重複がなく、建築年代は不明である。一応、近世（17～18世紀）の建物と想定するが、客観的な根拠はない。中世の建物である可能性も皆無ではない。また、建物の性格も不明である。		

SB13 9.3㎡



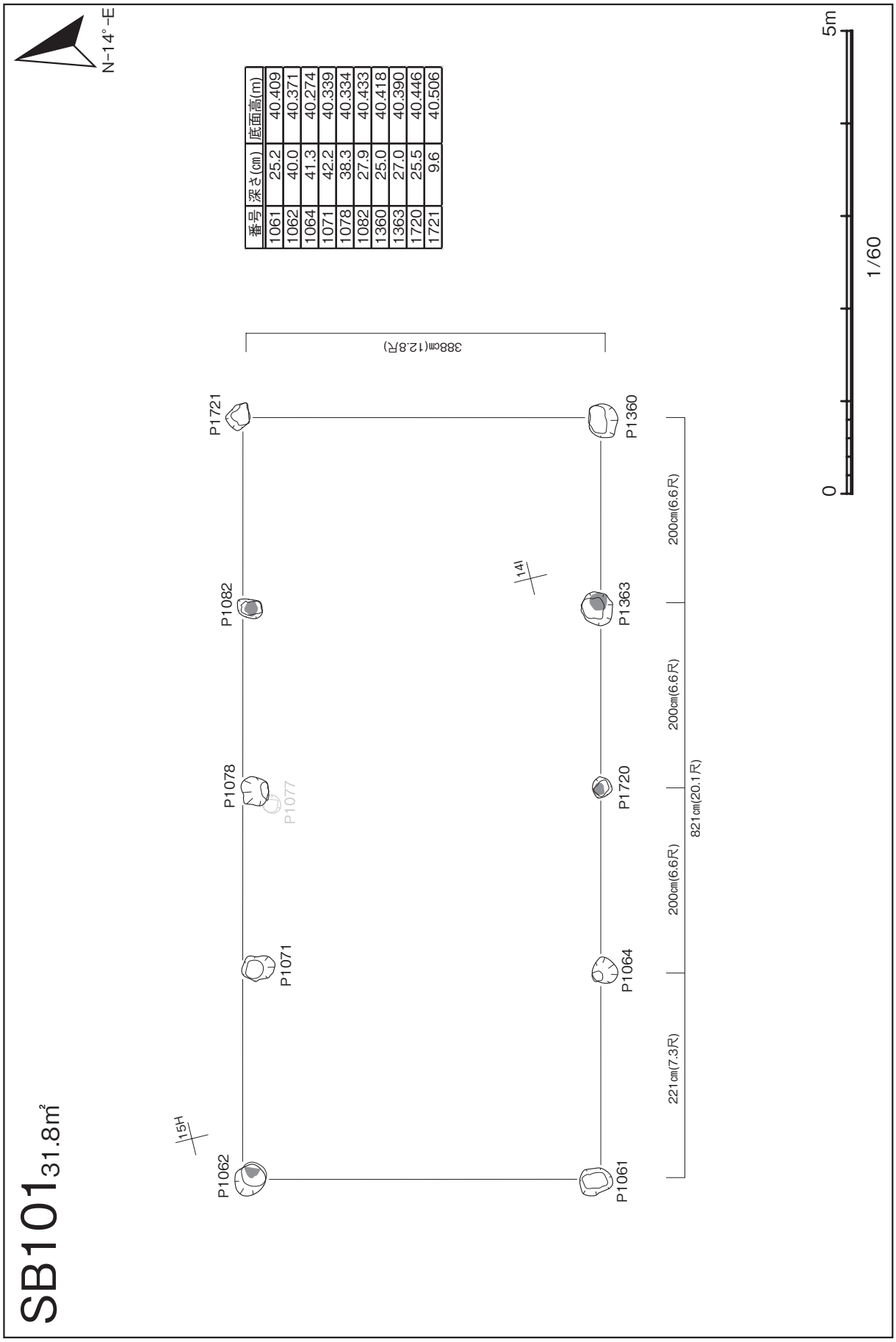
番号	深さ(㎝)	底面高(m)
251	16.9	40.476
252	240	40.415
256	8.7	40.528
263	22.7	40.423
266	12.5	40.502
268	16.6	40.512
289	25.6	40.449
292	16.2	40.548
294	20.6	40.484
295	35.7	40.318

第38図　SB13



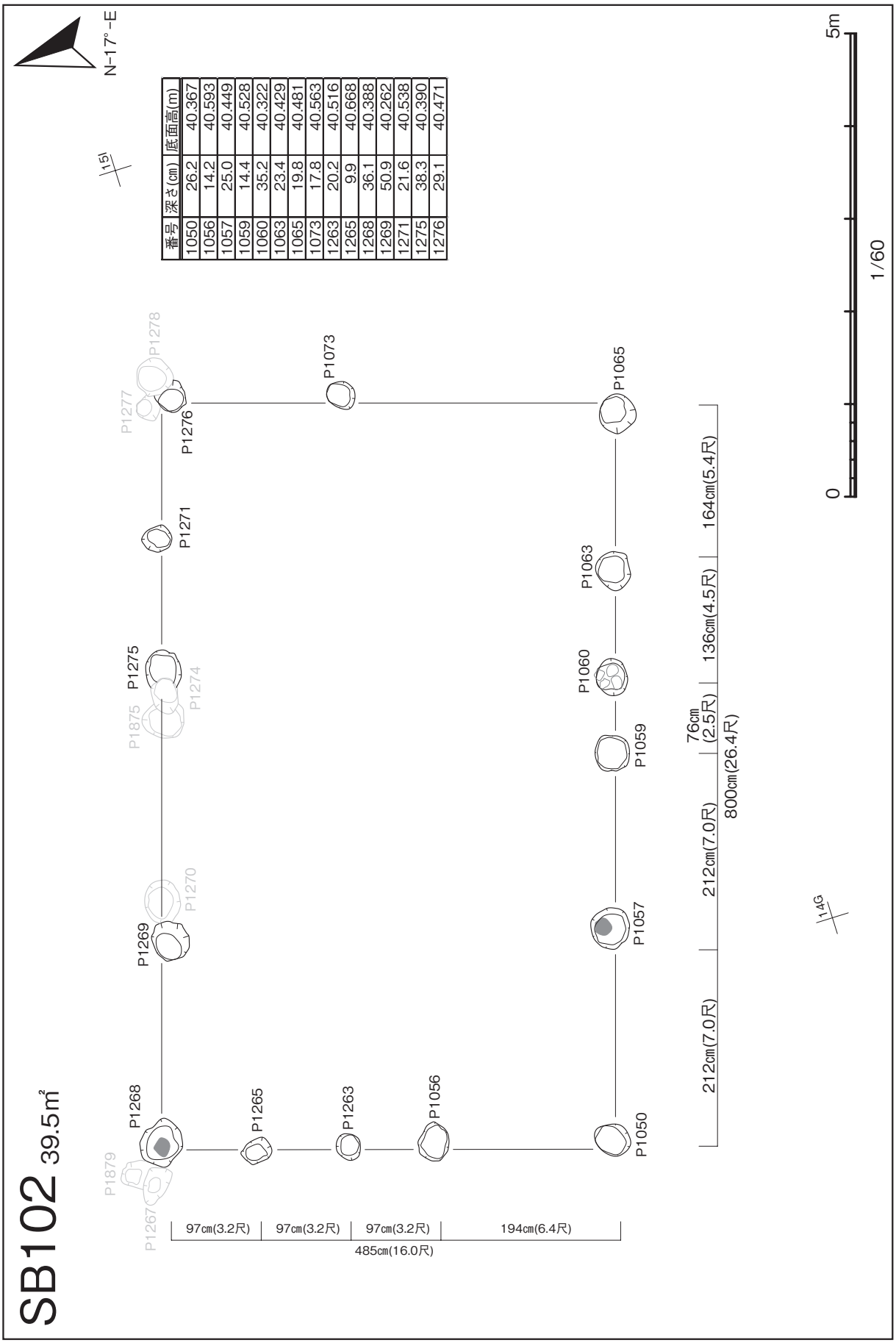
番号	深さ(cm)	底面高(m)
61	17.9	40.511
66	17.0	40.334
222	41.0	40.504
233	11.3	40.541
234	24.6	40.404
335	20.0	40.491
348	27.9	40.373

第39図　SB14



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1061	25.2	40.409
1062	40.0	40.371
1064	41.3	40.274
1071	42.2	40.339
1078	38.3	40.334
1082	27.9	40.433
1360	25.0	40.418
1363	27.0	40.390
1720	25.5	40.446
1721	9.6	40.506

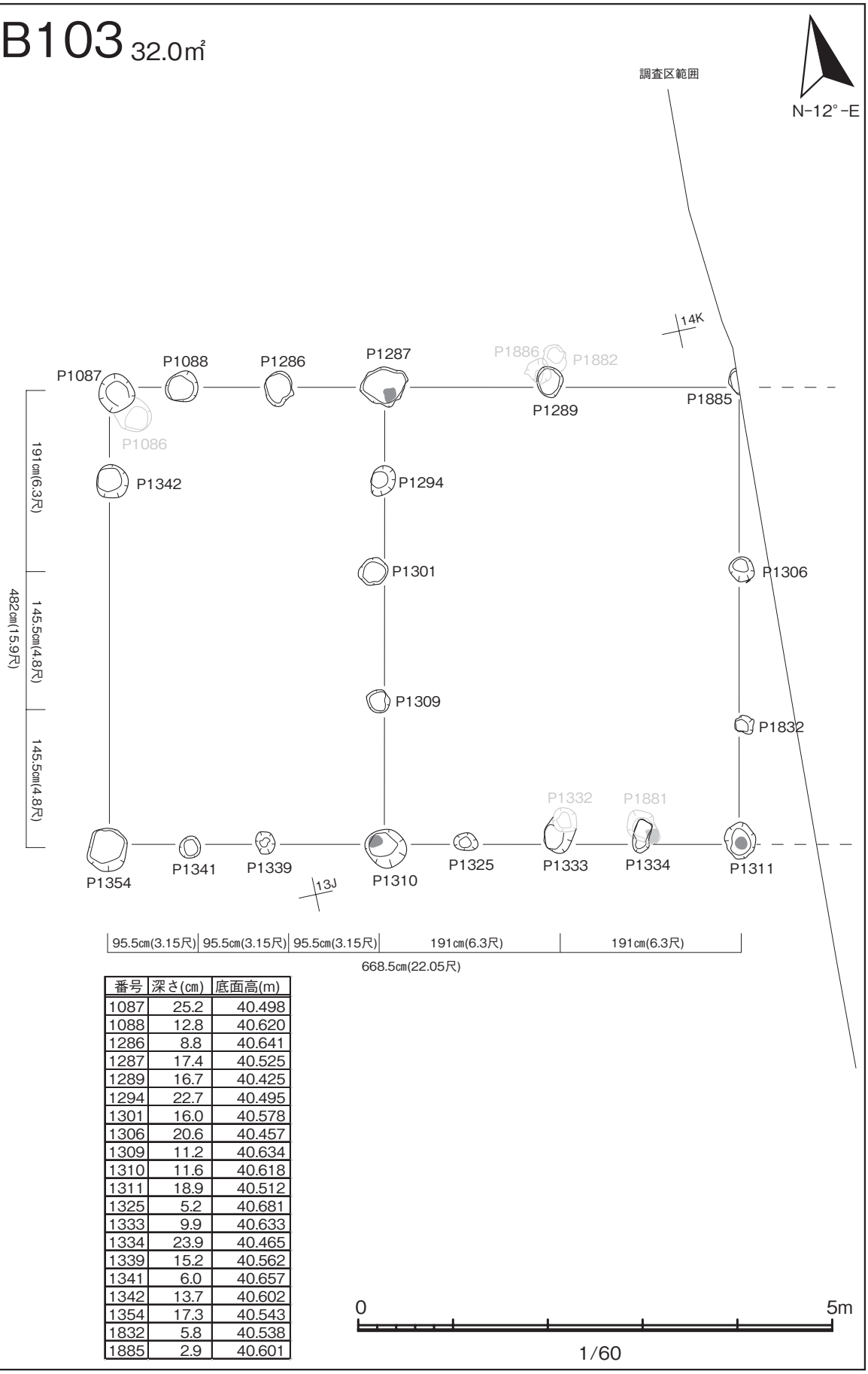
第40図　SB101



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1050	26.2	40.367
1056	14.2	40.593
1057	25.0	40.449
1059	14.4	40.528
1060	35.2	40.322
1063	23.4	40.429
1065	19.8	40.481
1073	17.8	40.563
1263	20.2	40.516
1265	9.9	40.668
1268	36.1	40.388
1269	50.9	40.262
1271	21.6	40.538
1275	38.3	40.390
1276	29.1	40.471

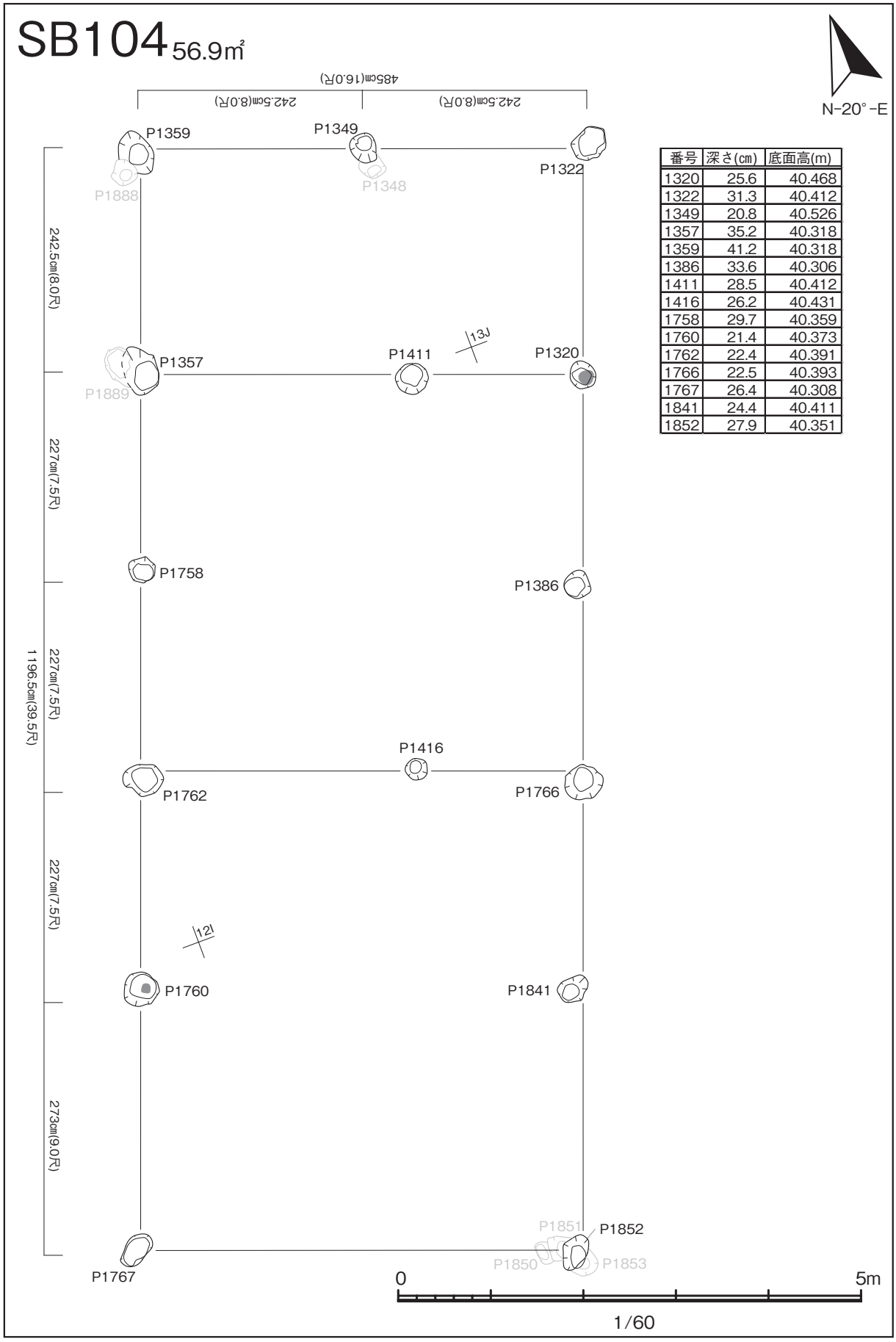
第41図　SB102

SB103 32.0㎡



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1087	25.2	40.498
1088	12.8	40.620
1286	8.8	40.641
1287	17.4	40.525
1289	16.7	40.425
1294	22.7	40.495
1301	16.0	40.578
1306	20.6	40.457
1309	11.2	40.634
1310	11.6	40.618
1311	18.9	40.512
1325	5.2	40.681
1333	9.9	40.633
1334	23.9	40.465
1339	15.2	40.562
1341	6.0	40.657
1342	13.7	40.602
1354	17.3	40.543
1832	5.8	40.538
1885	2.9	40.601

第42図　SB103



番号	深さ(cm)	底面高(m)
1320	25.6	40.468
1322	31.3	40.412
1349	20.8	40.526
1357	35.2	40.318
1359	41.2	40.318
1386	33.6	40.306
1411	28.5	40.412
1416	26.2	40.431
1758	29.7	40.359
1760	21.4	40.373
1762	22.4	40.391
1766	22.5	40.393
1767	26.4	40.308
1841	24.4	40.411
1852	27.9	40.351

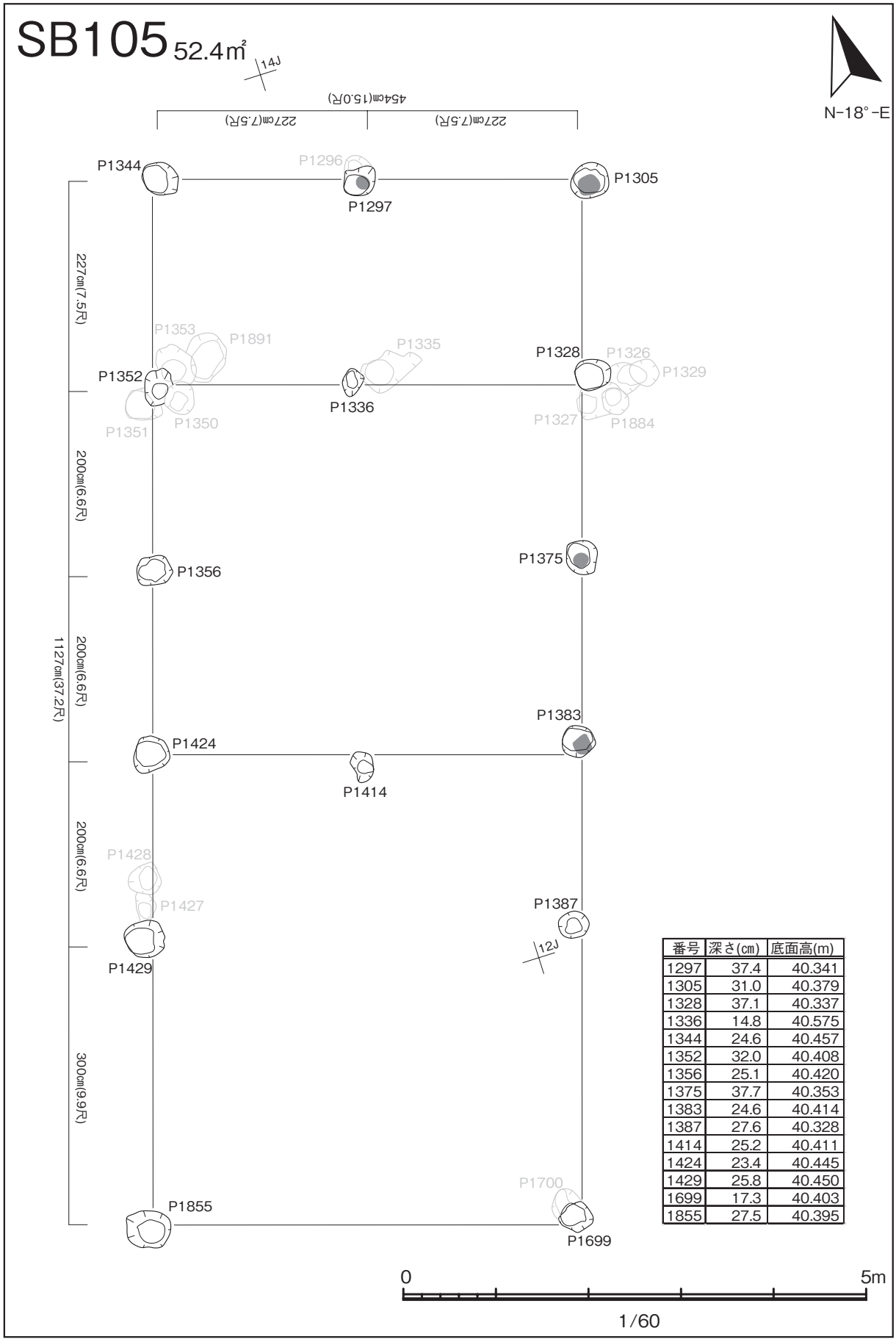
第43図　SB104

ＳＢ103　（第42図　写真図版32・33）		
位置　13Ｉ、14Ｉ、12～14Ｊ、13Ｋ	屋敷　1	使用した柱穴　20個
桁行　668.5cm（22.05尺）		梁間　482cm（15.9尺）
面積　32.0㎡（9.7坪）		軸方向　Ｎ－12°－Ｅ
柱間寸法　191cm（6.3尺）を基準とする。		
重複　ＳＩ101、ＳＢ108と重複し本建物が新しい。ＳＢ109、ＳＢ110と重複し本建物が古い。ＳＢ104、ＳＢ105、ＳＢ106、ＳＢ111と重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
Ｐ1289から瀬戸産陶器擂鉢片（473）が出土している。出土遺物の年代観から18世紀代の建物と推測する。プランが調査区外の東に延びる可能性が高い。プランが延るのであれば、近世民家の主屋に相応しい規模である。		

ＳＢ104　（第43図　写真図版34）		
位置　11Ｈ、12Ｈ、11～13Ｉ、11～13Ｊ	屋敷　2	使用した柱穴　15個
桁行　1196.5cm（39.5尺）		梁間　485cm（16.0尺）
面積　56.9㎡（17.2坪）		軸方向　Ｎ－20°－Ｅ
柱間寸法　桁242.5cm（8.0尺）と227cm（7.5尺）を多用する。		
重複　ＳＢ106、ＳＢ112と重複し本建物が新しい。ＳＢ103、ＳＢ105、ＳＢ108、ＳＢ109とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明。ＳＤ101と重複するがおそらく本建物が古い。		
大型の建物で近世民家の主屋と推測される。同規模の建物ＳＢ105、ＳＢ106とプランが重複し、主屋の建て替えと推測される。詳細な時期は時期は不詳であるが重複す建物の年代観から17世紀代から18世紀代の建物と推測される。屋敷境の溝ＳＤ101と重複するが、ＳＤ101の西側にははみ出さず、屋敷２の主屋の一つと解釈される。		

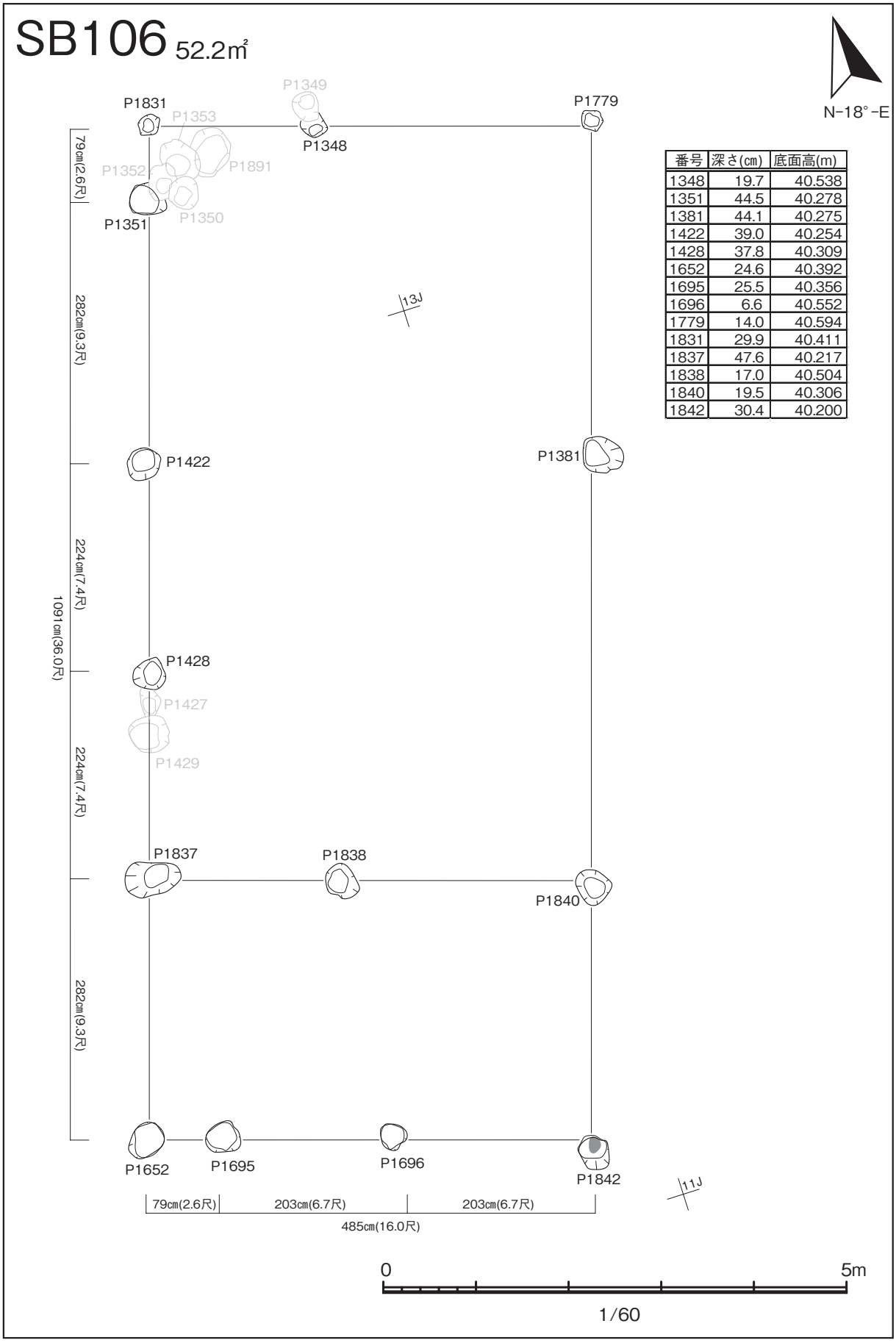
ＳＢ105　（第44図　写真図版35・38）		
位置　11～13Ｉ、11～13Ｊ	屋敷　2	使用した柱穴　15個
桁行　1127cm（37.2尺）		梁間　454cm（15.0尺）
面積　52.4㎡（15.9坪）		軸方向　Ｎ－18°－Ｅ
柱間寸法　200cm（6.6尺）と227cm（7.5尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ106、ＳＢ107、ＳＢ108と重複し本建物が新しい。ＳＢ109と重複し本建物が古い。ＳＢ103、ＳＢ104とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
Ｐ1375より18世紀代の肥前産陶器御器手碗片（404）が出土している。また、図化していないがＰ1429から18世紀代と推測される肥前産磁器瓶の小破片が出土している。出土遺物の年代観から18世紀代の建物と推測される。大規模な建物で近世民家の主屋と推測される。同規模の建物ＳＢ104、ＳＢ106とプランが重複し、主屋のどうしの建て替えと推測される。		

ＳＢ106　（第45図　写真図版35・38）		
位置　11Ｈ、11～13Ｉ、11～13Ｊ	屋敷　2	使用した柱穴　14個
桁行　1091cm（36.0尺）		梁間　485cm（16.0尺）
面積　52.2㎡（15.8坪）		軸方向　Ｎ－18°－Ｅ
柱間寸法　桁行では224cm（7.4尺）と282cm（9.3尺）を基準とする。梁間では203cm（6.7尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ104、ＳＢ105と重複し本建物が古い。ＳＢ108と重複し本建物が新しい。ＳＢ103、ＳＢ107、ＳＢ109、ＳＢ112とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
図化をしていないが、Ｐ1428より古代の土師器長胴甕小片が出土している。大型の建物で近世民家の主屋と推測される。同規模の建物ＳＢ104、ＳＢ105とプランが重複し、主屋の建て替えと推測される。ＳＢ105より古いことから17世紀代から18世紀代前半の建物と推測される。		



番号	深さ(cm)	底面高(m)
1297	37.4	40.341
1305	31.0	40.379
1328	37.1	40.337
1336	14.8	40.575
1344	24.6	40.457
1352	32.0	40.408
1356	25.1	40.420
1375	37.7	40.353
1383	24.6	40.414
1387	27.6	40.328
1414	25.2	40.411
1424	23.4	40.445
1429	25.8	40.450
1699	17.3	40.403
1855	27.5	40.395

第44図　SB105



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1348	19.7	40.538
1351	44.5	40.278
1381	44.1	40.275
1422	39.0	40.254
1428	37.8	40.309
1652	24.6	40.392
1695	25.5	40.356
1696	6.6	40.552
1779	14.0	40.594
1831	29.9	40.411
1837	47.6	40.217
1838	17.0	40.504
1840	19.5	40.306
1842	30.4	40.200

第45図　SB106

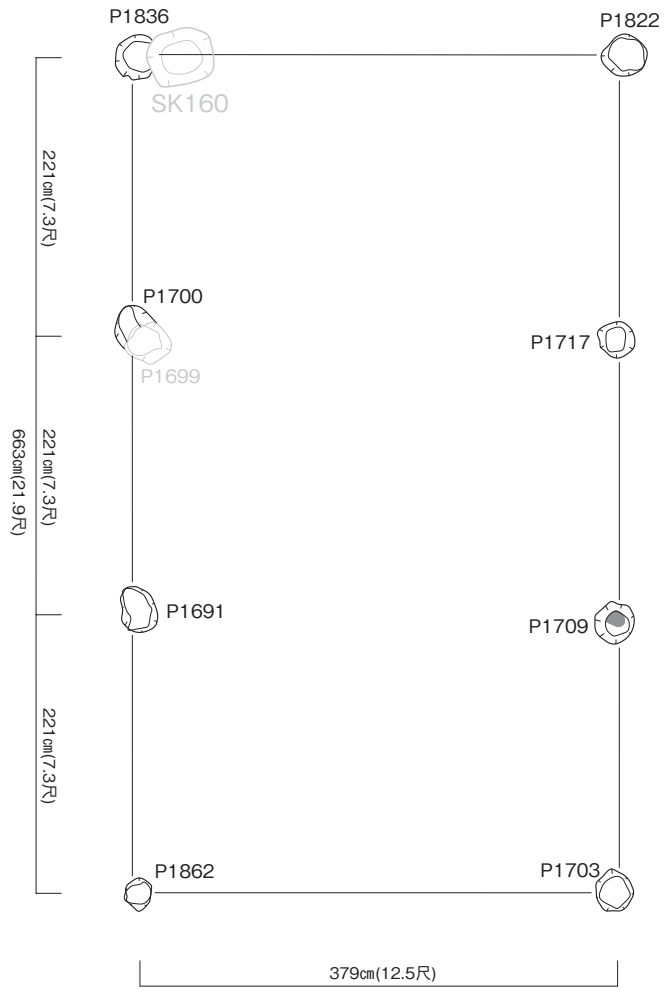
ＳＢ107　（第46図　写真図版36・38）		
位置　10Ｉ、11Ｉ、10Ｊ、11Ｊ	**屋敷**　2	**使用した柱穴**　８個
桁行　663㎝（21.9尺）		**梁間**　379㎝（12.5尺）
面積　25.7㎡（8.5坪）		**軸方向**　Ｎ－20°－Ｅ
柱間寸法　桁行では221㎝（7.3尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ105、ＳＫ151と重複し本建物が古い。ＳＢ106、ＳＢ110、ＳＢ112とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
18世紀代の建物と推測されるＳＢ105よりも古く、18世紀以前の建物と推測される。建物の規模から近世民家の附属屋と推測される。同規模の建物ＳＢ112とプランが重複し、附属屋どうしの建て替えと想定される。		

ＳＢ108　（第47図　写真図版36・38）		
位置　12Ｉ～14Ｉ、12Ｊ、13Ｊ	**屋敷**　2	**使用した柱穴**　11個
桁行　900㎝（29.7尺）		**梁間**　479㎝（15.8尺）
面積　44.6㎡（13.5坪）		**軸方向**　Ｎ－20°－Ｅ
柱間寸法　桁行では200㎝（6.6尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ103、ＳＢ105、ＳＢ106と重複し本建物が古い。ＳＢ109とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
図化していないが、Ｐ1298より17世紀後半～18世紀代前半の肥前産陶器呉器手碗が出土している。また、18世紀代の建物と推測されるＳＢ103、ＳＢ105よりも古く、18世紀前半以前の建物と想定される。おそらく17世紀後半代に納まる可能性が高い。規模はやや小さいが、近世民家の主屋の可能性も考えられる。		

ＳＢ109　（第48図　写真図版37・38）		
位置　13Ｉ、13Ｊ、14Ｉ～Ｋ、15Ｊ	**屋敷**　2	**使用した柱穴**　14個
桁行　857.5㎝（28.3尺）		**梁間**　561㎝（18.5尺）
面積　48.8㎡（14.8坪）		**軸方向**　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　200㎝（6.6尺）を多用する。		
重複　ＳＩ101、ＳＢ105、ＳＢ108と重複し本建物が新しい。ＳＢ104、ＳＢ106、ＳＢ111とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明。		
18世紀代の建物と推測されるＳＢ105より新しく、18世紀以降の建築と推測される。梁間に対して桁行が短い印象の形状であり、北側ないし南側に１～２間桁行が伸びれば、近世民家の主屋に相応しいプランとなるが、相応しい柱穴を見出すことができなかった。よって性格は不明としておく。		

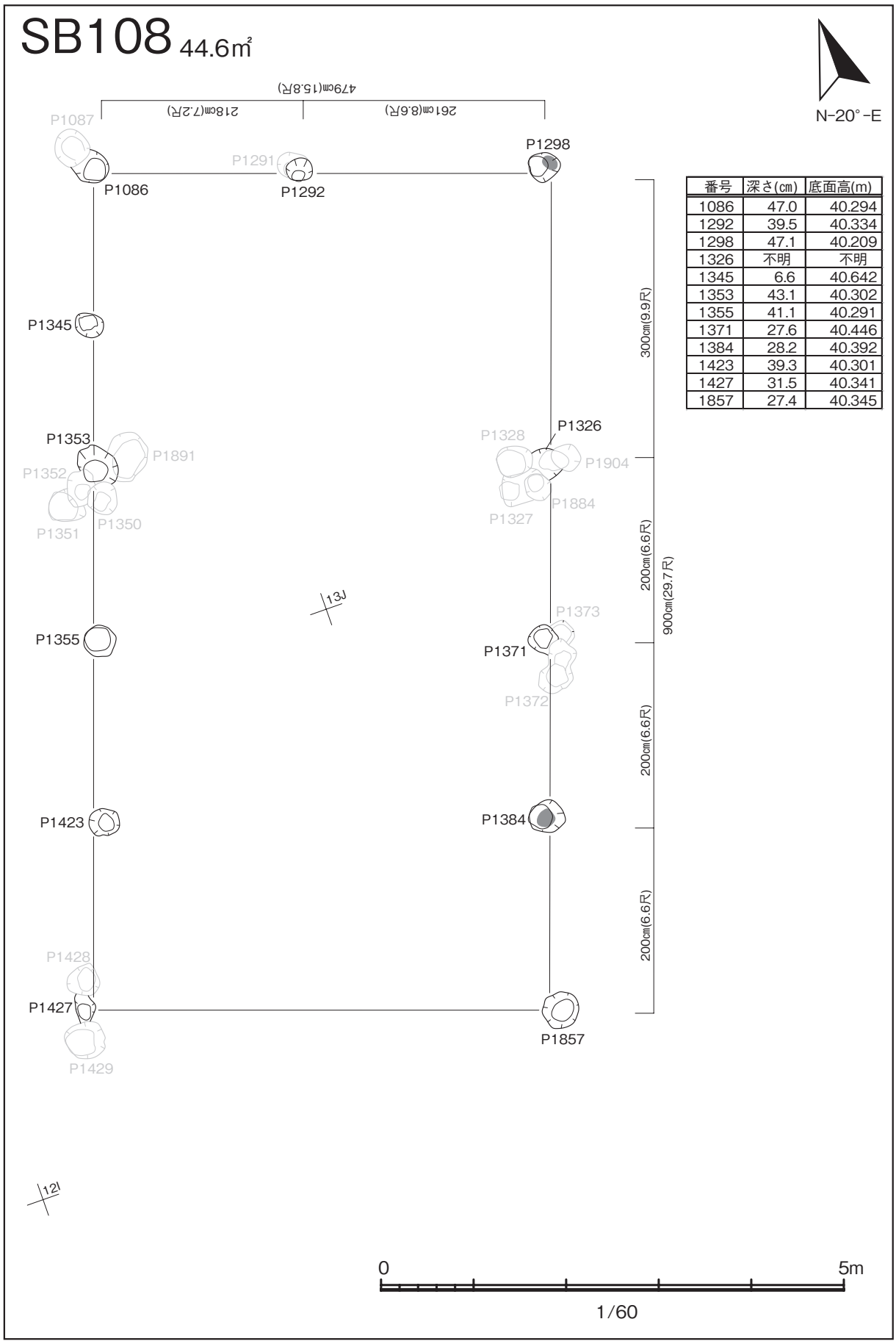
ＳＢ110　（第49図　写真図版37・38）		
位置　11Ｉ、10～13Ｊ、12Ｋ	**屋敷**　2	**使用した柱穴**　６個
桁行　1003㎝（33.1尺）		**梁間**　382㎝（12.6尺）
面積　37.5㎡（11.3坪）		**軸方向**　Ｎ－16°－Ｅ
柱間寸法　191㎝（6.3尺）と200㎝（6.6尺）を多用する。		
重複　ＳＢ103と重複し本建物が新しい。ＳＫ149と重複し本建物が古い。ＳＢ107、ＳＢ112とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明。		
18世紀代の建物と推測されるＳＢ103より新しく、18世紀以降の建物と推測される。規模から近世民家に伴う附属屋の可能性が高い。近世民家の主屋と推測されるＳＢ104、ＳＢ105、ＳＢ106との位置関係から、主屋建替え時などの臨時の建物の可能性も想像される。		

SB107 25.7㎡



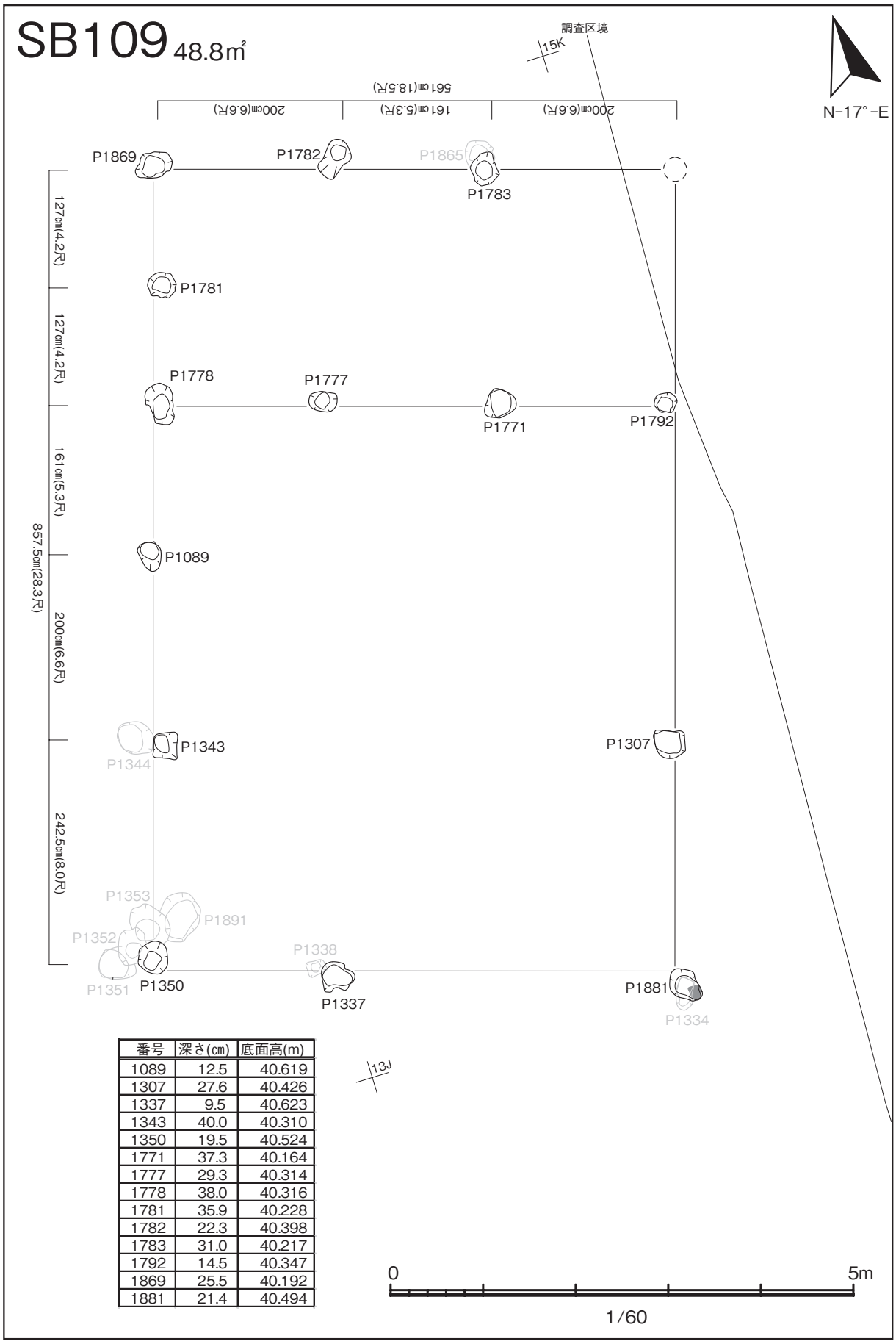
番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1691	10.1	40.485
1700	17.6	40.422
1703	20.0	40.373
1709	17.9	40.390
1717	10.7	40.488
1822	27.6	40.378
1836	18.2	40.483
1862	2.0	40.335

第46図　SB107



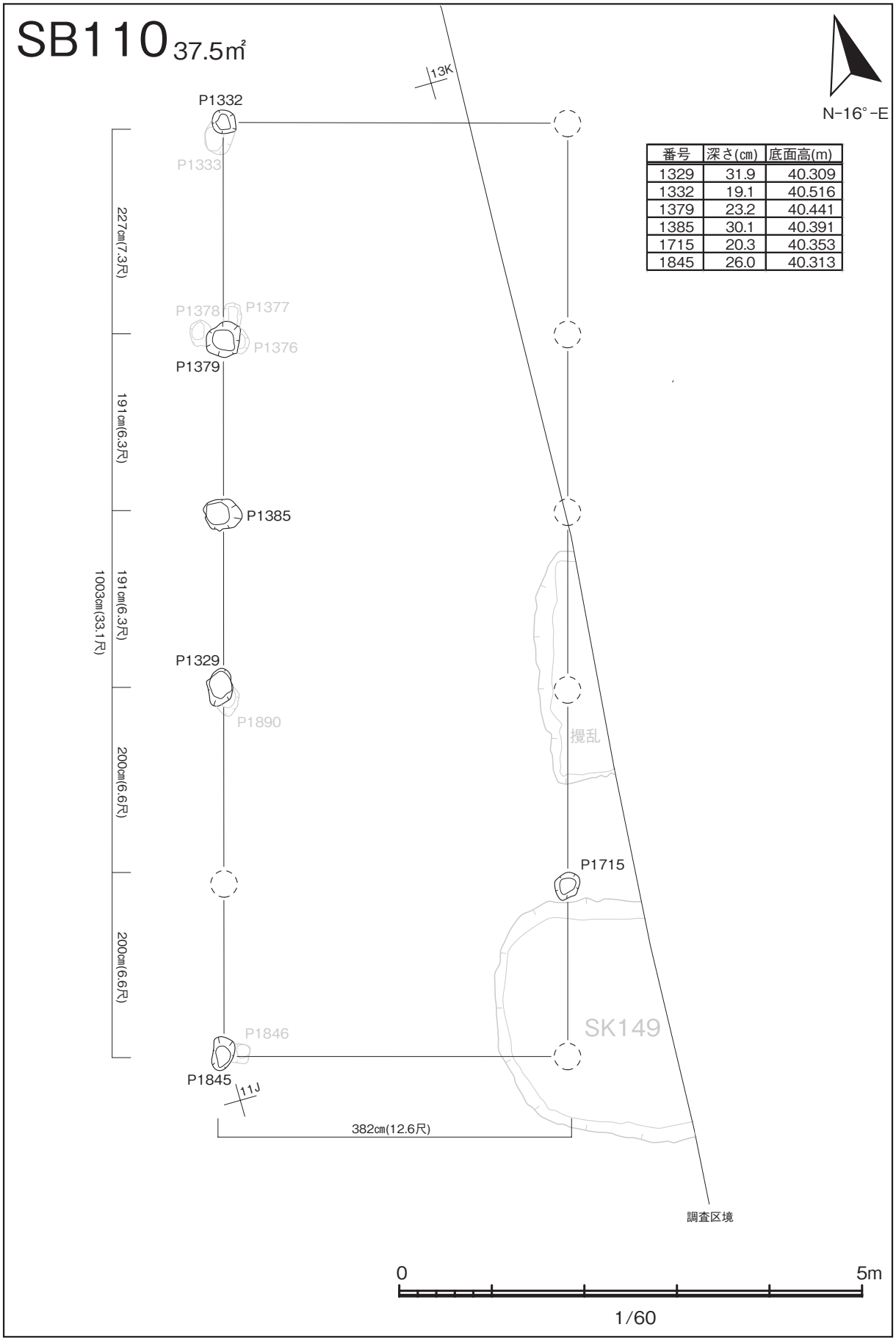
番号	深さ(cm)	底面高(m)
1086	47.0	40.294
1292	39.5	40.334
1298	47.1	40.209
1326	不明	不明
1345	6.6	40.642
1353	43.1	40.302
1355	41.1	40.291
1371	27.6	40.446
1384	28.2	40.392
1423	39.3	40.301
1427	31.5	40.341
1857	27.4	40.345

第47図　SB108



番号	深さ(cm)	底面高(m)
1089	12.5	40.619
1307	27.6	40.426
1337	9.5	40.623
1343	40.0	40.310
1350	19.5	40.524
1771	37.3	40.164
1777	29.3	40.314
1778	38.0	40.316
1781	35.9	40.228
1782	22.3	40.398
1783	31.0	40.217
1792	14.5	40.347
1869	25.5	40.192
1881	21.4	40.494

第48図　SB109



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1329	31.9	40.309
1332	19.1	40.516
1379	23.2	40.441
1385	30.1	40.391
1715	20.3	40.353
1845	26.0	40.313

第49図　SB110

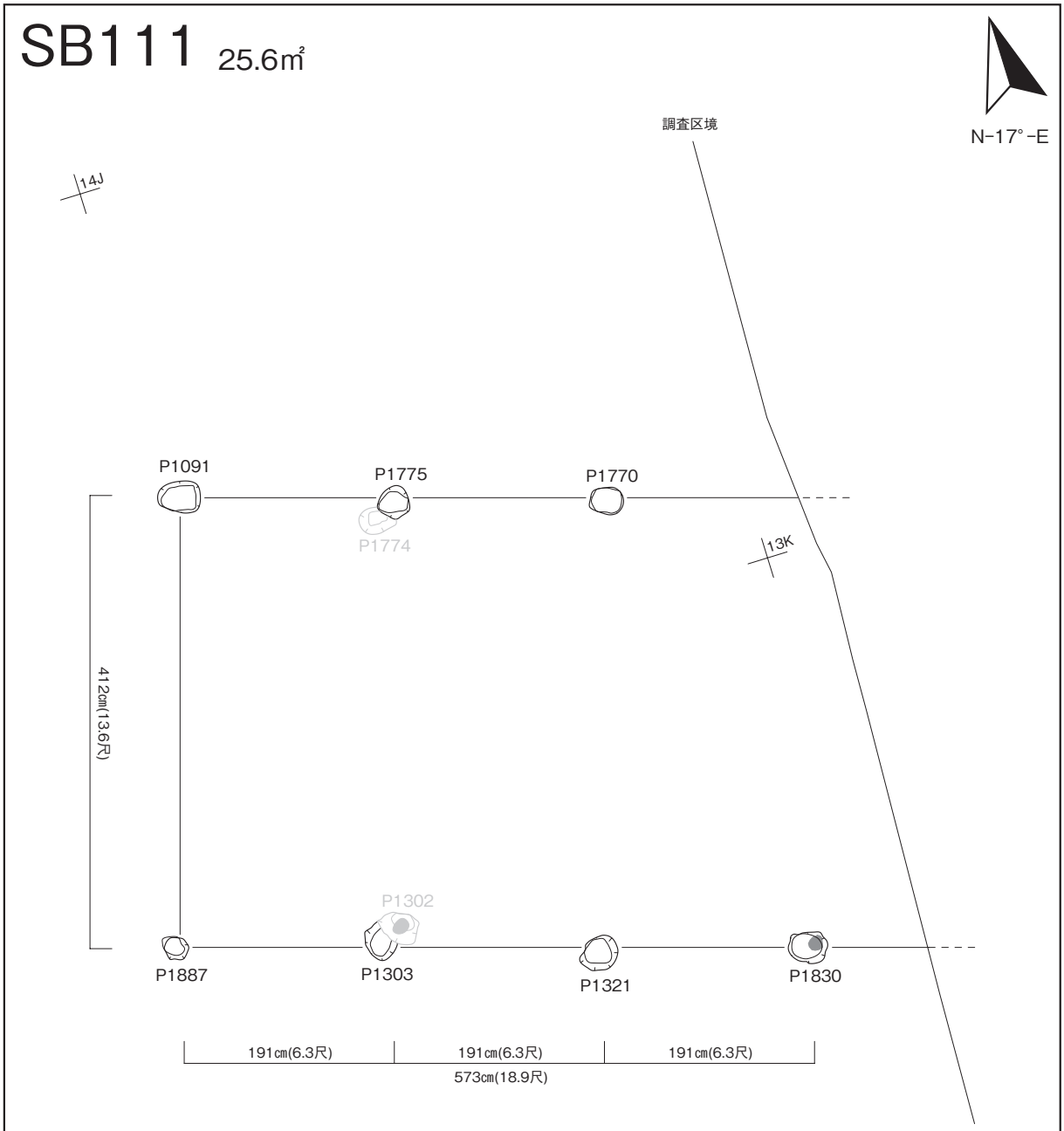
ＳＢ111　（第50図　写真図版39・40）		
位置　13Ｉ～Ｋ、14Ｉ～Ｋ	屋敷　２	使用した柱穴　７個
桁行　573㎝（18.9尺）　検出した分		梁間　412㎝（13.6尺）
面積　25.6㎡（7.8坪）　検出した分		軸方向　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　桁行では191㎝（6.3尺）を基準とする。		
重複　ＳＩ101と重複し本建物が新しい。ＳＢ103、ＳＢ105、ＳＢ108、ＳＢ109とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明。		
多くの掘立柱建物と重複するが、いずれとも柱穴のどうしの切り合いがなく、前後関係は不明であり、年代を確定することが困難である。建物の配置、軸方向からすると主屋と推測されるＳＢ106に伴う附属屋の可能性が高い。ＳＢ106は17世紀代から18世紀代前半の建物と推測され、本建物も同じ年代の可能性がある。		

ＳＢ112　（第51図　写真図版39・40）		
位置　10Ｉ、11Ｉ、10Ｊ、11Ｊ	屋敷　２	使用した柱穴　７個
桁行　674㎝（21.6尺）		梁間　330㎝（10.9尺）
面積　21.4㎡（6.5坪）		軸方向　Ｎ－19°－Ｅ
柱間寸法　236㎝（7.8尺）を多用する。		
重複　ＳＢ104、ＳＫ167と重複し本建物が古い。ＳＢ105、ＳＢ106、ＳＢ107、ＳＢ110とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
17世紀代から18世紀代の建物と推測されるＳＢ104よりも古い。建物の規模からは近世民家の附属屋と推測される。同規模の建物ＳＢ110とプランが重複し、附属屋どうしの建て替えと想定される。		

ＳＢ113　（第52図　写真図版40）		
位置　16Ｊ、17Ｊ、16Ｋ、17Ｋ	屋敷　２	使用した柱穴　５個
桁行　731㎝（24.1尺）		梁間　293㎝以上
面積　12.0㎡（3.6坪）　検出した分		軸方向　Ｎ－21°－Ｅ
柱間寸法　桁行では191㎝（6.3尺）を基準とする。		
重複　ＳＫ154と重複し本建物が古い。ＳＢ114とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
プランが調査区外に延るため確定はできないが、梁間３～４ｍ程のプランと推測する。同規模の近世の建物ＳＢ114とプランが重複するが、前後関係は不明である。ＳＢ114と本建物は連続した附属屋の建て替えと思われ、前後の近い時期の建物と想定される。		

ＳＢ114　（第53図　写真図版41）		
位置　16Ｊ、17Ｊ、16Ｋ、17Ｋ	屋敷　２	使用した柱穴　８個
桁行　668㎝（22.0尺）		梁間　327㎝（10.8尺）
面積　22.1㎡（6.7坪）		軸方向　Ｎ－20°－Ｅ
柱間寸法　桁行では194㎝（6.4尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ113とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明。ＳＤ101と重複するがおそらく本建物が古い。南東隅の柱穴Ｐ1668で石製挽臼を礎盤にしている。		
Ｐ1688に置かれた石製挽臼は近世のものであり、近世の建物である。挽臼の詳細な年代は不明であるが17～18世紀のものと推測される。建物の規模からは近世民家の附属屋と推測される。同規模の建物ＳＢ113とプランが重複し、附属屋どうしの建て替えと想定される。		

SB111 25.6㎡

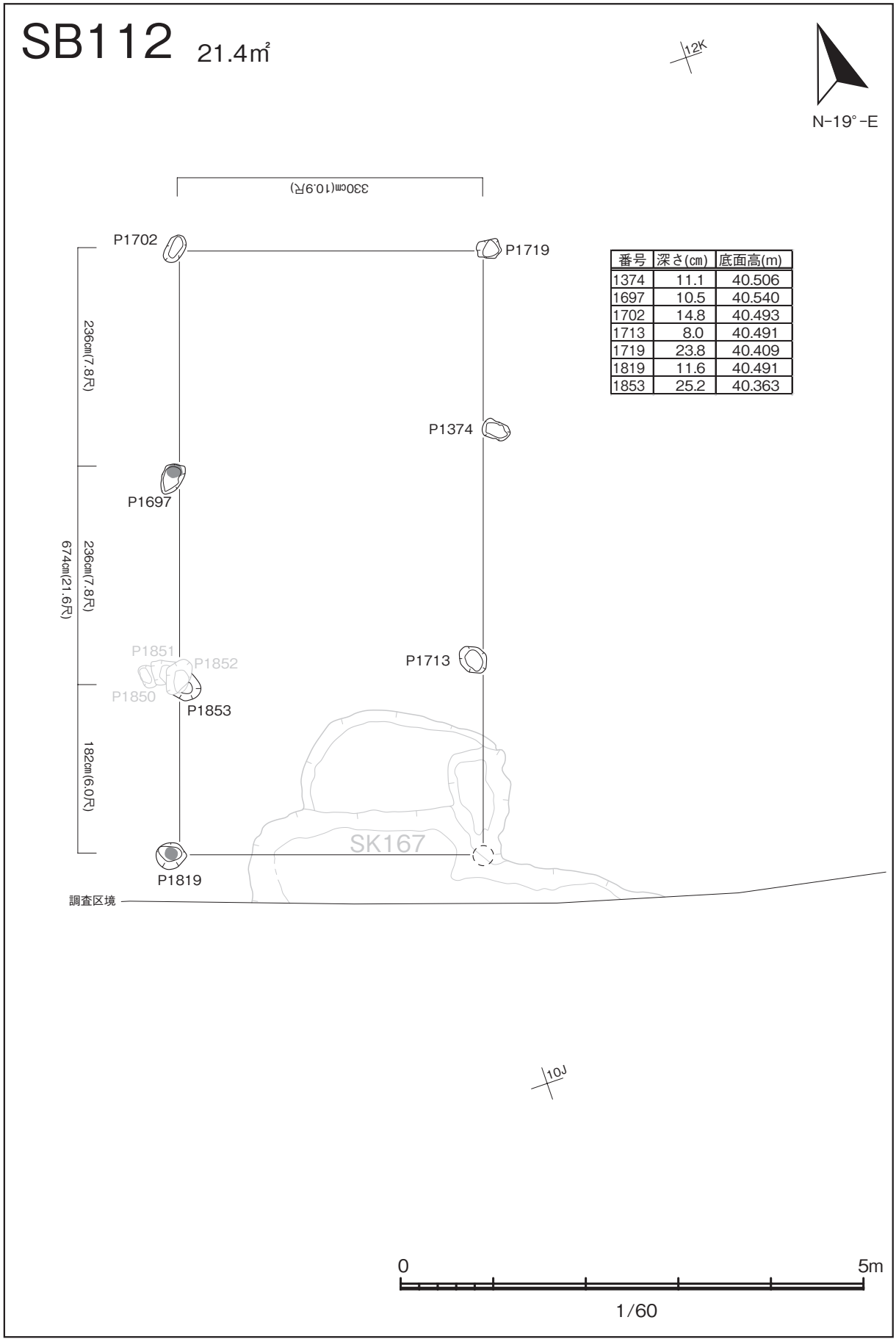


番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1091	39.7	40.309
1303	37.1	40.344
1321	36.1	40.344
1770	31.8	40.203
1775	30.4	40.298
1830	18.6	40.382
1887	41.5	40.281

0　5m

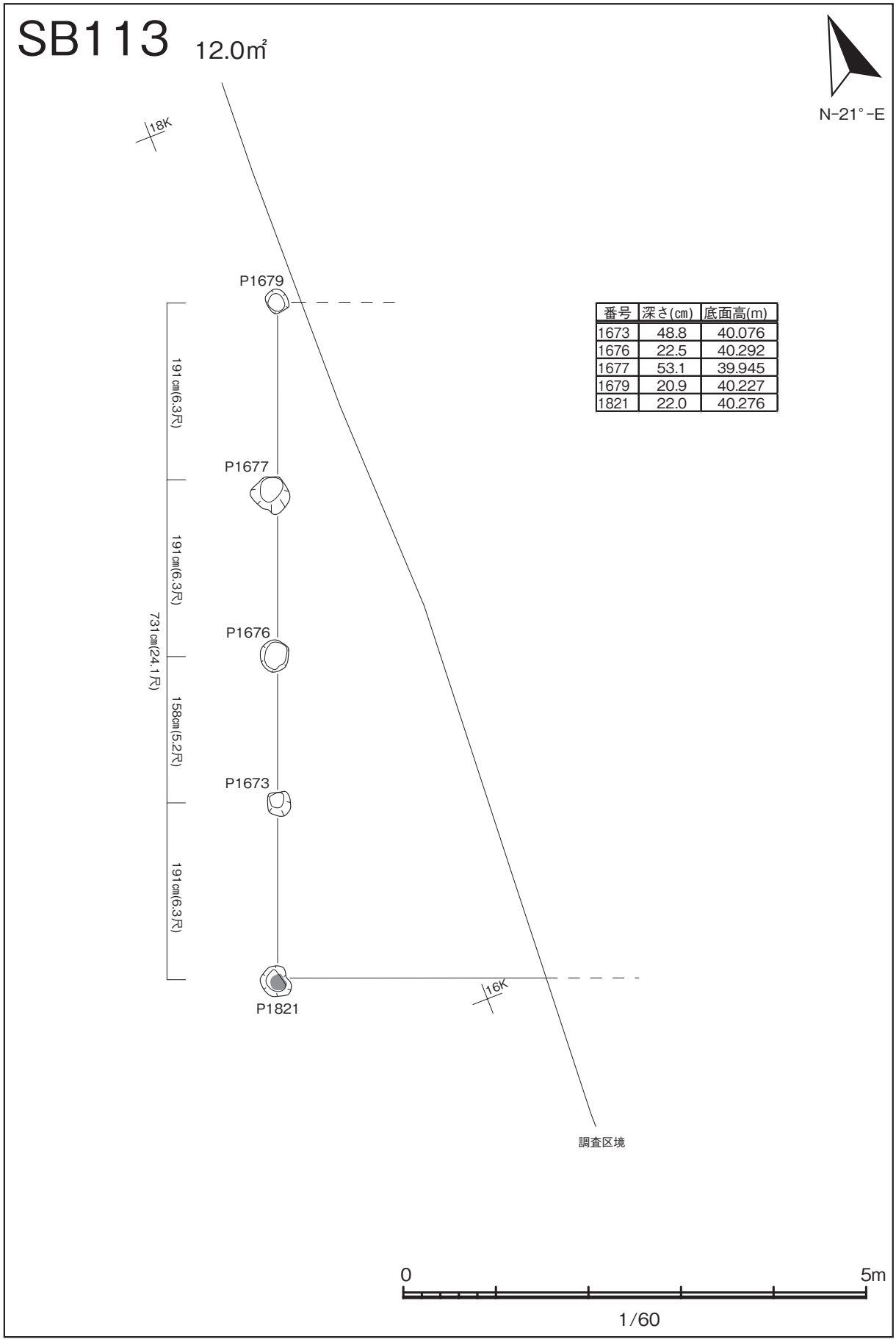
1/60

第50図　SB111



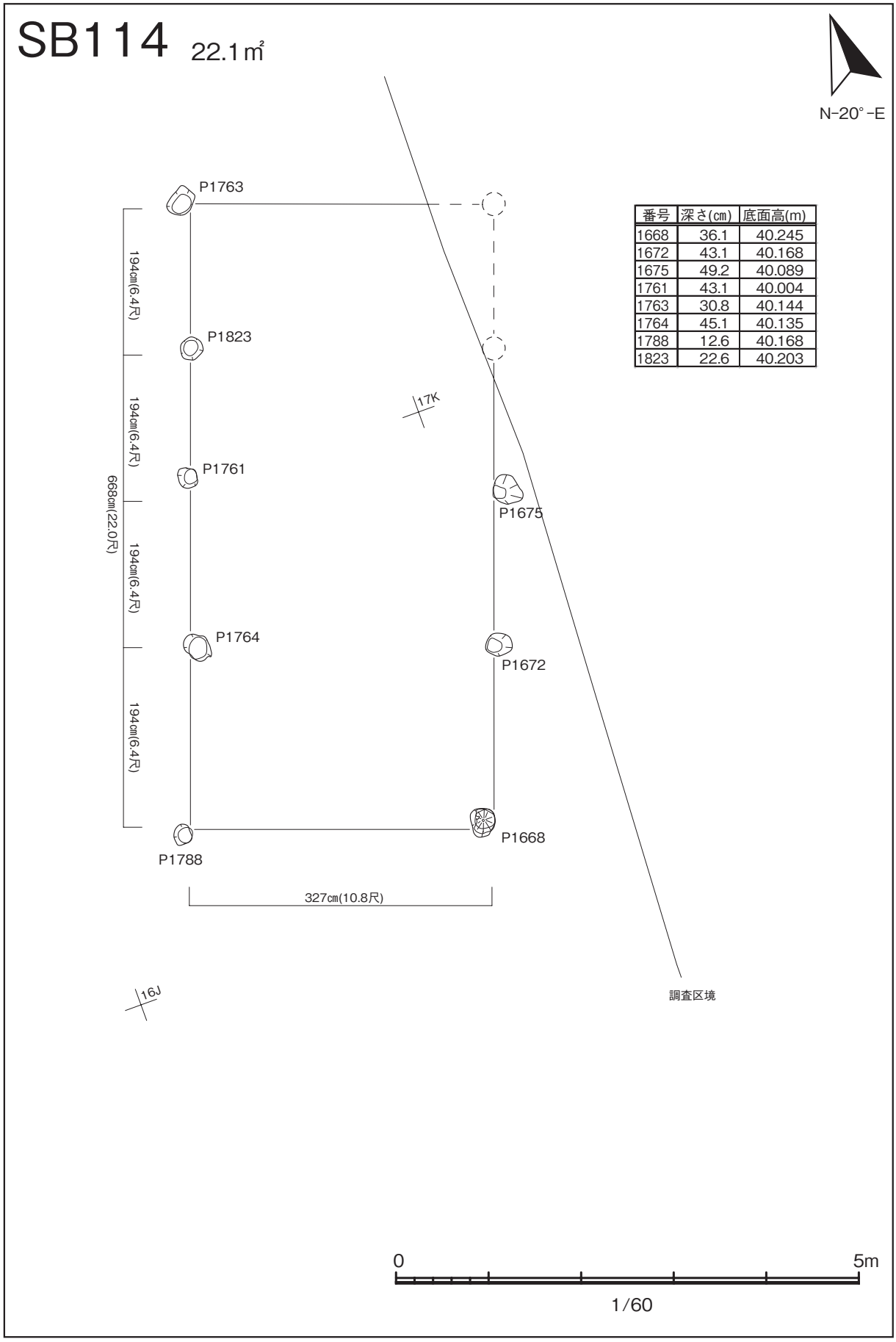
番号	深さ(cm)	底面高(m)
1374	11.1	40.506
1697	10.5	40.540
1702	14.8	40.493
1713	8.0	40.491
1719	23.8	40.409
1819	11.6	40.491
1853	25.2	40.363

第51図　SB112



番号	深さ(cm)	底面高(m)
1673	48.8	40.076
1676	22.5	40.292
1677	53.1	39.945
1679	20.9	40.227
1821	22.0	40.276

第52図　SB113



番号	深さ(cm)	底面高(m)
1668	36.1	40.245
1672	43.1	40.168
1675	49.2	40.089
1761	43.1	40.004
1763	30.8	40.144
1764	45.1	40.135
1788	12.6	40.168
1823	22.6	40.203

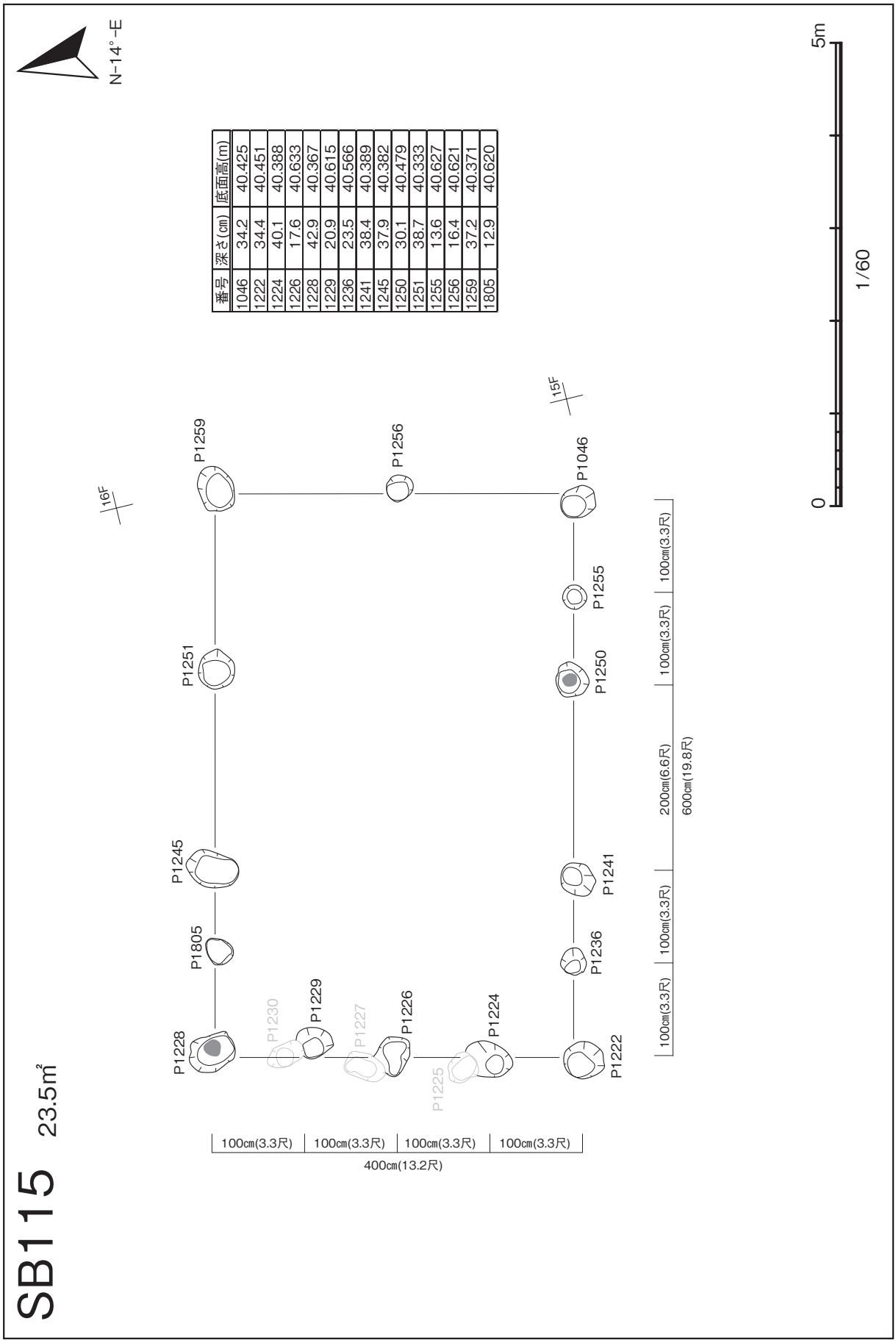
第53図　SB114

ＳＢ115　（第54図　写真図版42・43）		
位置　15Ｄ、15Ｅ、16Ｄ、16Ｅ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　15個
桁行　600cm（19.8尺）		**梁間**　400cm（13.2尺）
面積　23.5㎡（7.1坪）		**軸方向**　Ｎ－14°－Ｅ
柱間寸法　200cm（6.6尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ117と重複し本建物が古い。ＳＢ116とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
近世の建物と推測されるが、出土遺物、年代推定の鍵となる遺構との重複がなく詳細な時期は不明である。規模と配置から近世民家の附属屋と推測される。同時存在の主屋はＳＢ119、ＳＢ120、ＳＢ121のいずれかと推測される。		

ＳＢ116　（第55図　写真図版42・43）		
位置　14Ｅ、14Ｆ、15Ｄ、15Ｅ、15Ｆ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　18個
桁行　642.5cm（21.2尺）		**梁間**　381cm（12.3尺）
面積　24.6㎡（7.5坪）		**軸方向**　Ｎ－16°－Ｅ
柱間寸法　桁行では200cm（6.6尺）を多用する。梁間では127cm（4.1尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ118と重複し本建物が新しい。ＳＢ115、ＳＢ117とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
17世紀後半以降の建物と推測されるＳＢ118より新しく、それ以降の建築と理解される。規模と配置から近世民家の附属屋と推測される。同時存在の主屋はＳＢ119、ＳＢ120、ＳＢ121のいずれかと推測される。重複するＳＢ115、ＳＢ117とは附属屋どうしの建て替えと理解される。プランを二分割する形に間仕切りがなされている。		

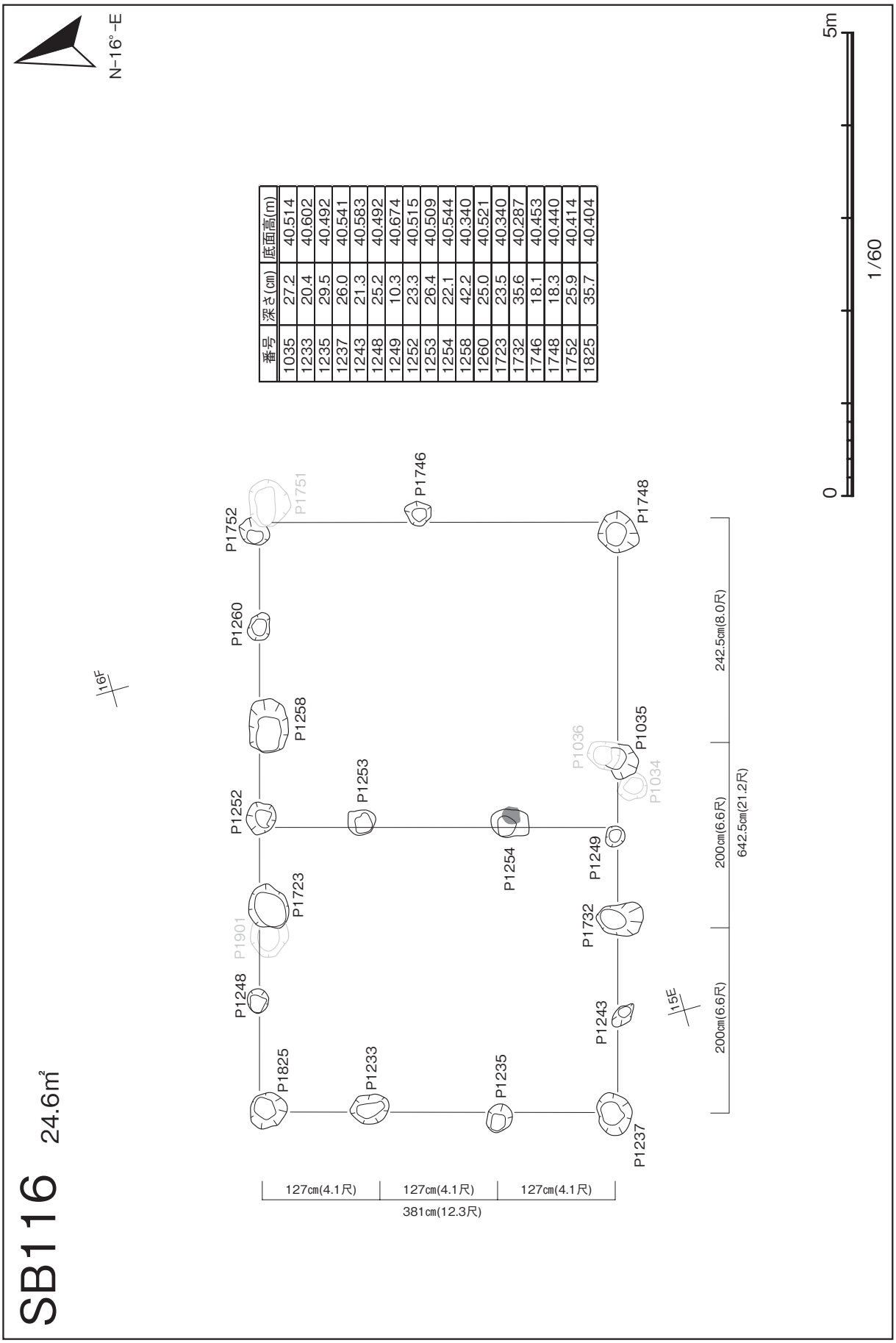
ＳＢ117　（第56図　写真図版44・45）		
位置　15Ｄ、15Ｅ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　８個
桁行　382cm（12.6尺）		**梁間**　285cm（9.4尺）
面積　10.7㎡（3.2坪）		**軸方向**　Ｎ－15°－Ｅ
柱間寸法　桁行では191cm（6.3尺）を基準とする。梁間では142.5cm（4.7尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ115、ＳＢ118と重複し本建物が新しい。ＳＢ116とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
17世紀後半以降の建物と推測されるＳＢ118より新しく、それ以降の建築と理解される。規模と配置から近世民家の附属屋と推測される。同時存在の主屋はＳＢ119、ＳＢ121のいずれかと推測される。重複するＳＢ115、ＳＢ116とは附属屋どうしの建て替えと理解される。ＳＢ115、ＳＢ116より規模が小さいが、プランが東側に広がる根拠を見出せなかった。		

ＳＢ118　（第57図　写真図版44・45）		
位置　13Ｄ、14、13～15Ｅ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　10個
桁行　727cm（24.0尺）		**梁間**　424cm（14.0尺）
面積　30.0㎡（9.1坪）		**軸方向**　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　212cm（7.0尺）を基準とする。		
重複　ＳＩ103と重複し本建物が新しい。ＳＢ116、ＳＢ117と重複し本建物が古い。ＳＢ119、ＳＢ120、ＳＢ121、ＳＢ122とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
微細片であり図化不能であるが、Ｐ1025より17世紀後半代の肥前産磁器皿が出土しており、17世紀後半以降の建物と推測される。建物規模が主屋とするにはやや小規模であり、建物の性格は不明である。近世民家の主屋と推測されるＳＢ119、ＳＢ120、ＳＢ121とプランが重複し、主屋の建て替え順を乱しており、建替え時の臨時的な建物の可能性も考えられる。		



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1046	34.2	40.425
1222	34.4	40.451
1224	40.1	40.388
1226	17.6	40.633
1228	42.9	40.367
1229	20.9	40.615
1236	23.5	40.566
1241	38.4	40.389
1245	37.9	40.382
1250	30.1	40.479
1251	38.7	40.333
1255	13.6	40.627
1256	16.4	40.621
1259	37.2	40.371
1805	12.9	40.620

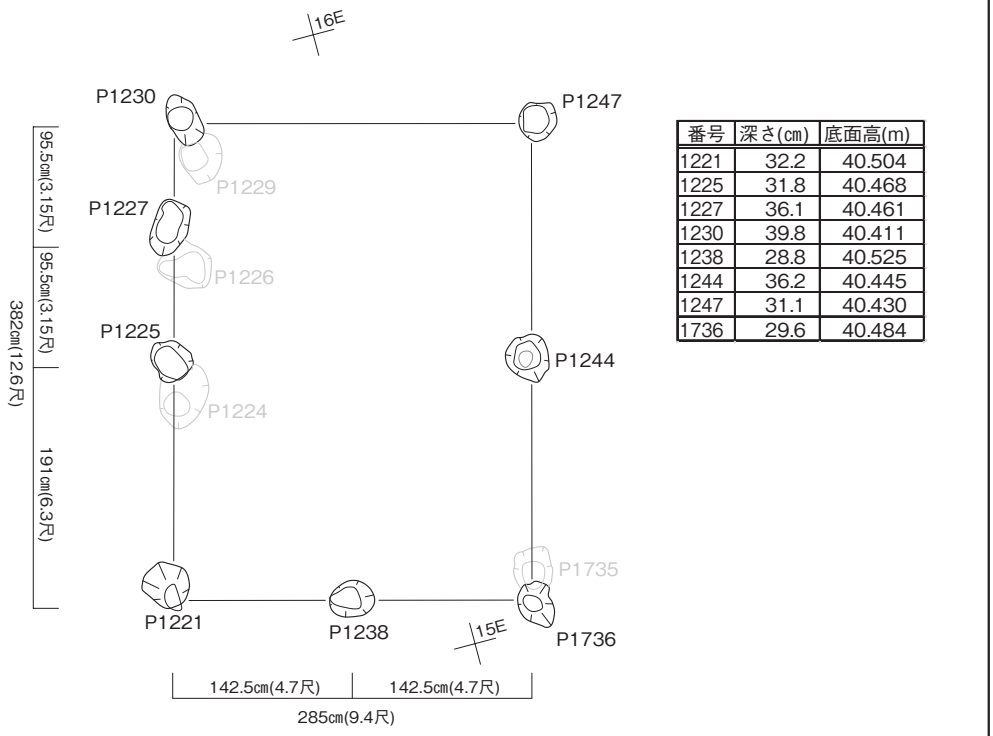
第54図　SB115



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1035	27.2	40.514
1233	20.4	40.602
1235	29.5	40.492
1237	26.0	40.541
1243	21.3	40.583
1248	25.2	40.492
1249	10.3	40.674
1252	23.3	40.515
1253	26.4	40.509
1254	22.1	40.544
1258	42.2	40.340
1260	25.0	40.521
1723	23.5	40.340
1732	35.6	40.287
1746	18.1	40.453
1748	18.3	40.440
1752	25.9	40.414
1825	35.7	40.404

第55図　SB116

SB117 10.7㎡

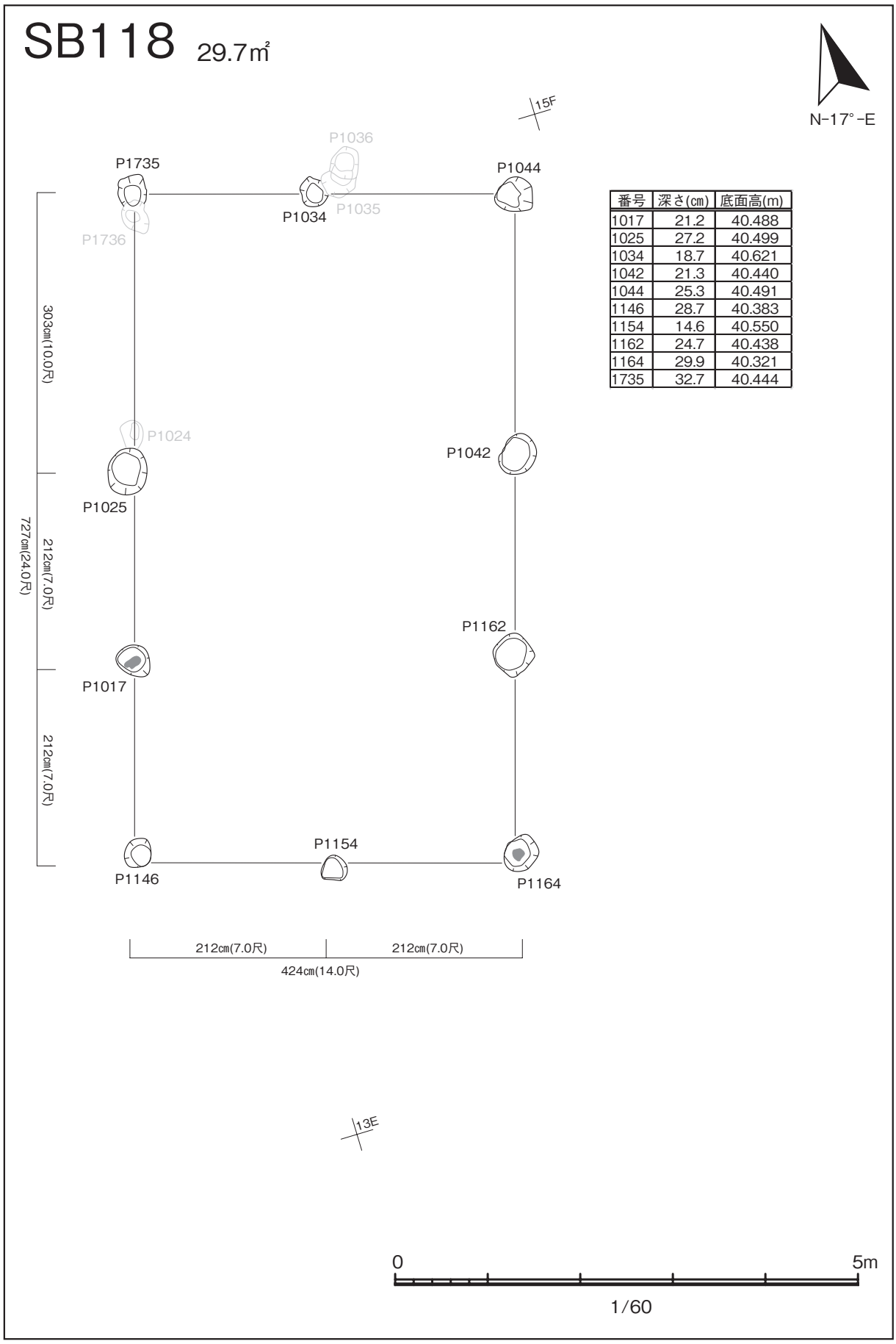


番号	深さ(cm)	底面高(m)
1221	32.2	40.504
1225	31.8	40.468
1227	36.1	40.461
1230	39.8	40.411
1238	28.8	40.525
1244	36.2	40.445
1247	31.1	40.430
1736	29.6	40.484

0　5m

1/60

第56図　SB117



番号	深さ(cm)	底面高(m)
1017	21.2	40.488
1025	27.2	40.499
1034	18.7	40.621
1042	21.3	40.440
1044	25.3	40.491
1146	28.7	40.383
1154	14.6	40.550
1162	24.7	40.438
1164	29.9	40.321
1735	32.7	40.444

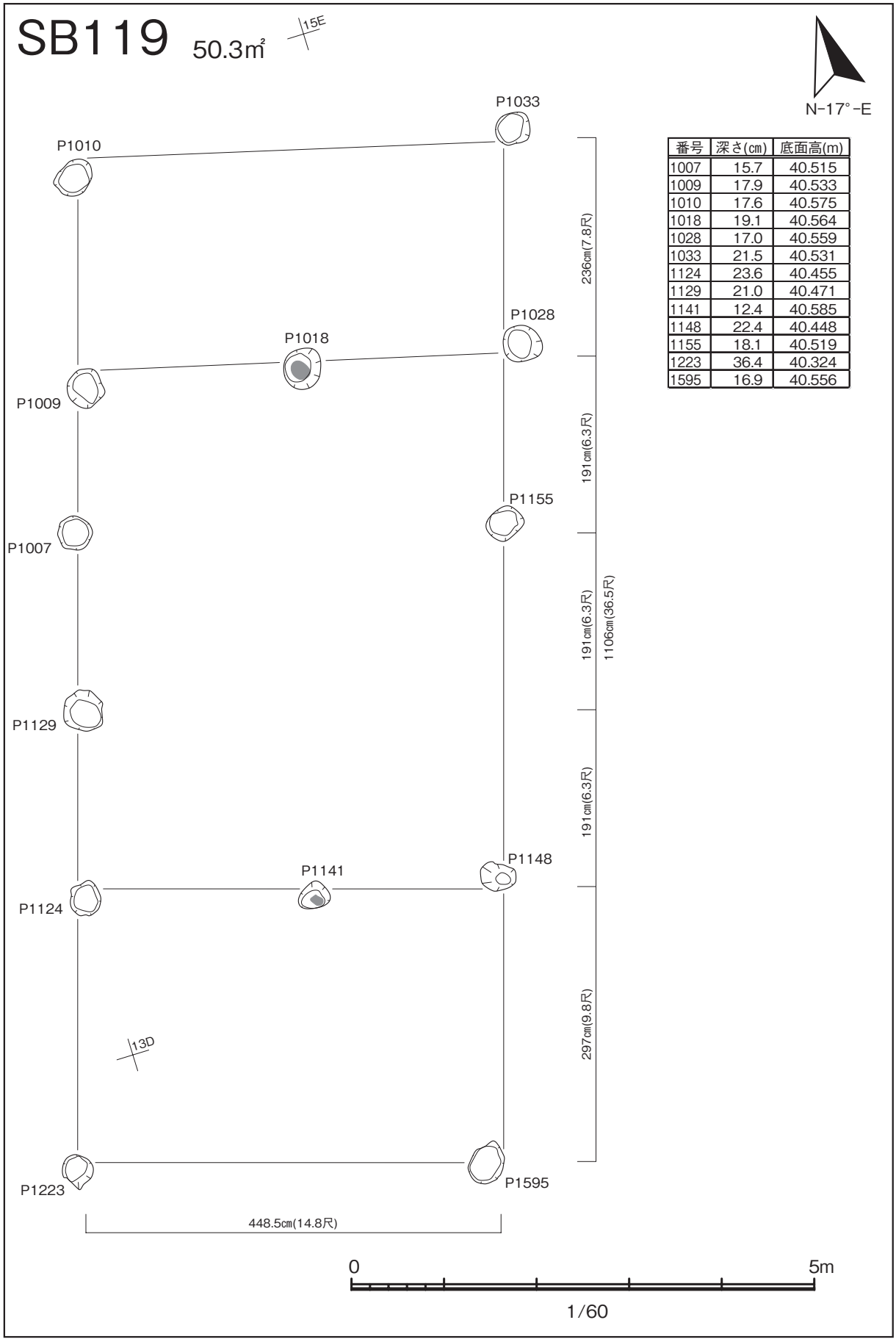
第57図　SB118

ＳＢ119　（第58図　写真図版46）		
位置　12Ｃ、12Ｄ、13Ｃ～Ｅ、14Ｄ、Ｅ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　13個
桁行　1106cm（36.5尺）		**梁間**　448.5cm（14.8尺）
面積　50.3㎡（15.2坪）		**軸方向**　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　桁行では191cm（6.3尺）を多用する。		
重複　ＳＢ118、ＳＢ120、ＳＢ121、ＳＢ122とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明。		
北西隅の柱穴Ｐ1010と北東隅の柱穴Ｐ1033と位置関係が不整であるが、他に当てはまる柱穴が存在せず、このプランを提示する。Ｐ1010から微細な鉄片（釘？図化不能）が出土しているが、時代を想定する出土遺物に欠ける。重複するＳＢ120、121の年代観から、18世紀代以降の建物である可能性が高い。規模から判断すると近世民家の主屋と考えられる。ＳＢ120、ＳＢ121との重複は主屋の連続した建替えと想定される。		

ＳＢ120　（第59図　写真図版47）		
位置　12～15Ｄ、12～15Ｅ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　15個
桁行　1266.5cm（41.8尺）		**梁間**　468cm（15.45尺）
面積　58.9㎡（17.8坪）		**軸方向**　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　桁行では191cm（6.3尺）と156cm（5.15尺）を多用する。梁間では156cm（5.15尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ121と重複し本建物が古い。ＳＢ117、ＳＢ118、ＳＢ119、ＳＢ122とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明。		
17世紀後半以降と推測されるＳＢ121よりも古く、17世紀中葉～後半頃の建物と想定したい。規模から判断すると近世民家の主屋と考えられる。本建物と同規模の建物ＳＢ119、ＳＢ121と重複しており、主屋の連続した建替えと想定される。		

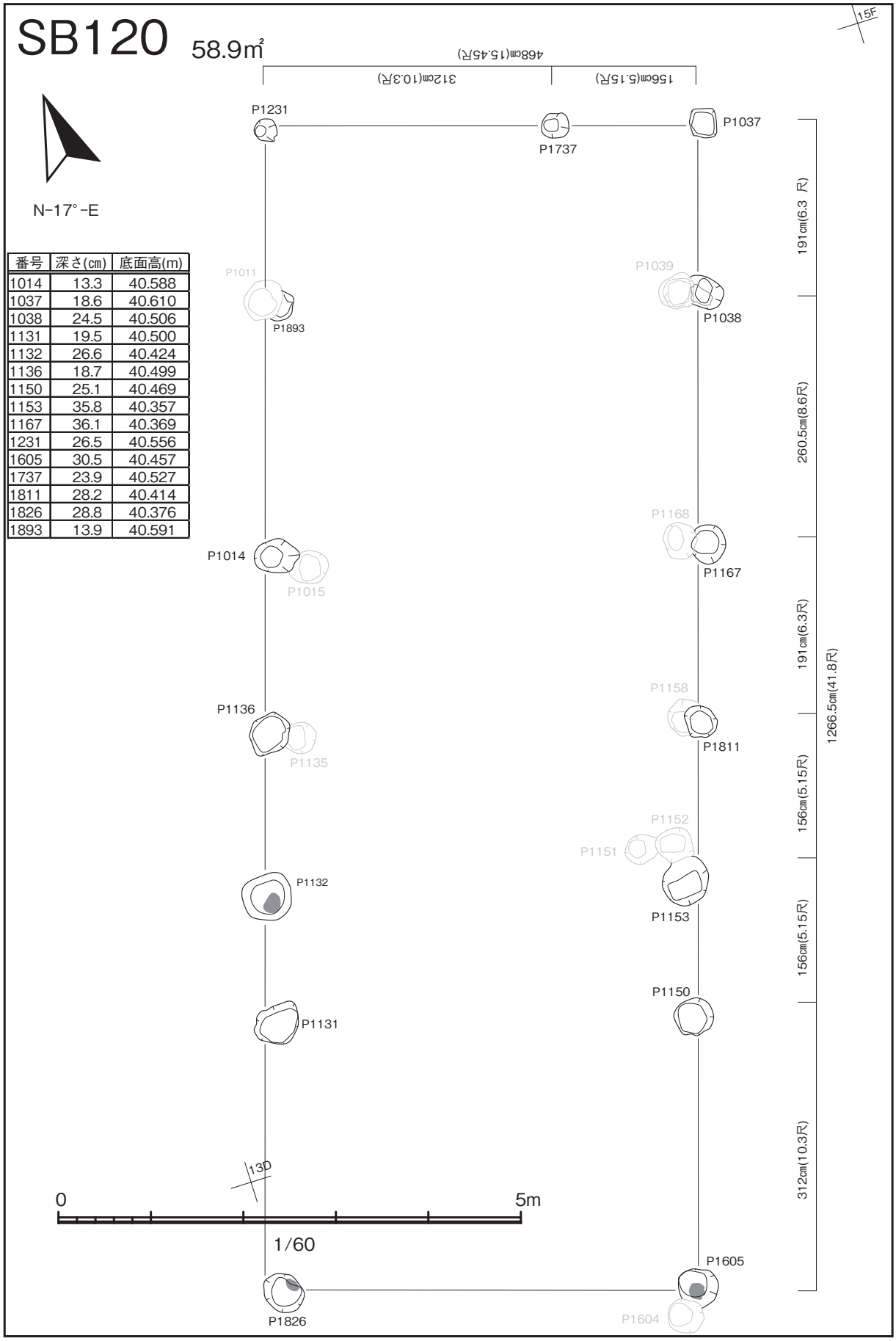
ＳＢ121　（第60図　写真図版48・49）		
位置　12Ｃ～Ｅ、13Ｄ、13Ｅ、14Ｄ、14Ｅ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　21個
桁行　1135.5cm（37.5尺）		**梁間**　516cm（17.0尺）
面積　59.2㎡（17.9坪）		**軸方向**　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　桁行では76cm（2.5尺）の倍数を基準寸法とする。梁間でも76cm（2.5尺）が使用される部分がある。		
重複　ＳＢ120と重複し本建物が新しい。ＳＢ118、ＳＢ119、ＳＢ122とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
Ｐ1596より17世紀後半代と推測される肥前産磁器皿の微細片（図化）不能が出土しており、17世紀後半以降の建物と推測される。規模から判断すると近世民家の主屋と考えられる。本建物と同規模の建物ＳＢ119、ＳＢ120と重複しており、主屋の連続した建替えと想定される。		

ＳＢ122　（第61図　写真図版48・51）		
位置　12～14Ｄ、12～14Ｅ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　８個
桁行　636.5cm（21.0尺）		**梁間**　400cm（13.2尺）
面積　25.4㎡（7.7坪）		**軸方向**　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　桁行では191cm（6.3尺）を多用する。梁間では200cm（6.6尺）を基準とする。		
重複　ＳＩ103と重複し本建物が新しい。ＳＢ118、ＳＢ119、ＳＢ120、ＳＢ121とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明。		
近世の建物と推測されるが、出土遺物、年代推定の鍵となる遺構との重複がなく詳細な時期は不明である。建物規模が主屋とするにはやや小規模であり、建物の性格は不明である。近世民家の主屋と推測されるＳＢ119、ＳＢ120、ＳＢ121とプランが重複し、主屋の建て替え順を乱しており、建替え時の臨時的な建物の可能性も考えられる。		



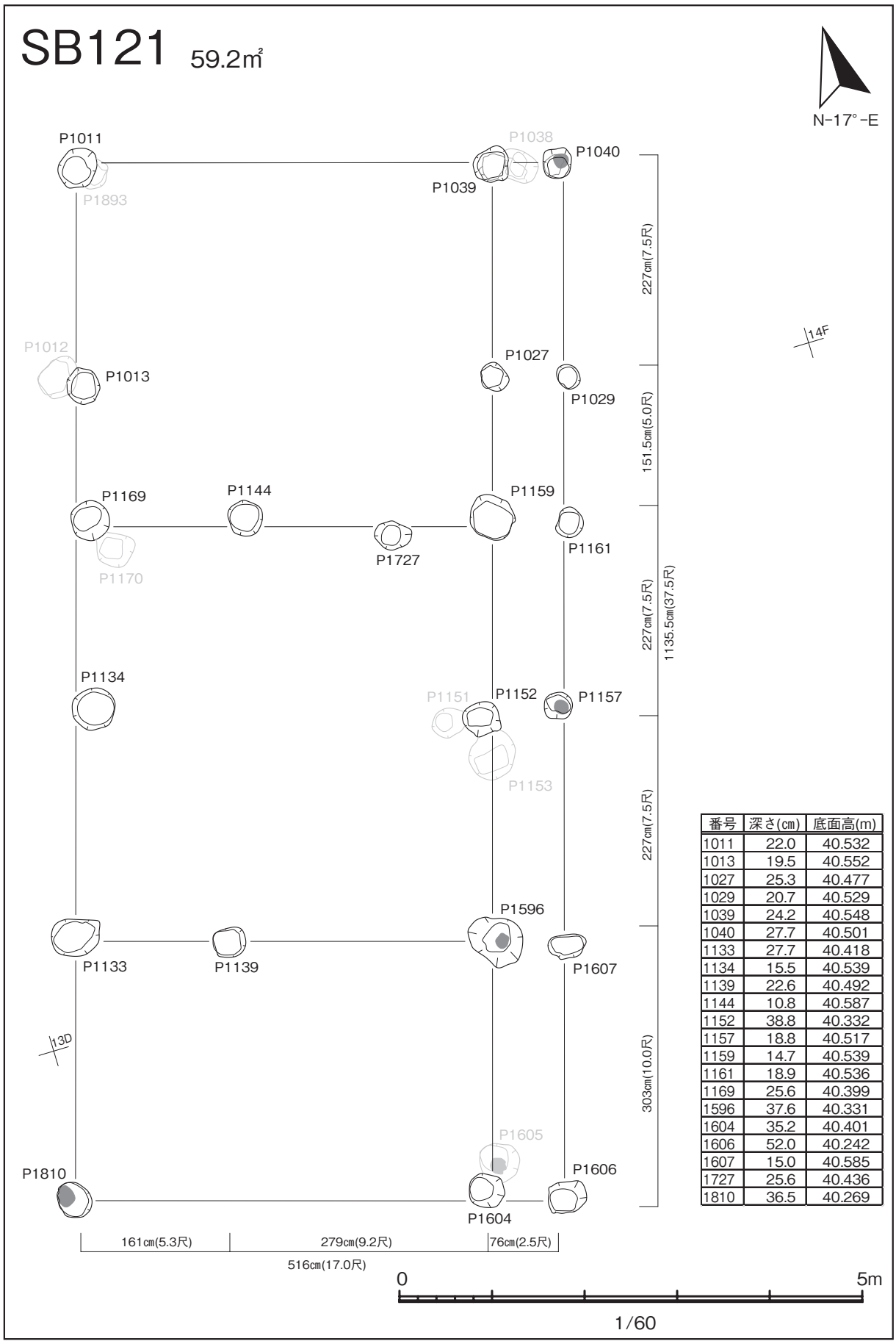
番号	深さ(cm)	底面高(m)
1007	15.7	40.515
1009	17.9	40.533
1010	17.6	40.575
1018	19.1	40.564
1028	17.0	40.559
1033	21.5	40.531
1124	23.6	40.455
1129	21.0	40.471
1141	12.4	40.585
1148	22.4	40.448
1155	18.1	40.519
1223	36.4	40.324
1595	16.9	40.556

第58図　SB119



番号	深さ(cm)	底面高(m)
1014	13.3	40.588
1037	18.6	40.610
1038	24.5	40.506
1131	19.5	40.500
1132	26.6	40.424
1136	18.7	40.499
1150	25.1	40.469
1153	35.8	40.357
1167	36.1	40.369
1231	26.5	40.556
1605	30.5	40.457
1737	23.9	40.527
1811	28.2	40.414
1826	28.8	40.376
1893	13.9	40.591

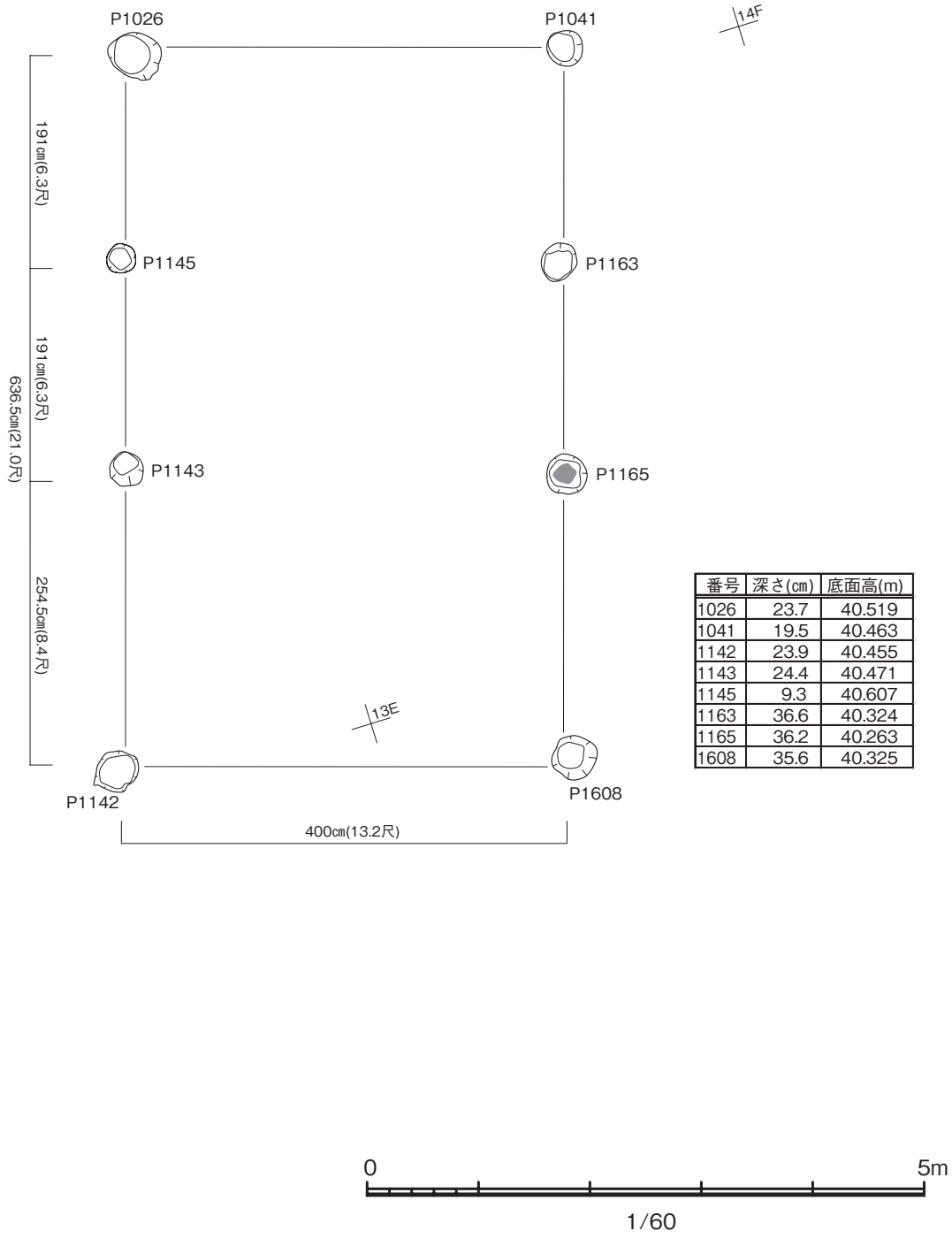
第59図　SB120



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1011	22.0	40.532
1013	19.5	40.552
1027	25.3	40.477
1029	20.7	40.529
1039	24.2	40.548
1040	27.7	40.501
1133	27.7	40.418
1134	15.5	40.539
1139	22.6	40.492
1144	10.8	40.587
1152	38.8	40.332
1157	18.8	40.517
1159	14.7	40.539
1161	18.9	40.536
1169	25.6	40.399
1596	37.6	40.331
1604	35.2	40.401
1606	52.0	40.242
1607	15.0	40.585
1727	25.6	40.436
1810	36.5	40.269

第60図　SB121

SB122　25.4㎡



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1026	23.7	40.519
1041	19.5	40.463
1142	23.9	40.455
1143	24.4	40.471
1145	9.3	40.607
1163	36.6	40.324
1165	36.2	40.263
1608	35.6	40.325

第61図　SB122

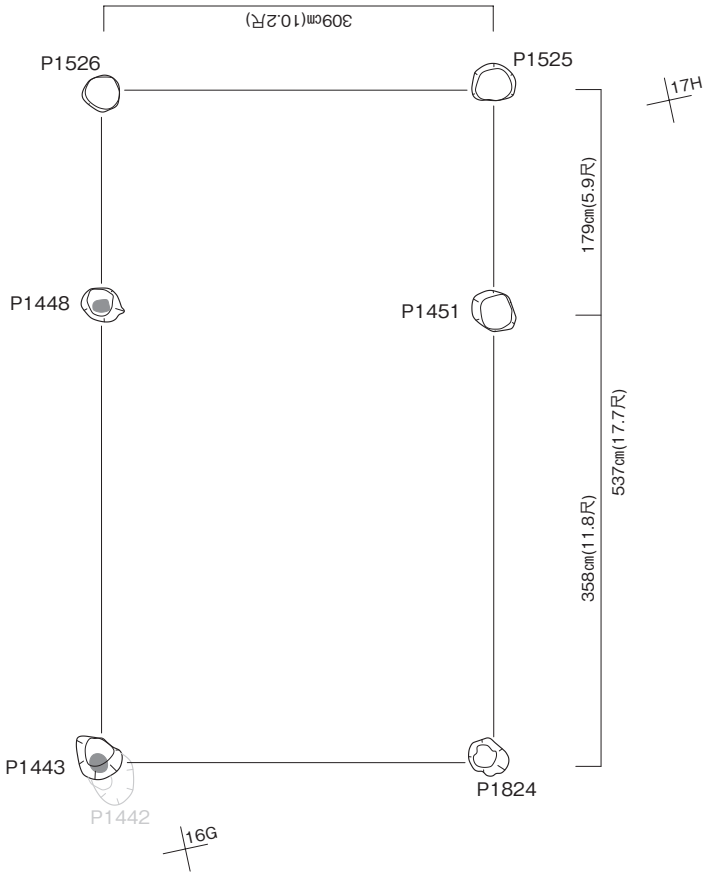
ＳＢ123　（第62図　写真図版50・51）		
位置　16Ｆ、16Ｇ、17Ｇ	屋敷　1	使用した柱穴　6個
桁行　537cm（11.7尺）		梁間　309cm（10.2尺）
面積　16.6㎡（5.0坪）		軸方向　Ｎ－12°－Ｅ
柱間寸法　桁行では179cm（5.9尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ124と重複し本建物が新しい。		
近世の建物と推測されるが、出土遺物、年代推定の鍵となる遺構との重複がなく詳細な時期は不明である。建物の性格は主屋との位置関係も見いだせず不明である。何らかの臨時的な建物の可能性も考えられる。		

ＳＢ124　（第63図　写真図版50・51）		
位置　16Ｆ、16Ｇ	屋敷　1	使用した柱穴　6個
桁行　291cm（9.6尺）		梁間　176cm（5.8尺）
面積　5.0㎡（1.5坪）		軸方向　Ｎ－27°－Ｅ
柱間寸法　桁行では145.5cm（4.8尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ123と重複し本建物が古い。		
近世の建物と推測されるが、出土遺物、年代推定の鍵となる遺構との重複がなく詳細な時期は不明である。主屋との位置関係も見いだせず、また非常に規模が小さく、建物の性格は不明である。何らかの臨時的な建物の可能性も考えられる。		

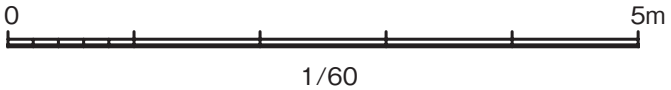
ＳＢ125　（第64図　写真図版52・53）		
位置　12Ｆ、13Ｆ、12Ｇ、13Ｇ	屋敷　1	使用した柱穴　14個
桁行　866cm（28.6尺）		梁間　454cm（15.0尺）
面積　39.4㎡（11.9坪）		軸方向　Ｎ－８°－Ｅ
柱間寸法　桁行では197cm（6.5尺）と118cm（3.9尺）を基準とする。梁間では227cm（7.5尺）を基準とする。		
重複　ＳＫ126と重複し本建物が古い。ＳＢ126とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
鍵となる遺構との重複がなく、建築年代は不明である。一応、近世（17～18世紀）の建物と想定するが、客観的な根拠はない。中世の建物である可能性も皆無ではない。また、建物の性格も不明である。		

ＳＢ126　（第65図　写真図版52・53）		
位置　12Ｇ、13Ｇ、12Ｈ、13Ｈ	屋敷　1	使用した柱穴　8個
桁行　461cm（15.2尺）		梁間　339cm（11.2尺）
面積　15.5㎡（4.7坪）		軸方向　Ｎ－15°－Ｅ
柱間寸法　桁行では173cm（5.7尺）を多用する。		
重複　ＳＢ125とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。ＳＫ135、ＳＫ136とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
プラン内に厩のくぼみと推測されるＳＫ135が納まり、厩の建物の可能性がある。ＳＫ135の廃絶は出土遺物から近代以降であり、本建物の年代も近世末から近代の可能性がある。伴う掘立柱建物の主屋は見当たらないが、痕跡の残っていない礎石建物の主屋に伴っていた可能性が想定される。		

SB123　16.6㎡

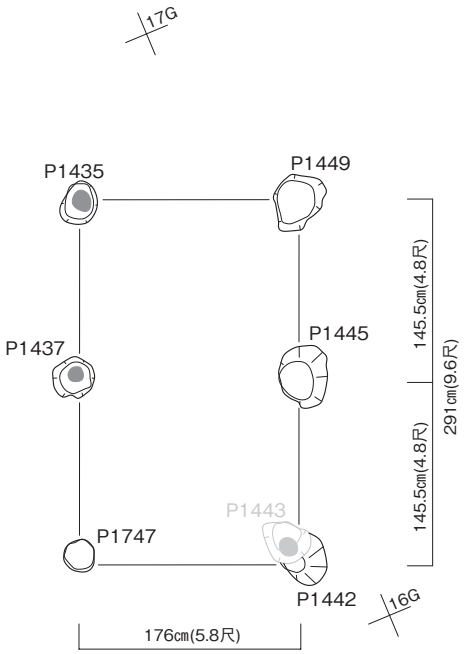


番号	深さ(cm)	底面高(m)
1443	36.9	40.376
1448	22.0	40.471
1451	8.3	40.501
1525	23.0	40.377
1526	27.2	40.411
1824	15.3	40.513

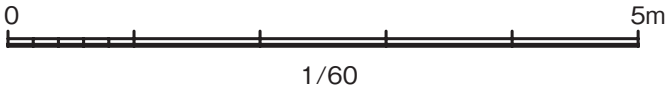


第62図　SB123

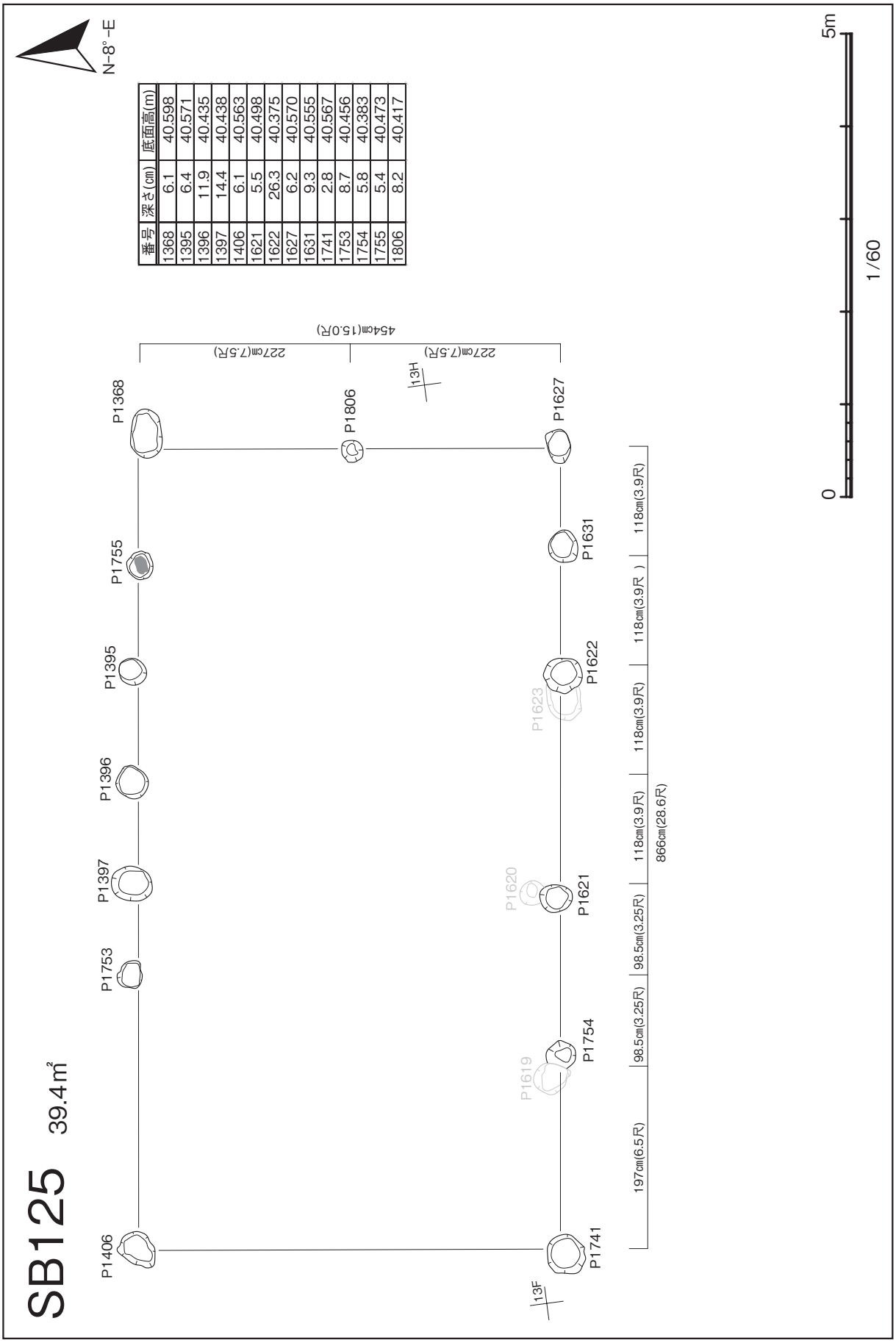
SB124　5.0㎡



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1435	25.0	40.480
1437	29.4	40.495
1442	32.9	40.392
1445	42.4	40.320
1449	21.9	40.434
1747	7.7	40.433



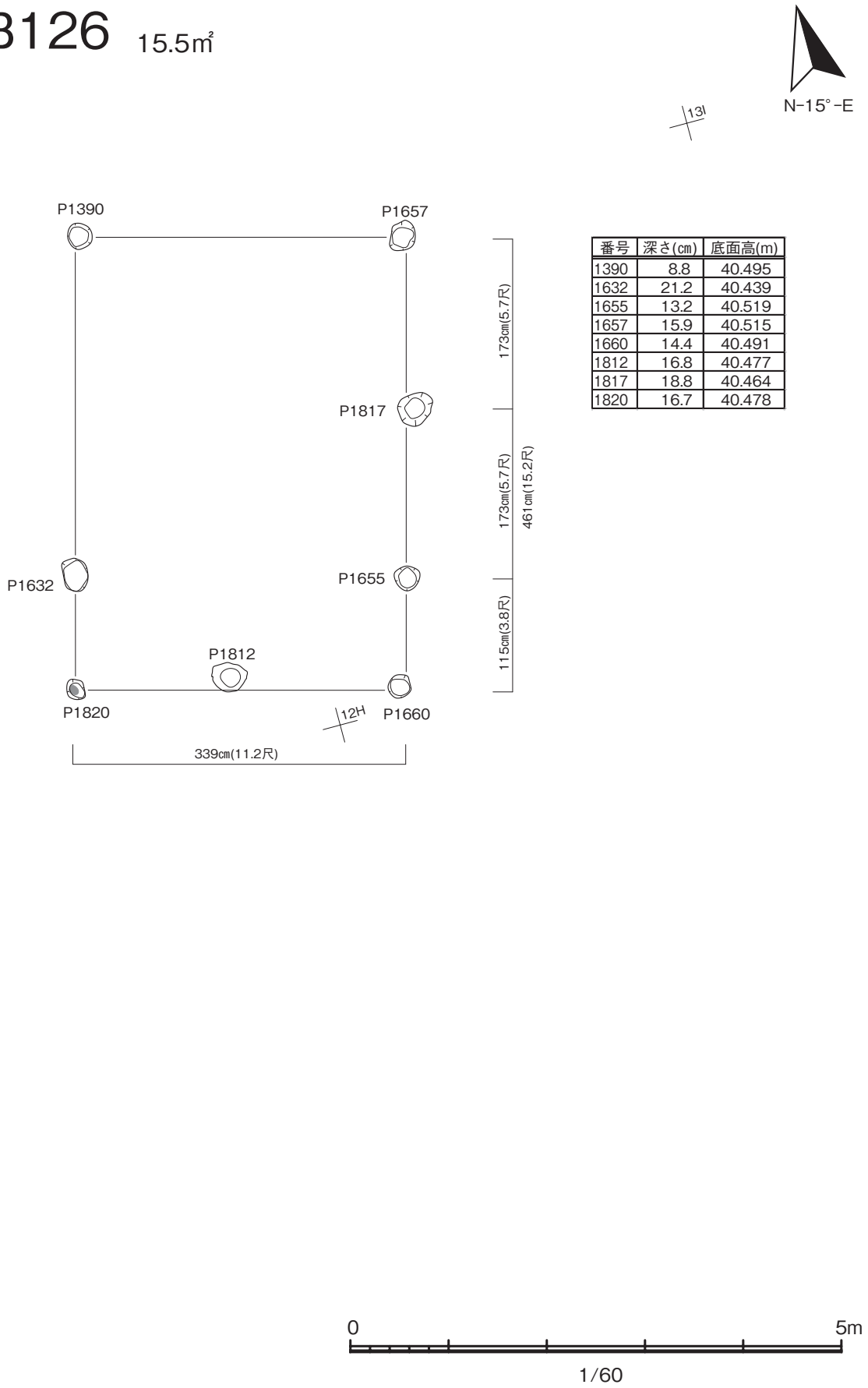
第63図　SB124



番号	深さ(cm)	底面高(m)
1368	6.1	40.598
1395	6.4	40.571
1396	11.9	40.435
1397	14.4	40.438
1406	6.1	40.563
1621	5.5	40.498
1622	26.3	40.375
1627	6.2	40.570
1631	9.3	40.555
1741	2.8	40.567
1753	8.7	40.456
1754	5.8	40.383
1755	5.4	40.473
1806	8.2	40.417

第64図　SB125

SB126　15.5㎡



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1390	8.8	40.495
1632	21.2	40.439
1655	13.2	40.519
1657	15.9	40.515
1660	14.4	40.491
1812	16.8	40.477
1817	18.8	40.464
1820	16.7	40.478

第65図　SB126

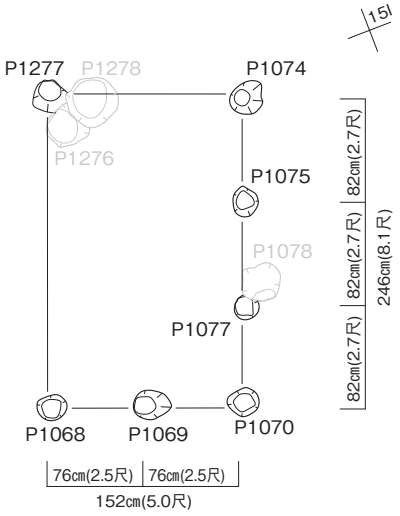
ＳＢ127　（第66図　写真図版54・55）		
位置　14Ｈ、15Ｈ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　7個
桁行　246cm（8.1尺）		**梁間**　152cm（5.0尺）
面積　3.8㎡（1.2坪）		**軸方向**　Ｎ－21°－Ｅ
柱間寸法　桁行では82cm（2.7尺）を基準とする。梁間では76cm（2.5尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ101と重複し本建物が古い。ＳＢ102とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
近世の建物と推測されるが、出土遺物、年代推定の鍵となる遺構との重複がなく詳細な時期は不明である。主屋との位置関係も見いだせず、また非常に規模が小さく、建物の性格は不明である。何らかの臨時的な建物の可能性も考えられる。		

ＳＢ128　（第67図　写真図版54・55）		
位置　16～18Ｉ、16～18Ｊ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　11個
桁行　736.5cm（24.3尺）		**梁間**　500cm（16.5尺）
面積　29.4㎡（8.9坪）		**軸方向**　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　桁行では245.5cm（8.1尺）を基準とする。梁間では100cm（3.3尺）の倍数を基準とする。		
重複　ＳＤ101と接するがおそらく本建物が古い。		
出土遺物、年代推定の鍵となる遺構との重複がなく時期は不明である。また、建物の性格は不明である。近世の屋敷内の建物配置から外れ、柱間寸法が8.1尺と長いことや西面に庇が付くことなどから、中世の建物である可能性も考えられる。		

ＳＢ129　（第68図　写真図版56・57）		
位置　11Ｆ～Ｈ、12Ｆ、12Ｇ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　12個
桁行　691cm（23.4尺）		**梁間**（検出した分）　286.5cm（9.45尺）
面積（検出した分）　26.2㎡（7.9坪）		**軸方向**　Ｎ－19°－Ｅ
柱間寸法　191cm（6.3尺）を基準とする。		
重複　プラン内にＳＫ146、ＳＫ147、ＳＫ155、ＳＫ157、ＳＫ133が位置するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。同時存在の内部施設の可能性もある。		
Ｐ1616から17世紀後半と推測される肥前産染付皿の微細片（図化不能）が出土しており、17世紀後半以降の建物と推測される。また、内部施設の可能性があるＳＫ146、ＳＫ147は近代以降の廃絶であり、本建物の年代も近世末から近代の可能性がある。規模からすると附属屋と推測される。伴う掘立柱建物の主屋は見当たらないが、痕跡の残っていない礎石建物の主屋に伴っていた可能性が想定される。南辺の桁行は調査区外にかかると推測される。		

ＳＢ130　（第69図　写真図版56・57）		
位置　13～15Ａ、13～15Ｂ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　7個
桁行　1230cm（40.6尺）		**梁間**　329cm以上
面積（検出した分）　24.4㎡（7.4坪）		**軸方向**　Ｎ－15°－Ｅ
柱間寸法　桁行では191cm（6.3尺）と212cm（7.0尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ131と重複し本建物が古い。ＳＢ132とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明。ＳＢ132と重複するが柱穴の切合い関係に矛盾があり前後関係は不明である。		
17世紀後半以降の建築と推測されるＳＢ131よりも古い建物である。概ね17世紀後半頃の建物と想定する。規模から近世民家の主屋と推測される。同規模の建物ＳＢ131、ＳＢ132と重複しており、主屋の連続した建替えと理解される。ＳＢ130より古いが、ＳＢ132とは前後関係が不明である。		

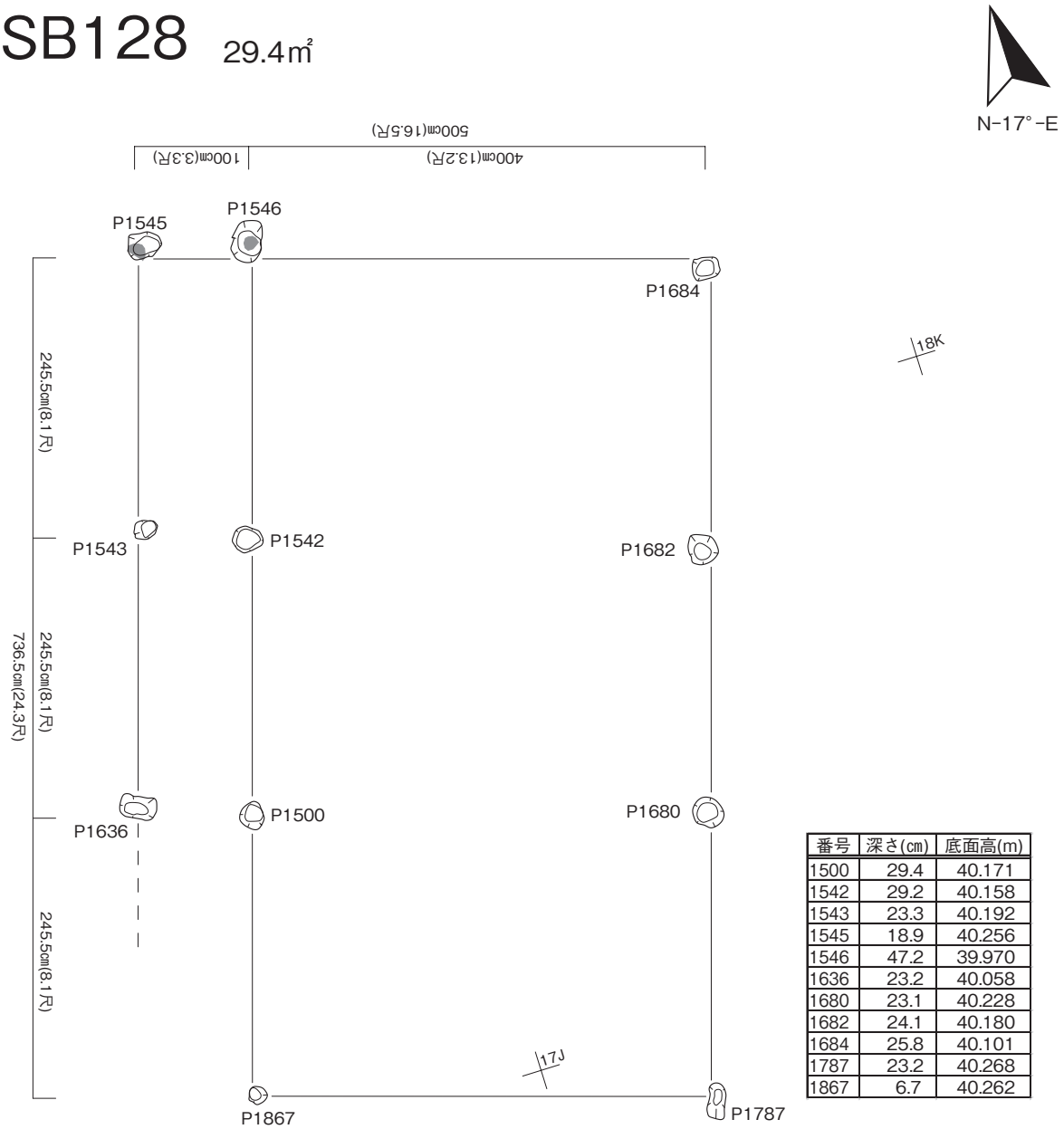
SB127 3.8㎡



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1068	9.1	40.665
1069	30.9	40.436
1070	8.8	40.643
1074	27.4	40.474
1075	10.9	40.615
1077	14.9	40.548
1277	22.4	40.537

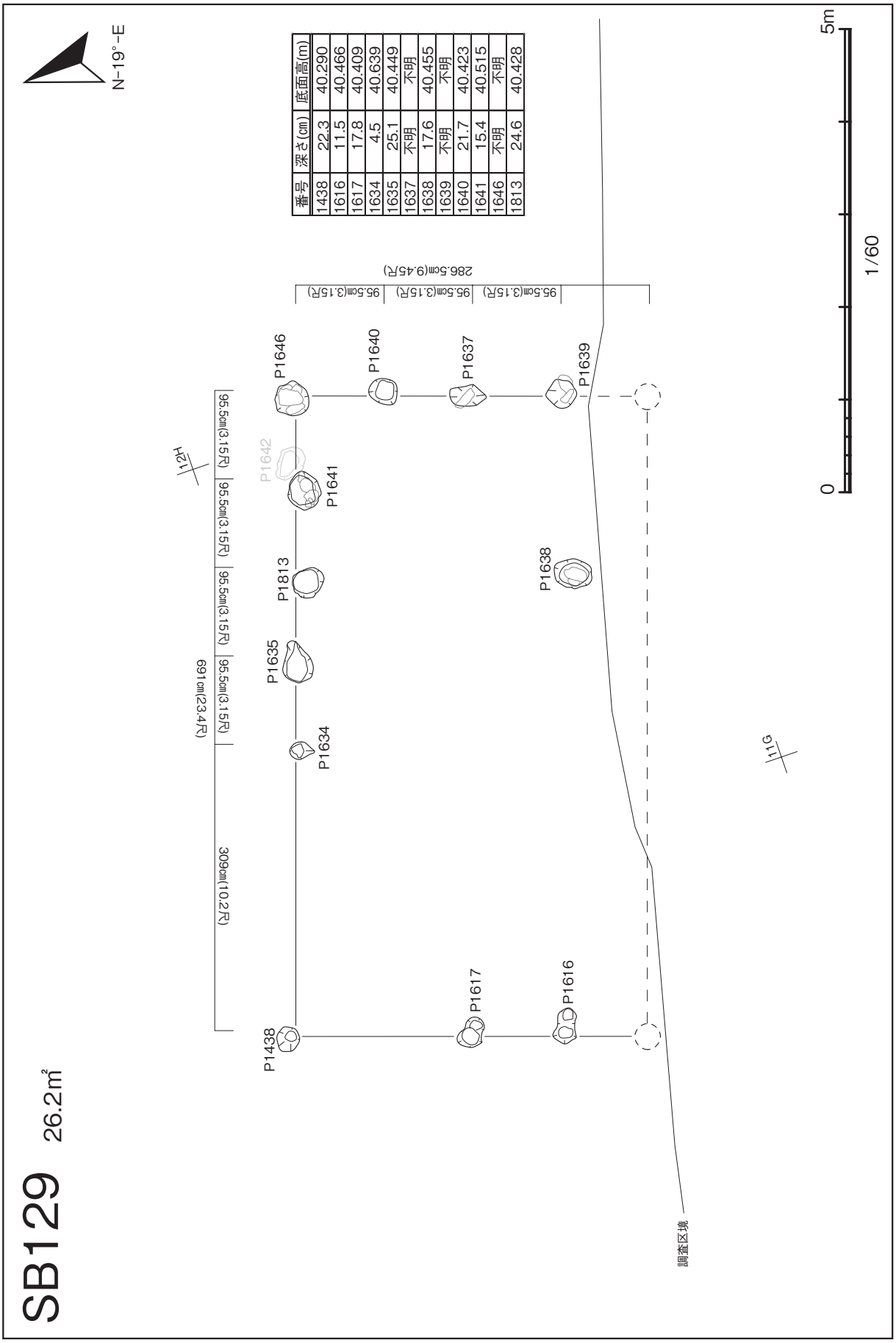
第66図　SB127

SB128　29.4㎡



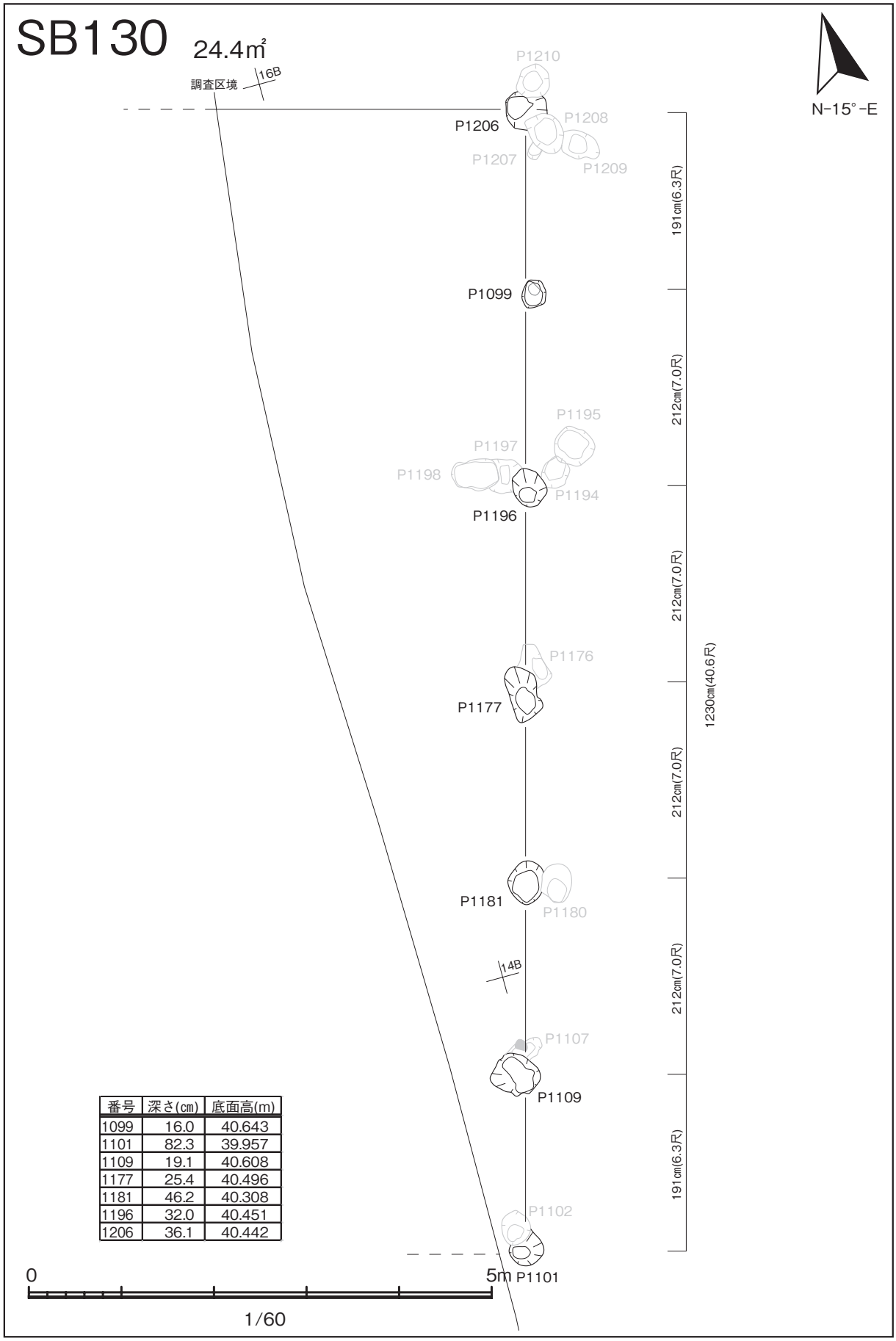
番号	深さ(cm)	底面高(m)
1500	29.4	40.171
1542	29.2	40.158
1543	23.3	40.192
1545	18.9	40.256
1546	47.2	39.970
1636	23.2	40.058
1680	23.1	40.228
1682	24.1	40.180
1684	25.8	40.101
1787	23.2	40.268
1867	6.7	40.262

第67図　SB128



番号	深さ(cm)	底面高(m)
1438	22.3	40.290
1616	11.5	40.466
1617	17.8	40.409
1634	4.5	40.639
1635	25.1	40.449
1637	不明	不明
1638	17.6	40.455
1639	不明	不明
1640	21.7	40.423
1641	15.4	40.515
1646	不明	不明
1813	24.6	40.428

第68図　SB129



番号	深さ(cm)	底面高(m)
1099	16.0	40.643
1101	82.3	39.957
1109	19.1	40.608
1177	25.4	40.496
1181	46.2	40.308
1196	32.0	40.451
1206	36.1	40.442

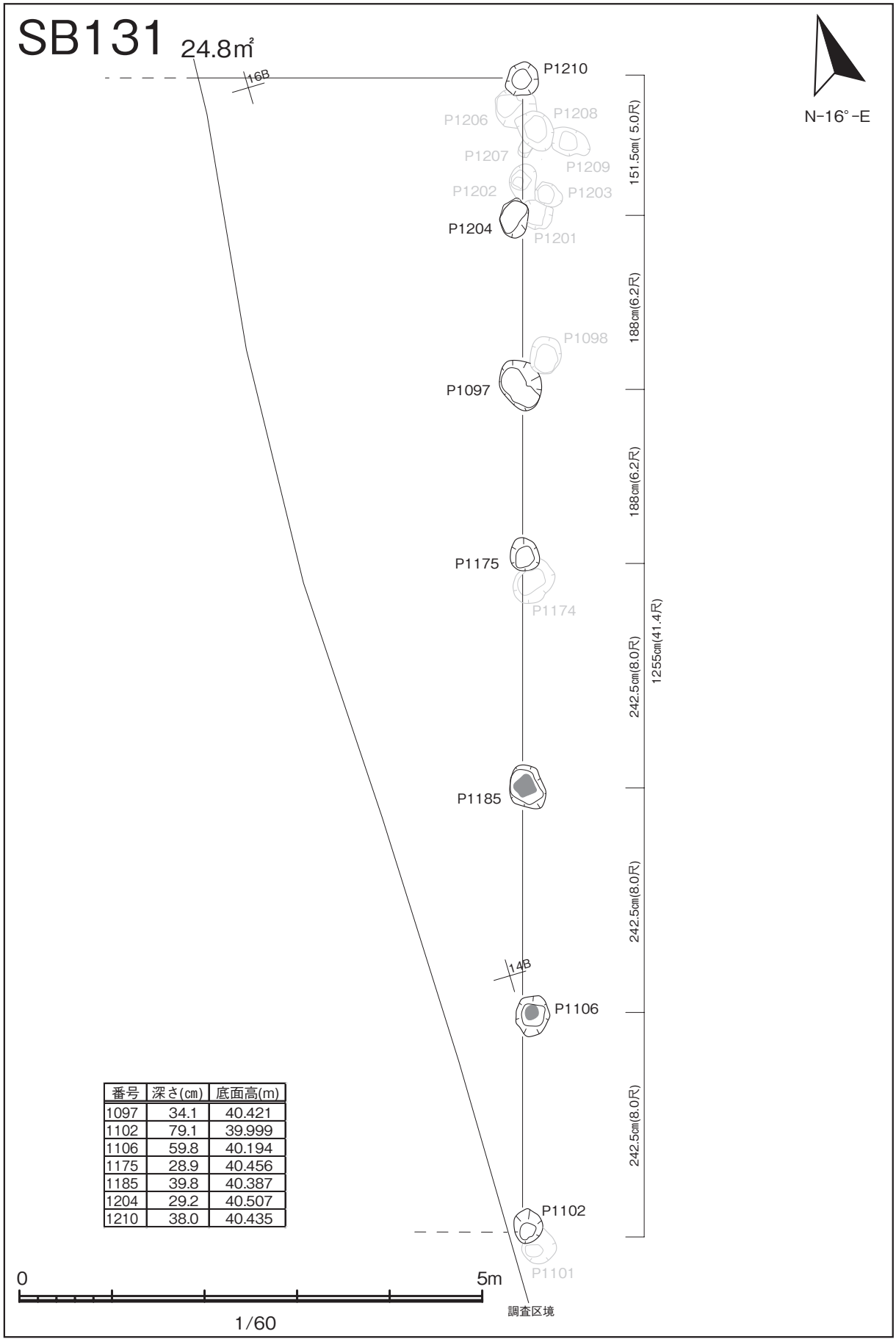
第69図　SB130

ＳＢ131　（第70図　写真図版58・60）		
位置　13～15Ａ、13～15Ｂ	屋敷　1	使用した柱穴　7個
桁行　1255cm（41.4尺）		梁間　345cm以上
面積（検出した分）　24.8㎡（7.5坪）		軸方向　Ｎ－16°－Ｅ
柱間寸法　桁行では188cm（6.2尺）と242.5cm（8.0尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ130と重複し本建物が新しい。ＳＢ133と重複するが複数の箇所で認識した柱穴の前後関係に矛盾があり前後関係を把握できない。ＳＢ132とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
Ｐ1097から17世紀後半～18世紀前半の肥前産陶器呉器手碗小片（図化不能）が出土している。出土遺物から17世紀後半以降の建築と推測される。規模から近世民家の主屋と推測される。同規模の建物ＳＢ130、ＳＢ132と重複しており、主屋の連続した建替えと理解される。ＳＢ130より新しいが、ＳＢ132とは前後関係が不明である。		

ＳＢ132　（第71図　写真図版58・60）		
位置　13～16Ａ、13～15Ｂ	屋敷　1	使用した柱穴　7個
桁行　1252cm（41.3尺）		梁間　410cm以上
面積（検出した分）　32.5㎡（9.8坪）		軸方向　Ｎ－16°－Ｅ
柱間寸法　桁行では191cm（6.3尺）を多用する。		
重複　ＳＢ130、ＳＢ131、ＳＢ133とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
17世紀後半以降の建築と推測されるＳＢ131と重複するが、直接切り合う柱穴がなく、詳細な時期は不明である。客観的な根拠はないが、一応、ＳＢ131より新しい18世紀代の建物と想定しておく。規模から近世民家の主屋と推測される。同規模の建物ＳＢ130、ＳＢ131と重複しており、主屋の連続した建替えと理解される。		

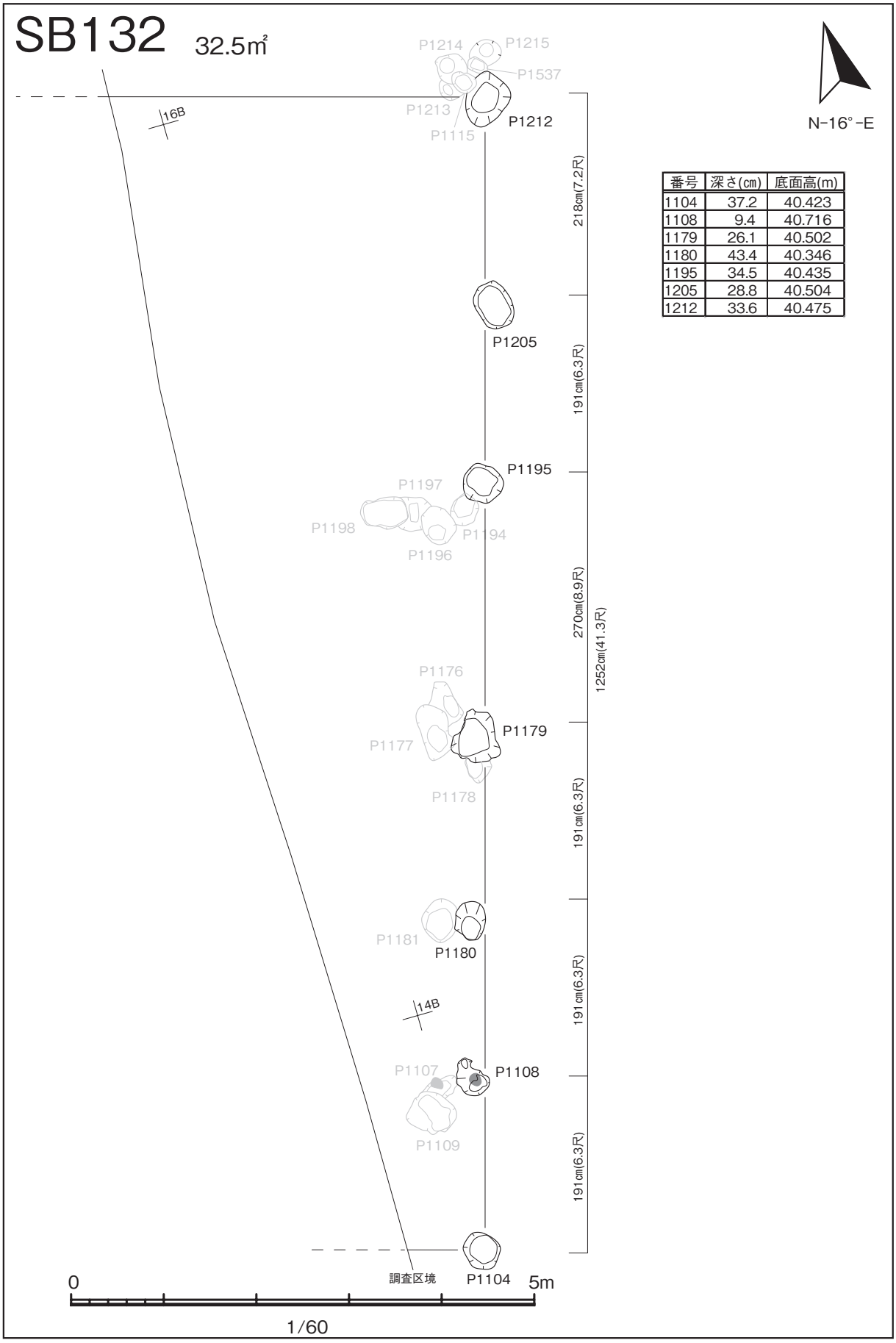
ＳＢ133　（第72図　写真図版59・60）		
位置　14～16Ａ、14～16Ｂ	屋敷　1	使用した柱穴　6個
桁行　785cm（25.9尺）		梁間　364cm（12.0尺）
面積　28.5㎡（8.6坪）		軸方向　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　桁行では200cm（6.6尺）と242.5cm（8.0尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ130、ＳＢ135と重複するが複数の箇所で認識した柱穴の前後関係に矛盾があり前後関係を把握できない。ＳＢ132、ＳＢ131、ＳＢ137、ＳＢ140とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
近世の建物と推測するが、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく詳細な年代は不明である。建物規模が主屋とするにはやや小規模であり、建物の性格は不明である。近世民家の主屋と推測されるＳＢ130、ＳＢ131、ＳＢ132とプランが重複し、主屋の建て替え順を乱しており、建替え時の臨時的な建物の可能性も考えられる。		

ＳＢ134　（第73図　写真図版59・60）		
位置　16Ａ、15～17Ｂ	屋敷　1	使用した柱穴　8個
桁行（検出した分）　364cm（12.0尺）		梁間　442cm（14.6尺）
面積（検出した分）　19.8㎡（6.0坪）		軸方向　Ｎ－18°－Ｅ
柱間寸法　桁行では182cm（6.0尺）を基準とする。梁間では221cm（7.3尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ137と重複し本建物が古い。ＳＢ133、ＳＢ135、ＳＢ136、ＳＢ140とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明。		
近世の建物と推測するが、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく詳細な年代は不明である。規模と配置から近世民家の附属屋と推測される。同時存在の主屋はＳＢ130、ＳＢ131、ＳＢ132のいずれかと推測される。重複するＳＢ135、ＳＢ136、ＳＢ137、ＳＢ140とは附属屋どうしの建て替えと理解される。		



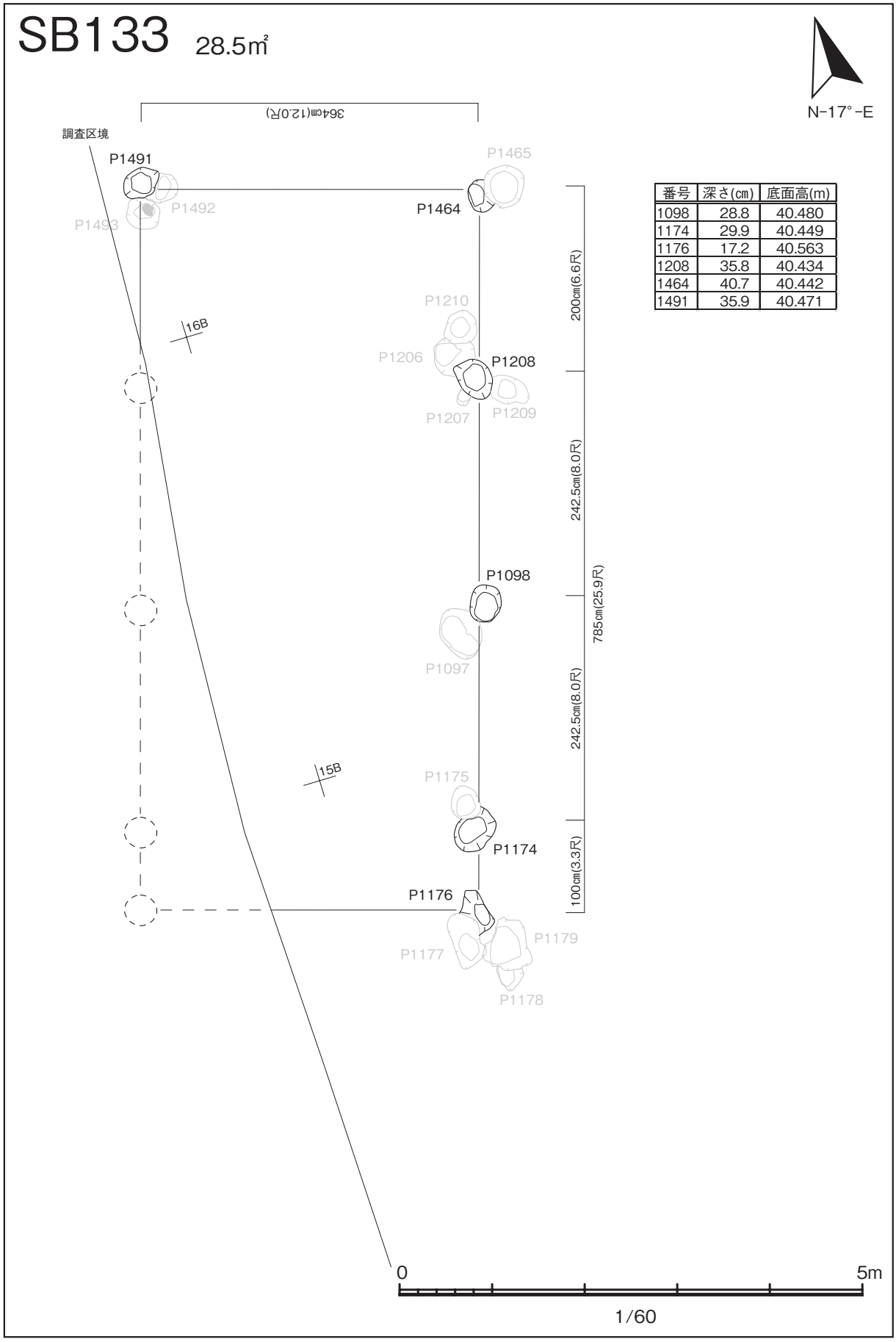
番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1097	34.1	40.421
1102	79.1	39.999
1106	59.8	40.194
1175	28.9	40.456
1185	39.8	40.387
1204	29.2	40.507
1210	38.0	40.435

第70図　SB131



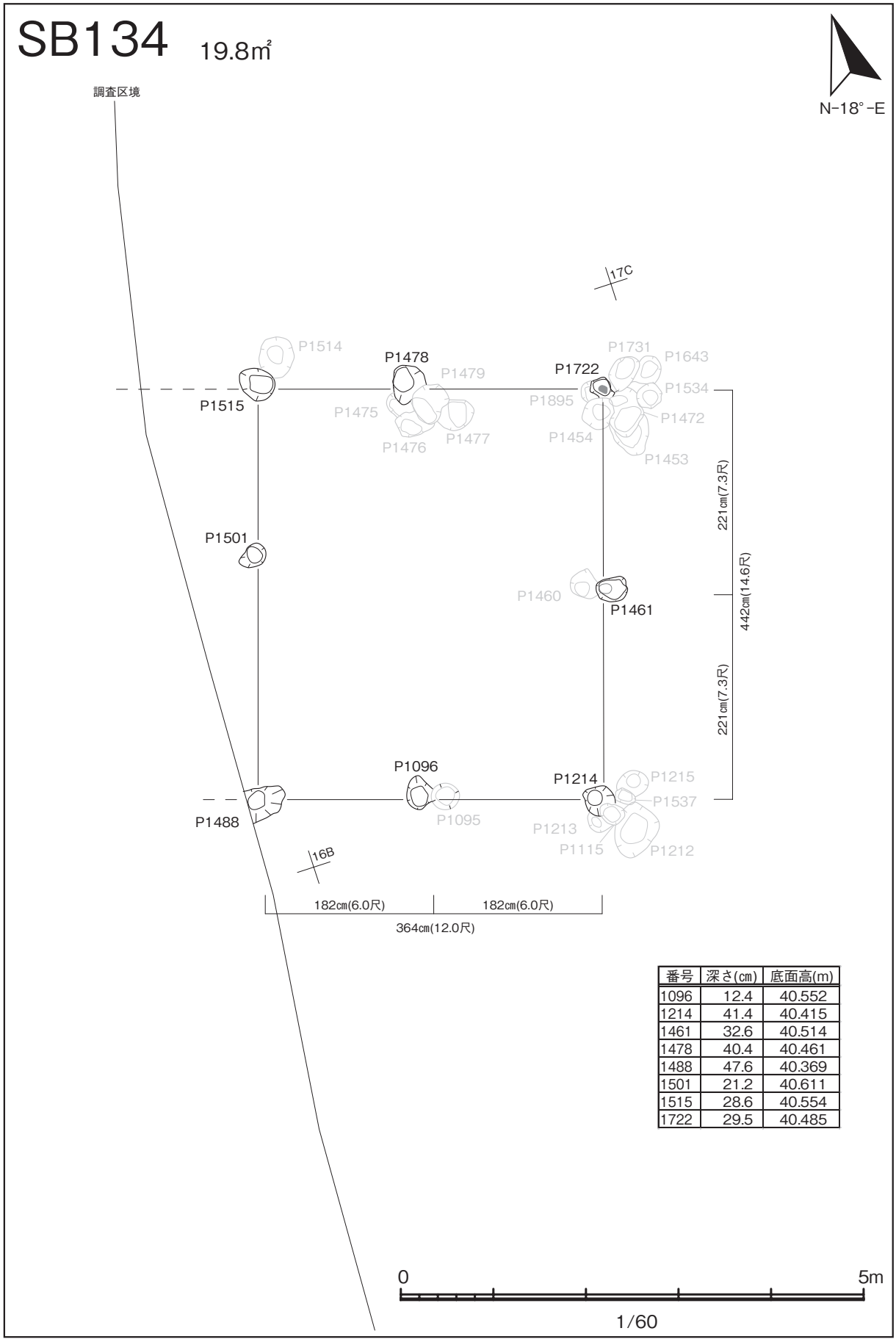
番号	深さ(cm)	底面高(m)
1104	37.2	40.423
1108	9.4	40.716
1179	26.1	40.502
1180	43.4	40.346
1195	34.5	40.435
1205	28.8	40.504
1212	33.6	40.475

第71図　SB132



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1098	28.8	40.480
1174	29.9	40.449
1176	17.2	40.563
1208	35.8	40.434
1464	40.7	40.442
1491	35.9	40.471

第72図　SB133



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1096	12.4	40.552
1214	41.4	40.415
1461	32.6	40.514
1478	40.4	40.461
1488	47.6	40.369
1501	21.2	40.611
1515	28.6	40.554
1722	29.5	40.485

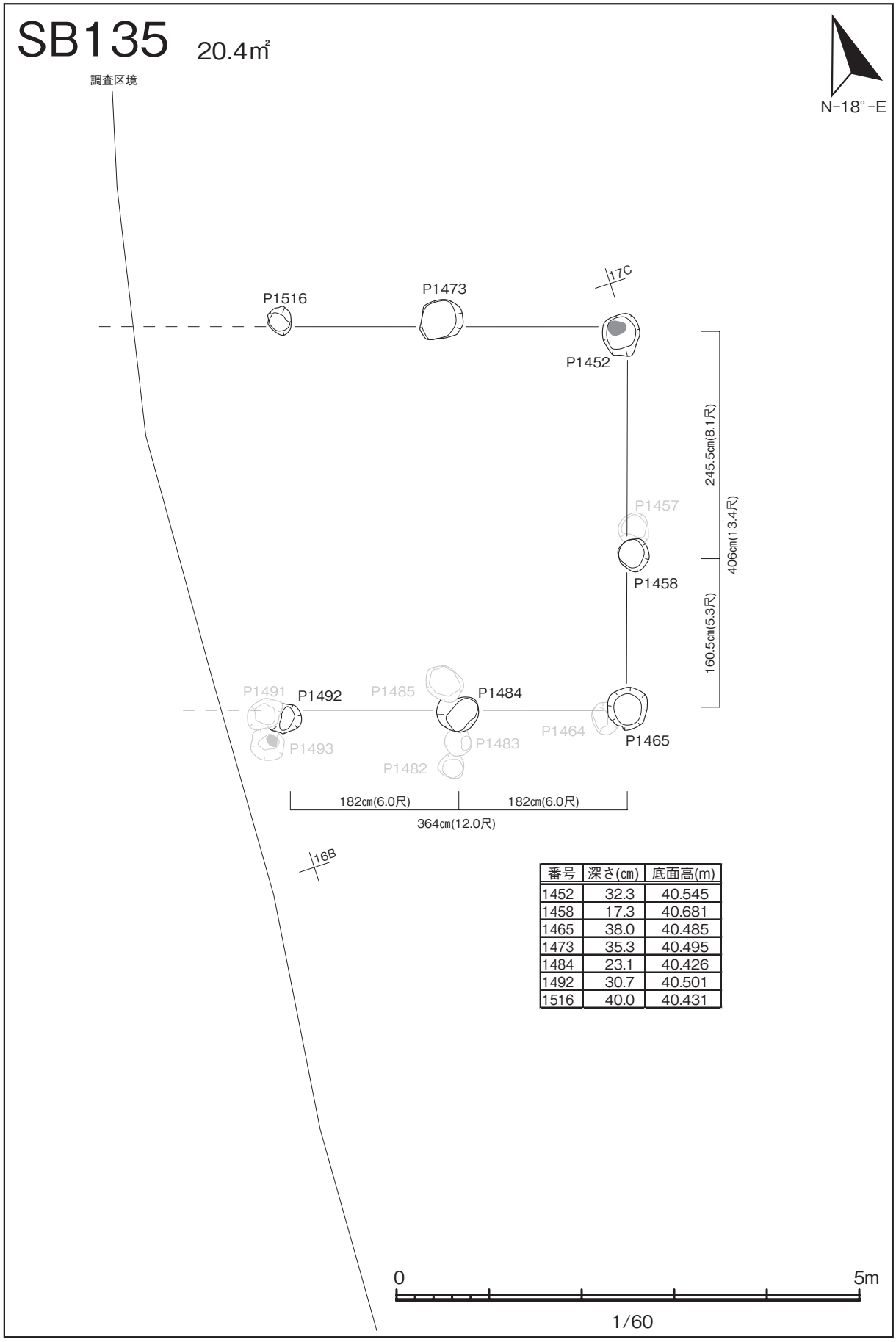
第73図　SB134

ＳＢ135　（第74図　写真図版61）		
位置　16Ａ、16Ｂ、17Ｂ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　７個
桁行（検出した分）　364㎝（12.0尺）		**梁間**　406㎝（13.4尺）
面積（検出した分）　20.4㎡（6.2坪）		**軸方向**　Ｎ－18°－Ｅ
柱間寸法　桁行では182㎝（6.0尺）を基準とする。梁間は基準寸法を見出し難い。		
重複　ＳＢ136と重複し本建物が古い。ＳＢ134、ＳＢ137、ＳＢ140とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明。		
近世の建物と推測するが、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく詳細な年代は不明である。規模と配置から近世民家の附属屋と推測される。同時存在の主屋はＳＢ130、ＳＢ131、ＳＢ132のいずれかと推測される。重複するＳＢ134、ＳＢ136、ＳＢ137、ＳＢ140とは附属屋どうしの建て替えと理解される。		

ＳＢ136　（第75図　写真図版62）		
位置　16Ａ、16Ｂ、17Ｂ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　７個
桁行（検出した分）　382㎝（12.6尺）		**梁間**　339㎝（11.2尺）
面積　16.8㎡（5.1坪）		**軸方向**　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　桁行では191㎝（6.3尺）を基準とする。梁間では169.5㎝（5.6尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ135と重複し本建物が新しい。ＳＢ133と重複するが複数の箇所で認識した柱穴の前後関係に矛盾があり前後関係を把握できない。ＳＢ134、ＳＢ137、ＳＢ140とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明。		
近世の建物と推測するが、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく詳細な年代は不明である。規模と配置から近世民家の附属屋と推測される。同時存在の主屋はＳＢ130、ＳＢ131、ＳＢ132のいずれかと推測される。重複するＳＢ134、ＳＢ135、ＳＢ137、ＳＢ140とは附属屋どうしの建て替えと理解される。		

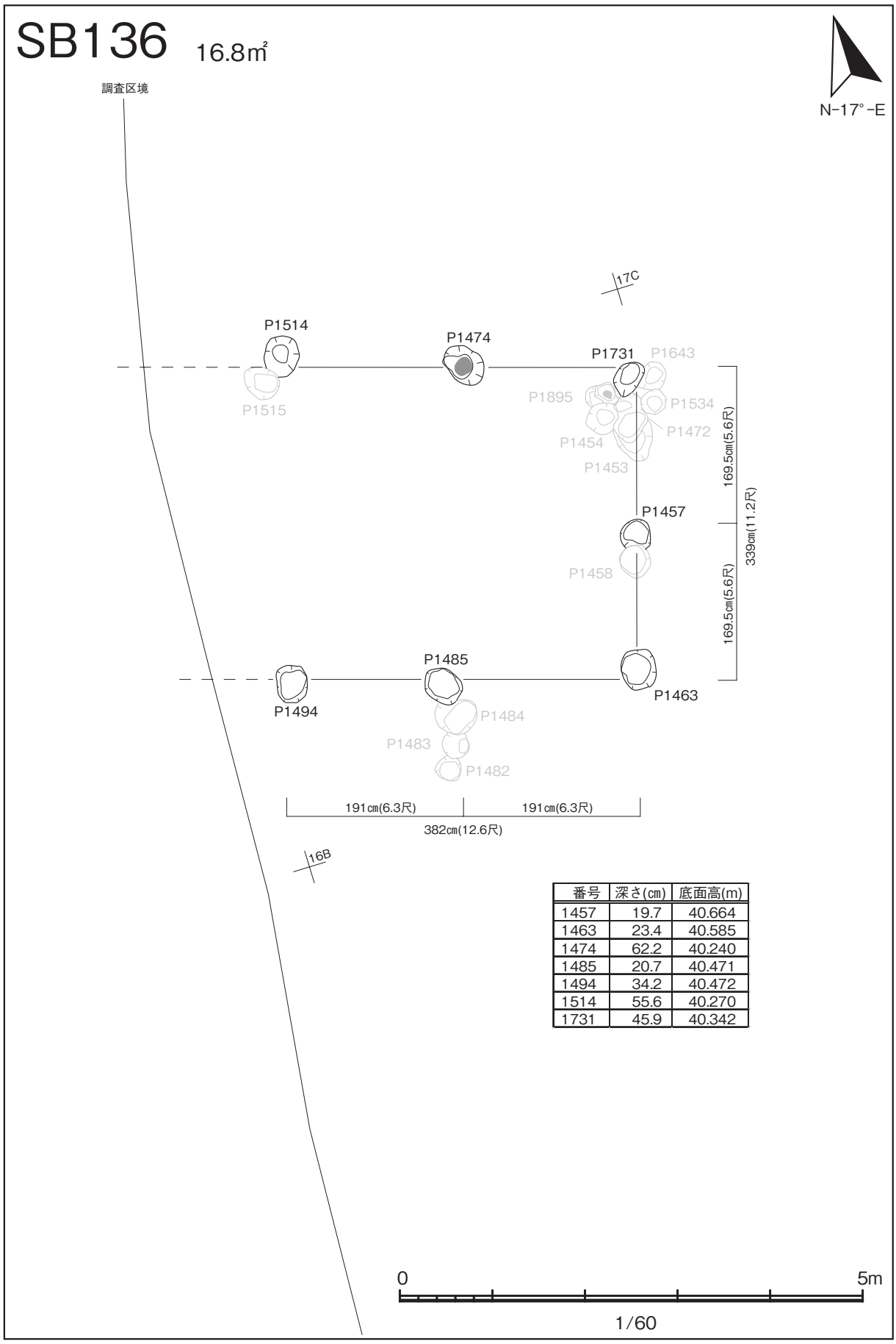
ＳＢ137　（第76図　写真図版63・65）		
位置　16Ａ、16Ｂ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　６個
桁行（検出した分）　400㎝（13.2尺）		**梁間**　370㎝（12.2尺）
面積（検出した分）　17.7㎡（5.4坪）		**軸方向**　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　桁行では200㎝（6.6尺）を基準とする。梁間では185㎝（6.1尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ134と重複し本建物が新しい。ＳＢ140と重複し本建物が古い。ＳＢ133、ＳＢ135、ＳＢ136とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明である。		
近世の建物と推測するが、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく詳細な年代は不明である。規模と配置から近世民家の附属屋と推測される。同時存在の主屋はＳＢ130、ＳＢ131、ＳＢ132のいずれかと推測される。重複するＳＢ134、ＳＢ135、ＳＢ136、ＳＢ140とは附属屋どうしの建て替えと理解される。		

ＳＢ138　（第77図　写真図版63・65）		
位置　17Ｃ、17Ｄ、18Ｃ、18Ｄ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　７個
桁行　363㎝（12.0尺）		**梁間**　200㎝（6.6尺）
面積　7.3㎡（2.2坪）		**軸方向**　Ｎ－23°－Ｅ
柱間寸法　桁行では121㎝（4.0尺）を基準とする。梁間では200㎝（6.6尺）を基準とすると思われる。		
重複　なし。		
近世の建物と推測するが、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく詳細な年代は不明である。極端に小規模な建物であり、建物の性格は不明である。臨時的な建物の可能性も考えられる。		



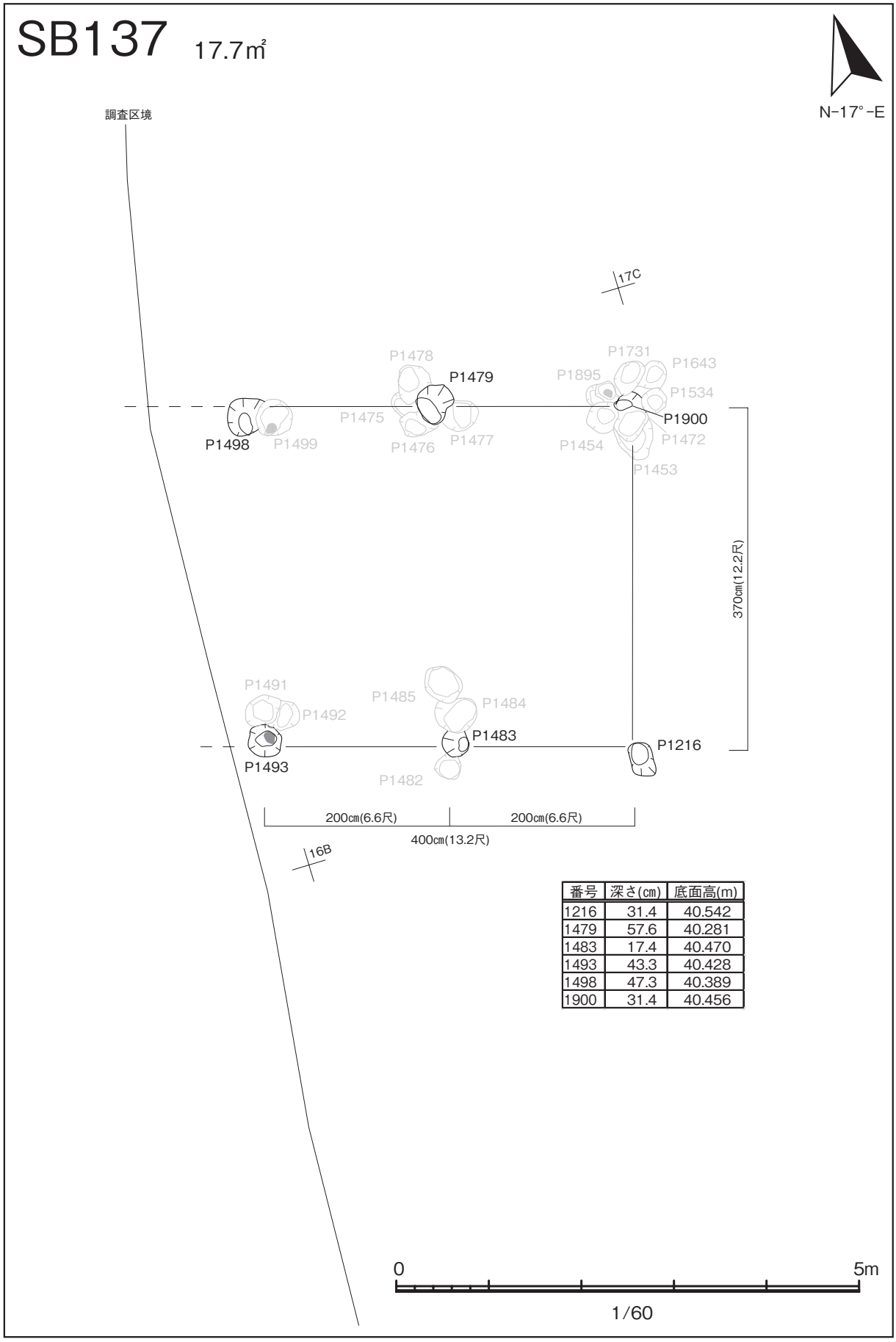
番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1452	32.3	40.545
1458	17.3	40.681
1465	38.0	40.485
1473	35.3	40.495
1484	23.1	40.426
1492	30.7	40.501
1516	40.0	40.431

第74図　SB135



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1457	19.7	40.664
1463	23.4	40.585
1474	62.2	40.240
1485	20.7	40.471
1494	34.2	40.472
1514	55.6	40.270
1731	45.9	40.342

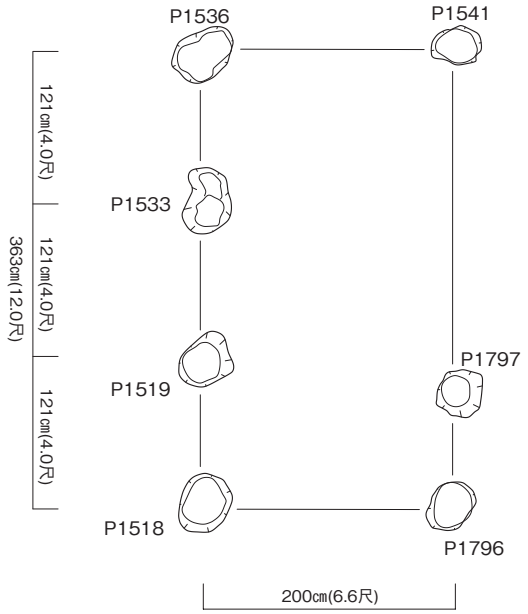
第75図　SB136



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1216	31.4	40.542
1479	57.6	40.281
1483	17.4	40.470
1493	43.3	40.428
1498	47.3	40.389
1900	31.4	40.456

第76図　SB137

SB138　7.3㎡



番号	深さ(cm)	底面高(m)
1518	29.7	40.504
1519	25.7	40.488
1533	21.7	40.521
1536	16.8	40.570
1541	23.4	40.510
1796	21.1	40.497
1797	26.1	40.438

0　5m

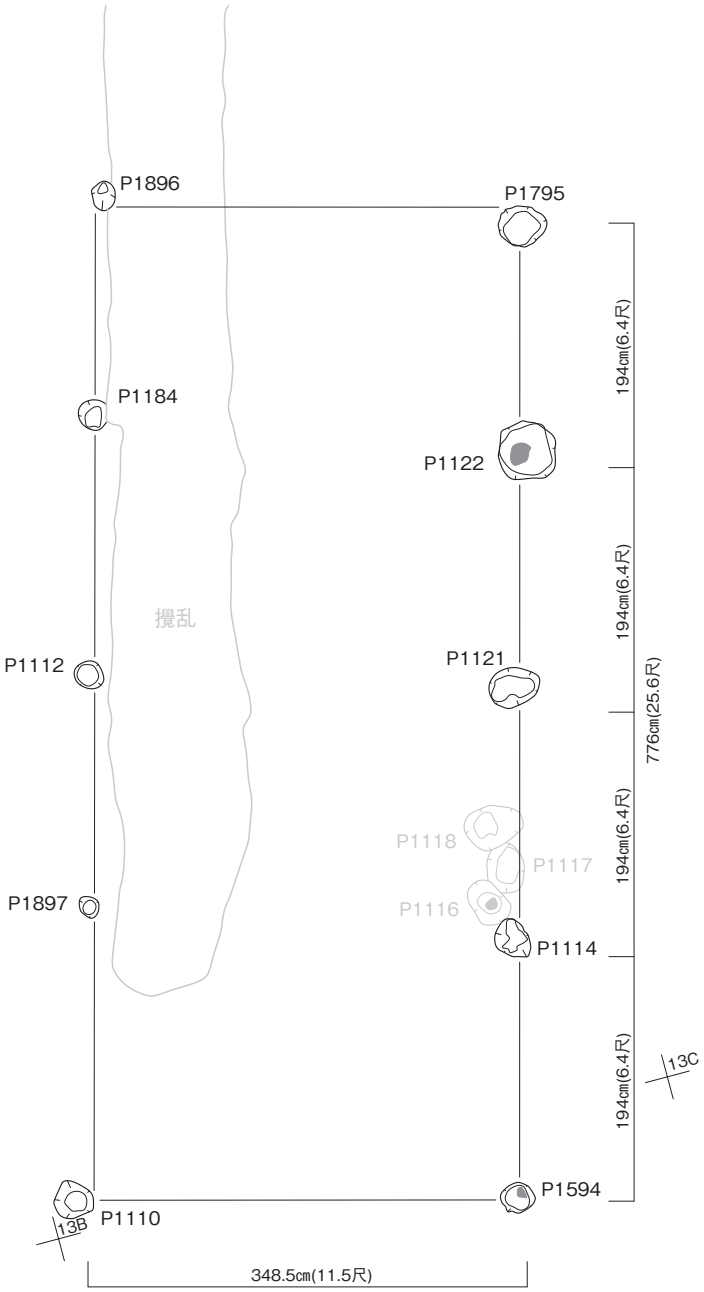
1/60

第77図　SB138

ＳＢ139　（第78図　写真図版64・65）		
位置　12～14Ｂ、13Ｃ、14Ｃ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　10個
桁行　776cm（25.6尺）		**梁間**　348.5cm（11.5尺）
面積　26.6㎡（8.1坪）		**軸方向**　Ｎ－15°－Ｅ
柱間寸法　桁行では194cm（6.4尺）を基準とする。梁間では174.25cm（5.75尺）を基準とすると思われる。		
重複　ＳＫ110と重複し本建物が古い。		
近世の建物と推測するが、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく詳細な年代は不明である。建物規模が主屋とするにはやや小規模であり、建物の性格は不明である。また、近世民家の主屋と推測されるＳＢ130、ＳＢ131、ＳＢ132の全面を塞ぐ位置に建ちとプランが重複し、主屋の建替え時の臨時的な建物の可能性も考えられる。		

ＳＢ140　（第79図　写真図版64・65）		
位置　15Ｂ、16Ｂ	**屋敷**　1	**使用した柱穴**　6個
桁行（検出した分）　400cm（13.2尺）		**梁間**　412cm（13.6尺）
面積（検出した分）　19.7㎡（6.0坪）		**軸方向**　Ｎ－14°－Ｅ
柱間寸法　桁行では200cm（6.6尺）を基準とする。梁間では206cm（6.8尺）を基準とする。		
重複　ＳＢ137と重複し本建物が新しい。ＳＢ134、ＳＢ135、ＳＢ136とプランが重複するが直接切合う柱穴が無く前後関係は不明。		
近世の建物と推測するが、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく詳細な年代は不明である。規模と配置から近世民家の附属屋と推測される。同時存在の主屋はＳＢ130、ＳＢ131、ＳＢ132のいずれかと推測される。重複するＳＢ134、ＳＢ135、ＳＢ136、ＳＢ137とは附属屋どうしの建て替えと理解される。		

SB139　26.6㎡



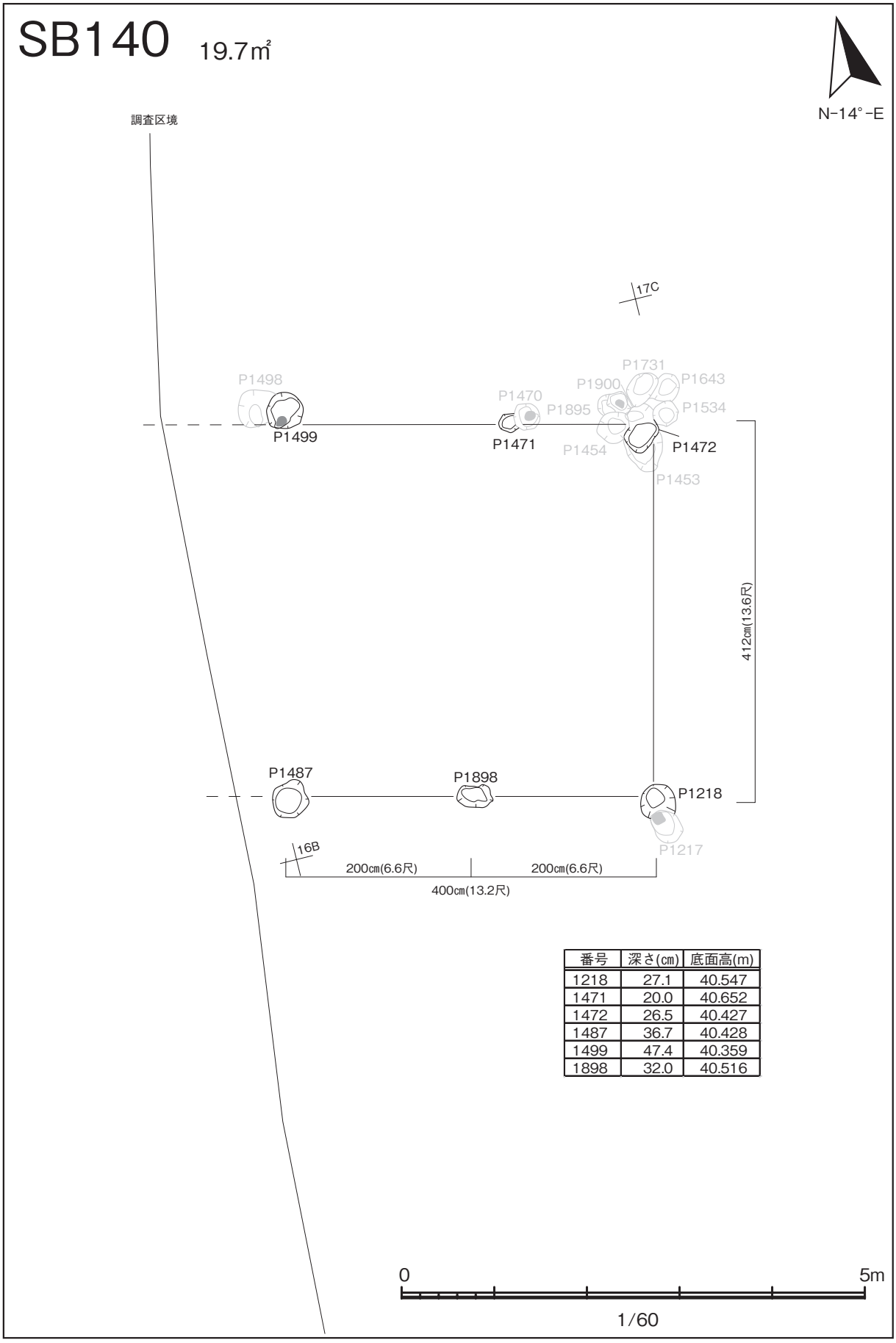
番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1110	9.9	40.581
1112	9.8	40.657
1114	17.6	40.568
1121	16.7	40.563
1122	15.9	40.588
1184	21.3	40.532
1594	14.8	40.584
1795	26.6	40.427
1896	24.0	40.472
1897	8.7	40.704

0　5m

1/60

第78図　SB139

SB140　19.7㎡



番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1218	27.1	40.547
1471	20.0	40.652
1472	26.5	40.427
1487	36.7	40.428
1499	47.4	40.359
1898	32.0	40.516

第79図　SB140

3　柱　　列

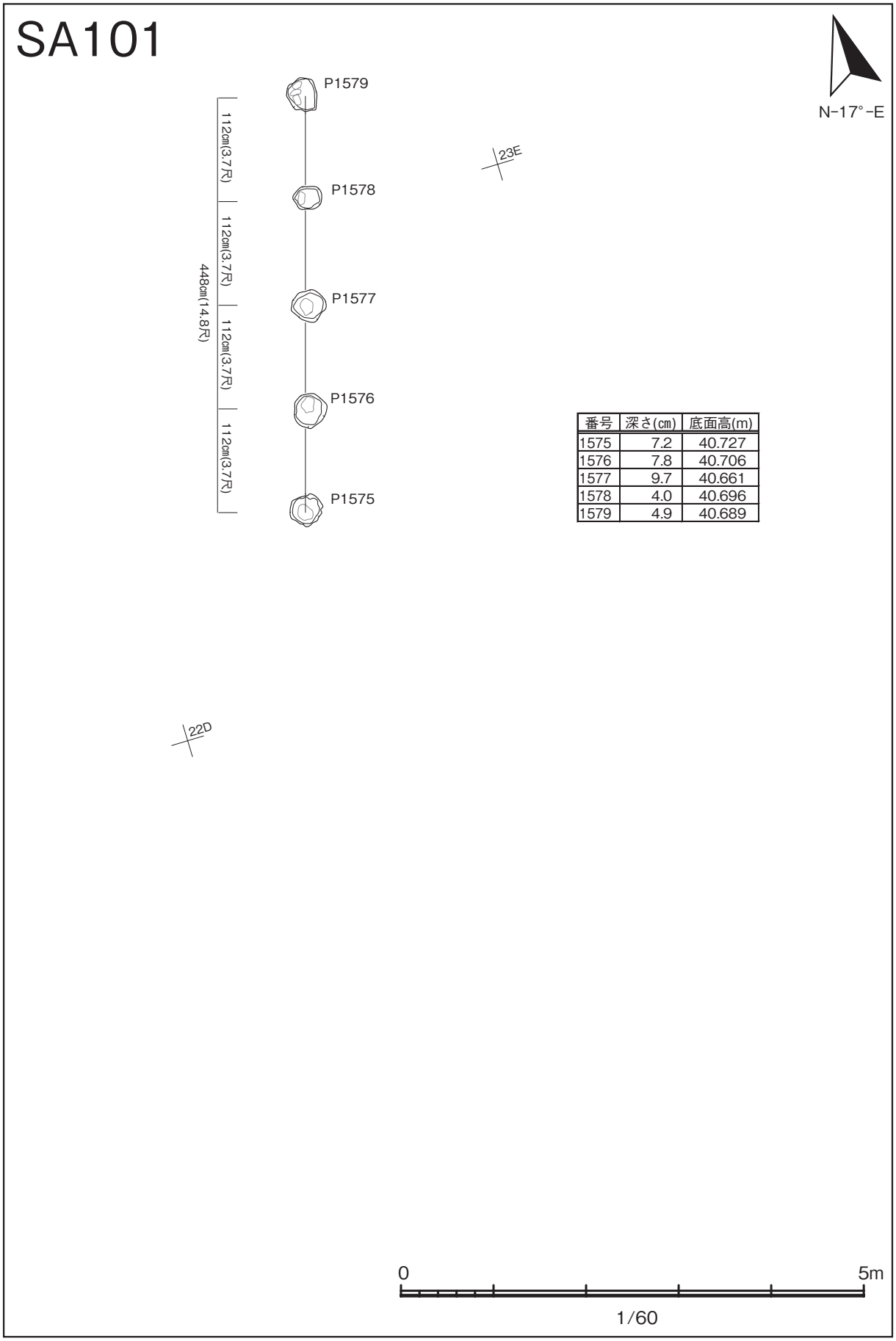
ＳＡ101　（第80図　写真図版66）		
位置　22Ｄ、23Ｄ	屋敷　1	使用した柱穴　５個
長さ　448cm（14.8尺）		軸方向　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　112cm（3.7尺）を基準とする		
重複　なし。		
近世の柱列と推測するが、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく詳細な年代は不明である。性格についても不明であるが、近接してＳＡ102、ＳＡ103、ＳＡ104、ＳＡ105が存在し同一の性格と思われる。植栽の支柱、穀物などを干すための竿の支柱などの用途が想像される。		

ＳＡ102　（第81図　写真図版67）		
位置　20Ｃ、20Ｄ、21Ｄ	屋敷　1	使用した柱穴　６個
長さ　458cm（15.1尺）		軸方向　Ｎ－19°－Ｅ
柱間寸法　88cm（2.9尺）を多用する		
重複　なし。		
近世の柱列と推測するが、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく詳細な年代は不明である。性格についても不明であるが、近接してＳＡ101、ＳＡ103、ＳＡ104、ＳＡ105が存在し同一の性格と思われる。植栽の支柱、穀物などを干すための竿の支柱などの用途が想像される。		

ＳＡ103　（第82図　写真図版68）		
位置　20Ｂ、20Ｃ	屋敷　1	使用した柱穴　６個
長さ　473cm（15.6尺）		軸方向　Ｎ－16°－Ｅ
柱間寸法　100cm（3.3尺）を多用する		
重複　なし。		
軸方向は90°回転させた方位である。近世の柱列と推測するが、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく詳細な年代は不明である。性格についても不明であるが、近接してＳＡ101、ＳＡ102、ＳＡ104、ＳＡ105が存在し同一の性格と思われる。植栽の支柱、穀物などを干すための竿の支柱などの用途が想像される。		

ＳＡ104　（第83図　写真図版69）		
位置　21Ｆ、21Ｇ	屋敷　1	使用した柱穴　４個
長さ　667cm（22.0尺）		軸方向　Ｎ－17°－Ｅ
柱間寸法　194cm（6.4尺）を多用する		
重複　なし。		
軸方向は90°回転させた方位である。近世の柱列と推測するが、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく詳細な年代は不明である。性格についても不明であるが、近接してＳＡ101、ＳＡ102、ＳＡ103、ＳＡ105が存在し同一の性格と思われる。植栽の支柱、穀物などを干すための竿の支柱などの用途が想像される。		

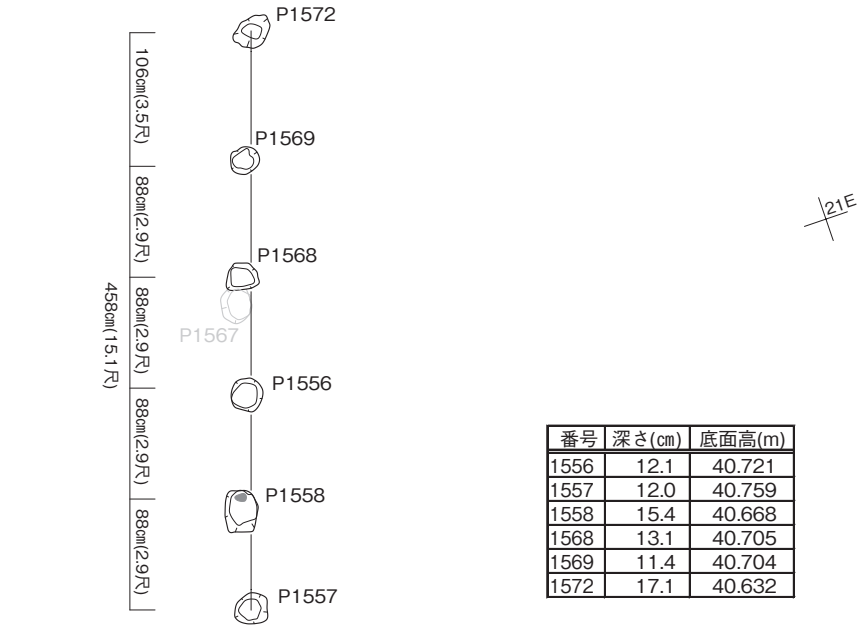
ＳＡ105　（第84図　写真図版70）		
位置　18Ｃ、18Ｄ、19Ｃ、19Ｄ	屋敷　1	使用した柱穴　５個
長さ　472.5cm（15.6尺）		軸方向　Ｎ－15°－Ｅ
柱間寸法　157.5cm（5.2尺）を基準とする		
重複　なし。		
近世の柱列と推測するが、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく詳細な年代は不明である。性格についても不明であるが、近接してＳＡ101、ＳＡ102、ＳＡ103、ＳＡ104が存在し、同一の性格と思われる。植栽の支柱、穀物などを干すための竿の支柱などの用途が想像される。		



番号	深さ(cm)	底面高(m)
1575	7.2	40.727
1576	7.8	40.706
1577	9.7	40.661
1578	4.0	40.696
1579	4.9	40.689

第80図　SA101

SA102



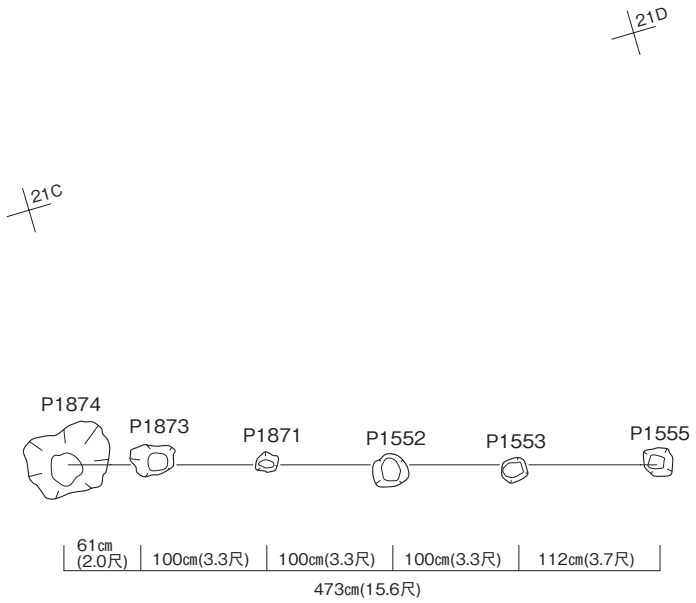
番号	深さ(cm)	底面高(m)
1556	12.1	40.721
1557	12.0	40.759
1558	15.4	40.668
1568	13.1	40.705
1569	11.4	40.704
1572	17.1	40.632

0　5m

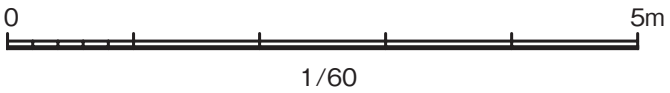
1/60

第81図　SA102

SA103



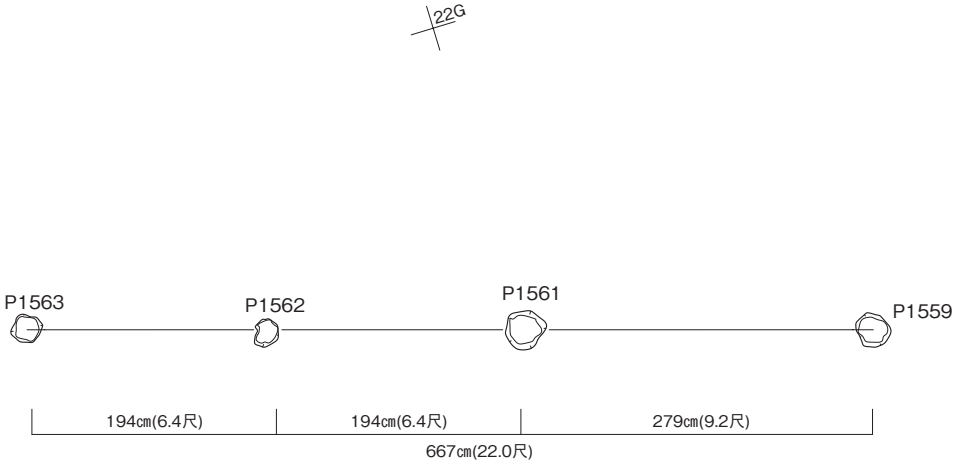
番号	深さ(㎝)	底面高(m)
1552	19.9	40.695
1553	6.7	40.793
1555	19.6	40.679
1871	10.8	40.759
1873	17.1	40.725
1874	27.5	40.632



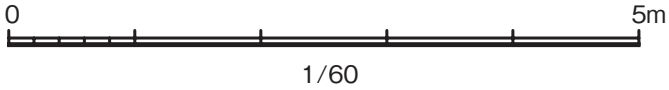
1/60

第82図　SA103

SA104

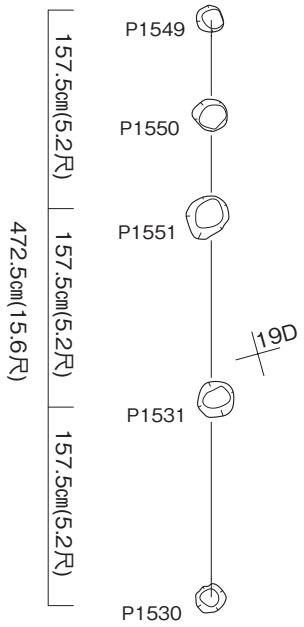


番号	深さ(cm)	底面高(m)
1559	10.3	40.378
1561	11.6	40.432
1562	4.1	40.524
1563	8.5	40.485



第83図　SA104

SA105



番号	深さ(cm)	底面高(m)
1530	15.7	40.686
1531	7.5	40.775
1549	5.0	40.759
1550	13.8	40.721
1551	14.5	40.726

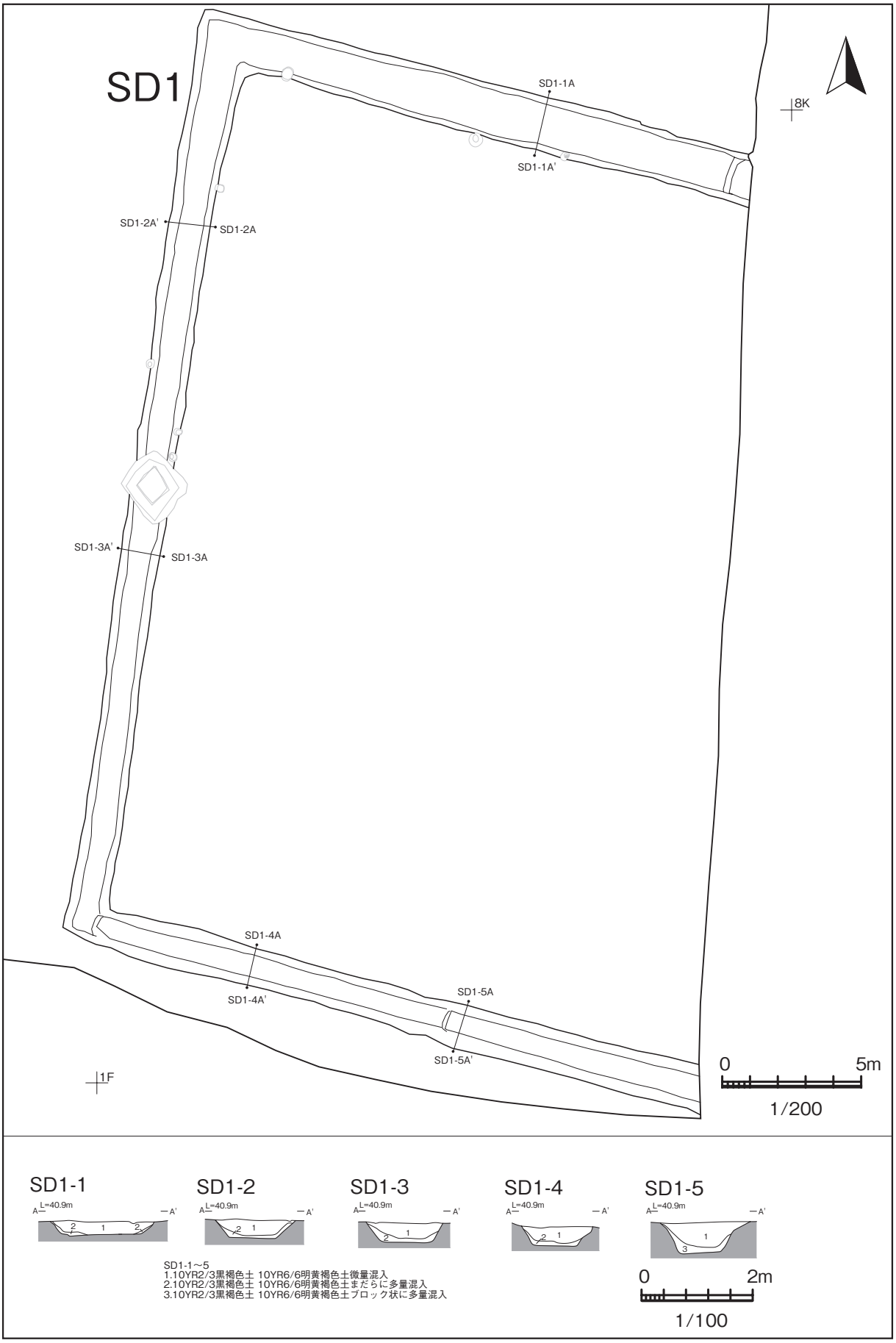
1/60

第84図　SA105

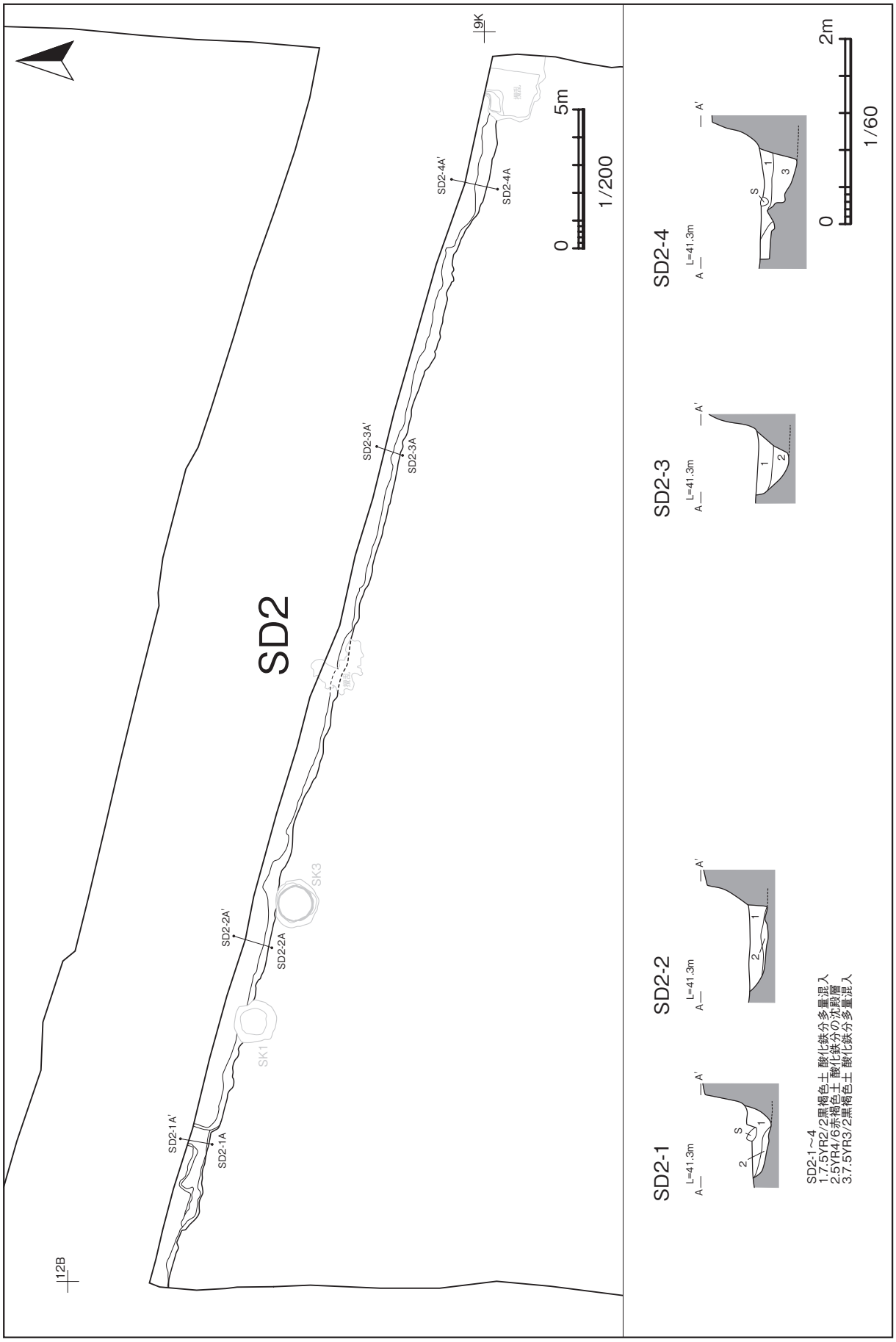
4　溝

ＳＤ１　（第85図　写真図版71・74）		
位置　２Ｅ、１～８Ｆ、１Ｇ～Ｊ、０Ｊ、８Ｇ、８Ｈ、７Ｈ、７Ｉ、７Ｊ	**屋敷**　４の範囲	**時期**　17中葉世紀～1718年か
幅　144～199cm	**深さ**　22～55cm	**軸方向**　Ｎ－８°－Ｅ（南北ライン）　Ｅ－17°―Ｓ（東西ライン）
形態　検出された範囲での平面形は東西長2405cm、南北長3311cmの「コ」の字形を呈する。南辺、北辺ともに調査区境の東側に続く。　断面形は底面が平らな逆台形を呈する。相対的に東側が深く、水は東側に流れるようになっている。		
埋土　３層に分かれる。２、３層は使用時に自然堆積し、埋土の大半を占める１層は人為的に一気に埋め戻した土と推測される。		
重複　ＳＢ２、ＳＢ３、ＳＢ４、ＳＢ14が本溝より新しい。ＳＢ７とはプランが重複するが、おそらく本溝が新しい。また、陥し穴３は本溝より古い。		
出土遺物　出土遺物はなかった。		
近世屋敷の掘立柱建物より古いこと、規模が大きく整然としていること、「瀬台野御蔵場」が所在したとされる調査範囲外の東側に延びることなどから、御蔵場の施設の一部を区画する溝と推測する。御蔵場本体に隣接する荷置場、待機場所、作業空間などを区画する溝と想定される。埋土は人為的に埋め戻したものと判断され、御蔵場廃絶の享保３年（1718年）以後に埋めたと推測される。これによって、近世屋敷４の成立はこれ以降と解釈される。		

ＳＤ２　（第86図　写真図版72・74・75）		
位置　９Ｆ～９Ｊ、10Ｂ～Ｆ、11Ｂ	**屋敷**　３と４の北端	**時期**　17世紀中葉～20世紀
幅　95cm以上	**深さ**　20～35cm	**軸方向**　Ｎ－17°－Ｅ（直交した軸方向）
形態　真っ直ぐ走る溝である。東西長4352cm分を検出した。調査区外西側から連続し、東端部を攪乱で壊されるが、調査区外東側へも延びると推測される。溝の北壁は、現道の下に位置しており、未検出であり、幅は不明である。東側が深くなっており、水は西から東に流れるようになっている。		
埋土　２～３層に分かれる。自然堆積と推測される。		
重複　ＳＫ１と重複するが、本溝が古い。		
出土遺物　肥前産磁器碗（202、211、214、215、218、219、249）、瀬戸産磁器碗（247、）、瀬戸産？磁器碗（251）、肥前産磁器皿（256、257、261、262、269、271、273、276、277）、肥前産磁器うがい碗（301）、肥前産磁器鉢（304）、肥前産陶器碗（402、405、411、416、419、420、421、424）、肥前産陶器皿（429、430）、肥前産陶器鉢（436）、瀬戸・美濃産陶器小碗（441）、瀬戸・美濃産陶器碗（442、444）、瀬戸・美濃産陶器皿（455）、瀬戸・美濃産陶器鉢（458）、瀬戸・美濃産陶器徳利（466）、瀬戸産陶器鉢（472）、瀬戸産陶器擂鉢（475）、大堀相馬産陶器碗（482、490）、大堀相馬産陶器皿（493）、在地産？陶器擂鉢（498）、在地産陶器擂鉢（500、502、）在地産陶器香炉（517、518）、在地産陶器甕（519、520）、寛永通宝（704、705、706、707、708、709）、硯（804、810）、砥石（827、832、835）が出土している。また、本溝検出より前に、「南区北壁」または「10Ｄ北壁」のように南側調査区の北壁として取り上げた遺物の大半も、本溝の出土遺物と解釈すべき状況である。		
東西に走る近世以来の道路「市道町屋敷３号線」の南辺に沿って走る溝である。現在も道路南辺に沿って用水路兼道路側溝が走っており、本溝はこの前身の同じ機能の溝と推測される。つまり、本溝の機能は重複して現在の道路側溝に存続されているということになる。溝の全幅は道路と現在の用水路の保全のため完堀できなかったが、幅１ｍ程度と推測される。出土遺物が非常に多く、溝の上流部から流れ集まってきた遺物と解釈される。遺物の年代は17世紀中頃以降のものが多く、溝の開削年代は17世紀中頃と推測される。下限は近代の遺物も出土していることから、現在のコンクリート製の用水路が整備されるまで使用が続いたと解釈される。		


SD1
SD1-1A
SD1-1A'
8K
SD1-2A'
SD1-2A
SD1-3A'
SD1-3A
SD1-4A
SD1-4A'
SD1-5A
SD1-5A'
1F
0
5m
1/200
SD1-1
SD1-2
SD1-3
SD1-4
SD1-5
A L=40.9m A'
SD1-1～5
1.10YR2/3黒褐色土 10YR6/6明黄褐色土微量混入
2.10YR2/3黒褐色土 10YR6/6明黄褐色土まだらに多量混入
3.10YR2/3黒褐色土 10YR6/6明黄褐色土ブロック状に多量混入
0
2m
1/100

第85図　SD1

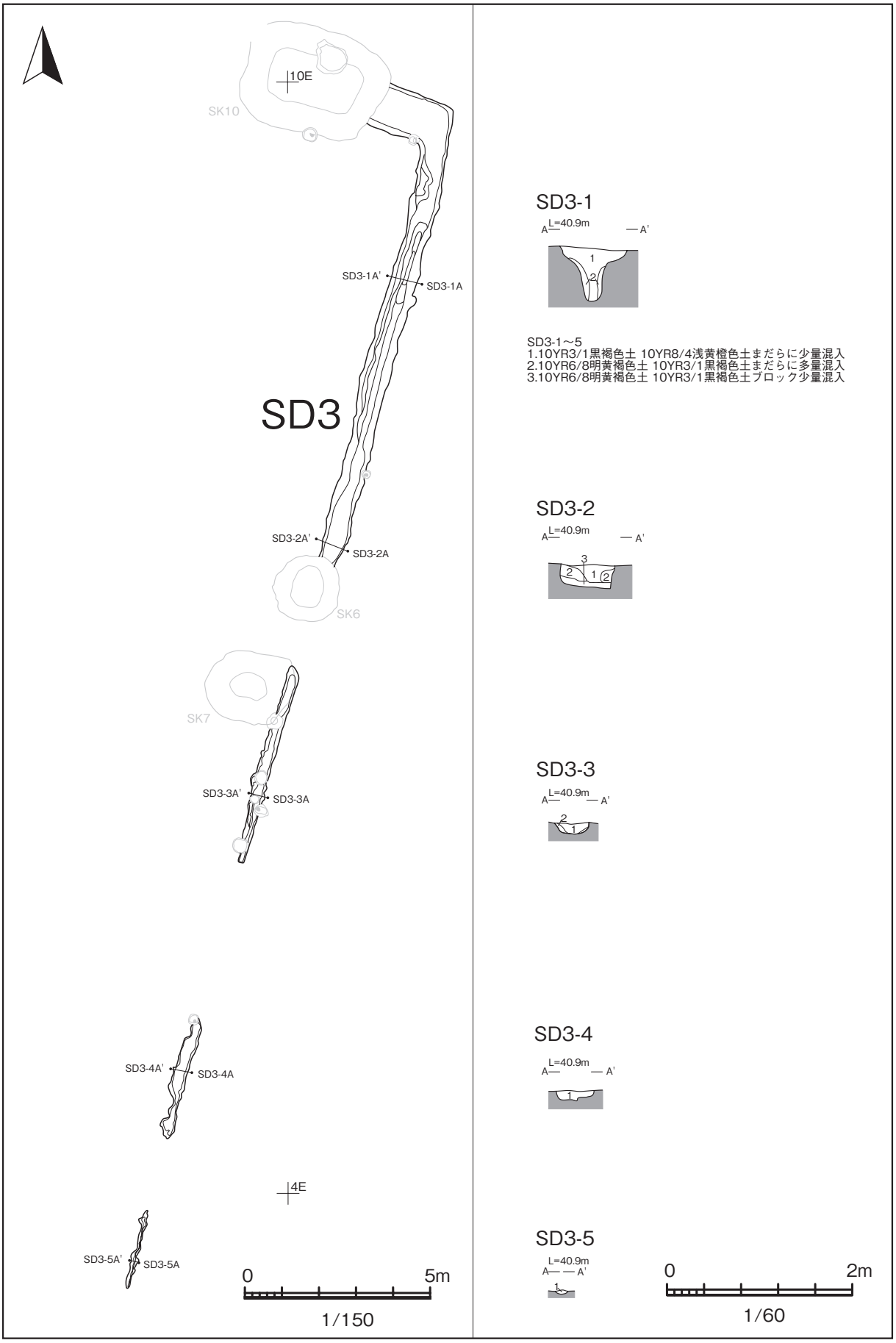

SD2
SD2-1A'
SD2-1A
SD2-2A'
SD2-2A
SD2-3A'
SD2-3A
SD2-4A'
SD2-4A
SK1
SK3
12B
9K
0
5m
1/200
SD2-1
SD2-2
SD2-3
SD2-4
L=41.3m
A
A'
S
1
2
3
0
2m
1/60
SD2-1~4
1.7.5YR2/2黒褐色土 酸化鉄分多量混入
2.5YR4/6赤褐色土 酸化鉄分の沈殿層
3.7.5YR3/2黒褐色土 酸化鉄分多量混入

第86図　SD2

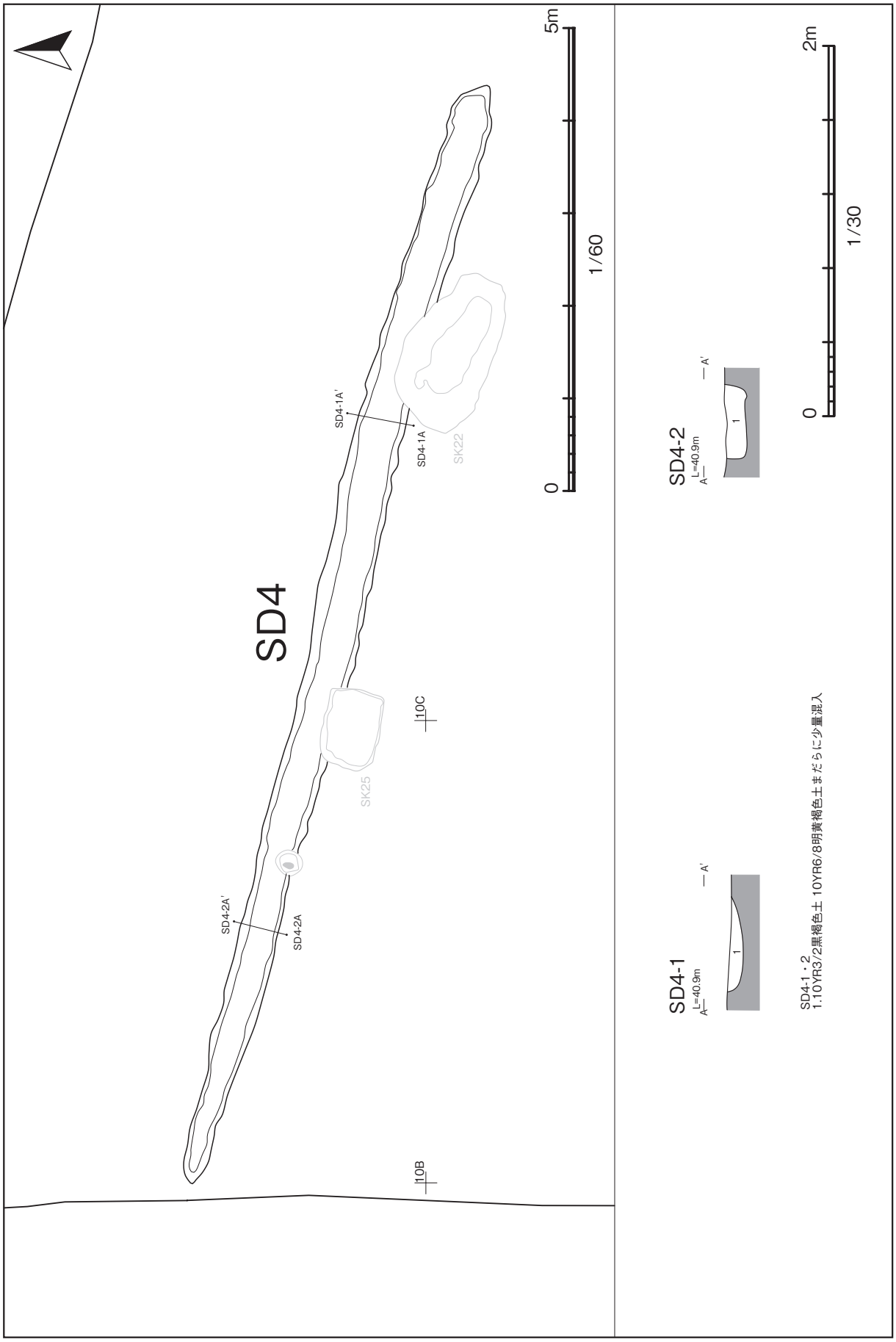
ＳＤ３　（第87図　写真図版73・75）		
位置　３～６Ｄ、６～９Ｅ	**屋敷**　３と４の境界	**時期**　1718年頃
幅　９～110cm	**深さ**　５～58cm	**軸方向**　Ｎ－16°－Ｅ
形態　北端部で西側に曲がるＬ字形を呈する。西端はＳＫ10に切られ、元来の形状は不明である。南北3298cm分、東西は201cm分が検出されている。南北ラインでは２箇所で途切れるが、元来はつながっていたと推測される。		
埋土　１～３層に分かれる。残りの良い溝北側の観察では、材を設置し土を埋めて固定した塀の断面形と観て取れる。		
重複　ＳＫ６、ＳＫ７、ＳＫ10と重複するが本溝が古い。またＳＢ８と重複するが前後関係は不明瞭である。		
出土遺物　埋土中から、16世紀代の中国産白磁皿（103）、17世紀後半代の肥前産磁器碗（203）、17世紀後半～18世紀前半の肥前産陶胎染付碗（418）が出土している。		
断面の形状から、板材を埋めて固定した「板塀」と判断される。屋敷３と屋敷４の境の区画塀と位置付けられる。構築時期は出土遺物から18世紀前半と推測される。「瀬台野御蔵場」の廃絶年代を勘案すると、1718年以降と考えられる。		

ＳＤ４　（第88図　写真図版76）		
位置　10Ｂ～Ｄ	**屋敷**　３	**時期**　近世
幅　25～55cm	**深さ**　８～12cm	**軸方向**　Ｎ－15°－Ｅ（直交した軸方向）
形態　東西長1223cmの真っ直ぐな形状を呈する。断面形は立ち上がりがなだらかなＵ字形の部分が多い。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ22、ＳＫ25と重複し、本溝が古い。またＳＫ13と接するが、おそらく本溝が古い。またＳＢ８とはプランが重複するが直接重複する部分がなく前後関係は不明である。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。道路側溝であるＳＤ２と軸方向が近似し、道路と屋敷３を区画する機能の溝である可能性もある。時期は近世と推測されるが出土遺物、鍵となる遺構との前後関係が不明瞭であり、詳細は不明である。		

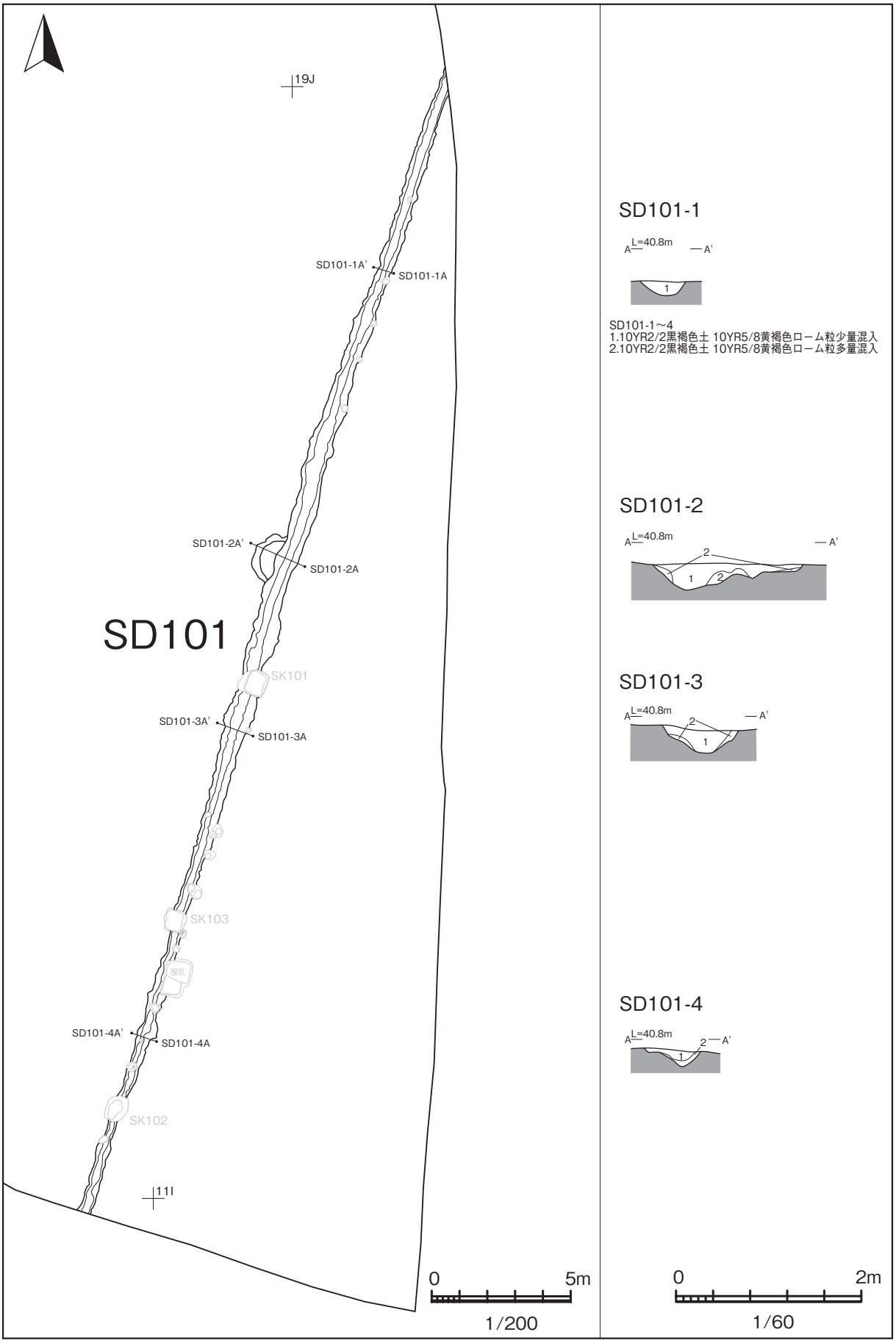
ＳＤ101　（第89図　写真図版77）		
位置　10～12Ｈ、12～15Ｉ、15～18Ｊ、18Ｋ	**屋敷**　１と２の境界	**時期**　18世紀以降
幅　39～155cm	**深さ**　16～27cm	**軸方向**　Ｎ－18°－Ｅ
形態　検出された範囲では4264cmの長さの真っ直ぐな形状を呈する。断面形は立ち上がりがなだらかなＵ字形の部分が多い。水は南から北に流れる傾斜である。		
埋土　１～２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ101、ＳＫ102、ＳＫ103と重複するが、本溝が古い。またＳＢ104、ＳＢ114と重複するが、前後関係は不明瞭である。おそらく本溝の方が新しい。		
出土遺物　埋土中から瀬戸・美濃産陶器皿（454）、瀬戸産陶器擂鉢（476）、大堀相馬産陶器碗（487）が出土した。		
屋敷１と屋敷２を区画する溝である。南側調査区の屋敷の区画であるＳＤ３は板塀であったが、それとは異なり、開口した状態の溝と判断される。水が南から北へ流れるようになっており、排水溝の機能も有すると解釈できる。年代は出土遺物から18世紀代以降に機能していたと推測される。本溝と重複する近世の建物（ＳＢ104、ＳＢ114）があるが、建物の西辺と溝の東縁が接する状態であり、お互いが大きく逸脱する重複ではない。よって、屋敷の境界とそこに属する建物としては矛盾がないと考える。境界溝の掘り返しによって、以前の建物との重複が生じたと解釈したい。		


10E
SK10
SD3-1A'
SD3-1A
SD3
SD3-2A'
SD3-2A
SK6
SK7
SD3-3A'
SD3-3A
SD3-4A'
SD3-4A
4E
SD3-5A'
SD3-5A
0
5m
1/150
SD3-1
A
L=40.9m
A'
1
2
SD3-1～5
1.10YR3/1黒褐色土 10YR8/4浅黄橙色土まだらに少量混入
2.10YR6/8明黄褐色土 10YR3/1黒褐色土まだらに多量混入
3.10YR6/8明黄褐色土 10YR3/1黒褐色土ブロック少量混入
SD3-2
3
SD3-3
SD3-4
SD3-5
0
2m
1/60

第87図　SD3

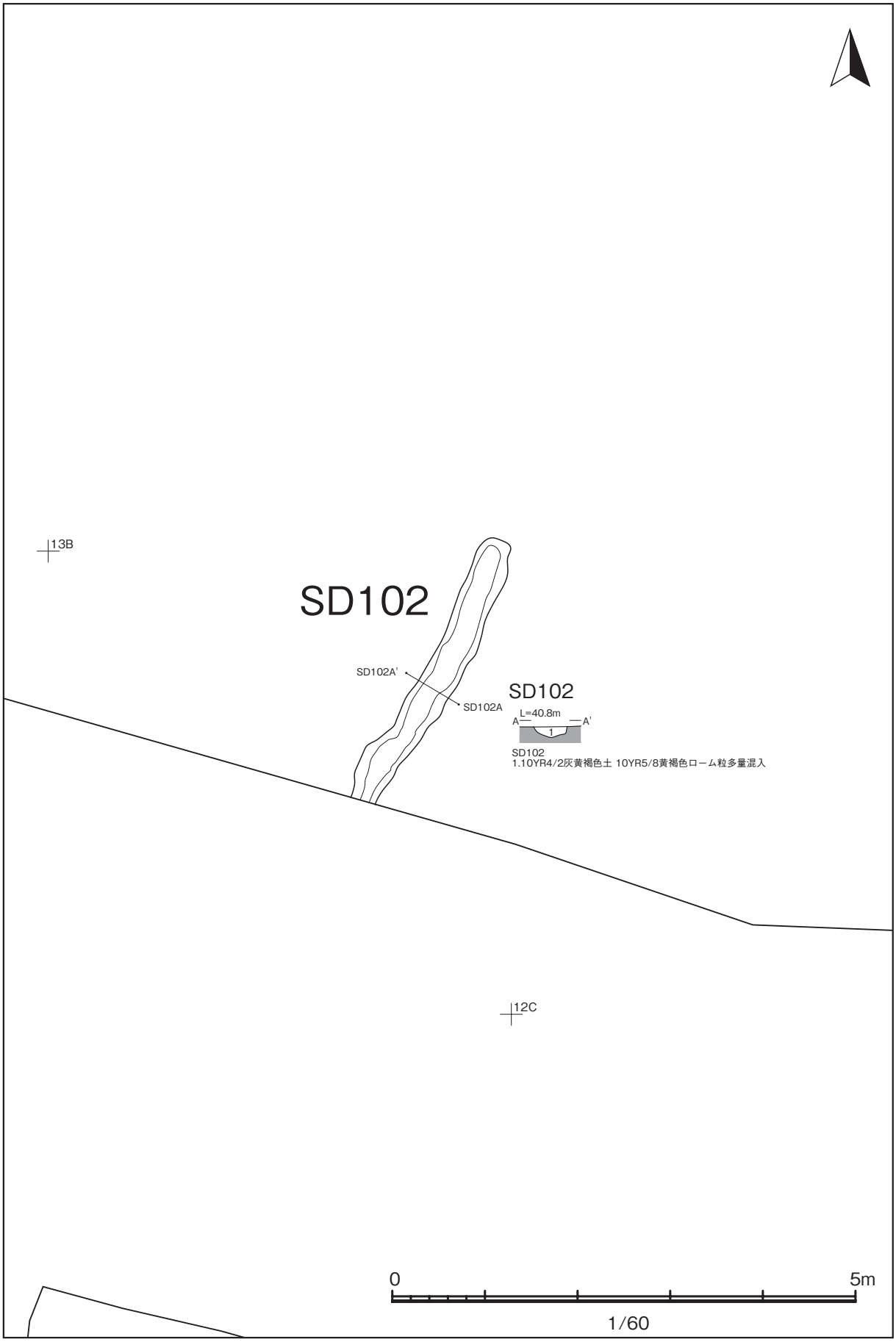

SD4
SD4-1A'
SD4-1A
SK22
SK25
SD4-2A'
SD4-2A
10C
10B
0
5m
1/60
SD4-2
L=40.9m
A
A'
1
SD4-1
L=40.9m
A
A'
1
0
2m
1/30
SD4-1・2
1.10YR3/2黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土まだらに少量混入

第88図　SD4


19J
SD101-1A'
SD101-1A
SD101-2A'
SD101-2A
SD101
SK101
SD101-3A'
SD101-3A
SK103
撹乱
SD101-4A'
SD101-4A
SK102
11I
0
5m
1/200
SD101-1
A
L=40.8m
A'
1
SD101-1～4
1.10YR2/2黒褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒少量混入
2.10YR2/2黒褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒多量混入
SD101-2
A
L=40.8m
A'
2
1
2
SD101-3
A
L=40.8m
A'
2
1
SD101-4
A
L=40.8m
2
A'
1
0
2m
1/60

第89図　SD101

ＳＤ102　（第90図　写真図版78）					
位置　12Ｂ、13Ｂ	**屋敷**　1		**時期**　近世、近代		
幅　32～45㎝		**深さ**　約12㎝		**軸方向**　Ｎ－28°－Ｅ	
形態　調査区外南側に延びるが、検出された分では319㎝の長さの概ね真っ直ぐなプランである。断面形は壁が緩やかに立ち上がる「Ｕ」字形を呈する。					
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。					
重複　なし。					
出土遺物　なし					
性格は不明である。出土遺物、鍵となる遺構との重複もなく年代も不明である。					


13B
SD102
SD102A'
SD102A
SD102
L=40.8m
A
A'
1
SD102
1.10YR4/2灰黄褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒多量混入
12C
0
5m
1/60

第90図　SD102

5　土　　坑

ＳＫ１　（第 91 図　写真図版 79）		
位置　10 Ｃ、10 Ｄ	**屋敷**　3	**時期**　近世
形態等　直径約 150㎝の不整な円形		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＤ２が本土坑より古い。ＳＫ 13 と接するが前後関係は不明。		
出土遺物　埋土中から肥前産磁器碗（231）、肥前産磁器皿（279d）、肥前産磁器火入（315）、大堀相馬産陶器碗（484）、大堀相馬産陶器花瓶（495）が出土している。		
性格は不明である。18 世紀以前の遺物のみ出土しており近世に構築された土坑と解釈される。		

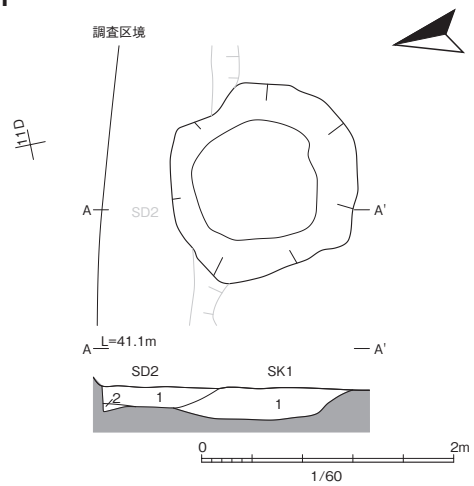
ＳＫ２　（第 91 図　写真図版 79）		
位置　６Ｂ	**屋敷**　3	**時期**　近世～近代
形態等　長径 178㎝、短径 136㎝の楕円形		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物がなく時期等も不明である。		

ＳＫ３　（第 91 図　写真図版 79）		
位置　10 Ｄ	**屋敷**　3	**時期**　20 世紀（廃絶年代）
形態等　長径 172㎝、短径 152㎝の楕円形		
埋土　７層に分かれる。下部は桶を埋設した状態が読み取れる。上部は埋め戻した人為堆積か。		
重複　ＳＤ２と接するが前後関係は不明である。ＳＫ 10 と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　埋土中から常滑産陶器広口壺肩部片（101）、肥前産磁器碗（223）、肥前産磁器碗（233）、瀬戸産陶胎染付碗（449）、瀬戸産片口鉢（464）、大堀相馬産陶器碗（485）、在地産擂鉢（509）、在地産陶器甕（523）が出土している。そのほか図化しなかったがビール瓶片、ランプ火屋の破片が出土している。		
桶を埋設した土坑である。性格は便所と推測される。出土遺物は桶の内部、または上部の埋め戻した土からの出土で土坑の廃棄年代を示す。20 世紀代の廃絶と推測される。		

ＳＫ４　（第 91 図　写真図版 80）		
位置　５Ｅ、６Ｅ	**屋敷**　4	**時期**　18 世紀代
形態等　長径 246㎝、短径 203㎝のやや角ばった楕円形		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ４のプラン内にちょうど納まり、ＳＢ４の内部施設と推測される。		
出土遺物　微細片で図化できなかったが大堀相馬産陶器の藁灰釉の碗が出土している。		
底面が硬化しており形状から厩のくぼみと推測される。ＳＢ４の年代観から 18 世紀代の構築と想定される。		

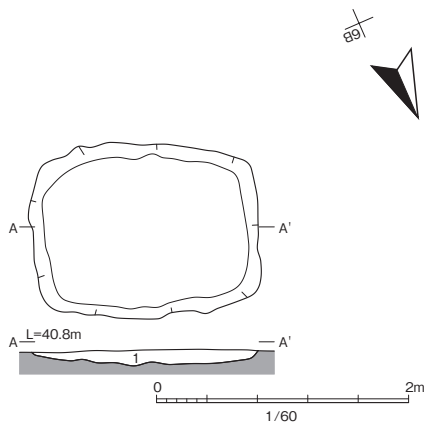
ＳＫ５　（第 91 図　写真図版 80）		
位置　９Ｃ、９Ｄ	**屋敷**　3	**時期**　近代以降　20 世紀代
形態等　長径 130㎝、短径 92㎝の長方形　北辺を除く三面に壁溝が巡る		
埋土　３層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　インク瓶（645）が出土している。そのほかにビール瓶片等が出土している。		
20 世紀以降の土坑である。性格は不明である。		

SK1



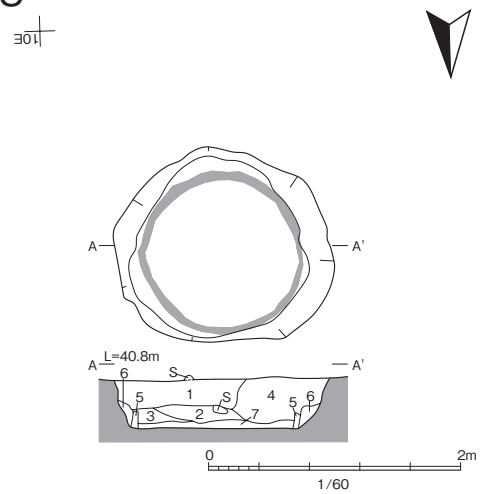
SK1
1.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒少量混入

SK2



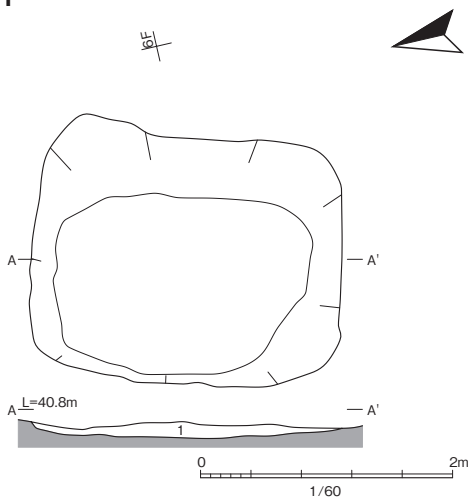
SK2
1.10YR2/1黒色土 草根・炭化物粒少量混入

SK3



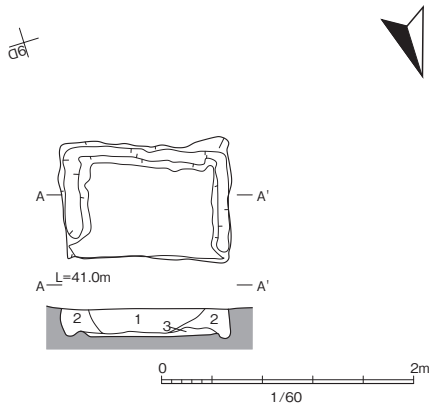
SK3
1.10YR4/2灰黄褐色土 酸化鉄分多量混入
2.10YR4/3にぶい黄褐色土 礫多量混入
3.10YR6/3にぶい黄橙色土 酸化鉄分多量混入
4.10YR3/2黒褐色土 酸化鉄分・炭化物粒多量混入
5.10YR6/1褐灰色土　桶板？の痕跡
6.10YR8/1灰白色土 酸化鉄分多量混入　桶の埋土
7.10YR7/1灰白色土 酸化鉄分多量混入　桶の底板？

SK4



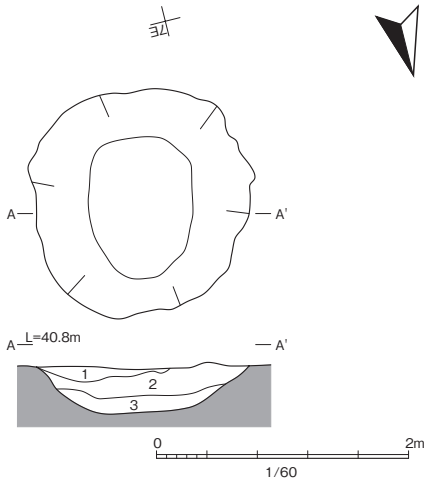
SK4
1.10YR2/2黒褐色土 草根多量混入 しまりあり

SK5



SK5
1.10YR3/2黒褐色土 10YR7/8黄橙色土粒少量混入
2.10YR6/2灰黄褐色砂 10YR3/2黒褐色土多量混入
3.10YR7/8黄橙色土 10YR3/2黒褐色土縞状に混入

SK6



SK6
1.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒少量混入
2.10YR3/3暗褐色土 10YR7/8黄橙色ロームブロック少量混入
3.10YR4/1褐灰色土 礫少量混入

第91図　SK1 ～ SK6

ＳＫ６　（第 91 図　写真図版 80）		
位置　７Ｄ、７Ｅ	**屋敷**　３～４	**時期**　19 世紀以降
形態等　長径 191cm、短径 168cmの不整な円形		
埋土　３層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＤ３、ＳＢ 10 と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　肥前産磁器徳利（308）、在地産陶器擂鉢（504）が出土している。		
性格は不明である。出土遺物から 19 世紀以降の構築である。出土遺物と遺構の前後関係から 19 世紀以降の構築と解釈される。		

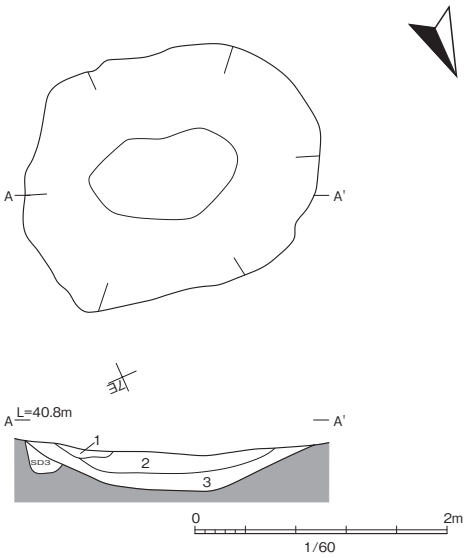
ＳＫ７　（第 92 図　写真図版 80）		
位置　６Ｄ	**屋敷**　３	**時期**　近代以降　20 世紀代
形態等　長径 245cm、短径 192cmの楕円形		
埋土　３層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＤ３と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　砥石（818）が出土している。また図化していないが型紙摺りの碗、銅版転写刷の磁器燗徳利等が出土している。		
性格は不明である。出土遺物から近代以降の構築である。		

ＳＫ８　（第 92 図　写真図版 81）		
位置　６Ｃ、６Ｄ、７Ｃ、７Ｄ	**屋敷**　３	**時期**　18 世紀以降
形態等　長径 235cm、短径 220cmの不整な円形　西端の底部が深くなっている		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ９と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　肥前産陶器碗（415）が出土している。		
性格は不明である。出土遺物から 18 世紀以降の構築と推測される。		

ＳＫ９　（第 92 図　写真図版 81）		
位置　６Ｅ、６Ｆ	**屋敷**　４	**時期**　19 世紀中頃
形態等　長径 96cm、短径 62cmの楕円形		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ４と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　微細片で図化できないが、大堀相馬産陶器の土瓶と推測される破片が出土している。		
性格は不明である。出土遺物から 19 世紀中頃以降の構築と推測される。		

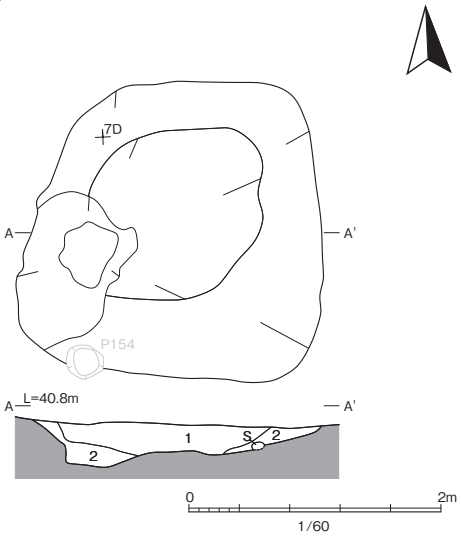
ＳＫ 10　（第 92 図　写真図版 81）		
位置　９Ｄ、９Ｅ、10 Ｄ、10 Ｅ	**屋敷**　３	**時期**　19 世紀代
形態等　長径 381cm、短径 290cmの楕円形		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ３と重複し本土坑が古い。ＳＢ８、ＳＢ９、ＳＤ３と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　肥前産磁器碗（226）、大堀相馬産陶器碗（483）、在地産陶器擂鉢（503）が出土している。		
性格は不明である。出土遺物と遺構の前後関係から 19 世紀代以降の構築と推測される。近代以降のものは出土しておらず 20 世紀代には下らないと思われる。		

SK7



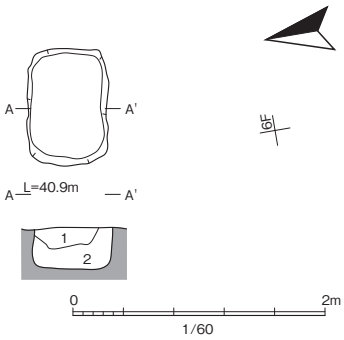
SK7
1.10YR1.7/1黒色土 有機鉄分多量混入
2.10YR2/1黒色土 10YR5/1褐灰色土縞状に多量混入
3.10YR3/2黒褐色土 木片混入

SK8



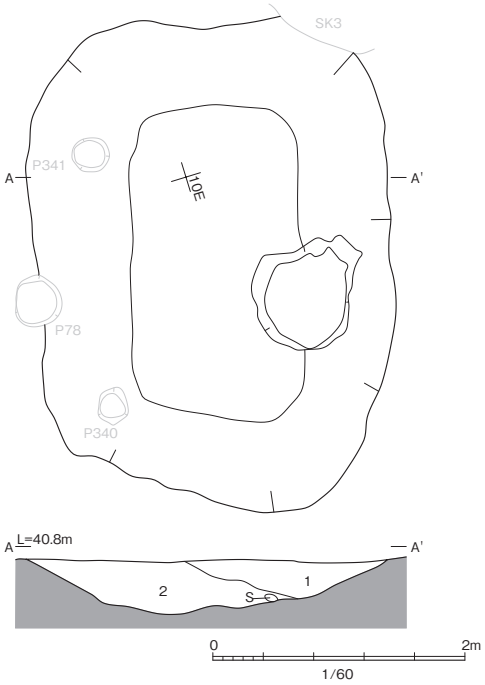
SK8
1.10YR4/1褐灰色土 炭化物少量混入
2.10YR5/2灰黄褐色土 10YR4/1褐灰色土まだらに多量混入

SK9



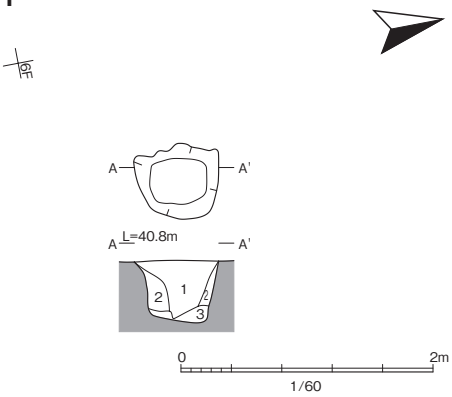
SK9
1.10YR4/2灰黄褐色土 10YR7/8黄橙色土まだらに多量混入
2.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒少量混入

SK10



SK10
1.10YR3/2黒褐色土 砂多量混入
2.10YR4/1褐灰色土 酸化鉄分多量混入

SK11



SK11
1.10YR3/1黒褐色土 10YR7/8黄橙色土粒多量混入
2.10YR7/8黄橙色土 10YR3/1黒褐色土まだらに少量混入
3.7.5YR6/8橙色土 酸化鉄分多量混入

第92図　SK7 ～ SK11

ＳＫ 11　（第 92 図　写真図版 81）		
位置　６Ｆ	**屋敷**　４	**時期**　近世後半以降
形態等　長径 65cm、短径 58cmの不整な円形		
埋土　３層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ４、ＳＢ 14 と重複し、本土坑が新しい。		
出土遺物　非常に摩耗した縄文土器？の微細片が出土した。		
性格は不明である。時期も不明であるがＳＢ４より新しく近世でも後半以降の可能性が高い。		

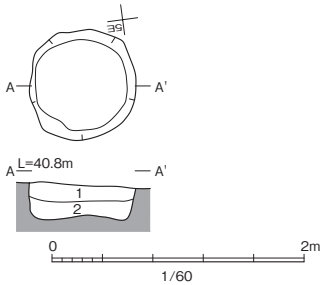
ＳＫ 12　（第 93 図　写真図版 82）		
位置　５Ｅ	**屋敷**　３	**時期**　近世以降
形態等　直径約 95cmの円形		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ５、ＳＢ６、ＳＫ 23 と重複するが本土坑が新しい。		
出土遺物　埋土中から中国産染付皿（104）が出土した。		
性格は不明である。出土遺物は 16 世紀代の染付皿であるが、本土坑の年代は重複する遺構との前後関係から、近世以降の年代が想定される。		

ＳＫ 13　（第 93 図　写真図版 82）		
位置　10 Ｃ	**屋敷**　３	**時期**　近代以降
形態等　長径 280cm、短径 250cmの楕円形である。		
埋土　３層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ８と重複するが本土坑が新しい。またＳＤ４と接するが前後関係は不明瞭である。		
出土遺物　肥前産磁器碗（210）、肥前磁器色絵油壺（309）、肥前産陶器蓋付碗（426）が出土した。		
性格は不明である。出土遺物は 18 世紀よりも新しい年代のものはなく、18 世紀代の構築、廃棄と推測される。		

ＳＫ 14　（第 93 図　写真図版 82）		
位置　７Ｃ、８Ｃ	**屋敷**　３	**時期**　近世以降か？
形態等　直径約 69cmの円形である。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし		
性格は不明である。底面に凹凸があり植栽痕の可能性もある。		

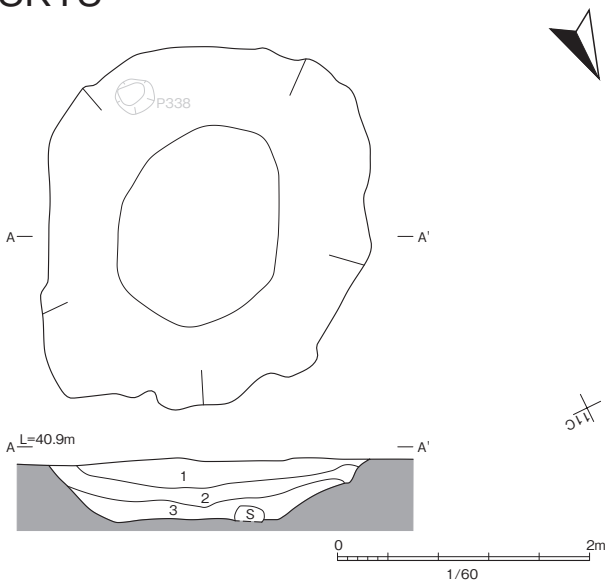
ＳＫ 15　（第 93 図　写真図版 82）		
位置　７Ｃ	**屋敷**　３	**時期**　近世以降か？
形態等　直径約 78cmの円形である。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　石製品の香炉（836）が出土している。		
性格は不明である。底面に凹凸があり植栽痕の可能性もある。近接して同様の遺構ＳＫ 14 がある。		

SK12



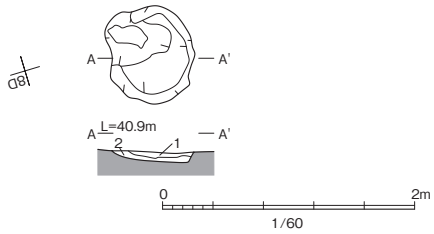
SK12
1.10YR5/2灰黄褐色土 10YR7/8黄橙色ブロックまだらに多量混入
2.10YR5/3にぶい黄褐色土 10YR3/2黒褐色土粒多量混入

SK13



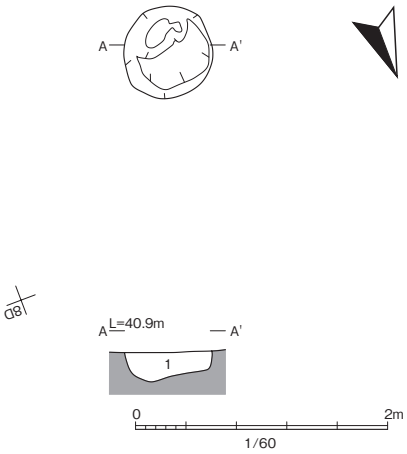
SK13
1.10YR3/2黒褐色土 10YR7/8黄橙色土ブロック多量混入
2.10YR2/1黒色土 10YR7/8黄橙色ロームブロック少量混入
3.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒少量混入

SK14



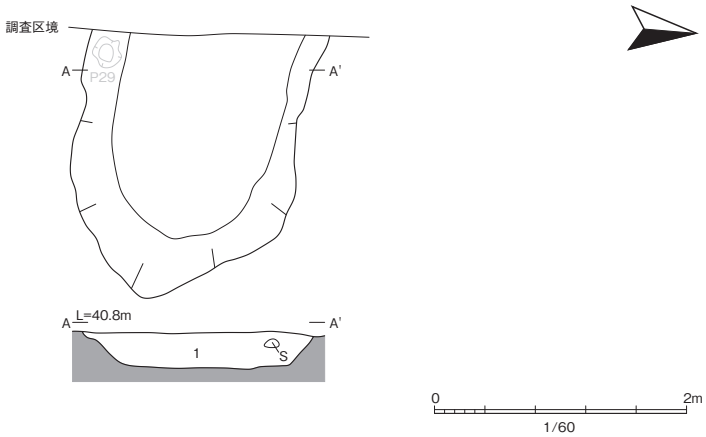
SK14
1.10YR6/4にぶい黄橙色土 10YR4/1褐灰色土まだらに少量混入
2.10YR4/1褐灰色土 10YR2/1黒色土縞状に多量混入

SK15



SK15
1.10YR6/8明黄褐色土粒多量混入

SK16



SK16
1.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒少量混入

第93図　SK12 ～ SK16

ＳＫ 16　（第 93 図　写真図版 83）		
位置　10 Ａ、10 Ｂ	**屋敷**　３	**時期**　18 世紀代
形態等　プランが調査区外に延びるため全体形が不明であるが検出した分では長径 218㎝以上、短径 123㎝の楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　肥前産磁器皿（289）が出土した。そのほか図化していないが 18 世紀代の肥前産磁器碗、大堀相馬産碗が出土している。		
性格は不明である。出土遺物は 18 世紀代の陶磁器のみであり 18 世紀代に年代が納まると思われる。		

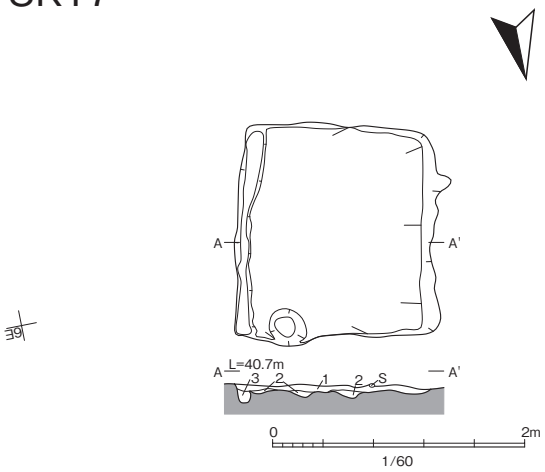
ＳＫ 17　（第 94 図　写真図版 83）		
位置　５Ｄ、６Ｄ	**屋敷**　３	**時期**　近世～近代
形態等　南北長 170㎝、東西長 158㎝の長方形を呈する。		
埋土　３層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ９とプランが重複するが直接切合う部分がなく前後関係は不明である。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。東壁に溝状の掘込みがある。出土遺物もなく時期も不明である。		

ＳＫ 18　（第 94 図　写真図版 83）		
位置　６Ｄ	**屋敷**　３	**時期**　近世～近代
形態等　直径 140㎝の円形である。		
埋土　５層に分かれる。３層、４層は埋設した桶の痕跡である。５層は桶を埋めた土である。		
重複　ＳＢ９、ＳＢ 10 とプランが重複するが直接切合う部分がなく前後関係は不明である。		
出土遺物　なし。		
桶を埋設した土坑である。出土遺物や鍵となる遺構との切合いがなく年代は不明である。		

ＳＫ 19　（第 94 図　写真図版 83）		
位置　７Ｂ、７Ｃ、８Ｂ、８Ｃ	**屋敷**　３	**時期**　近世～近代
形態等　長径 225㎝、短径 118㎝の楕円形である。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。底面に凹凸があり植栽痕の可能性もある。		

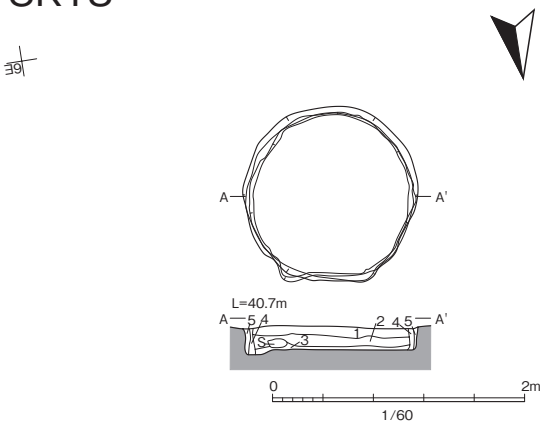
ＳＫ 20　（第 94 図　写真図版 84）		
位置　５Ｄ	**屋敷**　３	**時期**　近世
形態等　長径 128㎝、短径 104㎝の楕円形である。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 13 のプラン内にちょうど納まり、同時存在の可能性が高い。		
出土遺物　なし。		
ＳＢ 13 のプラン内にちょうど納まり付属施設と考えられるが具体的な性格は不明である。桶を埋設した痕跡も見いだせない。ＳＢ 13 の年代から近世のものと思われる。		

SK17



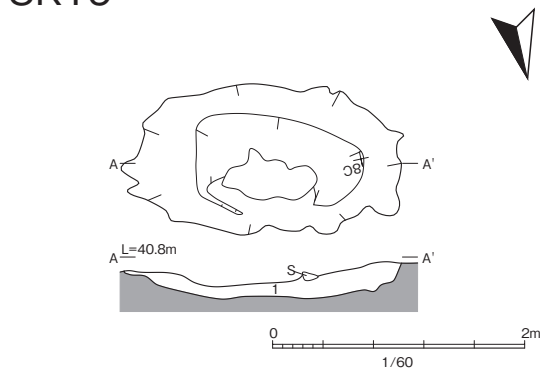
SK17
1.10YR3/1黒褐色土 炭化物粒少量混入
2.10YR8/6黄橙色土 10YR3/1黒褐色土まだらに少量混入
3.10YR6/8明黄褐色土 10YR2/1黒色土縞状に混入

SK18



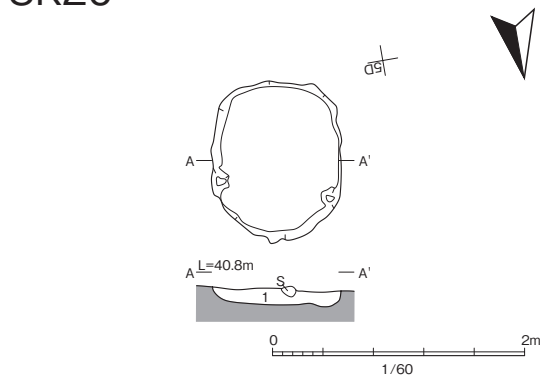
SK18
1.10YR3/2黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ロームブロック少量混入
2.10YR4/1褐灰色土 酸化鉄分多量混入
3.10G7/1明緑灰色土　桶底の痕跡
4.10YR5/1褐灰色土　桶側板の痕跡
5.10YR6/8明黄褐色土 10YR3/2黒褐色土まだらに少量混入　桶を埋設した土

SK19



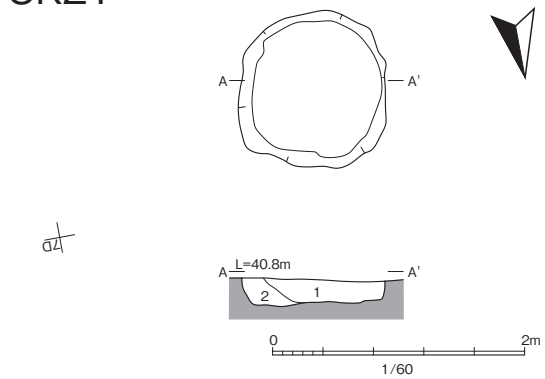
SK19
1.10YR2/1黒色土 10YR6/8明黄褐色土まだらに少量混入、炭化物粒少量混入

SK20



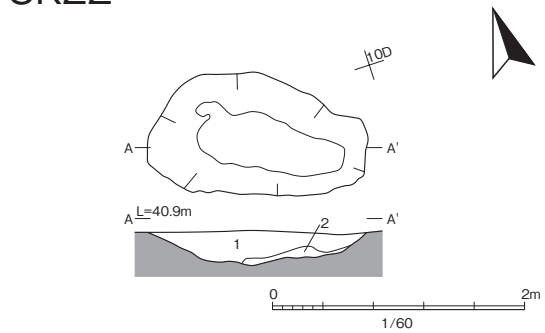
SK20
1.10YR3/2黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土まだらに多量混入

SK21



SK21
1.10YR3/1黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土まだらに多量混入
2.10YR6/8明黄褐色土 10YR3/1黒褐色土まだらに多量混入
　底面で桶？の痕跡　円形に見える

SK22



SK22
1.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒少量混入
2.10YR6/8明黄褐色土 10YR3/2黒褐色土まだらに混入

第94図　SK17 ～ SK22

ＳＫ 21　（第 94 図　写真図版 84）		
位置　６Ｃ	**屋敷**　３	**時期**　近世～近代
形態等　直径約 117㎝の円形である。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
底面に桶の痕跡と思われる円形の圧痕が見られ桶を埋設した土坑の可能性がある。時代は不詳である。		

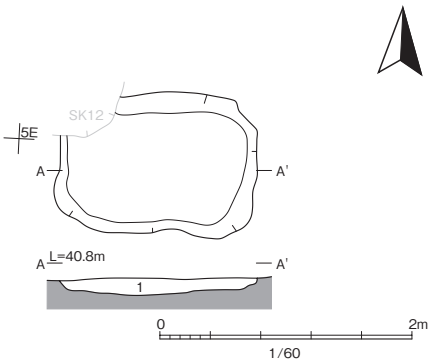
ＳＫ 22　（第 94 図　写真図版 84）		
位置　９Ｃ、10 Ｃ	**屋敷**　３	**時期**　近世～近代
形態等　長径 165㎝、短径 99㎝の楕円形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＤ４と重複し本土坑が新しい。またＳＢ８とプランが重複するが直接切合う部分がなく前後関係は不明であるがおそらく本土坑が新しい。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。時代も不明である。		

ＳＫ 23　（第 95 図　写真図版 84）		
位置　４Ｅ、５Ｅ	**屋敷**　４	**時期**　近世か？
形態等　長径 159㎝、短径 108㎝の楕円形である。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 12 と重複し本土坑が古い。ＳＢ５のプラン内にちょうど納まり同時存在の可能性もある。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。ＳＢ５に伴う施設の可能性もあるが確定できない。伴う内部施設であれば年代は近世となる。		

ＳＫ 24　（第 95 図　写真図版 85）		
位置　４Ｈ	**屋敷**　４	**時期**　近代以降
形態等　長径 131㎝、短径 93㎝のやや角ばった楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　近代以降と思われる磁器微細片（図化不能）が出土した。		
性格は不明である。出土遺物から近代以降の土坑と判断される。		

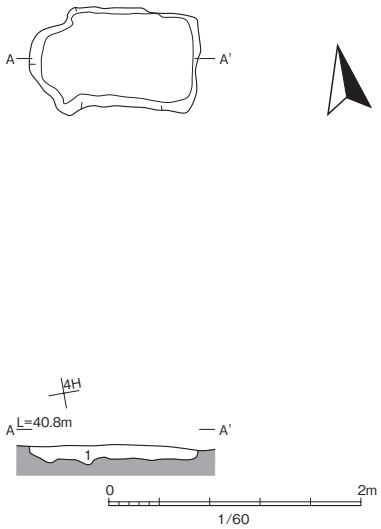
ＳＫ 25　（第 95 図　写真図版 85）		
位置　10 Ｂ、10 Ｃ	**屋敷**　３	**時期**　近代以降
形態等　東西長 96㎝、南北長 64㎝の長方形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＤ４と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　図化できなかったが近代以降の型紙摺磁器皿が出土した。		
性格は不明である。出土遺物から近代以降のものと思われる。		

SK23



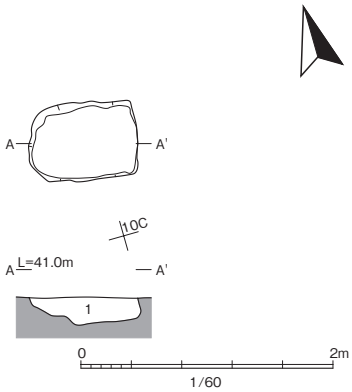
SK23
1.10YR3/2黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土まだらに多量混入

SK24



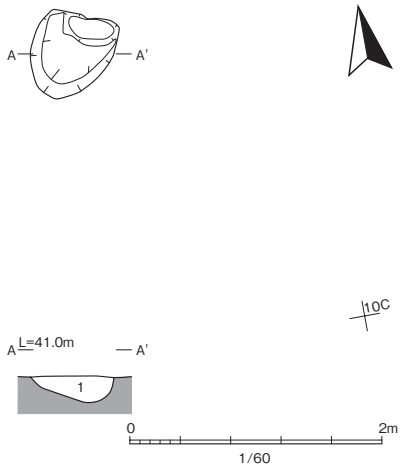
SK24
1.10YR4/2灰黄褐色土 炭化物粒少量混入

SK25



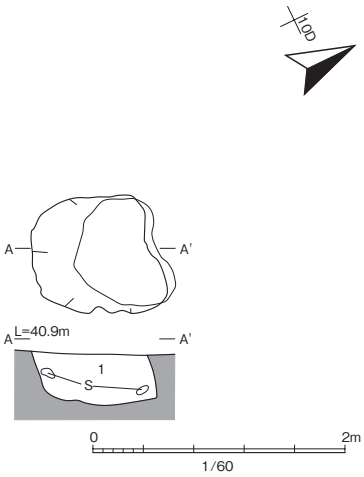
SK25
1.10YR4/3にぶい黄褐色土 10YR7/8黄橙色土ブロック・焼土ブロック多量混入

SK26



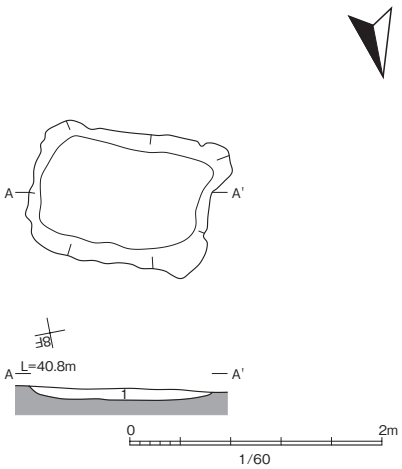
SK26
1.10YR4/3にぶい黄褐色土 炭化物粒少量混入

SK27



SK27
1.10YR3/2黒褐色土 10YR7/8黄橙色土ブロック多量混入 炭化物粒少量混入

SK28



SK28
1.10YR2/1黒色土 10YR6/8明黄褐色土粒多量混入

第95図　SK23 ～ SK28

ＳＫ 26　（第 95 図　写真図版 85）		
位置　10 Ｂ	**屋敷**　3	**時期**　近世～近代
形態等　長径 69cm、短径 56cmの楕円形を呈する。		
埋土　1 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし		
性格は不明である。底面に凹凸があり植栽痕の可能性もある。時代も不明である。		

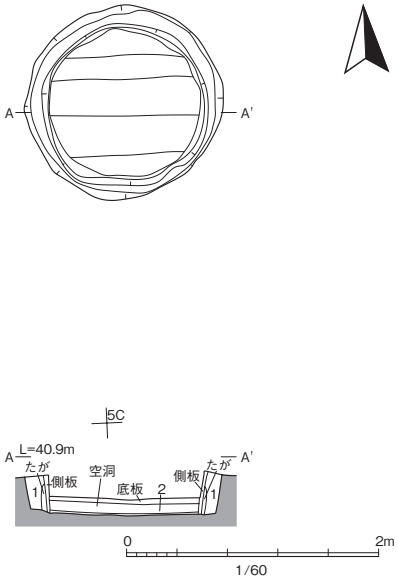
ＳＫ 27　（第 95 図　写真図版 85）		
位置　9 Ｄ	**屋敷**　3	**時期**　19 世紀以降
形態等　直径 105cm～ 128cmの不整な円形を呈する。		
埋土　1 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ８のプラン内に位置するが切合う部分がなく前後関係は不明である。		
出土遺物　在地産の擂鉢小片（図化不能）が出土している。		
性格は不明である。出土遺物から 19 世紀以降のものと思われる。ＳＢ８との前後関係は出土遺物から本土坑が新しいと推測される。		

ＳＫ 28　（第 95 図　写真図版 85）		
位置　7 Ｅ	**屋敷**　4	**時期**　近世～近代
形態等　長径 143cm、短径 115cmの楕円形を呈する。		
埋土　1 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物、鍵となる遺構の重複がなく時代は不明である。		

ＳＫ 29　（第 96 図　写真図版 86）		
位置　5 Ｂ、5 Ｃ	**屋敷**　3	**時期**　近代以降
形態等　直径 158cmの円形を呈する。		
埋土　2 層に分かれる。桶を埋設した土坑であり 1 層は桶を埋設した土である。桶の板材も残存している。		
重複　なし。		
出土遺物　20 世紀以降のビール瓶（653）が桶内から出土した。砥石（824）が出土した。		
桶を埋設した土坑であり、便所の遺構と解釈される。廃棄年代は出土遺物から 20 世紀前半以降である。構築年代は不明であるが近代以降と思われる。		

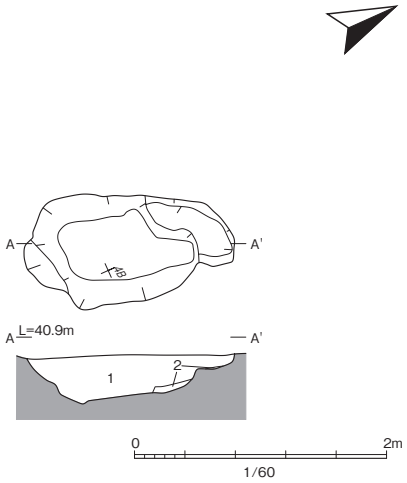
ＳＫ 30　（第 96 図　写真図版 87）		
位置　3 Ａ、3 Ｂ、4 Ａ、4 Ｂ	**屋敷**　3	**時期**　近代以降か？
形態等　長径 160cm、短径 105cmの楕円形を呈する。		
埋土　2 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　鉄片が出土したが近代以降のものと思われる。図化はしていない。		
性格は不明である。出土した鉄片からおそらく近代以降のものと思われる。		

SK29



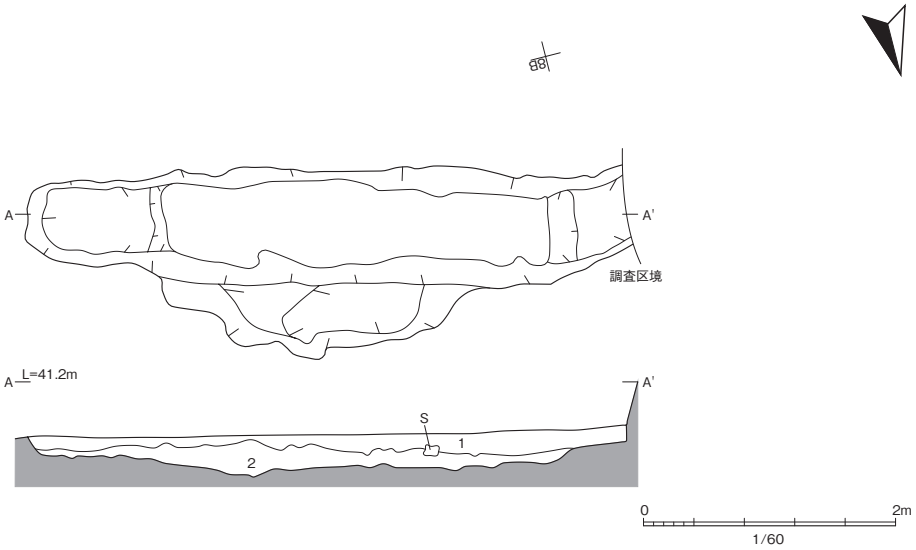
SK29
1.10YR6/8明黄褐色土 10YR4/1褐灰色土まだらに混入　桶の埋設土
2.10YR2/1黒色土 10G7/1明緑灰色土まだらに混入

SK30



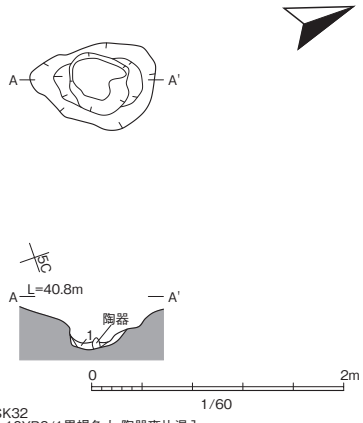
SK30
1.10YR3/1黒褐色土 酸化鉄分多量混入
2.10YR7/6明黄褐色土 10YR3/1黒褐色土まだらに混入

SK31



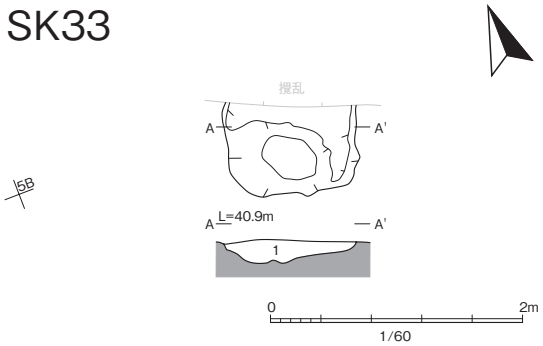
SK31
1.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒多量混入
2.10YR5/3にぶい黄褐色土 10YR7/8黄橙色土ブロック多量混入

SK32



SK32
1.10YR3/1黒褐色土 陶器甕片混入

SK33



SK33
1.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒少量混入

第96図　SK29 ～ SK33

ＳＫ 31　（第 96 図　写真図版 87）		
位置　８Ａ、８Ｂ	**屋敷**　３	**時期**　18 世紀か？
形態等　プランが調査区外に延びるが、検出された分では幅 95cm、長さ 460cm以上の溝状の形態に、不整な張出し部が付く形態である。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　瀬戸産陶器蓋（469）、瀬戸産陶器擂鉢（474）、砥石（834）が出土した。		
性格は不明である。出土遺物は 18 世紀代に納まる陶器のみであり、18 世紀代のものである可能性が高い。		

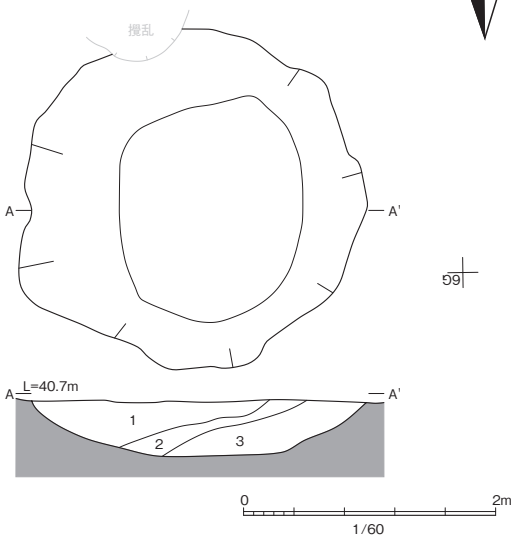
ＳＫ 32　（第 96 図　写真図版 87）		
位置　５Ｂ	**屋敷**　３	**時期**　19 世紀以降
形態等　長径 103cm、短径 66cmの楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　在地産陶器甕（524）が出土した。		
性格は不明である。出土遺物の年代から 19 世紀以降のものと思われる。		

ＳＫ 33　（第 96 図　写真図版 87）		
位置　４Ｂ、５Ｂ	**屋敷**　３	**時期**　20 世紀以降
形態等　北側を攪乱に壊されるが長形 102cm、短径 70cm程度の楕円形と推測される。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　攪乱に壊されるが遺構との重複はなしである。		
出土遺物　ガラス製クリーム瓶（641）が出土した。		
性格は不明である。時代は出土遺物から 20 世紀以降のものと思われる。		

ＳＫ 34　（第 97 図　写真図版 88）		
位置　５Ｇ、６Ｇ	**屋敷**　４	**時期**　18 世紀か？
形態等　直径 270cm～ 305cmの円形を呈する。		
埋土　３層に分かれる。自然堆積と思われる。		
重複　攪乱に一部壊されるが遺構との重複はなしである。		
出土遺物　肥前産陶胎染付碗（417）、土人形（531）が出土した。		
性格は不明である。出土遺物から 18 世紀代のものかと思われる。		

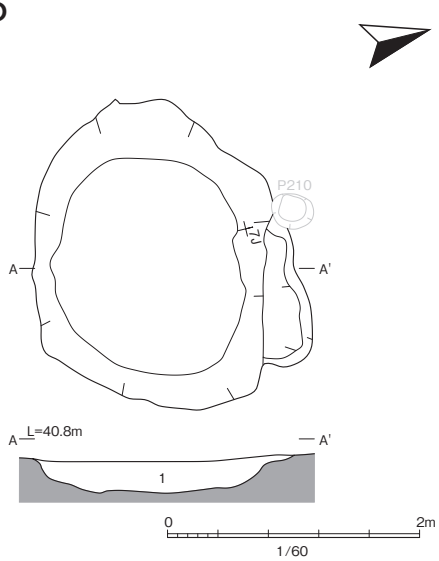
ＳＫ 35　（第 97 図　写真図版 88）		
位置　６Ｉ、６Ｊ	**屋敷**　４	**時期**　近世以降
形態等　長径 248cm、短径 198cmの楕円形である。北側に不整な張出しが付く。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ７と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。ＳＢ７より新しく近世以降のものと思われる。		

SK34



SK34
1.10YR3/1黒褐色土 酸化鉄分多量混入
2.10YR4/2灰黄褐色土 10YR3/1黒褐色土まだらに混入
3.10YR2/2黒褐色土 10YR4/2灰黄褐色土ブロック多量混入

SK35

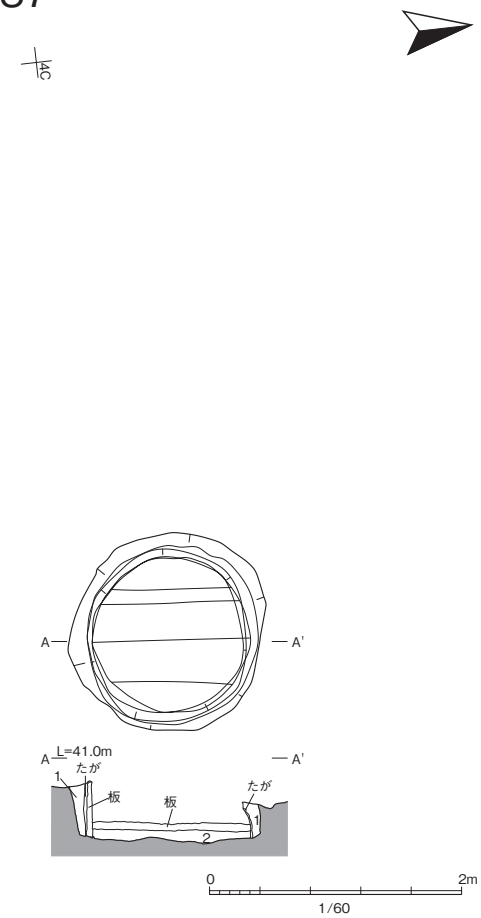


SK35
1.10YR3/2黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土粒少量混入

SK36

SK36
1.10YR2/1黒色土 炭化物粒少量混入

SK37



SK37
1.10YR6/8明黄褐色土 10YR3/1黒褐色土まだらに混入　桶の埋設土
2.5G明緑灰色土 10YR6/1褐灰色土まだらに多量混入　泥状になっている

第97図　SK34 ～ SK37

ＳＫ 36　（第 97 図　写真図版 88）		
位置　３Ｆ、４Ｆ	**屋敷**　４	**時期**　近世～近代
形態等　最大径 190㎝の不整な形状を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＤ１と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　なし。		
不整な形状で底面にも凹凸があり植栽痕かと思われる。時代は出土遺物がなく不明である。		

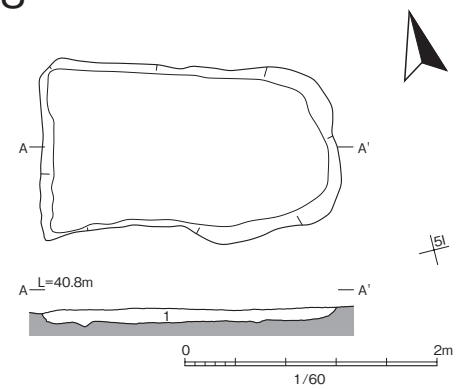
ＳＫ 37　（第 97 図　写真図版 89）		
位置　３Ｃ、４Ｃ、４Ｄ	**屋敷**　３	**時期**　近代以降
形態等　直径約 149㎝の円形である。		
埋土　２層に分かれる。桶を埋設した土坑であり、１層は桶を埋設した土である。桶の板材、たがも残っている。		
重複　なし。		
出土遺物　図化していないが、リアカー？のホイールが桶内にあった。		
桶を埋設した土坑であり、便所の遺構と解釈される。廃棄年代は出土遺物から 20 世紀前半以降である。構築年代は不明であるが近代以降と思われる。		

ＳＫ 38　（第 98 図　写真図版 88）		
位置　５Ｈ	**屋敷**　４	**時期**　近代以降
形態等　東西長 240㎝、南北長 125㎝の隅丸長方形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　明治時代の竜一銭銅貨（725）が出土した。また、図化していないが、磁器型紙摺り皿片も出土している。		
性格は不明である。時期は出土した貨幣から 19 世紀後半以降のものと推測される。		

ＳＫ 39　（第 98 図　写真図版 89）		
位置　６Ｇ	**屋敷**　４	**時期**　近世、近代
形態等　南北長 211㎝、東西長 91㎝の隅丸長方形である。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。また、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく、時期は不明である。		

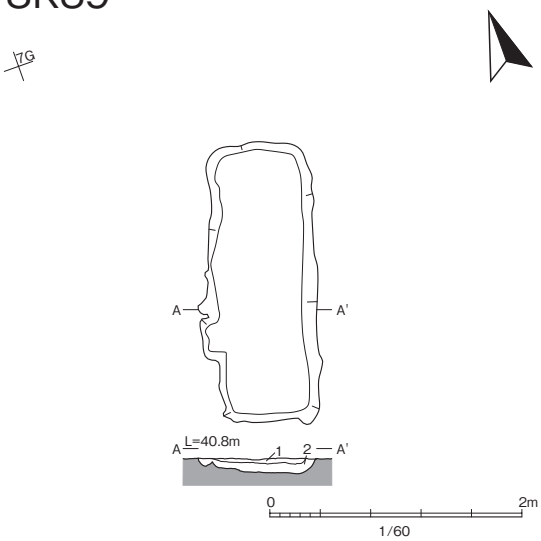
ＳＫ 40　（第 98 図　写真図版 90）		
位置　８Ｉ	**屋敷**　４	**時期**　近世、近代
形態等　長径 126㎝、短径 90㎝の楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。また、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく、時期は不明である。		

SK38



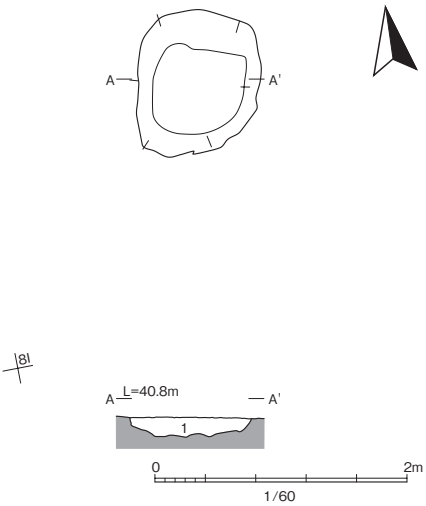
SK38
1.10YR3/2黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土ブロック多量混入 炭化物粒少量混入

SK39



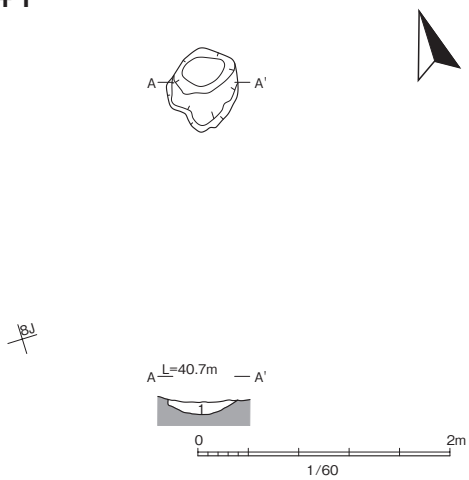
SK39
1.10YR3/2黒褐色土 10YR7/8黄橙色土ブロック多量混入
2.10YR6/8明黄褐色土 10YR3/2黒褐色土まだらに少量混入

SK40



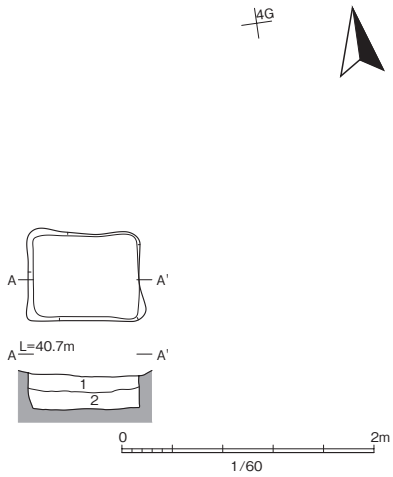
SK40
1.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒少量混入

SK41



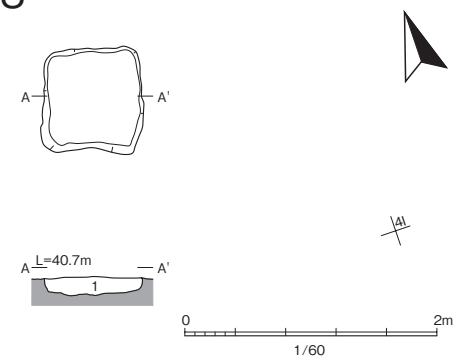
SK41
1.7.5YR3/2黒褐色土 焼土粒多量混入 炭化物粒多量混入

SK42



SK42
1.10YR8/3浅黄橙色土 10YR3/2黒褐色土縞状に少量混入
2.10YR3/2黒褐色土 10YR8/3浅黄橙色土縞状に少量混入

SK43



SK43
1.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒少量混入

第98図　SK38 ～ SK43

ＳＫ 41　（第 98 図　写真図版 90）		
位置　８Ｊ	**屋敷**　４	**時期**　近世、近代
形態等　直径約 60cmの不整な円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
不整な形状で、底面にも凹凸があり、植栽痕の可能性もある。また、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく、時期は不明である。		

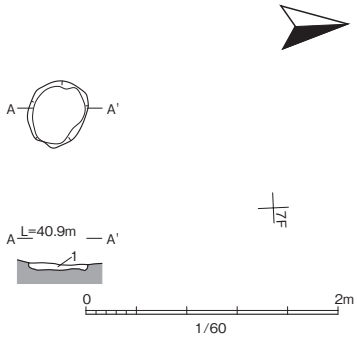
ＳＫ 42　（第 98 図　写真図版 90）		
位置　３Ｆ	**屋敷**　４	**時期**　近世、近代
形態等　東西長 90cm、南北長 70cmの長方形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。また、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく、時期は不明である。		

ＳＫ 43　（第 98 図　写真図版 90）		
位置　４Ｈ	**屋敷**　４	**時期**　近世、近代
形態等　一辺約 90cmの不整な方形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。また、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく、時期は不明である。		

ＳＫ 44　（第 99 図　写真図版 91）		
位置　６Ｅ	**屋敷**　４	**時期**　近世、近代
形態等　長径 55cm、短径 46cmの楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。また、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく、時期は不明である。		

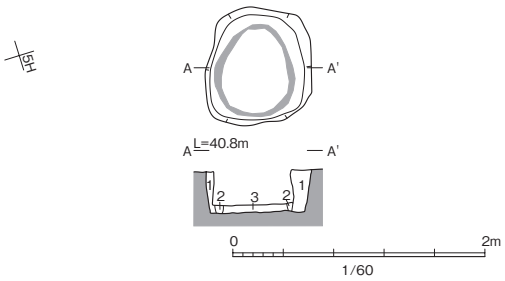
ＳＫ 45　（第 99 図　写真図版 91）		
位置　５Ｈ	**屋敷**　４	**時期**　近代以降か
形態等　長径 102cm、短径 85cmの楕円形を呈する。		
埋土　３層に分かれる。桶を埋設した土坑であり、１層は桶を埋設した土である。		
重複　攪乱と重複するが、遺構との切合い関係はない。		
出土遺物　なし。		
桶を埋設した土坑である。桶は楕円形の形態のものである。お湯沸し用の「小風呂」を転用し埋設したものと思われる。時期は近代以降と推測される。		

SK44



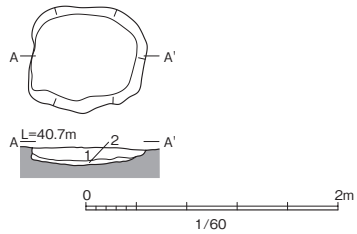
SK44
1.10YR3/2黒褐色土 10YR7/2にぶい黄橙色土粒多量混入

SK45



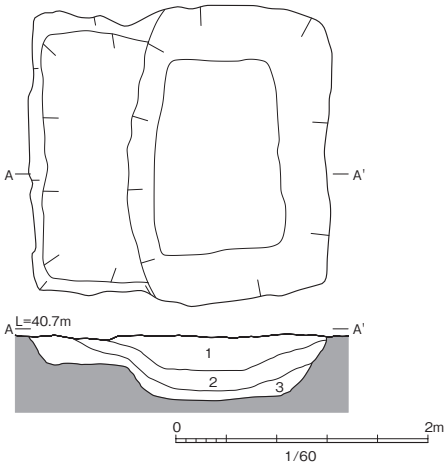
SK45
1.10YR6/8明黄褐色土 10YR8/1灰白色土ブロック多量混入　桶の埋設土
2.10YR4/2灰黄褐色土　桶枠の痕跡
3.10YR5/6黄褐色土　桶底の痕跡

SK46



SK46
1.10YR4/1褐灰色土 炭化物粒少量混入
2.10YR4/1褐灰色土 10YR3/2黒褐色土・10YR6/8明黄褐色土まだらに多量混入

SK47



SK47
1.10YR3/2黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ブロック多量混入 礫少量混入
2.10YR4/1褐灰色土 10YR6/8明黄褐色ブロック多量混入
3.10YR4/4褐色土 酸化鉄分多量混入

第99図　SK44 ～ SK47

ＳＫ 46　（第 99 図　写真図版 91）		
位置　５Ｇ、６Ｇ	**屋敷**　４	**時期**　近世、近代
形態等　長径 100cm、短径 95cmの楕円形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。また、出土遺物、鍵となる遺構との重複がなく、時期は不明である。		

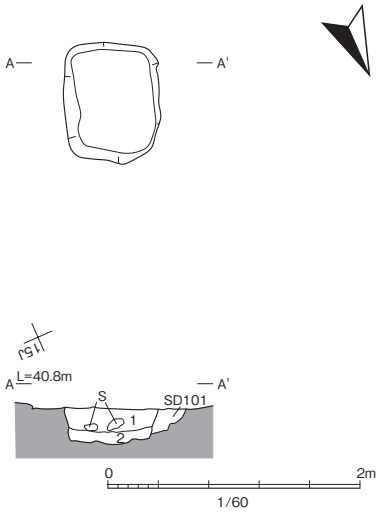
ＳＫ 47　（第 99 図　写真図版 91）		
位置　２Ｄ、２Ｅ	**屋敷**　４	**時期**　近代以降
形態等　南北長 235cm、東西長 154cmの長方形のプランの西側に、南北長 210cm、東西長 85cmのテラス状の張出しが付く形状である。		
埋土　３層に分かれる。自然堆積と推測される。		
重複　なし。		
出土遺物　肥前産染付碗（209）が出土した。この他、図化していないが、白色ガラス製のランプの笠片が出土している。		
性格は不明である。近世の磁器碗が出土しているが、近代以降のランプの笠も出土しており。近代以降の土坑と推測する。		

ＳＫ 101　（第 100 図　写真図版 92）		
位置　14 Ｉ	**屋敷**　２	**時期**　近世以降
形態等　南北長 95cm、東西長 75cmの長方形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＤ 101、ＳＩ 101 と重複するが、本土坑が新しい。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。時期はＳＤ 101 より新しいので近世以降と解釈される。		

ＳＫ 102　（第 100 図　写真図版 92）		
位置　11 Ｈ	**屋敷**　１～２	**時期**　近代以降
形態等　長径 101cm、短径 83cmの楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＤ 101 と重複するが、本土坑が新しい。		
出土遺物　図化不能であるが、近代以降の型紙摺り磁器皿片が出土している。		
性格は不明である。時期は出土遺物から近代以降と解釈される。		

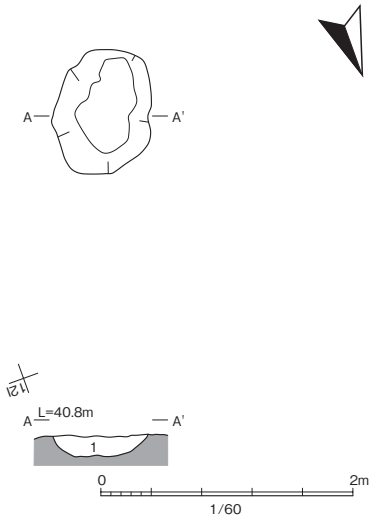
ＳＫ 103　（第 100 図　写真図版 92）		
位置　12 Ｉ、13 Ｉ	**屋敷**　１～２	**時期**　近世以降
形態等　南北長 75cm、東西長 70cmの長方形を呈する。		
埋土　３層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＤ 101 と重複するが、本土坑が新しい。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。時期はＳＤ 101 より新しいので近世以降と解釈される。		

SK101



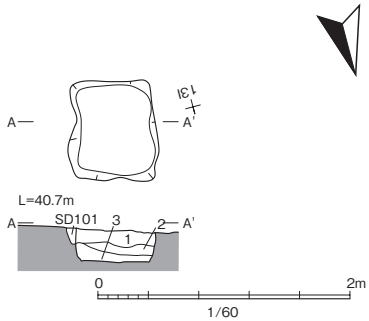
SK101
1.10YR2/2黒褐色土 10YR5/8黄褐色土粒少量混入
2.10YR2/3黒褐色土 10YR5/8黄褐色土粒少量混入 1層よりしまりなし

SK102



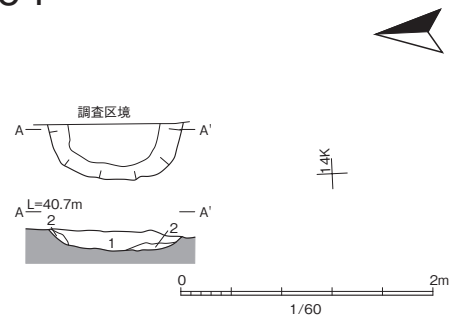
SK102
1.10YR2/3黒褐色土 10YR5/8黄褐色ロームブロック多量混入 草根多量混入

SK103



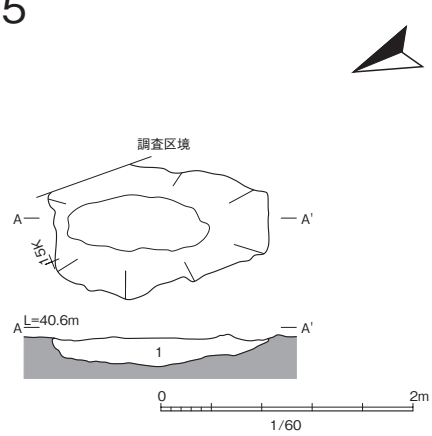
SK103
1.10YR2/3黒褐色土 10YR5/8黄褐色ロームブロック多量混入
2.10YR2/3黒褐色土 10YR5/8黄褐色ロームブロック非常に多量混入
3.10YR4/3にぶい黄褐色土 砂っぽい しまりなし

SK104



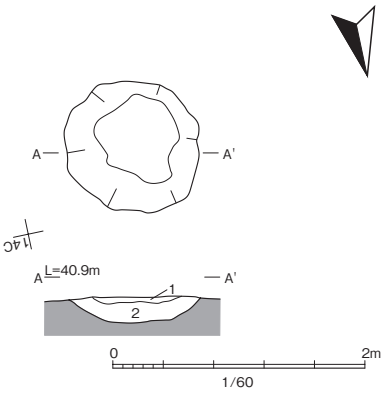
SK104
1.10YR2/2黒褐色土 にぶい黄褐色土粒少量混入
2.10YR5/4にぶい黄褐色土 10YR2/2黒褐色土多量混入

SK105



SK105
1.10YR2/1黒色土 しまりなし

SK106



SK106
1.10YR2/3黒褐色土 10YR5/6黄褐色土粒少量混入
2.10YR2/3黒褐色土 10YR5/6黄褐色土ブロック多量混入

第100図　SK101 ～ SK106

ＳＫ 104　（第 100 図　写真図版 92）		
位置　14 Ｋ	**屋敷**　2	**時期**　近世～近代
形態等　プランが調査区外に伸びるが、直径約 1101cmの円形と推測される。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＩ 101 と重複するが本土坑が新しい。またＳＢ 109 とプランが重複するが、直接切合う部分ががなく前後関係は不明である。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物がなく、鍵となる遺構との重複もなく時期は不明である。		

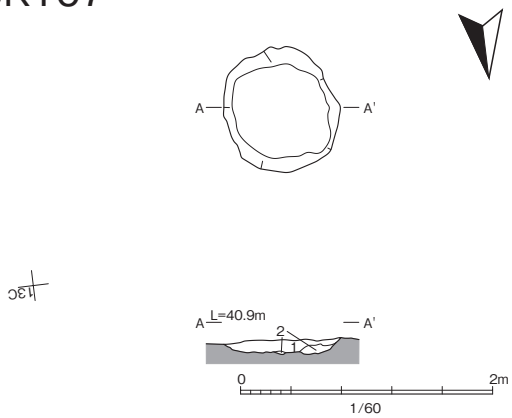
ＳＫ 105　（第 100 図　写真図版 93）		
位置　14 Ｊ、14 Ｋ	**屋敷**　2	**時期**　近世～近代
形態等　プランの一部が調査区外にかかるが、長径 165cm、短径 105cmの楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＩ 101 と重複するが本土坑が新しい。またＳＢ 109 とプランが重複するが、直接切合う部分ががなく前後関係は不明である。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物がなく、鍵となる遺構との重複もなく時期は不明である。		

ＳＫ 106　（第 100 図　写真図版 93）		
位置　13 Ｂ	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　直径約 104cmの円形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 139 とプランが重複するが、直接切合う部分ががなく前後関係は不明である。		
出土遺物　図化していないが、アルミニウムと思われる金属片が出土している。		
性格は不明である。出土した金属片から近代以降のものと解釈される。		

ＳＫ 107　（第 101 図　写真図版 93）		
位置　12 Ｂ	**屋敷**　1	**時期**　近世～近代
形態等　長径 99cm、短径 90cmの楕円形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物がなく、鍵となる遺構との重複もなく時期は不明である。		

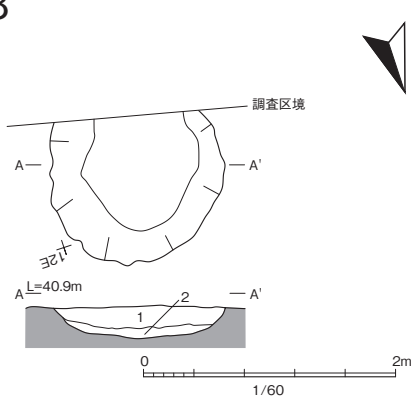
ＳＫ 108　（第 101 図　写真図版 93）		
位置　11 Ｄ、11 Ｅ	**屋敷**　2	**時期**　近代以降
形態等　プランが調査区外に伸びるが、直径約 140cmの円形と推測される。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　肥前産陶器刷毛目碗（422）、砥石（815）が出土している。また微細片で図化不能であるが、近代以降の磁器片が出土している。		
性格は不明である。出土遺物から近代以降のものと推測される。		

SK107



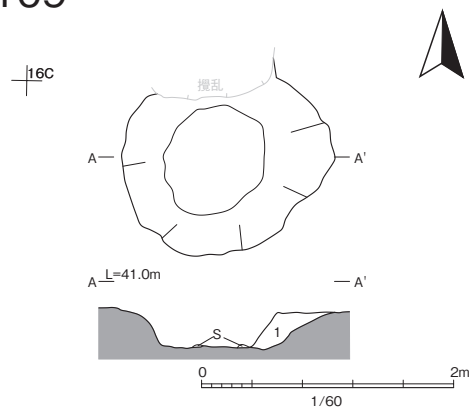
SK107
1.10YR3/2黒褐色土 草根多量混入
2.10YR5/6黄褐色土 10YR3/2黒褐色土まだらに少量混入

SK108



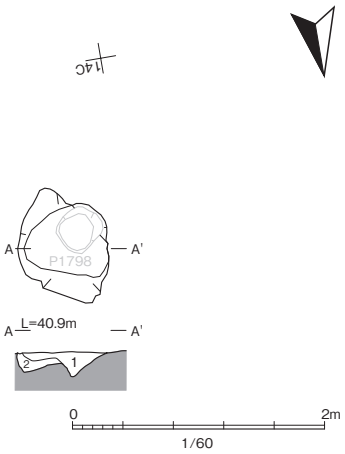
SK108
1.10YR2/3黒褐色土 炭化物粒少量混入
2.10YR2/3黒褐色土 10YR5/6黄褐色土粒多量混入

SK109



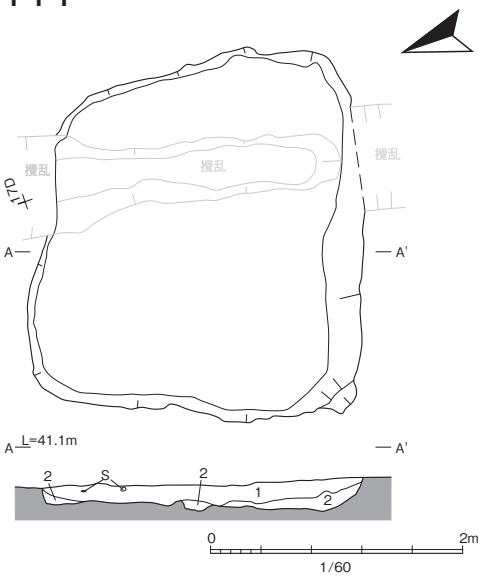
SK109
1.10YR2/3黒褐色土 炭化物粒少量混入

SK110



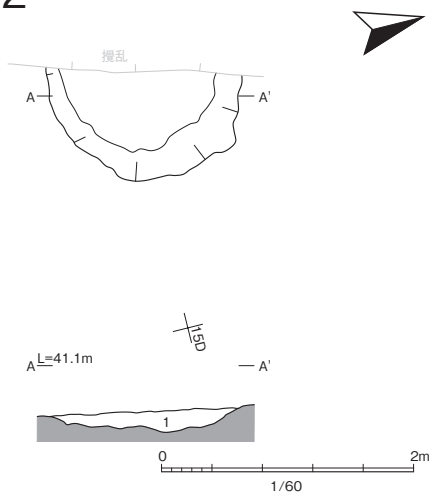
SK110
1.10YR2/2黒褐色土 10YR5/6黄褐色土粒少量混入 草根多量混入
2.10YR5/6黄褐色土 10YR2/2黒褐色土粒少量混入

SK111



SK111
1.10YR3/1黒褐色土 草根多量混入
2.10YR5/6黄褐色土 10YR3/1黒褐色土まだらに多量混入

SK112



SK112
1.10YR2/2黒褐色土 草根多量混入

第101図　SK107 ～ SK112

ＳＫ 109　（第 101 図　写真図版 94）		
位置　15 C	**屋敷**　1	**時期**　18 世紀代か
形態等　攪乱によって北側が損なわれるが、直径約 166cmの円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　攪乱によってプランが壊されているが、遺構との重複はない。		
出土遺物　肥前産陶胎染付鉢（427）が出土している。また図化していないが、18 世紀代の肥前産磁器皿の微細片が出土している。		
性格は不明である。出土遺物から 18 世紀代の遺構と推測される。		

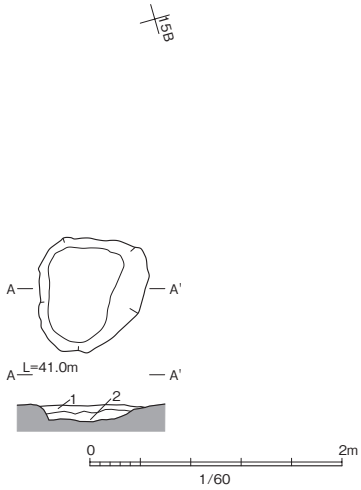
ＳＫ 110　（第 101 図　写真図版 94）		
位置　14 C	**屋敷**　1	**時期**　近世以降
形態等　最大径 103cmの不整な円形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 139 と重複するが、本土坑がおそらく新しい。		
出土遺物　なし。		
不整な形状で底面にも凹凸があり、植栽痕の可能性がある。時期はＳＢ 139 より新しいことから近世以降と推測される。		

ＳＫ 111　（第 101 図　写真図版 94）		
位置　16 C、16 D	**屋敷**　1	**時期**　近世～近代
形態等　長径 125cm、短径 100cmの楕円形		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　攪乱によってプランが壊されているが、遺構との重複はない。		
出土遺物　土師器長胴甕の微細片（図化不能）が出土している。		
性格は不明である。時期を推測できる出土遺物がなく、鍵となる遺構との切合いもなく時期は不詳である。		

ＳＫ 112　（第 101 図　写真図版 94）		
位置　14 C、15 C	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　攪乱によりプランが壊されているが、直径約 154cmの円形と推測される。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　攪乱によってプランの西側が損なわれている。遺構との重複はなしである。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物、鍵となる遺構との重複はなく時期も不明である。		

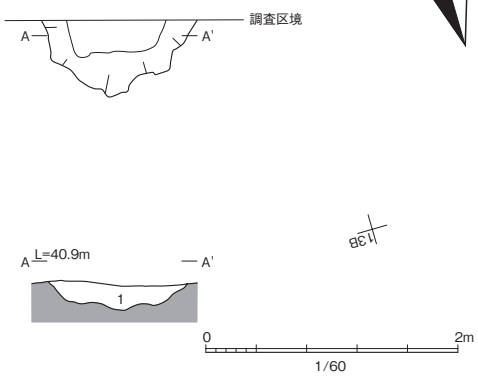
ＳＫ 113　（第 102 図　写真図版 95）		
位置　14 B	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　長径 100cm、短径 90cmの楕円形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 133 と重複するが本土坑が新しい。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。近世の建物ＳＢ 133 より新しいので近世以降のものである。		

SK113



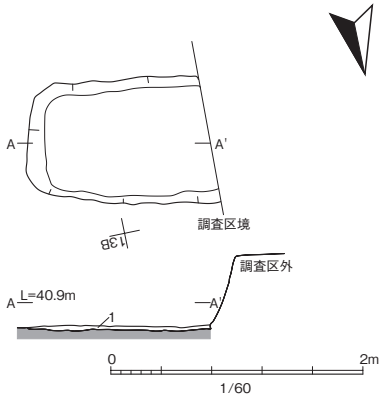
SK113
1.10YR2/2黒褐色土 草根多量混入
2.10YR7/6明黄褐色土 10YR2/2黒褐色土粒少量混入

SK114



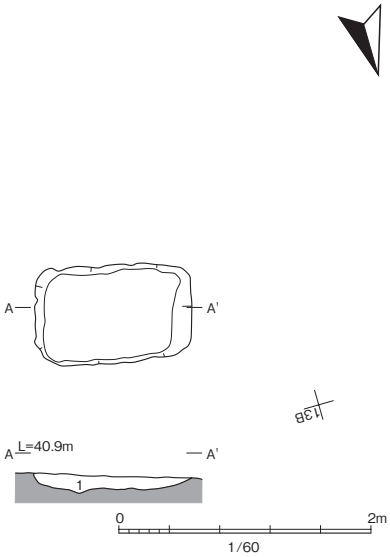
SK114
1.10YR2/2黒褐色土 草根多量混入

SK116



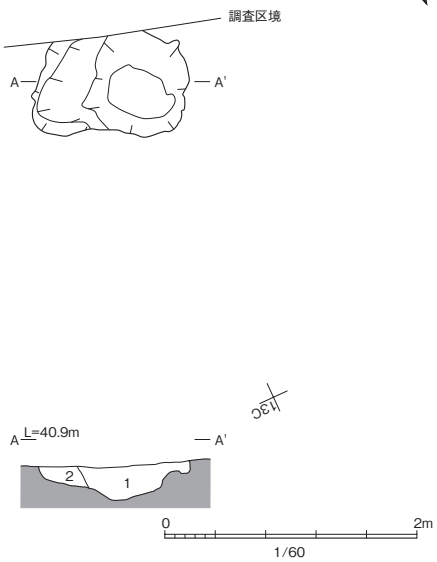
SK116
1.10YR8/3浅黄橙色土 10YR5/1褐灰色土まだらに少量混入　人為的に埋めた土

SK115



SK115
1.10YR8/3浅黄橙色土 10YR5/1褐灰色土まだらに多量混入　人為的に埋めた土

SK117



SK117
1.10YR2/1黒色土 草根多量混入
2.10YR4/2灰黄褐色土 草根多量混入

第102図　SK113～SK117

ＳＫ 114　（第 102 図　写真図版 95）		
位置　12 B	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　プランが調査区外に延びるが、直径約 120cmの円形と推測される。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
形状が不整で底面に凹凸があり植栽痕の可能性がある。出土遺物、鍵となる遺構との重複はなく時期は不明である。		

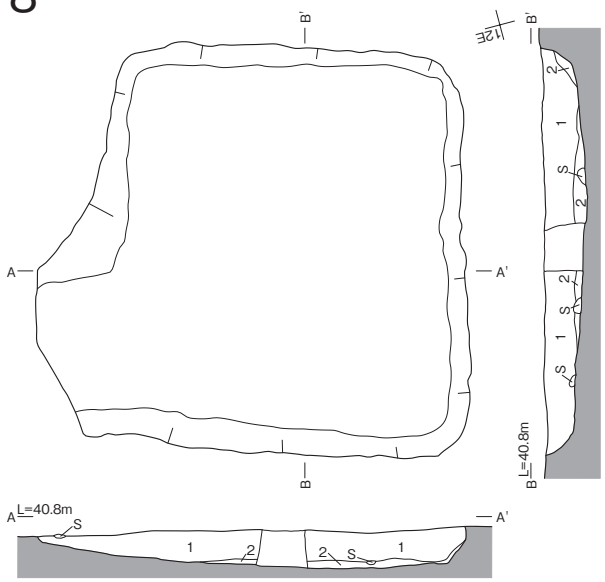
ＳＫ 115　（第 102 図　写真図版 95）		
位置　12 B	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　東西長 124cm、南北長 78cmの長方形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積と推測される。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物、鍵となる遺構との重複はなく時期も不明である。		

ＳＫ 116　（第 102 図　写真図版 95）		
位置　12 A、B	**屋敷**　1	**時期**　19 世紀以降
形態等　プランが調査区外に延びるが、南北長 101cm、東西長 148cm以上の長方形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積と推測される。		
重複　なし。		
出土遺物　微細片で図化不能であるが、焼き継痕のある磁器染付片が出土している。		
性格は不明であるが、隣接するＳＫ 115 と形状埋土が類似しており同じ機能のものと思われる。時期は出土遺物から 19 世紀以降のものと思われる。		

ＳＫ 117　（第 102 図　写真図版 96）		
位置　12 B、C	**屋敷**　2	**時期**　近世、近代
形態等　長径 123cmの不整な形状を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
形状が不整で底面に凹凸があり植栽痕の可能性がある。出土遺物、鍵となる遺構との重複はなく時期も不明である。		

ＳＫ 118　（第 103 図　写真図版 96）		
位置　11 E、12 E	**屋敷**　1	**時期**　近世～近代
形態等　南北長 326cm、東西長 262cmの方形のプランで、東壁北側に 160cm× 60cmのスロープ状の張り出しが付く。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　図化していないが白色ガラスのランプ笠が出土している。		
土坑の形状から厩のくぼみと思われる。伴う掘立柱建物は存在しないが、礎石建物が伴っていたと推測される。時期は出土遺物から近代以降まで機能していたと解釈される。		

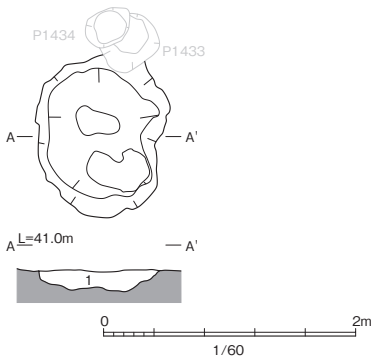
SK118



SK118
1.10YR4/2灰黄褐色土 炭化物粒・焼土粒少量混入
2.10YR1.7/1黒色土 炭化物粒多量混入

0　2m
1/60

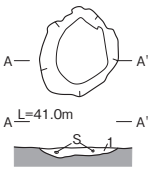
SK119



0　2m
1/60

SK119
1.10YR3/2黒褐色土 草根多量混入 黄橙色ロームブロック多量混入

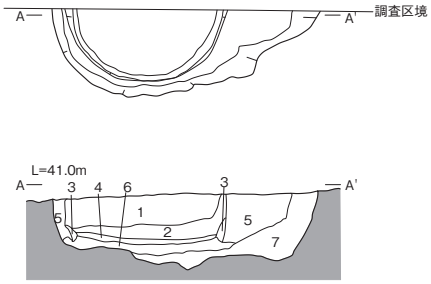
SK120



0　2m
1/60

SK120
1.10YR3/2暗褐色土 10YR5/8黄褐色ロームブロック多量混入

SK121



0　2m
1/60

SK121
1.10YR3/1黒褐色土 10YR5/8黄褐色土粒多量混入 草根多量混入
2.10YR3/2黒褐色土 10YR5/8黄褐色土ブロック多量混入
3.10YR3/3暗褐色土 しまりなし　桶の側板痕
4.10YR3/3暗褐色土 しまりなし　桶の座板痕
5.10YR4/6褐色土 10YR3/1黒褐色土・10YR5/8黄褐色土まだらに多量混入 しまりあり　桶を埋めた土
6.10YR5/2灰黄褐色土 10YR7/1灰白色土まだらに多量混入
7.10YR2/2黒褐色土 10YR5/8黄褐色土ブロック少量混入

第103図　SK118 ～ SK121

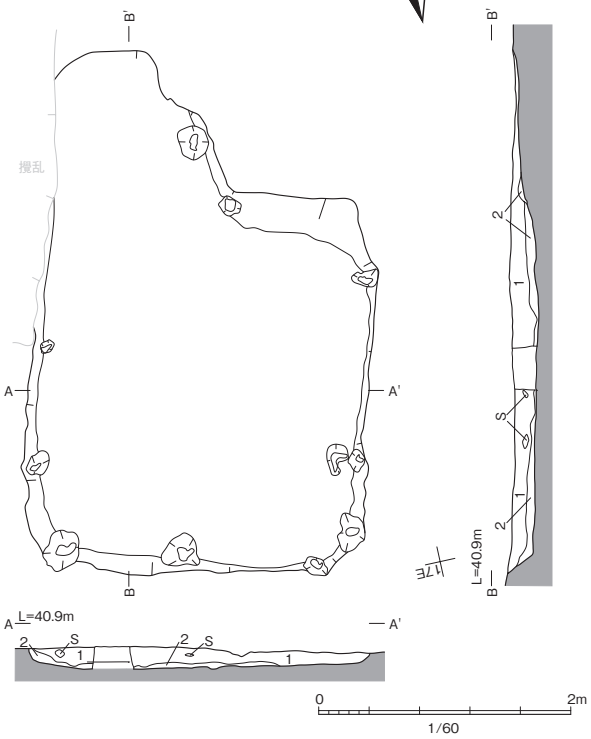
ＳＫ 119　（第 103 図　写真図版 96）		
位置　16 F	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　長径 128cm、短径 100cmの楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし		
出土遺物　なし。		
不整な形状で底面にも凹凸があり、植栽痕の可能性がある。出土遺物、鍵となる遺構との重複はなく時期も不明である。		

ＳＫ 120　（第 103 図　写真図版 97）		
位置　17 F	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　直径約 60cmの円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
不整な形状で底面にも凹凸があり、植栽痕の可能性がある。出土遺物、鍵となる遺構との重複はなく時期も不明である。		

ＳＫ 121　（第 103 図　写真図版 97）		
位置　11 E	**屋敷**　1	**時期**　近世～近代
形態等　プランが調査区外に延びるが、長径 210cm、短径 65cm以上の楕円形を呈する。		
埋土　７層に分かれる。桶を埋設した土坑であり、５層は桶を埋めた土、３層と４層は桶の板材に由来する土である。		
重複　なし。		
出土遺物　肥前産磁器皿（258）が出土している。また、図化不能であるが 19 世紀中頃の陶器土瓶片が出土している。		
桶を埋設した土坑である。桶の直径は約 115cmである。桶内の埋土から出土した陶器土瓶の年代から廃絶は 19 世紀中以降である。構築年代は近世にさかのぼる可能性がある。		

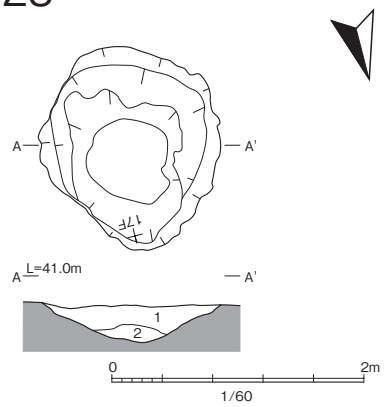
ＳＫ 122　（第 104 図　写真図版 97）		
位置　16 E	**屋敷**　1	**時期**　近世（18 世紀以降）
形態等　南北長 305cm、東西長 220cmの長方形のプランの南辺東側に 120cm× 125cmの張り出しのスロープが付く。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　攪乱に東壁の一部が損なわれるが遺構との重複はない。		
出土遺物　埋土中から寛永通宝銅銭が６枚（710）～（715）癒着して出土した。また、埋土中から碗型の鍛冶滓（728）、砥石（823）が出土している。そのほか微細片があるが肥前産陶胎染付碗が出土している。		
中世の竪穴建物に形状が酷似するが出土遺物から近世の遺構と解釈される。出土した寛永通宝は新寛永も含まれ 18 世紀以降の年代となる。性格は厩のくぼみと思われる。伴う掘立柱建物が存在せず礎石建物が伴っていたと推測される。		

SK122



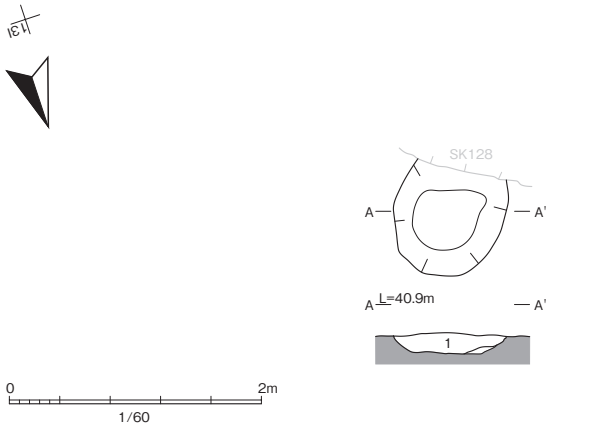
SK122
1.10YR2/4暗褐色土 10YR5/8黄褐色ロームブロック多量混入 草根多量混入
2.10YR3/2黒褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒少量混入

SK123



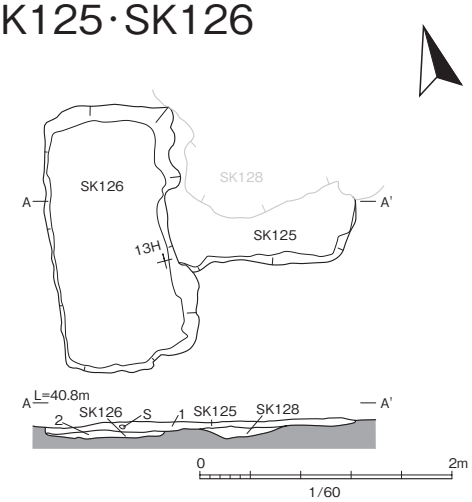
SK123
1.10YR7/8黄橙色土 10YR2/1黒色土まだらに多量混入
2.10YR5/2灰黄褐色土 10YR2/1黒色土まだらに少量混入

SK124



SK124
1.10YR3/2黒褐色土 10YR5/6黄褐色粒多量混入

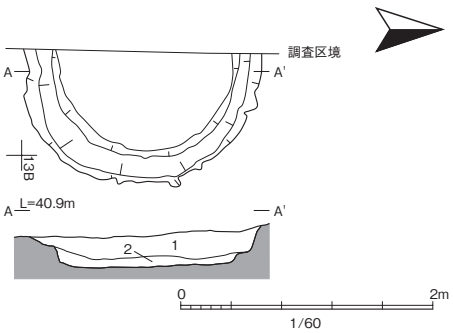
SK125・SK126



SK125
1.10YR4/1褐灰色土 10YR5/6黄褐色ロームまだらに多量混入 炭化物粒多量混入

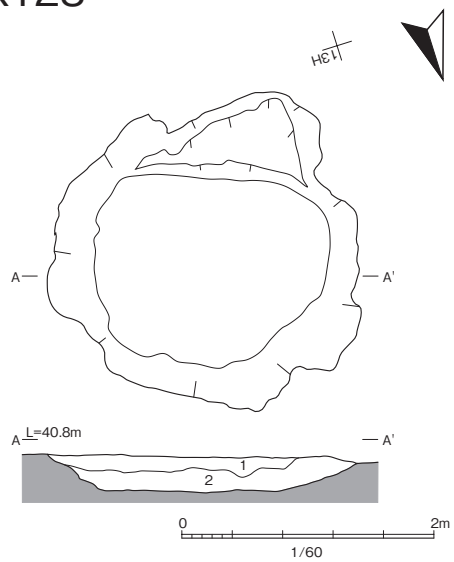
SK126
2.10YR5/6黄褐色土 10YR4/1褐灰色土まだらに多量混入

SK127



SK127
1.10YR3/2黒褐色土 10YR5/8黄褐色ロームブロック多量混入
2.10YR5/2灰黄褐色土 10YR5/8黄褐色ロームまだらに多量混入

SK128



SK128
1.10YR3/1黒褐色土 10YR4/2灰黄褐色土まだらに多量混入
2.10YR3/1黒褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒少量混入

第104図　SK122 ～ SK128

ＳＫ 123　（第 104 図　写真図版 98）		
位置　16 Ｅ、17 Ｅ、16 Ｆ、17 Ｆ	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　長径 158cm、短径 142cmの楕円形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
不整な形状で底面にも凹凸があり、植栽痕の可能性がある。出土遺物、鍵となる遺構との重複はなく時期も不明である。		

ＳＫ 124　（第 104 図　写真図版 98）		
位置　13 Ｈ	**屋敷**　1	**時期**　18 世紀代以降
形態等　東西長 90cm、南北長 85cm以上の楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 128 と重複し本土坑が古い。		
出土遺物　微細片で図化不能であるが 18 世紀代の肥前産染付皿が出土している。		
性格は不明である。出土遺物から 18 世紀代以降のものと思われる。		

ＳＫ 125　（第 104 図　写真図版 98）		
位置　12 Ｇ、12 Ｈ、13 Ｇ、13 Ｈ	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　南北長 108cm、東西長 238cmの長方形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 126、ＳＫ 128 と重複するが本土坑が新しい。		
出土遺物　微細片で図化不能であるが 18 世紀末から 19 世紀初頭の瀬戸産陶胎染付皿が出土している。また、近代以降の窓ガラス片も出土している。		
性格は不明である。出土した窓ガラス片から近代以降のものと判断される。		

ＳＫ 126　（第 104 図　写真図版 98）		
位置　12 Ｇ、12 Ｈ、13 Ｇ、13 Ｈ	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　南北長 220cm、東西長 108cmの長方形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 125 と重複し本土坑が古い。また、ＳＫ 128 と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　石盤と思われるスレート片が出土している。		
性格は不明であるが重複するＳＫ 125 と形態が類似しており同じ機能のものと思われる。時期は出土した石盤から近代以降のものと思われる。		

ＳＫ 127　（第 104 図　写真図版 99）		
位置　13 Ａ、13 Ｂ	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　プランが調査区外に延びるが、直径約 190cmの円形と推測される。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。時期を推測できる出土遺物がなく、鍵となる遺構との切合いもなく時期は不詳である。		

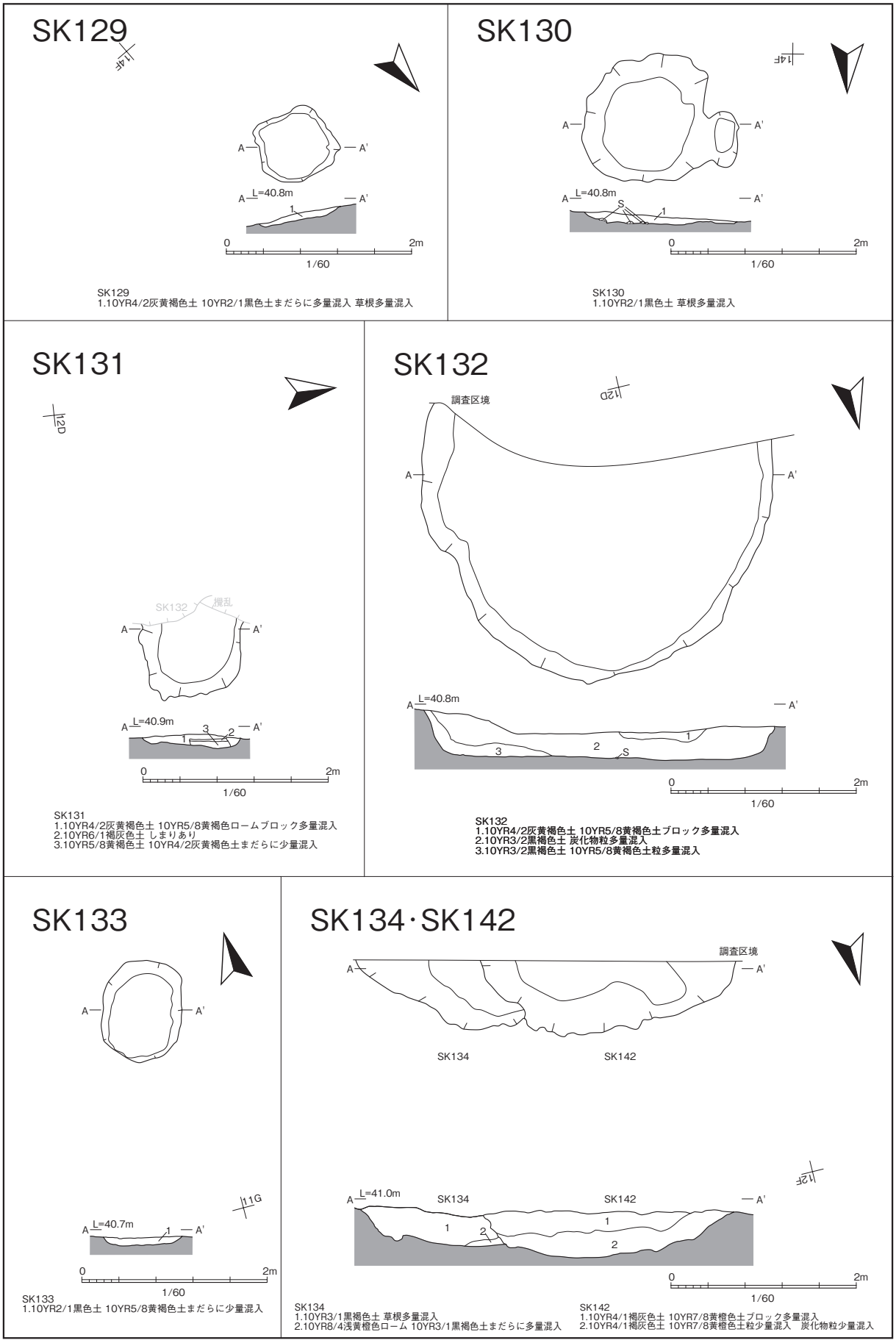
ＳＫ 128　（第 104 図　写真図版 99）		
位置　13 Ｈ	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　直径約 250㎝の不整な円形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 125、ＳＫ 126 と重複するが本土坑が古い。		
出土遺物　図化していないが土師器坏の微細片が出土している。		
性格は不明である。近代のＳＫ 126 より古く近代以前のものと解釈される。		

ＳＫ 129　（第 105 図　写真図版 99）		
位置　14 Ｅ	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　直径約 80㎝の不整な円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物、鍵となる遺構との重複はなく時期も不明である。		

ＳＫ 130　（第 105 図　写真図版 99）		
位置　14 Ｆ	**屋敷**　1	**時期**　18 世紀代以降
形態等　直径 140㎝の不整な円形の西側に突出が付く形状である。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　図化できなかったが 18 世紀代の肥前産磁器皿が出土している。		
性格は不明である。出土遺物から 18 世紀代以降のものと解釈される。		

ＳＫ 131　（第 105 図　写真図版 100）		
位置　12 Ｄ	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　ＳＫ 132 によりプランが損なわれているが、直径約 110㎝の不整な円形を呈する。		
埋土　３層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 132 と重複し本土坑が古い。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。本土坑より新しいＳＫ 132 は近代以降のものであるが本土坑の年代は不詳である。		

ＳＫ 132　（第 105 図　写真図版 100）		
位置　11 Ｄ、12 Ｃ、12 Ｄ	**屋敷**　1	**時期**　廃絶は近代以降
形態等　直径約 380㎝の円形を呈する。		
埋土　３層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 131、ＳＫ 144 と重複するが本土坑が新しい。		
出土遺物　肥前産磁器碗（236）、瀬戸産磁器碗（241）、肥前産陶器碗（414）、在地産陶器擂鉢（510）、在地産陶器ほうろく？（528）、土人形（530）、型紙摺り磁器碗蓋（602）、型紙摺り磁器碗（603、604）、近代の磁器碗（612）、近代の磁器寿文皿（627、628a ～ c）、近代の磁器燗徳利（632）、近代の磁器小坏（633）、近代の陶器急須蓋（636）、寛永通宝鉄一文銭（722）、硯（806）、砥石（821）が出土している。		
性格は不明である。多量の遺物が出土し廃絶時にはごみ穴として使用されていたと思われる。廃絶年代は出土遺物から近代以降と解釈される。		



SK129
1.10YR4/2灰黄褐色土 10YR2/1黒色土まだらに多量混入 草根多量混入

SK130
1.10YR2/1黒色土 草根多量混入

SK131
1.10YR4/2灰黄褐色土 10YR5/8黄褐色ロームブロック多量混入
2.10YR6/1褐灰色土 しまりあり
3.10YR5/8黄褐色土 10YR4/2灰黄褐色土まだらに少量混入

SK132
1.10YR4/2灰黄褐色土 10YR5/8黄褐色土ブロック多量混入
2.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒多量混入
3.10YR3/2黒褐色土 10YR5/8黄褐色土粒多量混入

SK133
1.10YR2/1黒色土 10YR5/8黄褐色土まだらに少量混入

SK134
1.10YR3/1黒褐色土 草根多量混入
2.10YR8/4浅黄橙色ローム 10YR3/1黒褐色土まだらに多量混入

SK142
1.10YR4/1褐灰色土 10YR7/8黄橙色土ブロック多量混入
2.10YR4/1褐灰色土 10YR7/8黄橙色土粒少量混入　炭化物粒少量混入

第105図　SK129 ～ SK134、SK142

ＳＫ 133　（第 105 図　写真図版 100）		
位置　11 Ｆ、11 Ｇ	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　長径 128㎝、短径 85㎝の楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。時期を推測できる出土遺物がなく、鍵となる遺構との切合いもなく時期は不詳である。		

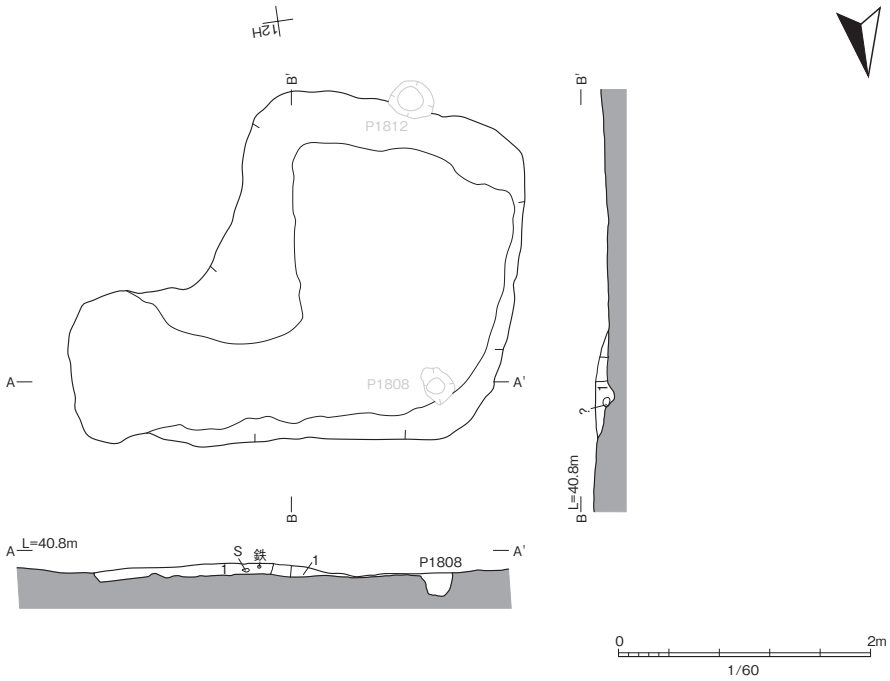
ＳＫ 134　（第 105 図　写真図版 100）		
位置　11 Ｆ	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　プランが調査区にかかり、また、ＳＫ 142 のプランが損なわれている。南北長 70㎝以上、東西長 190㎝以上の楕円形と推測されるプランである。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 142 と重複し本土坑が古い。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。本土坑より新しいＳＫ 142 は 19 世紀以降のものと思われるが本土坑の年代は不詳である。		

ＳＫ 135　（第 106 図　写真図版 101）		
位置　12 Ｇ、12 Ｈ	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　東西長 240㎝、南北長 219㎝の方形のプランに 120㎝× 90㎝の張り出しが付く。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 126 とプランが重複するが前後関係は不明瞭である。		
出土遺物　図化していないが型紙摺り碗片、蹄鉄が出土している。		
性格は厩のくぼみと思われる。廃絶時期は出土遺物から近代以降と判断される。		

ＳＫ 136　（第 106 図　写真図版 101）		
位置　11 Ｇ、12 Ｇ	**屋敷**　1	**時期**　近世以降
形態等　直径約 155㎝の円形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 126、ＳＢ 129 と重複するが本土坑が古い。		
出土遺物　図化できなかったが近世の肥前産磁器瓶片が出土している。		
性格は不明である。出土遺物から近世以降のものと思われる。		

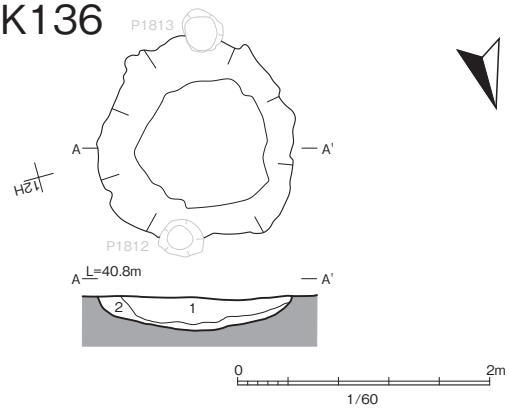
ＳＫ 137　（第 106 図　写真図版 101）		
位置　13 Ｆ、13 Ｇ	**屋敷**　1	**時期**　19 世紀以降
形態等　長径 160㎝、短径 126㎝の楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 138 と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　図化できなかったが 19 世紀以降の在地産陶器瓶片が出土した。		
不整な形状で底面に凹凸もあり植栽痕の可能性がある。時期は出土遺物から 19 世紀以降と判断される。		

SK135



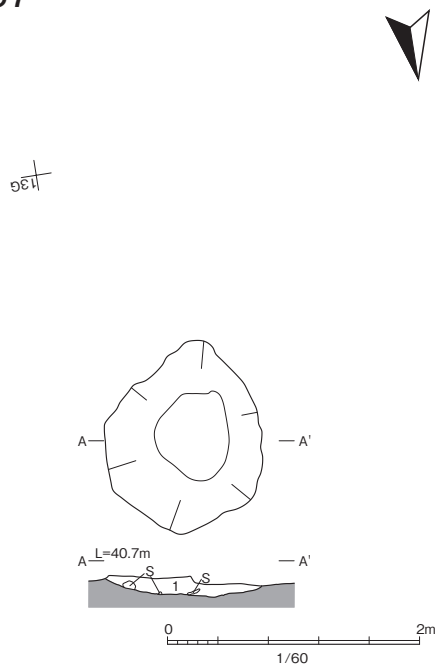
SK135
1.10YR2/3黒褐色土 草根・炭化物粒多量混入

SK136



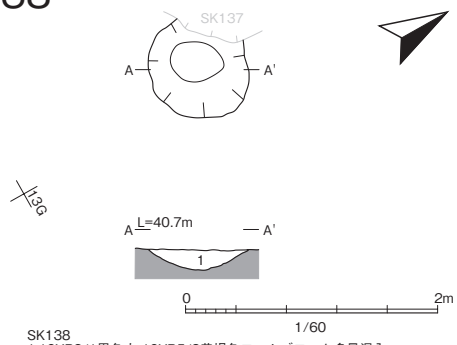
SK136
1.10YR2/1黒色土 10YR5/8黄褐色土ブロック多量混入
2.10YR2/3黒褐色土 炭化物粒多量混入

SK137



SK137
1.10YR3/2黒褐色土 草根多量混入

SK138



SK138
1.10YR2/1黒色土 10YR5/8黄褐色ロームブロック多量混入

第106図　SK135 ～ SK138

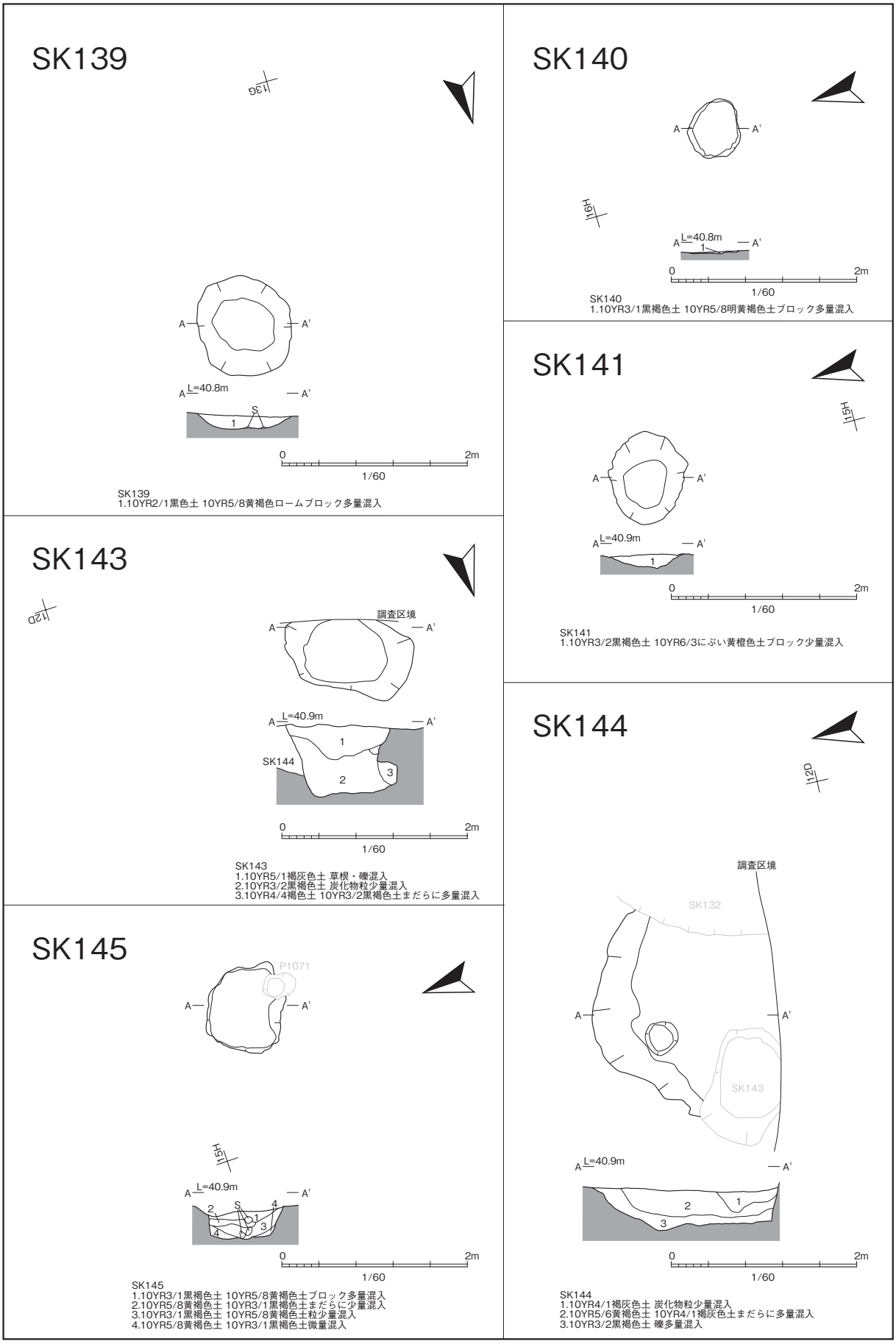
ＳＫ 138　（第 106 図　写真図版 102）		
位置　13 Ｆ、13 Ｇ	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　直径約 92cmの円形を呈する。		
埋土　1 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別不明		
重複　ＳＫ 137 と重複し本土坑が古い。		
出土遺物　なし。		
不整な形状で底面に凹凸もあり植栽痕の可能性がある。時期は 19 世紀以降のＳＫ 137 より古いが不詳である。		

ＳＫ 139　（第 107 図　写真図版 102）		
位置　13 Ｇ	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　長径 108cm、短径 100cmの楕円形を呈する。		
埋土　1 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別不明		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
不整な形状で底面に凹凸もあり植栽痕の可能性がある。時期を推測できる出土遺物がなく、鍵となる遺構との切合いもなく時期は不詳である。		

ＳＫ 140　（第 107 図　写真図版 102）		
位置　15 Ｈ	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　直径約 55cmの円形を呈する。		
埋土　1 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別不明		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
不整な形状で底面に凹凸もあり植栽痕の可能性がある。時期を推測できる出土遺物がなく、鍵となる遺構との切合いもなく時期は不詳である。		

ＳＫ 141　（第 107 図　写真図版 102）		
位置　15 Ｇ、15 Ｈ	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　長径 100cm、短径 78cmの楕円形を呈する。		
埋土　1 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別不明		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
不整な形状で底面に凹凸もあり植栽痕の可能性がある。時期を推測できる出土遺物がなく、鍵となる遺構との切合いもなく時期は不詳である。		

ＳＫ 142　（第 105 図　写真図版 103）		
位置　11 Ｆ	**屋敷**　1	**時期**　19 世紀以降
形態等　プランが調査区にかかる。南北長 80cm以上、東西長 280cmの楕円形と推測されるプランである。		
埋土　2 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 134 と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　図化不能であるが在地産陶器甕片が出土した。		
性格は不明である。出土した遺物から 19 世紀以降のものと思われる。		



第107図　SK139 ～ SK141、SK143 ～ SK145

ＳＫ 143　（第 107 図　写真図版 103）		
位置　12 D	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　長径 145cm、短径 90cmの楕円形を呈する。		
埋土　３層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 144 と重複するが本土坑が新しい。		
出土遺物　磁器水滴（316）、寛永通宝銅銭（718、719）、砥石（831）が出土している。このほか図化していないが窓ガラス片、石筆が出土している。		
性格は不明である。出土遺物から近代以降のものと思われる。		

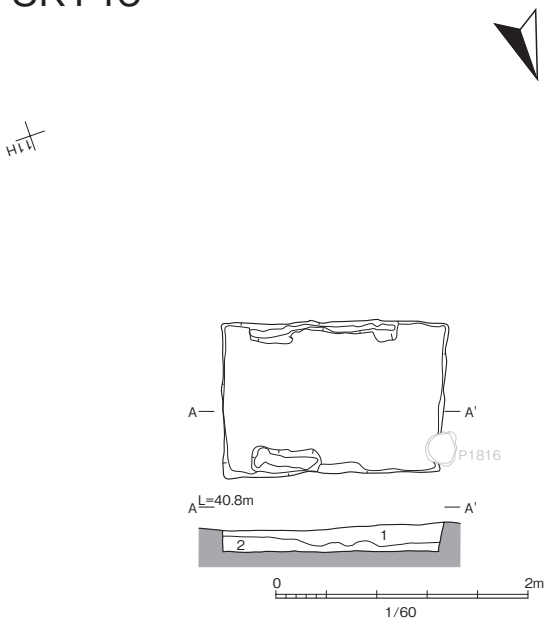
ＳＫ 144　（第 107 図　写真図版 103）		
位置　11 D	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　プランが調査区外に延び、ＳＫ 132 とＳＫ 143 によってプランが損なわれる。南北長 200cm以上、東西長 190cm以上のプランを呈する。		
埋土　３層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別不明		
重複　ＳＫ 132 とＳＫ 143 と重複するが、本土坑が古い。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。近代の土坑ＳＫ 143 より古いが時期は不詳である。		

ＳＫ 145　（第 107 図　写真図版 103）		
位置　14 H	**屋敷**　1	**時期**　近世か？
形態等　長径 100cm、短径 90cmの楕円形を呈する。		
埋土　４層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 101 と重複し本土坑が古い。		
出土遺物　砥石（820）が出土している。		
性格は不明である。本土坑より新しいＳＢ 101 の年代が不明瞭であり時期は不詳である。		

ＳＫ 146　（第 108 図　写真図版 104）		
位置　11 G	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　南北長 125cm、東西長 174cmの長方形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 147、ＳＫ 155 と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　図化できなかったが近代の陶器急須片、型紙摺り碗片が出土している。		
性格は不明である。出土遺物から近代以降のものと思われる。		

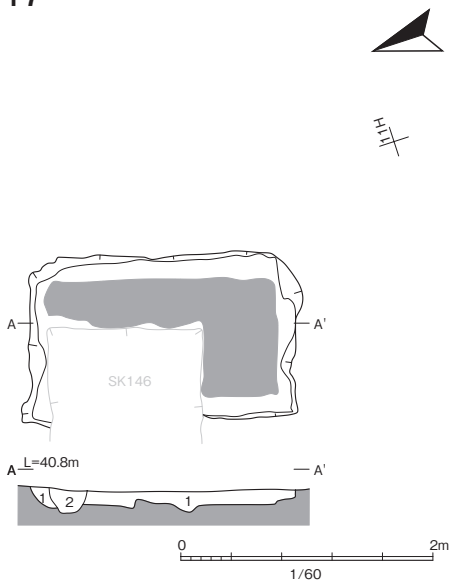
ＳＫ 147　（第 108 図　写真図版 104）		
位置　11 G	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　南北長 228cm、東西長 131cmの長方形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別不明		
重複　ＳＫ 146 と重複し本土坑が古い。		
出土遺物　図化できなかったが近代磁器碗片が出土している。		
性格は不明であるが重複するＳＫ 146 と類似する形状であり同じ機能と推測される。底面にグライ化した方形の痕跡がある。時期は出土遺物から近代以降のものである。		

SK146



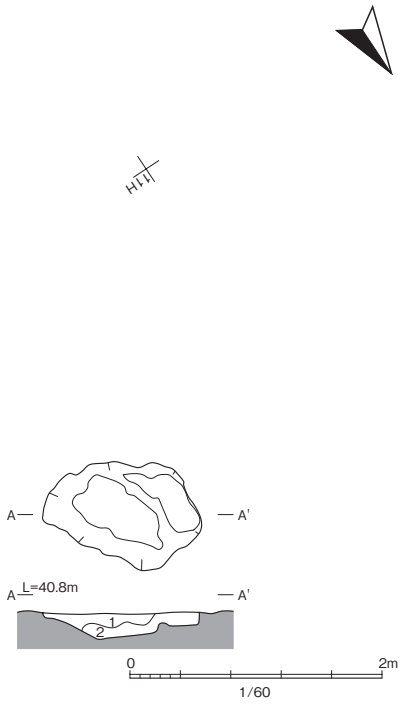
SK146
1.10YR4/1褐灰色土 炭化物粒多量混入
2.10YR4/1褐灰色土 10YR5/8黄褐色土ブロック多量混入

SK147



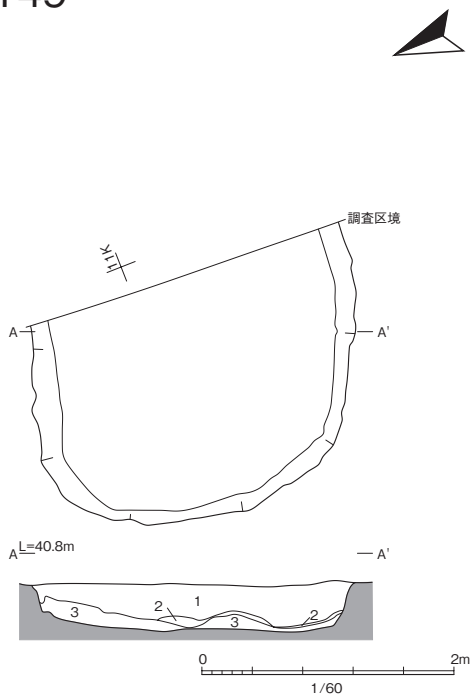
1.10YR4/1褐灰色土 10YR5/8黄褐色土ブロック多量混入
2.10YR3/2黒褐色土 10YR7/8黄褐色土まだらに多量混入　草根多量混入

SK148



SK148
1.10YR7/8黄橙色ローム 10YR3/2黒褐色土まだらに少量混入
2.10YR2/3黒褐色土 10YR7/8黄橙色ロームまだらに少量混入　草根多量混入

SK149



SK149
1.10YR3/1黒褐色土 酸化鉄分多量混入
2.2.5YR4/8赤褐色焼土 炭化物粒多量混入
3.10YR4/1褐灰色土 炭化物粒少量混入

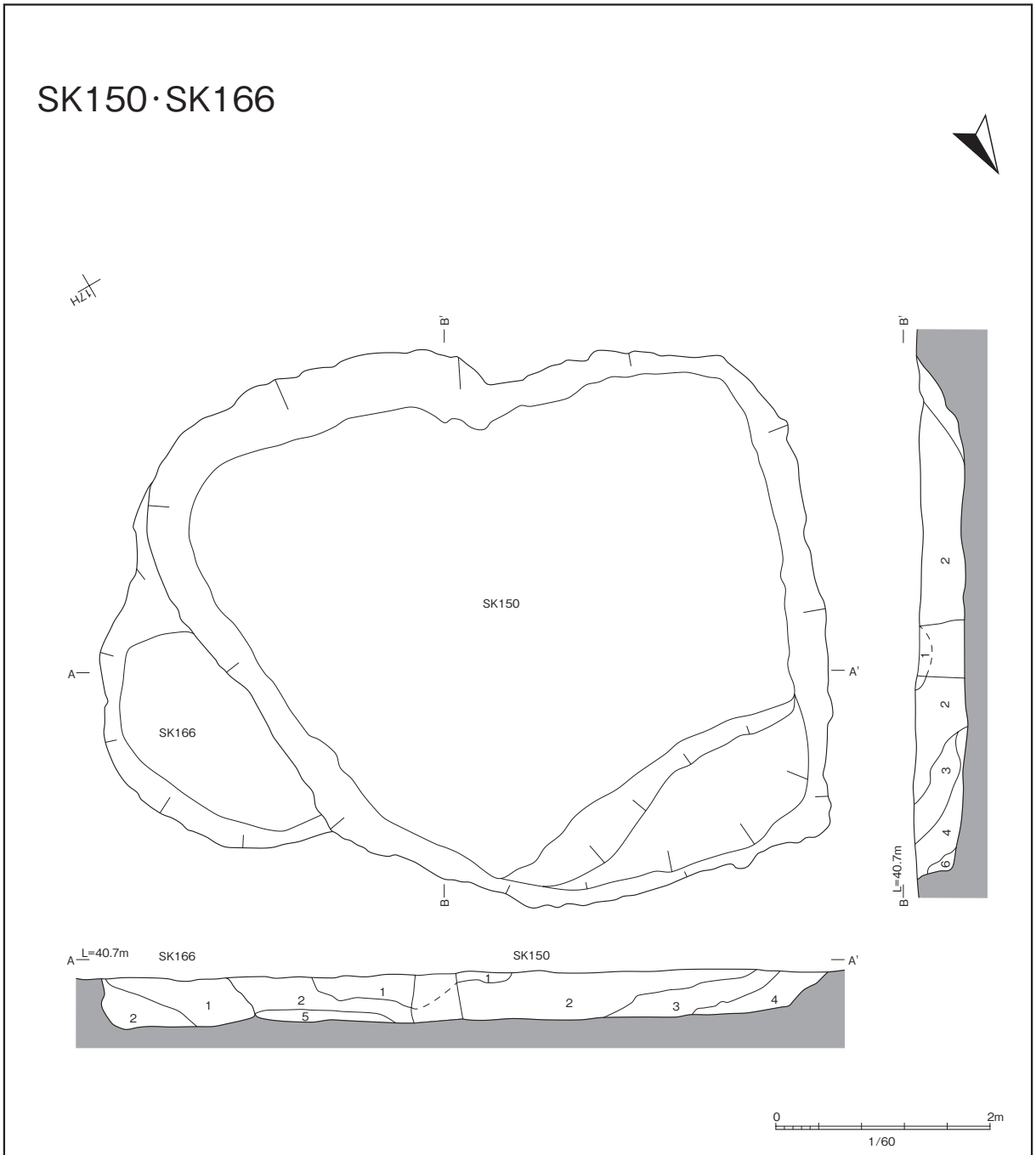
第108図　SK146 ～ SK149

ＳＫ 148　（第 108 図　写真図版 104）		
位置　11 Ｈ	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　長径 120cm、短径 72cmの不整な形状を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別不明		
重複　なし。		
出土遺物　図化できなかったが近代の型紙摺り碗片が出土している。		
不整な形状で底面に凹凸もあり植栽痕の可能性がある。時期は出土遺物から近代以降の可能性がある。		

ＳＫ 149　（第 108 図　写真図版 104）		
位置　10 Ｊ、11 Ｊ	**屋敷**　2	**時期**　19 世紀以降
形態等　プランが調査区外に延びるが、南北長 250cm、東西長 240cm以上の楕円形を呈する。		
埋土　３層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 110 と重複し本土坑が新しいと推測される。		
出土遺物　磁器碗（243）が出土している。そのほか図化できなかったが在地産陶器鉄漿壺？片が出土している。		
性格は不明である。時期は出土遺物から 19 世紀以降のものと思われる。		

ＳＫ 150　（第 109 図　写真図版 105）		
位置　17 Ｇ、17 Ｈ 18 Ｇ、18 Ｈ	**屋敷**　1	**時期**　19 世紀中以前
形態等　長径 720cm、短径 510cmの楕円形を呈する。		
埋土　６層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 166 と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　肥前産磁器碗（213、230、232、238）、肥前産？磁器碗（244）、肥前産磁器皿（275、279a、288、290a、290c、291b、291c）、磁器香炉（318）、肥前産陶器碗（423）、肥前産陶器皿（433、434）、肥前産陶器徳利（438、439）、瀬戸産陶器碗（443、445、446、447、448）、瀬戸産陶器瓶掛（470）、大堀相馬産陶器碗（489）、大堀相馬産陶器皿（494）、大堀相馬産陶器小甕（496）、在地産陶器擂鉢（499、501）、在地産陶器鉢（513、515、516）、在地産陶器ほうろく（527）、在地産陶器瓶掛（529）、寛永通宝銅銭（721）、仙台通宝（723、724）、硯（807、809）、砥石（813、817、829、830、833）、挽臼（840）が出土している。		
規模の大きい土坑であり、ため池などの可能性が想定される。出土遺物が多く廃絶時にはごみを捨てたと解釈される。廃絶の時期は 19 世紀中頃と推測される。構築時期は不明である。		

ＳＫ 151　（第 110 図　写真図版 105）		
位置　11 Ｊ	**屋敷**　2	**時期**　近世、近代
形態等　東端部が攪乱に壊されるが長径 183cm以上、短径 120cmの楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 107 と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　なし。		
不整な形状で底面に凹凸もあり植栽痕の可能性がある。時期は近世の建物であるＳＢ 107 より新しいが不詳である。		



SK166
1.10YR3/1黒褐色土 炭化物粒少量混入
2.10YR3/4暗褐色土 10YR5/8黄褐色土まだらに少量混入

SK150
1.10YR4/2灰黄褐色土 10YR7/8黄橙色土まだらに多量混入 礫多量混入
2.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒・礫多量混入
3.10YR4/2灰黄褐色土 10YR7/8黄橙色ロームまだらに多量混入 礫多量混入
4.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒多量混入
5.10YR5/8黄褐色土 10YR3/2黒褐色土まだらに多量混入
6.10YR4/2灰黄褐色土 10YR5/8黄褐色土まだらに多量混入

第109図　SK150、SK166

ＳＫ 152　（第 110 図　写真図版 105）		
位 置　15 ～ 16 Ｊ、15 ～ 16 Ｋ	**屋敷**　2	**時期**　近世、近代
形態等　長径 65㎝、短径 75㎝の楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 113 とプランが重複するが直接切合う部分がなく前後関係は不明である。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。時期を推測できる出土遺物がなく、鍵となる遺構との切合いもなく時期は不詳である。		

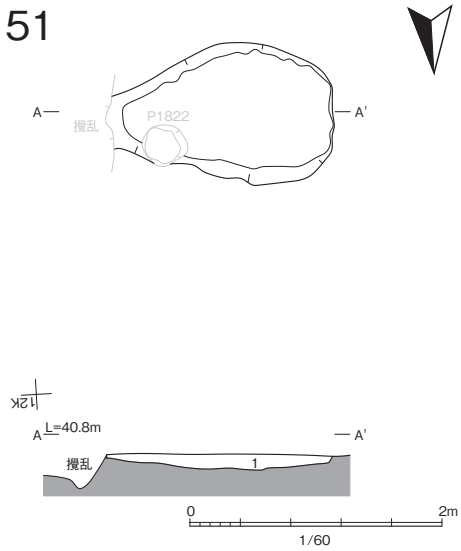
ＳＫ 153　（第 110 図　写真図版 106）		
位置　15 Ｊ、16 Ｊ	**屋敷**　2	**時期**　近代以降
形態等　幅 21 ～ 45㎝の溝が廻るドーナツ形を呈する。全体の径は 142㎝である。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 154 と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　図化できなかったがビー玉が出土している。		
形状から果樹などを植えるために掘られた穴の可能性がある。時期は出土遺物から近代以降と解釈される。		

ＳＫ 154　（第 110 図　写真図版 106）		
位置　15 Ｊ、16 Ｊ	**屋敷**　2	**時期**　近世、近代
形態等　長径 200㎝、短径 105㎝の楕円形		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 153 と重複し本土坑が古い。またＳＢ 113 と重複するが本土坑が新しい。		
出土遺物　なし。		
不整な形状で底面に凹凸もあり植栽痕の可能性がある。時期は近代以降のＳＫ 153 より古いが不詳である。		

ＳＫ 155　（第 110 図　写真図版 106）		
位置　11 Ｇ	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　長径 209㎝、短径 59㎝の楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 146 と重複し本土坑が古い。またＳＫ 157 と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。近代の遺構であるＳＫ 146 より古いが時期は不詳である。		

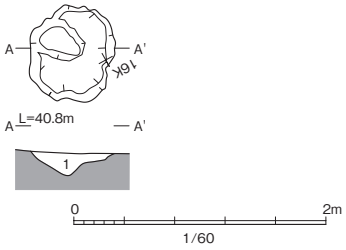
ＳＫ 156　（第 111 図　写真図版 106）		
位置　16 Ｈ、17 Ｈ、17 Ｉ	**屋敷**　1	**時期**　廃絶年代は 19 世紀中頃
形態等　長径 321㎝、短径 281㎝の楕円形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　肥前産磁器碗（239、248）、肥前産磁器皿（265、274）、瀬戸産陶胎染付皿（463）、在地産陶器擂鉢（505）が出土している。火打石？（801）が出土した。		
性格は不明である。時期は出土遺物から 19 世紀中頃廃絶と判断される。		

SK151



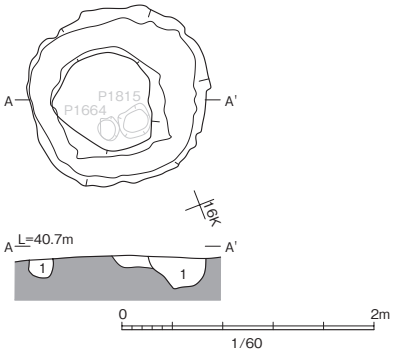
SK156
1.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒少量混入

SK152



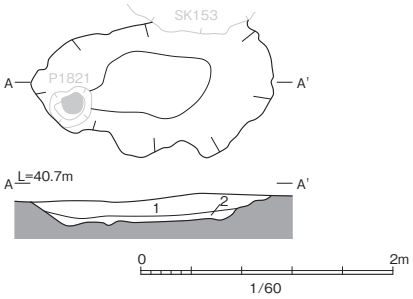
SK152
1.10YR3/1黒褐色土 10YR5/8黄褐色土ブロック多量混入

SK153



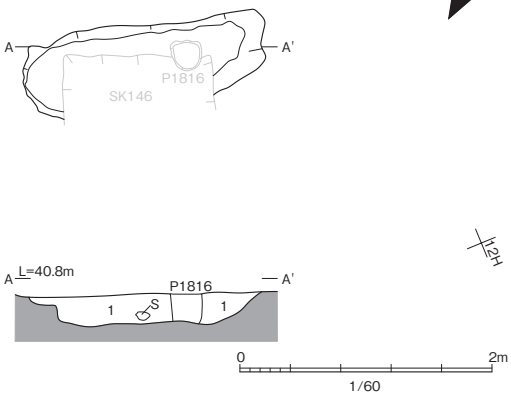
SK153
1.10YR3/1黒褐色土 10YR5/8黄褐色土ブロック多量混入

SK154



SK154
1.10YR3/2黒褐色土 10YR5/8黄褐色土まだらに少量混入
2.10YR5/8黄褐色土 10YR3/2黒褐色土まだらに少量混入

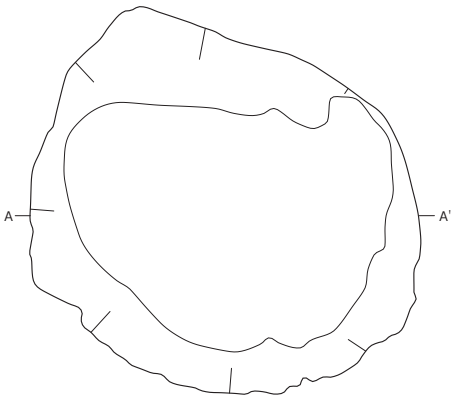
SK155

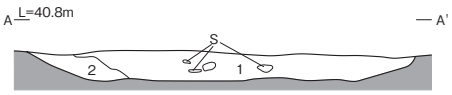


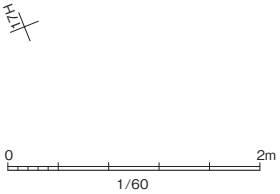
SK155
1.10YR4/2灰黄褐色土 10YR5/8黄褐色土ブロック多量混入
P1816
10YR3/2黒褐色土 10YR5/8黄褐色土まだらに少量混入

第110図　SK151 ～ SK155

SK156

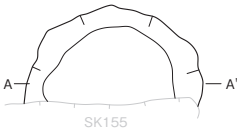


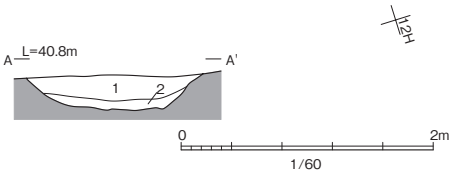




SK156
1.10YR4/2灰黄褐色土 炭化物粒多量混入
2.10YR4/2灰黄褐色土 10YR5/8黄褐色土ブロック多量混入

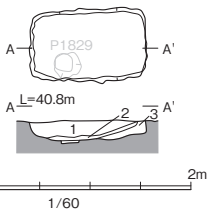
SK157





SK157
1.10YR4/2灰黄褐色土 10YR5/8黄褐色土まだらに多量混入
2.10YR3/1黒褐色土 10YR5/8黄褐色土まだらに少量混入

SK158



SK158
1.10YR3/3暗褐色土 炭化物粒多量混入
2.10YR1.7/1黒色炭化物層
3.10YR3/3暗褐色土 10YR5/8黄褐色土まだらに多量混入

第111図　SK156 ～ SK158

ＳＫ 157　（第 111 図　写真図版 107）		
位置　11 G	**屋敷**　1	**時期**　18 世紀代か？
形態等　プランが調査区外に延びるが、直径約 142cmの円形と推測される。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 155 と重複し本土坑が古い。		
出土遺物　微細で図化できなかったが、18 世紀代の大堀相馬産陶器碗が出土している。		
性格は不明である。時期は出土遺物から 18 世紀代の可能性がある。		

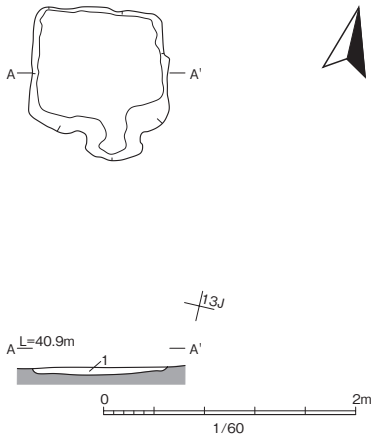
ＳＫ 158　（第 111 図　写真図版 107）		
位置　12 J	**屋敷**　2	**時期**　20 世紀以降
形態等　長辺 92cm、短辺 50cmの長方形を呈する。		
埋土　３層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　図化していないが、ガラス瓶（金線サイダー）の破片が出土している。		
性格は不明である。時期は出土遺物から 20 世紀以降と判断される。		

ＳＫ 159　（第 112 図　写真図版 107）		
位置　13 I	**屋敷**　2	**時期**　近世、近代
形態等　東西長 108cm、南北長 124cmの角ばった形状を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 108、ＳＢ 109 の柱穴と接するが前後関係は不明である。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物がなく、また鍵となる遺構との切合いもなく、時期は不詳である。		

ＳＫ 160　（第 112 図　写真図版 107）		
位置　11 J	**屋敷**　2	**時期**　近世、近代
形態等　直径約 45cmの不整な円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 107 と重複し本土坑が新しい。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。近世の建物であるＳＢ 107 より新しいが時期は不詳である。		

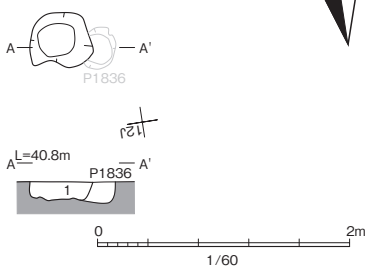
ＳＫ 161　（第 112 図　写真図版 108）		
位置　12 I	**屋敷**　2	**時期**　近代以降
形態等　長径 105cm、短径 75cmの楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　Ｐ 1844 と重複するが、本土坑が古い。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。		

SK159



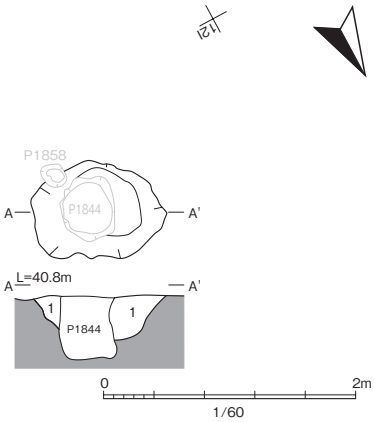
SK159
1.10YR3/2黒褐色土 10YR5/8黄褐色土まだらに多量混入

SK160



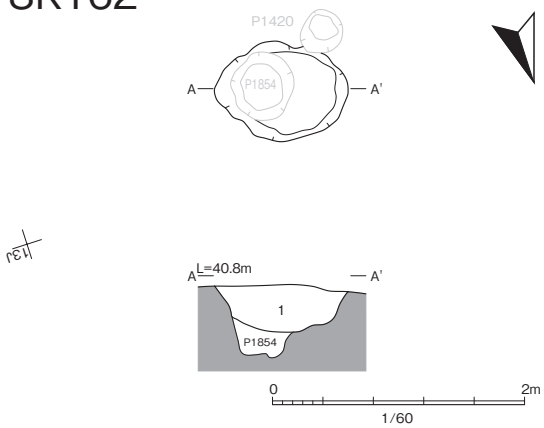
SK160
1.10YR3/3暗褐色土 炭化物粒多量混入
P1836
10YR3/1黒褐色土 10YR6/4にぶい黄褐色土まだらに少量混入

SK161



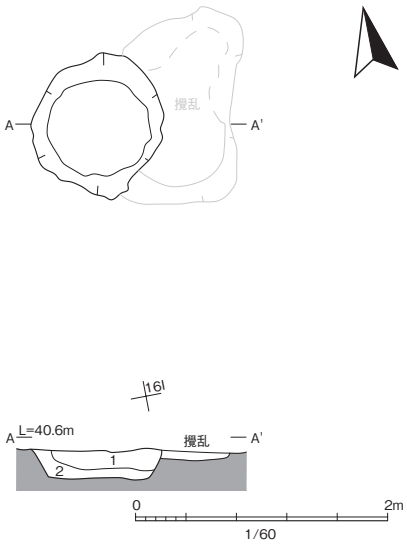
SK161
1.10YR3/2黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土ブロック多量混入
P1843
10YR2/2黒褐色土 炭化物粒多量混入

SK162



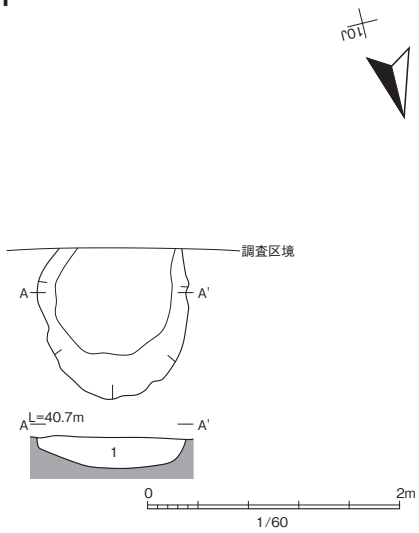
SK162
1.10YR3/2黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土粒多量混入
P1854
10YR2/1黒色土 炭化物粒少量混入

SK163



SK163
1.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒少量混入
2.10YR3/2黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土ブロック多量混入

SK164



SK164
1.10YR3/3暗褐色土 炭化物粒多量混入

第112図　SK159 ～ SK164

ＳＫ 162　（第 112 図　写真図版 108）		
位置　12 Ｉ	**屋敷**　2	**時期**　近代以降
形態等　長径 112cm、短径 79cmの楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　Ｐ 1854 と重複するが本土坑が新しい。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。		

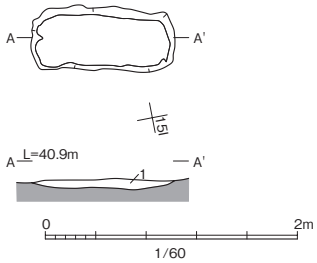
ＳＫ 163　（第 112 図　写真図版 108）		
位置　16 Ｈ、16 Ｉ	**屋敷**　1	**時期**　18 世紀代か？
形態等　直径約 105cmの不整な円形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　攪乱によって東側が損なわれているが、遺構との重複はなし。		
出土遺物　肥前産磁器皿（290 ■ 6）が出土している。		
性格は不明である。出土遺物から 18 世紀代のものである可能性がある。		

ＳＫ 164　（第 112 図　写真図版 108）		
位置　10 Ｊ	**屋敷**　2	**時期**　19 世紀以降
形態等　東西長 125cm、南北長 120cm以上の概ね円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　微細片で図化しなかったが在地産陶器擂鉢片が出土している。		
性格は不明である。出土遺物から 19 世紀以降のものと判断される。		

ＳＫ 165　（第 113 図　写真図版 109）		
位置　14 Ｈ、15 Ｈ	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　長径 114cm、短径 49cmの楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物がなく、鍵となる重複の遺構もなく、時期は不明である。		

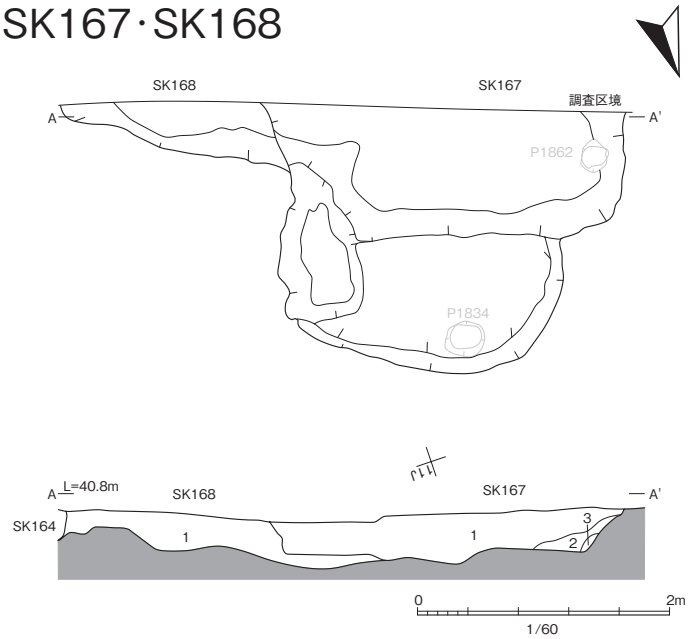
ＳＫ 166　（第 109 図　写真図版 109）		
位置　17 Ｈ、18 Ｈ	**屋敷**　1	**時期**　近世
形態等　ＳＫ 150 によってプランが損なわれている。南北長 299cm、東西長 140cm以上の楕円形と推測される。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 150 と重複し本土坑が古い。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。19 世紀中頃廃絶のＳＫ 150 より古いが、本土坑の年代は不詳である。		

SK165



SK165
1.10YR3/2黒褐色土 10YR5/8黄褐色土粒多量混入

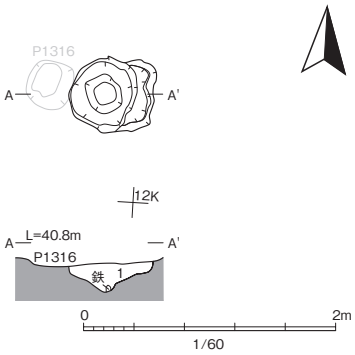
SK167・SK168



SK168
1.10YR4/2灰黄褐色土 草根多量混入

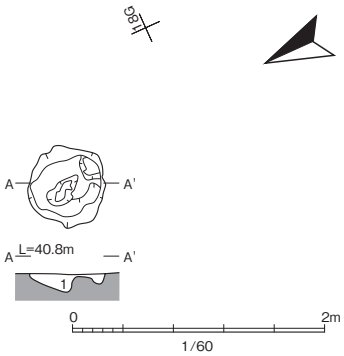
SK167
1.10YR3/2黒褐色土 炭化物粒・草根多量混入
2.10YR3/1黒褐色土 炭化物粒多量混入
3.10YR4/2灰黄褐色土 10YR7/8黄橙色土まだらに多量混入

SK169



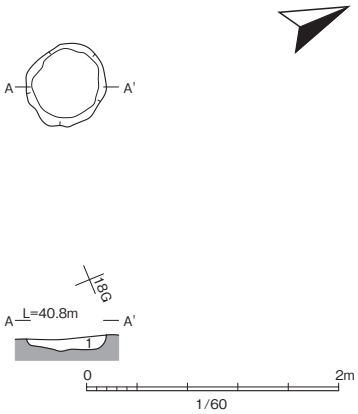
SK169
1.10YR3/2黒褐色土 10YR5/8黄褐色土まだらに多量混入 炭化物粒多量混入

SK170



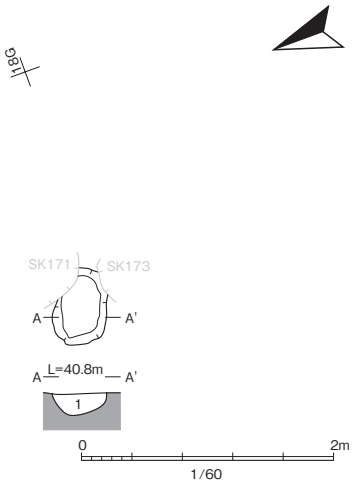
SK170
1.10YR2/2黒褐色土 10YR7/8黄橙色土ブロック少量混入

SK171



SK171
1.10YR2/2黒褐色土 10YR7/8黄橙色土ブロック少量混入

SK172



SK172
1.10YR3/2黒褐色土 10YR5/8黄褐色土まだらに多量混入

第113図　SK165、SK167 ～ SK172

ＳＫ 167　（第 113 図　写真図版 109）		
位置　10 Ｉ、101 Ｊ	**屋敷**　2	**時期**　近世、近代
形態等　東西長 279㎝、南北長 210㎝以上の不整な形状を呈する。		
埋土　３層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 107、ＳＫ 168 と重複し、本土坑が新しい。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。近世の建物と推測されるＳＢ 107 より新しいが、詳細な年代は不明である。		

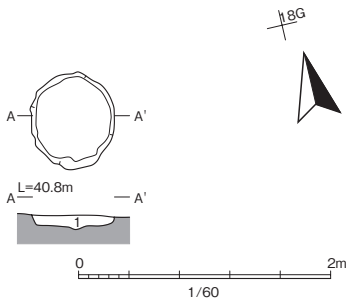
ＳＫ 168　（第 113 図　写真図版 109）		
位置　10 Ｉ、10 Ｊ	**屋敷**　2	**時期**　近世、近代
形態等　南北長 41㎝以上、東西長 170㎝以上のプランを呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 167 と重複し本土坑が古い。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。近世以降と推測されるＳＫ 167 より古いが、詳細な年代は不明である。		

ＳＫ 169　（第 113 図　写真図版 110）		
位置　12 Ｊ、12 Ｋ	**屋敷**　2	**時期**　近代以降
形態等　直径約 62㎝の不整な円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　図化しなかったが断面形が丸い釘が出土している。		
不整な形状で底面にも凹凸があり、植栽痕の可能性がある。出土した釘は近代以降のものであり、土坑の年代も近代以降と判断される。		

ＳＫ 170　（第 113 図　写真図版 110）		
位置　18 Ｆ	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　長径 125㎝、短径 100㎝の楕円形		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　図化しなかったが、近代の型紙摺りの磁器皿片が出土している。		
不整な形状で底面にも凹凸があり植栽痕の可能性がある。時期は出土遺物から近代以降と解釈される。		

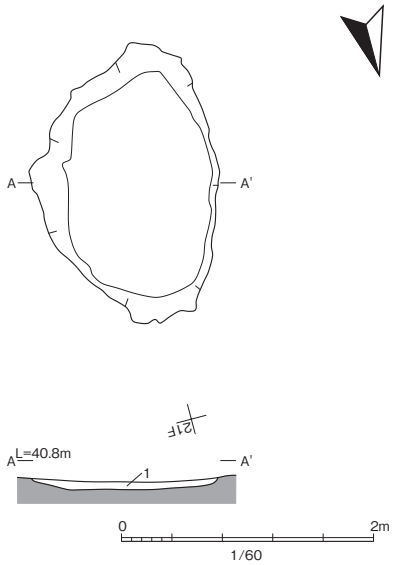
ＳＫ 171　（第 113 図　写真図版 110）		
位置　18 Ｆ	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　直径約 64㎝の円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 172 と重複し、本土坑が新しい。		
出土遺物　なし。		
不整な形状で底面にも凹凸があり植栽痕の可能性がある。時期は出土遺物がなく、鍵となる遺構との重複もなく不明である。		

SK173



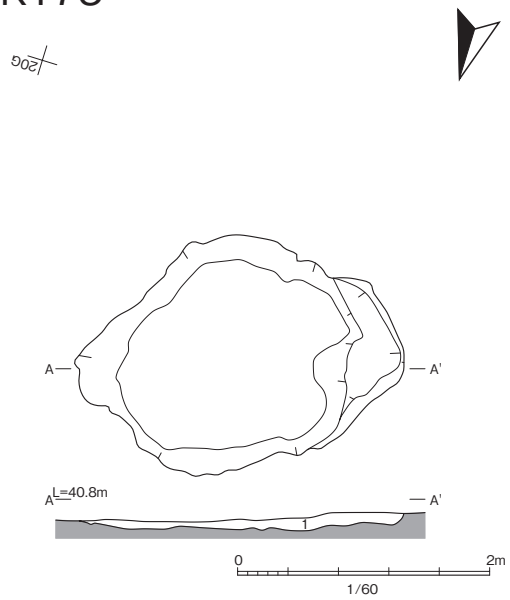
SK173
1.10YR2/2黒褐色土 10YR7/8黄橙色土ブロック多量混入

SK174



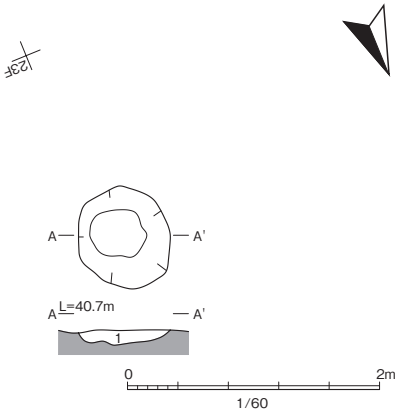
SK174
1.10YR2/1黒色土 草根多量混入

SK175



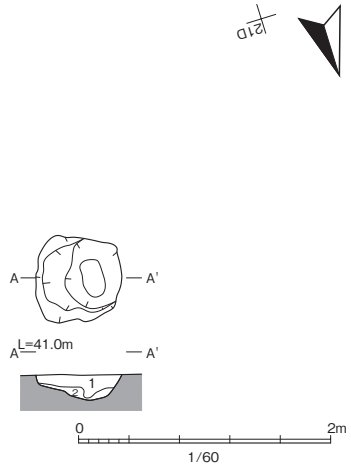
SK175
1.10YR2/1黒色土 礫多量混入

SK176



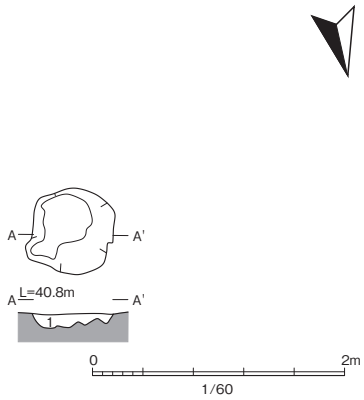
SK176
1.10YR2/1黒色土 草根多量混入

SK177



SK177
1.10YR3/4暗褐色土
2.10YR5/8黄褐色土 10YR3/1黒褐色土ブロック混入

SK178



SK178
1.10YR4/4褐色土 草根多量混入

第114図　SK173～SK178

ＳＫ 172　（第 113 図　写真図版 110）		
位置　17 F	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　長径 60cm、短径 44cmの楕円形を呈する。		
埋土　1 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 171 と重複し、本土坑が古い。		
出土遺物　なし。		
不整な形状で底面にも凹凸があり植栽痕の可能性がある。時期は出土遺物がなく、鍵となる遺構との重複もなく不明である。		

ＳＫ 173　（第 114 図　写真図版 111）		
位置　17 F	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　長径 128cm、短径 114cmの楕円形を呈する。		
埋土　1 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＫ 172 と重複し、本土坑が新しい。		
出土遺物　なし。		
不整な形状で底面にも凹凸があり植栽痕の可能性がある。時期は出土遺物がなく、鍵となる遺構との重複もなく不明である。		

ＳＫ 174　（第 114 図　写真図版 111）		
位置　20 E、20 F	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　長径 216cm、短径 148cmの楕円形を呈する。		
埋土　1 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　図化していないが、近代の型紙摺り皿片が出土している。		
性格は不明である。時期は出土遺物から近代以降と解釈される。		

ＳＫ 175　（第 114 図　写真図版 111）		
位置　20 F	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　長径 259cm、短径 196cmの楕円形を呈する。		
埋土　1 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物がなく、鍵となる重複の遺構もなく、時期は不明である。		

ＳＫ 176　（第 114 図　写真図版 111）		
位置　23 E、23 F	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　直径約 76cmの円形を呈する。		
埋土　1 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物がなく、鍵となる重複の遺構もなく、時期は不明である。		

ＳＫ 177　（第 114 図　写真図版 112）		
位置　21 D	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　直径約 70cmの不整な円形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物がなく、鍵となる重複の遺構もなく、時期は不明である。		

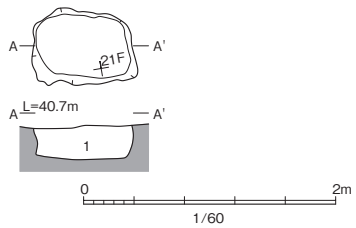
ＳＫ 178　（第 114 図　写真図版 112）		
位置　18 E	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　直径約 65cmの不整な円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物がなく、鍵となる重複の遺構もなく、時期は不明である。		

ＳＫ 179　（第 115 図　写真図版 112）		
位置　20 E、20 F、21 E、21 F	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　長径 80cm、短径 58cmの楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物がなく、鍵となる重複の遺構もなく、時期は不明である。		

ＳＫ 180　（第 115 図　写真図版 112）		
位置　20 I	**屋敷**　1	**時期**　近世、近代
形態等　直径約 93cmの円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物がなく、鍵となる重複の遺構もなく、時期は不明である。		

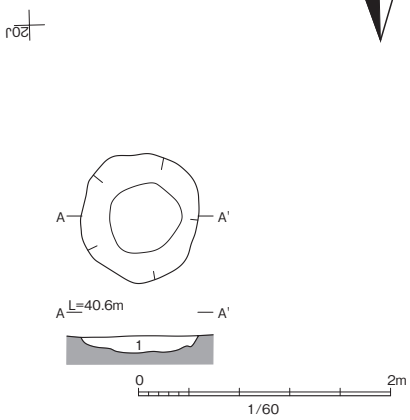
ＳＫ 181　（第 115 図　写真図版 113）		
位置　19 I、20 I	**屋敷**　1	**時期**　近代以降
形態等　南北長 94cm、東西長 51cmの長方形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　図化していないが合成樹脂製のボタンが出土している。		
性格は不明である。年代は出土遺物から近代以降と解釈される。		

SK179



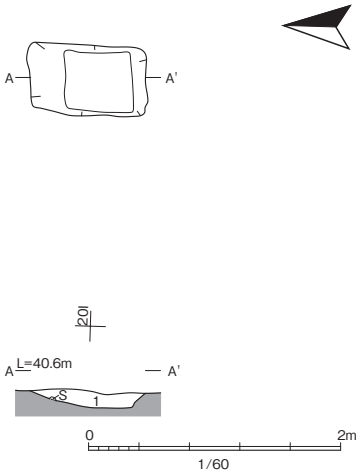
SK179
1.10YR3/1黒褐色土 10YR7/8黄橙色土ブロック多量混入 草根多量混入

SK180



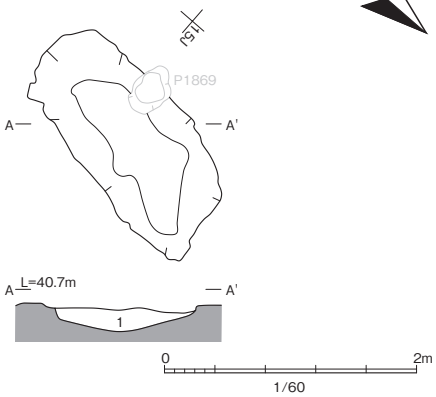
SK180
1.10YR2/1黒色土 10YR7/8黄橙色土粒少量混入

SK181



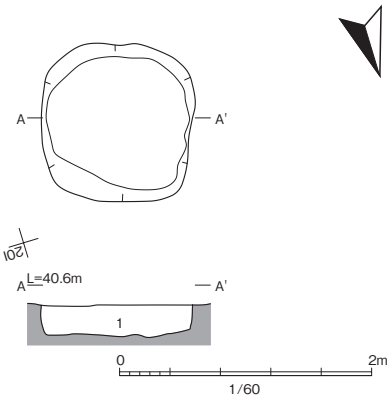
SK181
1.10YR2/2黒褐色土 10YR7/8黄橙色土ブロック少量混入

SK182



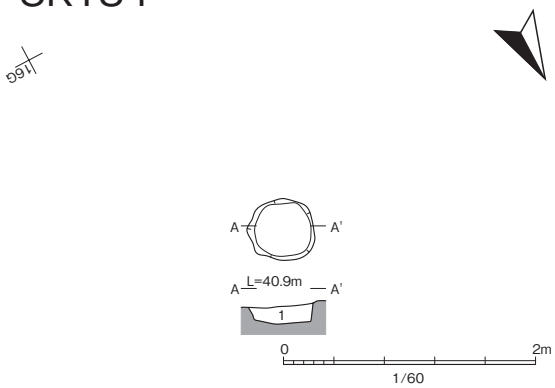
SK182
1.10YR4/3にぶい黄褐色土

SK183



SK183
1.10YR3/1黒褐色土 10YR7/8黄橙色土ブロック多量混入

SK184



SK184
1.10YR2/1黒色土 10YR7/8黄橙色土まだらに少量混入

第115図　SK179 ～ SK184

ＳＫ 182　（第 115 図　写真図版 113）		
位置　14 Ｊ、15 Ｊ	屋敷　2	時期　近世か？
形態等　長径 202cm、短径 89cmの楕円形を呈する。		
埋土　1 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＩ 101 と重複し本土坑が新しい。また、ＳＢ 109 と重複するが本土坑が古い。		
出土遺物　硯（803）が出土した。		
性格は不明である。時期はＳＢ 109 の切合いと出土遺物から近世のものと推測される。		

ＳＫ 183　（第 115 図　写真図版 113）		
位置　19 Ｈ	屋敷　1	時期　近代以降
形態等　直径約 124cmの円形を呈する。		
埋土　1 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　なし。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物がなく、鍵となる重複の遺構もなく、時期は不明である。		

ＳＫ 184　（第 115 図　写真図版 113）		
位置　16 Ｆ	屋敷　1	時期　近代以降
形態等　直径約 51cmの円形を呈する。		
埋土　1 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 124 のプラン内に位置するが直接切合う部分がなく前後関係は不明である。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。出土遺物がなく、鍵となる重複の遺構もなく、時期は不明である。		

ＳＫ 185　欠番		
位置	屋敷	時期
形態等		
埋土		
重複		
出土遺物		

ＳＫ 186　（第 116 図　写真図版 114）		
位置　11 Ｇ	屋敷　1	時期　近世、近代
形態等　直径約 46cmの円形を呈する。		
埋土　2 層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 129 と重複し本土坑が古い。		
出土遺物　なし。		
性格は不明である。近世の建物と推測されるＳＢ 129 より古いが詳細は不明である。		

ＳＫ 187　（第 116 図　写真図版 114）		
位置　13 Ｅ、13 Ｆ	**屋敷**　1	**時期**　８世紀代か？
形態等　長径 98cm、短径 68cmの楕円形を呈する。		
埋土　２層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＩ 103 のプラン内に位置するが前後関係は不明である。		
出土遺物　図化できなかったが土師器の微細片が出土している。		
出土遺物と位置関係から８世紀代の竪穴住居ＳＩ 103 の内部施設の可能性がある。時期は内部施設とすれば８世紀代となる。		

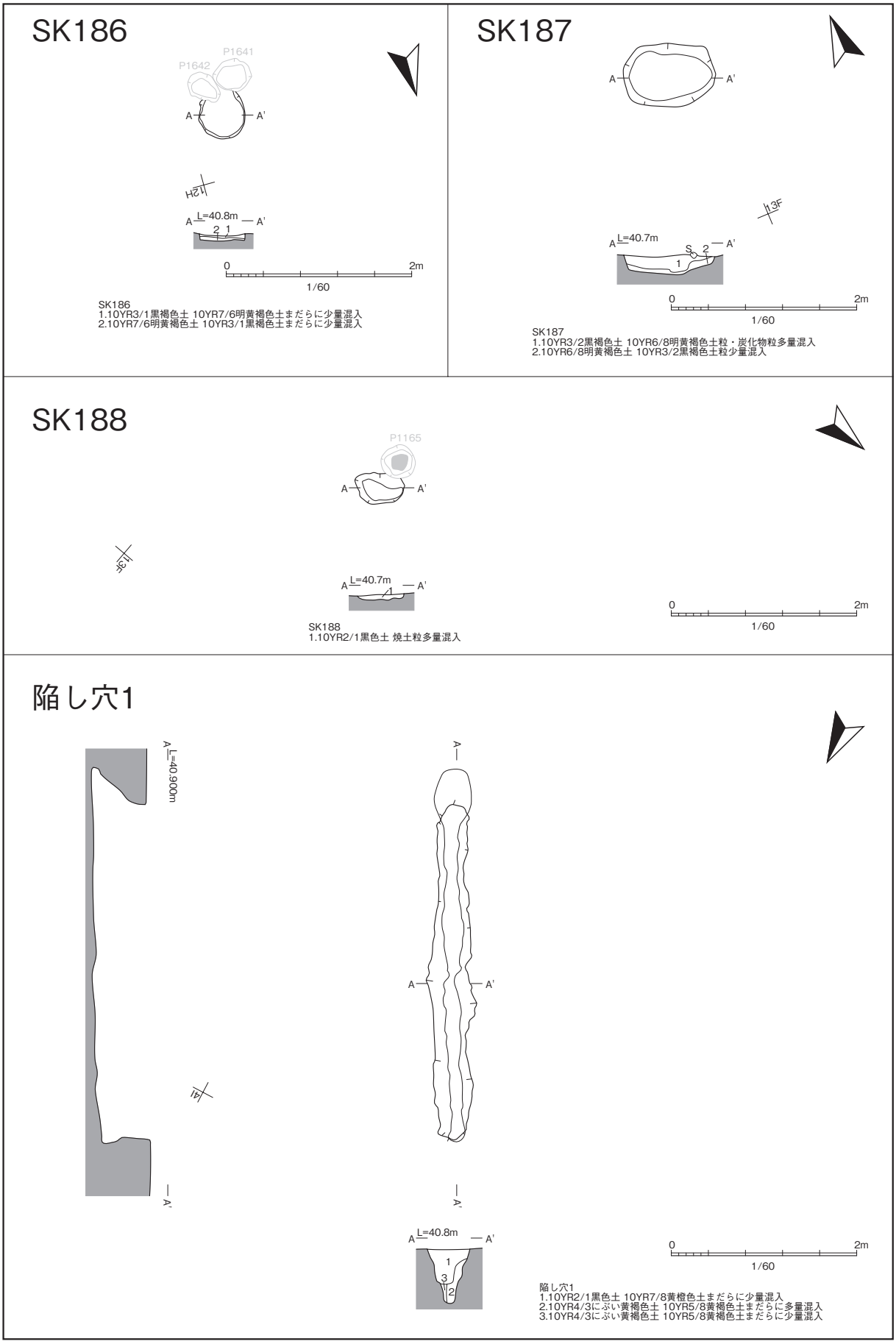
ＳＫ 188　（第 116 図　写真図版 114）		
位置　13 Ｅ	**屋敷**　1	**時期**　８世紀代か？
形態等　長径 50cm、短径 35cmの楕円形を呈する。		
埋土　１層に分かれる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。		
重複　ＳＢ 122 と重複し本土坑が古い。また、ＳＩ 103 のプラン内に位置するが前後関係は不明である。		
出土遺物　出土遺物はないが埋土中に焼土粒が含まれていた。		
位置関係から８世紀代の竪穴住居ＳＩ 103 の内部施設の可能性がある。時期は内部施設とすれば８世紀代となる。		

6　陥　し　穴

陥し穴１　（第 116 図　写真図版 114）	
位置　３Ｈ	**時期**　縄文時代
形態等　長径 399cm、幅 47cmの溝形　深さ 56cm	
埋土　３層に分かれる。自然堆積と推測される。	
重複　なし。	
出土遺物　なし。	
縄文時代の陥し穴と推測される。	

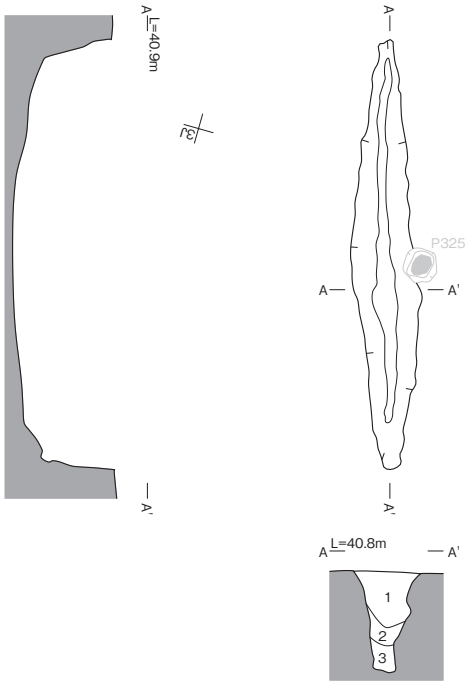
陥し穴２　（第 117 図　写真図版 115）	
位置　２Ｉ、３Ｉ	**時期**　縄文時代
形態等　長径 339cm、幅 52cmの溝形　深さ 82cm	
埋土　３層に分かれる。自然堆積と推測される。	
重複　ＳＢ１と重複し本陥し穴が古い。	
出土遺物　なし。	
縄文時代の陥し穴と推測される。	

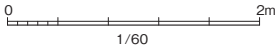
陥し穴３　（第 117 図　写真図版 115）	
位置　６Ｆ	**時期**　縄文時代
形態等　長径 282cm、幅 38cmの溝形　深さ 72cm	
埋土　３層に分かれる。自然堆積と推測される。	
重複　ＳＢ３、ＳＢ２が本建物より古い。	
出土遺物　なし。	
縄文時代の陥し穴と推測される。	



第116図　SK186 ～ SK188、陥し穴1

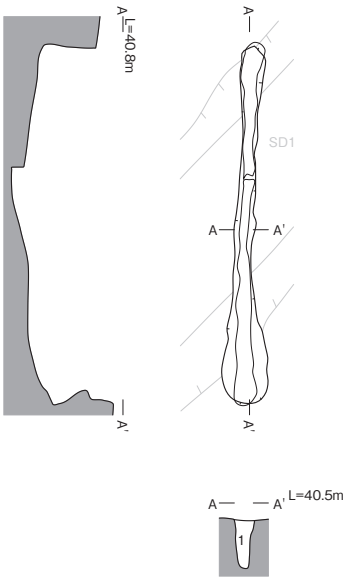
陥し穴2

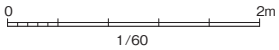




陥し穴2
1.10YR2/1黒色土 10YR7/8黄橙色土まだらに多量混入
2.10YR5/2灰黄褐色土 10YR2/1黒色土まだらに少量混入
3.10YR7/8黄橙色土 10YR5/2灰黄褐色土まだらに少量混入

陥し穴3





陥し穴3
1.10YR2/2黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土まだらに多量混入

第117図　陥し穴2、陥し穴3

第１表　柱穴一覧表①

柱穴	SB	グリッド	深さ（cm）	底面標高（m）
P1		7G	14.9	40.581
P2		7G	4.8	40.619
P3	SB2	7G	40.3	40.276
P4		7G	15.5	40.540
P5	SB2	7G	38.6	40.319
P6	SB3	7G	12.5	40.612
P7	SB3	7G	6.6	40.600
P8	SB3	7G	7.8	40.632
P9	SB2	6G	44.1	40.260
P10	SB3	6G	9.3	40.647
P11	SB2	7F	16.2	40.588
P12	SB2	7F	48.3	40.292
P13	SB3	7F	13.8	40.581
P14	SB3	7F	13.3	40.607
P15		7F	20.2	40.471
P16		7F	7.1	40.629
P17	SB2	7F	53.0	40.168
P18		7F	33.8	40.392
P19	SB2	6F~7F	45.8	40.252
P20	SB3	8F	12.0	40.590
P21	SB2	8G	37.2	40.330
P22	SB3	8G	5.7	40.632
P23	SB3	8G	12.7	40.556
P24	SB2	8G	48.2	40.273
P25		6H	25.3	40.437
P26		6H	11.0	40.495
P27		6H	40.3	40.347
P28	SB2	8G	13.4	40.331
P29		10A~10B	33.7	40.304
P30	SB2	8F	56.5	40.155
P31		8G	4.5	40.691
P32		8G	7.0	40.652
P33	SB2	8G	40.1	40.335
P34	SB3	8G	10.1	40.636
P35	SB3	8G	10.9	40.681
P36	SB3	8G	8.2	40.629
P37	SB2	8G	2.8	40.671
P38		8G	10.6	40.633
P39	SB2	8G	33.1	40.439
P40	SB3	8G	10.8	40.657
P41		8G	6.5	40.679
P42		8F	11.6	40.632
P43	SB2	8F~9F	10.3	40.598
P44	SB3	8F	20.6	40.511
P45	SB3	8F	4.4	40.653
P46	SB3	8F	9.1	40.601
P47	SB2	8F	53.0	40.220
P48	SB2	8F	67.3	40.102
P49	SB3	8F	11.7	40.606
P50	SB3	8F	10.4	40.610
P51		8F	35.1	40.414
P52	SB2	8F	34.0	40.396
P53	SB3	9F	8.0	40.671
P54	SB3	8F	16.7	40.558
P55	SB3	8F	11.9	40.578
P56		6F	25.1	40.449
P57	SB2	6F	22.2	40.483
P58	SB2	6F	21.0	40.530
P59	SB3	6F	17.0	40.585
P60	SB4	8G	28.3	40.382
P61	SB14	6F	17.9	40.511
P62		6F	16.7	40.578
P63	SB3	6F	18.2	40.543
P64	SB2	6F	14.8	40.234
P65	SB2	6F	14.9	40.503
P66	SB14	6F	17.0	40.334
P67	SB4	6F	44.6	40.194
P68		9F	9.0	40.570
P69		6F	13.1	40.561
P70	SB2	9F	53.1	40.180
P71	SB3	9F	9.1	40.629
P72		9E	22.3	40.462
P73	SB8	9E	21.0	40.435
P74	SB9	9E	29.2	40.353
P75		8E~9E	11.5	40.545
P76		9E	13.2	40.553
P77	SB9	9E	29.8	40.372
P78	SB9	9E	15.8	40.479
P79		8E	32.1	40.379
P80	SB8	8E	34.7	40.338
P81	SB9	8E	32.2	40.363
P82	SB9	8E	31.9	40.401
P83	SB9	8E	28.3	40.407
P84	SB10	8E	34.1	40.329
P85	SB8	8E	42.1	40.294
P86		7E	55.9	40.091
P87		7E	6.2	40.533
P88		7E	24.3	40.407
P89	SB9	6E~7E	24.2	40.393
P90		7E	12.1	40.494
P91	SB9	7E	32.7	40.303
P92	SB10	7E	27.1	40.339
P93	SB10	6D~6E	38.5	40.215
P94		6E	不明	不明
P95		6E	12.5	40.591
P96	SB4	6E	25.6	40.446
P97	SB4	6E	14.9	40.546
P98		6F	11.3	40.502
P99	SB4	6E	21.8	40.462
P100		6E	17.7	40.523
P101	SB4	6E	20.9	40.479
P102	SB4	6E	不明	不明
P103	SB8	10D	43.7	40.333
P104		10D	12.3	40.647
P105	SB8	9D~10D	44.5	40.280
P106		8D	14.9	40.775
P107	SB9	8D	26.0	40.456
P108		8D	14.1	40.604
P109		8D	13.5	40.610
P110	SB9	8D	31.3	40.392
P111	SB10	8D	42.5	40.285
P112	SB9	8D	20.7	40.498
P113		8D	38.6	40.354
P114		8D	22.4	40.506
P115		9D	20.9	40.421
P116		9D	20.5	40.435
P117		9D	38.8	40.302
P118		9D	21.0	40.490
P119	SB9	9D	16.7	40.389
P120	SB8	8D	31.4	40.256
P121	SB9	9D	16.0	40.372
P122	SB8	8D~9D	49.4	40.311
P123	SB9	9D	11.3	40.707
P124	SB9	7D	29.9	40.426
P125	SB10	7D	36.5	40.315
P126	SB9	7D	31.1	40.374
P127		7D	14.3	40.488
P128	SB9	7D	41.7	40.268
P129	SB10	7D	48.0	40.210
P130	SB9	7D	14.0	40.600
P131	SB9	7D	24.8	40.447
P132	SB10	7D	38.3	40.302
P133		6D	7.5	40.575
P134		6C~6D	8.1	40.589
P135		6D	26.3	40.382
P136	SB10	6D	18.3	40.457
P137		6D	23.8	40.417
P138		6D	21.7	40.398
P139		6D	不明	不明
P140	SB8	10C	47.0	40.290
P141		10C	19.4	40.510
P142	SB8	9C	44.2	40.318
P143	SB8	9C	31.2	40.488
P144		9C	8.8	40.680
P145		9C	16.9	40.580
P146		9B~9C	12.2	40.542
P147	SB8	9C	45.9	40.276
P148	SB8	9C	42.5	40.290
P149		7C	20.5	40.528
P150		7C	16.3	40.568
P151		7C	11.9	40.613
P152		7C	20.4	40.531
P153		6C	14.1	40.532
P154	SB10	6C	15.6	40.511
P155	SB9	6C	26.6	40.419
P156	SB10	6C	11.0	40.567
P157		6C	11.1	40.579
P158		6C	7.6	40.599
P159		6B	10.1	40.671
P160	SB9	6C	32.7	40.358
P161		10B	19.5	40.582
P162		10B	16.0	40.599
P163		10B	21.7	40.518
P164		10B	11.8	40.631
P165		10B~10C	38.5	40.405
P166		9B	15.3	40.581
P167		9B	22.9	40.524
P168		9B	10.8	40.654
P169		9B	13.3	40.592
P170		8B	12.9	40.591
P171		8B	27.6	40.438
P172		7B	95.7	40.608
P173	SB11	7A	34.2	40.460
P174	SB11	7B	48.5	40.253
P175		7B	不明	不明
P176		7B	91.1	40.579
P177	SB11	7B	94.2	40.611
P178	SB11	7B	31.1	40.415
P179		7B	40.3	40.359
P180	SB11	7B	92.2	40.572
P181		7B	89.0	40.553
P182		7B	89.8	40.568
P183	SB11	7B	23.0	40.506
P184		7B	17.0	40.559
P185		7B	11.6	40.583
P186	SB11	7B	65.8	40.371
P187		7A	94.1	40.568
P188		6B	92.8	40.591
P189	SB11	6B	93.1	40.590
P190	SB11	6B	85.3	40.554
P191	SB11	6B	85.0	40.524
P192	SB11	6A	34.6	40.366
P193	SB11	6A~6B	90.6	40.574
P194		6B	78.3	40.477
P195	SB11	6B	76.6	40.436
P196		6B	87.4	40.572
P197	SB11	6B	80.4	40.477
P198	SB11	6B	78.9	40.506
P199	SB11	6B	20.1	40.499
P200		6B	98.6	40.659
P201		5B	48.2	40.631
P202	SB7	8I	48.2	40.214
P203	SB7	8I	52.9	40.146
P204	SB7	7I	57.1	40.144
P205	SB7	7I	47.7	40.208
P206		6I	9.8	40.557
P207		6I	7.5	40.605
P208		6I	12.5	40.532
P209		6I	22.6	40.434
P210	SB7	7I~7J	46.4	40.222

第１表　柱穴一覧表②

柱穴	SB	グリッド	深さ（cm）	底面標高（m）
P211	SB7	8J	32.5	40.157
P212	SB7	8J	46.2	40.168
P213		8J	29.6	40.324
P214		7J	6.8	40.440
P215		5J	19.9	40.446
P216	SB4	5F	50.1	40.479
P217		5I	11.2	40.478
P218	SB4	5F	22.5	40.429
P219		5F	不明	不明
P220		5F	18.1	40.425
P221	SB4	5F	35.3	40.456
P222	SB14	5F	41.0	40.504
P223		5E~5F	30.8	40.399
P224	SB4	5E~5F	42.6	40.547
P225		5F	36.6	40.457
P226	SB4	5F	26.9	40.391
P227	SB4	5E	28.4	40.371
P228	SB5	5E	25.8	40.354
P229	SB4	5E	35.9	40.291
P230	SB4	5E	25.1	40.404
P231	SB4	5E	27.0	40.360
P232	SB4	5E	32.8	40.312
P233	SB14	6E~6F	11.3	40.541
P234	SB14	5E	24.6	40.404
P235	SB4	5E	29.1	40.376
P236	SB5	5E	31.6	40.364
P237	SB6	5E	28.1	40.379
P238	SB6	5E	7.8	40.617
P239	SB6	5E	14.3	40.532
P240	SB6	5E	40.0	40.300
P241	SB6	5E	31.3	40.332
P242	SB6	5E	18.0	40.475
P243	SB5	5E	14.3	40.500
P244		5E	8.5	40.555
P245	SB5	5E	11.5	40.550
P246	SB5	5E	14.3	40.562
P247		5E	30.3	40.407
P248	SB5	5E	20.8	40.507
P249	SB6	5D	13.2	40.518
P250		5D~6D	16.2	40.473
P251	SB13	5D	16.9	40.476
P252	SB13	5E	240	40.415
P253	SB9	5D	20.3	40.400
P254	SB10	6D	15.4	40.507
P255		5D	19.6	40.419
P256	SB13	5E	8.7	40.528
P257		5D	28.3	40.334
P258		5D	31.3	40.302
P259			不明	不明
P260		5D	15.6	40.454
P261		5D	17.6	40.459
P262		5D	10.6	40.539
P263	SB13	5E	22.7	40.423
P264		5D	5.7	40.593
P265		5C~5D	15.3	40.481
P266	SB13	5C~5D	12.5	40.502
P267		5C	17.2	40.518
P268	SB13	5C	16.6	40.512
P269		5C	13.3	40.627
P270		5C	10.3	40.601
P271		5C	18.7	40.573
P272		5C	11.7	40.638
P273		5B	26.3	40.457
P274	SB12	5A	21.1	40.504
P275	SB12	5A~6A	17.0	40.507
P276	SB12	5A	20.9	40.501
P277		5A	21.8	40.502
P278		5A	10.3	40.613
P279	SB12	5A	15.1	40.567
P280		5B	19.1	40.528
P281		5B	10.4	40.626
P282		5B	12.4	40.571
P283		5B	17.7	40.543
P284		5B	7.9	40.626
P285		5B	3.3	40.682
P286		4C	13.7	40.558
P287		4C	17.1	40.554
P288		4C	7.4	40.641
P289	SB13	4C	25.6	40.449
P290		4C	15.9	40.591
P291		4D	23.0	40.460
P292	SB13	4D	16.2	40.548
P293		4D	19.3	40.492
P294	SB13	4E	20.6	40.484
P295	SB13	4E	35.7	40.318
P296		4D	8.3	40.587
P297	SB5	4D~4E	23.6	40.449
P298	SB5	4D	7.8	40.609
P299	SB5	4E	8.3	40.538
P300	SB6	4D	29.6	40.389
P301	SB5	4D	14.3	40.522
P302		4D	9.6	40.579
P303	SB5	4D	13.8	40.547
P304		4D	6.8	40.592
P305	SB5	4D	9.3	40.587
P306	SB5	4D~4E	9.9	40.586
P307	SB9	8D	7.6	40.681
P308	SB3	9F	2.4	40.673
P309	SB6	4E	27.8	40.387
P310		4E	12.5	40.545
P311	SB5	4E	26.9	40.446
P312		4E	21.5	40.476
P313	SB5	4E	12.0	40.563
P314	SB5	4E	9.5	40.612
P315		4E	21.0	40.510
P316	SB5	4E	10.1	40.629
P317		4E	10.3	40.622
P318		4E	25.4	40.431
P319		4F	36.0	40.279
P320		4F	27.2	40.388
P321	SB4	5F	12.6	40.199
P322		4J	26.2	40.453
P323	SB1	3I~3J	12.8	40.526
P324	SB1	3I	25.1	40.399
P325	SB1	3I	19.9	40.435
P326		3G	13.9	40.531
P327		3G	5.5	40.60
P328	SB1	2J	19.0	40.424
P329	SB1	2I	14.2	40.468
P330	SB1	2I	15.4	40.481
P331		3C	8.0	40.675
P332		3C	8.0	40.579
P333		3B	18.0	40.580
P334	SB3	8G	15.0	40.589
P335	SB14	6E	20.0	40.491
P336	SB4	6F	10.8	40.584
P337	SB6	4E	4.4	40.669
P338	SB8	10C	41.2	40.243
P339	SB8	9E	31.2	40.330
P340	SB8	9E	18.7	40.271
P341	SB8	9D	24.5	40.251
P342	SB9	9D	9.6	40.707
P343	SB9	9D	41.4	40.267
P344		9D	20.7	40.484
P345	SB9	6D	19.7	40.391
P346		6D	25.5	40.412
P347	SB9	6D	19.4	40.393
P348	SB14	6F	27.9	40.373
P1001		14C	10.6	40.606
P1002		14C	13.8	40.581
P1003		14C	5.6	40.671
P1004		14C	17.4	40.482
P1005		14C	24.2	40.436
P1006		14C	7.5	40.643
P1007	SB119	14D	15.7	40.515
P1008		14D	19.6	40.513
P1009	SB119	14D	17.9	40.533
P1010	SB119	14D	17.6	40.575
P1011	SB121	14D	22.0	40.532
P1012		14D	18.4	40.576
P1013	SB121	14D	19.5	40.552
P1014	SB120	14D	13.3	40.588
P1015		14D	18.3	40.536
P1016		14D	18.3	40.530
P1017	SB118	14D	21.2	40.488
P1018	SB119	14D	19.1	40.564
P1019		14D	19.9	40.567
P1020		14D	22.1	40.519
P1021		14D	9.5	40.655
P1022		14D~14E	19.8	40.547
P1023		14D	12.8	40.582
P1024		14D	27.1	40.465
P1025	SB118	14D	27.2	40.499
P1026	SB122	14D	23.7	40.519
P1027	SB121	14E	25.3	40.477
P1028	SB119	13D	17.0	40.559
P1029	SB121	14E	20.7	40.529
P1030		14E	21.7	40.523
P1031		14E	17.5	40.595
P1032		14E	16.6	40.604
P1033	SB119	14E	21.5	40.531
P1034	SB118	14E	18.7	40.621
P1035	SB116	14E	27.2	40.514
P1036		14E~15E	25.9	40.520
P1037	SB120	14E	18.6	40.610
P1038	SB120	14E	24.5	40.506
P1039	SB121	14E	24.2	40.548
P1040	SB121	14E	27.7	40.501
P1041	SB122	14E	19.5	40.463
P1042	SB118	14E	21.3	40.440
P1043		14E	15.6	40.548
P1044	SB118	14E	25.3	40.491
P1045		14E	20.4	40.570
P1046	SB115	15E	34.2	40.425
P1047		14F	8.8	40.464
P1048		14F	12.1	40.466
P1049		15F	23.8	40.466
P1050	SB102	14F	26.2	40.367
P1051		14F	13.6	40.534
P1052		14F	23.9	40.429
P1053		13F~14F	10.7	40.484
P1054		14F	20.4	40.411
P1055		14F	19.7	40.410
P1056	SB102	14G	14.2	40.593
P1057	SB102	14G	25.0	40.449
P1058		14G	21.9	40.396
P1059	SB102	14G	14.4	40.528
P1060	SB102	14G	35.2	40.322
P1061	SB101	14G	25.2	40.409
P1062	SB101	14G	40.0	40.371
P1063	SB102	14G	23.4	40.429
P1064	SB101	14H	41.3	40.274
P1065	SB102	14H	19.8	40.481
P1066		14H	9.3	40.657
P1067		14H	4.3	40.710
P1068	SB127	14H	9.1	40.665
P1069	SB127	14H	30.9	40.436
P1070	SB127	14H	8.8	40.643

第１表　柱穴一覧表③

柱穴	SB	グリッド	深さ（cm）	底面標高（m）
P1071	SB101	14H	42.2	40.339
P1072		14H	9.7	40.638
P1073	SB102	14H	17.8	40.563
P1074	SB127	14H	27.4	40.474
P1075	SB127	14H	10.9	40.615
P1076		14H	6.6	40.662
P1077	SB127	14H	14.9	40.548
P1078	SB101	14H	38.3	40.334
P1079		14H	38.9	40.320
P1080		14H	14.9	40.563
P1081		14I	12.2	40.586
P1082	SB101	14I	27.9	40.433
P1083		14I	22.7	40.351
P1084		14I	25.9	40.363
P1085		14I	24.2	40.485
P1086	SB108	14I	47.0	40.294
P1087	SB103	14I	25.2	40.498
P1088	SB103	14I	12.8	40.620
P1089	SB109	14I	12.5	40.619
P1090		14I	20.8	40.506
P1091	SB111	14I~14J	39.7	40.309
P1092		15B	26.6	40.512
P1093		15B	16.3	40.553
P1094		15B~16B	9.8	40.595
P1095		16B	15.8	40.510
P1096	SB134	16B	12.4	40.552
P1097	SB131	15B	34.1	40.421
P1098	SB133	15B	28.8	40.480
P1099	SB130	15B	16.0	40.643
P1100		15B	24.2	40.501
P1101	SB130	13A	82.3	39.957
P1102	SB131	13A	79.1	39.999
P1103		13A	35.8	40.437
P1104	SB132	13A~13B	37.2	40.423
P1105		13B~14B	90.2	40.098
P1106	SB131	13A~13B	59.8	40.194
P1107		13A~13B	11.2	40.701
P1108	SB132	13B	9.4	40.716
P1109	SB130	13A~13B	19.1	40.608
P1110	SB139	13B	9.9	40.581
P1111		13B	6.8	40.712
P1112	SB139	13C~14C	9.8	40.657
P1113		13B	7.2	40.673
P1114	SB139	13B	17.6	40.568
P1115		15B	11.1	40.664
P1116		13B	10.2	40.623
P1117		13B	23.0	40.505
P1118		13B	26.4	40.481
P1119		13B	14.1	40.599
P1120		13B	12.1	40.644
P1121	SB139	13B	16.7	40.563
P1122	SB139	13C~14C	15.9	40.588
P1123		13C	12.0	40.584
P1124	SB119	13C~13D	23.6	40.455
P1125		13D	4.5	40.635
P1126		13D	27.7	40.411
P1127		13D	18.9	40.486
P1128		13D	12.9	40.531
P1129	SB119	13D	21.0	40.471
P1130		13D	23.4	40.403
P1131		13D	19.5	40.500
P1132		13D	26.6	40.424
P1133	SB121	13D	27.7	40.418
P1134	SB121	13D	15.5	40.539
P1135		13D	14.4	40.531
P1136	SB120	13D	18.7	40.499
P1137		13D	9.8	40.586
P1138		13D	15.8	40.535
P1139	SB121	13D	22.6	40.492
P1140		13D	11.0	40.592

柱穴	SB	グリッド	深さ（cm）	底面標高（m）
P1141	SB119	13D	12.4	40.585
P1142	SB122	13D	23.9	40.455
P1143	SB122	13D	24.4	40.471
P1144	SB121	13D~14D	10.8	40.587
P1145	SB122	13D	9.3	40.607
P1146	SB118	13D	28.7	40.383
P1147		12D~13D	14.0	40.561
P1148	SB119	13D	22.4	40.448
P1149		13D	15.0	40.560
P1150	SB120	13D~13E	25.1	40.469
P1151		13D~13E	34.9	40.369
P1152	SB121	13E	38.8	40.332
P1153	SB120	13E	35.8	40.357
P1154	SB118	13E	14.6	40.550
P1155	SB119	13E	18.1	40.519
P1156		12E~13E	16.9	40.571
P1157	SB121	13E	18.8	40.517
P1158		13E	23.6	40.455
P1159	SB121	13E	14.7	40.539
P1160		13E~14E	19.1	40.509
P1161	SB121	13E	18.9	40.536
P1162	SB118	13E	24.7	40.438
P1163	SB122	13E	36.6	40.324
P1164	SB118	13E	29.9	40.321
P1165	SB122	13E	36.2	40.263
P1166		13E	48.8	40.080
P1167	SB120	13E~14E	36.1	40.369
P1168		14E	27.9	40.454
P1169	SB121	14D	25.6	40.399
P1170		13D~14D	11.3	40.566
P1171		14A~14B	42.0	40.381
P1172		14A	12.3	40.670
P1173		14A~14B	24.6	40.494
P1174	SB133	14B	29.9	40.449
P1175	SB131	14B	28.9	40.456
P1176	SB133	14B	17.2	40.563
P1177	SB130	14B	25.4	40.496
P1178		14B	16.1	40.614
P1179	SB132	14B	26.1	40.502
P1180	SB132	14B	43.4	40.346
P1181	SB130	14B	46.2	40.308
P1182		14B	32.8	40.442
P1183		14B	14.7	40.645
P1184	SB139	14B	21.3	40.532
P1185	SB131	14B	39.8	40.387
P1186		14B	12.8	40.594
P1187		14B	16.7	40.553
P1188		14B	13.1	40.574
P1189		14B	11.4	40.582
P1190		14B	9.0	40.574
P1191		14B	12.4	40.540
P1192		14C	10.7	40.574
P1193		14B~14C	15.6	40.537
P1194		14B~15B	37.3	40.408
P1195	SB132	15B	34.5	40.435
P1196	SB130	14B~15B	32.0	40.451
P1197		15B	31.5	40.450
P1198		15B	31.4	40.434
P1199		14C~15C	17.3	40.534
P1200		15C	13.8	40.571
P1201		15B	14.6	40.629
P1202		15B	17.8	40.601
P1203		15B	29.4	40.475
P1204	SB131	15B	29.2	40.507
P1205	SB132	15B	28.8	40.504
P1206	SB130	15B	36.1	40.442
P1207		15B	11.3	40.680
P1208	SB133	15B	35.8	40.434
P1209		15B	17.3	40.624
P1210	SB131	15B	38.0	40.435

柱穴	SB	グリッド	深さ（cm）	底面標高（m）
P1211		15B	12.6	40.696
P1212	SB132	15B	33.6	40.475
P1213		15B	29.3	40.528
P1214	SB134	15B	41.4	40.415
P1215		15B	37.8	40.468
P1216	SB137	15B~16B	31.4	40.542
P1217		15B	25.6	40.535
P1218	SB140	15B	27.1	40.547
P1219		15C	12.9	40.626
P1220		15C	10.7	40.691
P1221	SB117	15D	32.2	40.504
P1222	SB115	15D	34.4	40.451
P1223	SB119	12C	36.4	40.324
P1224	SB115	15D	40.1	40.388
P1225	SB117	15D	31.8	40.468
P1226	SB115	15D	17.6	40.633
P1227	SB117	15D	36.1	40.461
P1228	SB115	16D	42.9	40.367
P1229	SB115	15D	20.9	40.615
P1230	SB117	15D	39.8	40.411
P1231	SB120	15D	26.5	40.556
P1232		15D	20.0	40.566
P1233	SB116	15D	20.4	40.602
P1234		15D	不明	不明
P1235	SB116	15D	29.5	40.492
P1236	SB115	15D	23.5	40.566
P1237	SB116	15D	26.0	40.541
P1238	SB117	15D	28.8	40.525
P1239		15D	17.1	40.615
P1240		15D~15E	10.7	40.691
P1241	SB115	15D~15E	38.4	40.389
P1242		15D	17.6	40.643
P1243	SB116	15E	21.3	40.583
P1244	SB117	15E	36.2	40.445
P1245	SB115	15E~16E	37.9	40.382
P1246		15E	19.9	40.575
P1247	SB117	15E	31.1	40.430
P1248	SB116	15E	25.2	40.492
P1249	SB116	15E	10.3	40.674
P1250	SB115	15E	30.1	40.479
P1251	SB115	15E	38.7	40.333
P1252	SB116	15E	23.3	40.515
P1253	SB116	15E	26.4	40.509
P1254	SB116	15E	22.1	40.544
P1255	SB115	15E	13.6	40.627
P1256	SB115	15E	16.4	40.621
P1257		15E	12.5	40.656
P1258	SB116	15E	42.2	40.340
P1259	SB115	15E~15F	37.2	40.371
P1260	SB116	15E	25.0	40.521
P1261		15F	18.5	40.526
P1262		15F	10.7	40.610
P1263	SB102	15F	20.2	40.516
P1264		15F	14.6	40.606
P1265	SB102	15F	9.9	40.668
P1266		15E	21.7	40.538
P1267		15F	40.3	40.354
P1268	SB102	15F	36.1	40.388
P1269	SB102	15G	50.9	40.262
P1270		15G	44.5	40.305
P1271	SB102	15H	21.6	40.538
P1272		15H	12.8	40.623
P1273		15H	52.6	40.274
P1274		15G	40.1	40.367
P1275	SB102	15G	38.3	40.390
P1276	SB102	15H	29.1	40.471
P1277	SB127	15H	22.4	40.537
P1278		15H	35.2	40.416
P1279		15H	27.7	40.468
P1280		15H	26.6	40.414

第１表　柱穴一覧表④

柱穴	SB	グリッド	深さ（cm）	底面標高（m）
P1281		15H	35.5	40.346
P1282		15H	10.2	40.597
P1283		15H~15I	9.8	40.583
P1284		15I	5.8	40.578
P1285		13J~14J	37.5	40.348
P1286	SB103	14J	8.8	40.641
P1287	SB103	13J~14J	17.4	40.525
P1288		13J~14J	25.2	40.322
P1289	SB103	13J	16.7	40.425
P1290		13J	18.4	40.418
P1291		13J	35.2	40.380
P1292	SB108	13J	39.5	40.334
P1293		13J	12.6	40.602
P1294	SB103	13J	22.7	40.495
P1295		13J	12.2	40.618
P1296		13J	37.2	40.356
P1297	SB105	13J	37.4	40.341
P1298	SB108	13J	47.1	40.209
P1299		13J	9.8	40.543
P1300		13J	27.7	40.414
P1301	SB103	13J	16.0	40.578
P1302		13J	37.3	40.331
P1303	SB111	13J	37.1	40.344
P1304		13J	20.1	40.497
P1305	SB105	13J	31.0	40.379
P1306	SB103	13K	20.6	40.457
P1307	SB109	13J	27.6	40.426
P1308		13J	40.5	40.321
P1309	SB103	13J	11.2	40.634
P1310	SB103	13J	11.6	40.618
P1311	SB103	12J	18.9	40.512
P1312		12J~13J	21.5	40.472
P1313		12J	10.3	40.565
P1314		12J	10.3	40.550
P1315		12J	27.5	40.348
P1316		12J	18.7	40.436
P1317		12J	17.5	40.521
P1318		12J	16.0	40.560
P1319		12J	9.2	40.604
P1320	SB104	12I	25.6	40.468
P1321	SB111	13J	36.1	40.344
P1322	SB104	13I	31.3	40.412
P1323		13J	10.1	40.623
P1324		13J	10.3	40.628
P1325	SB103	13J	5.2	40.681
P1326	SB108	13J	不明	不明
P1327		13J	40.3	40.278
P1328	SB105	13J	37.1	40.337
P1329	SB110	11J	31.9	40.309
P1330		13J	4.5	40.655
P1331		13J	3.2	40.685
P1332	SB110	13J	19.1	40.516
P1333	SB103	12J~13J	9.9	40.633
P1334	SB103	12J	23.9	40.465
P1335		13J	30.6	40.416
P1336	SB105	13I~13J	14.8	40.575
P1337	SB109	13I~13J	9.5	40.623
P1338		13I	19.2	40.530
P1339	SB103	13I	15.2	40.562
P1340		13I	不明	不明
P1341	SB103	13I	6.0	40.657
P1342	SB103	13I	13.7	40.602
P1343	SB109	13I	40.0	40.310
P1344	SB105	13I	24.6	40.457
P1345	SB108	13I	6.6	40.642
P1346		13I	11.7	40.595
P1347		13I	6.9	40.649
P1348	SB106	13I	19.7	40.538
P1349	SB104	13I	20.8	40.526
P1350	SB109	13I	19.5	40.524
P1351	SB106	13I	44.5	40.278
P1352	SB105	13I	32.0	40.408
P1353	SB108	13I	43.1	40.302
P1354	SB103	13I	17.3	40.543
P1355		13I	41.1	40.291
P1356	SB105	13I	25.1	40.420
P1357	SB104	13I	35.2	40.318
P1358		13I	36.2	40.339
P1359	SB104	13I	41.2	40.318
P1360	SB101	13I	25.0	40.418
P1361		13H	26.3	40.391
P1362		13H	16.7	40.468
P1363	SB101	13H	27.0	40.390
P1364		13H	22.7	40.414
P1365		13H	8.4	40.563
P1366		13H	20.7	40.421
P1367		13H	16.0	40.495
P1368	SB125	13G~13H	6.1	40.598
P1369		12J	11.5	40.617
P1370		12J	15.4	40.571
P1371	SB108	12J	27.6	40.446
P1372		12J	135.1	40.375
P1373		12J	9.1	40.620
P1374	SB112	11J	11.1	40.506
P1375	SB105	12J	37.7	40.353
P1376		12J	10.6	40.568
P1377		12J	28.2	40.414
P1378		12J	16.3	40.547
P1379	SB110	12J	23.2	40.441
P1380		12J	21.4	40.462
P1381	SB106	12J	44.1	40.275
P1382		12J	15.9	40.499
P1383	SB105	12J	24.6	40.414
P1384	SB108	12J	28.2	40.392
P1385	SB110	12J	30.1	40.391
P1386	SB104	12I	33.6	40.306
P1387	SB105	12J	27.6	40.328
P1388		13G	20.1	40.439
P1389		13G	6.6	40.593
P1390	SB126	13G	8.8	40.495
P1391		13G	22.7	40.429
P1392		13G~14G	13.3	40.472
P1393		13G	5.2	40.554
P1394		13G	8.9	40.528
P1395	SB125	13G	6.4	40.571
P1396	SB125	13G	11.9	40.435
P1397	SB125	13F~13G	14.4	40.438
P1398		13F	26.5	40.324
P1399		13F	5.3	40.535
P1400		13F	10.1	40.512
P1401		13F	22.5	40.370
P1402		13F	7.0	40.501
P1403		13F	10.1	40.491
P1404		13F	9.2	40.522
P1405		13F	17.9	40.458
P1406	SB125	13F	6.1	40.563
P1407		13F	4.5	40.528
P1408		13F	38.3	40.175
P1409		13F~14F	19.7	40.357
P1410		12I	17.2	40.514
P1411	SB104	12I~13I	28.5	40.412
P1412		12I	不明	不明
P1413		12I	29.0	40.362
P1414	SB105	12I	25.2	40.411
P1415		12I	11.4	40.594
P1416	SB104	12I	26.2	40.431
P1417		12I	16.5	40.516
P1418		12I	16.6	40.508
P1419		12I	29.6	40.385
P1420		12I	29.3	40.404
P1421		12I	9.8	40.574
P1422	SB106	12I	39.0	40.254
P1423	SB108	12I	39.3	40.301
P1424	SB105	12I	23.4	40.445
P1425		12I	21.5	40.465
P1426		12I	36.6	40.325
P1427	SB108	12I	31.5	40.341
P1428	SB106	12I	37.8	40.309
P1429	SB105	12I	25.8	40.450
P1430		11I~12I	37.4	40.321
P1431		12I	15.8	40.508
P1432		15F~16F	47.7	40.293
P1433		16E~16F	12.1	40.636
P1434		16F	16.5	40.606
P1435	SB124	16F	25.0	40.480
P1436		16F	11.5	40.620
P1437	SB124	16F	29.4	40.495
P1438	SB129	12F	22.3	40.290
P1439		16F	21.1	40.524
P1440		16F	24.5	40.496
P1441		16F	7.6	40.694
P1442	SB124	16F	32.9	40.392
P1443	SB123	16F	36.9	40.376
P1444		16F	12.5	40.623
P1445	SB124	16F~16G	42.4	40.320
P1446		16G	21.6	40.435
P1447		16G	19.3	40.463
P1448	SB123	16G	22.0	40.471
P1449	SB124	16G	21.9	40.434
P1450		16F~16G	9.0	40.638
P1451	SB123	16G	8.3	40.501
P1452	SB135	16G~16H	32.3	40.545
P1453		16B	23.0	40.649
P1454		16B	35.9	40.447
P1455		16B	18.6	40.678
P1456		16B	31.4	40.551
P1457	SB136	16B	19.7	40.664
P1458	SB135	16B	17.3	40.681
P1459		16B	18.8	40.666
P1460		16B	49.6	40.334
P1461	SB134	16B	32.6	40.514
P1462		16B	20.1	40.640
P1463	SB136	16B	23.4	40.585
P1464	SB133	15B	40.7	40.442
P1465	SB135	16B	38.0	40.485
P1466		16B	18.0	40.654
P1467		16B	38.3	40.490
P1468		16B	28.2	40.578
P1469		16B	24.6	40.596
P1470		16B	40.0	40.432
P1471	SB140	16B	20.0	40.652
P1472	SB140	16B	26.5	40.427
P1473	SB135	17B	35.3	40.495
P1474	SB136	16B	62.2	40.240
P1475		16B	13.6	40.722
P1476		16B	41.5	40.431
P1477		16B	42.0	40.449
P1478	SB134	16B	40.4	40.461
P1479	SB137	16B	57.6	40.281
P1480		16B	26.2	40.474
P1481		16B	37.4	40.461
P1482		16B	13.4	40.508
P1483	SB137	16B	17.4	40.470
P1484	SB135	16B	23.1	40.426
P1485	SB136	16B	20.7	40.471
P1486		16A	21.3	40.606
P1487	SB140	16A~16B	36.7	40.428
P1488	SB134	16A	47.6	40.369
P1489		15B~16B	30.5	40.517
P1490		16A	27.7	40.554

第１表　柱穴一覧表⑤

柱穴	SB	グリッド	深さ（cm）	底面標高（m）
P1491	SB133	16A~16B	35.9	40.471
P1492	SB135	16B	30.7	40.501
P1493	SB137	16A~16B	43.3	40.428
P1494	SB136	16B	34.2	40.472
P1495		16B	37.9	40.433
P1496		16B	36.0	40.469
P1497		16A~17A	30.7	40.620
P1498	SB137	16B	47.3	40.389
P1499	SB140	16B	47.4	40.359
P1500	SB128	17I	29.4	40.171
P1501	SB134	16B	21.2	40.611
P1502		16A	22.3	40.614
P1503		16B	31.8	40.481
P1504		16B	33.9	40.510
P1505		16E	19.6	40.556
P1506		17B	16.9	40.600
P1507		16E	16.9	40.594
P1508		15E~16E	14.4	40.605
P1509		17A~17B	14.5	40.779
P1510		17A	12.6	40.782
P1511		17B	13.7	40.744
P1512		17B	10.0	40.779
P1513		17B	19.0	40.699
P1514	SB136	17B	55.6	40.270
P1515	SB134	17B	28.6	40.554
P1516	SB135	17B	40.0	40.431
P1517		17B	10.1	40.670
P1518	SB138	17C	29.7	40.504
P1519	SB138	17D~18D	25.7	40.488
P1520		17E	13.6	40.673
P1521		17E	27..7	40.527
P1522		16E~17E	7.5	40.729
P1523		17E	19.7	40.622
P1524		17E	17.7	40.617
P1525	SB123	17G	23.0	40.377
P1526	SB123	17G	27.2	40.411
P1527		17I	13.1	40.334
P1528		17I	15.4	40.304
P1529		18C	13.3	40.724
P1530	SA105	18C	15.7	40.686
P1531	SA105	18C	7.5	40.775
P1532		18D	14.9	40.572
P1533	SB138	18D	21.7	40.521
P1534		16B	27.4	40.495
P1535		18D	19.3	40.513
P1536	SB138	18D	16.8	40.570
P1537		15B	12.0	40.501
P1538		18D	5.8	40.713
P1539		18D	4.9	40.766
P1540		18D~19D	15.6	40.673
P1541	SB138	18D	23.4	40.510
P1542	SB128	18I	29.2	40.158
P1543	SB128	18I	23.3	40.192
P1544		18I	21.7	40.257
P1545	SB128	18I	18.9	40.256
P1546	SB128	18I	47.2	39.970
P1547		18I~18J	27.2	40.092
P1548		19D	19.8	40.608
P1549	SA105	19D	5.0	40.759
P1550	SA105	19D	13.8	40.721
P1551	SA105	19C~19D	14.5	40.726
P1552	SA103	20C	19.9	40.695
P1553	SA103	20C	6.7	40.793
P1554		20C	11.9	40.732
P1555	SA103	20C	19.6	40.679
P1556		20C	12.1	40.721
P1557	SA102	20C	12.0	40.759
P1558	SA102	20C	15.4	40.668
P1559	SA104	21G	10.3	40.378
P1560		21G	不明	不明

柱穴	SB	グリッド	深さ（cm）	底面標高（m）
P1561	SA104	21F~21G	11.6	40.432
P1562	SA104	21F	4.1	40.524
P1563	SA104	21F	8.5	40.485
P1564		21F	29.3	40.301
P1565		21F	不明	不明
P1566	SA102	21D	7.7	40.749
P1567		21D	15.4	40.661
P1568	SA102	21D	13.1	40.705
P1569	SA102	21D	11.4	40.704
P1570		21D	6.4	40.738
P1571		21D	14.8	40.648
P1572	SA102	21D	17.1	40.632
P1573		21D~22D	27.7	40.451
P1574		22D	8.0	40.648
P1575	SA101	22D	7.2	40.727
P1576	SA101	22D	7.8	40.706
P1577	SA101	22D	9.7	40.661
P1578	SA101	23D	4.0	40.696
P1579	SA101	23D	4.9	40.689
P1580		22E	12.5	40.513
P1581		22E	8.8	40.556
P1582		22E	10.4	40.578
P1583		22E	16.0	40.501
P1584		22E	3.1	40.638
P1585		22E	12.4	40.547
P1586		22E	11.0	40.577
P1587		22E	9.9	40.590
P1588		23E	2.9	40.567
P1589		22E	6.7	40.609
P1590		24E	50.0	40.003
P1591		12B	22.5	40.441
P1592		12B	7.9	40.651
P1593		12B	7.6	40.645
P1594	SB139	12B	14.8	40.584
P1595	SB119	12D	16.9	40.556
P1596	SB121	12D~12E	37.6	40.331
P1597		14D	6.7	40.685
P1598		12D	43.7	40.261
P1599		11D	10.9	40.680
P1600		12D	18.0	40.532
P1601		12D	9.7	40.649
P1602		12D	10.5	40.687
P1603		12D	15.7	40.617
P1604	SB121	12D	35.2	40.401
P1605	SB120	12D	30.5	40.457
P1606	SB121	12D	52.0	40.242
P1607	SB121	12E	15.0	40.585
P1608	SB122	12E	35.6	40.325
P1609		12F	12.2	40.602
P1610		12F	9.7	40.611
P1611		12F	27.7	40.493
P1612		12E	26.5	40.389
P1613		12E	25.2	40.385
P1614		12E~12F	23.5	40.375
P1615		12E	8.5	40.669
P1616	SB129	11F	11.5	40.466
P1617	SB129	11F	17.8	40.409
P1618		12F	25.0	40.362
P1619		12F	11.0	40.357
P1620		12F	5.4	40.488
P1621	SB125	12F	5.5	40.498
P1622	SB125	12G	26.3	40.375
P1623		12G	12.9	40.503
P1624		12G	12.7	40.503
P1625		12G	6.4	40.528
P1626		12G	19.0	40.482
P1627	SB125	12G	6.2	40.570
P1628		12G	9.9	40.553
P1629		12G	22.5	40.404
P1630		12G	17.1	40.437

柱穴	SB	グリッド	深さ（cm）	底面標高（m）
P1631	SB125	12G	9.3	40.555
P1632	SB126	12G	21.2	40.439
P1633		12G	15.4	40.495
P1634	SB129	11G	4.5	40.639
P1635	SB129	11G	25.1	40.449
P1636	SB128	17I	23.2	40.058
P1637	SB129	11G	不明	不明
P1638	SB129	11G	17.6	40.455
P1639	SB129	11G	不明	不明
P1640	SB129	11H	21.7	40.423
P1641	SB129	11G	15.4	40.515
P1642		11G	15.9	40.494
P1643		16B	3.11	40.514
P1644		11H	5.6	40.605
P1645		11H	14.0	40.525
P1646	SB129	11H	不明	不明
P1647		11H	9.8	40.555
P1648		11H	23.1	40.413
P1649		11H	19.6	40.447
P1650		12H	19.1	40.456
P1651		11H	16.5	40.507
P1652	SB106	11H	24.6	40.392
P1653		12H	20.0	40.442
P1654		12H	17.2	40.463
P1655	SB126	12H	13.2	40.519
P1656		12H	19.2	40.390
P1657	SB126	12H	15.9	40.515
P1658		12H	15.7	40.557
P1659		12H	19.8	40.455
P1660	SB126	12H	14.4	40.491
P1661		15J	23.1	40.358
P1662		15J	13.5	40.457
P1663		15J	29.3	40.275
P1664		15J	10.7	40.361
P1665		16J	20.0	40.355
P1666		16K	9.0	40.522
P1667		16J~16K	44.4	40.191
P1668	SB114	16J	36.1	40.245
P1669		16J	15.2	40.380
P1670		16J	35.9	40.174
P1671		16J~16K	41.0	40.202
P1672	SB114	16J~16K	43.1	40.168
P1673	SB113	16J	48.8	40.076
P1674		16J	37.2	40.198
P1675	SB114	16K	49.2	40.089
P1676	SB113	16J	22.5	40.292
P1677	SB113	17J	53.1	39.945
P1678		17J~17K	22.2	40.248
P1679	SB113	17K	20.9	40.227
P1680	SB128	17J	23.1	40.228
P1681		17J	5.1	40.429
P1682	SB128	17J	24.1	40.180
P1683		18J	10.3	40.267
P1684	SB128	18J	25.8	40.101
P1685		18J	21.8	40.134
P1686		10I~10J	21.2	40.374
P1687		10I	5.3	40.521
P1688		10I	10.4	40.483
P1689		10I	21.9	40.403
P1690		11I	11.1	40.477
P1691	SB107	11I	10.1	40.485
P1692		11I	11.2	40.511
P1693		11I	23.9	40.372
P1694		11I	20.9	40.392
P1695	SB106	11I	25.5	40.356
P1696	SB106	11I	6.6	40.552
P1697	SB112	11I	10.5	40.540
P1698		11I	17.7	40.474
P1699	SB105	11I	17.3	40.403
P1700	SB107	11I	17.6	40.422

第１表　柱穴一覧表⑥

柱穴	SB	グリッド	深さ（cm）	底面標高（m）
P1701		11I	13.9	40.516
P1702	SB112	11I	14.8	40.493
P1703	SB107	10J	20.0	40.373
P1704		10J	15.0	40.434
P1705		10J	11.7	40.495
P1706		10J	8.1	40.489
P1707		10J	4.8	40.513
P1708		10J	21.4	40.357
P1709	SB107	10J	17.9	40.390
P1710		10J	10.3	40.446
P1711		10J	15.3	40.406
P1712		10J	12.7	40.426
P1713	SB112	10J	8.0	40.491
P1714		11J	6.3	40.483
P1715	SB110	11J	20.3	40.353
P1716		11J	14.4	40.427
P1717	SB107	11J	10.7	40.488
P1718		11J	8.2	40.499
P1719	SB112	11J	23.8	40.409
P1720	SB101	13H	25.5	40.446
P1721	SB101	14I	9.6	40.506
P1722	SB134	16B	29.5	40.485
P1723	SB116	15E	23.5	40.340
P1724		12H	8.4	40.569
P1725		15J	7.3	40.381
P1726		14E	8.1	40.518
P1727	SB121	13D~13E	25.6	40.436
P1728		13D	12.3	40.428
P1729		12D	14.6	40.508
P1730		12D~13D	30.9	40.275
P1731	SB136	16B	45.9	40.342
P1732	SB116	15E	35.6	40.287
P1733		14E	15.5	40.533
P1734		14E	18.8	40.463
P1735	SB118	15E	32.7	40.444
P1736	SB117	15E	29.6	40.484
P1737	SB120	14E~15E	23.9	40.527
P1738		15A	13.9	40.658
P1739		15A	17.3	40.577
P1740		16B~17B	33.9	40.534
P1741	SB125	12F	2.8	40.567
P1742		18D~18E	15.8	40.287
P1743		14C	18.5	40.550
P1744		15C	8.6	40.612
P1745		14E	27.8	40.304
P1746	SB116	15F	18.1	40.453
P1747	SB124	16F	7.7	40.433
P1748	SB116	14F	18.3	40.440
P1749		15F	8.5	40.469
P1750		12F~13F	10.4	40.498
P1751		15F	37.6	40.296
P1752	SB116	15F	25.9	40.414
P1753	SB125	13F	8.7	40.456
P1754	SB125	13F	5.8	40.383
P1755	SB125	13G	5.4	40.473
P1756		12G	10.6	40.441
P1757		13I	22.6	40.333
P1758	SB104	12I	29.7	40.359
P1759		14I	27.7	40.329
P1760	SB104	11H	21.4	40.373
P1761	SB114	17J	43.1	40.004
P1762	SB104	12H~12I	22.4	40.391
P1763	SB114	17J	30.8	40.144
P1764	SB114	16J	45.1	40.135
P1765		18J	17.8	40.046
P1766	SB104	12I	22.5	40.393
P1767	SB104	11H	26.4	40.308
P1768		14J	27.2	40.185
P1769		13J	38.0	40.286
P1770	SB111	14J	31.8	40.203
P1771	SB109	14J	37.3	40.164
P1772		14J	25.8	40.271
P1773		14J	28.1	40.341
P1774		14J	17.3	40.443
P1775	SB111	14J	30.4	40.298
P1776		14J	11.6	40.503
P1777	SB109	14J	29.3	40.314
P1778	SB109	13I~13J	38.0	40.316
P1779	SB106	13J	14.0	40.594
P1780		14I	31.2	40.315
P1781	SB109	14J	35.9	40.228
P1782	SB109	14J	22.3	40.398
P1783	SB109	14J	31.0	40.217
P1784		12G	4.6	40.598
P1785		11J	9.5	40.533
P1786		12F	16.4	40.357
P1787	SB128	16J	23.2	40.268
P1788	SB114	16J	12.6	40.168
P1789		12I	21.4	40.411
P1790		12H	6.4	40.458
P1791		14J	30.3	40.319
P1792	SB109	14K	14.5	40.347
P1793		14J	15.3	40.461
P1794		14B	13.4	40.602
P1795	SB139	14C	26.6	40.427
P1796	SB138	17D	21.1	40.497
P1797	SB138	17D	26.1	40.438
P1798		14C	20.4	40.417
P1799		16E	8.9	40.579
P1800		12D	8.0	40.537
P1801		11E	24.8	40.383
P1802		11E~12E	33.1	40.314
P1803		11E	32.9	40.369
P1804		14B	12.7	40.557
P1805	SB115	15E~16E	12.9	40.620
P1806	SB125	13G	8.2	40.417
P1807		12G	13.1	40.386
P1808		12G	15.9	40.457
P1809		11H	16.1	40.429
P1810	SB121	12C	36.5	40.269
P1811	SB120	13E	28.2	40.414
P1812		12G	16.8	40.477
P1813	SB129	11G	24.6	40.428
P1814		15H	19.5	40.453
P1815		15J	12.0	40.387
P1816		11G	29.5	40.427
P1817	SB126	12H	18.8	40.464
P1818		10I	13.7	40.486
P1819	SB112	10I	11.6	40.491
P1820	SB126	12G	16.7	40.478
P1821	SB113	15J	22.0	40.276
P1822	SB107	13I	27.6	40.378
P1823	SB114	17J	22.6	40.203
P1824	SB123	16G	15.3	40.513
P1825	SB116	15E	35.7	40.404
P1826	SB120	12C~12D	28.8	40.376
P1827		13J	14.7	40.537
P1828		13J	13.3	40.570
P1829		12J	15.1	40.370
P1830	SB111	13J	18.6	40.382
P1831	SB106	13I	29.9	40.411
P1832	SB103	13J	5.8	40.538
P1833		12J~12K	2.8	40.556
P1834		10I	20.0	40.256
P1835		13J	14.0	40.547
P1836	SB107	11J	18.2	40.483
P1837	SB106	11I~12I	47.6	40.217
P1838	SB106	11I	17.0	40.504
P1839		11J	24.8	40.293
P1840	SB106	11I~11J	19.5	40.306
P1841	SB104	11I	24.4	40.411
P1842	SB106	11I	30.4	40.200
P1843		12I	13.5	40.581
P1844		12I	23.5	40.188
P1845	SB110	11I~11J	26.0	40.313
P1846		11J	19.9	40.386
P1847		11J	17.7	40.338
P1848		10J	10.5	40.453
P1849		10I~10J	4.1	40.546
P1850		11J	8.3	40.544
P1851		11J	18.8	40.453
P1852	SB104	11I	27.9	40.351
P1853	SB112	11I	25.2	40.363
P1854		12I	22.8	40.150
P1855	SB105	11H~11I	27.5	40.395
P1856		11H~11I	11.8	40.534
P1857	SB108	11J~12J	27.4	40.345
P1858		12I	22.3	40.490
P1859		10J	13.3	40.433
P1860		12I	11.4	40.593
P1861		14J	19.0	40.402
P1862	SB107	10I	2.0	40.335
P1863		14J	24.3	40.252
P1864		14J~14K	34.5	40.163
P1865		14J	14.4	40.378
P1866		14J	18.2	40.334
P1867	SB128	17I	6.7	40.262
P1868		14J	29.8	40.198
P1869	SB109	15J	25.5	40.192
P1870		15I	20.8	40.248
P1871	SA103	20C	10.8	40.759
P1872		15I	38.5	40.190
P1873	SA103	20C	17.1	40.725
P1874	SA103	20B	27.5	40.632
P1875		15G	25.1	40.520
P1876		15J	26.8	40.259
P1877		14I	22.4	40.437
P1878		14H	27.5	40.439
P1879		15F	16.5	40.583
P1880		14J	17.1	40.296
P1881	SB109	12J~13J	21.4	40.494
P1882		13J~14J	14.8	40.385
P1883		14J	16.9	40.344
P1884		13J	32.2	40.385
P1885	SB103	13K	2.9	40.601
P1886		13J	15.1	40.383
P1887	SB111	13I	41.5	40.281
P1888		13I	37.7	40.333
P1889		13I	20.6	40.377
P1890		11J	25.3	40.404
P1891		13I	28.8	40.386
P1892		11J	23.6	40.394
P1893	SB120	14D	13.9	40.591
P1894		13C~13D	11.7	40.552
P1895		16B	17.2	40.625
P1896	SB139	14B	24.0	40.472
P1897	SB139	13B	8.7	40.704
P1898	SB140	16B	32.0	40.516
P1899		13E	42.4	40.169
P1900	SB137	16B	31.4	40.456
P1901		15E	15.5	40.456
P1902		13B	5.1	40.455
P1903		11J	10.4	40.530
P1904		13J	38.4	40.346

Ⅴ 出 土 遺 物

出土遺物は古代の土師器・土製品、中世陶磁器、近世磁器、近世～近代の陶器、近代の磁器、金属製品、ガラス製品、合成樹脂製品、石製品がある。以下表型式で各遺物の属性を示す。

1 土師器・土製品

古代の土師器・土製品を示す。図示したのは土師器７点（重量合計1,181ｇ）、土製紡錘車１点（重量59ｇ）である。この他に不掲載の土師器片が1,743ｇある。

第２表　土師器・土製品察表

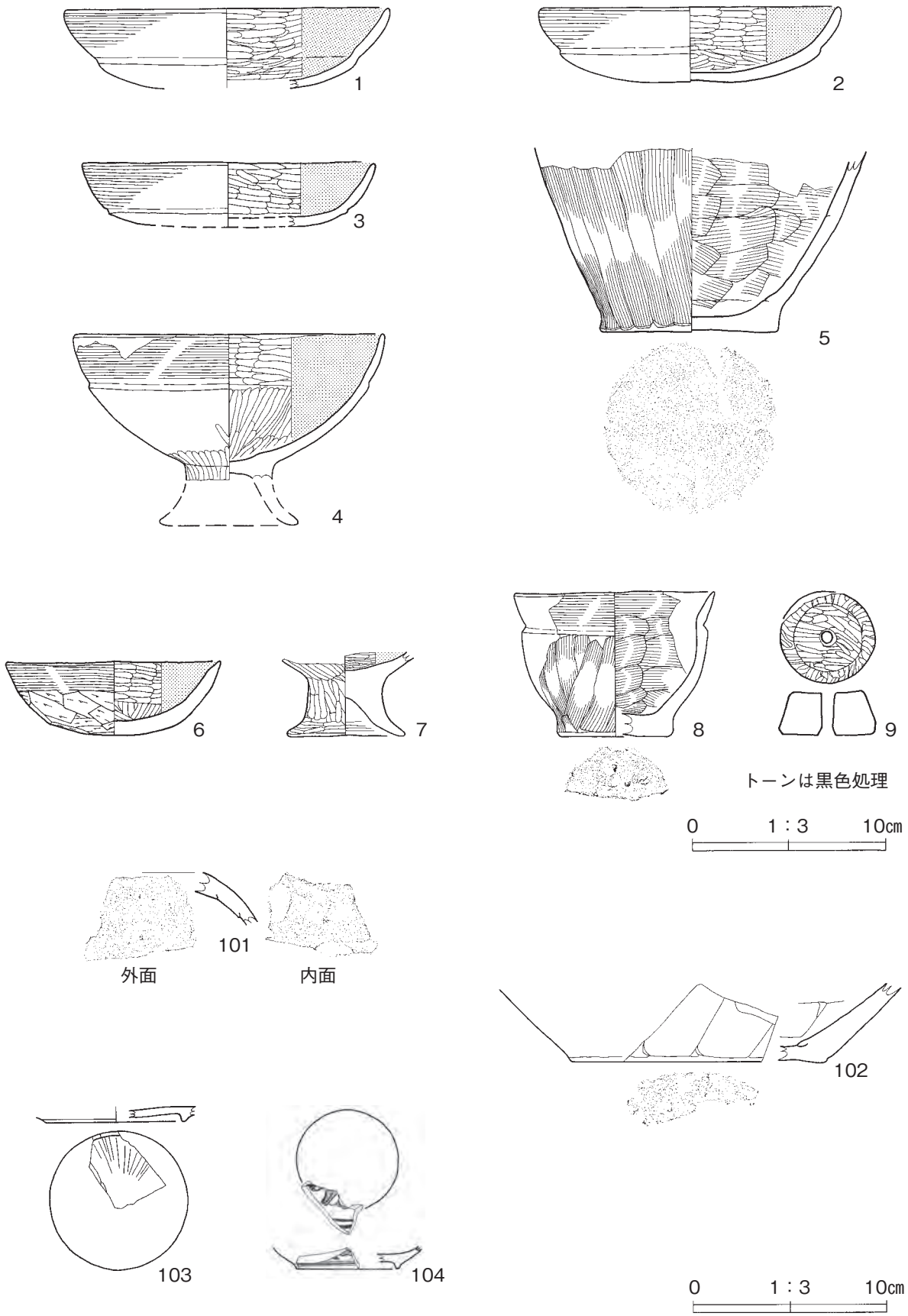
番号	種別	器種	出土位置	法量（cm）			重量（ｇ）	推定時期
				口径	高さ	底径		
1	土師器	坏	ＳＩ101埋土	16.9	(4.2)	―	61	８Ｃ
	外面口縁部ヨコナデ　外面下半摩耗　内面ヘラミガキ　黒色処理　内面にも稜がみられる。							
2	土師器	坏	ＳＩ101埋土	15.7	(3.9)	―	108	８Ｃ
	外面口縁部ヨコナデ　外面下半摩耗　内面ヘラミガキ　黒色処理							
3	土師器	坏	ＳＩ01埋土	15.2	(3.4)	―	61	８Ｃ
	外面口縁部ヨコナデ　外面下半摩耗　内面ヘラミガキ　黒色処理							
4	土師器	高坏	ＳＩ101埋土	16.2	(7.6)	―	143	８Ｃ
	外面口縁部ヨコナデ　外面下半摩耗　脚部ヘラミガキ　内面ヘラミガキ　黒色処理							
5	土師器	長胴甕	ＳＩ101北西部床面	―	(9.5)	9.3	574	８Ｃ
	外面ヘラナデ　内面ヘラナデ　底面木葉痕							
6	土師器	坏	Ｐ1402埋土	11.1	(3.8)	―	72	８Ｃ
	外面ヨコナデ　ヘラケズリ　内面ヘラミガキ　黒色処理							
7	土師器	高坏	14Ｆ攪乱	―	(4.4)	6.1	81	８Ｃ
	外面ヘラミガキ　坏部内面ヘラミガキ　黒色処理							
8	土師器	長胴甕	８Ｊ検出	10.4	7.5	6.0	81	８Ｃ
	外面口ヨコナデ、体部　内面口縁ヨコナデ、体部ヘラナデ　底面木葉痕　小型の長胴甕							
9	土製品	紡錘車	８Ｊ検出	―	(2.3)	―	59	８Ｃ
	全面ヘラミガキ　上端径3.6cm下端径4.6cm							

2 中 世 陶 磁 器

中世の陶磁器を示す。図示したのは国産陶器２点（重量合計113ｇ）、中国産白磁１点（重量８ｇ）、中国産染付１点（重量４ｇ）である。今回出土した中世の陶磁器はこれが全てである。

第３表　中世陶磁器観察表

番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重　量（ｇ）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
101	陶器	広口壺	ＳＫ３埋土	３	―	(2.6)	―	34	常滑	12Ｃか
	肩部破片　外面オリーブ色の自然釉　内面灰色　12ｃ代の可能性高いが確定できない									
102	陶器	広口壺	南区西北壁	３	―	(4.2)	13.6	79	常滑	中世
	砂底　外面暗灰色　内面茶褐色を呈する									
103	白磁	皿	ＳＤ３（９Ｅ）	―	―	(8.0)	7.6	８	中国	16Ｃ
	高台内に放射状のカンナ痕　ＳＤ３埋土出土　ＳＤ３は屋敷３と４の境界									
104	染付	皿	ＳＫ12埋土	３	―	(1.2)	5.5	４	中国	16～17Ｃ初
	畳付高台内砂少量付着　呉須暗青灰色を呈する　漳州窯産の可能性もある									



第118図　古代の土師器・土製品、中世の陶磁器

3　近　世　磁　器

近世の磁器（染付など）を示す。図示したのは118点（重量合計6,757ｇ）である。この他、不掲載の近世磁器が2,517ｇある。遺物観察表の「出土位置」での「南区西北壁」「９Ｇ北壁」等は、調査範囲内外境界部の土層中での出土を示している。また「10Ｆ切株中」は10Ｆグリッドに大振りな木の切株があり、その根の周囲からの遺物出土を示す。また遺物番号でで「279ａ」「279ｂ」のように同一番号にアルファベット小文字を付しているものは別個体であるが、同一器形、同一文様のものを表している。図は基本１点しか示していない。

第４表　近世磁器観察表

番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
201	磁器	碗	中区東南壁	2	—	(2.7)	6.1	34	肥前	1630～1650
	外面釉むら著しい　腰部に稜がある器形									
202	磁器	碗	ＳＤ２（10Ｃ）	3	10.2	(3.7)	—	12	肥前	1650～1690？
	柳文の絵柄　口縁内面に釉むら　17ｃ後半のものか　ＳＤ２埋土出土　以下ＳＤ２とグリッドの組み合わせは「埋土」を省略									
203	磁器	碗	ＳＤ３（９Ｅ）	—	—	(4.0)	4.3	61	肥前	1650～1690
	呉須の色紺色で上質　高台内中央に砂粒付着　ＳＤ３埋土出土　ＳＤ３は屋敷３と４の境界									
204	磁器	碗	中区西粗掘	1	11.2	(3.6)	—	9	肥前	1650～1690
	一重網目文									
205	磁器	碗	10Ｄ北壁	3	11.6	(5.0)	—	12	肥前	1650～1690
	一重網目文									
206	磁器	碗	Ｐ1335埋土	2	—	(2.6)	5.0	16	肥前	1690～1780
	Ｐ1335は13Ｊに位置する　呉須の色紺色で上質									
207	磁器	碗	13Ｉ検出	2	7.8	4.1	3.3	58	肥前	1690～1780
	やや小振りな碗　内外面白磁部分は灰色を呈する									
208	磁器	碗	９Ｉ攪乱	4	—	(4.2)	3.7	14	肥前	1690～1780
	型紙刷りによる文様									
209	磁器	碗	ＳＫ47埋土	3	—	(2.2)	4.0	14	肥前	1690～1780
	呉須の色紺色で上質									
210	磁器	碗	ＳＫ13埋土	3	—	(2.8)	3.6	23	肥前	1690～1780
	高台内に「太明化製」と読める銘あり　漆継ぎの痕跡がある									
211	磁器	碗	ＳＤ２（９Ｉ）	4	11.3	(4.6)	—	27	肥前	1690～1780
	蝶の文様　焼継ぎ痕あり									
212	磁器	碗	10Ｆ切株中	4	9.6	(4.6)	—	27	肥前	1690～1780
	コンニャク印判									
213	磁器	碗	ＳＫ150埋土	1	9.9	(3.8)	—	28	肥前	1690～1780
	草花文									
214	磁器	碗	ＳＤ２（９Ｈ）	4	10.5	(3.7)	—	22	肥前	1690～1780
	草花文									
215	磁器	碗	ＳＤ２（９Ｉ）	4	10.4	(4.8)	—	28	肥前	1690～1780
	草花文									
216	磁器	碗	中区中粗掘	1	9.6	5.2	4.2	55	肥前	1690～1780
	草花文　高台内に銘あり									

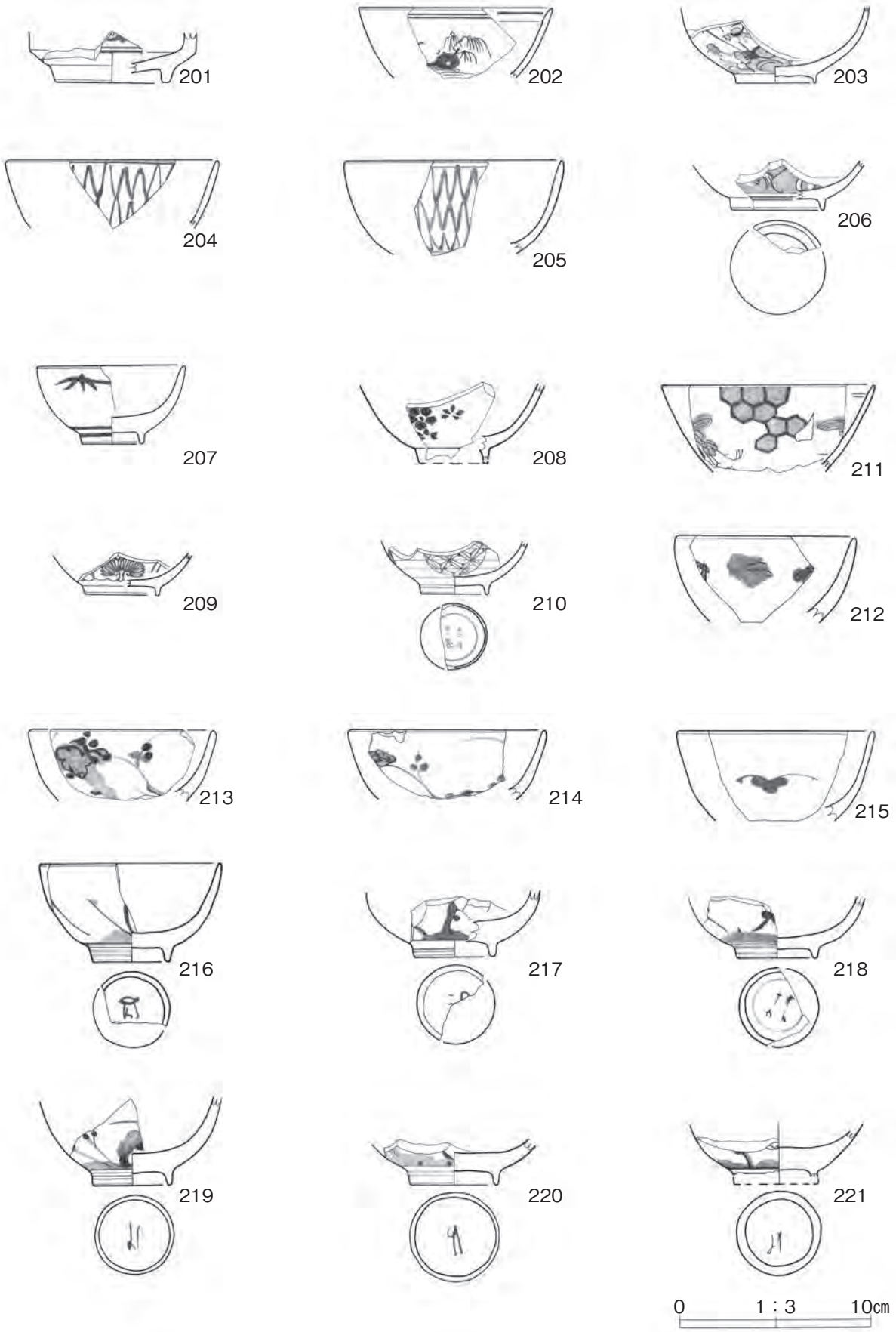
番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
217	磁器	碗	９Ｈ北壁	4	—	(3.5)	4.4	79	肥前	1690 ～ 1780
	草花文　高台内に銘あり　器壁が厚い									
218	磁器	碗	ＳＤ２埋土（10Ｄ）	3	—	(3.2)	4.3	29	肥前	1690 ～ 1780
	草花文　高台内に銘あり									
219	磁器	碗	ＳＤ２埋土（９Ｊ）	4	—	(4.7)	4.3	90	肥前	1690 ～ 1780
	草花文　高台内に粗略な銘あり　漆継？の痕跡あり									
220	磁器	碗	９Ｉ北壁	4	—	(2.5)	4.7	72	肥前	1690 ～ 1780
	草花文　高台内に粗略な銘あり									
221	磁器	碗	10Ｆ切株中	4	—	(2.8)	—	87	肥前	1690 ～ 1780
	草花文　高台内に粗略な銘あり									
222	磁器	碗	８Ｊ攪乱	4	—	(3.6)	4.7	23	肥前	1690 ～ 1780
	草花文									
223	磁器	碗	ＳＫ３埋土	3	—	(2.7)	4.4	61	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇の目釉剥ぎ									
224	磁器	碗	南区西北壁	3	—	(2.2)	4.6	58	肥前	1690 ～ 1780
	外面青磁　内面菊華文　高台内に銘あり									
225	磁器	碗	南区西粗掘	3	—	(4.6)	4.3	64	肥前	1690 ～ 1780
	内外面二重網目文　見込菊華文　高台内に銘あり									
226	磁器	碗	ＳＫ10埋土	3	—	(2.4)	4.5	25	肥前	1690 ～ 1780
	内外面二重網目文　見込菊華文									
227	磁器	碗	９Ｇ北壁	4	10.0	(3.2)	—	7	肥前	1690 ～ 1780
	外面二重網目文　内面網目文									
228	磁器	碗	10Ｂ西壁	3	10.0	5.4	4.3	108	肥前	1690 ～ 1780
	外面二重網目文　内面網目文　透明釉の発色悪い									
229	磁器	碗	南区西壁	3	10.0	(3.9)	—	47	肥前	1690 ～ 1780
	外面二重網目文									
230	磁器	碗	ＳＫ150埋土	1	10.5	(3.8)	—	17	肥前	1690 ～ 1780
	外面二重網目文　内面網目文									
231	磁器	碗	ＳＫ１埋土	3	11.0	(3.9)	—	28	肥前	1690 ～ 1780
	外面二重網目文									
232	磁器	碗	ＳＫ150埋土	1	12.7	(5.5)	—	65	肥前	18Ｃ後～ 19Ｃ初
	呉須青灰色									
233	磁器	碗	ＳＫ３埋土	3	9.1	(4.6)	—	12	肥前	18Ｃ後半～ 19Ｃ初
	呉須青灰色									
234	磁器	碗	９Ｊ北壁	4	—	(1.8)	4.0	13	肥前	18Ｃ後半～ 19Ｃ初
	呉須青灰色									
235	磁器	碗	９Ｇ北壁	4	—	(3.8)	3.9	14	肥前	18Ｃ後半～ 19Ｃ初
	呉須紺色									
236	磁器	碗	ＳＫ132埋土	1	7.0	(5.7)	—	19	肥前	18Ｃ後半～ 19Ｃ初
	筒型碗　口縁内面花菱文									
237	磁器	碗	南区粗堀	?	9.9	(3.8)	—	13	肥前	18Ｃ後半～ 19Ｃ初
	呉須の色青灰色									
238	磁器	碗	ＳＫ150埋土	1	8.2	4.2	3.4	73	肥前	19Ｃ前～中
	端反碗									
239	磁器	碗	ＳＫ156埋土	1	8.9	4.8	3.7	55	肥前	19Ｃ前～中
	端反碗									

番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
240	磁器	碗	中区中粗掘	1	10.6	(5.7)	—	48	瀬戸	19Ｃ前～中
	端反碗　染付部盛り上がっている									
241	磁器	碗	ＳＫ132埋土	1	9.7	5.0	4.5	23	瀬戸	19Ｃ前～中
	端反碗　染付部盛り上がっている									
242	磁器	碗	南区西粗掘	3	9.6	(3.7)	—	14	瀬戸	19Ｃ前～中
	端反碗　染付部盛り上がっている									
243	磁器	碗	ＳＫ149埋土	2	—	(3.0)	4.6	31	肥前？	19Ｃ前～中
	肥前産と思われる									
244	磁器	碗	ＳＫ150埋土	1	11.7	6.7	6.3	74	肥前？	19Ｃ前～中
	広東碗　肥前産と思われる									
245	磁器	碗	10Ｂ北壁	3	11.1	(4.3)	—	16	肥前	19Ｃ前～中
	広東碗　肥前産と思われる									
246	磁器	碗	南区西粗掘	3	—	(3.8)	5.7	48	肥前	19Ｃ前～中
	広東碗　肥前産と思われる									
247	磁器	碗	ＳＤ２埋土（９Ｊ）	4	11.8	(3.4)	—	11	瀬戸	19Ｃ前～中
	広東碗　瀬戸産と思われる　焼継痕あり									
248	磁器	碗	ＳＫ156埋土	1	11.1	(4.0)	—	15	肥前	19Ｃ前～中
	広東碗　肥前産と思われる									
249	磁器	碗	ＳＤ埋土（９Ｊ）	4	10.8	6.7	5.6	29	肥前	19Ｃ前～中
	広東碗　肥前産と思われる									
250	磁器	碗	10Ｆ切株	4	—	(6.6)	5.6	37	瀬戸？	19Ｃ前～中
	広東碗　瀬戸産か									
251	磁器	碗	ＳＤ２（９Ｊ）	4	—	(4.0)	6.2	40	瀬戸？	19Ｃ前～中
	広東碗　瀬戸産か									
252	磁器	碗	12Ｉ検出	2	10.8	(6.5)	5.1	25	肥前？	19Ｃ前～中
	広東碗　肥前産と思われるが特定できず									
253	磁器	碗	南区東北壁	4	—	(6.6)	6.1	60	瀬戸？	19Ｃ前～中
	広東碗　瀬戸産か　焼継痕あり									
254	磁器	碗	10Ｃ北壁	3	—	(6.3)	4.6	77	瀬戸？	19Ｃ前～中
	端反碗　焼継痕あり　瀬戸産か									
255	磁器	皿	中区中検出	1	—	(1.3)	4.1	20	肥前	1630～1650
	内面に籾殻状のもの付着									
256	磁器	皿	ＳＤ２（10Ｃ）	3	—	(1.7)	5.9	33	肥前	1630～1650
	外面釉むら著しい　ＳＤ２埋土出土　以下ＳＤ２とグリッドの組み合わせは「埋土」を省略									
257	磁器	皿	ＳＤ２（９Ｈ）	4	—	(1.2)	6.0	17	肥前	1630～1650
	畳付に砂付着									
258	磁器	皿	ＳＫ121桶内	1	—	(1.3)	6.2	16	肥前	1630～1650
	畳付に砂付着　内面透明釉の発色悪い									
259	磁器	皿	南区西粗掘	3	22.8	(3.4)	—	13	肥前	1650～1690？
	口縁が外反し、内面に稜がある　17世紀後半の皿と推測									
260	磁器	皿	10Ｄ北壁	3	—	(2.5)	4.3	37	肥前	1690～1780
	見込蛇目釉剥　高台露胎									
261	磁器	皿	ＳＤ２（10Ｃ）	3	—	(2.2)	5.0	65	肥前	1690～1780
	見込蛇目釉剥　高台露胎									
262	磁器	皿	ＳＤ２（９Ｊ）	3	—	(2.0)	4.9	52	肥前	1690～1780
	見込蛇目釉剥　高台露胎									

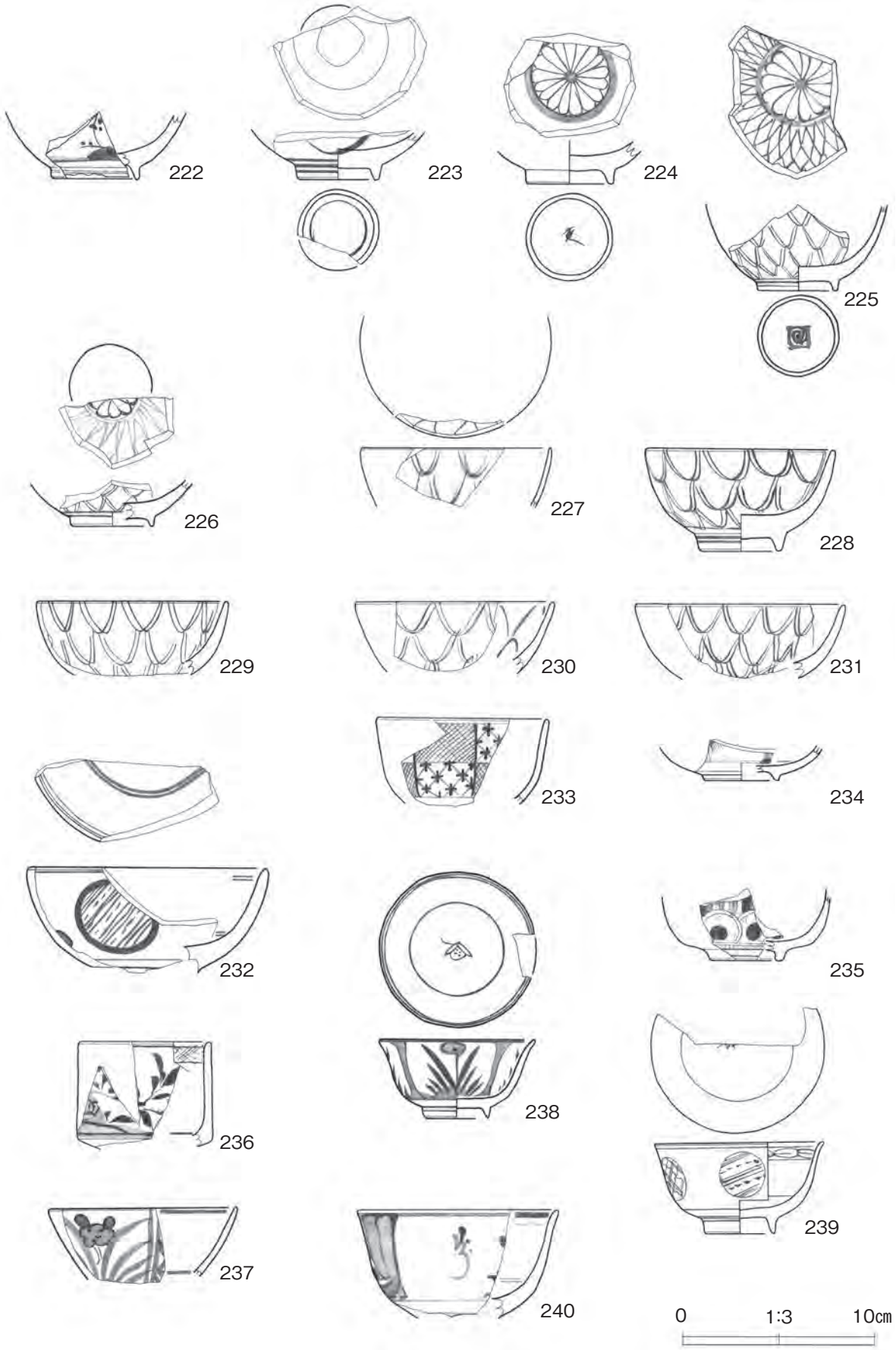
番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
263	磁器	皿	南区西粗掘	3	—	(2.7)	4.6	59	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥　高台露胎									
264	磁器	皿	中区西粗掘	1	—	(2.5)	4.7	54	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥　高台露胎									
265	磁器	皿	ＳＫ156埋土	1	—	(2.3)	4.4	82	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥　高台露胎									
266	磁器	皿	10Ｂ北壁	3	—	(2.4)	4.5	80	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥　高台露胎									
267	磁器	皿	10Ｄ北壁	3	—	(2.4)	4.6	97	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥　高台露胎									
268	磁器	皿	10Ｄ北壁	3	—	(2.6)	4.1	73	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥　高台露胎　２破片に分かれる　釉やや青みがかり青磁に似る									
269	磁器	皿	ＳＤ２（10Ｃ）	3	13.3	(2.8)	—	17	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥と思われる									
270	磁器	皿	10Ｅ北壁	3	12.4	(3.0)	—	30	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥									
271	磁器	皿	ＳＤ２（10Ｆ）	4	12.2	(2.6)	—	24	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥と思われる									
272	磁器	皿	10Ｅ北壁	3	11.6	3.5	4.5	98	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥ぎ									
273	磁器	皿	ＳＤ２（９Ｊ）	4	12.8	3.6	4.8	76	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥ぎ									
274	磁器	皿	ＳＫ156埋土	1	12.1	4.1	4.8	71	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥ぎ									
275	磁器	皿	ＳＫ150埋土	1	12.3	3.8	4.9	34	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥ぎ									
276	磁器	皿	ＳＤ２（９Ｊ）	4	12.3	3.8	4.4	76	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥ぎ									
277	磁器	皿	ＳＤ２（10Ｄ）	3	—	(1.7)	4.8	60	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥ぎ　高台内無釉									
278	磁器	皿	10Ｃ北壁	3	—	(2.1)	5.5	21	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥ぎ									
279 a	磁器	皿	ＳＫ150埋土	1	13.9	3.2	8.4	133	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥ぎ　五弁花コンニャク印判									
279 b	磁器	皿	南区東粗掘	4	13.9	3.2	8.4	139	肥前	1690 ～ 1780
	279 a と同じ形態のもの									
279 c	磁器	皿	南区西粗掘	3	13.9	3.2	8.4	102	肥前	1690 ～ 1780
	279 a と同じ形態のもの									
279 d	磁器	皿	ＳＫ１埋土	3	13.9	3.2	8.4	111	肥前	1690 ～ 1780
	279 a と同じ形態のもの									
280	磁器	皿	９Ｈ北壁	4	14.0	3.3	7.9	35	肥前	1690 ～ 1780
281	磁器	皿	９Ｉ北壁	4	13.7	(2.7)	7.7	37	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥　呉須の色深緑									
282	磁器	皿	10Ｂ北壁	3	—	(2.1)	6.3	155	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥　五弁花のコンニャク印判									

番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
283	磁器	皿	9Ｉ攪乱	4	―	(2.8)	7.0	63	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥　五弁花のコンニャク印判									
284	磁器	皿	10Ｆ北壁	4	―	(2.3)	11.3	110	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥　五弁花のコンニャク印判									
285	磁器	皿	排土中	?	18.1	3.5	8.6	40	肥前	1690 ～ 1780
	見込蛇目釉剥　排土中からの採取で出土位置不明									
286	磁器	皿	10Ｂ北壁	3	8.7	2.8	3.5	13	肥前	1690 ～ 1780
	小型の皿　呉須の色青灰色									
287	磁器	皿	9Ｉ北壁	4	10.6	2.6	5.2	21	肥前	1690 ～ 1780
	小型の皿　見込五弁花　透明釉の発色が悪い部分あり									
288	磁器	皿	ＳＫ150埋土	1	10.6	2.6	6.1	25	肥前	1690 ～ 1780
	小型の皿　呉須の色青灰色									
289	磁器	皿	ＳＫ16埋土	3	13.4	3.1	7.3	23	肥前	1690 ～ 1780
	墨弾きによる文様									
290 a	磁器	皿	ＳＫ150埋土	1	12.7	3.2	7.5	110	肥前	1690 ～ 1780
	墨弾きよる文様　見込五弁花　口唇部「口紅」									
290 b	磁器	皿	ＳＫ163埋土	1	12.7	3.2	7.5	86	肥前	1690 ～ 1780
	290 a と同形態のもの									
290 c	磁器	皿	ＳＫ150埋土	1	12.7	3.2	7.5	61	肥前	1690 ～ 1780
	290 a と同形態のもの　290 a とは別個体									
291 a	磁器	皿	中区中粗掘	1	14.0	3.9	8.2	179	肥前	1690 ～ 1780
	見込五弁花　高台内に銘									
291 b	磁器	皿	ＳＫ150埋土	1	14.0	3.9	8.2	133	肥前	1690 ～ 1780
	291 a と同形態のもの									
291 c	磁器	皿	ＳＫ150埋土	1	14.0	3.9	8.2	93	肥前	1690 ～ 1780
	291 a と同形態のもの　291 b とは別個体									
291 d	磁器	皿	10Ｆ北壁	3	14.0	3.9	8.2	77	肥前	1690 ～ 1780
	291 a と同形態のもの　漆継の痕跡あり									
292	磁器	皿	南区東粗掘	4	13.1	3.5	7.9	52	肥前	1690 ～ 1780
	見込五弁花　高台内に銘									
293 a	磁器	皿	9Ｊ北壁	4	13.2	4.0	8.0	158	肥前	1690 ～ 1780
	見込五弁花　高台内に銘　焼き継の痕跡あり									
293 b	磁器	皿	9Ｉ北壁	4	13.2	4.0	8.0	82	肥前	1690 ～ 1780
	293 a と同形態のもの									
293 c	磁器	皿	9Ｊ北壁	4	13.2	4.0	8.0	79	肥前	1690 ～ 1780
	293 a と同形態のもの　293 a とは別個体									
294	磁器	皿	9Ｉ北壁	4	12.4	3.9	7.7	45	肥前	1690 ～ 1780
	透明釉の発色非常に悪い									
295	磁器	皿	南区西粗掘	3	14.0	3.2	8.6	114	肥前	1690 ～ 1780
	内外面釉むらがある									
296	磁器	皿	9Ｊ北壁	4	―	(2.1)	8.7	27	肥前	1690 ～ 1780
	呉須の色紺色で上質									
297	磁器	皿	10Ｅ北壁	3	20.2	3.5	11.9	44	肥前	1690 ～ 1780
	口縁部輪花、口紅　外面唐草文に縁取りあり　焼継ぎ痕あり									
298	磁器	皿	Ｐ1130埋土	1	―	(1.5)	6.8	8	肥前	1690 ～ 1780
	牡丹文か									

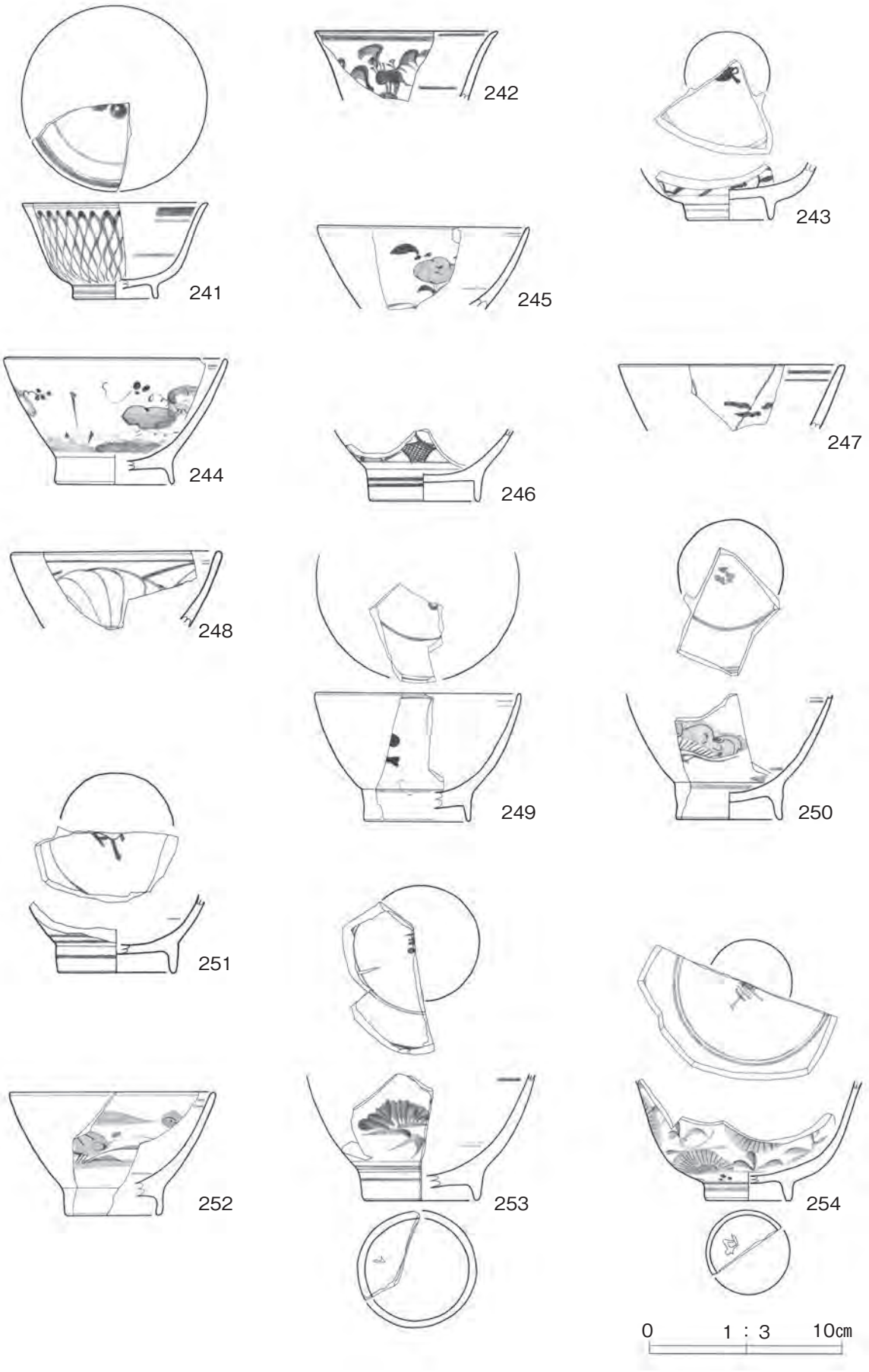
番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
299	磁器	皿	10Ｆ切株中	4	—	(0.7)	—	37	肥前	18～19Ｃ前半
	外底面「ハリ」跡あり									
300	磁器	皿	９Ｊ北壁	4	—	(1.3)	8.7	53	切込？	19Ｃ前～中
	凹蛇目高台　灰色の色調　切込産に似るが確定できず									
301	磁器	うがい碗	ＳＤ２（10Ｃ）	3	14.1	(4.0)	—	19	肥前	1690～1780
	染付部なし　漆継痕？あり									
302	磁器	猪口	排土中	?	6.8	(4.6)	—	10	肥前	1690～1780
	排土中からの採取で出土位置不明　牡丹の絵柄									
303	磁器	猪口	10Ｃ北壁	3	—	(2.8)	3.3	20	在地？	19Ｃ前～中
	蛸唐草文　19Ｃ前半以降の在地産か									
304	磁器	鉢	ＳＤ２（９Ｉ）	4	15.9	(3.4)	—	11	肥前	18Ｃ後～19Ｃ初
	外面青磁　焼継されている									
305	磁器	鉢	10Ｂ北壁	3	—	(4.9)	7.8	175	肥前	19Ｃ前半
	凹蛇目高台　口縁部八角形									
306	磁器	瓶	南区東粗掘	4	—	(5.1)	5.6	33	肥前	1690～1780
	内面無釉									
307	磁器	瓶	南区西粗掘	3	—	(6.7)	6.8	111	肥前	1690～1780
	外面青磁　内面無釉									
308	磁器	徳利	ＳＫ６埋土	3	—	(14.6)	—	174	肥前	18Ｃ～19Ｃ前
	内面下半露胎　肥前産であるが時期特定できない									
309	磁器	油壺	ＳＫ13埋土	3	—	(2.3)	—	6	肥前	17Ｃ後半
	「色絵」の油壺　赤色による上絵付　内面下半部露胎									
310	磁器	仏飯器	中区西粗掘	1	—	(4.2)	4.6	48	肥前	18Ｃ～19Ｃ前
	外底面に墨書あり									
311	磁器	灰落し	10Ｆ切株中	4	—	(5.0)	5.0	33	肥前	1690～1780
	内面無釉　キセルの灰を落とす「灰落し」									
312	磁器	油壺？	10Ｂ北壁	3	—	(2.2)	4.8	48	肥前	1690～1780
	「色絵」の油壺の底部片か　赤絵による上絵付け　内面露胎　309の下半部か									
313	磁器	火入	９Ｈ北壁	4	—	(9.3)	—	38	肥前	1690～1780
	体部片　内面底部近くから無釉　松と流水の絵柄									
314	磁器	火入	中区中粗掘	1	9.6	(4.0)	—	15	肥前	1690～1780 ?
	内面口縁上部より下無釉　桐文									
315	磁器	火入	ＳＫ１埋土	3	—	(1.2)	7.3	45	肥前	1690～1780 ?
	内面無釉　外面青みがかった釉、青磁か　輪高台									
316	磁器	水滴	ＳＫ143埋土	1	—	(2.6)	—	69	肥前	1690～1780 ?
	箱形の水滴　肥前産と思われる　9.1×6.9×2.6の箱形									
317	磁器	水滴	８Ｈ粗掘	4	—	(5.4)	5.1	84	不明	19Ｃ？
	兎形の水滴　二次被熱している　産地、時期特定し難い　底部5.1×4.0の楕円形									
318	磁器	香炉	ＳＫ150埋土	1	—	(5.4)	5.4	46	不明	19Ｃ？
	内面口縁部より下無釉　19世紀前半以降のものか									



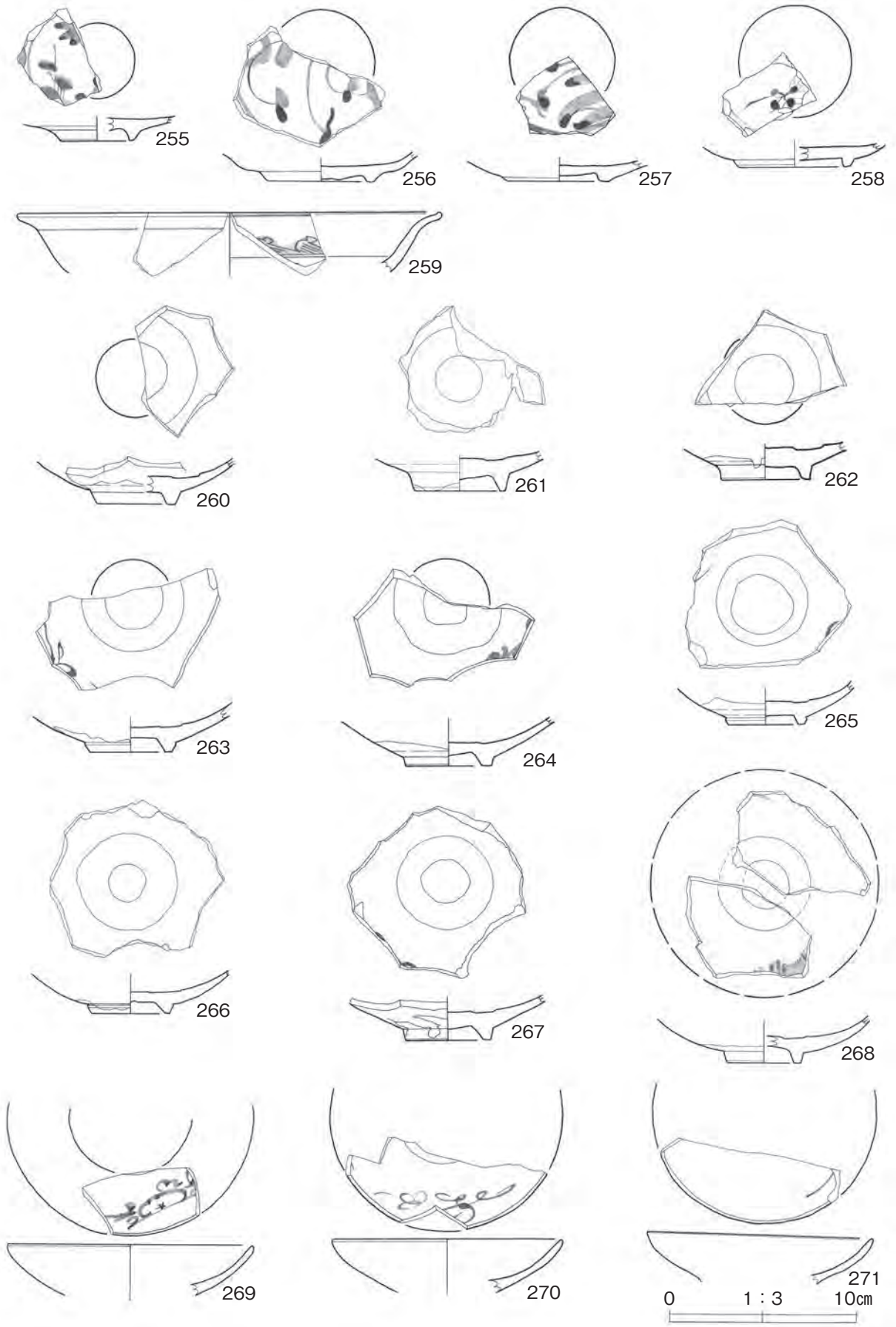
第119図　近世の磁器（1）



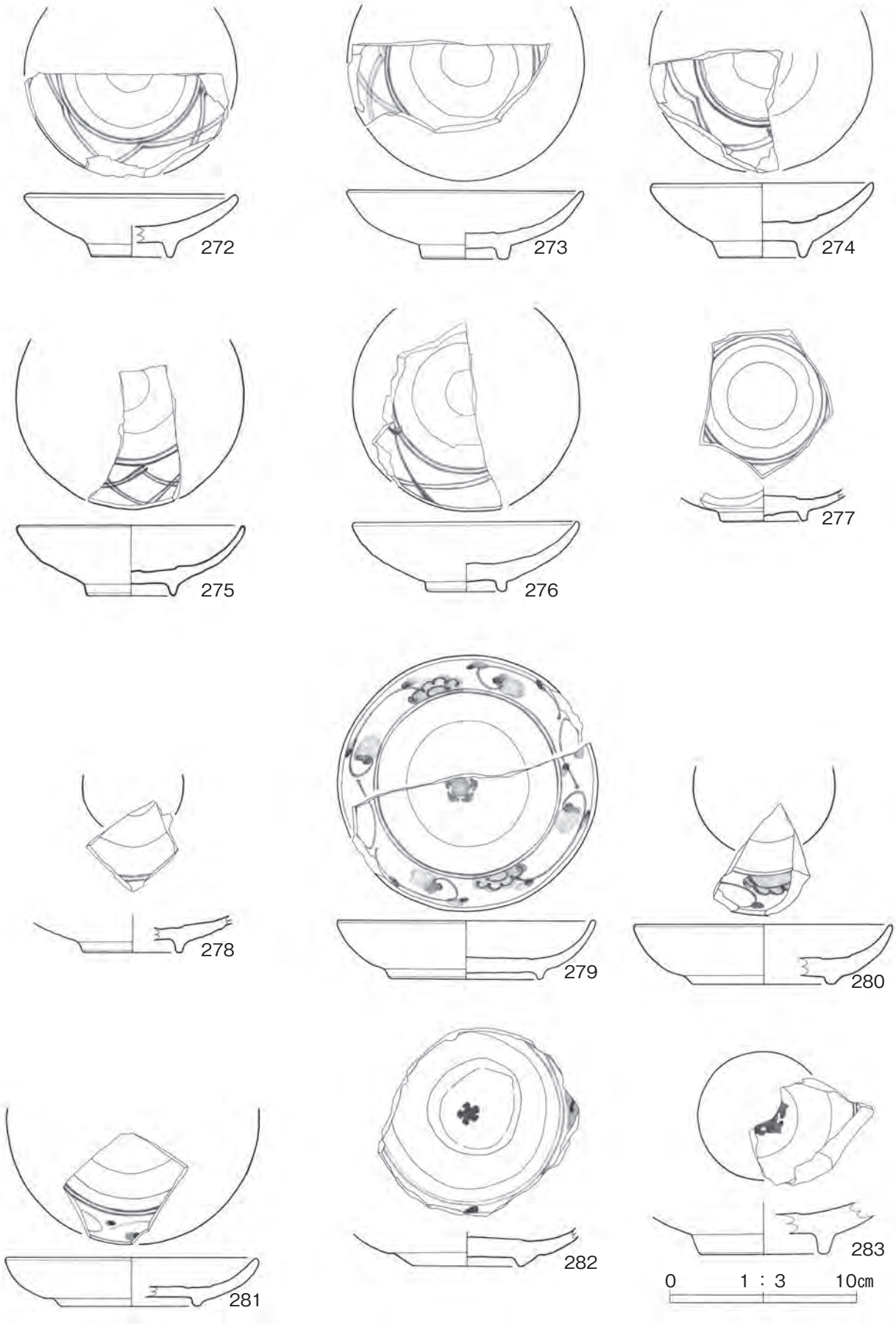
第120図　近世の磁器（2）



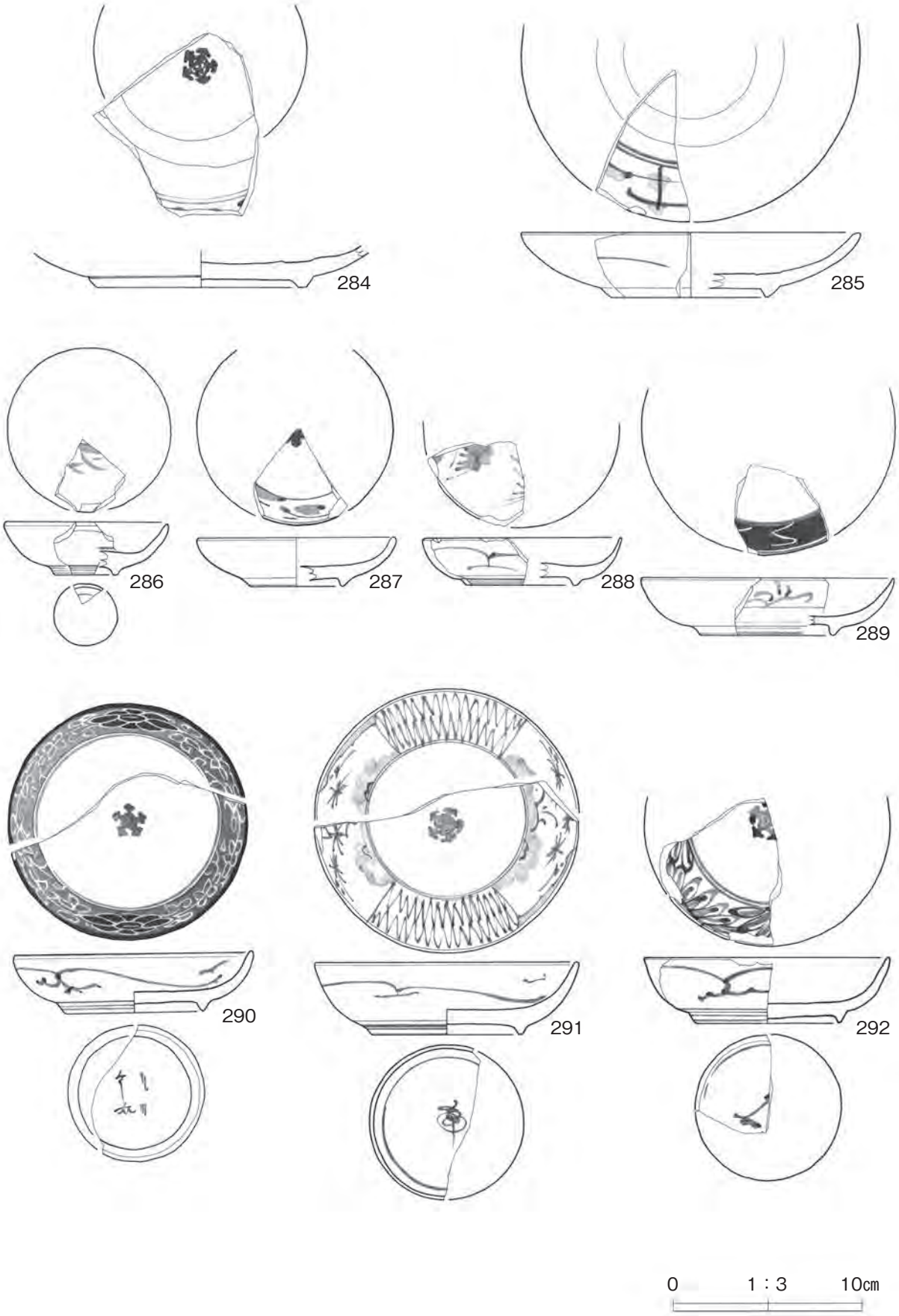
第121図　近世の磁器（3）



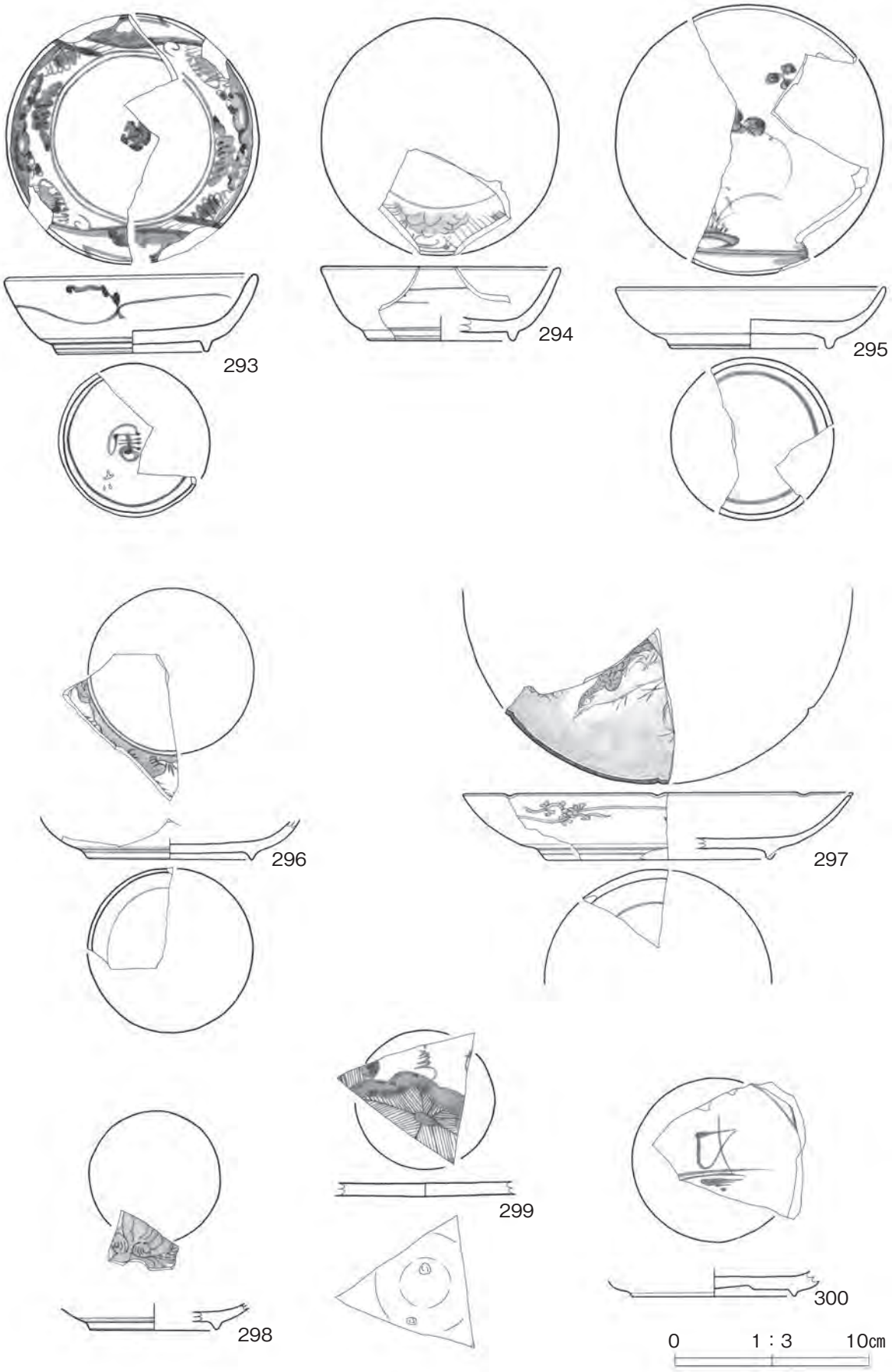
第122図　近世の磁器（4）



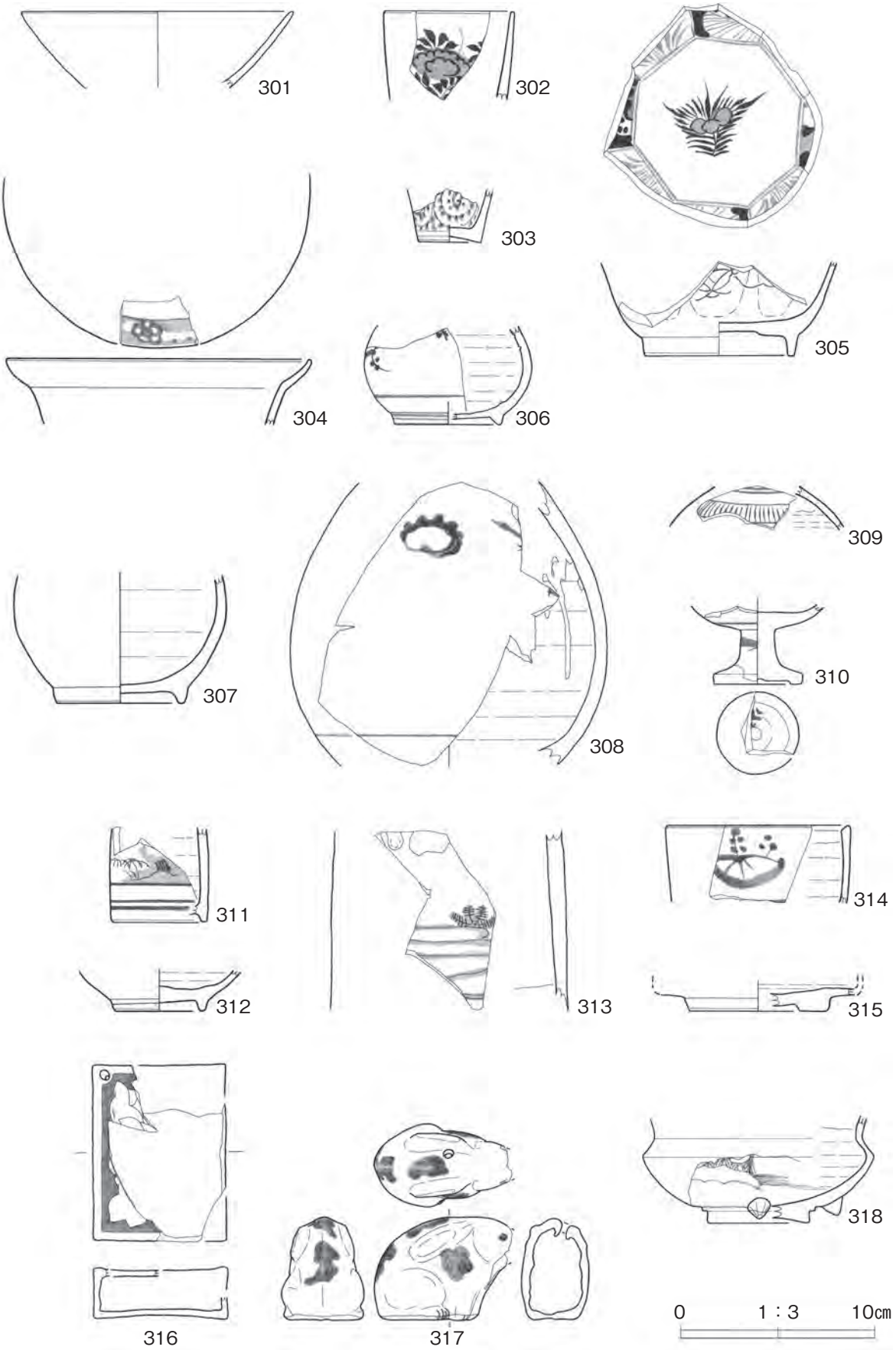
第123図　近世の磁器（5）



第124図　近世の磁器（6）



第125図　近世の磁器（7）



第126図　近世の磁器（8）

4　近世～近代陶器

近世～近代の陶器を示す。時期区分を近世～近代としたのは、在地産陶器の年代観が明治以降（概ね19世紀末）にまたがるものがあり、近世と近代に明確に区分できないためである。図示した陶器は131点（重量合計25,268ｇ）である。この他に本報告書不掲載の近世～近代の陶器が9,194ｇある。この内、近世に属すると判断できるものが2,846ｇ、近世～近代にまたぐ年代観の在地産陶器が6,348ｇある。また、本項目には素焼きの土器製品も含んで示している。

第５表　近世～近代陶器観察表

番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（ｇ）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
401	陶器	碗	10Ｅ北壁	3	10.9	7.6	5.1	167	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	呉器手碗									
402	陶器	碗	ＳＤ２（10Ｄ）	3	11.0	(5.6)	—	42	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	呉器手碗　ＳＤ２埋土出土　以下ＳＤ２とグリッドの組み合わせは「埋土」を省略									
403	陶器	碗	10Ｆ切株中	4	11.2	(4.8)	—	45	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	呉器手碗									
404	陶器	碗	Ｐ1375埋土	2	11.0	(6.6)	—	46	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	Ｐ1375はＳＢ105の柱穴　呉器手碗									
405	陶器	碗	ＳＤ２（10Ｅ）	3	—	(2.9)	4.6	90	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	呉器手碗									
406	陶器	碗	10Ｂ北壁	3	—	(2.2)	5.7	59	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	呉器手碗									
407	陶器	碗	10Ｂ北壁	3	—	(2.9)	5.2	38	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	呉器手碗									
408	陶器	碗	10Ｃ北壁	3	—	(2.8)	4.8	68	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	呉器手碗									
409	陶器	碗	10Ｄ北壁	3	—	(4.5)	4.4	76	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	呉器手碗									
410	陶器	碗	10Ｄ北壁	3	—	(4.3)	4.5	64	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	呉器手碗									
411	陶器	碗	ＳＤ２（９Ｉ）	4	—	(4.1)	4.7	24	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	呉器手碗									
412	陶器	碗	10Ｂ北壁	3	—	(2.9)	5.4	31	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	呉器手碗									
413	陶器	碗	Ｐ1047埋土	1	—	(2.2)	5.0	47	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	Ｐ1047は14Ｆに位置する　呉器手碗									
414	陶器	碗	ＳＫ132埋土	1	—	(2.2)	4.8	42	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	呉器手碗									
415	陶器	碗	ＳＫ８埋土	3	—	(3.8)	4.4	56	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	呉器手碗									
416	陶器	碗	ＳＤ２（10Ｃ）	3	—	(3.2)	4.5	25	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	陶胎染付碗									
417	陶器	碗	ＳＫ34埋土	4	—	(2.9)	5.2	30	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	陶胎染付碗									

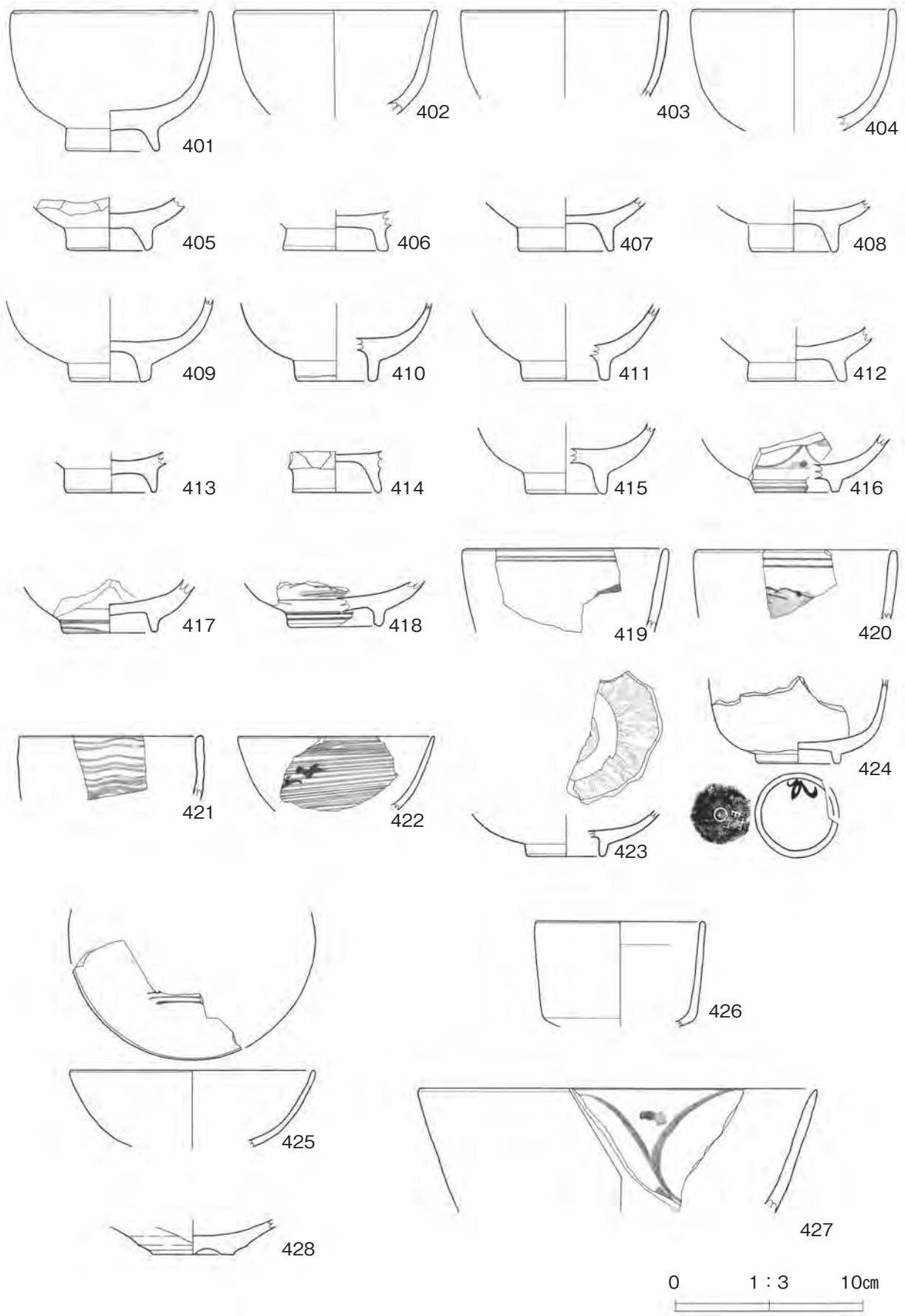
番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
418	陶器	碗	ＳＤ３（８Ｅ）	—	—	(2.4)	5.2	46	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	陶胎染付碗　ＳＤ３埋土出土　屋敷３と４の境界の溝									
419	陶器	碗	ＳＤ２（10Ｆ）	4	11.1	(4.5)	—	23	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	陶胎染付碗									
420	陶器	碗	ＳＤ２（10Ｃ）	3	10.9	(3.7)	—	12	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	陶胎染付碗									
421	陶器	碗	ＳＤ２（10Ｃ）	3	9.9	(3.4)	—	10	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	刷毛目碗　白化粧　内面にも白化粧									
422	陶器	碗	ＳＫ108埋土	1	10.6	(4.1)	—	15	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	刷毛目碗　白化粧　内面にも白化粧　鉄絵で鳥の絵柄									
423	陶器	碗	ＳＫ150埋土	1	—	(2.5)	4.3	28	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	見込蛇目釉剥　内面白化粧									
424	陶器	碗	ＳＤ２（10Ｅ）	3	—	(4.6)	4.6	78	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	京焼風陶器　外面染付部欠損　高台内に墨書あり									
425	陶器	碗	南区西北壁	3	13.2	(4.2)	—	33	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	京焼風陶器　皿とすべきかもしれないが、慣例により碗とする									
426	陶器	蓋付碗	ＳＫ13埋土	3	9.1	(5.7)	—	15	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前？
	京焼風陶器か　腰折の器形　口唇～口縁内面露胎で、蓋が伴うと判断される									
427	陶器	鉢	ＳＫ109埋土	1	21.4	(6.6)	—	35	肥前？	17Ｃ後～18Ｃ前？
	胎土、質感から肥前産陶胎染付と推測される　類例見いだせず　内面に染付									
428	陶器	皿	南区西粗掘	3	—	(1.9)	4.5	47	肥前	16Ｃ末～17Ｃ初
	「唐津皿」胎土目は確認できない　灰オリーブの色調を呈する									
429	陶器	皿	ＳＤ２（10Ｅ）	3	11.4	3.3	4.1	74	肥前	1690～1780
	内面銅緑釉　見込蛇目釉剥　外面上半透明釉に一部銅緑釉　高台露胎									
430	陶器	皿	ＳＤ２（10Ｃ）	3	11.7	(3.3)	3.9	39	肥前	1690～1780
	内面銅緑釉　見込蛇目釉剥　外面上半透明釉　高台露胎									
431	陶器	皿	南区西北壁	3	11.4	(3.7)	4.2	100	肥前	1690～1780
	内面銅緑釉　見込蛇目釉剥　外面上半透明釉　高台露胎									
432	陶器	皿	中区西粗掘	1	12.1	(3.5)	4.5	51	肥前	1690～1780
	内面銅緑釉　見込蛇目釉剥　外面上半透明釉　高台露胎									
433	陶器	皿	ＳＫ150埋土	1	—	(1.7)	4.7	55	肥前	1690～1780
	銅緑釉　見込蛇目釉剥　高台露胎									
434	陶器	皿	ＳＫ150埋土	1	—	(1.9)	5.1	46	肥前	1690～1780
	銅緑釉　見込蛇目釉剥　高台露胎									
435	陶器	鉢	Ｐ1135埋土	1	—	(6.9)	13.4	416	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	Ｐ1135は13Ｄに位置する　内面刷毛目　砂目あり									
436	陶器	鉢	ＳＤ２（10Ｄ）	3	—	(4.7)	12.8	322	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	「三島手」胎土目の痕跡あり									
437	陶器	鉢	南区西北壁	3	—	(5.1)	12.6	179	肥前	17Ｃ後～18Ｃ前
	「三島手」胎土目の痕跡あり									
438	陶器	徳利	ＳＫ150埋土	1	3.3	(7.0)	—	58	肥前	1690～1780
	鉄釉　肩部は沈線による段々で　白化粧による表現ではない									
439	陶器	徳利	ＳＫ150埋土	1	—	(6.0)	9.1	114	肥前	1690～1780
	刷毛目　内面無釉									
440	陶器	小碗	９Ｉ北壁	4	—	(2.5)	3.2	22	瀬戸・美濃	18Ｃ
	灰釉									

番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
441	陶器	小碗	ＳＤ２（９Ｉ）	4	—	(3.2)	3.8	13	瀬戸・美濃	18Ｃ
	灰釉									
442	陶器	碗	ＳＤ２（10Ｃ）	3	—	(2.9)	5.1	33	瀬戸・美濃	18Ｃ
	褐釉にうのふ釉　「尾呂」茶碗									
443	陶器	碗	ＳＫ150埋土	1	—	(1.8)	5.8	56	瀬戸・美濃	18Ｃ
	褐釉　「尾呂茶碗」									
444	陶器	碗	ＳＤ２（９Ｉ）	4	8.9	(3.8)	—	20	瀬戸・美濃	18Ｃ
	内外面ともに灰釉と鉄釉掛け分け　腰折れの器形　「せんじ」碗									
445	陶器	碗	ＳＫ150埋土	1	13.0	5.3	4.7	121	瀬戸・美濃	18Ｃ後～19Ｃ初
	刷毛目碗　灰釉で白化粧									
446	陶器	碗	ＳＫ150埋土	1	12.2	5.9	4.4	93	瀬戸・美濃	18Ｃ後～19Ｃ初
	灰釉に鉄絵で柳の文様　「柳茶碗」									
447	陶器	碗	ＳＫ150埋土	1	—	(5.3)	4.2	72	瀬戸・美濃	18Ｃ後～19Ｃ初
	灰釉に鉄絵で柳の文様　「柳茶碗」									
448	陶器	碗	ＳＫ150埋土	1	13.4	5.5	4.4	19	瀬戸・美濃	18Ｃ後～19Ｃ初
	灰釉　「柳茶碗」か									
449	陶器	碗	ＳＫ３埋土	3	11.8	(4.8)	—	19	瀬戸・美濃	19Ｃ前半
	陶胎染付　広東碗か									
450	陶器	皿	中区中粗掘	1	—	(2.0)	8.2	30	瀬戸・美濃	17Ｃ前半
	長石釉　鉄絵　目跡あり　「鉄絵皿」									
451	陶器	皿	10Ｃ北壁	3	—	(1.9)	8.1	33	瀬戸・美濃	17Ｃ前半
	長石釉　鉄絵　目跡あり　「鉄絵皿」									
452	陶器	皿	中区西粗掘	1	13.3	3.1	7.1	27	瀬戸・美濃	17Ｃ後半
	灰釉　「反り皿」　目跡あり									
453	陶器	皿	中区東壁	2	13.9	2.9	7.4	80	瀬戸・美濃	17Ｃ後半
	灰釉　「反り皿」　目跡あり									
454	陶器	皿	ＳＤ101（15Ｉ）	—	13.6	2.9	7.8	31	瀬戸・美濃	17Ｃ後半
	灰釉　「反り皿」　目跡あり　漆継痕あり　ＳＤ101埋土出土　屋敷１と２の境界の溝									
455	陶器	皿	ＳＤ２（10Ｃ）	3	—	(2.1)	7.5	30	瀬戸・美濃	17Ｃ後半
	灰釉　「反り皿」　目跡あり									
456	陶器	皿	10Ｆ切株中	4	—	(1.4)	6.9	79	瀬戸・美濃	18Ｃ
	灰釉　鉄絵　「摺絵皿」　蝶の絵柄									
457	陶器	皿	南区西粗掘	3	—	(1.1)	—	33	瀬戸・美濃	18Ｃ
	灰釉　鉄絵　「摺絵皿」　梅？の絵柄									
458	陶器	鉢	ＳＤ２（10Ｃ）	3	—	(4.8)	18.1	75	瀬戸・美濃	17Ｃ後半
	黄色がかった釉に鉄絵　「鉄絵鉢」　内面と外底面に目跡あり									
459	陶器	皿	10Ｄ北壁	3	(3.8)	5.8		112	瀬戸・美濃	17Ｃ後半か
	型おこし皿　白濁した釉（長石釉か）　高台内に墨書あり									
460	陶器	鉢	10Ｅ検出	3	20.6	(4.9)	—	37	瀬戸・美濃	18Ｃ
	灰釉　「折縁鉢」									
461	陶器	鉢	10Ｂ検出	3	—	(2.5)	8.0	25	瀬戸・美濃	18Ｃ
	灰釉　「折縁鉢」　見込蛇目釉剥									
462	陶器	皿	10Ｆ切株中	4	—	(3.0)	6.8	139	瀬戸・美濃	19Ｃ前半
	刷毛目皿									
463	陶器	皿	ＳＫ156埋土	1	14.2	(3.2)	—	42	瀬戸・美濃	18Ｃ末～19Ｃ初
	陶体染付皿									

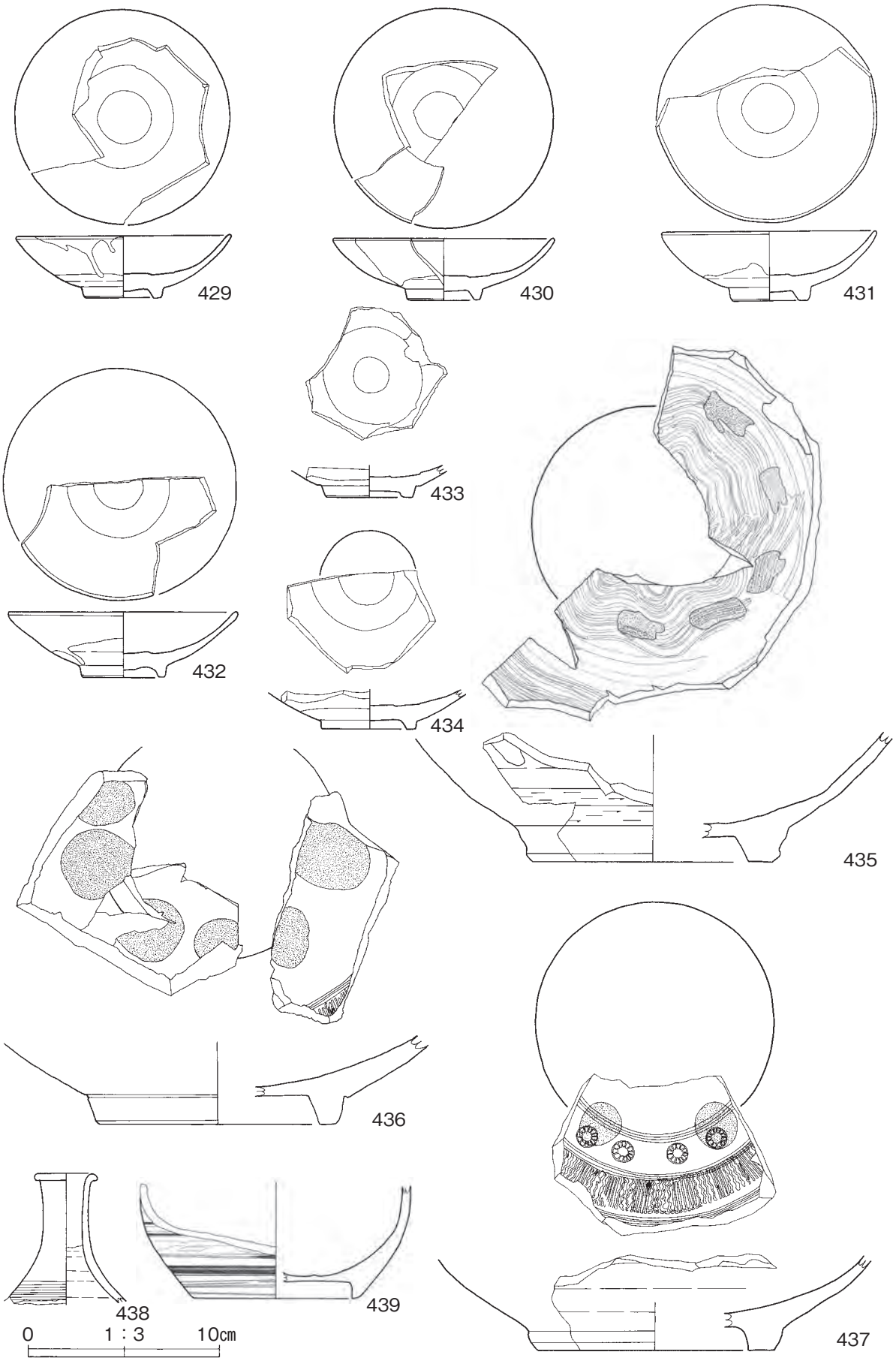
番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
464	陶器	片口鉢	ＳＫ３埋土	3	12.3	8.2	6.0	270	瀬戸・美濃	18Ｃ末～19Ｃ初
	飴釉にうのふ釉　見込に目跡あり									
465	陶器	汁次	10Ｅ北壁	3	—	(7.5)	—	100	瀬戸・美濃	18Ｃ後半か
	飴（褐）釉　うのふ釉　内面も施釉　図は２破片から合成									
466	陶器	徳利	ＳＤ２（10Ｄ）	3	—	(7.9)	8.7	201	瀬戸・美濃	18Ｃ
	褐釉　内面、高台露胎									
467	陶器	香炉	南区西検出	3	—	(5.2)	—	25	瀬戸・美濃	18Ｃ
	褐釉　うのふ釉　内面も施釉　口唇部を打ち欠いている									
468	陶器	香炉	10Ｄ北壁	3	11.6	(5.3)	—	39	瀬戸・美濃	18Ｃ
	内外面褐釉　漆継痕あり									
469	陶器	蓋	ＳＫ31埋土	3	12.3	2.1	6.0	127	瀬戸	18Ｃか
	鉄釉　底面回転糸切痕									
470	陶器	瓶掛	ＳＫ150埋土	1	12.1	(9.9)	—	601	瀬戸	19Ｃ前
	銅緑釉　スタンプによる文様「獅噛」の突起あり									
471	陶器	瓶掛	９Ｇ北壁	4	—	(3.9)	19.6	218	瀬戸	19Ｃ前
	銅緑釉　雷文が施される									
472	陶器	鉢	ＳＤ２（10Ｃ）	3	19.8	(5.2)	—	171	瀬戸	19Ｃ前半
	銅緑釉　スタンプによる文様　口縁部輪花？									
473	陶器	擂鉢	Ｐ1289埋土	2	30.7	(6.3)	—	129	瀬戸	18Ｃ
	Ｐ1289はＳＢ103の柱穴　内外面鉄釉									
474	陶器	擂鉢	ＳＫ31埋土	3	29.8	(6.3)	—	95	瀬戸	17Ｃ末～18Ｃ
	内外面鉄釉									
475	陶器	擂鉢	ＳＤ２（10Ｃ）	3	—	(5.4)	13.0	147	瀬戸	18Ｃ
	内外面鉄釉　回転糸切痕									
476	陶器	擂鉢	ＳＤ101（14Ｉ）	—	—	(6.6)	12.8	177	瀬戸	18Ｃ
	内外面鉄釉　回転糸切痕　ＳＤ101埋土出土　屋敷１と屋敷２の境界の溝									
477	陶器	甕	南区東北壁	4	—	(10.2)	—	206	常滑	18Ｃ？
	大型の甕破片　暗赤褐色の色調									
478	陶器	甕	南区東粗掘	4	—	(13.0)	—	230	常滑	18Ｃ？
	大型の甕破片　暗赤褐色の色調　477と同一個体と推測される									
479	陶器	小碗	南区西粗掘	3	5.7	3.5	3.1	24	大堀相馬	18Ｃ
	透明性の灰釉									
480	陶器	小碗	10Ｂ北壁	3	—	(2.6)	2.9	19	大堀相馬	18Ｃ
	透明性の灰釉									
481	陶器	碗	南区西北壁	3	11.3	5.8	4.3	56	大堀相馬	18Ｃ
	透明性の灰釉に褐釉流し掛け									
482	陶器	碗	ＳＤ２（９Ｉ）	4	—	(1.4)	3.5	11	大堀相馬	18Ｃ
	透明性の灰釉									
483	陶器	碗	ＳＫ10埋土	3	—	(3.4)	4.1	28	大堀相馬	18Ｃ
	外面鉄釉　内面透明性の灰釉									
484	陶器	碗	ＳＫ１埋土	3	9.9	(3.6)	—	7	大堀相馬	18Ｃ
	外面上半部透明性の灰釉、下半部鉄釉　内面透明性の灰釉									
485	陶器	碗	ＳＫ３埋土	3	—	(1.9)	4.4	29	大堀相馬	18Ｃ～19Ｃ
	やや失透性の灰釉									
486	陶器	碗	中区東粗掘	2	—	(2.3)	4.0	22	大堀相馬	18Ｃ～19Ｃ
	やや失透性の灰釉									

番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
487	陶器	碗	ＳＤ101（15Ｉ）	—	—	(2.6)	4.0	23	大堀相馬	18～19Ｃ
	やや失透性の灰釉　ＳＤ101埋土出土　屋敷１と屋敷２の境界の溝									
488	陶器	碗	南区西粗掘	3	10.0	5.3	3.9	51	大堀相馬	18～19Ｃ
	やや失透性の灰釉									
489	陶器	碗	ＳＫ150埋土	1	10.8	4.9	3.4	33	大堀相馬	19Ｃ
	藁灰釉　高台内に墨書あり									
490	陶器	碗	ＳＤ２（10Ｆ）	4	11.8	(4.5)	—	28	大堀相馬	19Ｃ
	藁灰釉									
491	陶器	鉢？	10Ｆ北壁	4	—	(3.4)	5.8	44	大堀相馬	18Ｃ
	透明性の灰釉　碗より大振りの器形であり鉢か									
492	陶器	皿	16Ｉ検出	1	10.0	2.9	3.8	32	大堀相馬	18Ｃ
	透明性の灰釉　口縁部輪花　見込印刻の七曜文									
493	陶器	皿	ＳＤ２（９Ｈ）	4	—	(1.6)	4.3	20	大堀相馬	18Ｃ
	透明性の灰釉　口縁部輪花　見込印刻の七曜文　492より大型									
494	陶器	皿	ＳＫ150埋土	1	12.8	3.9	5.3	99	大堀相馬	19Ｃ
	藁灰釉									
495	陶器	花瓶	ＳＫ１埋土	1	—	(7.8)	—	118	大堀相馬？	18Ｃ？
	産地特定できないが大堀相馬と推測　透明性の灰釉									
496	陶器	小甕	ＳＫ150埋土	1	3.8	(2.2)	—	7	大堀相馬	18Ｃ
	透明性の灰釉									
497	陶器	小甕	９Ｇ北壁	4	—	(2.6)	2.7	23	大堀相馬	19Ｃ
	外面褐釉　内面藁灰釉　胎土から大堀相馬と判断									
498	陶器	擂鉢	ＳＤ２（９Ｊ）	4	30.7	(3.8)	—	221	在地？	18Ｃ？
	焼き締めの陶器　産地不詳であるが在地産か									
499	陶器	擂鉢	ＳＫ150埋土	1	34.2	16.2	12.6	1251	在地	19Ｃ
	外面底辺部に紐痕あり									
500	陶器	擂鉢	ＳＤ２（９Ｉ）	4	37.9	(13.3)	—	338	在地	19Ｃ
	内面に重ね焼きの際の「しんこ」痕あり　「しんこ」は粘土に籾殻をまぶしたもの									
501	陶器	擂鉢	ＳＫ150埋土	1	—	(11.8)	12.9	249	在地	19Ｃ
	外面底辺部に紐痕、指跡あり　内面卸目顕著に磨滅									
502	陶器	擂鉢	ＳＤ２（９Ｉ）	4	—	(14.5)	12.2	998	在地	19Ｃ
	外面底辺部に紐痕あり									
503	陶器	擂鉢	ＳＫ10埋土	3	—	(12.1)	11.9	992	在地	19Ｃ
	外面底辺部に紐痕あり									
504	陶器	擂鉢	ＳＫ６埋土	3	—	(14.0)	12.2	1021	在地	19Ｃ
	外面底辺部に指跡あり									
505	陶器	擂鉢	ＳＫ156埋土	1	—	(11.0)	11.5	1155	在地	19Ｃ
	外面底辺部に紐痕あり									
506	陶器	擂鉢	８Ｊ攪乱	4	—	(8.8)	14.4	384	在地	19Ｃ
	外底面に重ね焼きの痕跡あり									
507	陶器	擂鉢	10Ｃ北壁	3	—	(7.4)	9.7	21	在地	19Ｃ
	小型の擂鉢									
508	陶器	擂鉢	10Ｃ北壁	3	—	(7.8)	13.2	291	在地	19Ｃ
	外面底辺部に紐痕あり									
509	陶器	擂鉢	ＳＫ３埋土	3	25.7	(9.0)	—	91	在地	19Ｃ
	胎土に海綿状骨針顕著に混入									

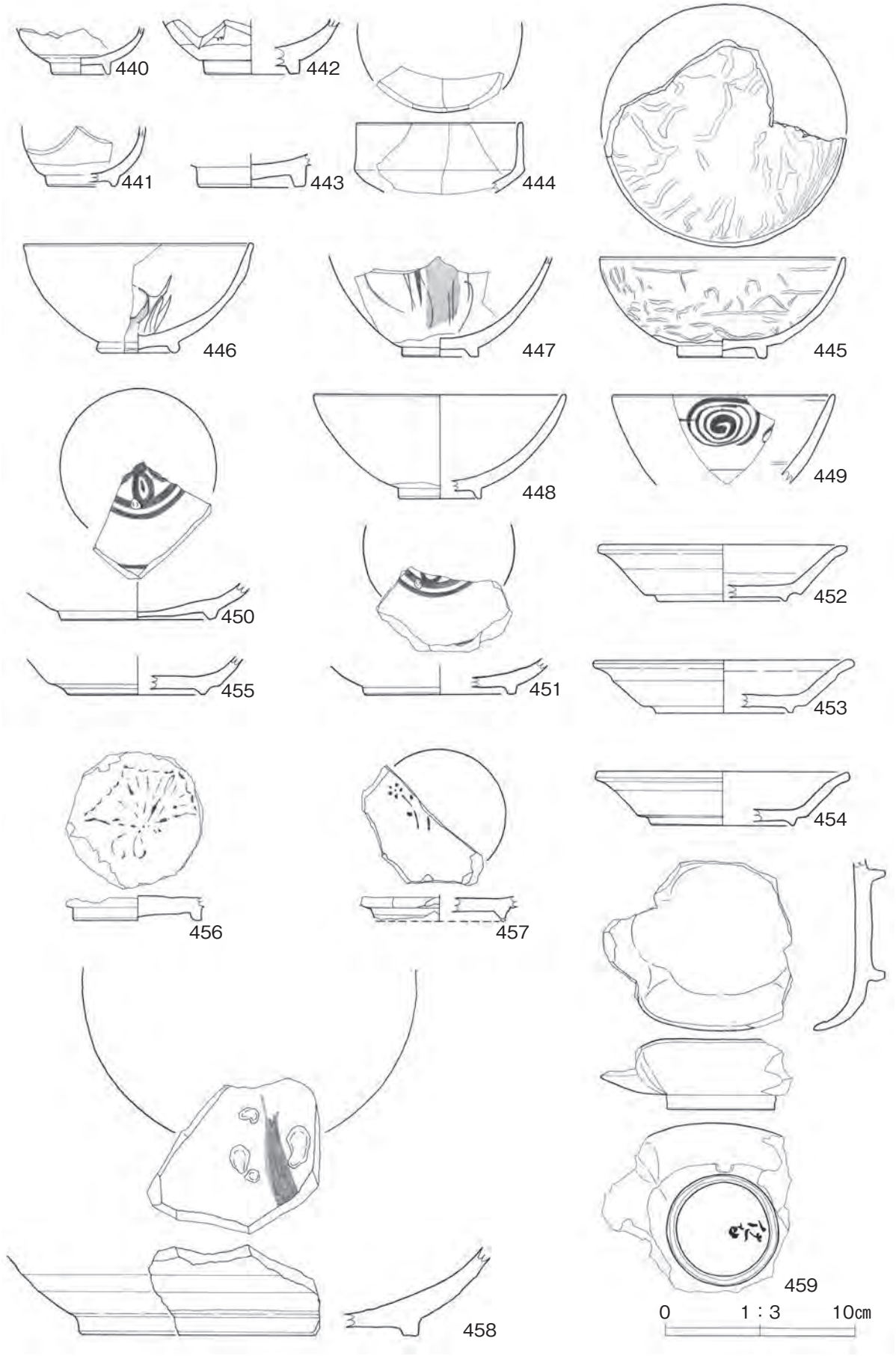
番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
510	陶器	擂鉢	ＳＫ132埋土	1	19.1	(6.4)	—	55	在地	19Ｃ
	小型の擂鉢									
511	陶器	擂鉢	10Ｆ切株中	4	—	(13.0)	11.6	452	在地	19Ｃ
	低い高台が付く									
512	陶器	擂鉢	10Ｆ切株中	4	33.5	(9.5)	—	208	不明	20Ｃ
	20世紀以降の擂鉢と思われる　瀬戸など大産地のものか									
513	陶器	鉢	ＳＫ150埋土	1	—	(7.9)	9.4	519	在地	19Ｃ
	暗緑～青色の釉　片口鉢か									
514	陶器	鉢	９Ｇ北壁	4	—	(4.5)	7.5	265	在地	19Ｃ
	白濁した釉　低い高台									
515	陶器	鉢	ＳＫ150埋土	1	19.9	(5.1)	—	64	在地	19Ｃ
	青灰色～白濁した釉　外面下半の段々部は露胎									
516	陶器	鉢	ＳＫ150埋土	1	—	(3.0)	8.9	147	在地	19Ｃ
	まだらに白濁した空色の釉　高台部露胎									
517	陶器	香炉	ＳＤ２（９Ｉ）	4	—	(3.4)	7.0	78	在地	19Ｃ
	外面鉄釉　内面無釉									
518	陶器	香炉	ＳＤ２（９Ｉ）	4	—	(3.5)	6.7	68	在地	19Ｃ
	外面空色の釉流し掛け　他は無釉　脚が付く香炉									
519	陶器	甕	ＳＤ２（10Ｂ）	3	4.8	(4.1)	—	10	在地	19Ｃ
	内外面鉄釉									
520	陶器	甕	ＳＤ２（９Ｈ）	4	—	(7.1)	5.8	117	在地	19Ｃ
	鉄釉にオリーブ色呈する釉流し掛け　内底面に窯灰付着									
521	陶器	甕	10Ｃ北壁	3	—	(7.4)	6.9	287	在地	19Ｃ
	外面鉄釉に褐色の釉流し掛け　内面褐色の釉									
522	陶器	甕	８Ｊ攪乱	4	12.9	(5.9)	—	78	在地	19Ｃ
	外面オリーブ色の釉　内面鉄釉にオリーブ色の釉流し掛け									
523	陶器	甕	ＳＫ３埋土	3	21.2	(10.0)	—	195	在地	19Ｃ
	鉄釉に空色の釉（なまこ釉）流し掛け　漆継痕あり									
524	陶器	甕	ＳＫ32埋土	3	39.7	(3.5)	—	374	在地	19Ｃ
	大型の甕　オリーブ色の釉									
525	陶器	甕	10Ｂ北壁	3	—	(14.5)	23.0	5900	在地	19Ｃ
	大型の甕　外面鉄釉　内面褐色の釉									
526	陶器	土管	10Ｄ北壁	3	—	(48.5)	—	1660	在地	20Ｃ？
	陶器質　外面、管内も施釉　20世紀以降のものか？　広端部9.5狭端部6.7									
527	陶器	ほうろく	ＳＫ150埋土	1	13.7	3.0	11.4	41	在地	19Ｃ
	把手の付くフライパン型のもの　把手部は残存していない　軟質な焼成　底面に煤付着									
528	陶器	ほうろく？	ＳＫ132埋土	1	17.9	(5.5)	—	94	在地	19Ｃ
	素焼き　内外面に煤付着　ほうろくか									
529	陶器	瓶掛	ＳＫ150埋土	1	19.2	(9.5)	—	128	在地	19Ｃ？
	瓦質　外面研磨している　煤付着									
530	土製品	土人形	ＳＫ132埋土	1	—	(7.5)	—	16	在地	近世？
	型おこしの土人形　欠損部多く全体形不明　座った女性の姿か									
531	土製品	土人形	ＳＫ34埋土	4	—	(4.4)	—	12	在地	近世？
	型おこしの土人形　両手を組み立っている姿									



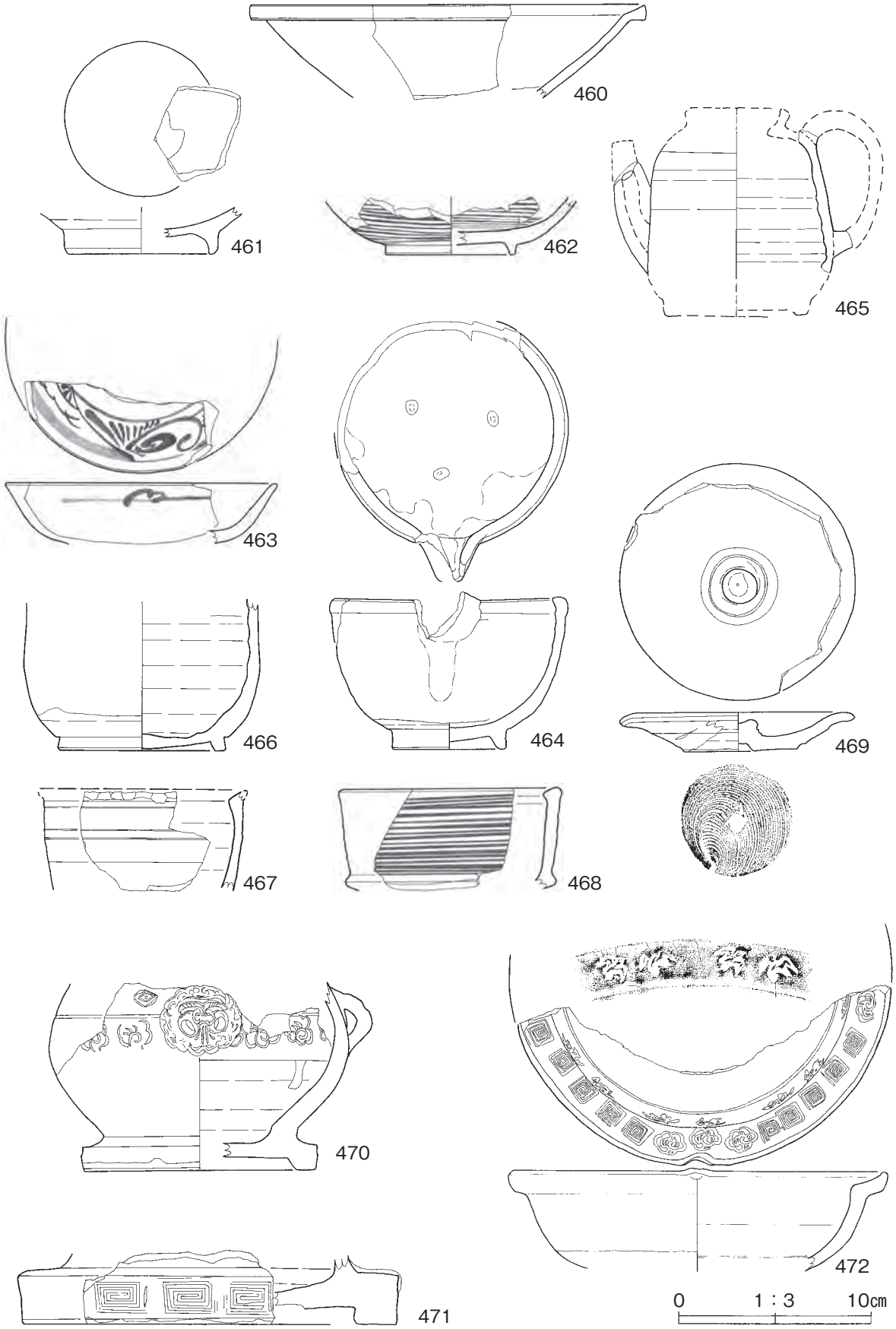
第127図　近世～近代の陶器（1）



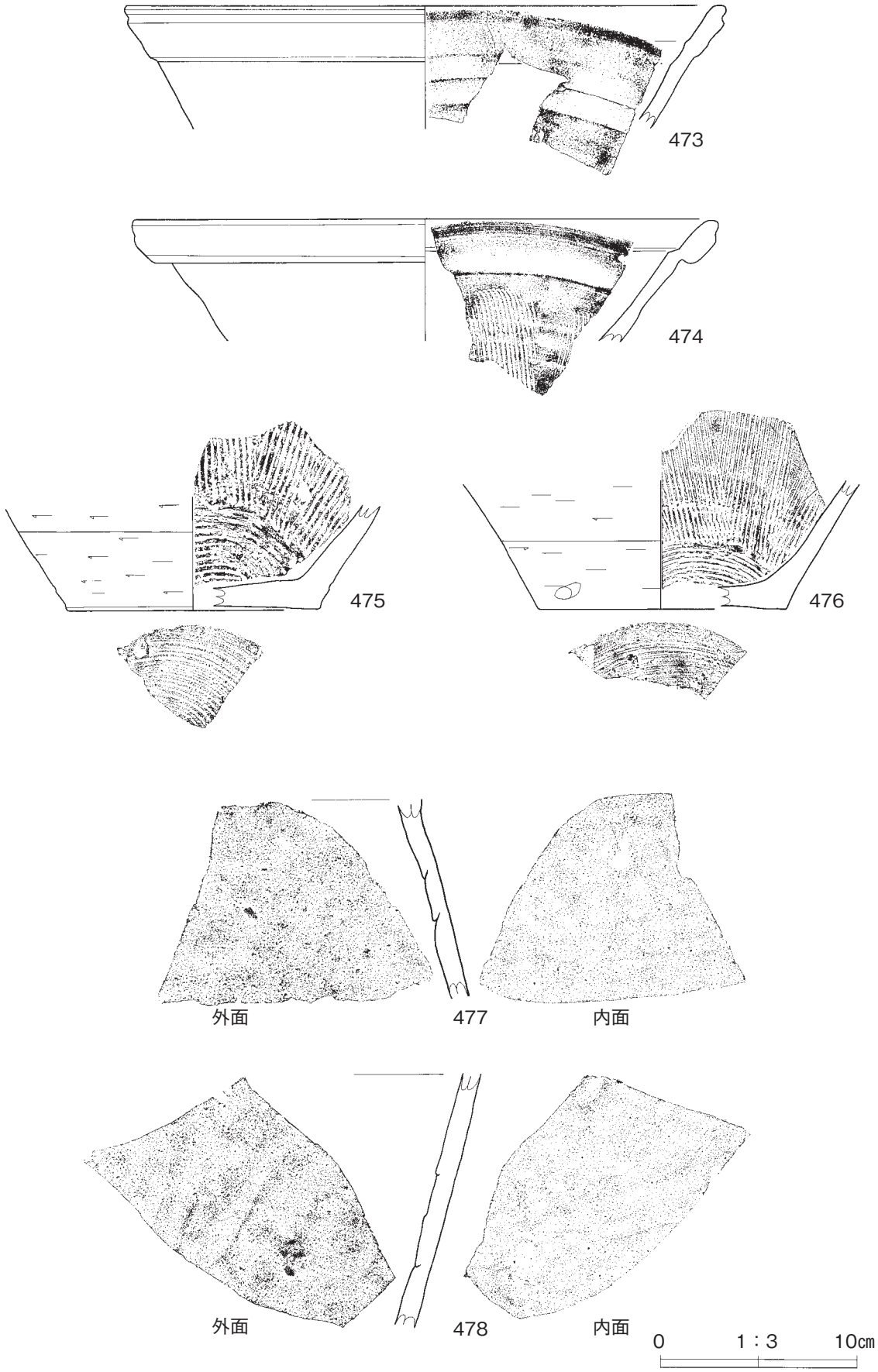
第128図　近世～近代の陶器（2）



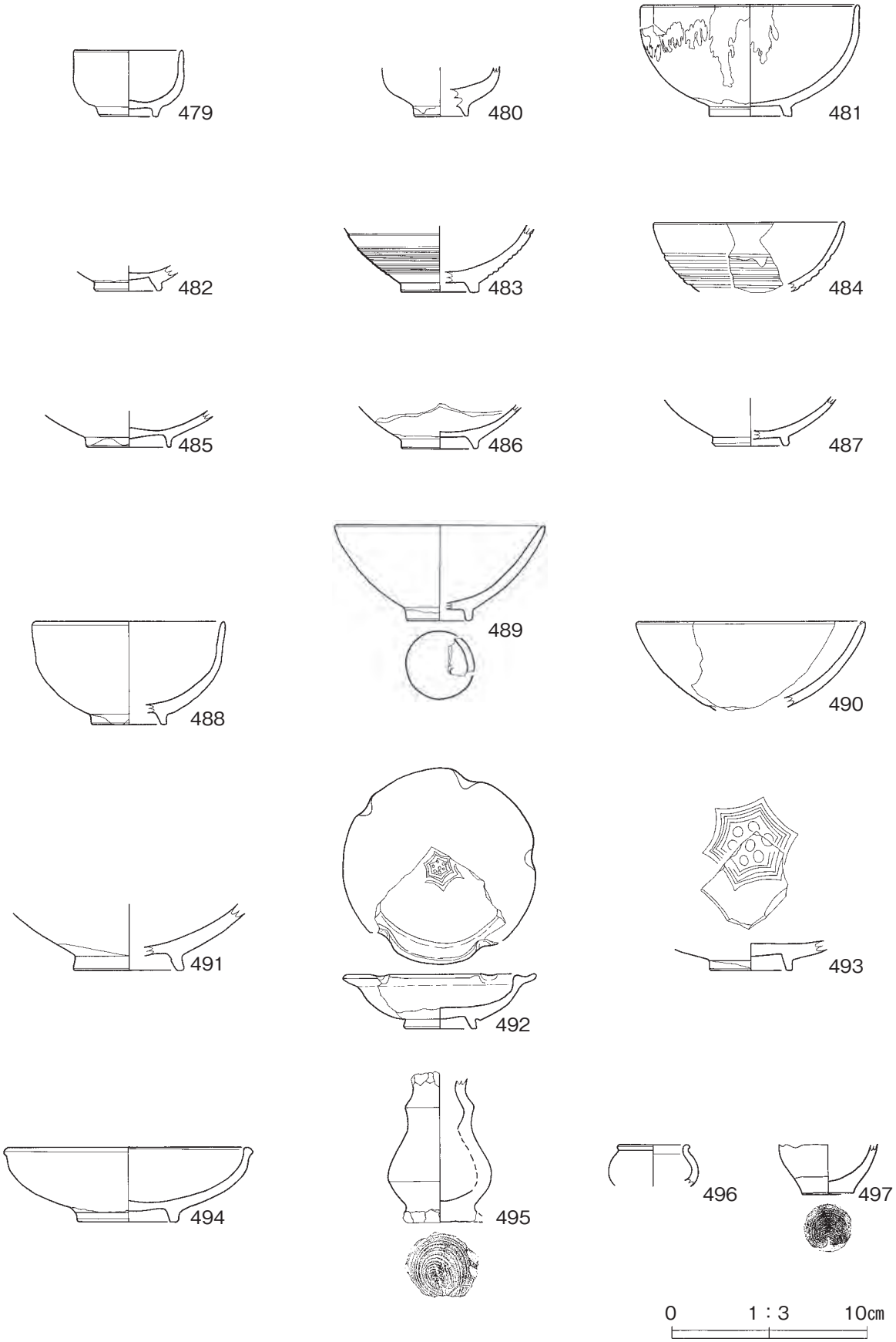
第129図　近世～近代の陶器（3）



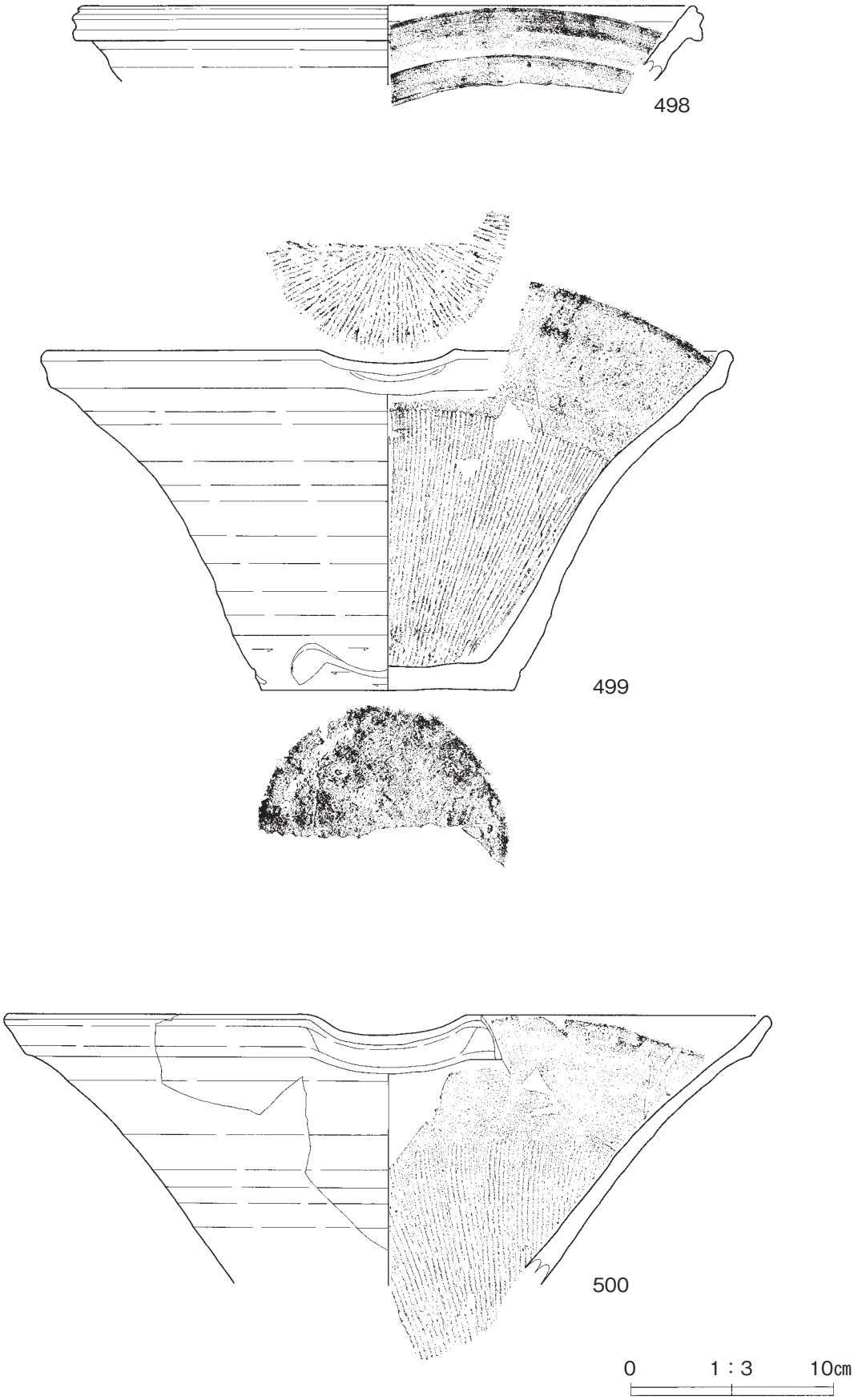
第130図　近世～近代の陶器（4）



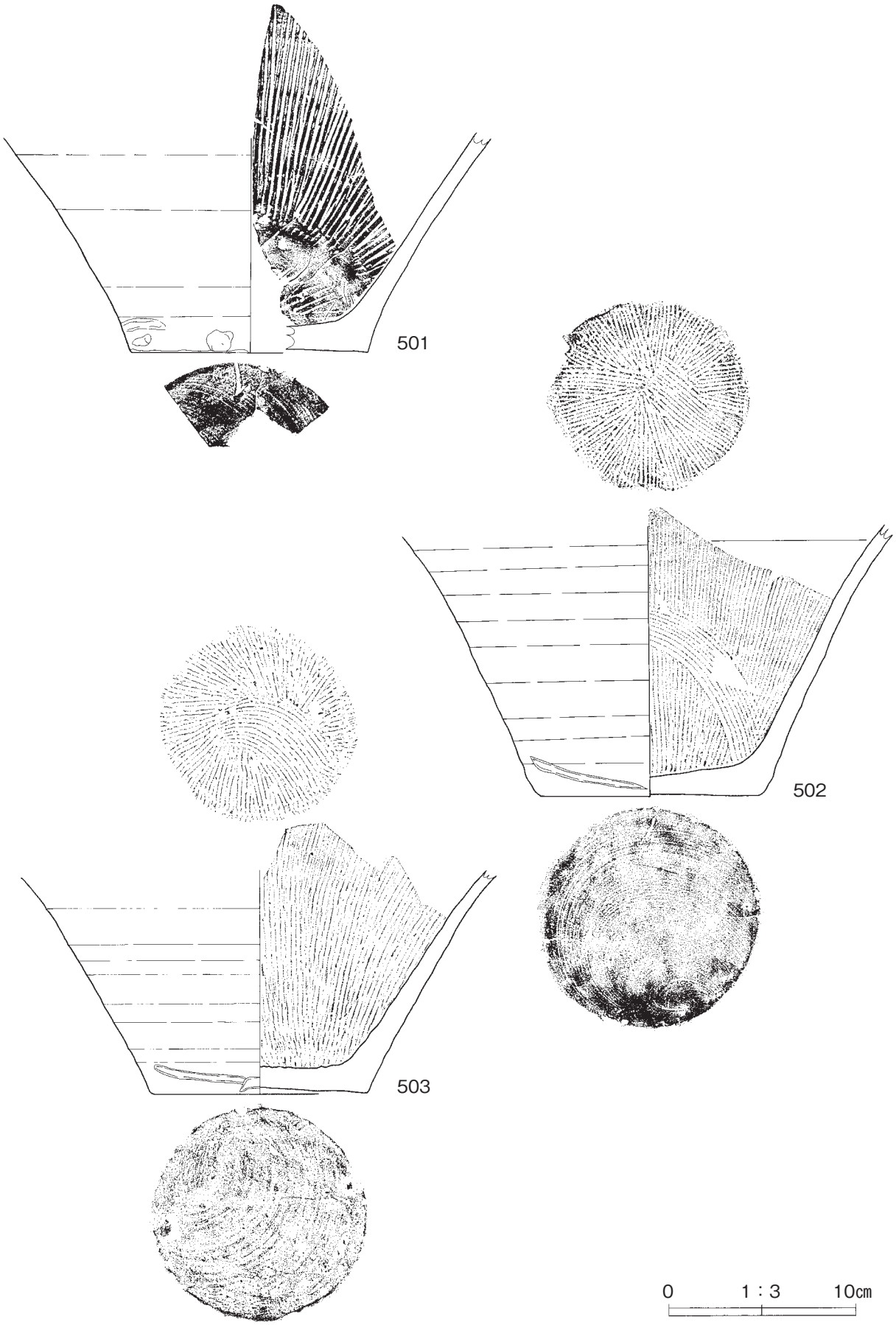
第131図　近世～近代の陶器（5）



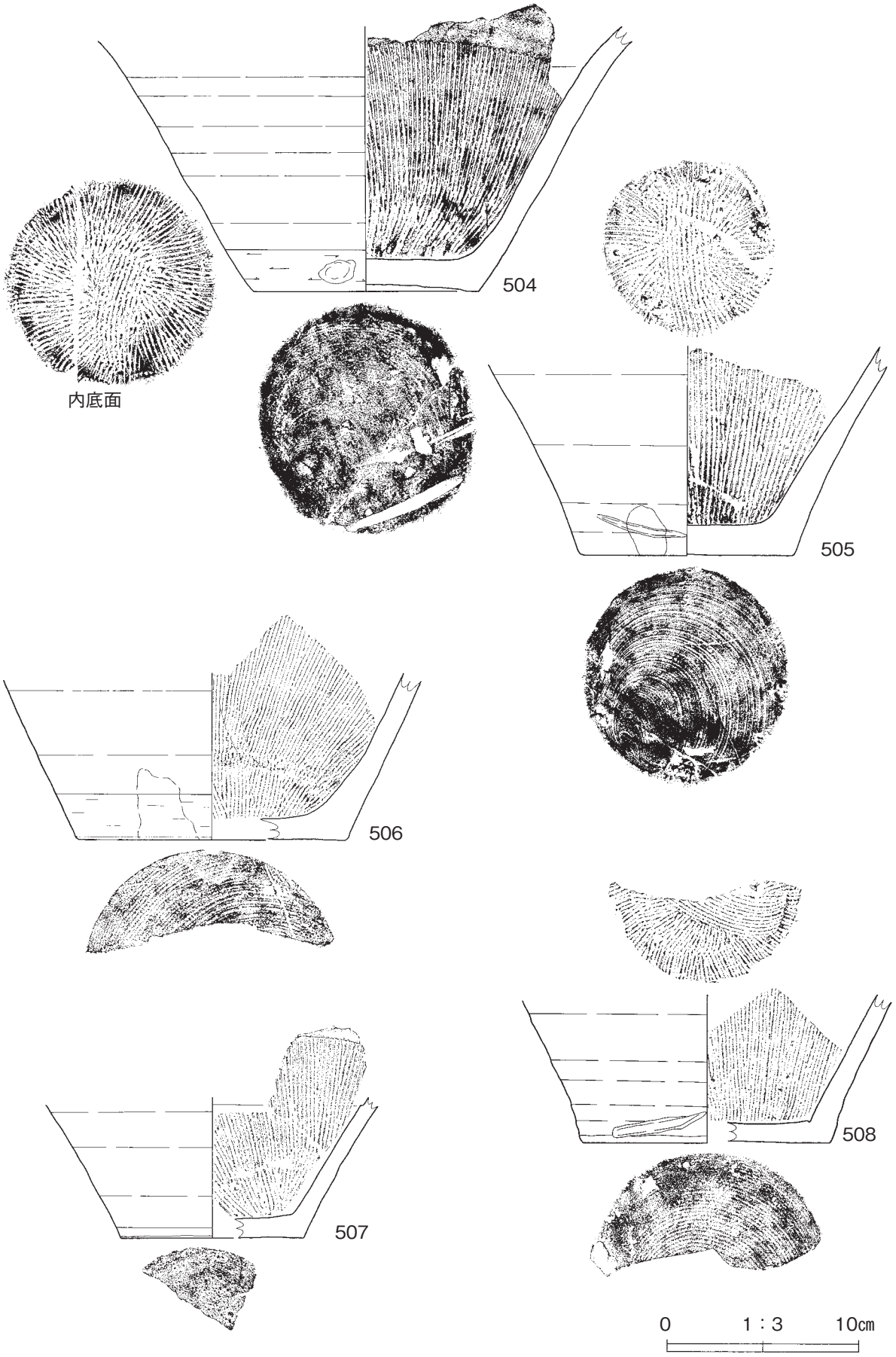
第132図　近世～近代の陶器（6）



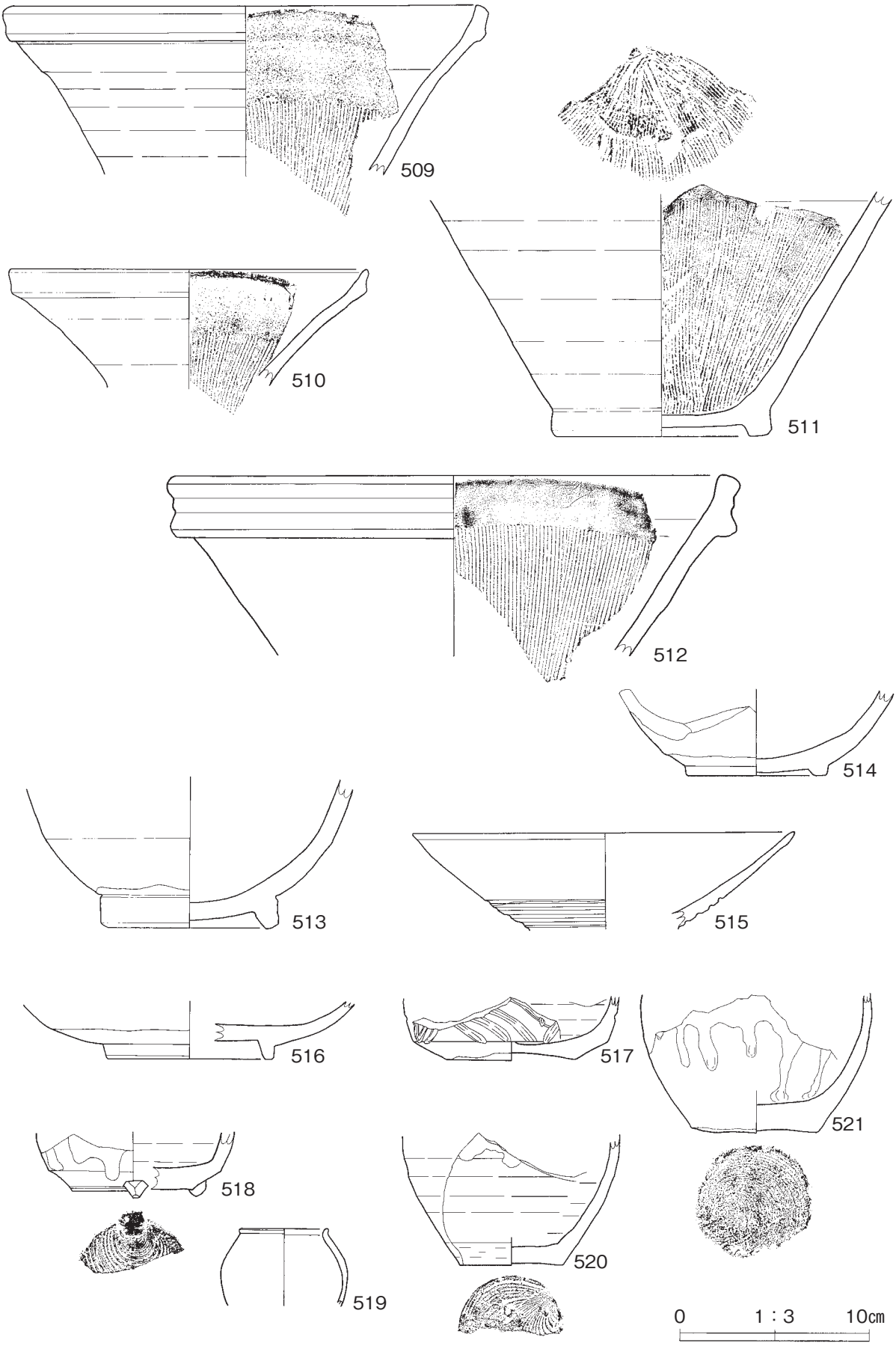
第133図　近世～近代の陶器（7）



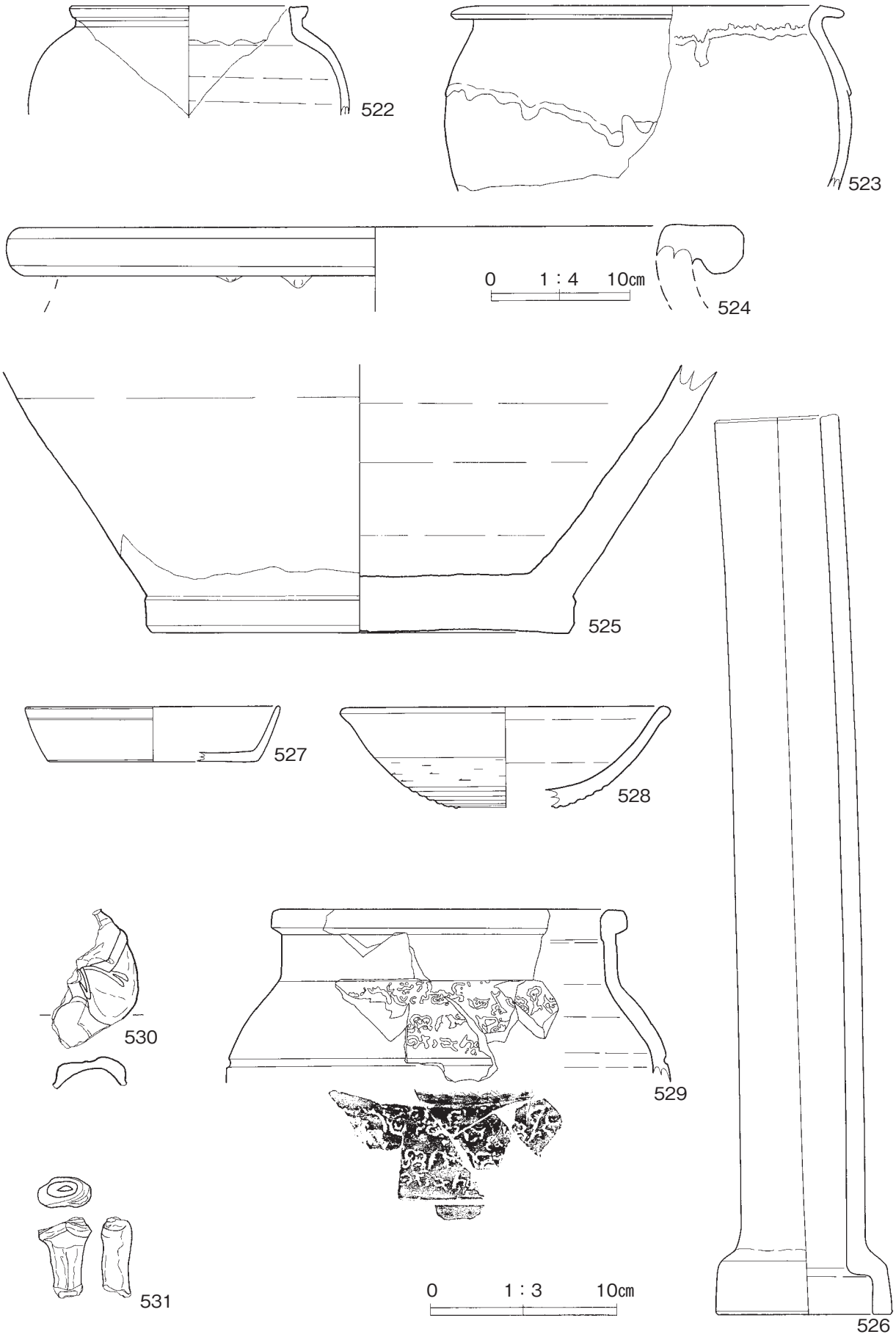
第134図　近世～近代の陶器（8）



第135図　近世～近代の陶器（9）



第136図　近世～近代の陶器（10）



第137図　近世～近代の陶器（11）

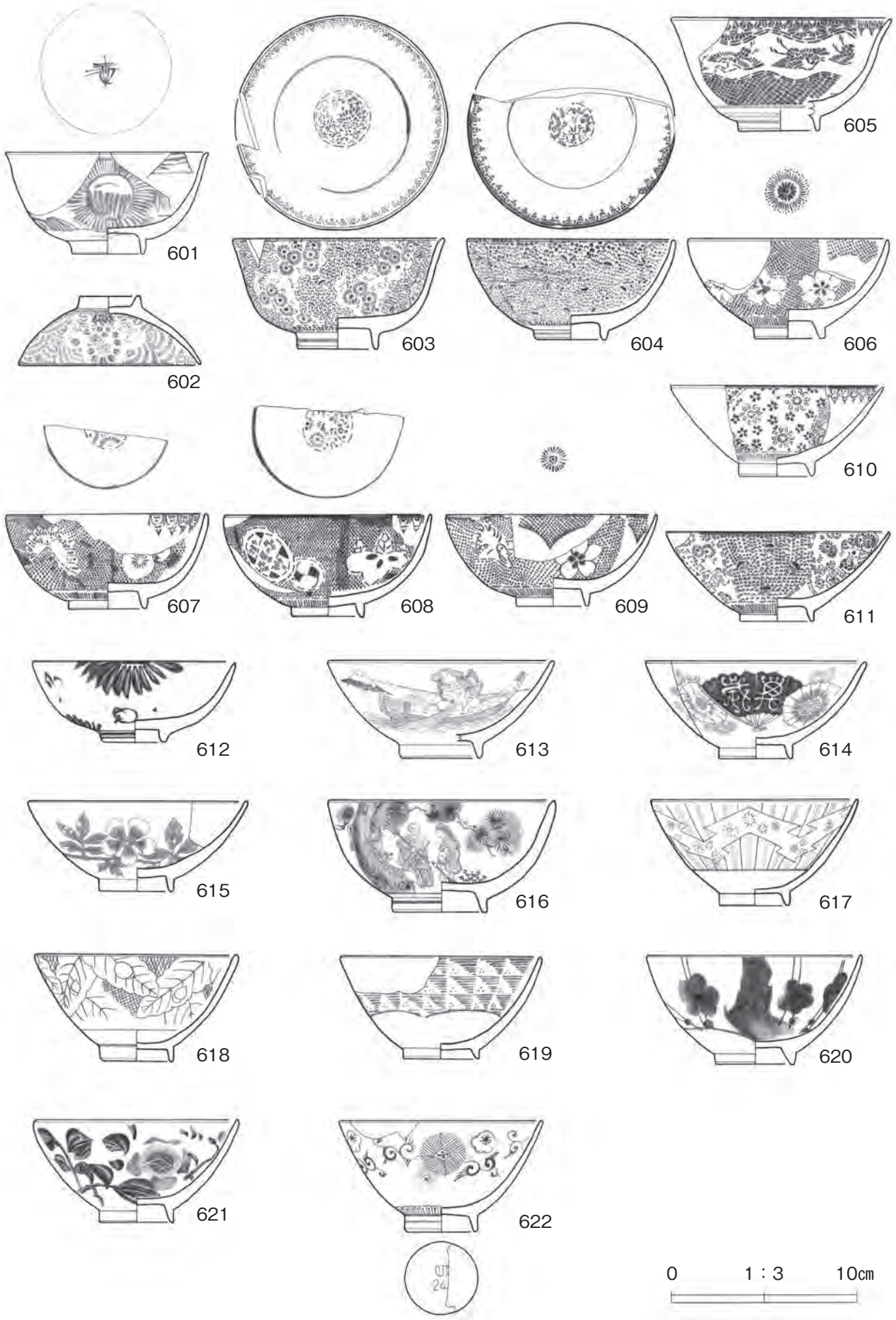
5　近　代　磁　器

近代（明治時代以降）の磁器（染付など）を示す。図示したのは37点（重量合計3,866ｇ）である。この他、不掲載の近代磁器が9,746ｇある。また、この他さらに、埋文センターに持ち帰った近代～現代に及ぶ陶磁器、ガラス類、その他の物品が約55,800ｇあることをここに記しておく。

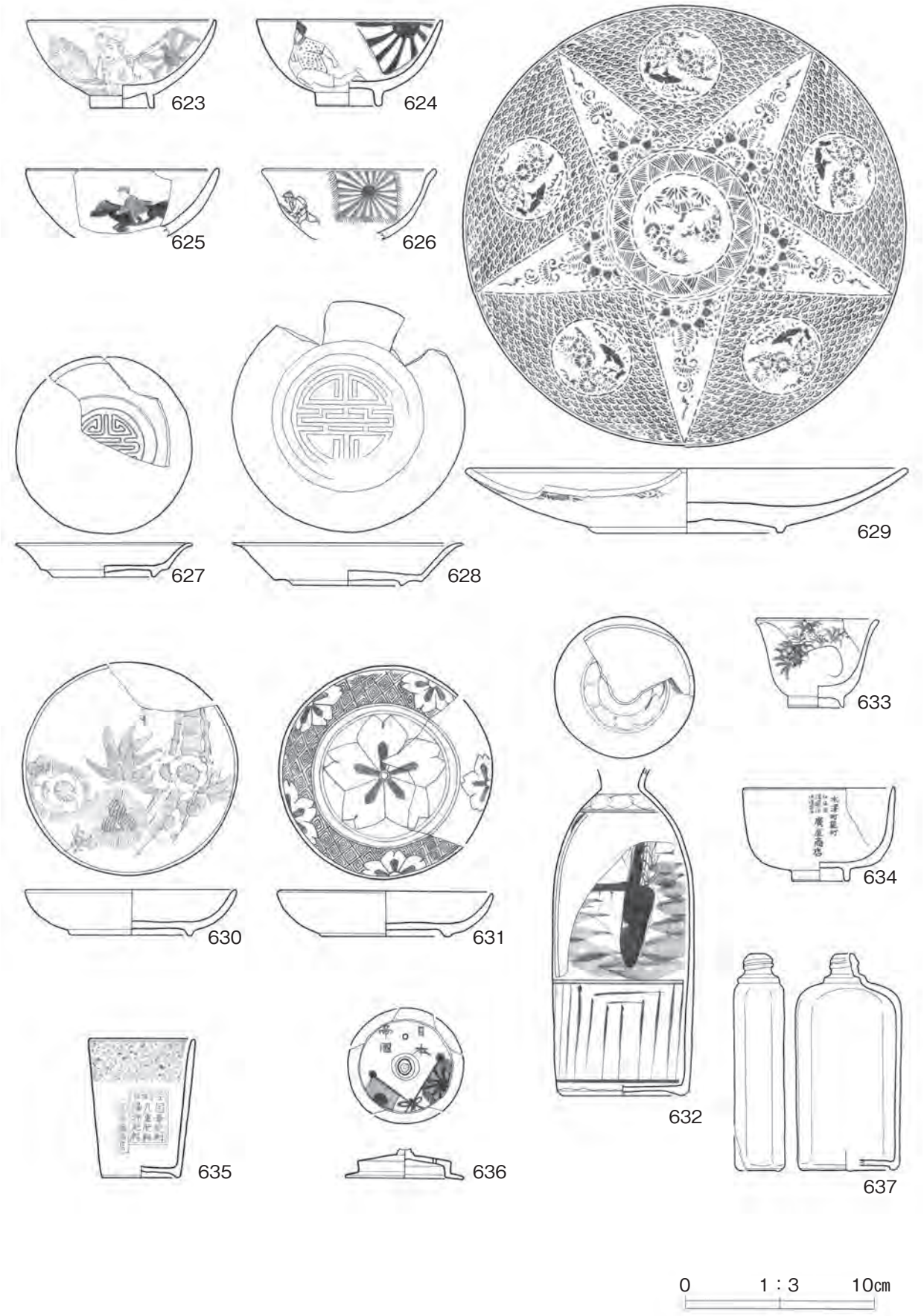
第６表　近代磁器観察表

番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（ｇ）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
601	磁器	碗	中区西検出	1	11.0	5.5	4.0	92	在地	19Ｃ中～後
	端反碗　手描きによる染付									
602	磁器	碗蓋	ＳＫ132埋土	1	9.9	3.8	3.4	72	不明	19Ｃ後半
	型紙摺									
603	磁器	碗	ＳＫ132埋土	1	11.5	6.0	4.4	203	不明	19Ｃ後半
	型紙摺　菊？の絵柄　端反碗									
604	磁器	碗	ＳＫ132埋土	1	11.4	5.5	4.0	117	不明	19Ｃ後半
	型紙摺									
605	磁器	碗	北区北粗掘	1	12.0	6.2	4.4	72	不明	19Ｃ後半
	型紙摺　鶴の絵柄　端反碗									
606	磁器	碗	中区中粗掘	1	10.9	5.5	3.9	97	不明	19Ｃ後半
	型紙摺　桜花の絵柄									
607	磁器	碗	８Ｊ攪乱	4	11.0	5.2	4.3	73	不明	19Ｃ後半
	型紙摺　蝶、牡丹の絵柄									
608	磁器	碗	９Ｉ北壁	1	11.3	5.6	4.0	92	不明	19Ｃ後半
	型紙摺　家紋の絵柄									
609	磁器	碗	北区北粗掘	1	11.5	5.0	4.0	116	不明	19Ｃ後半
	型紙摺　鶴、桜花の絵柄									
610	磁器	碗	９Ｊ北壁	4	11.5	5.0	4.1	36	不明	19Ｃ後半以降
	型紙摺　花の絵柄									
611	磁器	碗	中区中粗掘	1	12.1	4.9	4.0	127	不明	19Ｃ後半以降
	型紙摺　唐子の絵柄									
612	磁器	碗	ＳＫ132埋土	1	11.0	4.4	3.6	93	不明	19Ｃ後半以降
	手描きの染付									
613	磁器	碗	北区北粗掘	1	12.3	5.3	4.4	91	不明	19Ｃ後半以降
	銅版転写刷　漁をする恵比寿の絵柄									
614	磁器	碗	10Ｆ切株中	4	12.0	5.3	5.0	113	不明	19Ｃ後半以降
	銅版転写刷　扇に「萬歳」の絵柄									
615	磁器	碗	南区西粗掘	3	12.0	4.9	4.0	153	不明	19Ｃ後半以降
	銅版転写刷　花葉の絵柄									
616	磁器	碗	南区西粗掘	3	12.3	6.1	5.1	172	不明	19Ｃ後半以降
	手描きの染付？									
617	磁器	碗	南区西北壁	3	11.2	5.8	3.8	64	不明	20Ｃ以降
	ゴム印判？									
618	磁器	碗	北区北粗掘	1	11.1	5.8	4.0	68	不明	20Ｃ以降
	ゴム印判？									

番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
619	磁器	碗	10Ｂ北壁	3	10.9	5.6	4.2	78	不明	20Ｃ以降
	ゴム印判？									
620	磁器	碗	北区北粗掘	1	11.7	5.9	4.3	116	不明	20Ｃ以降
	染付緑色									
621	磁器	碗	10Ｆ切株中	4	11.1	5.6	4.0	127	不明	20Ｃ以降
	染付紺、桃色など									
622	磁器	碗	９Ｈ北壁	4	11.1	6.0	4.1	66	美濃	1941 ～ 1945
	ゴム印判　統制陶器　「岐24■」									
623	磁器	碗	北区北粗掘	1	10.0	4.7	3.4	117	不明	20Ｃ前半
	子供茶碗　騎兵、日章旗の絵柄									
624	磁器	碗	北区北粗掘	1	10.0	4.5	3.6	49	不明	20Ｃ前半
	子供茶碗　走る子供、日章旗の絵柄　絵付けほとんど剥落し見え難い									
625	磁器	碗	南区東北壁	4	10.3	(3.6)	—	19	不明	20Ｃ前半
	子供茶碗　騎兵の絵柄　絵付けほとんど剥落し見え難い									
626	磁器	碗	10Ｆ切株中	4	9.4	(3.8)	—	181	不明	20Ｃ前半
	子供茶碗　騎兵、日章旗の絵柄　絵付けほとんど剥落し見え難い									
627	磁器	皿	ＳＫ132埋土	1	9.4	1.9	5.7	14	不明	19Ｃ後半
	壽文皿　型おこし									
628 a	磁器	皿	ＳＫ132埋土	1	11.8	2.3	7.2	95	不明	19Ｃ後半
	壽文皿　型おこし									
628 b	磁器	皿	ＳＫ132埋土	1	11.8	2.3	7.2	79	不明	19Ｃ後半
	628 a と同じ形態のもの　壽文皿　型おこし									
628 c	磁器	皿	ＳＫ132埋土	1	11.8	2.3	7.2	43	不明	19Ｃ後半
	628 a と同じ形態のもの　壽文皿　型おこし									
629	磁器	皿	９Ｉ北壁	4	23.4	3.5	10.5	392	不明	19Ｃ後半
	型紙摺皿　星形の文様配置									
630	磁器	皿	北区北粗掘	1	11.3	2.5	6.7	91	不明	19Ｃ後半以降
	銅版転写刷　竹、栗の絵柄									
631	磁器	皿	10Ｆ切株中	4	11.5	7.1	2.5	72	不明	19Ｃ後半以降
	銅版転写刷　桜花の意匠									
632	磁器	燗徳利	ＳＫ132埋土	1	—	(17.5)	7.0	199	平清水	19Ｃ後半以降
	現山形市平清水窯産と推測される　山水楼閣文									
633	磁器	小坏	ＳＫ132埋土	1	6.6	4.8	3.0	61	不明	19Ｃ後半以降
	染付手描									
634	磁器	湯呑	南区西粗掘	3	8.1	3.1	5.0	58	不明	20Ｃ以降
	「水澤町袋町　和洋酒　諸鑵詰　味噌醤油　廣屋商店」									
635	磁器	湯呑？	北区粗掘	1	5.8	7.4	4.0	55	不明	20Ｃ以降
	「安全保証　國華肥料　九重肥料　豪州肥料　○正安藤商店」									
636	陶器	急須蓋	ＳＫ132埋土	1	6.3	(1.6)	—	21	不明	19Ｃ後半以降
	炻器とすべきか　日章旗と旭日旗　「日本帝国」　つまみ部欠損									
637	磁器	化粧瓶	北区北粗掘	1	0.8	11.6	5.3	82	不明	20Ｃ紀以降
	戦時中の「代用陶器」か　販売用化粧水の瓶　底部7.0×2.6楕円形									



第138図　近代の磁器（1）



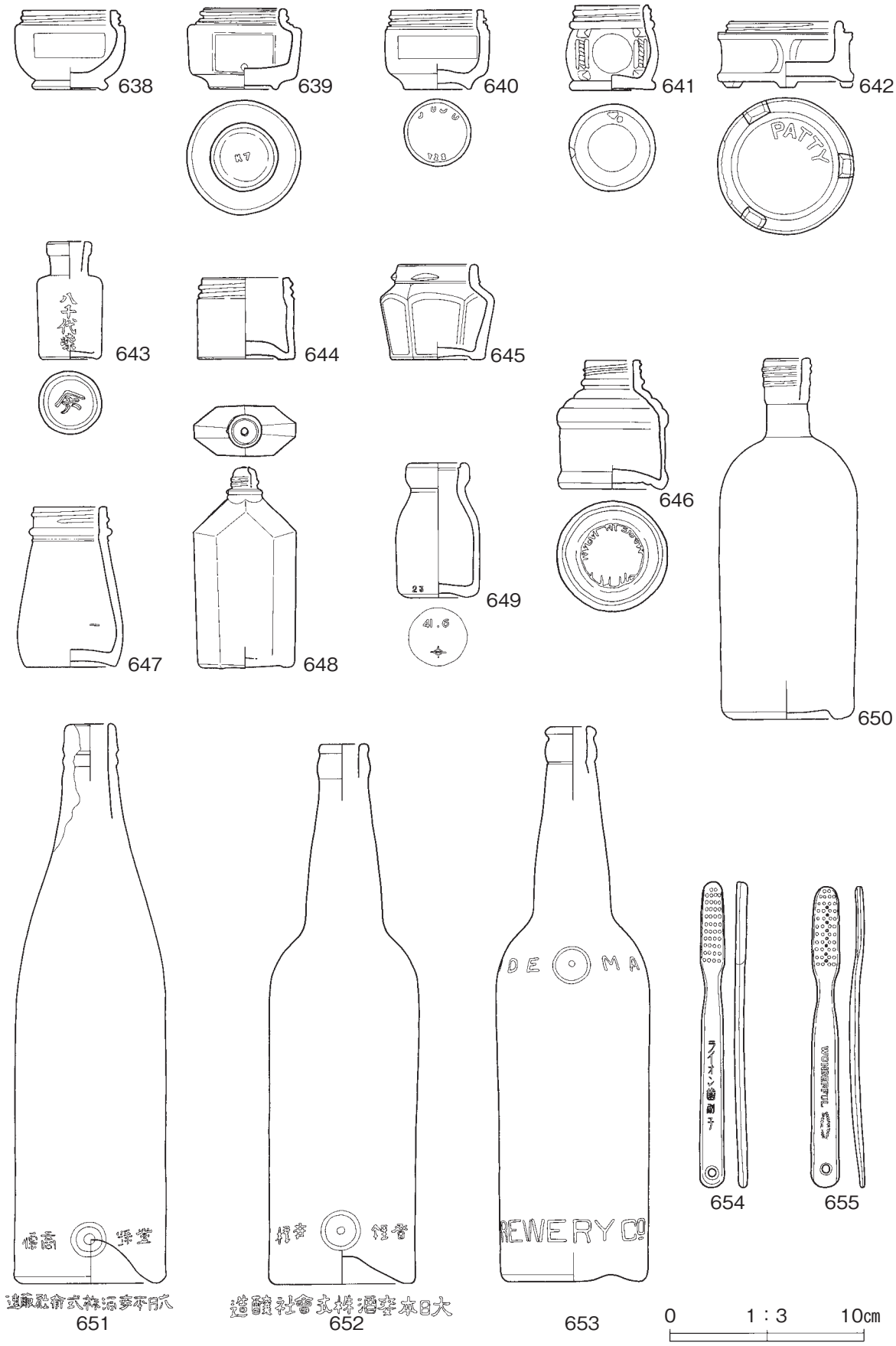
第139図　近代の磁器（2）

6　ガラス・樹脂製品

近代以降のガラス・樹脂製品の中で破損が少なく、特徴的なものを18点図示した。重量合計3,334gである。

第７表　ガラス・樹脂製品観察表

番号	種類	器種	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	産地	製造年代
					口径	器高	底径			
638	ガラス	クリーム瓶	南区東粗掘	4	5.9	4.1	3.9	93	白色	20Ｃ以降
	商品名貼り付け欄あり　ねじ蓋									
639	ガラス	クリーム瓶	排土中	?	4.3	4.2	3.6	96	白色	20Ｃ以降
	商品名貼り付け欄あり　ねじ蓋　排土中からの採取で出土位置不明									
640	ガラス	クリーム瓶	中区中検出	1	4.8	4.1	3.5	95	白色	20Ｃ以降
	商品名貼り付け欄あり　ねじ蓋　底面に「ＪＵＪＵ」のエンボス									
641	ガラス	クリーム瓶	ＳＫ33埋土	3	3.9	4.4	4.3	65	白色	20Ｃ以降
	ねじ蓋									
642	ガラス	クリーム瓶	中区東検出	2	5.8	3.5	7.0	145	半透明	20Ｃ以降
	ねじ蓋　底面に「ＰＡＴＴＹ」のエンボス　底部7.0×2.6楕円形									
643	ガラス	染料瓶	16Ｆ攪乱	1	2.3	6.1	3.2	37	透明	20Ｃ以降
	「八千代染」のエンボス									
644	ガラス	瓶	10Ｅ北壁	3	4.5	4.2	5.5	74	緑色	20Ｃ以降
	ねじ蓋　のり瓶か									
645	ガラス	インク瓶	ＳＫ５埋土	3	4.2	5.0	4.9	89	透明	20Ｃ以降
	ねじ蓋　インク瓶と思われる									
646	ガラス	インク瓶	中区中検出」	1	2.9	6.7	5.6	107	透明	20Ｃ以降
	ねじ蓋　底面に「ＭＡＤＥ　ＩＮ　ＪＡＰＡＮ」打ち出し									
647	ガラス	瓶	中区中粗掘	1	3.8	8.3	4.8	129	緑色	20Ｃ以降
	ねじ蓋　佃煮瓶か									
648	ガラス	瓶	北区粗掘	1	1.1	10.4	5.0	77	透明	20Ｃ以降
	化粧水の瓶か　ねじ蓋									
649	ガラス	飲料瓶	南区東粗掘	4	3.3	7.0	3.9	82	透明	1966年
	「ヤクルト」瓶　底面に「41.6」の打ち出し　昭和41年６月の意か									
650	ガラス	瓶	南区東粗	4	2.5	18.7	6.8	248	緑色	20Ｃ以降
	ねじ蓋　消毒液などの瓶か									
651	ガラス	ビール瓶	中区西粗掘	1	2.5	29.0	7.9	704	黒色	1906頃年
	コルク栓　底面キック（上げ底）「大日本麦酒株式会社醸造」									
652	ガラス	ビール瓶	南区西粗掘	3	2.6	27.9	7.6	639	茶色	1906～1949
	王冠栓　底面キック　「大日本麦酒株式会社醸造」のエンボス　　下限1930年頃か									
653	ガラス	ビール瓶	ＳＫ29埋土	3	2.7	28.7	7.6	689	茶色	1906～1949
	王冠栓　「DAINIPPON BREWEY CO.LTD」のエンボス									
654	樹脂製	歯ブラシ	北区北粗掘	1	―	―	―	8	青色	20Ｃ前半
	「ライオン歯刷子」の文字　青色の合成樹脂　素材不詳　長さ15.9cm、幅1.3cm、厚さ0.6cm									
655	樹脂製	歯ブラシ	中区中検出	1	―	―	―	8	黄色	20Ｃ前半
	「WONDEFULL」「GOOD FOR TOOTH SPECIAL MADE」の文字　黄色の合成樹脂　セルロイド製か　長さ15.6cm、幅1.5cm、厚さ0.5cm									



第140図　ガラス・合成樹脂製品

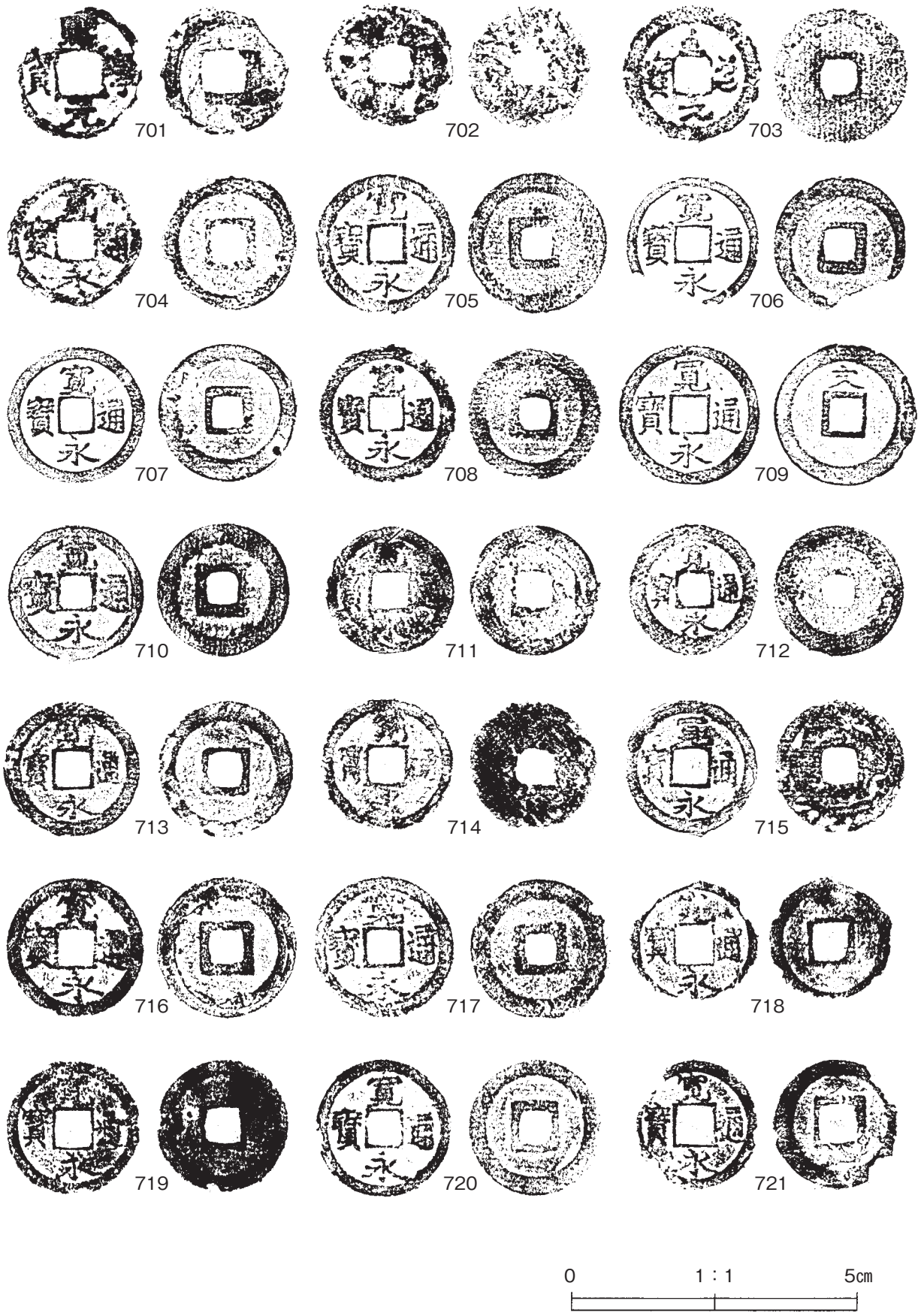
7　金　属　製　品

中世～近代の銭貨25点（合計重量67.4ｇ）を図示した。これは今回出土の中世～近代の銭貨の全点である。また近世に属する可能性が高い銅製の煙管２点（合計重量26.1ｇ）を図示した。また製品ではないが、近世に属する可能性が高い鍛冶滓１点（重量811ｇ）をここで図示する。

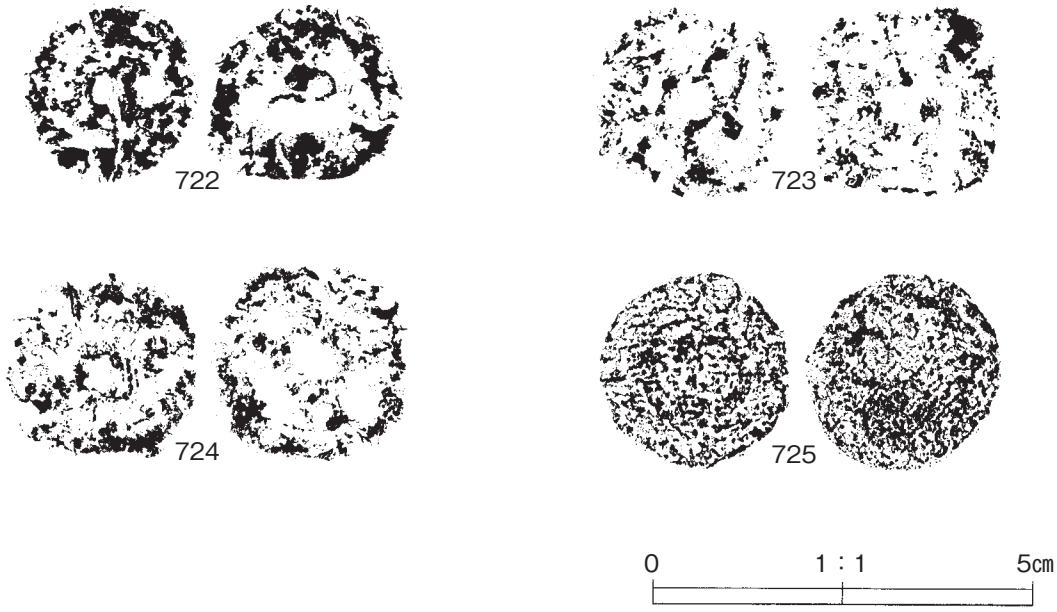
第８表　金属製品観察表

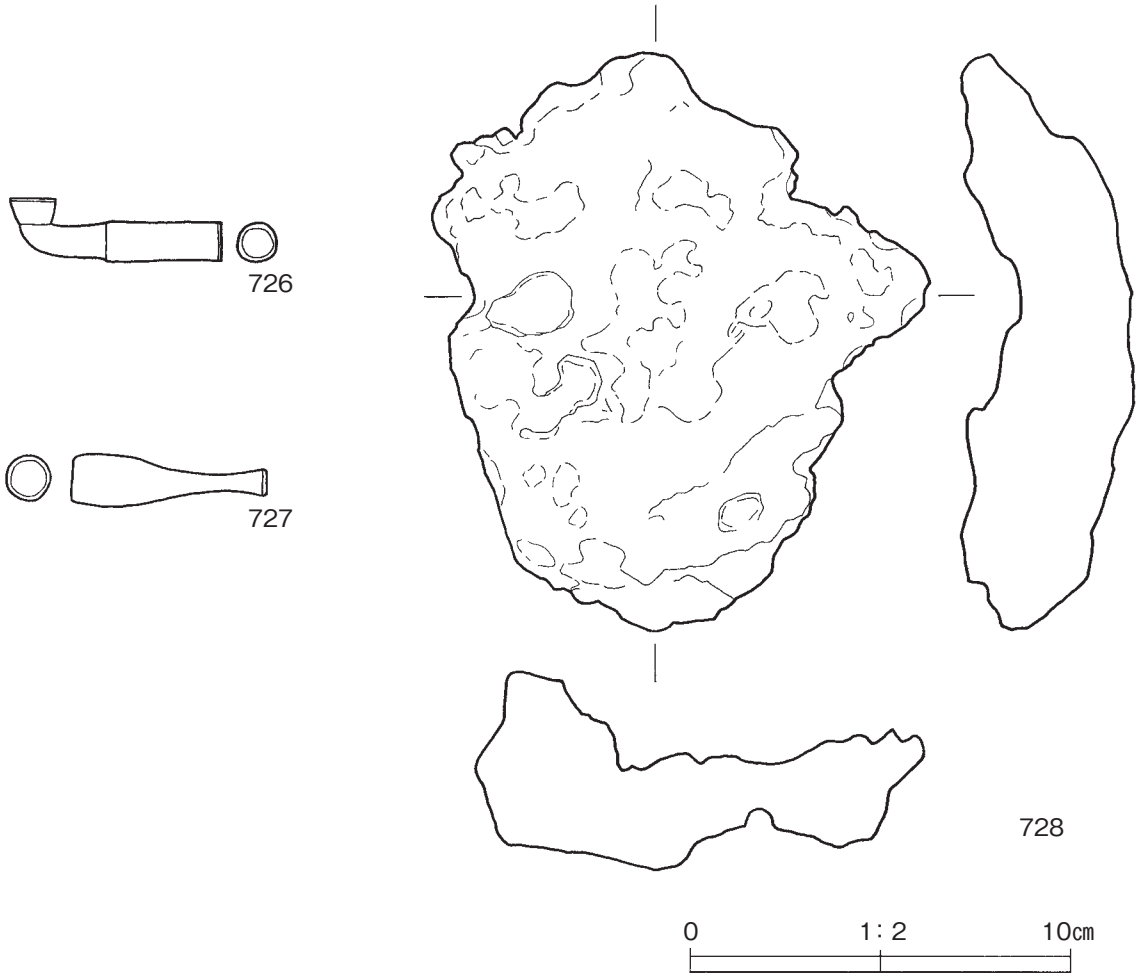
番号	種別	種類	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（ｇ）	素材	製造年代（初鋳年代）
					長さ	直径				
701	銭貨	開元通寶	Ｐ1130埋土	1	28.4	2.4	―	1.6	銅	621
	Ｐ1130は13Ｄに位置する　模鋳銭									
702	銭貨	不明	14Ｂ攪乱	1	―	2.3	―	1.7	銅	不明
	銭種不明　模鋳銭									
703	銭貨	至道元寶	14Ｂ攪乱	1	―	2.5	―	2.2	銅	995
	模鋳銭									
704	銭貨	寛永通寶	ＳＤ２（10Ｃ）	3	―	2.4	―	1.8	銅	1636
	古寛永　704～709の６枚は癒着　ＳＤ２埋土出土　以下ＳＤ２とグリッドの組み合わせは「埋土」省略									
705	銭貨	寛永通寶	ＳＤ２（10Ｃ）	3	―	2.6	―	3.2	銅	1636
	古寛永　704～709の６枚は癒着して出土									
706	銭貨	寛永通寶	ＳＤ２（10Ｃ）	3	―	2.5	―	2.5	銅	1636
	古寛永　一部欠損　704～709の６枚は癒着して出土									
707	銭貨	寛永通寶	ＳＤ２（10Ｃ）	3	―	2.5	―	2.4	銅	1636
	古寛永　704～709の６枚は癒着して出土									
708	銭貨	寛永通寶	ＳＤ２（10Ｃ）	3	28.4	2.5	―	2.6	銅	1636
	古寛永　704～709の６枚は癒着して出土									
709	銭貨	寛永通寶	ＳＤ２（10Ｃ）	3	24.8	2.6	―	2.8	銅	1668
	寛永通寶（背文）　704～709の６枚は癒着して出土									
710	銭貨	寛永通寶	ＳＫ122埋土	1	20.0	2.5	―	3.1	銅	1636
	古寛永　710～715の６枚は癒着して出土									
711	銭貨	寛永通寶	ＳＫ122埋土	1	28.6	2.4	―	2.6	銅	18Ｃ以降
	新寛永　710～715の６枚は癒着して出土									
712	銭貨	寛永通寶	ＳＫ122埋土	1	34.2	2.4	―	2.3	銅	18Ｃ以降
	新寛永　710～715の６枚は癒着して出土									
713	銭貨	寛永通寶	ＳＫ122埋土	1	―	2.5	―	2.8	銅	18Ｃ以降
	新寛永　710～715の６枚は癒着して出土									
714	銭貨	寛永通寶	ＳＫ122埋土	1	―	2.4	―	2.5	銅	18Ｃ以降
	新寛永　710～715の６枚は癒着して出土									
715	銭貨	寛永通寶	ＳＫ122埋土	1	―	2.4	―	2.2	銅	18Ｃ以降
	新寛永　710～715の６枚は癒着して出土									
716	銭貨	寛永通寶	中区中検出	1	―	2.5	―	3.0	銅	1636
	古寛永　716と717は癒着して出土									
717	銭貨	寛永通寶	中区中検出	1	―	2.5	―	3.5	銅	1636
	古寛永　716と717は癒着して出土									
718	銭貨	寛永通寶	ＳＫ143埋土	1	―	2.4	―	1.5	銅	18Ｃ以降
	新寛永　周囲欠損している　718と719は癒着して出土									

番号	種別	種類	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	素材	製造年代（初鋳年代）
					長さ	直径				
719	銭貨	寛永通寶	ＳＫ143埋土	1	24.8	2.4	—	2.1	銅	18Ｃ以降
	新寛永　718と719は癒着して出土									
720	銭貨	寛永通寶	12Ｅ攪乱	1	20.0	2.5	—	2.3	銅	1636
	古寛永									
721	銭貨	寛永通寶	ＳＫ150埋土	1	28.6	2.4	—	1.1	銅	1636
	古寛永　欠損している　全体に磨滅している									
722	銭貨	寛永通寶	ＳＫ132埋土	1	34.2	2.6	—	4.2	鉄	18Ｃ以降
	寛永通寶　鉄一文銭と思われる　全体に錆膨れ									
723	銭貨	仙台通寶	ＳＫ150埋土	1	—	2.6	—	4.5	鉄	1784
	仙台通寶　鉄銭　全体に錆膨れ									
724	銭貨	仙台通寶	ＳＫ150埋土	1	—	2.6	—	4.7	鉄	1784
	仙台通寶　鉄銭　全体に錆膨れ									
725	銭貨	一銭銅貨	ＳＫ38埋土	4	—	2.9	—	4.2	銅	明治時代
	竜一銭銅貨　著しく磨滅している									
726	煙管	雁首	９Ｈ北壁	4	5.9	—	—	14.0	銅	18Ｃ以降
	火皿口径1.1cm　らう接合部径1.0cm									
727	煙管	吸口	13Ｃ検出	1	5.2	—	—	12.1	銅	18Ｃ以降
	吸口部径0.6cm　らう接合部1.1cm									
728	鉄滓	鍛冶滓	ＳＫ122埋土	1	15.1	—	—	811	鉄滓	近世？
	碗型鍛冶滓　褐色を呈する									


701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
0
1：1
5cm

第141図　金属製品（1）





第142図　金属製品（2）

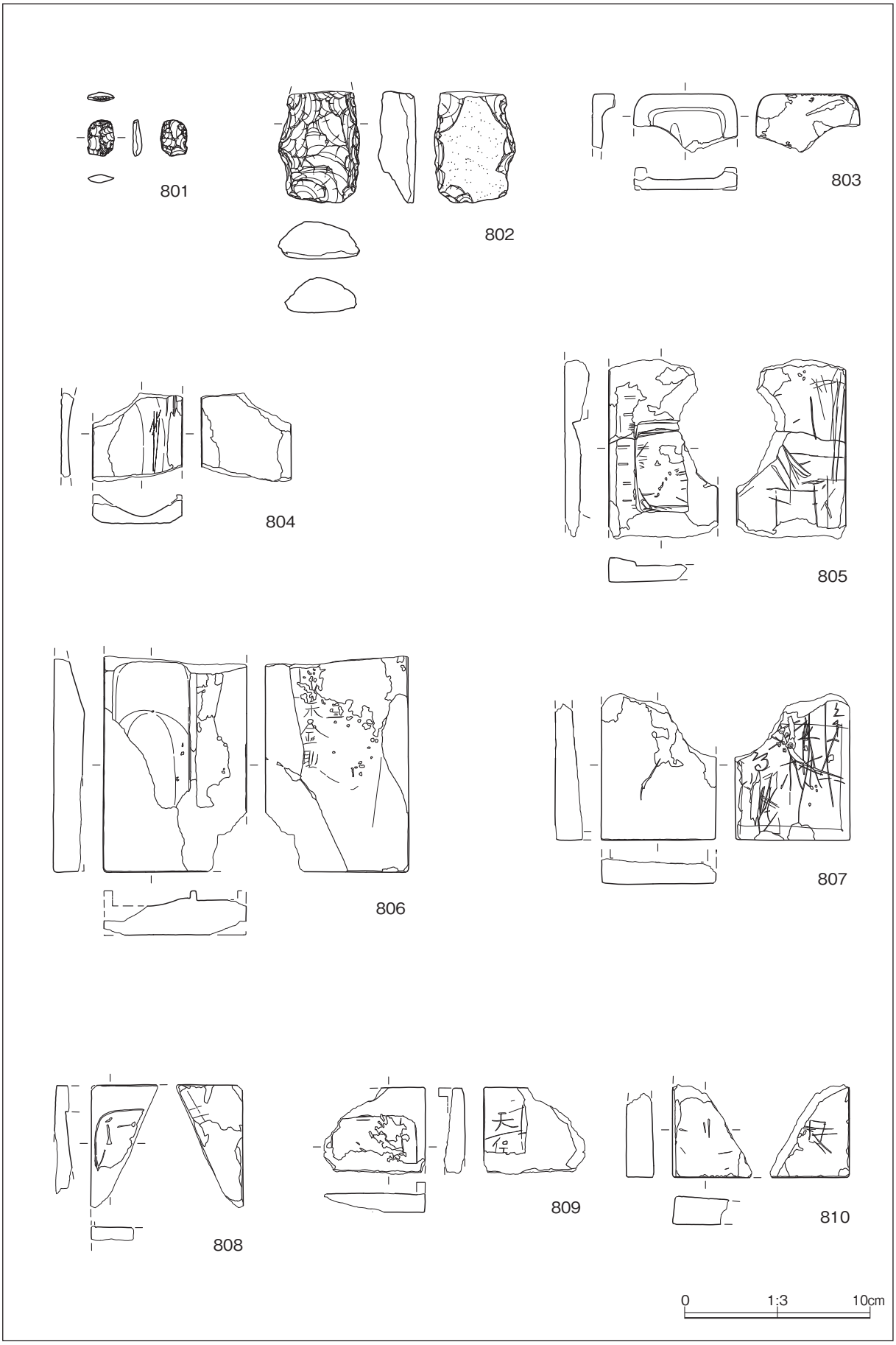
8　石　製　品

石製品を示す。時期を特定できない種別のものが多く、現代のものを含む可能性もあるが、出土した全品40点を図示した。重量合計31,035.5ｇである。観察表中の石質の項の（）は石質の生成年代を表す。

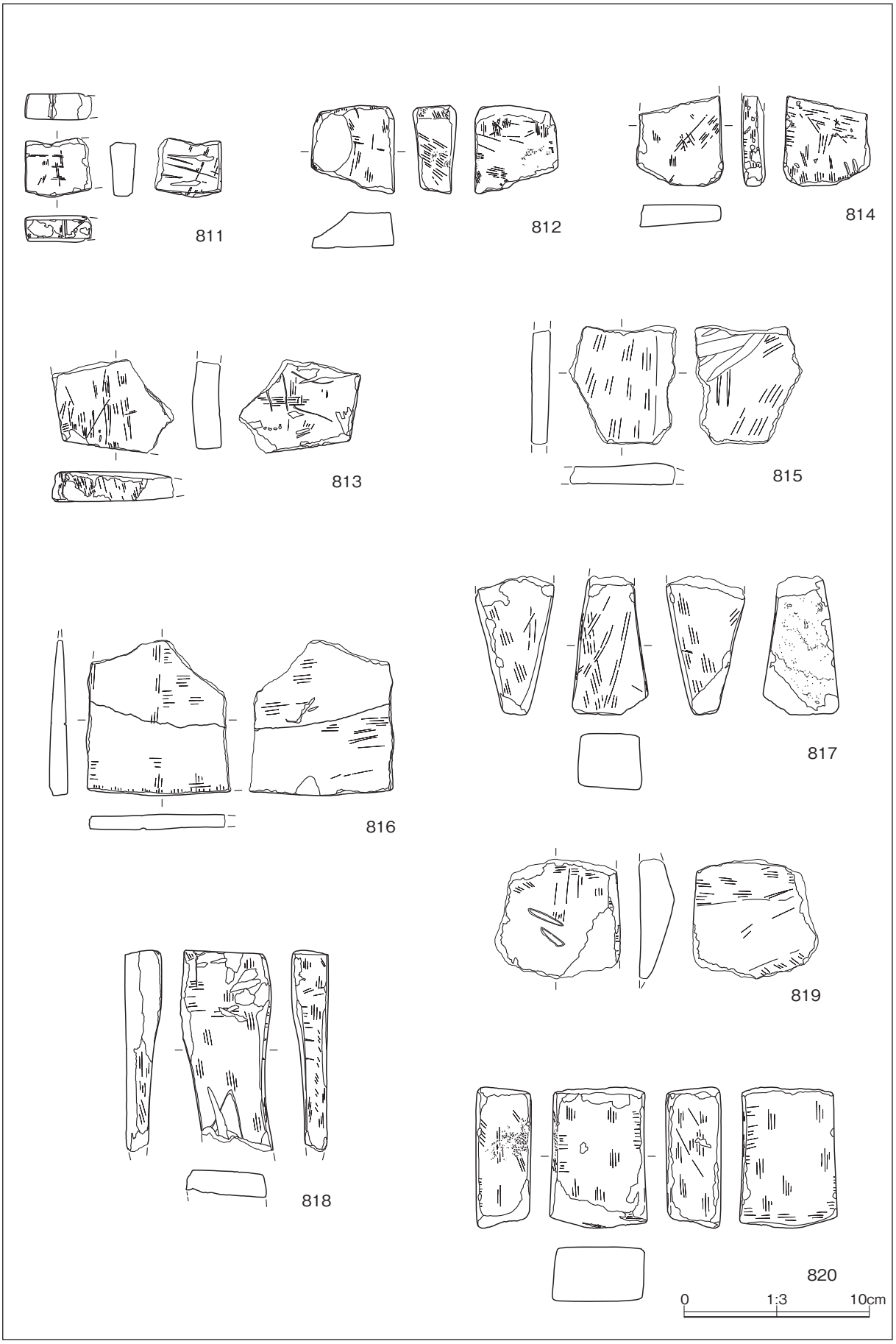
第９表　石製品観察表

番号	種別	種類	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	石質
					長さ	幅	厚さ		
801	石製品	火打石？	ＳＫ156埋土	1	1.9	1.4	5.0	1.0	玉髄　奥羽山脈（新生代新第三紀）
	火打石か否か確定はできない。								
802	石器	打製石斧	Ｐ48埋土（ＳＢ２）	1	(5.9)	4.3	1.9	67.4	ホルンフェルス　北上山地（古生代）
	縄文時代の石器　石質ホルンフェルスの変性は中生代白亜紀（以下同じ）								
803	石製品	硯	ＳＫ182埋土	2	(3.0)	5.5	(1.0)	15.2	粘板岩　北上山地（古生代）
	近世のものか								
804	石製品	硯	ＳＤ２（９Ｉ）	4	(4.6)	4.8	(9.0)	24.1	粘板岩　北上山地（古生代）
	近世のものか　ＳＤ２埋土出土								
805	石製品	硯	南区西粗掘	3	(9.5)	5.8	(1.3)	89.1	粘板岩　北上山地（古生代）
	近世のものか　未成品の可能性あり								
806	石製品	硯	ＳＫ132埋土	1	(11.5)	7.7	2.3	226.4	粘板岩　北上山地（古生代）
	墨置きが付く硯　近世のものか　底面に「・・木金助」の刻みあり　人名か								
807	石製品	硯	ＳＫ150埋土	1	(7.8)	(6.1)	(1.2)	128.8	赤紫色凝灰岩　一関市東山町付近（古生代デボン紀／以下同じ）
	いわゆる「紫雲石硯」　下面に文字らしき刻みあり「・・年」「・・野村」か　近世のものか								
808	石製品	硯	13Ｄ攪乱	1	(6.4)	(3.6)	(0.7)	25.1	赤紫色凝灰岩　一関市東山町付近
	いわゆる「紫雲石硯」　近世のものか								
809	石製品	硯	ＳＫ150埋土	1	(4.6)	(5.4)	(1.1)	37.7	赤紫色凝灰岩　一関市東山町付近
	いわゆる「紫雲石硯」　底面に「天保・・」の文字あり　1831～1845年か								
810	石製品	硯	ＳＤ２（９Ｉ）	4	(4.9)	(4.2)	(1.5)	50.5	赤紫色凝灰岩　一関市東山町付近
	いわゆる「紫雲石硯」　上面が剥離していると思われる。　近世のものか								
811	石製品	砥石	中区東検出	2	(3.0)	(3.5)	1.2	24.9	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	３面使用　近世～近代か								
812	石製品	砥石	10Ｂ北壁	3	(4.5)	4.4	2.3	57.2	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	１面使用　近世～近代か								
813	石製品	砥石	ＳＫ150埋土	1	(5.2)	(6.1)	1.6	71.1	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	２面使用　近世～近代か								
814	石製品	砥石	９Ｇ北壁	3	(4.8)	4.5	1.2	36.9	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	２面使用　近世～近代か								
815	石製品	砥石	ＳＫ108埋土	1	(6.1)	(5.7)	1.2	56.0	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	２面使用　近世～近代か								
816	石製品	砥石	Ｐ1385埋土	2	(8.4)	(7.5)	1.0	87.6	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	ＳＢ110（12Ｊ）面使用　近世～近代か								
817	石製品	砥石	ＳＫ150埋土	1	(7.5)	4.0	2.9	131.5	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	３面使用　近世～近代か								
818	石製品	砥石	ＳＫ７埋土	3	(10.9)	4.9	(2.0)	142.0	粘板岩　北上山地（古生代）
	３面使用　１面剥離している　近世～近代か								

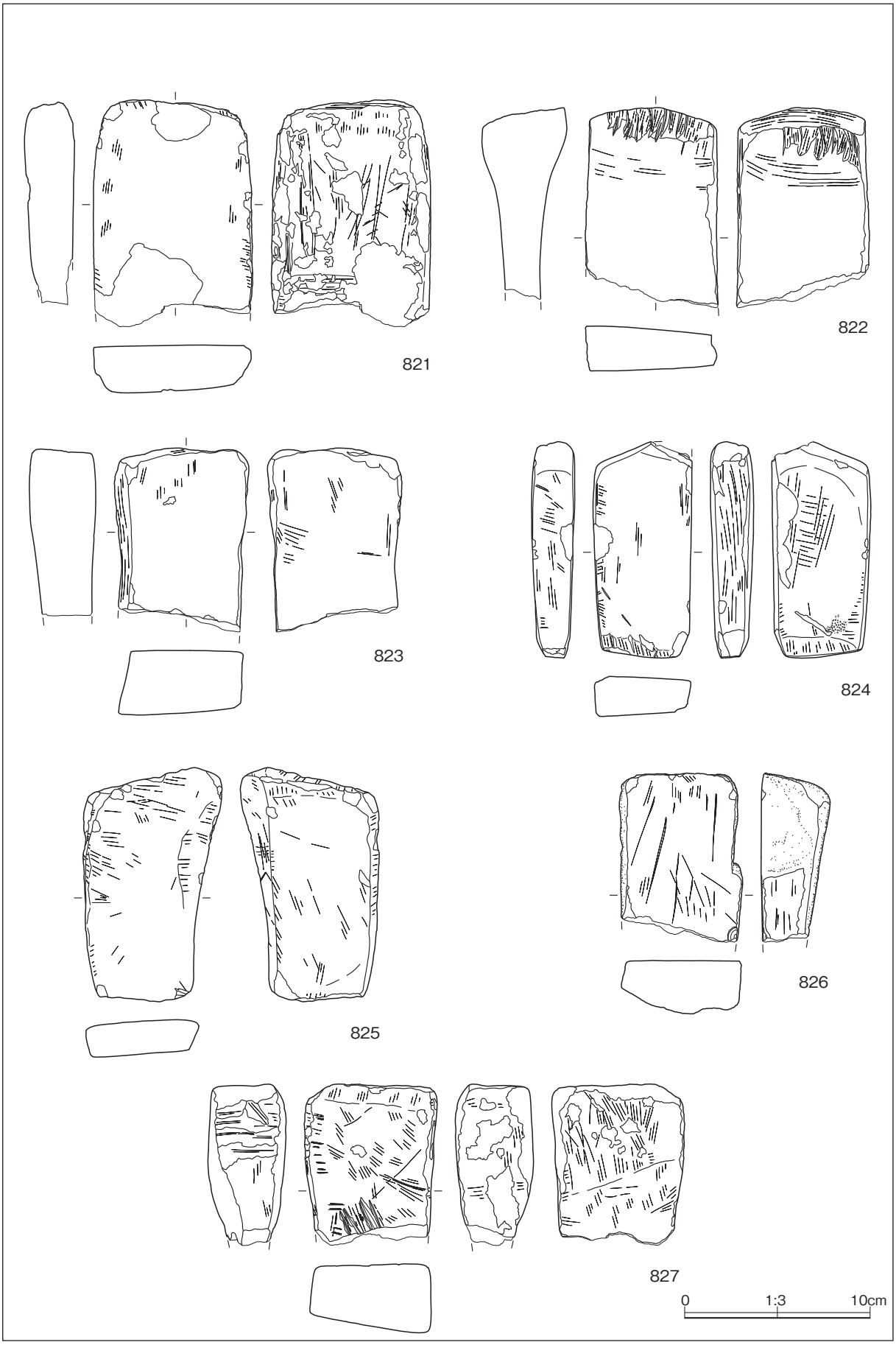
番号	種別	種類	出土位置	屋敷	法量（cm）			重量（g）	石質
					長さ	幅	厚さ		
819	石製品	砥石	南区西北壁	3	(6.4)	(6.1)	1.8	96.7	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	２面使用　近世～近代か								
820	石製品	砥石	ＳＫ145埋土	1	(7.4)	5.0	2.9	216.1	砂岩　奥羽山脈（新生代新第三紀）
	２面使用　近世～近代か								
821	石製品	砥石	ＳＫ132埋土	1	(12.1)	8.4	2.5	451.0	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	１面使用　近世～近代か								
822	石製品	砥石	中区西検出	2	(10.1)	7.0	4.5	412.0	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	２面使用　近世～近代か								
823	石製品	砥石	ＳＫ122埋土	1	(9.0)	6.4	3.3	395.8	砂岩　奥羽山脈（新生代新第三紀）
	２面使用　近世～近代か								
824	石製品	砥石	ＳＫ29埋土	3	11.4	5.2	2.3	237.8	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	３面使用　近世～近代か								
825	石製品	砥石	南区西北壁	3	(12.3)	7.2	1.7	388.4	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	３面使用　近世～近代か								
826	石製品	砥石	南区西北壁	3	(9.0)	6.4	2.9	329.7	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	１面使用　近世～近代か								
827	石製品	砥石	ＳＤ２（10Ｅ）	3	(8.5)	7.0	4.2	416.9	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	１面使用　近世～近代か								
828	石製品	砥石	南区西粗掘	3	(9.0)	7.7	2.5	256.3	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	２面使用　近世～近代か								
829	石製品	砥石	ＳＫ150埋土	1	(7.2)	7.7	2.7	225.9	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	３面使用　近世～近代か								
830	石製品	砥石	ＳＫ150埋土	1	(7.6)	7.0	1.9	186.5	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	１面使用　近世～近代か								
831	石製品	砥石	ＳＫ143埋土	1	8.4	5.9	3.8	355.4	砂岩　奥羽山脈（新生代新第三紀）
	２面使用　近世～近代か　被熱している								
832	石製品	砥石	ＳＤ２（10Ｃ）	3	16.3	6.2	4.6	1084.9	砂岩　奥羽山脈（新生代新第三紀）
	３面使用　近世～近代か								
833	石製品	砥石	ＳＫ150埋土	1	(12.8)	6.5	5.6	922.5	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	２面使用　近世～近代か								
834	石製品	砥石	ＳＫ31埋土	1	(14.6)	6.5	10.1	1661.7	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	１面使用　近世～近代か								
835	石製品	砥石	ＳＤ２（10Ｃ）	3	(9.9)	7.1	4.8	555.9	流紋岩　奥羽山脈か（新生代新第三紀）
	１面使用　近世～近代か								
836	石製品	香炉	ＳＫ15埋土	1	—	—	—	405.0	デイサイト　奥羽山脈（新生代新第三紀）
	内面炭化物付着　４脚か　口径14.3cm　高さ６・９ｃｍ　近世～近代か								
837	石製品	挽臼	南区西粗掘	3	—	—	—	7553.2	デイサイト　奥羽山脈（新生代新第三紀）
	上臼　直径28.2cmと推測　高さ14.1cm　６分割の卸目　近世～近代か								
838	石製品	挽臼	Ｐ1668礎盤	2	—	—	—	7001.1	デイサイト　奥羽山脈（新生代新第三紀）
	上臼　直径28cm以上　高さ9.8以上cm　ＳＢ114の柱穴からの出土　近世								
839	石製品	挽臼	９Ｄ攪乱	3	—	—	—	3600.2	デイサイト　奥羽山脈（新生代新第三紀）
	上臼　直径29.1cmと推測　高さ7.4cm以上　放射状の卸目　近世か								
840	石製品	挽臼	ＳＫ150埋土	1	—	—	—	3010.0	デイサイト　奥羽山脈（新生代新第三紀）
	下臼　直径28.8cmと推測　高さ11.0cm　放射状の卸目　近世か								



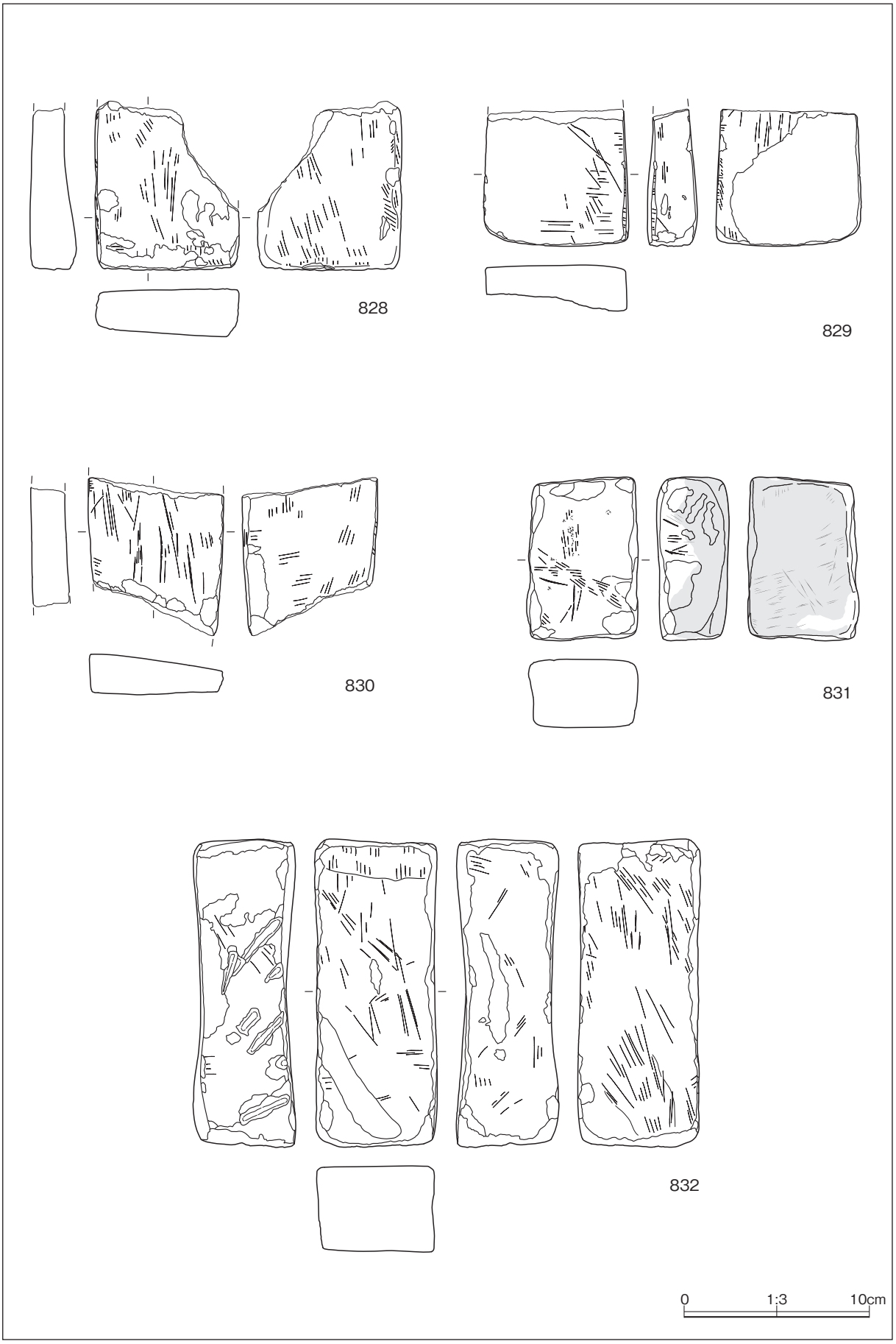
第143図　石製品（1）



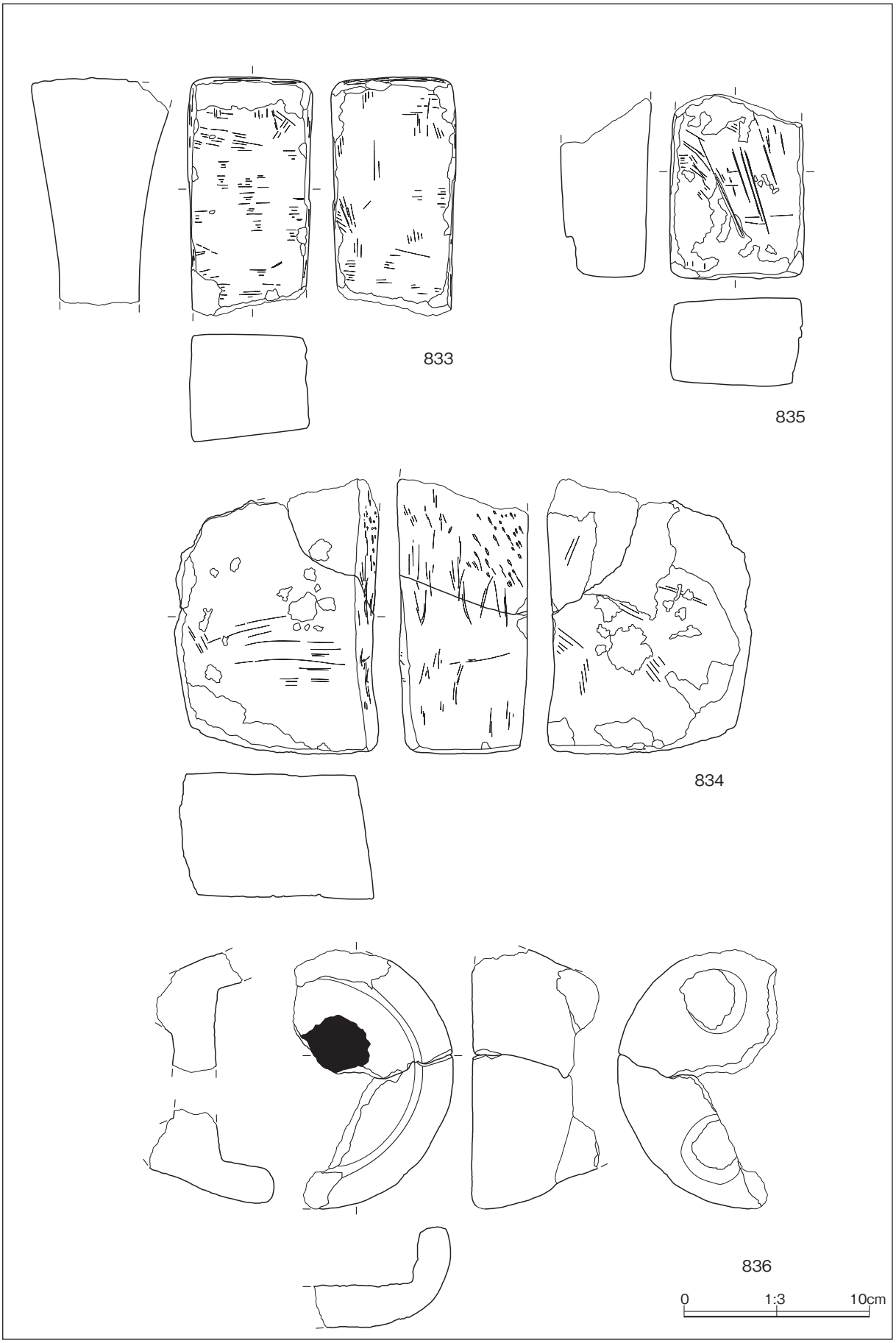
第144図　石製品（2）



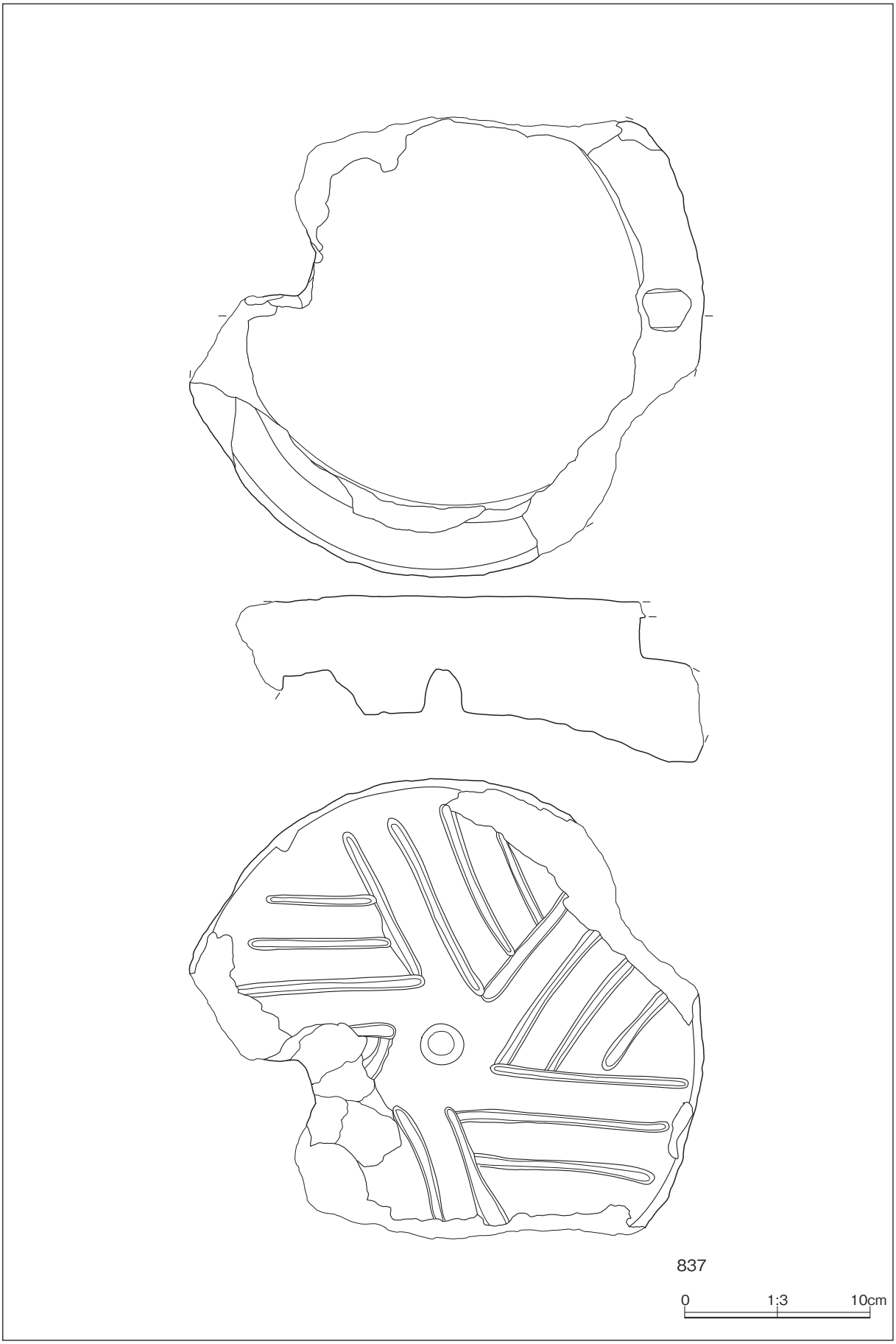
第145図　石製品（3）



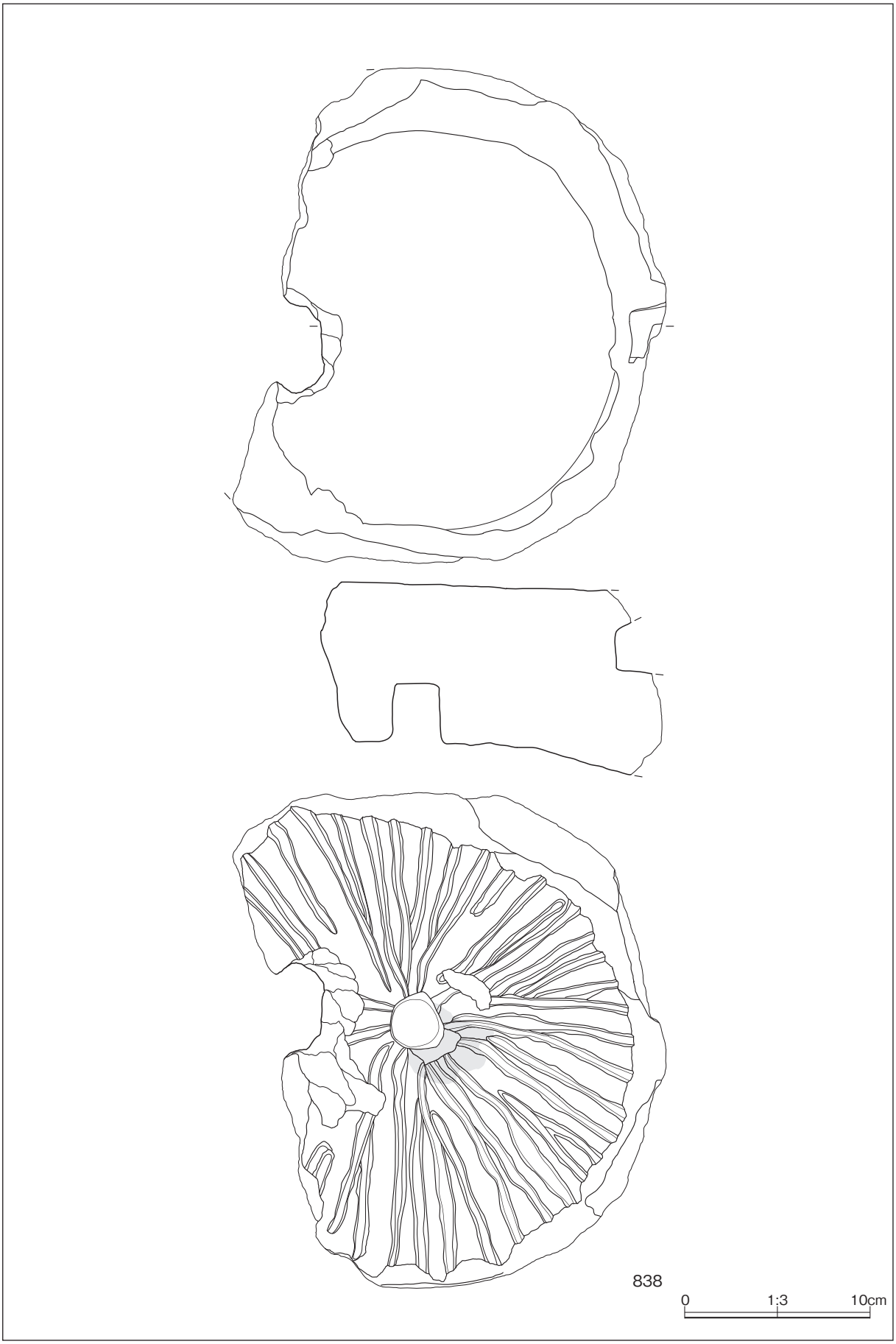
第146図　石製品（4）



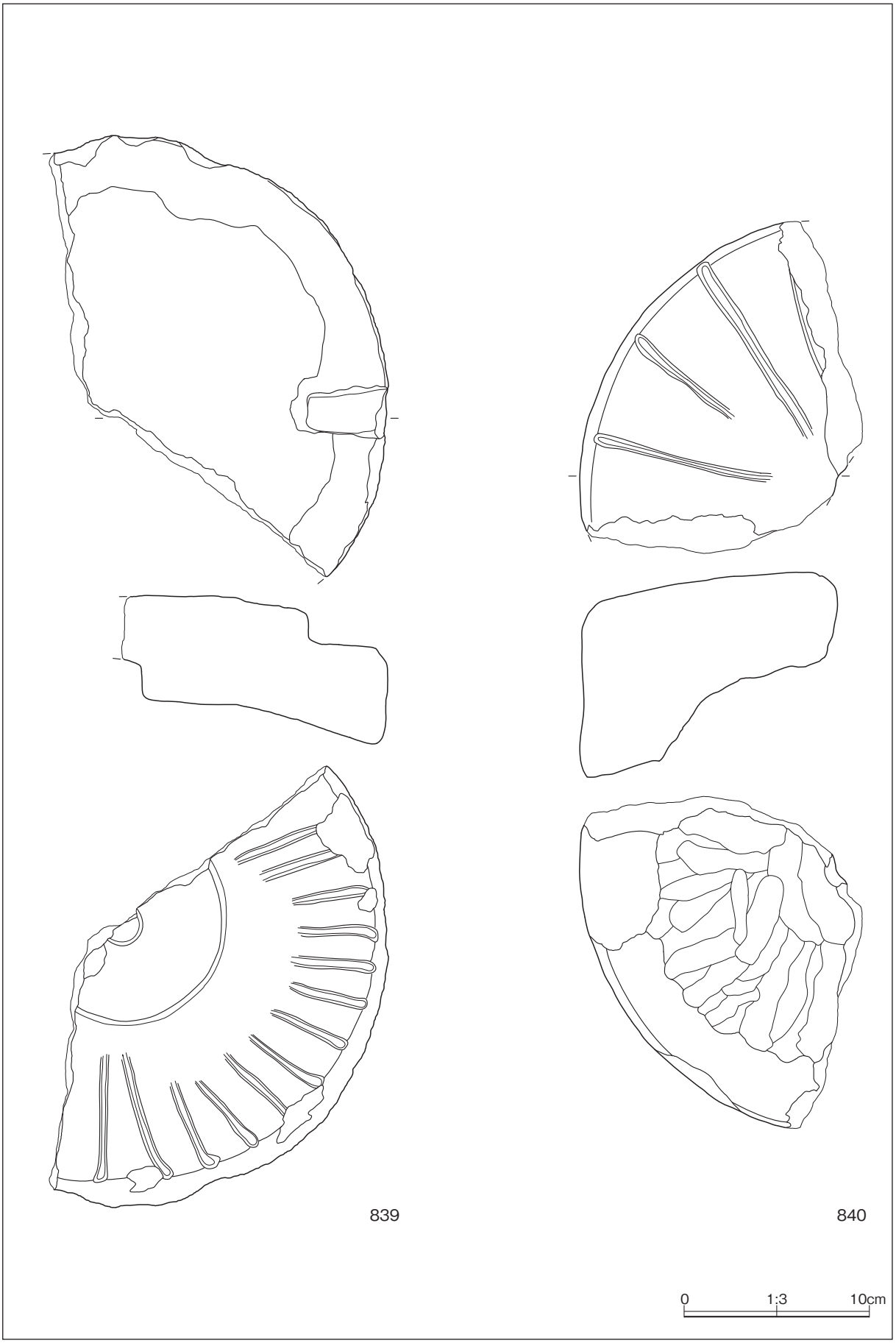
第147図　石製品（5）



第148図　石製品（6）



第149図　石製品（7）



第150図　石製品（8）

Ⅵ　ま　と　め

1　町屋敷遺跡全体の概要

町屋敷遺跡は、水沢競馬場の南西700ｍに位置する、近世（江戸時代）の屋敷跡を中心とした遺跡である。一般国道４号水沢東バイパスの建設工事により、遺跡の一部が改変されるため発掘調査がおこなわれた。遺跡は、胆沢扇状地の東端部を構成する水沢高位段丘上に立地し、標高は約41ｍです。調査前は住宅、及び果樹の畑として利用されていた。

2　町屋敷遺跡周辺の概要

近世には、遺跡の所在する町屋敷地区は、仙台藩の瀬台野村に属していた。安永５年（1776）に書かれた「瀬台野村風土記御用書出」には瀬台野村の家数51軒、その内44軒が「町屋敷」に所在する旨が記されています。現在、国道343号沿いに面して規則的に区割された屋敷群を見ることができ、これが「町屋敷」の痕跡と考えられる。つまり「町屋敷」は道路に沿って規格的に屋敷を設置された「街村」と理解される。この規則的な屋敷の区割りは、国道343号から桝形に続く調査区付近の道路沿いにも連続しており、発掘された屋敷も「町屋敷」を構成するものと判断できる。

瀬台野村には年貢米を集積、検査、出荷する仙台藩の施設「瀬台野御蔵場」が存在していた（今回の調査範囲の東側約100ｍ）。規則的な配置の屋敷群「町屋敷」は年貢米を管理する「御蔵場」の警備に係る人々を集住させる施設とも考えらる。具体的には足軽を集住させた「足軽屋敷」の可能性が高い「瀬台野御蔵場」は北上川の河道変化により、出荷のための川湊としての機能が失われ、享保３年（1718う年）に廃止されるが、「町屋敷」の区割は現在まで踏襲されていたことになる。しかしながら町屋敷の来歴が現在に伝承されていないのは、御蔵場の移設とともに近世の半ばに足軽組が解散したためと推測する。

3　今回調査の内容

検出遺構は、奈良時代の竪穴住居３棟、近世の掘立柱建物52棟、柱列５条、土坑135基、溝５条、及び縄文時代の陥し穴状遺構３基である。出土遺物は奈良時代の土師器小コンテナ１、近世～近代の陶磁器中コンテナ10、石製品（砥石、挽臼など）中コンテナ４、土製品など小コンテナ１である。

調査区は東西に横断する市道（市道町屋敷線３号）により南側調査区、北側調査区に分割されている。この市道は近世以来の道で、「瀬台野御蔵場」にアクセスする道路であった。そしてこの市道に沿う形で、道路側溝と推測される溝も見つかっている（ＳＤ２）。

南側調査区、北側調査区ではそれぞれ、屋敷を区画する溝、掘立柱建物が見つかっており、その配置から、北区には屋敷が２箇所（西側が屋敷①・東側が屋敷②）、南区にも屋敷が２箇所（西側が屋敷③、東側が屋敷④）、合計４箇所の屋敷が存在すると推測される。これは近年までの地割にも反映されている。これらは上述の通り、道路沿いに規格的に配置された「町屋敷」の一部分と判断できる。

それぞれの屋敷の主屋と判断される掘立柱建物はいずれも５×10ｍ程度の規模である。その他、附

属屋（厩、小屋など）と推測される掘立柱建物も見つかっている。掘立柱建物は幾度も建替えがおこなわれ、建物が著しく重複する状況となっている。これは掘立柱建物の耐久年数が30～40年程度という短さに起因するものである。

屋敷④では、主屋と推測される掘立柱建物よりも古い、大規模な区画溝（ＳＤ１）が検出されている。この区画溝は瀬台野御蔵場の敷地の一部を区画するものと推測され、屋敷④は瀬台野御蔵場廃絶後（1718年以後）に成立したと解釈される。

近世の出土遺物は陶磁器が多数出土している。肥前産（佐賀県～長崎県）の陶磁器、大堀相馬産（福島県浪江町）の陶器、瀬戸産（愛知県瀬戸市）などの陶磁器がある。その他、石製の挽臼、硯、砥石、銭、煙管、鍛冶滓などが出土している。

また、今回の調査では近世の他に、８世紀代の竪穴住居３棟、土師器坏、土師器高坏、土師器長胴甕、土製紡錘車が出土している。

また、中世の常滑産陶器、中国産白磁皿、中国産染付皿が出土している。常滑産陶器は12世紀の広口壺と推測される肩部破片も出土している。

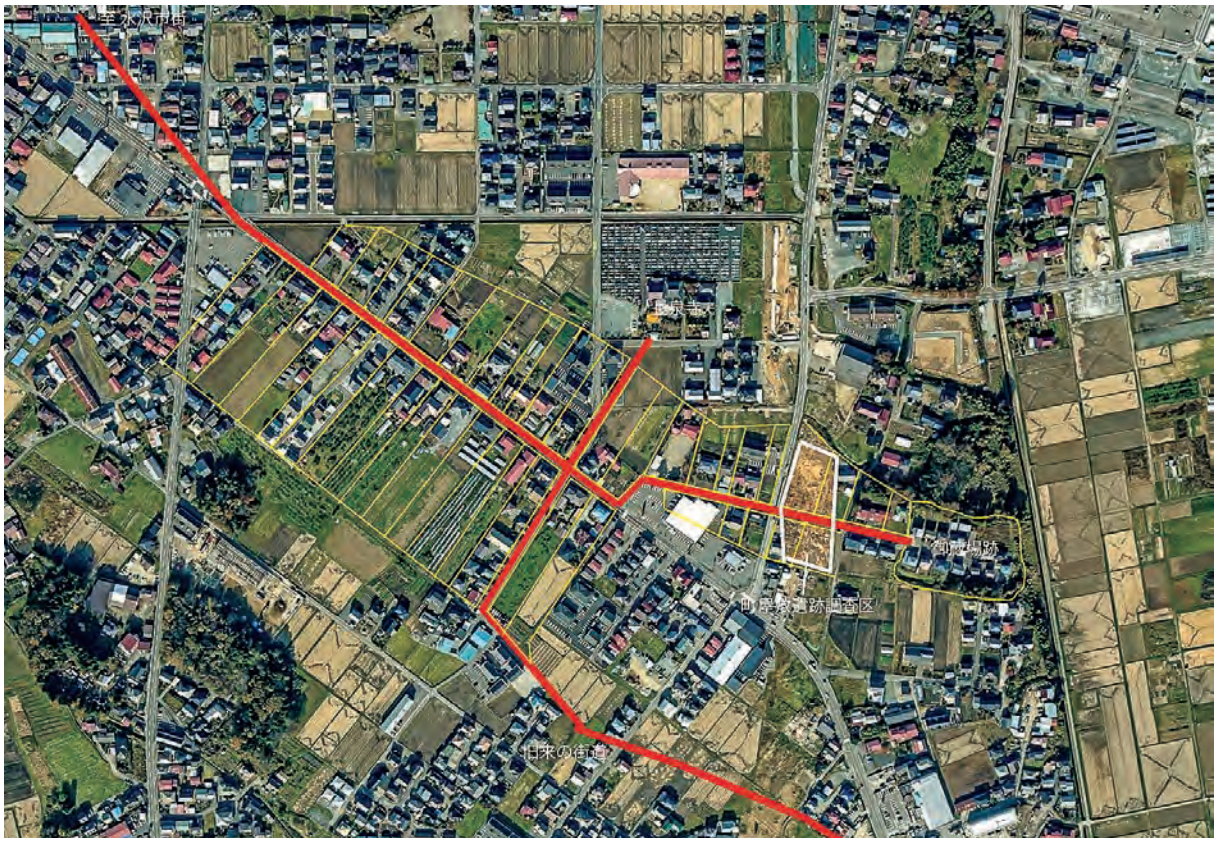
この他、縄文時代の陥穴が３基検出され、縄文時代の打製石斧が１点出土している。12世紀の常滑産陶器壺と推測される小破片も出土している。

４　ま　と　め

町屋敷遺跡の主体をなすものは、近世の屋敷跡である。町屋敷地区には道路に沿って規格的に屋敷を配置した近世の「街村」の痕跡が見出され、これが「町屋敷」の地名の由来となっている。今回の調査範囲も「町屋敷」の一部分であり、近世以来踏襲されている市道町屋敷３号線に面する形で、南北それぞれで２か所ずつ、合計４か所の屋敷が検出されている。それぞれの屋敷では、掘立柱建物で構成される主屋、附属屋の配置が見て取れ、屋敷地どうしを区分する溝跡も検出されている。「町屋敷」の成立は今回出土した陶磁器の年代観から17世紀中頃と推測される。また、南側調査区では、屋敷を構成する掘立柱建物より古い、調査区外東側に連続する大規模な溝が検出されており、調査区外東側に所在したとされる「瀬台野御蔵場」に関連する区画溝と推測される。瀬台野御蔵場は享保３年（1718年）に廃止されており、南側調査区東側の屋敷については、その後に成立したと理解される。

写　真　図　版

調査区　全景（直上）



町屋敷地区地割

写真図版１　町屋敷遺跡遠景・全景

中世～17Ｃの陶磁器

肥前産磁器皿

写真図版２　出土陶磁器（１）

肥前産磁器碗

肥前産陶器

写真図版３　出土陶磁器（２）

瀬戸・美濃産陶器

ガラス瓶類

写真図版４　出土陶磁器（３）・ガラス製品

町屋敷遺跡　調査区遠景（西から）

調査区　全景（南から）

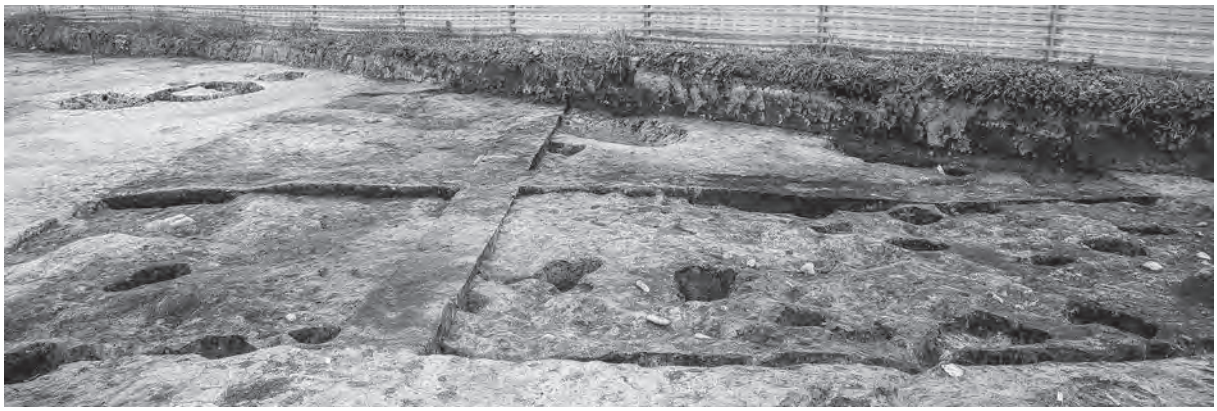
写真図版５　航空写真１

調査区南側　全景（直上）

調査区北側　全景（直上西）

写真図版６　航空写真２

ＳＩ101　完掘



ＳＩ101　Ａ－Ａ’断面

ＳＩ101　Ｂ－Ｂ’断面

写真図版７　ＳＩ101完掘・断面

ＳＩ101　カマド～煙道断面

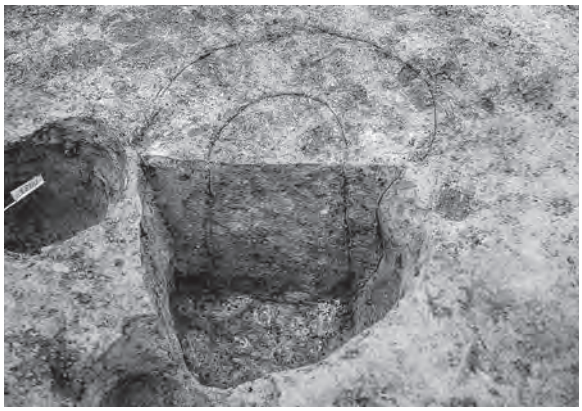
ＳＩ101　カマド断面

ＳＩ101　煙出断面

写真図版８　ＳＩ101カマド断面

ＳＩ101　貼床Ａ－Ａ’断面

ＳＩ101　貼床Ｂ－Ｂ’断面



ＳＩ101　Pit１断面

ＳＩ101　Pit２断面

ＳＩ101　Pit３断面

写真図版９　ＳＩ101貼床・Pit１～３断面

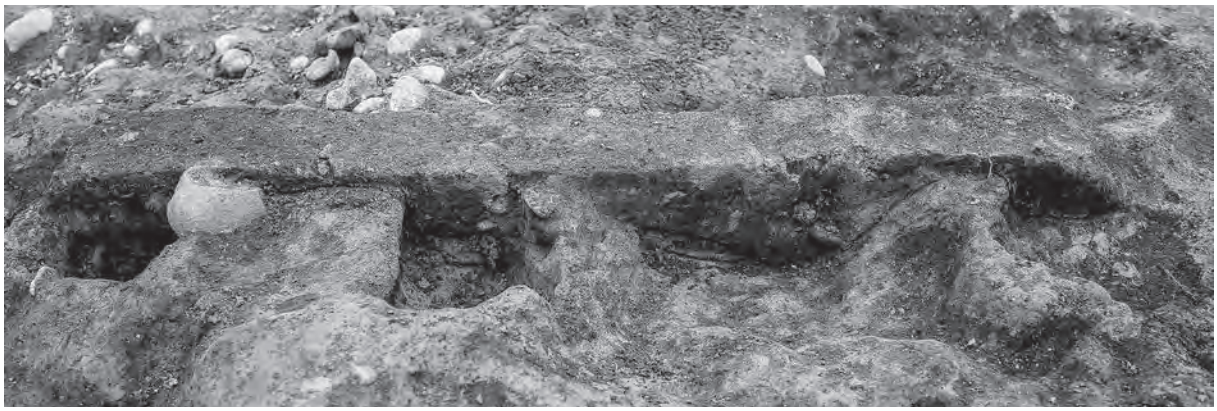
ＳＩ102　完掘

ＳＩ102　Ａ－Ａ’断面

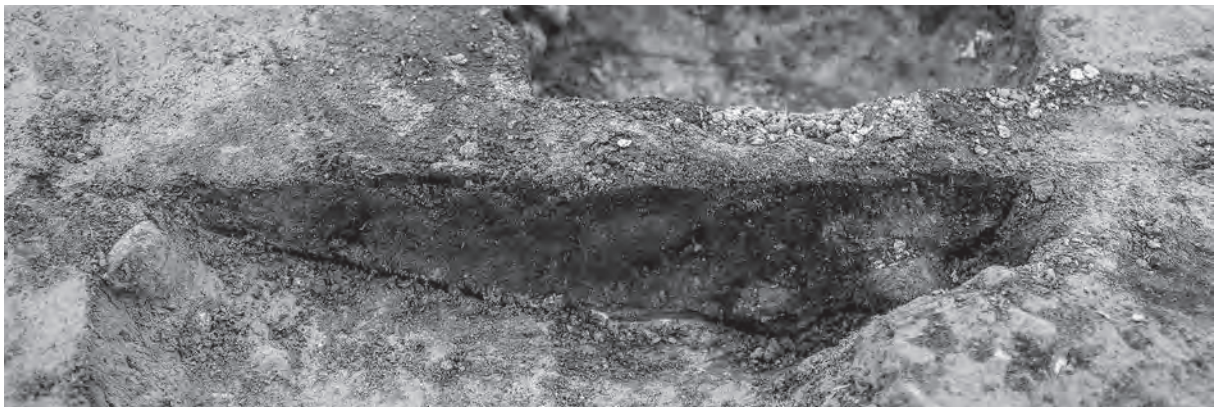
ＳＩ102　Ｂ－Ｂ’断面

写真図版10　ＳＩ102完掘・断面

ＳＩ102　カマド～煙道断面



ＳＩ102　カマド断面



ＳＩ102　煙出断面

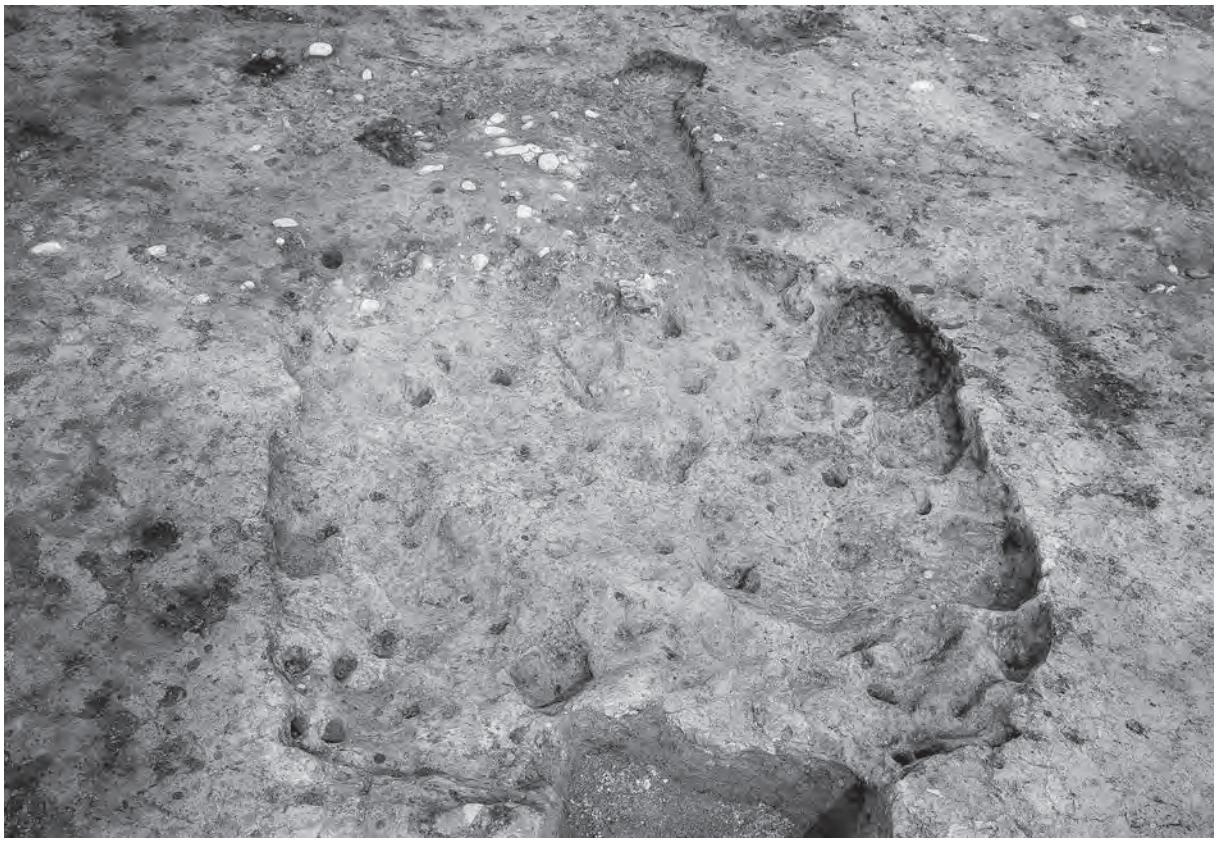
ＳＩ102　Pit１断面

ＳＩ102　Pit２断面

写真図版11　ＳＩ102カマド･Pit１・２断面

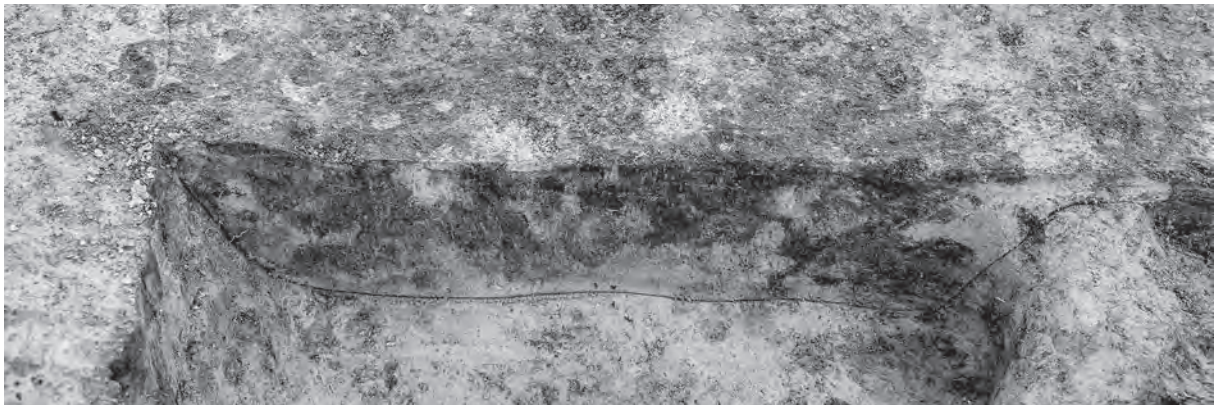
ＳＩ102　貼床Ａ－Ａ’断面

ＳＩ102　貼床Ｂ－Ｂ’断面



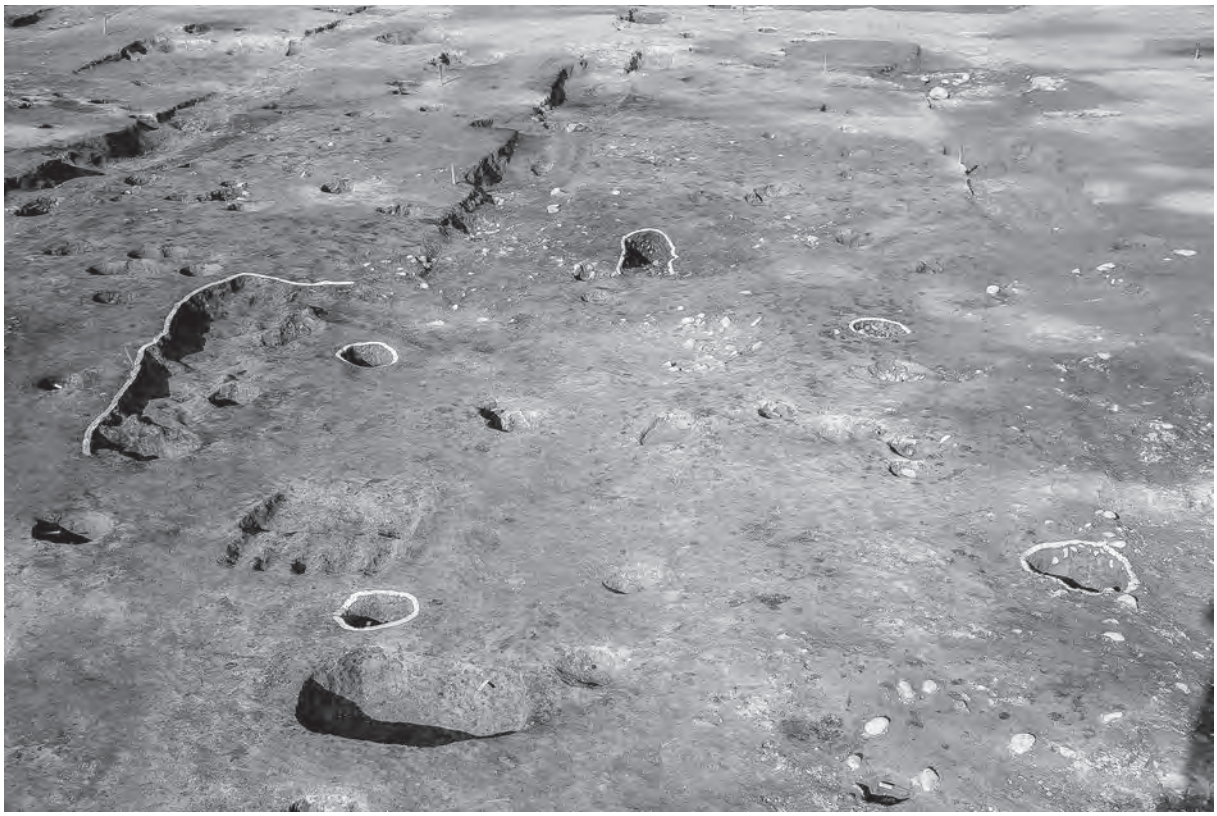
ＳＩ102　貼床除去後完掘

写真図版12　ＳＩ102貼床



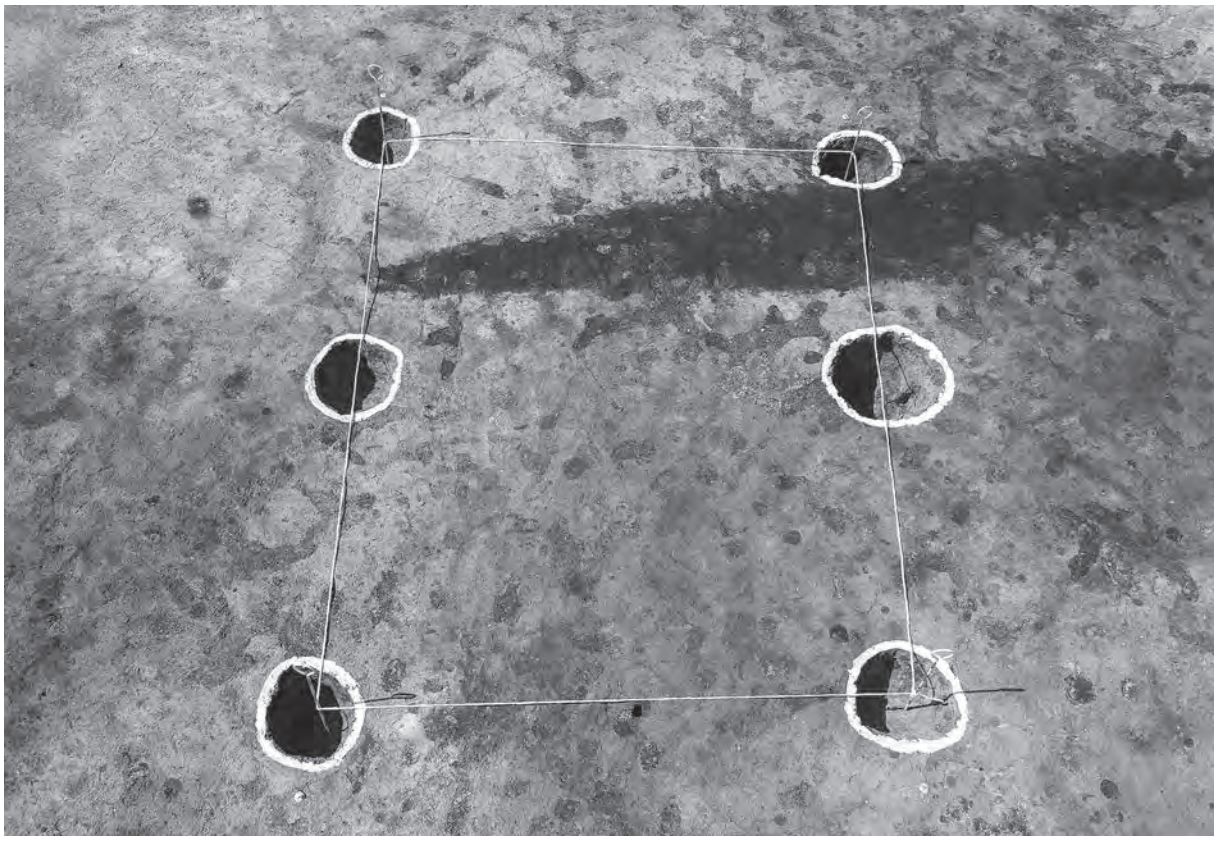
ＳＩ103　断面

ＳＩ103　煙道断面

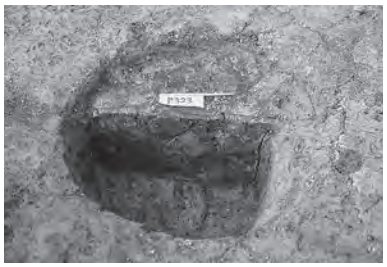


ＳＩ103　完掘

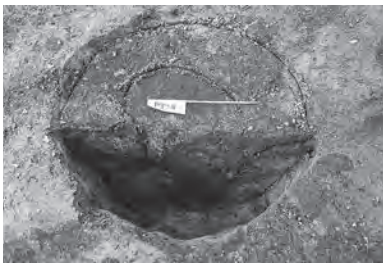
写真図版13　ＳＩ103検出・断面・完掘



ＳＢ１　完掘



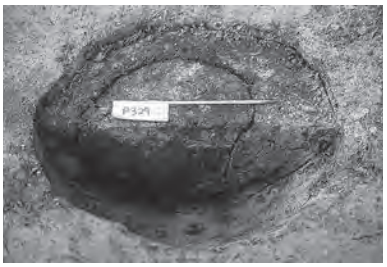
P323（ＳＢ１）



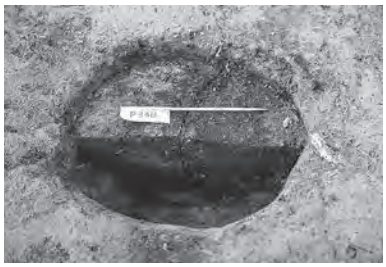
P324（ＳＢ１）

P325（ＳＢ１）

P328（ＳＢ１）

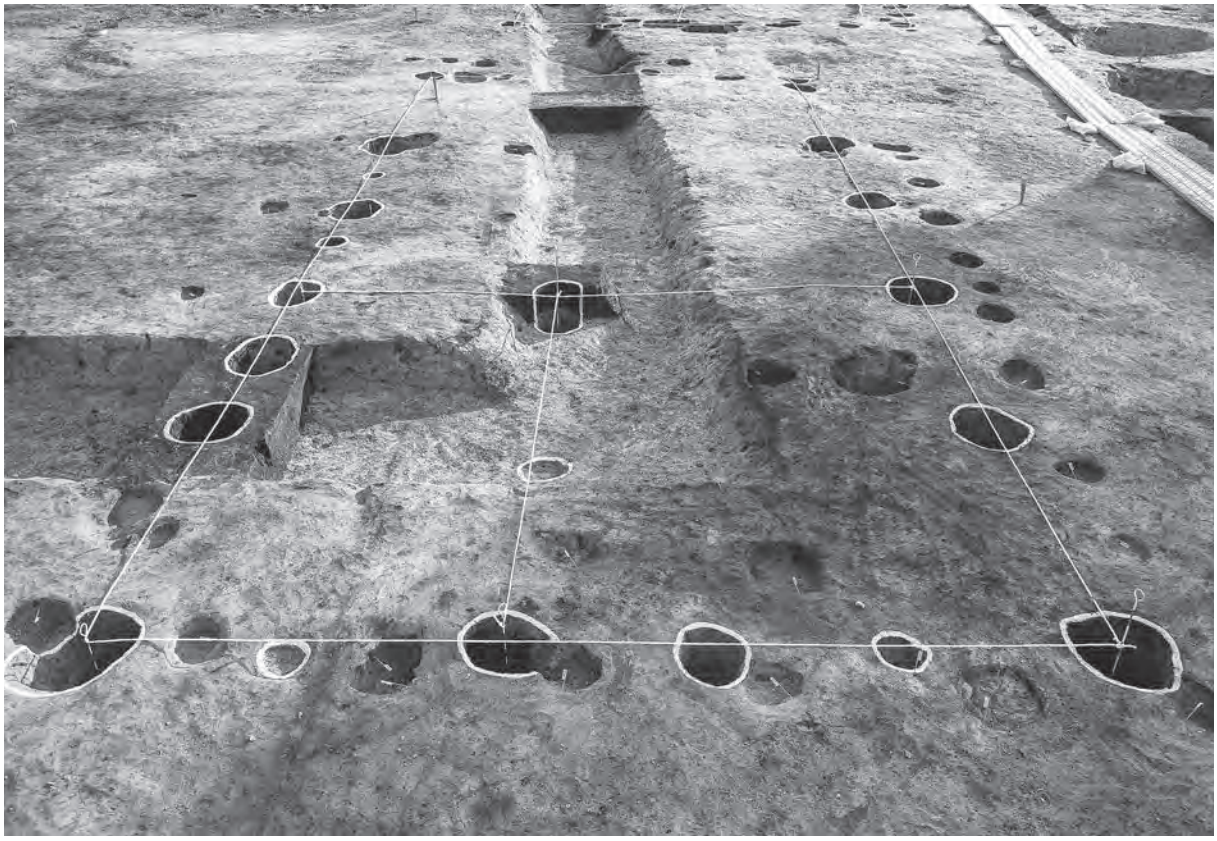


P329（ＳＢ１）

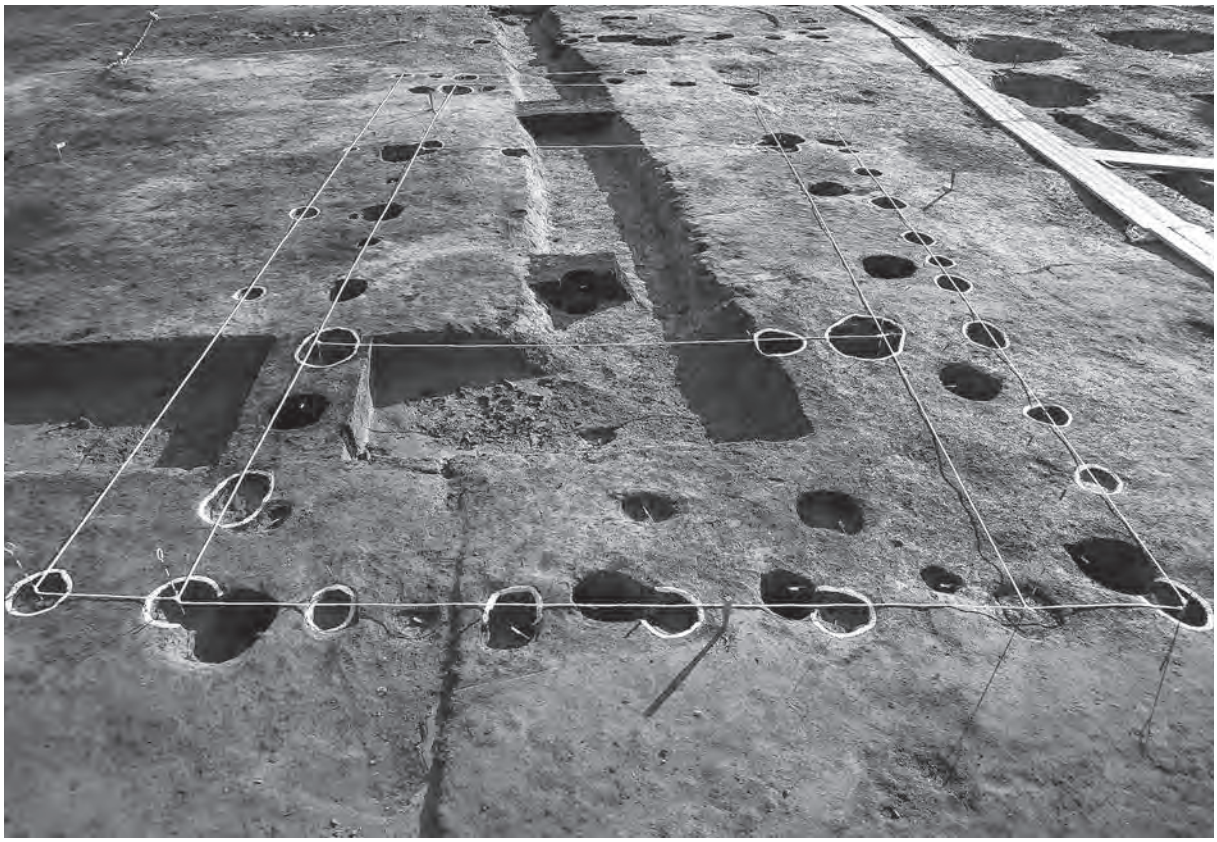


P330（ＳＢ１）

写真図版14　ＳＢ１完掘・柱穴断面



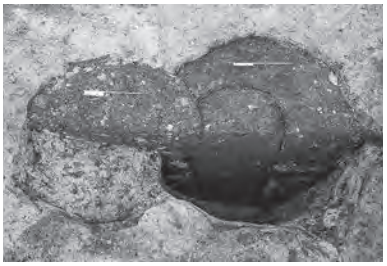
ＳＢ２　完掘



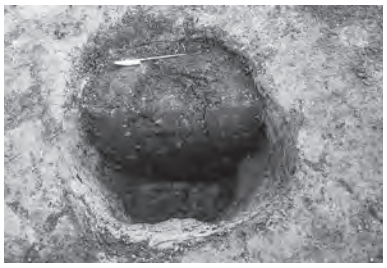
ＳＢ３　完掘

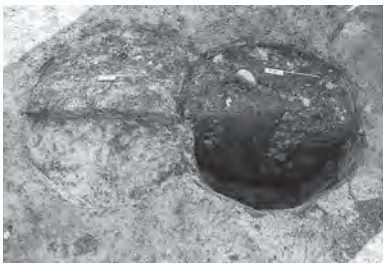
写真図版15　ＳＢ２・ＳＢ３完掘

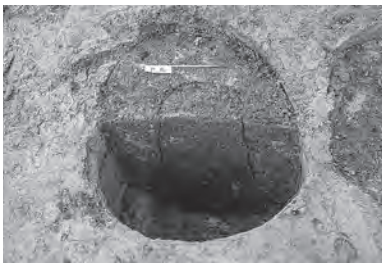
P3（ＳＢ２）

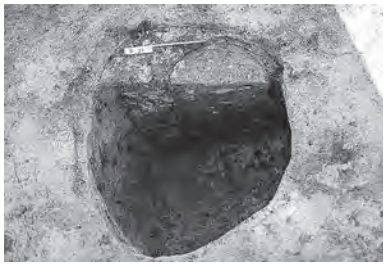

P5（ＳＢ２）

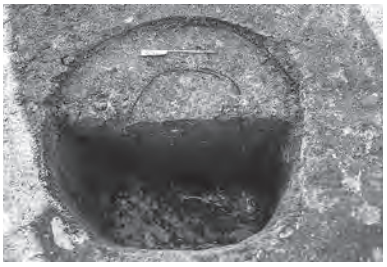
P9（ＳＢ２）

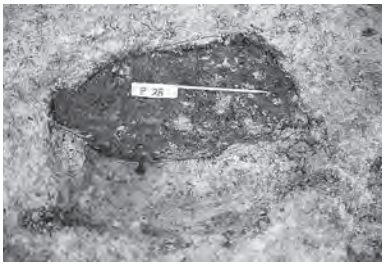

P12（ＳＢ２）


P17（ＳＢ２）

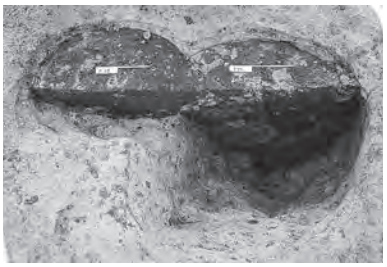

P19（ＳＢ２）


P21（ＳＢ２）

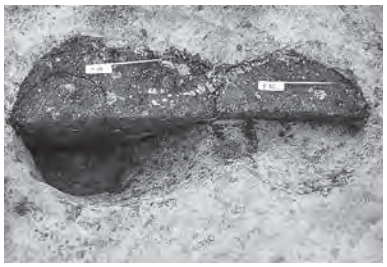

P24（ＳＢ２）


P28（ＳＢ２）

P30（ＳＢ２）


P33（ＳＢ２）

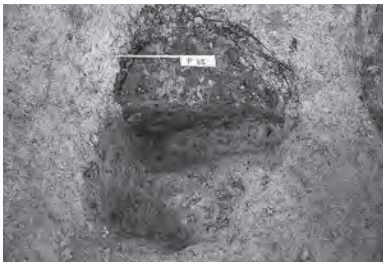
P37（ＳＢ２）

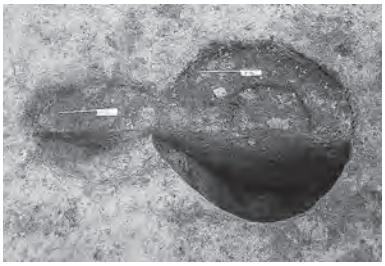

P39（ＳＢ２）

P47（ＳＢ２）

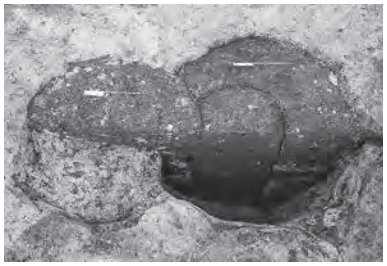
P48（ＳＢ２）

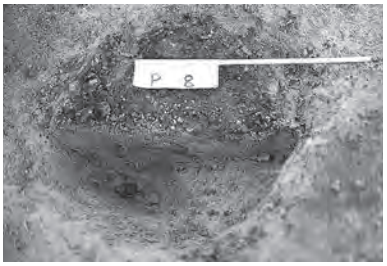
P64（ＳＢ２）

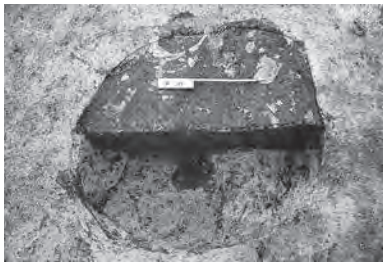

P65（ＳＢ２）

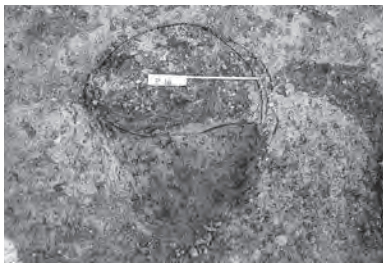

P70（ＳＢ２）

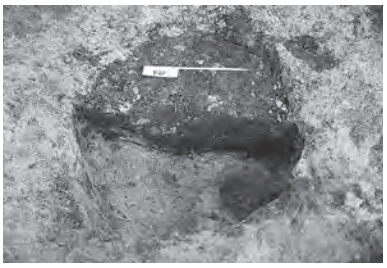
写真図版16　ＳＢ２柱穴断面

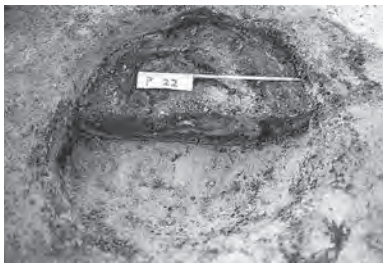

P6（ＳＢ３）


P8（ＳＢ３）

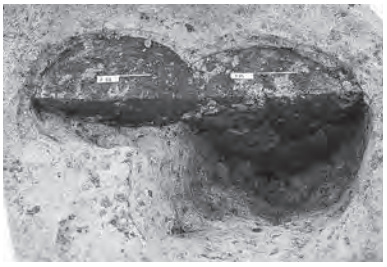

P10（ＳＢ３）

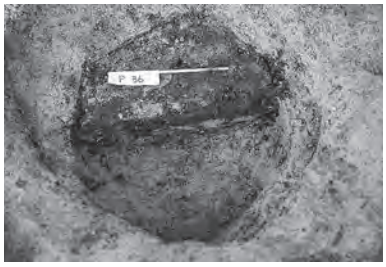

P14（ＳＢ３）


P20（ＳＢ３）


P22（ＳＢ３）

P23（ＳＢ３）

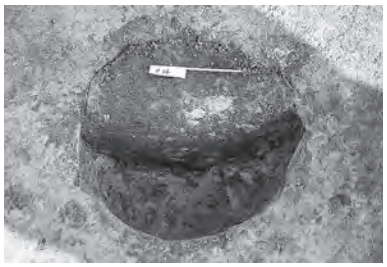

P34（ＳＢ３）

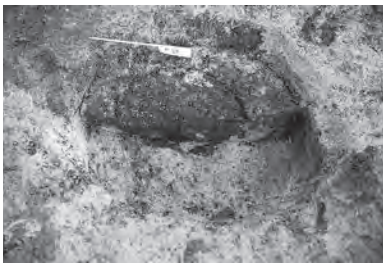

P36（ＳＢ３）

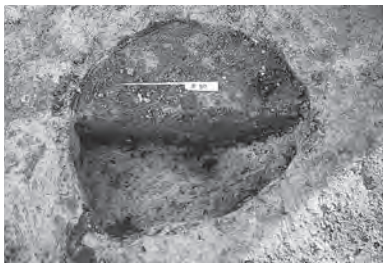
P44（ＳＢ３）

P49（ＳＢ３）

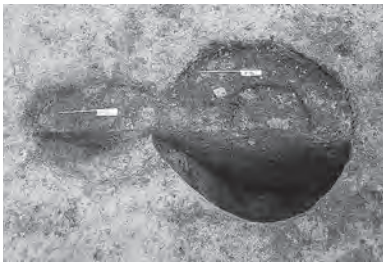
P53（ＳＢ３）


P54（ＳＢ３）


P55（ＳＢ３）

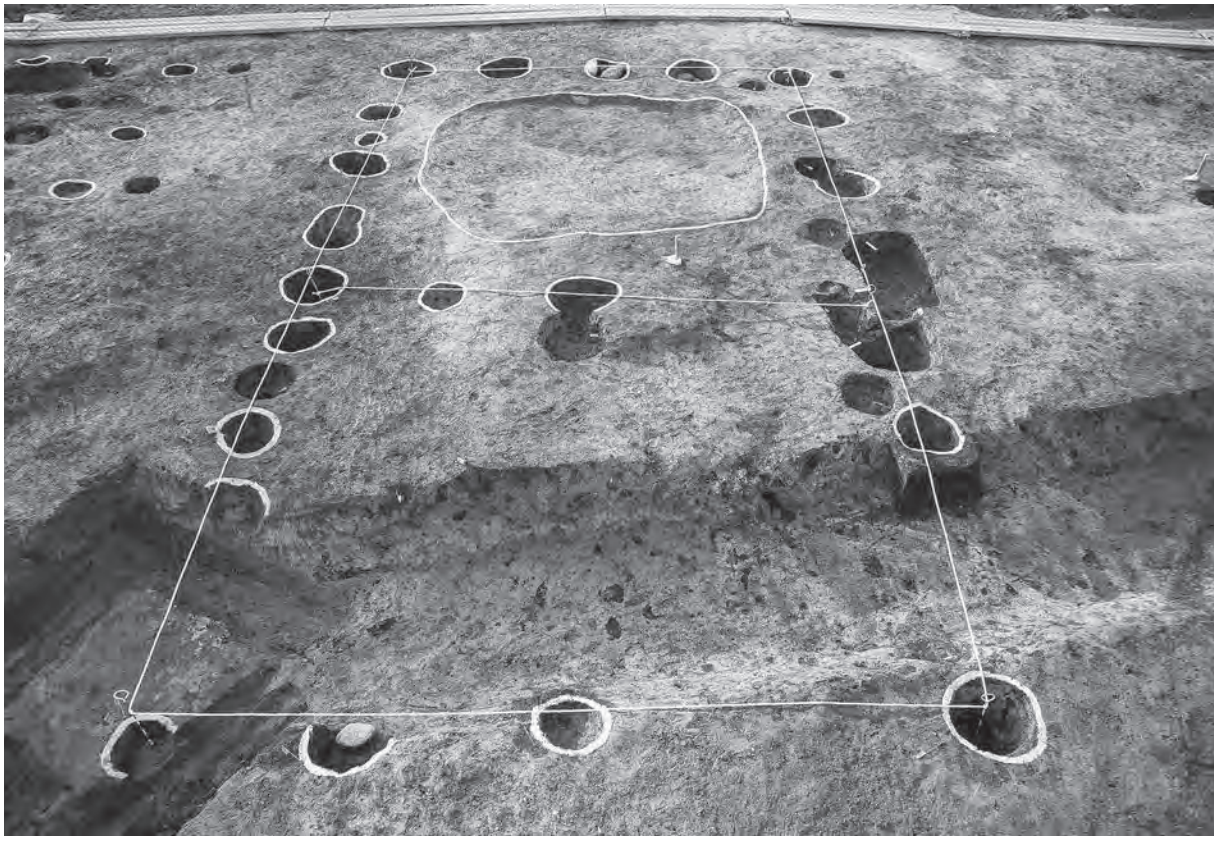

P59（ＳＢ３）

P63（ＳＢ３）

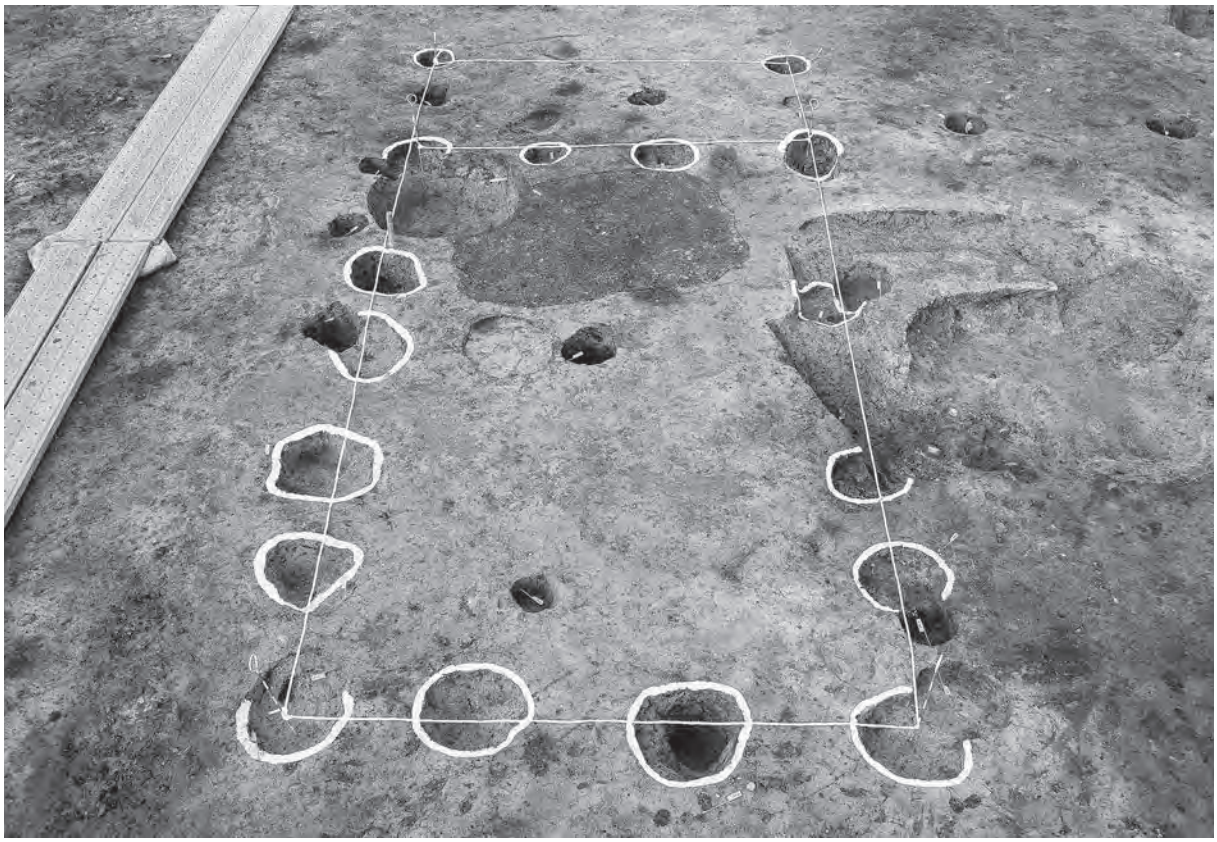

P71（ＳＢ３）

P334（ＳＢ３）

写真図版17　ＳＢ３柱穴断面

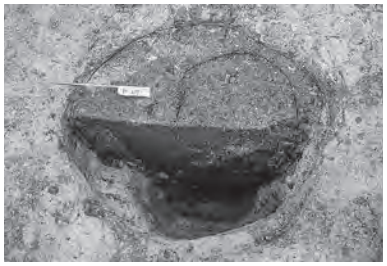


ＳＢ４　完掘



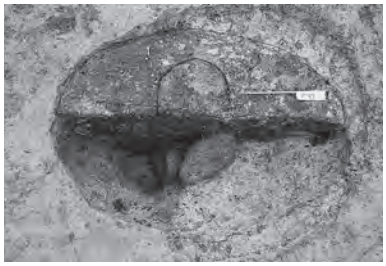
ＳＢ５　完掘

写真図版18　ＳＢ４・ＳＢ５完掘

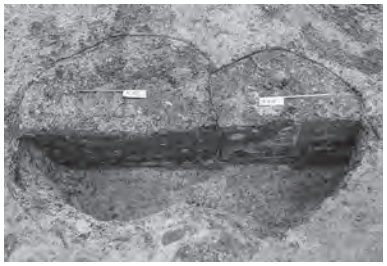


P67（ＳＢ４）

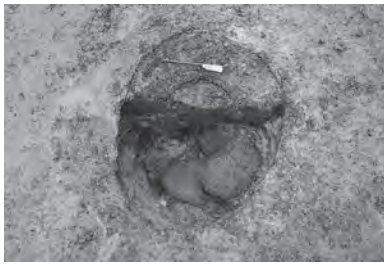
P96（ＳＢ４）



P97（ＳＢ４）

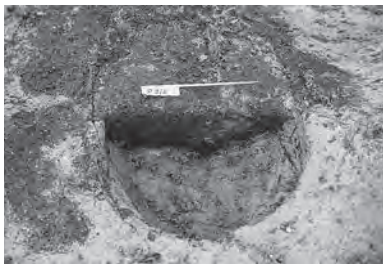


P99（ＳＢ４）



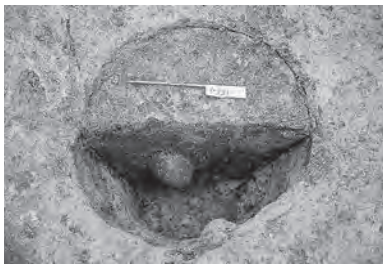
P101（ＳＢ４）

P102（ＳＢ４）

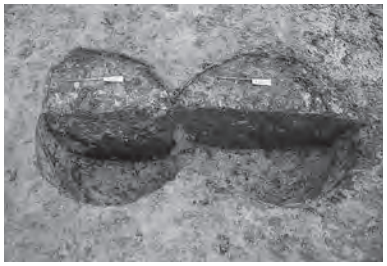


P216（ＳＢ４）

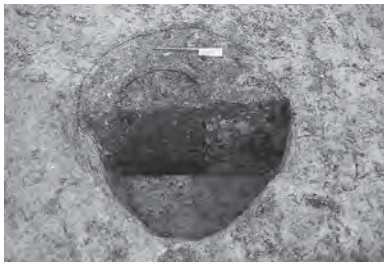
P218（ＳＢ４）



P221（ＳＢ４）

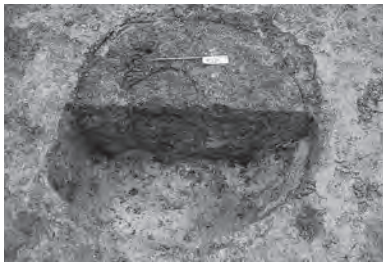


P226（ＳＢ４）

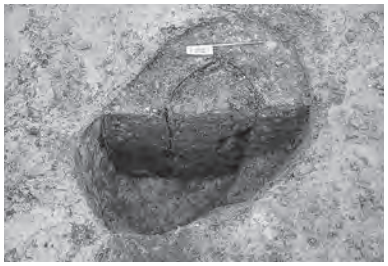


P227（ＳＢ４）

P229（ＳＢ４）



P230（ＳＢ４）

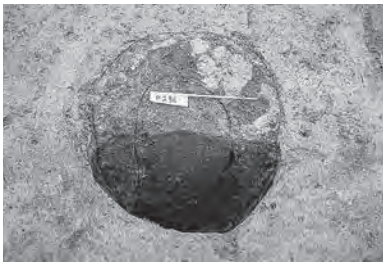


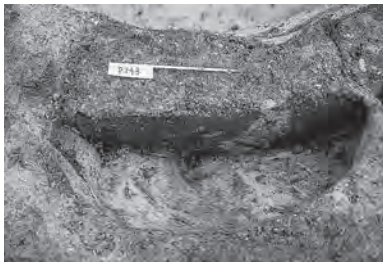
P232（ＳＢ４）

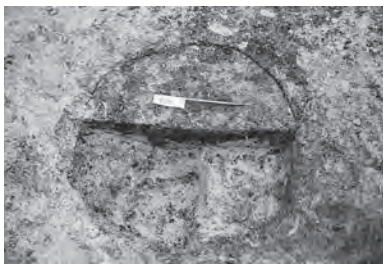
P235（ＳＢ４）

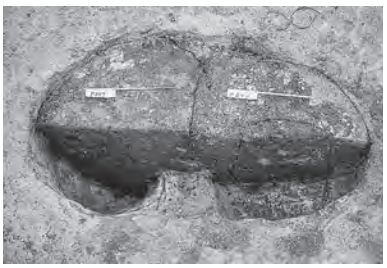
写真図版19　ＳＢ４柱穴断面

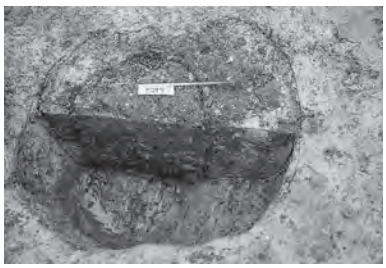
P228（ＳＢ５）

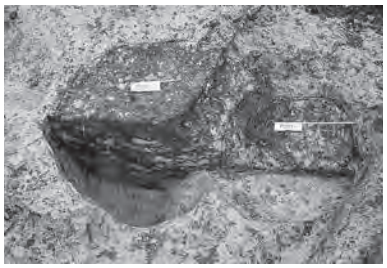

P236（ＳＢ５）

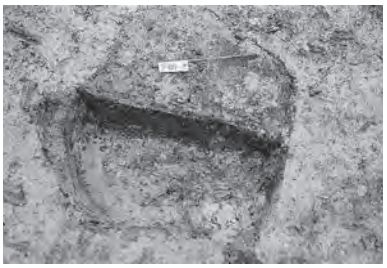

P243（ＳＢ５）

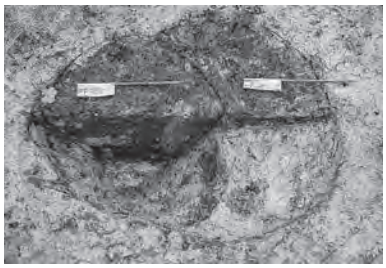

P246（ＳＢ５）

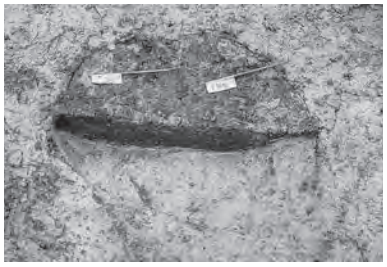

P248（ＳＢ５）

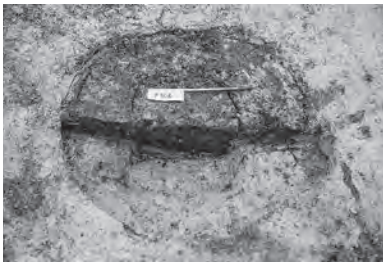

P297（ＳＢ５）

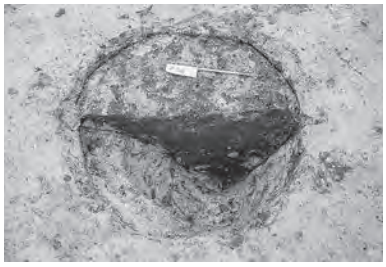

P299（ＳＢ５）


P301（ＳＢ５）

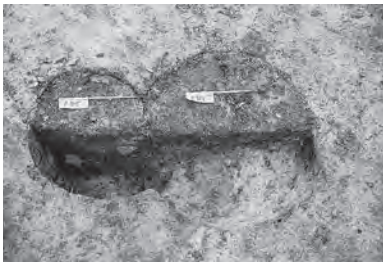

P303（ＳＢ５）

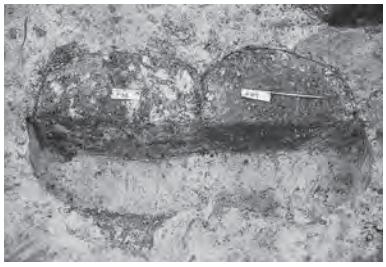

P305（ＳＢ５）


P306（ＳＢ５）

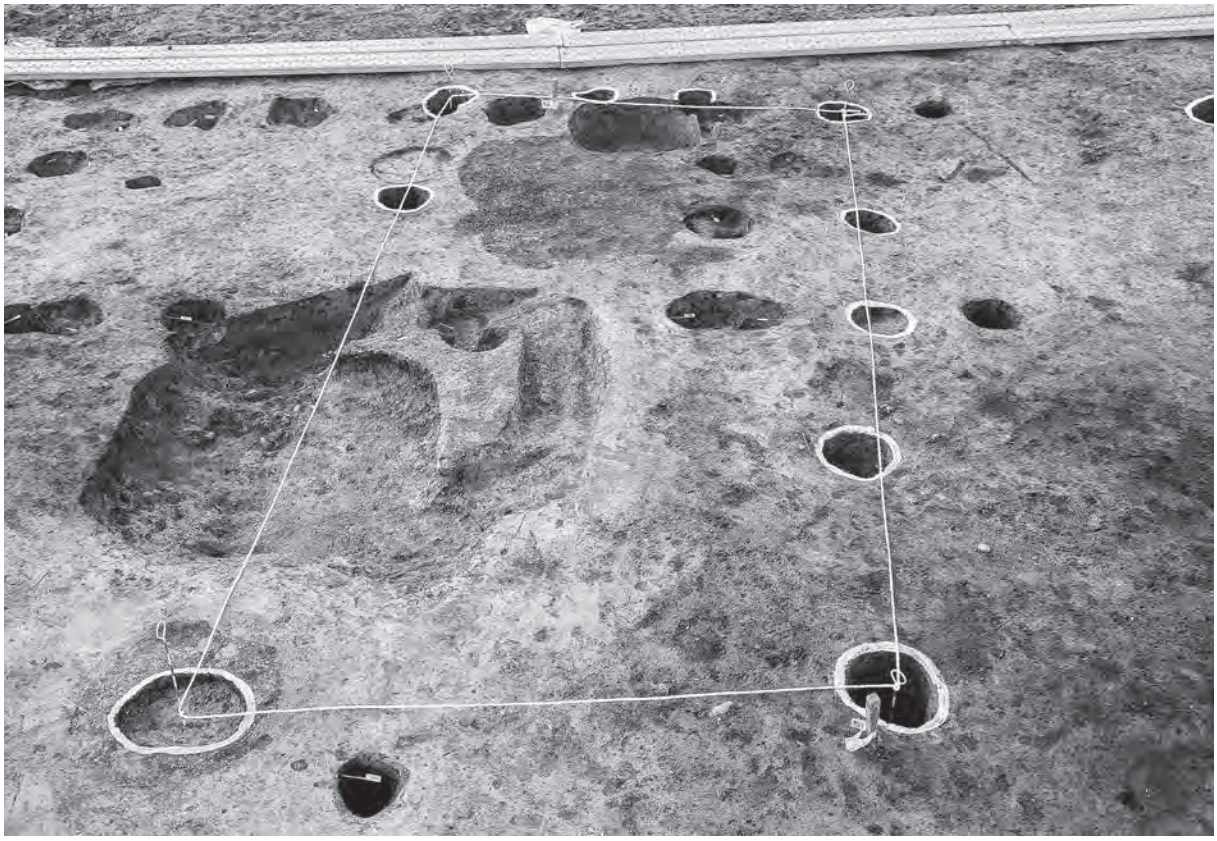

P311（ＳＢ５）

P313（ＳＢ５）

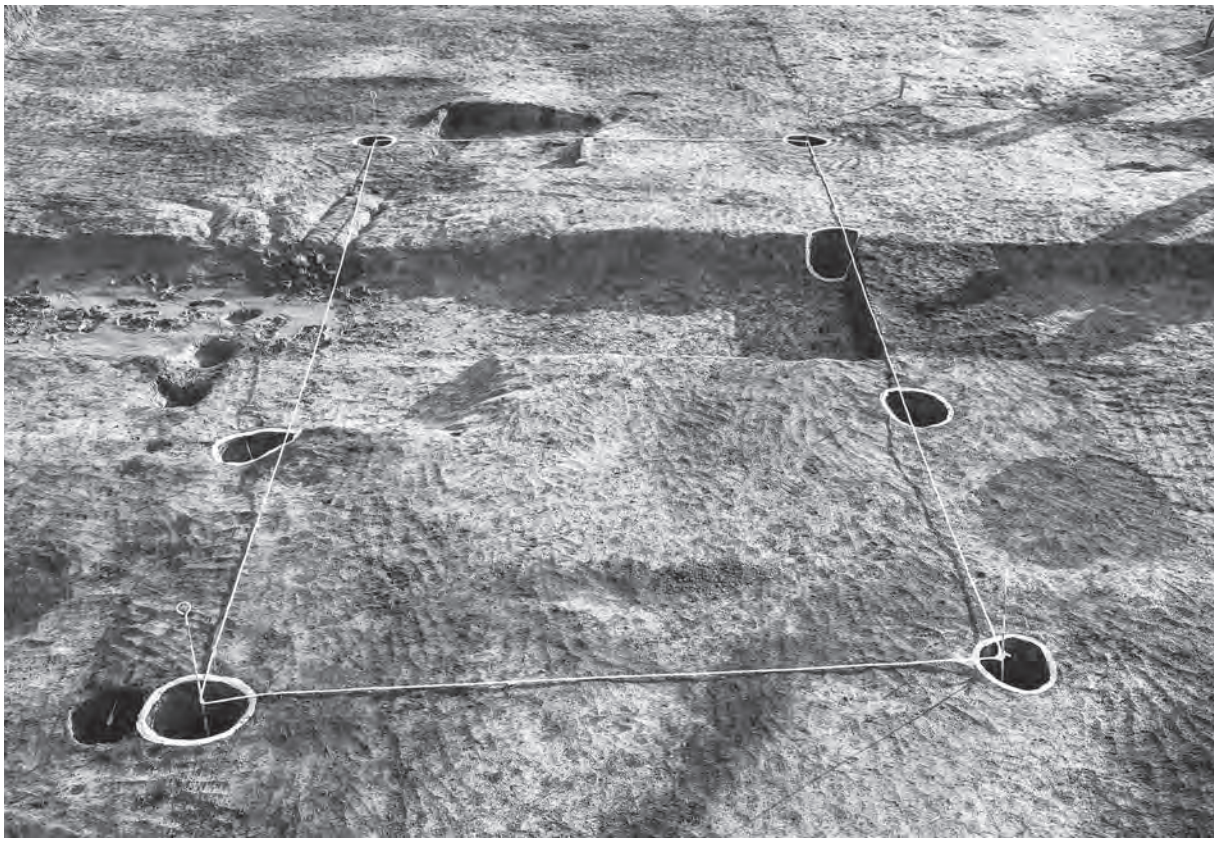

P314（ＳＢ５）


P316（ＳＢ５）

写真図版20　ＳＢ５柱穴断面



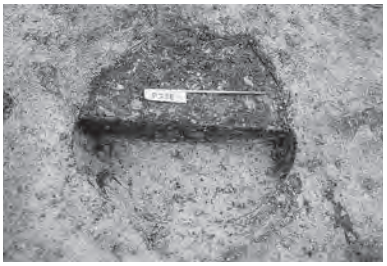
ＳＢ６　完掘

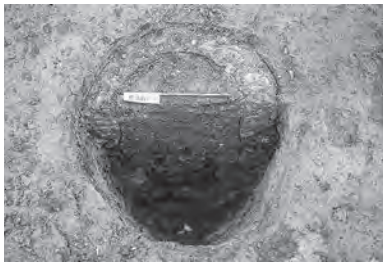


ＳＢ７　完掘

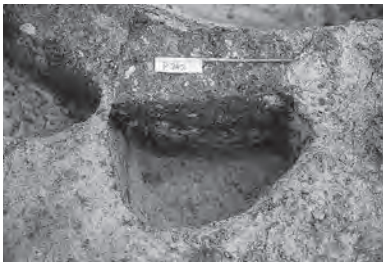
写真図版21　ＳＢ６・ＳＢ７完掘

P237（ＳＢ６）


P238（ＳＢ６）

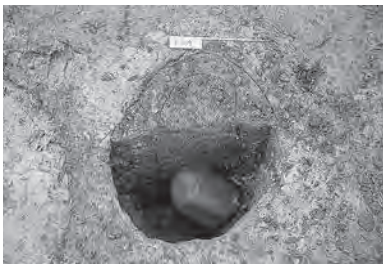

P240（ＳＢ６）

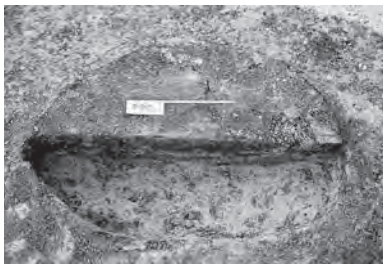
P241（ＳＢ６）

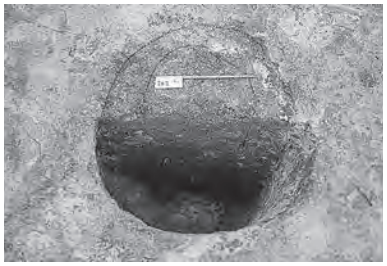

P242（ＳＢ６）

P249（ＳＢ６）

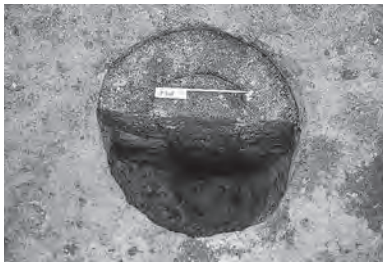
P300（ＳＢ６）

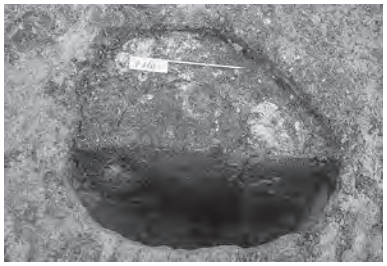

P309（ＳＢ６）

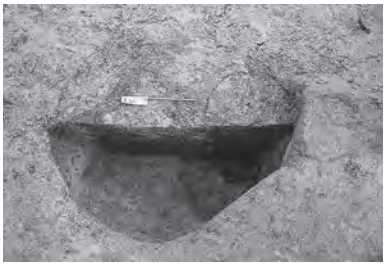

P337（ＳＢ６）

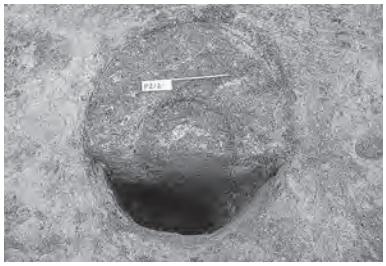

P202（ＳＢ７）

P204（ＳＢ７）


P205（ＳＢ７）

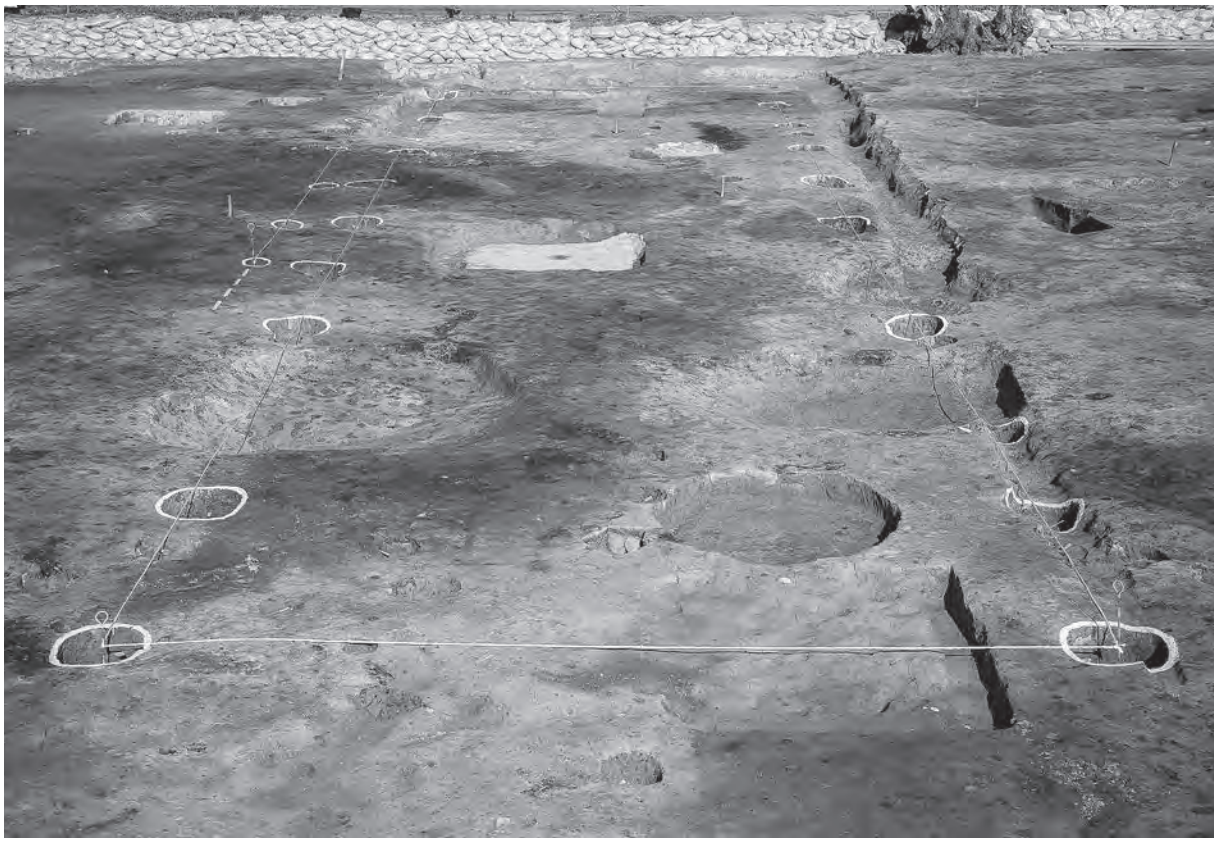

P210（ＳＢ７）


P211（ＳＢ７）


P212（ＳＢ７）

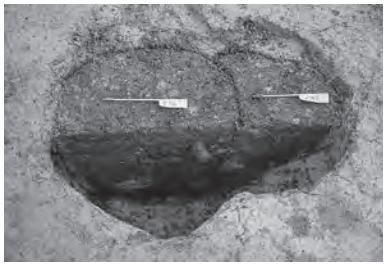
写真図版22　ＳＢ６・ＳＢ７柱穴断面

ＳＢ８　完掘

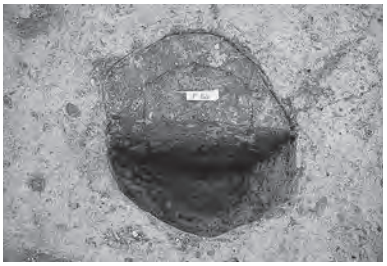


ＳＢ９　完掘

写真図版23　ＳＢ８・ＳＢ９完掘

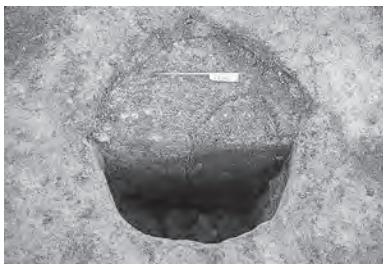


P73（ＳＢ８）



P80（ＳＢ８）

P85（ＳＢ８）

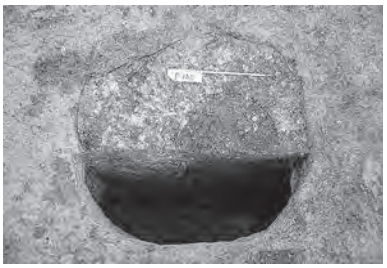


P103（ＳＢ８）

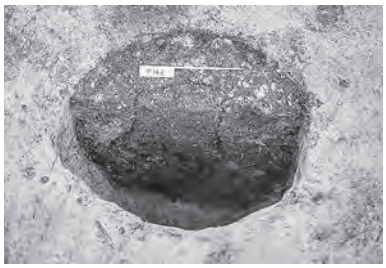
P105（ＳＢ８）

P120（ＳＢ８）

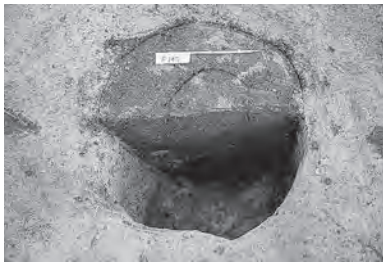
P122（ＳＢ８）



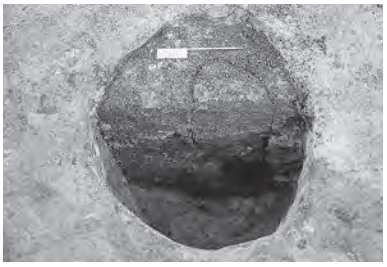
P140（ＳＢ８）



P142（ＳＢ８）

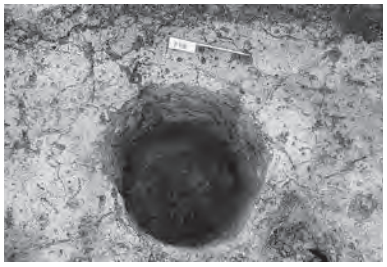


P143（ＳＢ８）

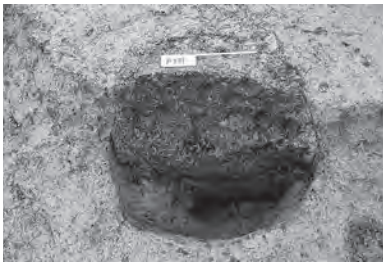


P147（ＳＢ８）

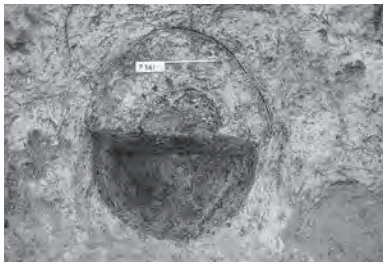
P148（ＳＢ８）



P338（ＳＢ８）

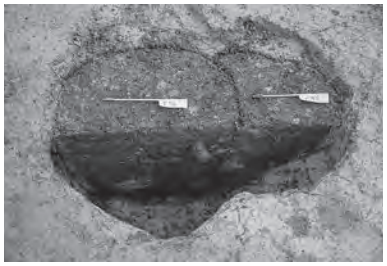


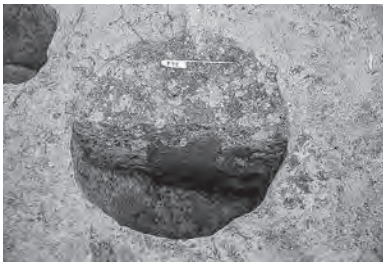
P339（ＳＢ８）

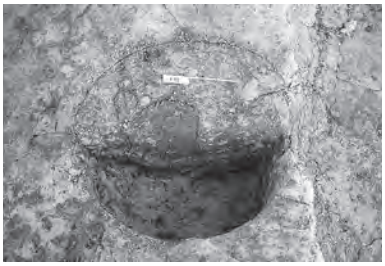


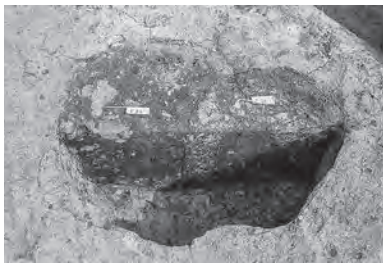
P341（ＳＢ８）

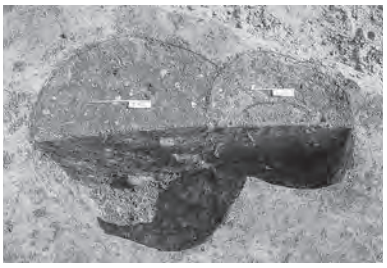
写真図版24　ＳＢ８柱穴断面


P74（ＳＢ９）

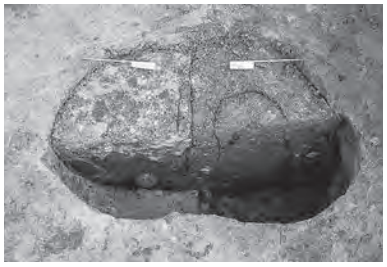

P77（ＳＢ９）

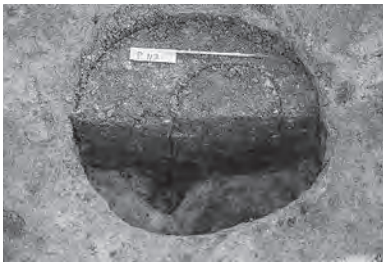

P78（ＳＢ９）


P83（ＳＢ９）

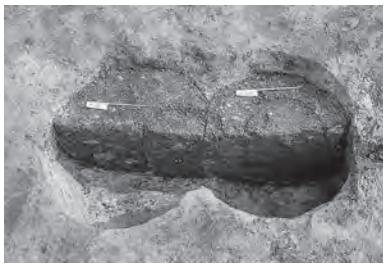

P91（ＳＢ９）

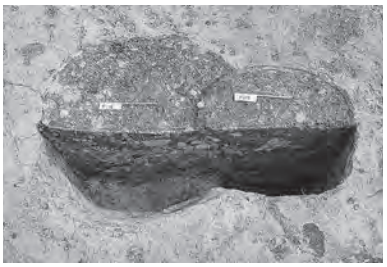
P107（ＳＢ９）

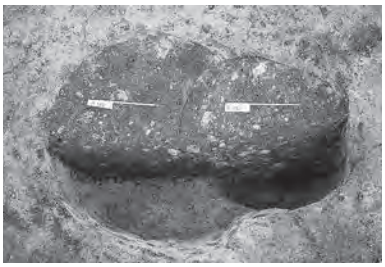

P110（ＳＢ９）


P112（ＳＢ９）

P121（ＳＢ９）

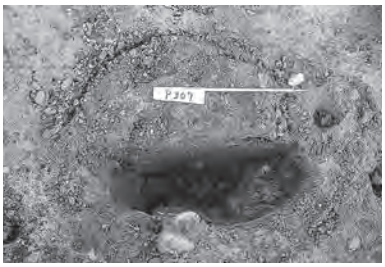

P126（ＳＢ９）


P128（ＳＢ９）

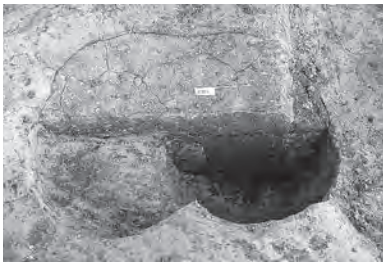

P131（ＳＢ９）

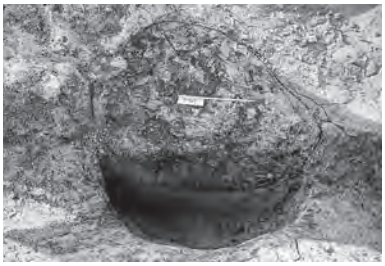
P155（ＳＢ９）

P160（ＳＢ９）


P307（ＳＢ９）

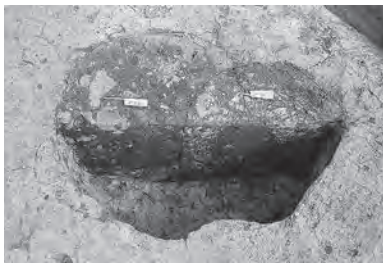
P342（ＳＢ９）


P343（ＳＢ９）

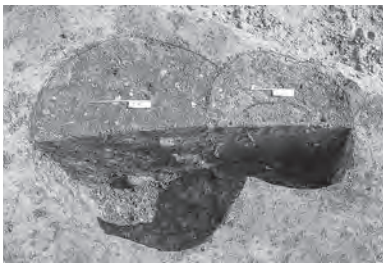

P347（ＳＢ９）

写真図版25　ＳＢ９柱穴断面

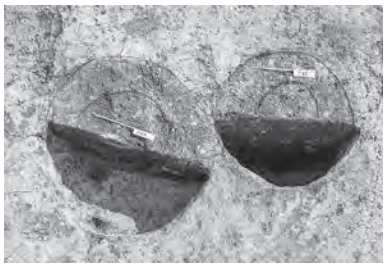
ＳＢ10完掘



P84（ＳＢ10）

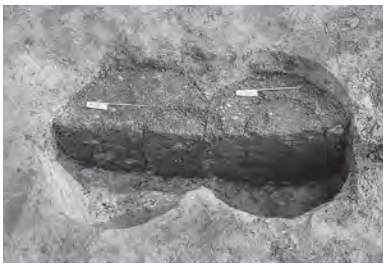


P92（ＳＢ10）

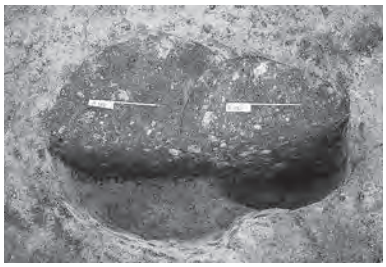


P93（ＳＢ10）

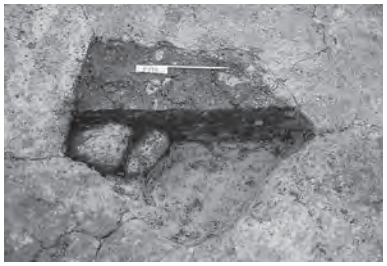
P111（ＳＢ10）



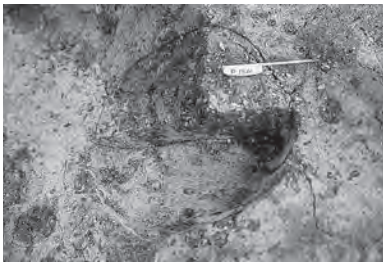
P125（ＳＢ10）



P132（ＳＢ10）



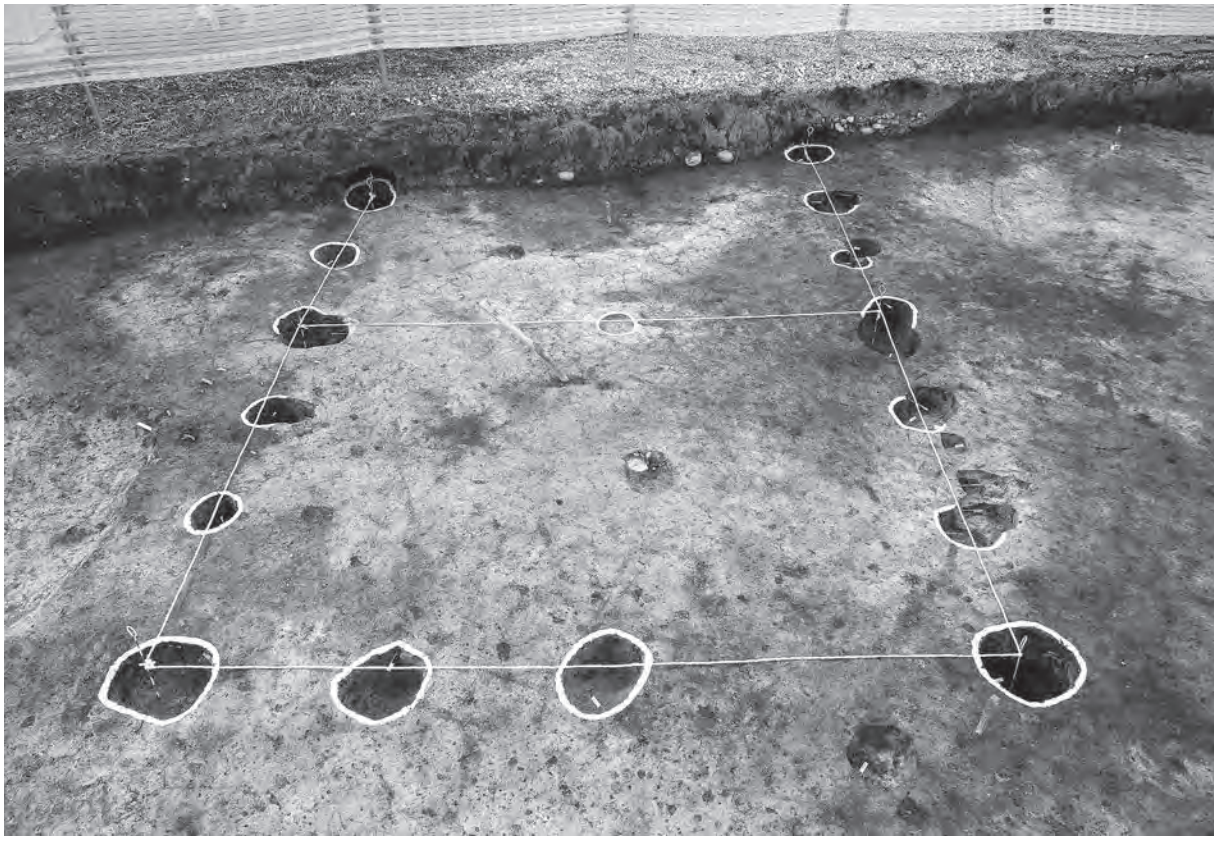
P136（ＳＢ10）



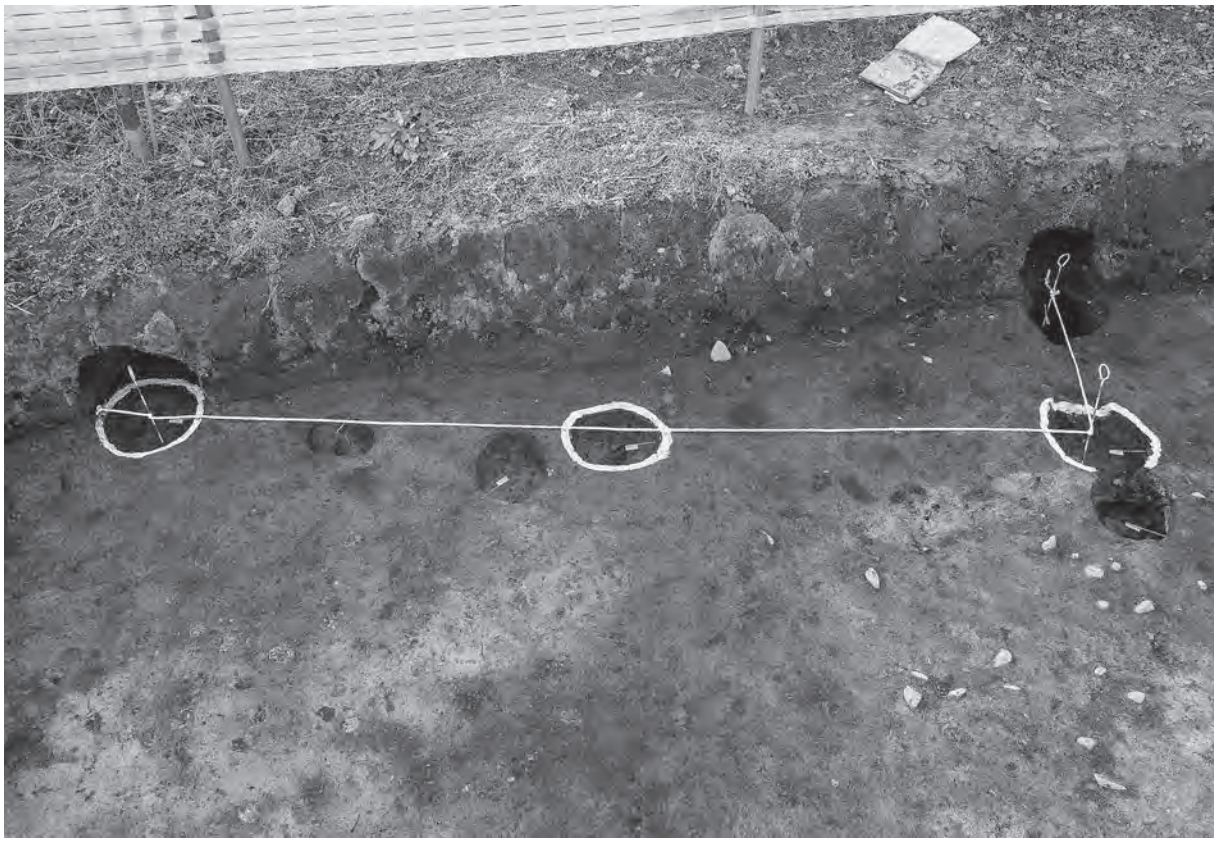
P154（ＳＢ10）

P156（ＳＢ10）

写真図版26　ＳＢ10完掘・柱穴断面



ＳＢ11　完掘



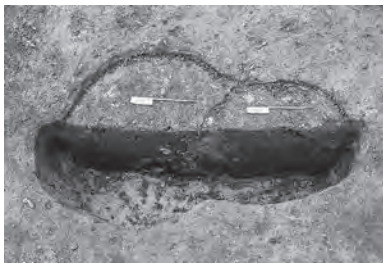
ＳＢ12　完掘

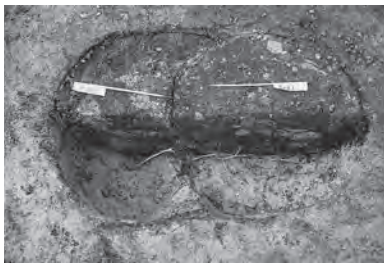
写真図版27　ＳＢ11・ＳＢ12完掘

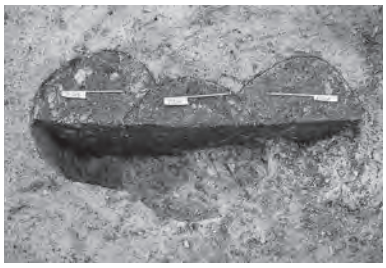
P173（ＳＢ11）

P174（ＳＢ11）

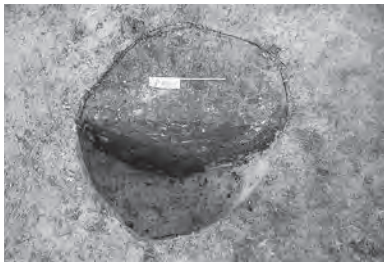
P177（ＳＢ11）


P178（ＳＢ11）

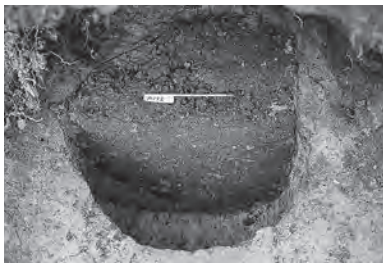

P180（ＳＢ11）


P183（ＳＢ11）

P186（ＳＢ11）


P190（ＳＢ11）

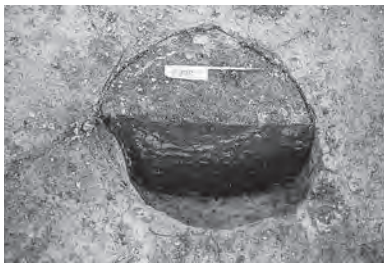
P191（ＳＢ11）


P192（ＳＢ11）

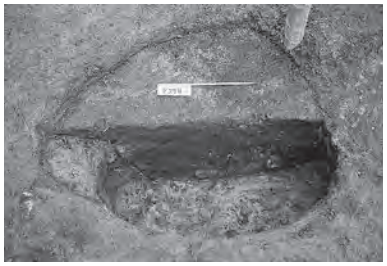
P193（ＳＢ11）

P195（ＳＢ11）

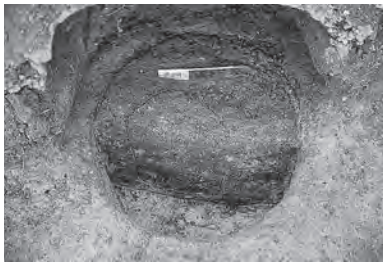
P197（ＳＢ11）


P198（ＳＢ11）

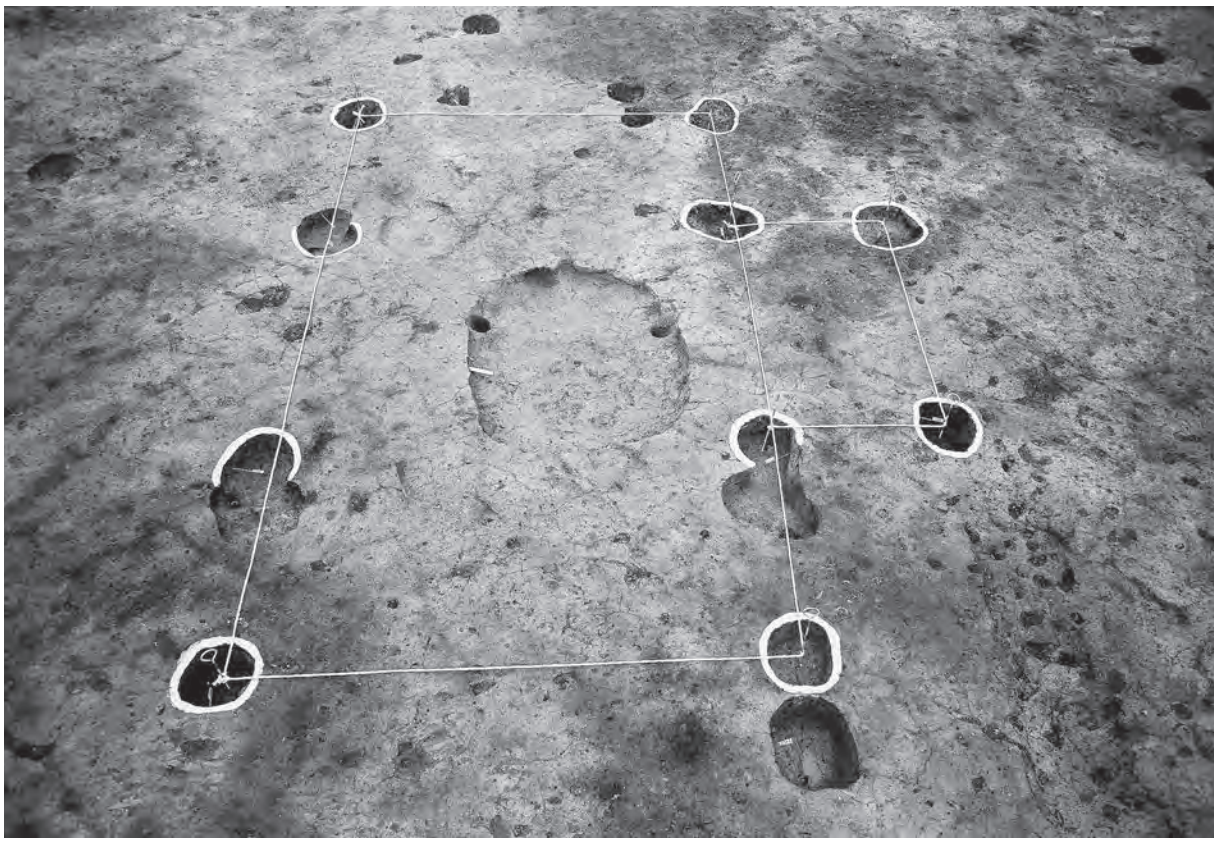
P199（ＳＢ11）


P274（ＳＢ12）

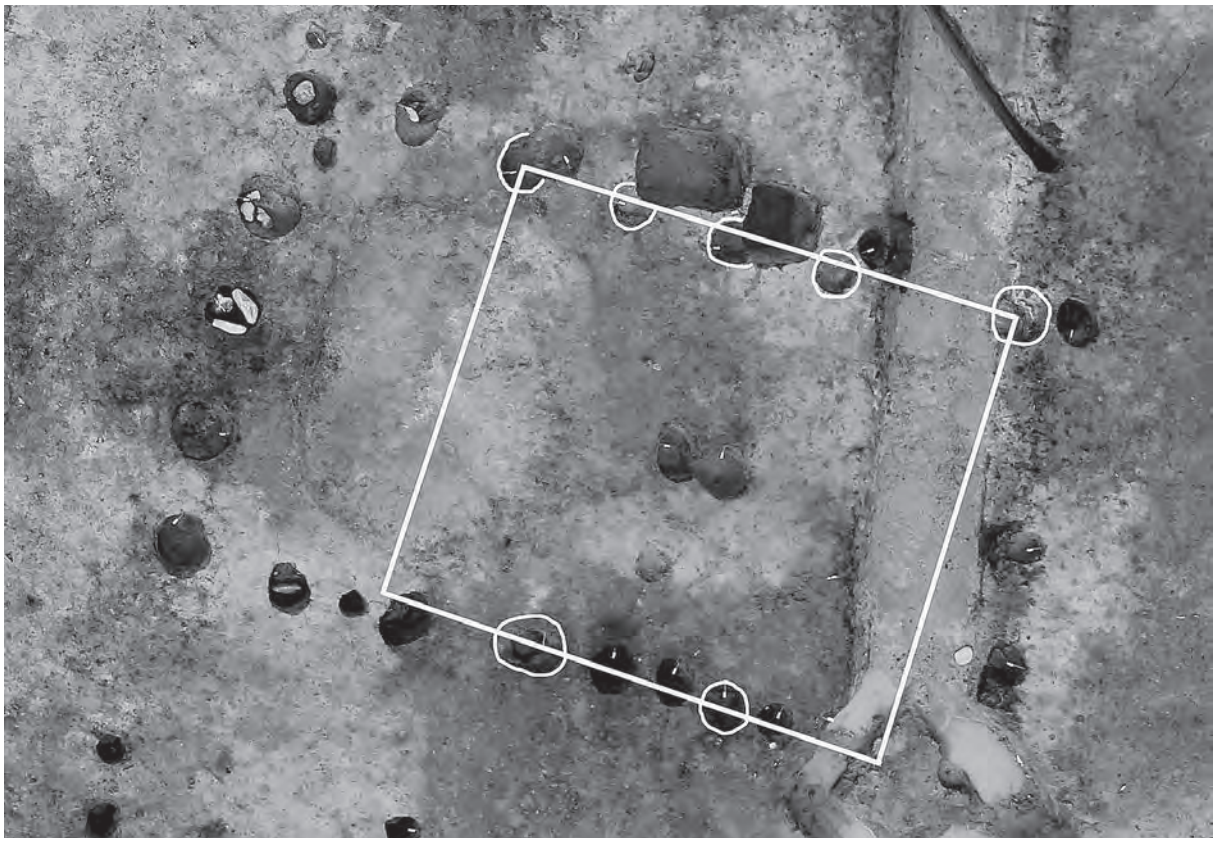
P276（ＳＢ12）


P279（ＳＢ12）

写真図版28　ＳＢ11・ＳＢ12柱穴断面



ＳＢ13　完掘

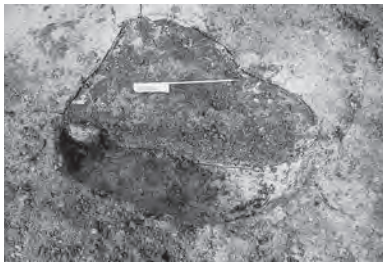


ＳＢ14　完掘

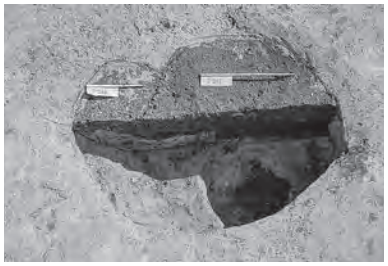
写真図版29　ＳＢ13･ＳＢ14完掘

P251（ＳＢ13）

P252（ＳＢ13）

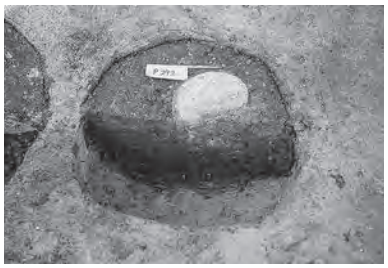

P256（ＳＢ13）

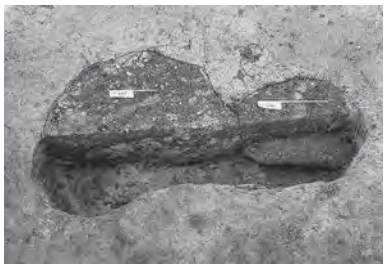
P263（ＳＢ13）

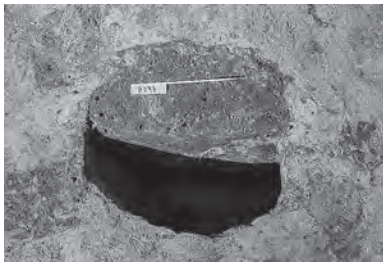

P266（ＳＢ13）

P268（ＳＢ13）

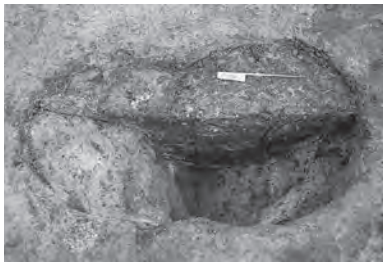
P289（ＳＢ13）

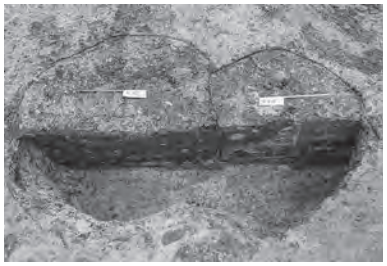

P292（ＳＢ13）


P294（ＳＢ13）


P295（ＳＢ13）

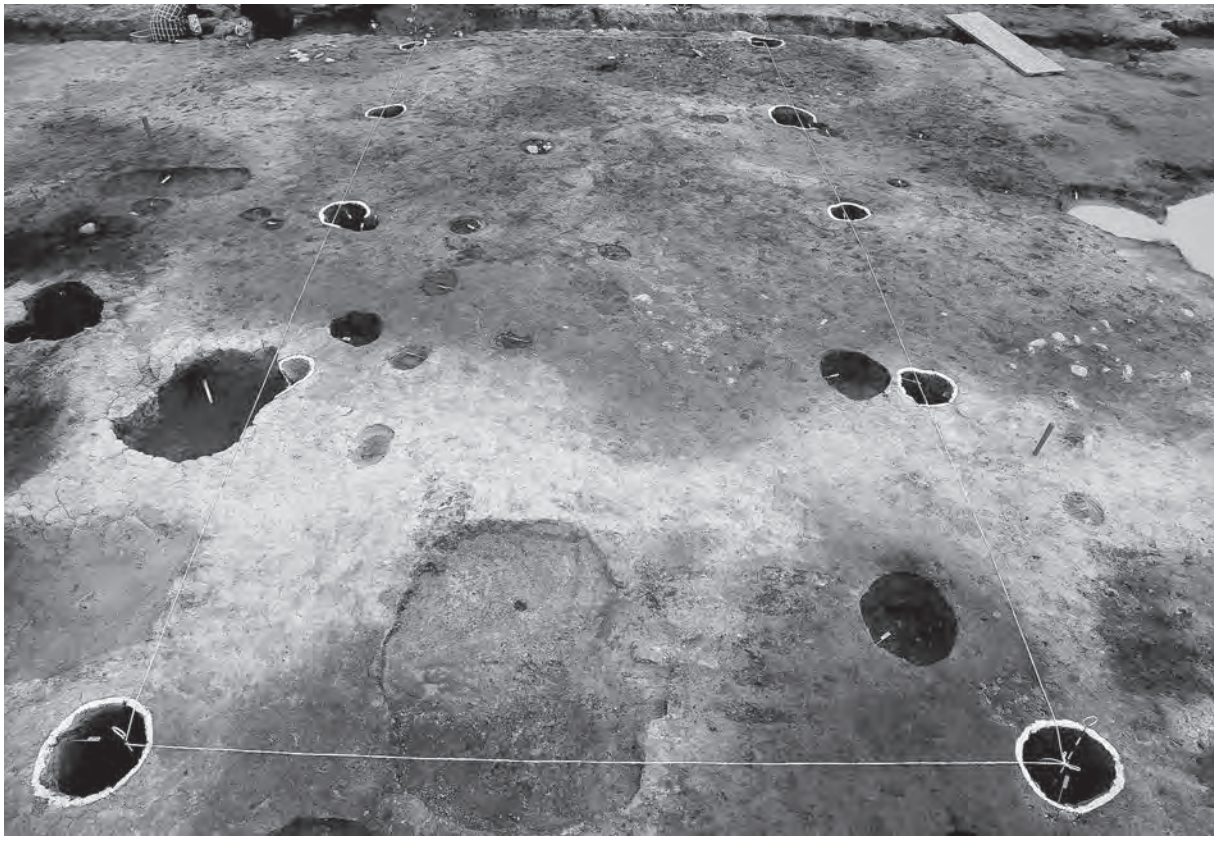
P222（ＳＢ14）


P234（ＳＢ14）

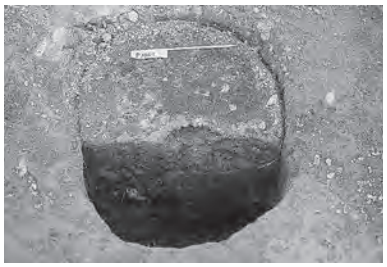

P335（ＳＢ14）

P348（ＳＢ14）

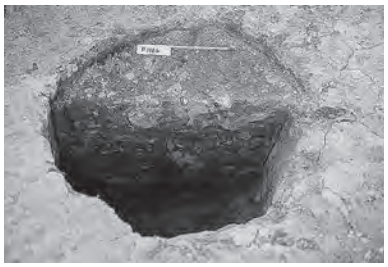
写真図版30　ＳＢ13・ＳＢ14柱穴断面



ＳＢ101　完掘



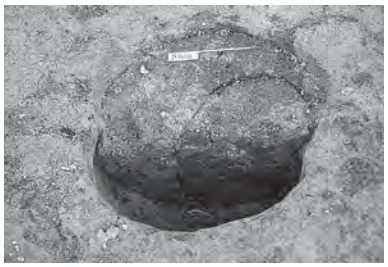
P1061（ＳＢ101）



P1062（ＳＢ101）

P1078（ＳＢ101）

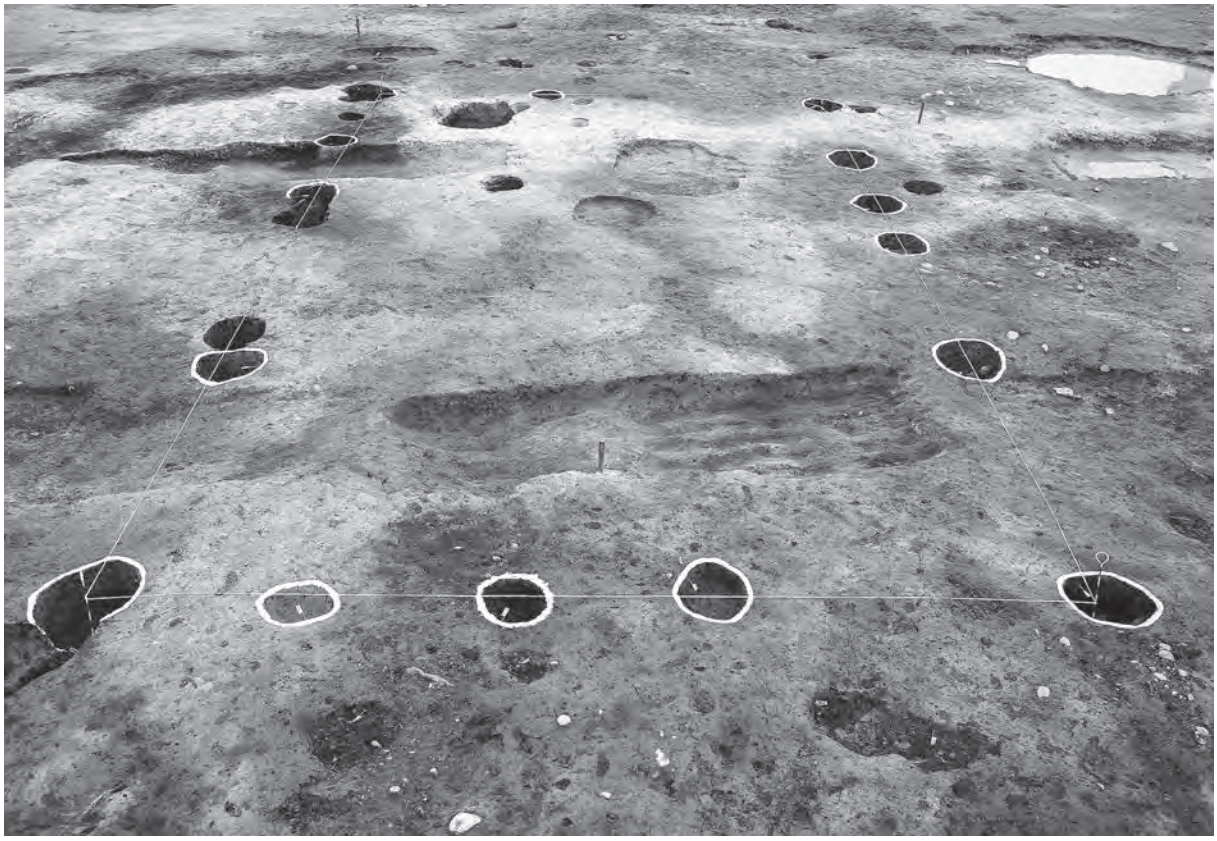
P1360（ＳＢ101）



P1363（ＳＢ101）

P1721（ＳＢ101）

写真図版31　ＳＢ101完掘・柱穴断面



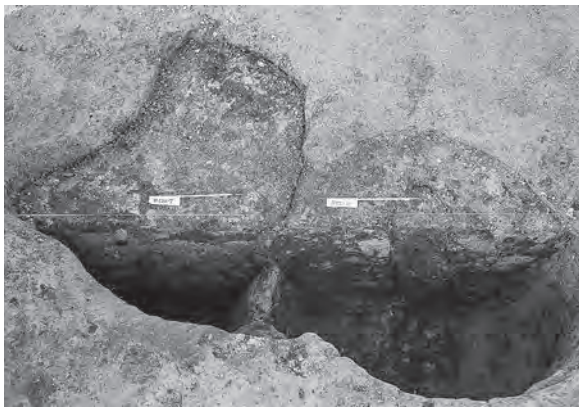
ＳＢ102　完掘

ＳＢ103　完掘

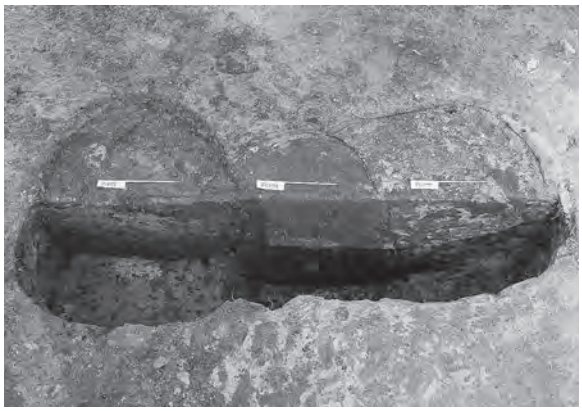
写真図版32　ＳＢ102・ＳＢ103完掘

P1060（ＳＢ102）

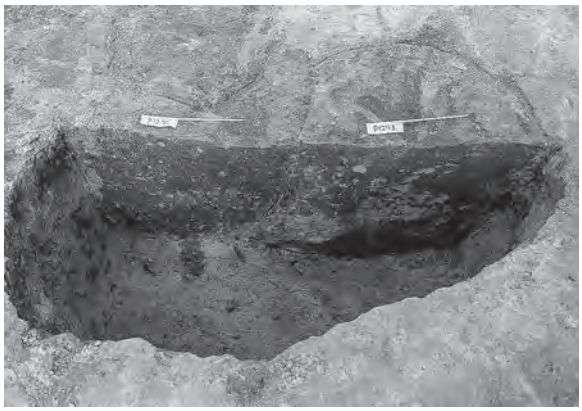
P1065（ＳＢ102）



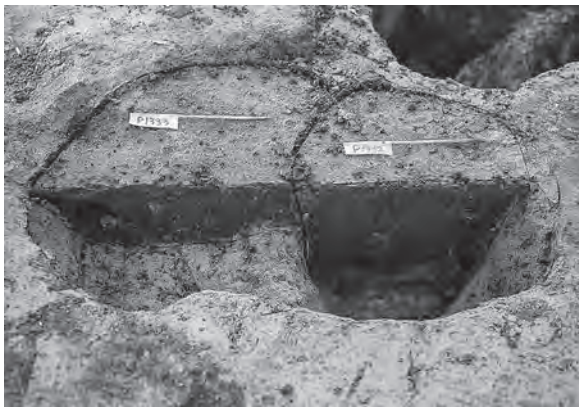
P1268（ＳＢ102）



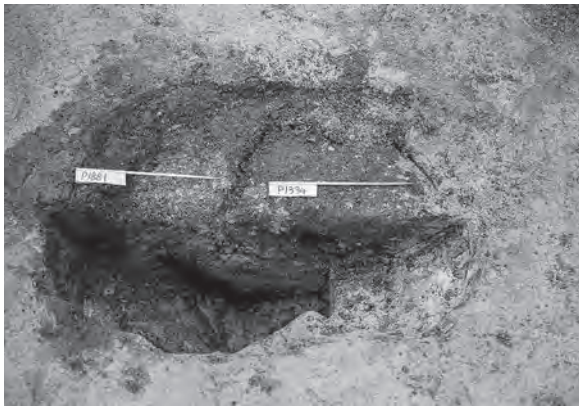
P1275（ＳＢ102）



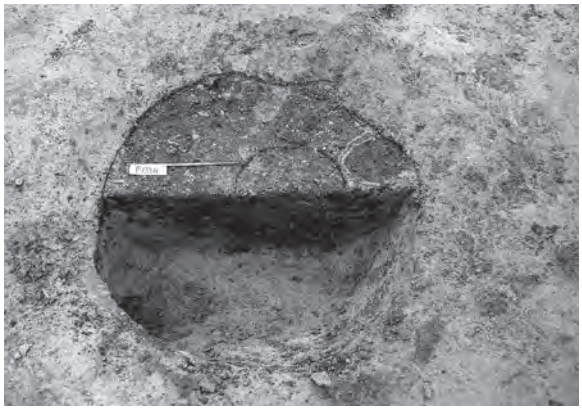
P1276（ＳＢ102）



P1333（ＳＢ103）



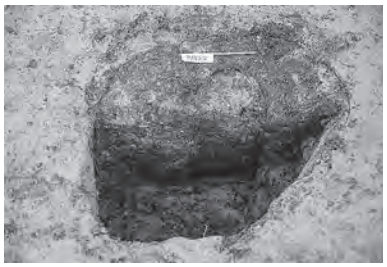
P1334（ＳＢ103）



P1354（ＳＢ103）

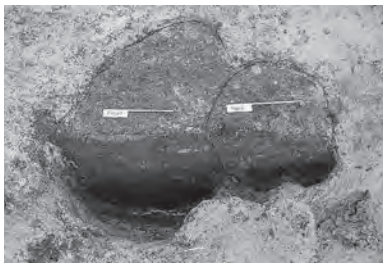
写真図版33　ＳＢ102・ＳＢ103柱穴断面

ＳＢ104　完掘

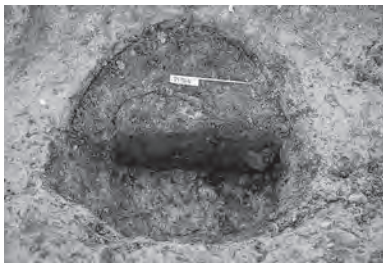


P1322（ＳＢ104）

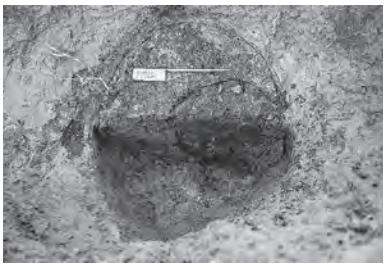
P1357（ＳＢ104）



P1359（ＳＢ104）



P1760（ＳＢ104）



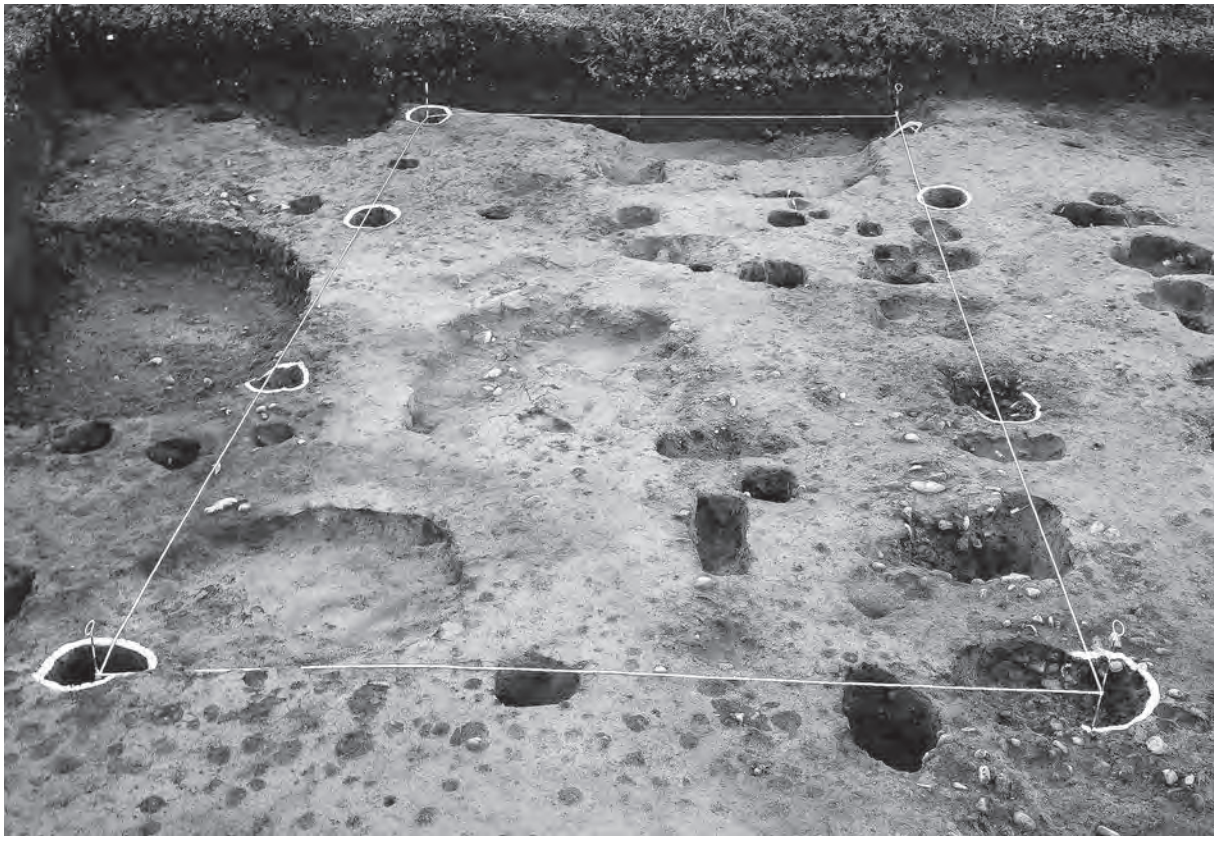
P1762（ＳＢ104）

写真図版34　ＳＢ104完掘・柱穴断面

ＳＢ105　完掘

ＳＢ106　完掘

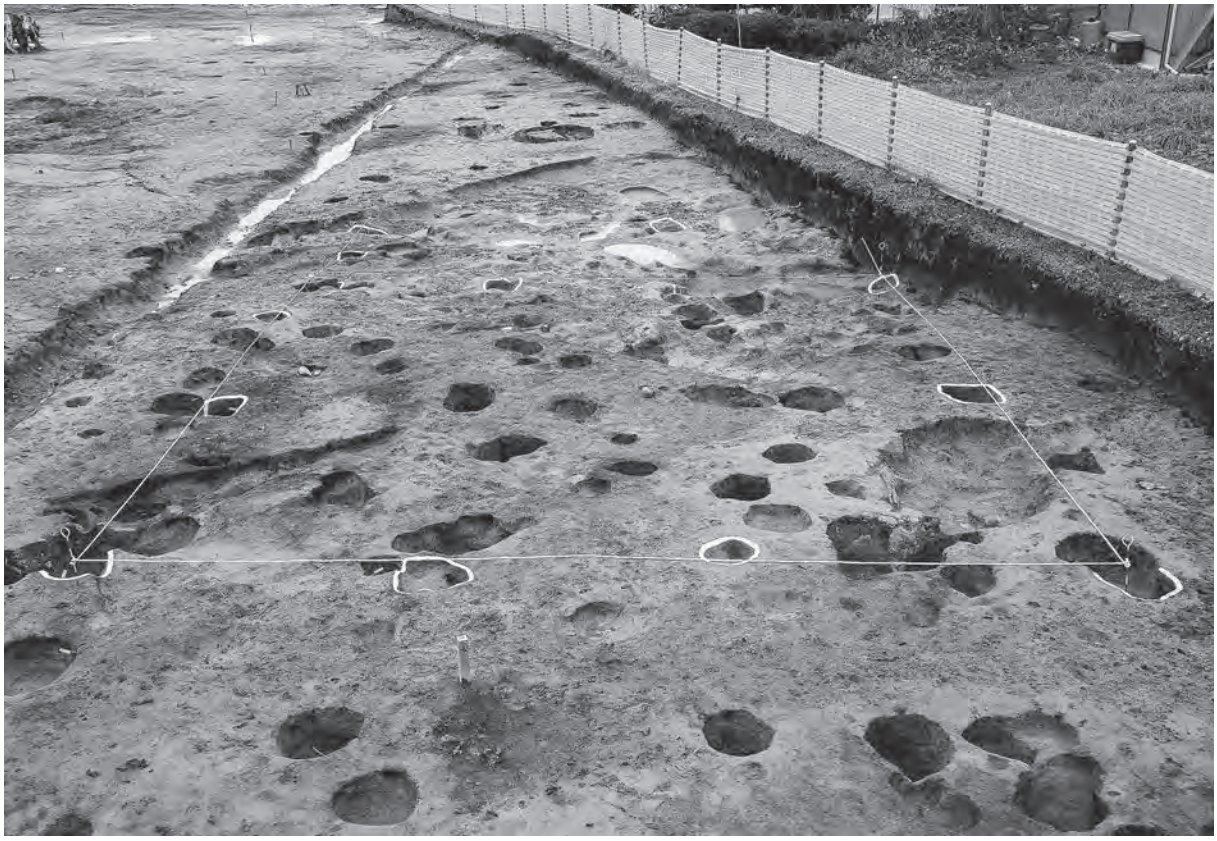
写真図版35　ＳＢ105･ＳＢ106完掘



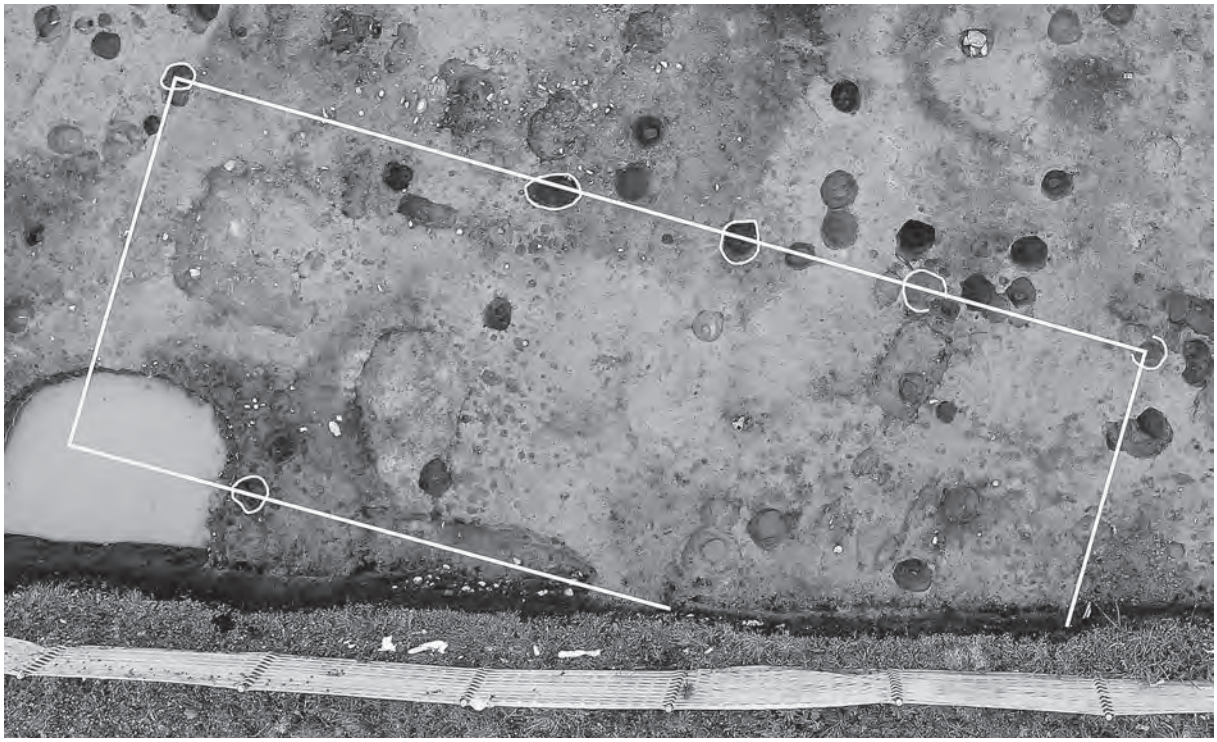
ＳＢ107　完掘

ＳＢ108　完掘

写真図版36　ＳＢ107・ＳＢ108完掘

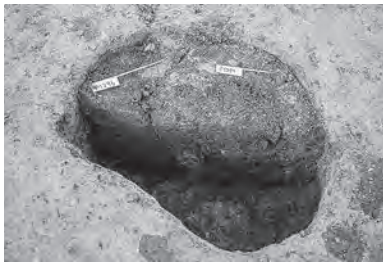


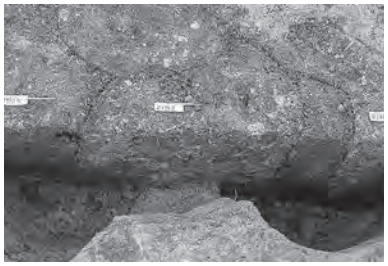
ＳＢ109　完掘

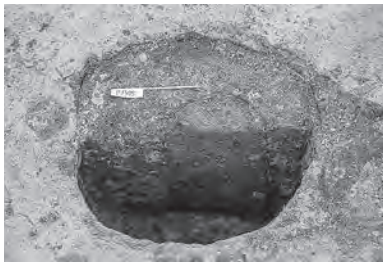


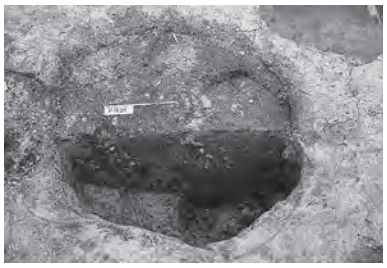
ＳＢ110　完掘

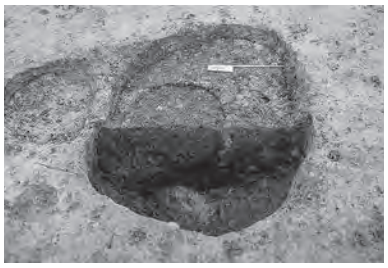
写真図版37　ＳＢ109･ＳＢ110完掘

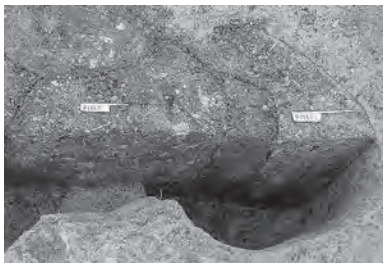

P1297（ＳＢ105）


P1352（ＳＢ105）


P1375（ＳＢ105）

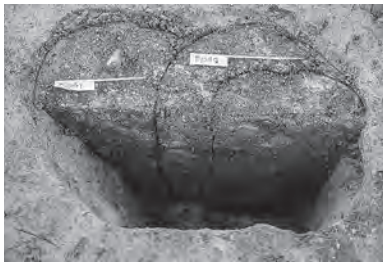

P1429（ＳＢ105）

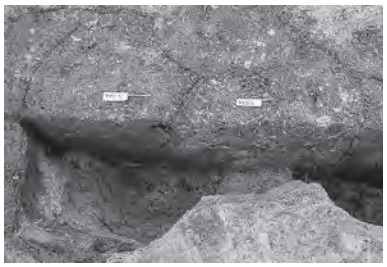

P1855（ＳＢ105）


P1351（ＳＢ106）

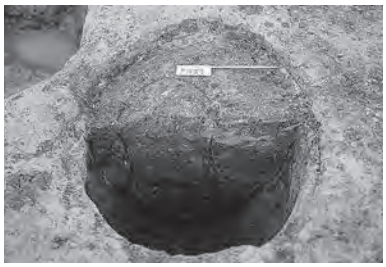
P1709（ＳＢ107）

P1822（ＳＢ107）

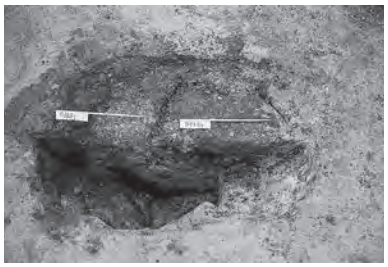

P1292（ＳＢ108）

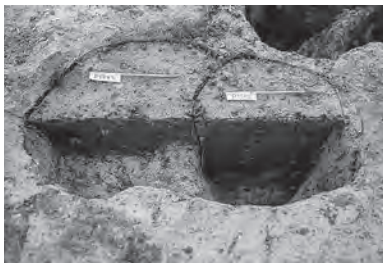

P1353（ＳＢ108）

P1384（ＳＢ108）


P1423（ＳＢ108）

P1307（ＳＢ109）


P1881（ＳＢ109）

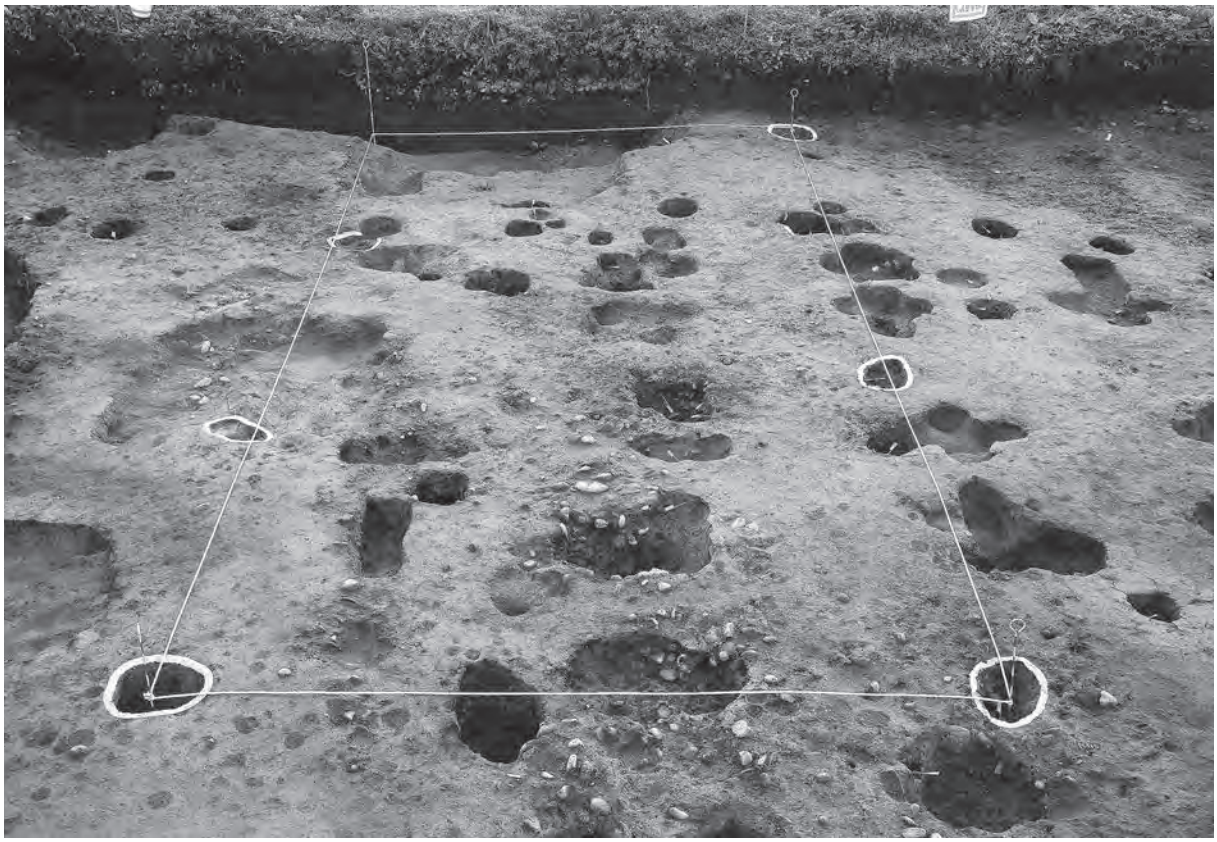

P1332（ＳＢ110）

P1379（ＳＢ110）

P1385（ＳＢ110）

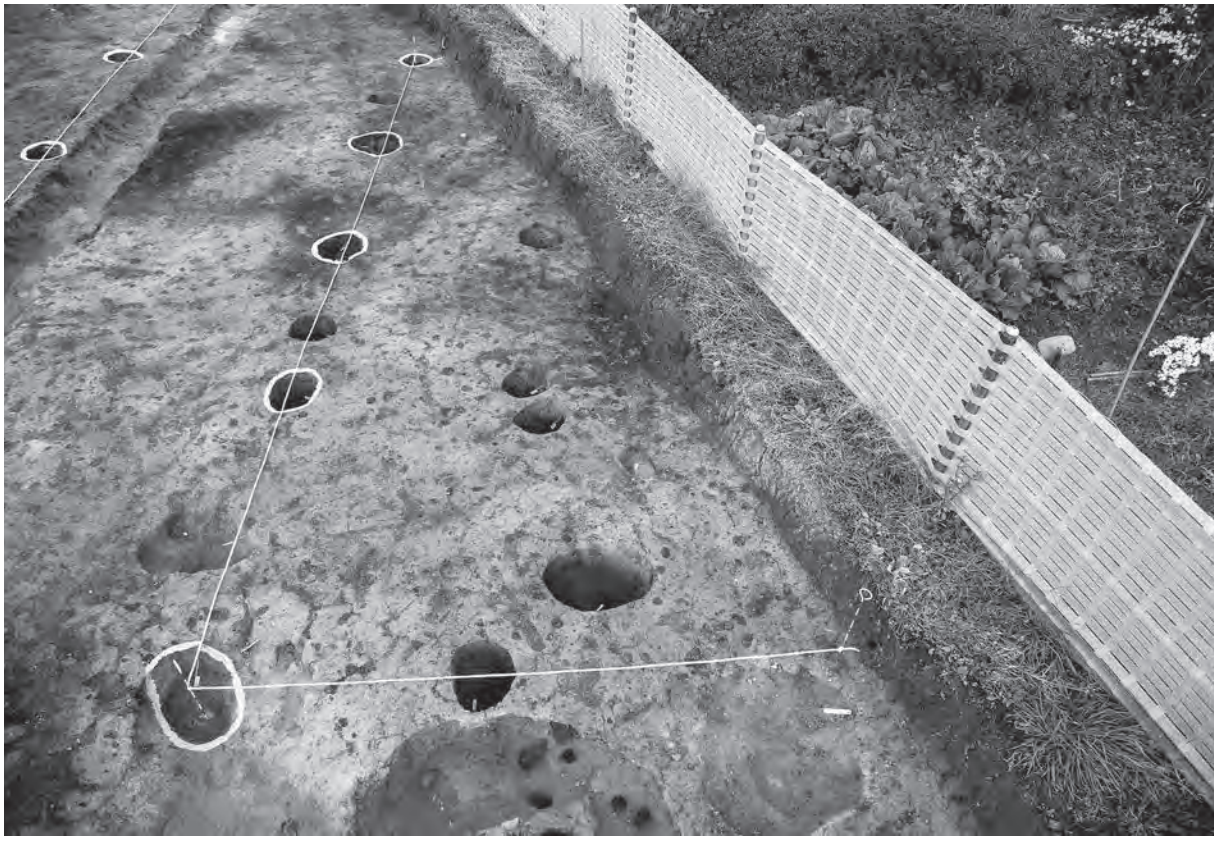
写真図版38　ＳＢ105～ＳＢ110柱穴断面

ＳＢ111　完掘

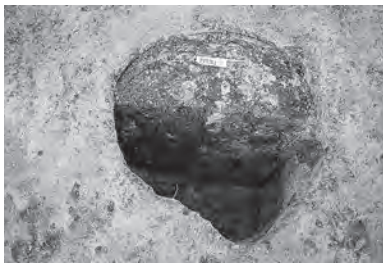


ＳＢ112　完掘

写真図版39　ＳＢ111・ＳＢ112完掘

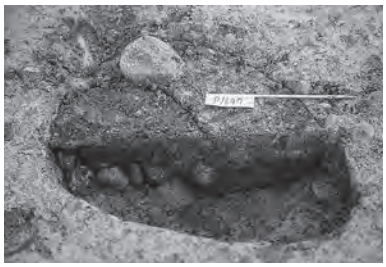


ＳＢ113　完掘

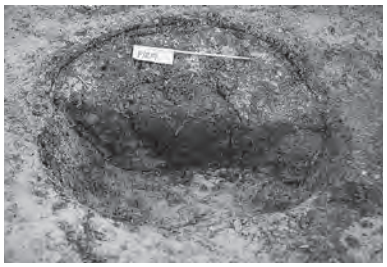


P1321（ＳＢ111）

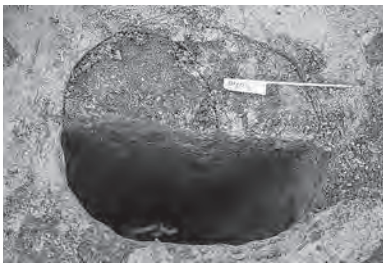
P1830（ＳＢ111）



P1697（ＳＢ112）



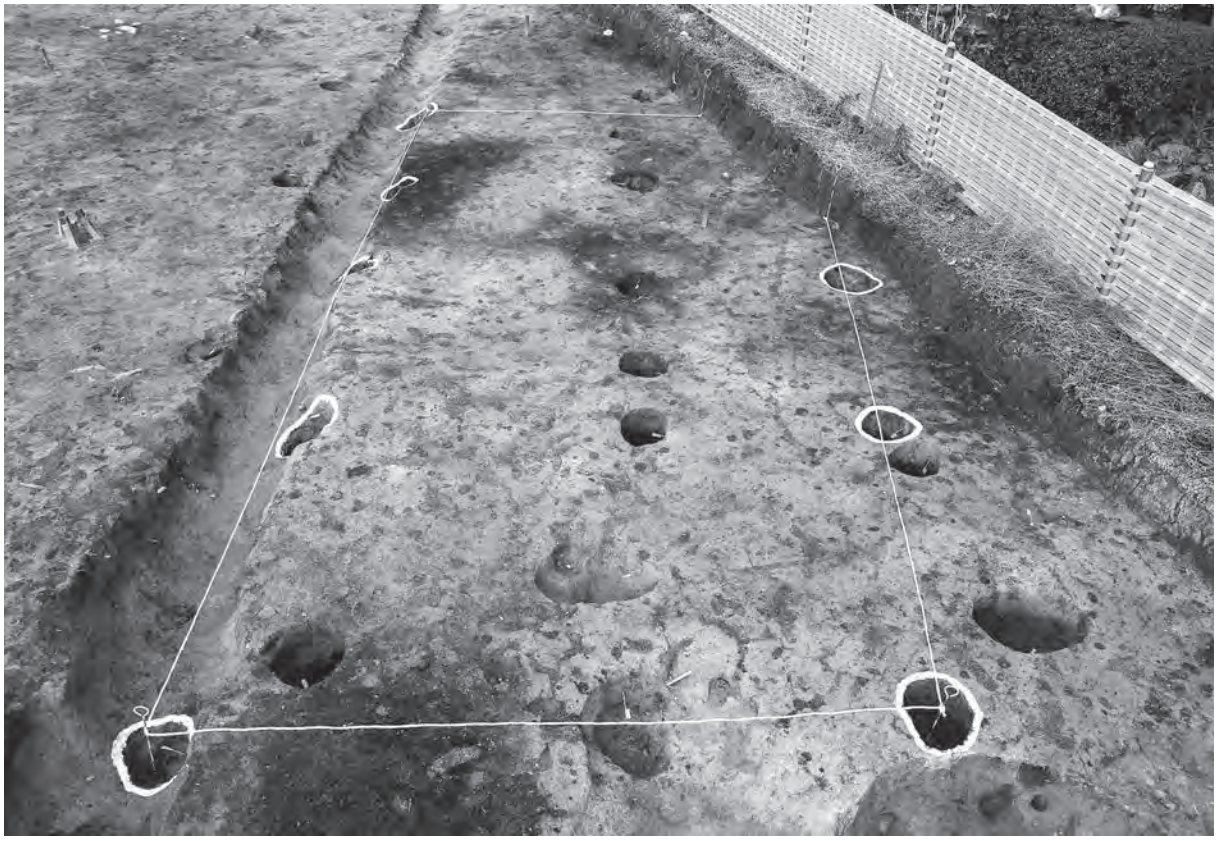
P1819（ＳＢ112）



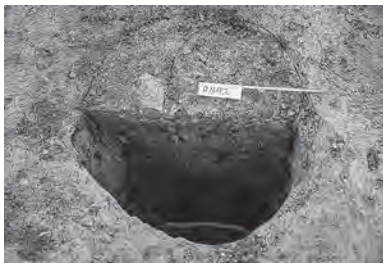
P1673（ＳＢ113）

P1679（ＳＢ113）

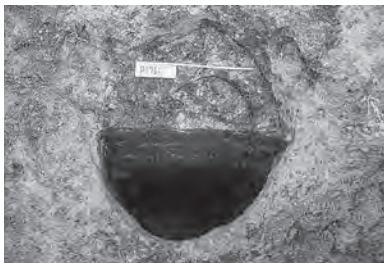
写真図版40　ＳＢ113完掘・ＳＢ111～ＳＢ113柱穴断面



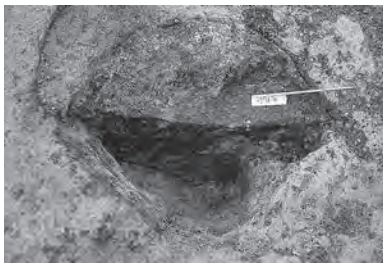
ＳＢ114　完掘



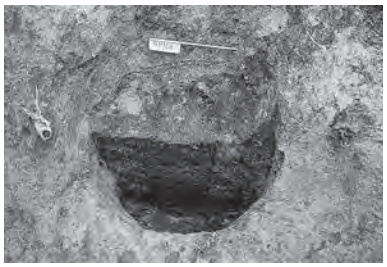
P1672（ＳＢ114）



P1761（ＳＢ114）



P1763（ＳＢ114）

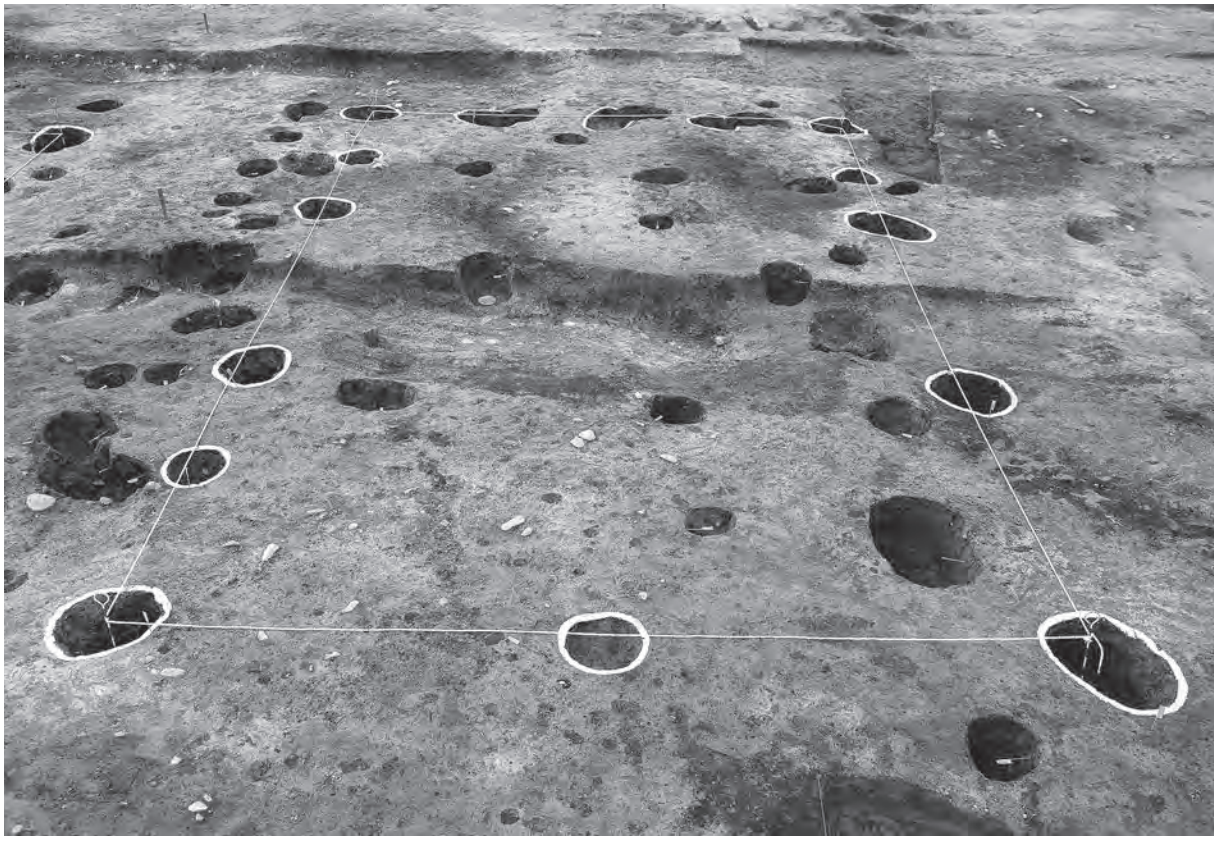


P1764（ＳＢ114）

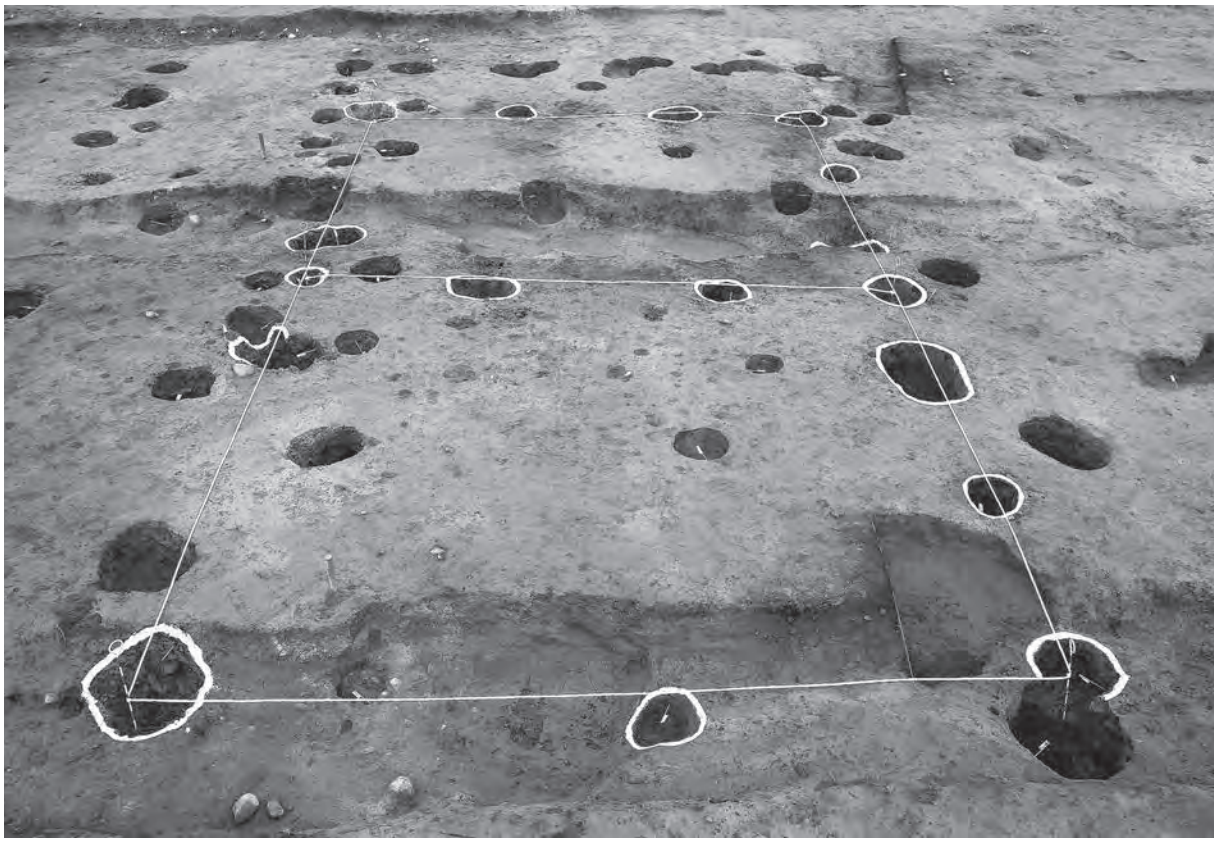
P1788（ＳＢ114）

P1823（ＳＢ114）

写真図版41　ＳＢ114完掘・柱穴断面

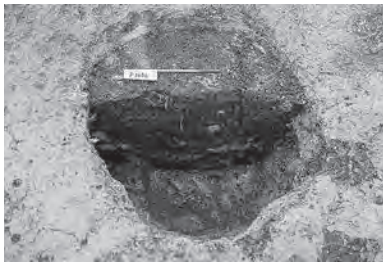


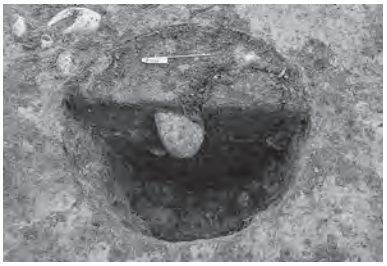
ＳＢ115　完掘



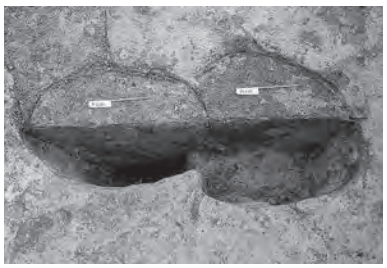
ＳＢ116　完掘

写真図版42　ＳＢ115･ＳＢ116完掘

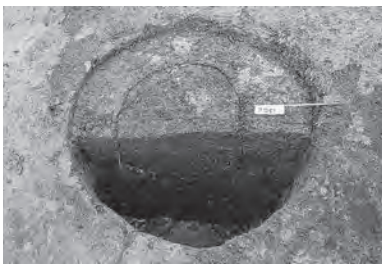

P1046（ＳＢ115）


P1222（ＳＢ115）

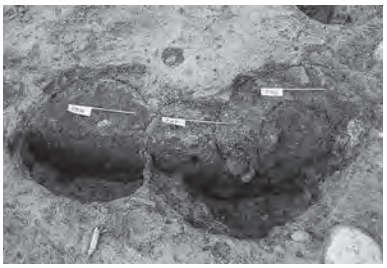
P1226（ＳＢ115）

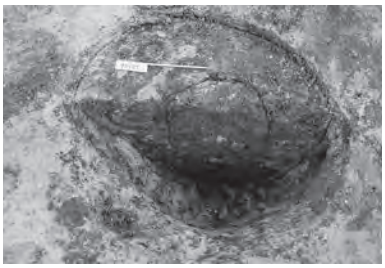

P1229（ＳＢ115）

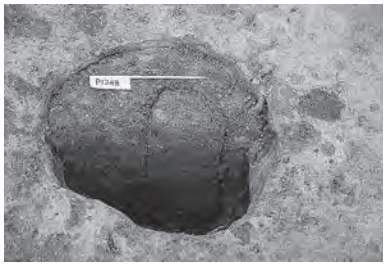
P1245（ＳＢ115）

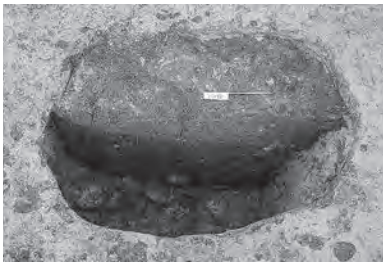

P1251（ＳＢ115）

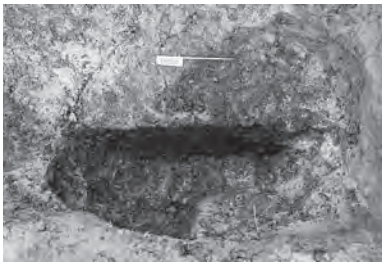
P1259（ＳＢ115）

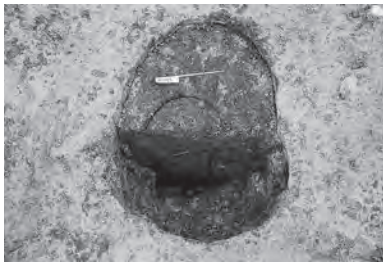

P1035（ＳＢ116）


P1237（ＳＢ116）

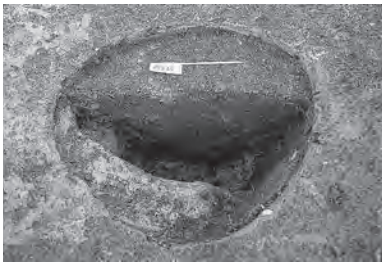

P1248（ＳＢ116）


P1258（ＳＢ116）

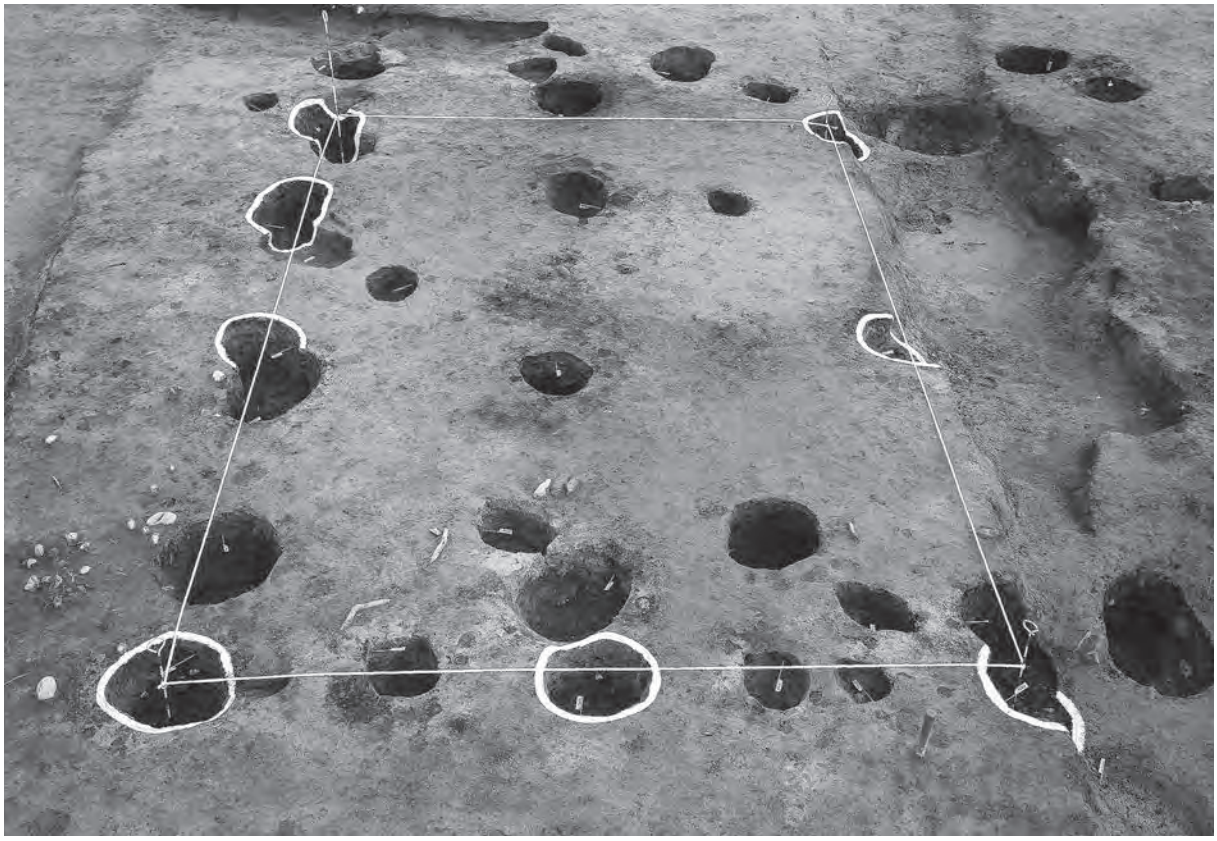

P1723（ＳＢ116）


P1732（ＳＢ116）

P1748（ＳＢ116）


P1825（ＳＢ116）

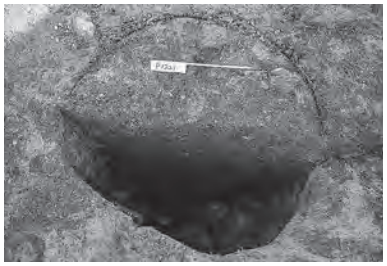
写真図版43　ＳＢ115・ＳＢ116柱穴断面



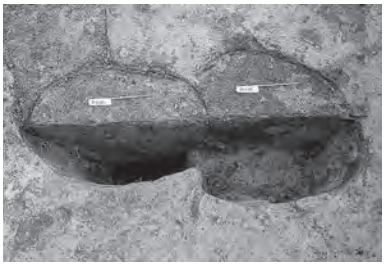
ＳＢ117　完掘

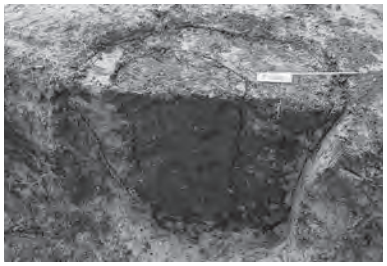
ＳＢ118　完掘

写真図版44　ＳＢ117・ＳＢ118完掘


P1221（ＳＢ117）

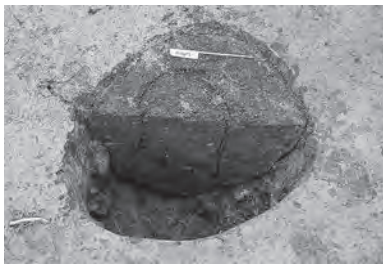
P1227（ＳＢ117）


P1230（ＳＢ117）

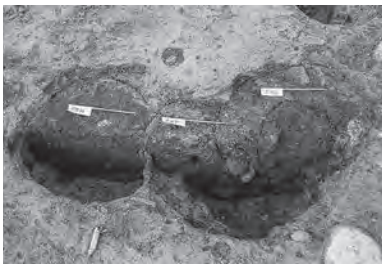

P1244（ＳＢ117）

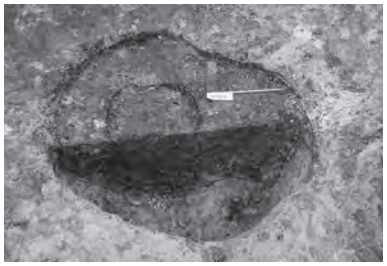
P1247（ＳＢ117）

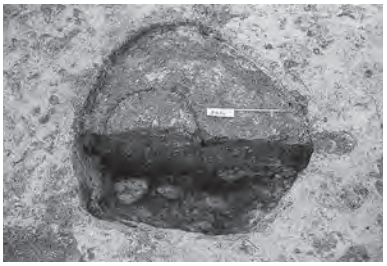
P1736（ＳＢ117）

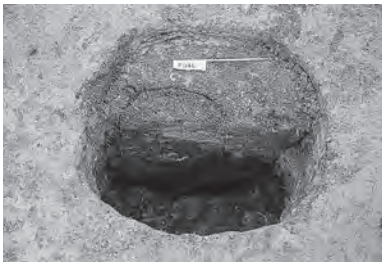

P1017（ＳＢ118）

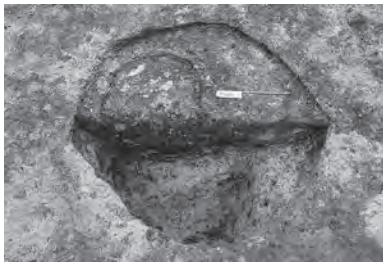
P1025（ＳＢ118）


P1034（ＳＢ118）


P1042（ＳＢ118）


P1044（ＳＢ118）


P1146（ＳＢ118）

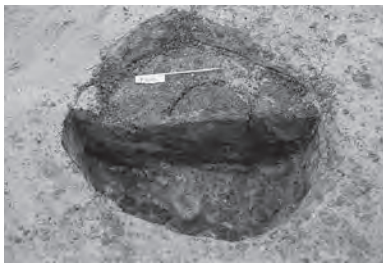

P1162（ＳＢ118）

P1164（ＳＢ118）

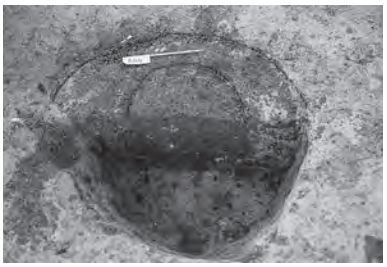
P1735（ＳＢ118）

写真図版45　ＳＢ117・ＳＢ118柱穴断面

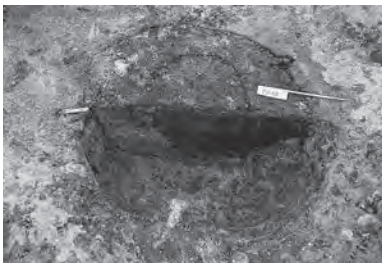
ＳＢ119　完掘



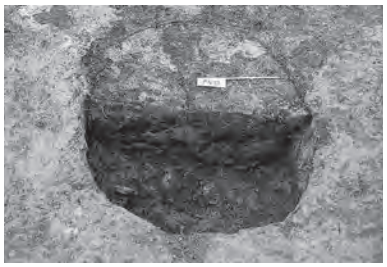
P1010（ＳＢ119）



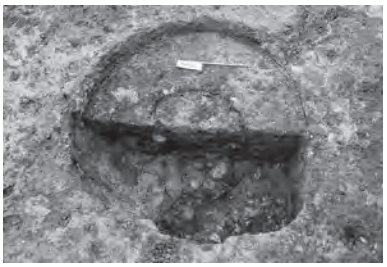
P1018（ＳＢ119）



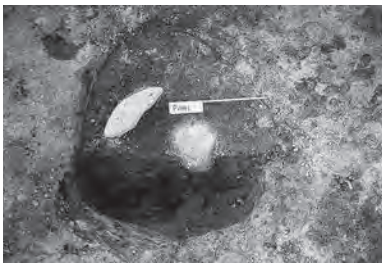
P1028（ＳＢ119）



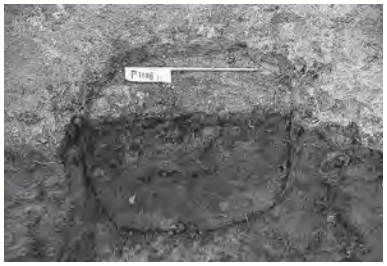
P1033（ＳＢ119）



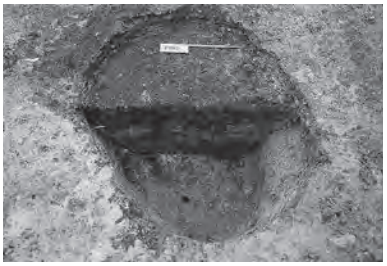
P1129（ＳＢ119）



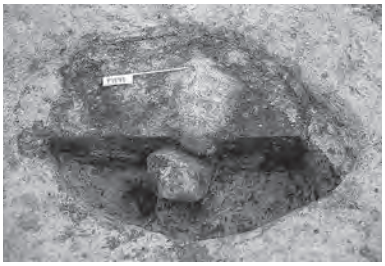
P1141（ＳＢ119）



P1148（ＳＢ119）



P1155（ＳＢ119）

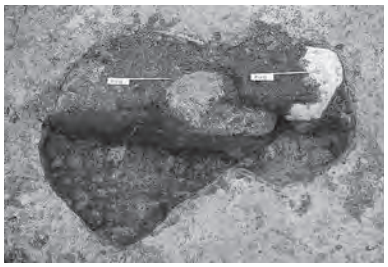


P1595（ＳＢ119）

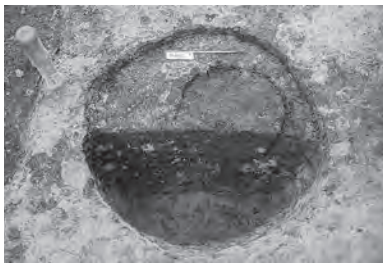
写真図版46　ＳＢ119完掘・柱穴断面

ＳＢ120　完掘

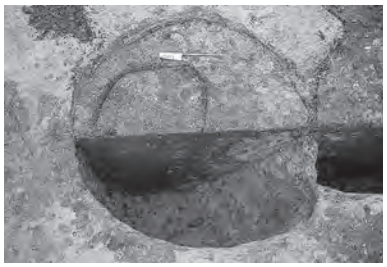
P1038（ＳＢ120）



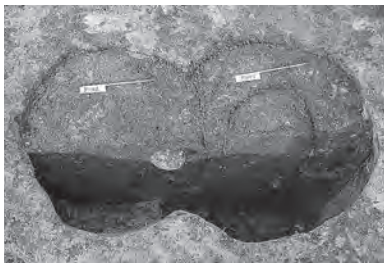
P1136（ＳＢ120）



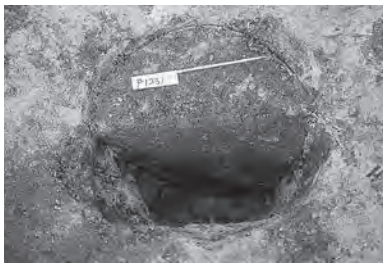
P1150（ＳＢ120）



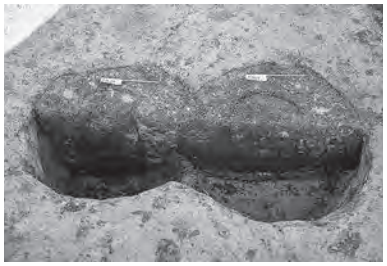
P1153（ＳＢ120）



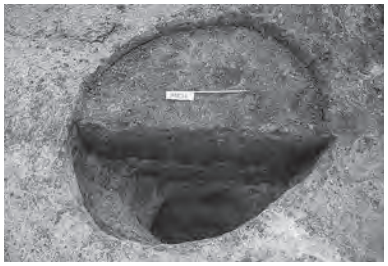
P1167（ＳＢ120）



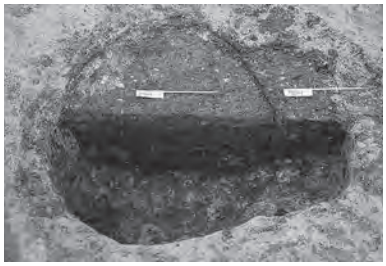
P1231（ＳＢ120）



P1605（ＳＢ120）



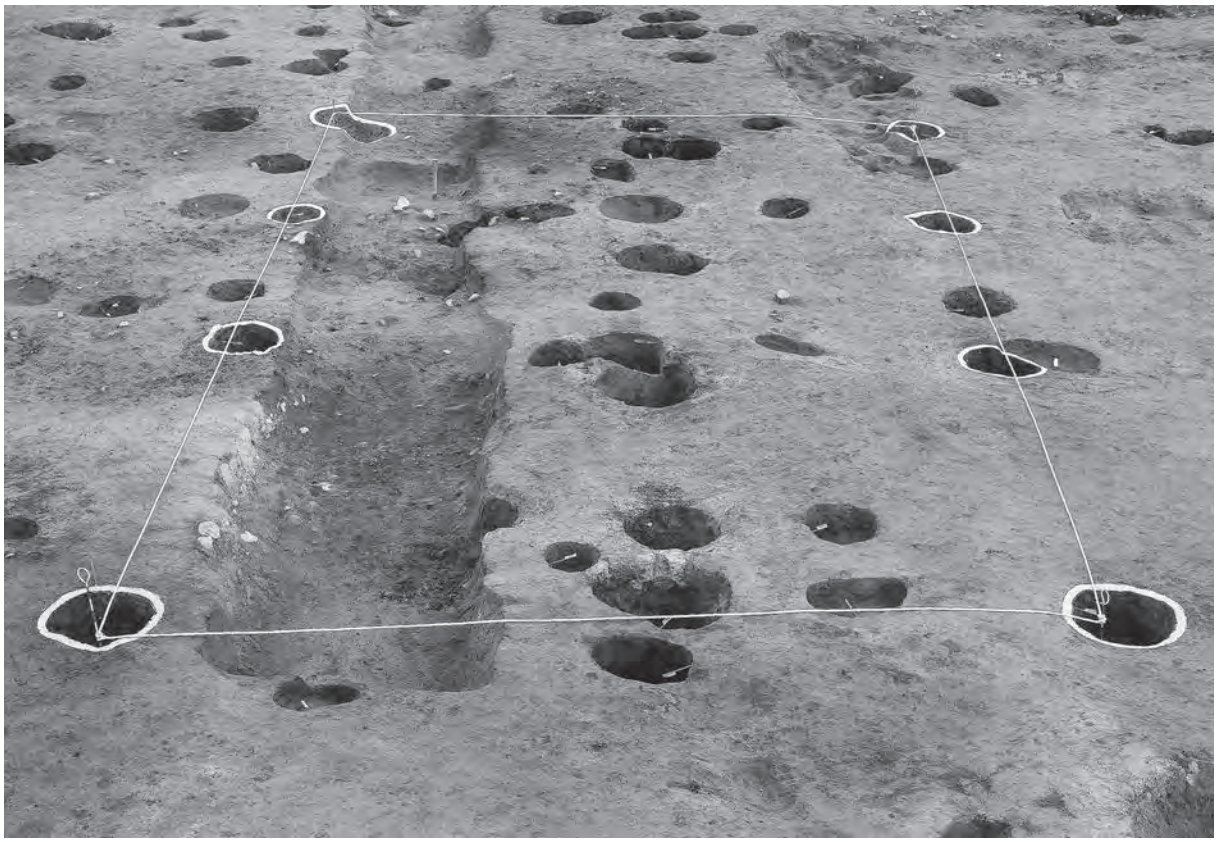
P1826（ＳＢ120）



P1893（ＳＢ120）

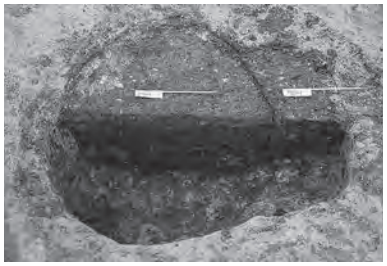
写真図版47　ＳＢ120完掘・柱穴断面

ＳＢ121　完掘



ＳＢ122　完掘

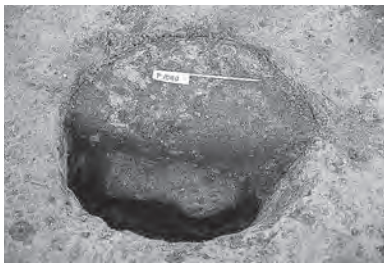
写真図版48　ＳＢ121・ＳＢ122完掘


P1011（ＳＢ121）

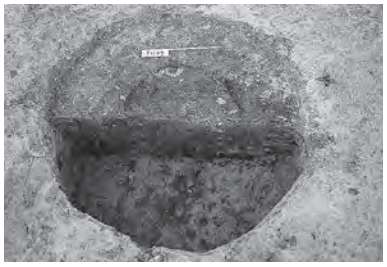
P1013（ＳＢ121）

P1029（ＳＢ121）

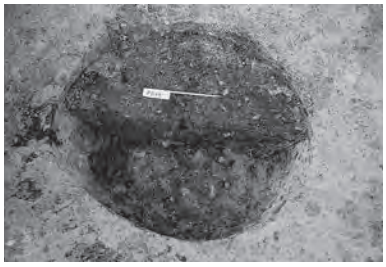
P1039（ＳＢ121）


P1040（ＳＢ121）

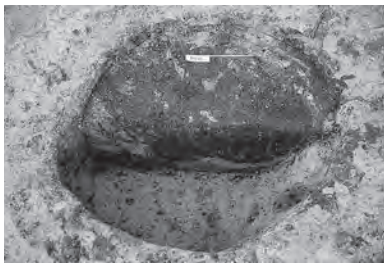
P1133（ＳＢ121）

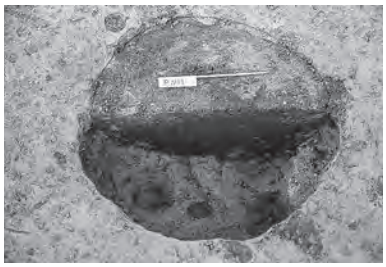

P1134（ＳＢ121）

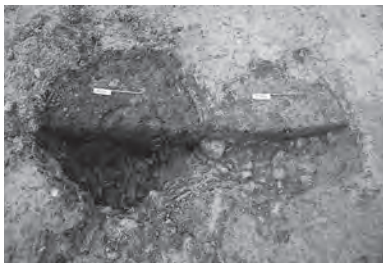
P1139（ＳＢ121）

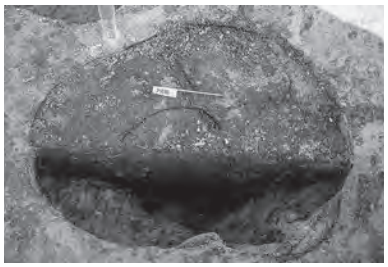

P1144（ＳＢ121）

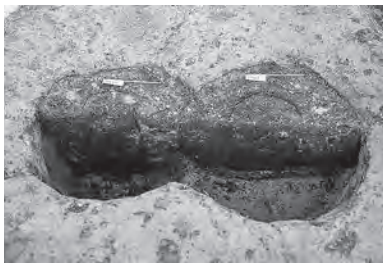
P1152（ＳＢ121）

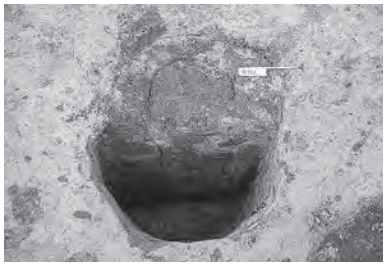

P1159（ＳＢ121）

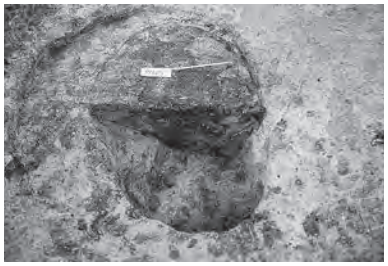

P1161（ＳＢ121）


P1169（ＳＢ121）


P1596（ＳＢ121）

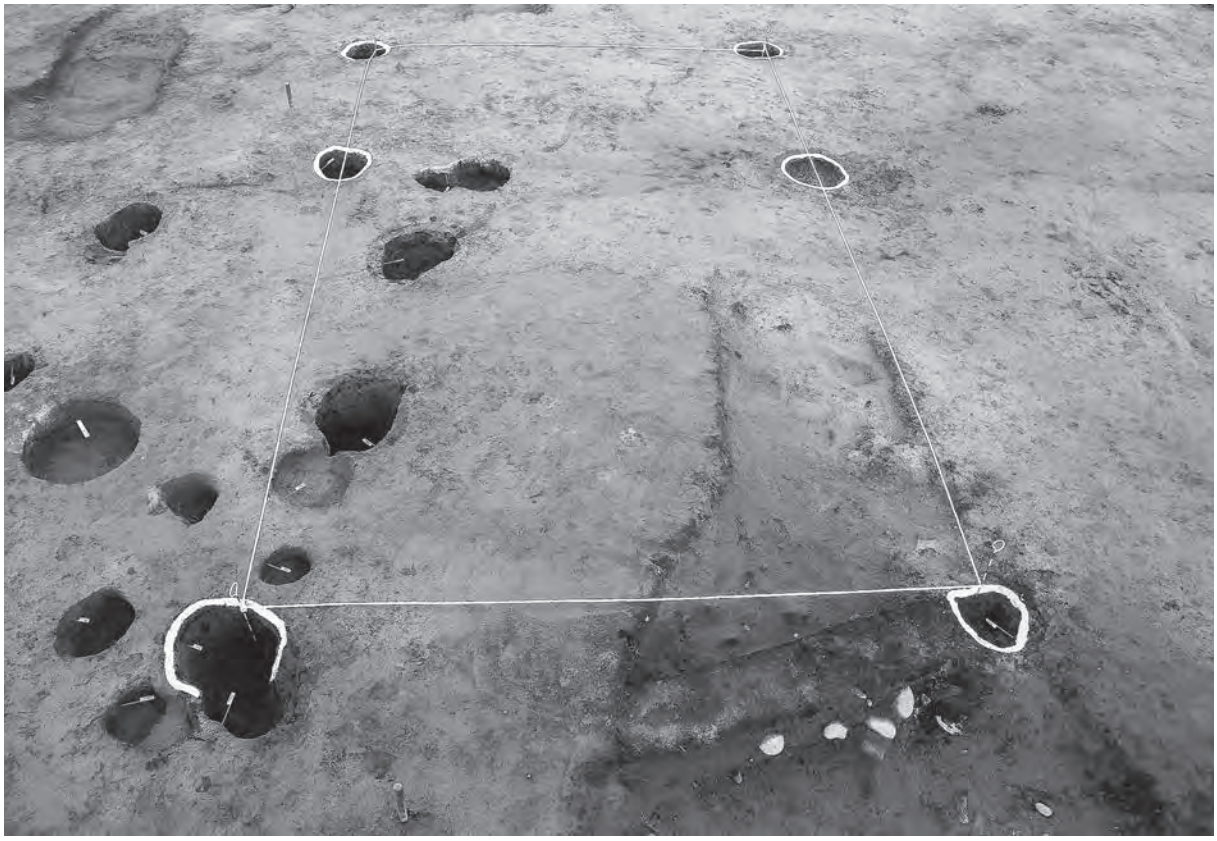

P1604（ＳＢ121）


P1606（ＳＢ121）

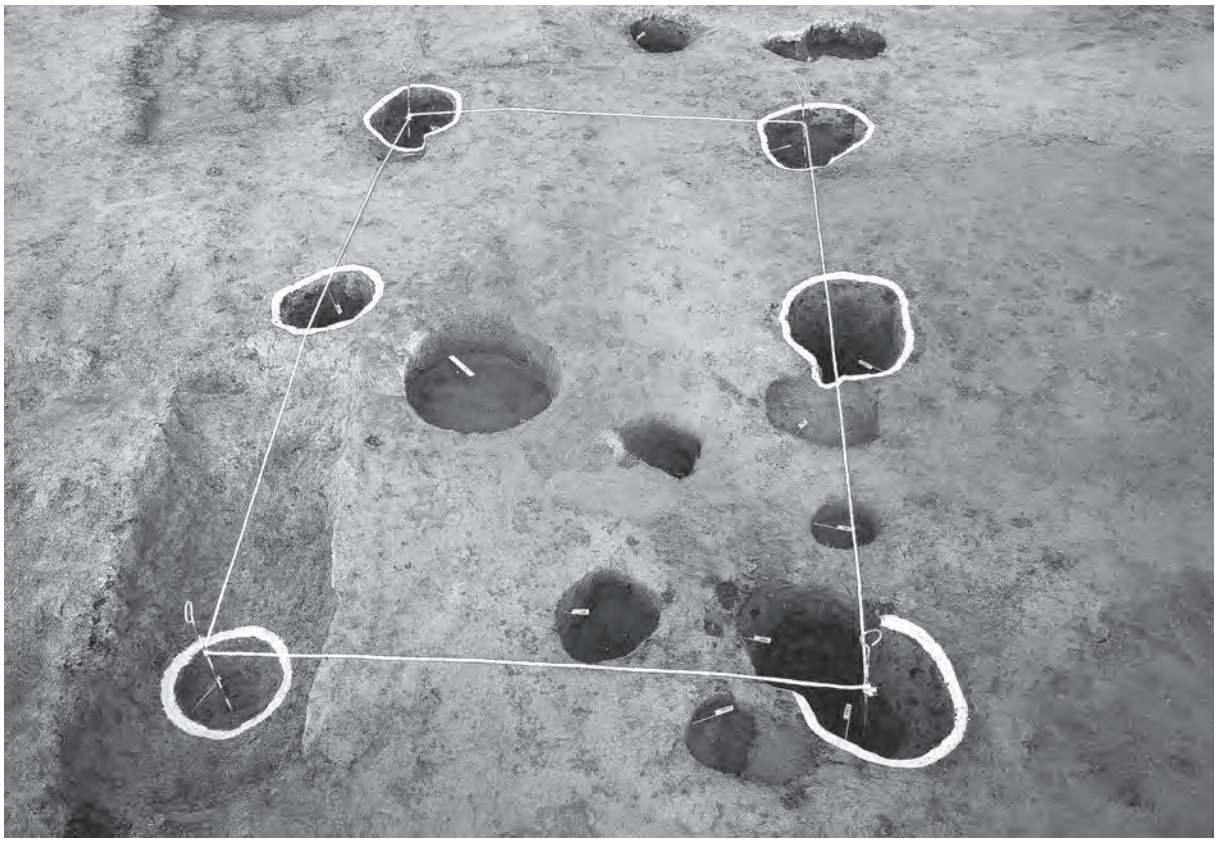

P1607（ＳＢ121）

P1810（ＳＢ121）

写真図版49　ＳＢ121柱穴断面

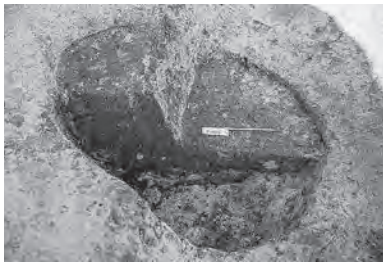


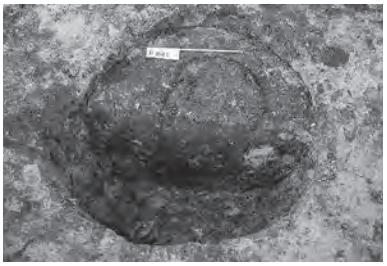
ＳＢ123　完掘



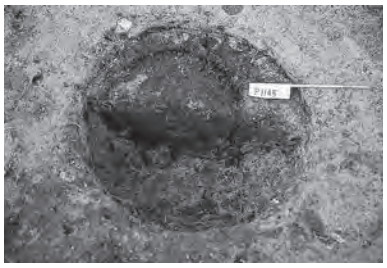
ＳＢ124　完掘

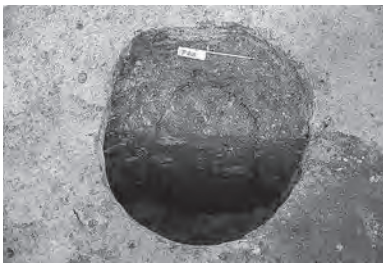
写真図版50　ＳＢ123・ＳＢ124完掘

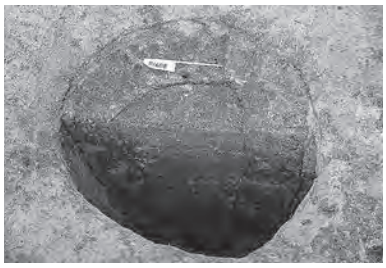

P1026（ＳＢ122）

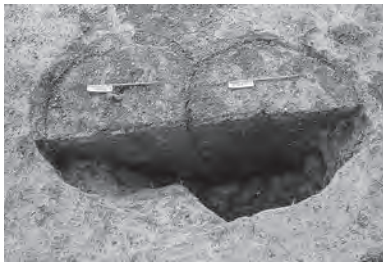

P1041（ＳＢ122）

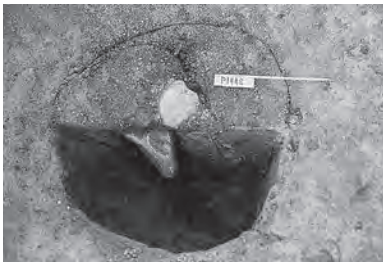
P1142（ＳＢ122）


P1145（ＳＢ122）


P1165（ＳＢ122）


P1608（ＳＢ122）

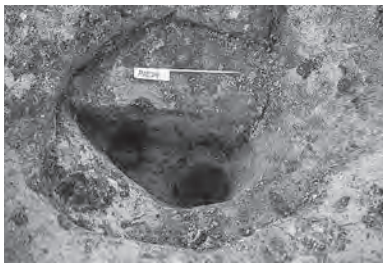

P1443（ＳＢ123）


P1448（ＳＢ123）

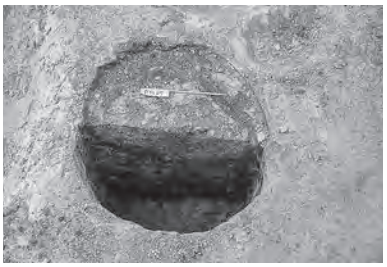
P1451（ＳＢ123）

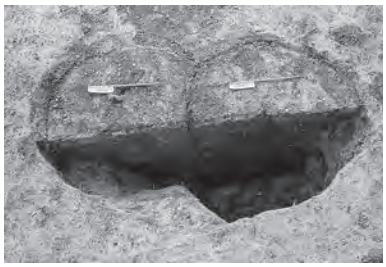
P1525（ＳＢ123）

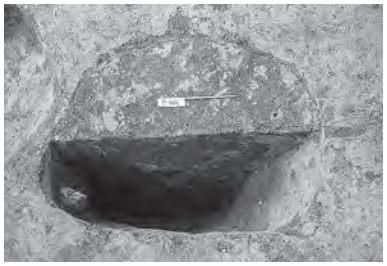
P1526（ＳＢ123）


P1824（ＳＢ123）

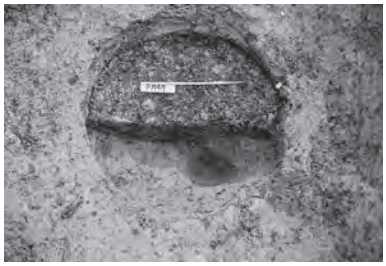
P1435（ＳＢ124）


P1437（ＳＢ124）


P1442（ＳＢ124）

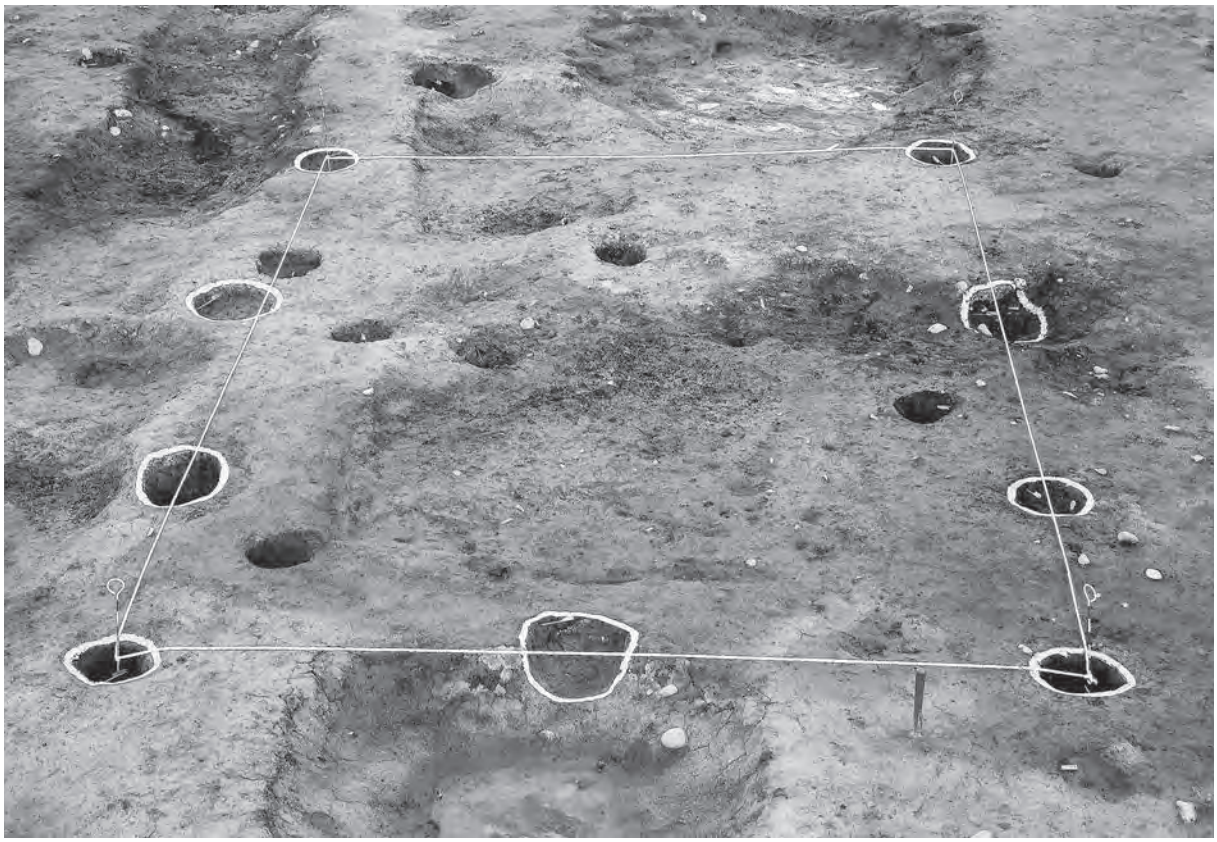

P1445（ＳＢ124）

P1449（ＳＢ124）


P1747（ＳＢ124）

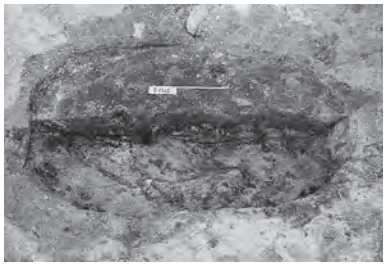
写真図版51　ＳＢ122～ＳＢ124柱穴断面

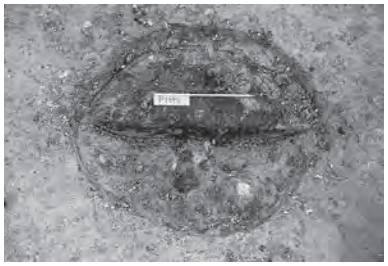
ＳＢ125　完掘

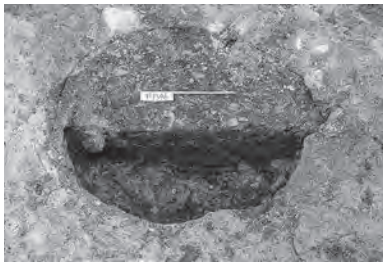


ＳＢ126　完掘

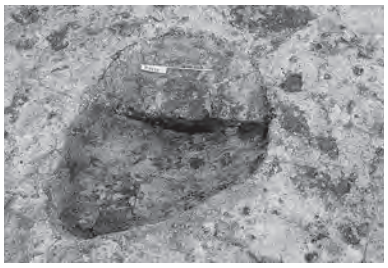
写真図版52　ＳＢ125・ＳＢ126完掘

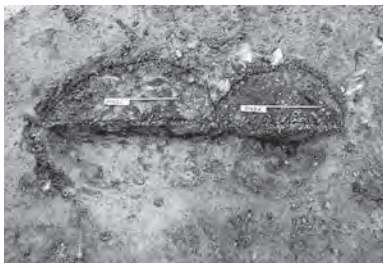

P1368（ＳＢ125）

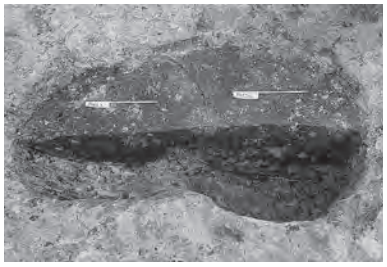

P1395（ＳＢ125）

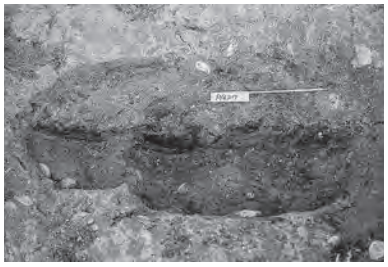

P1396（ＳＢ125）

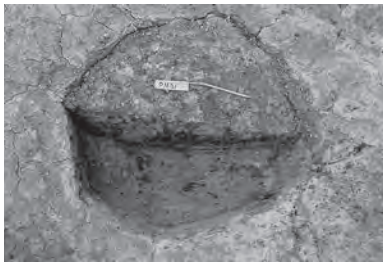
P1397（ＳＢ125）


P1406（ＳＢ125）

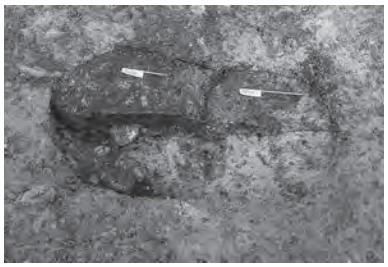

P1621（ＳＢ125）

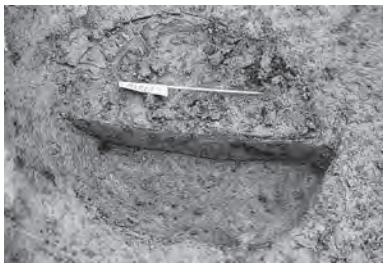

P1622（ＳＢ125）

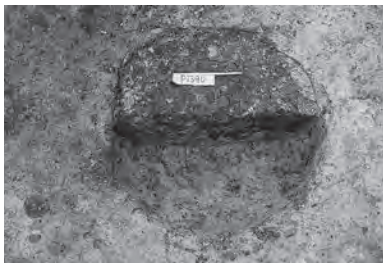

P1627（ＳＢ125）

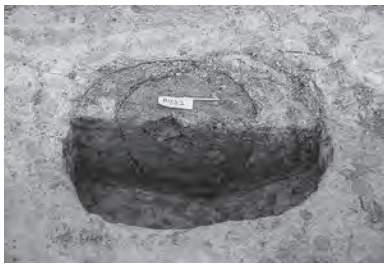

P1631（ＳＢ125）

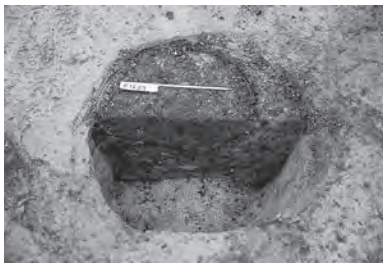
P1753（ＳＢ125）

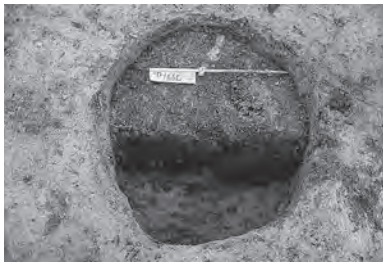

P1754（ＳＢ125）

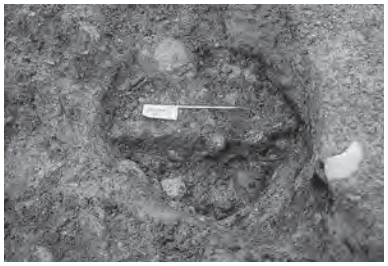

P1806（ＳＢ125）


P1390（ＳＢ126）


P1632（ＳＢ126）

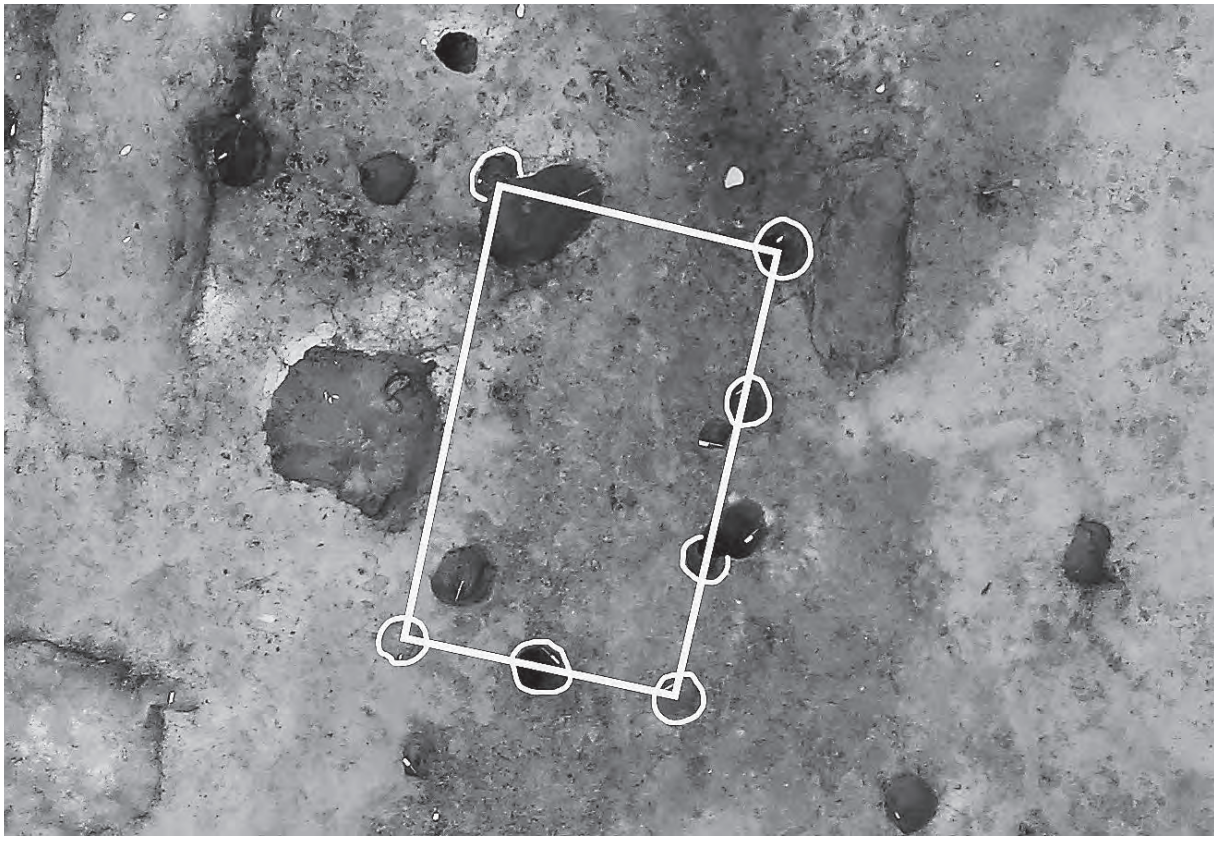

P1657（ＳＢ126）


P1660（ＳＢ126）

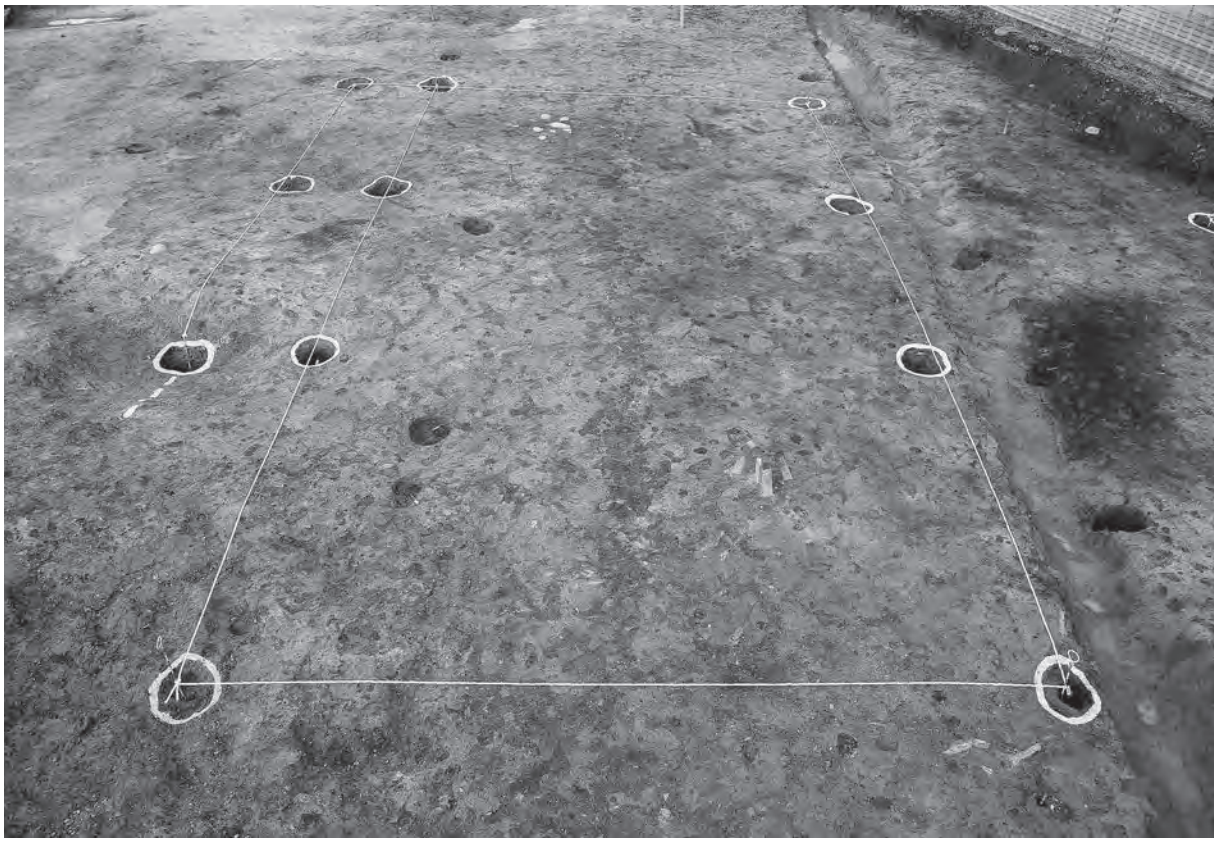

P1817（ＳＢ126）

P1820（ＳＢ126）

写真図版53　ＳＢ125・ＳＢ126柱穴断面

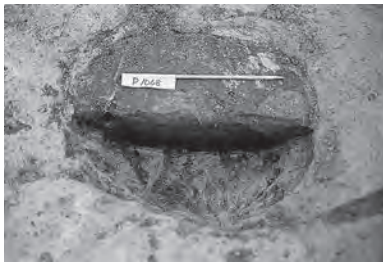


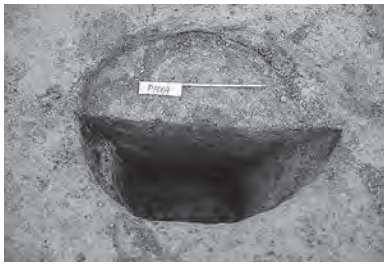
ＳＢ127　完掘

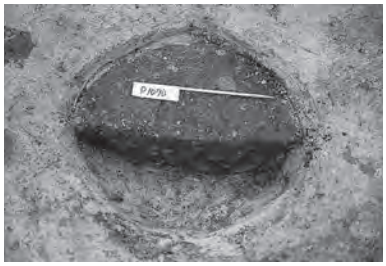


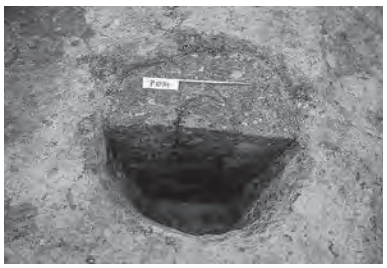
ＳＢ128　完掘

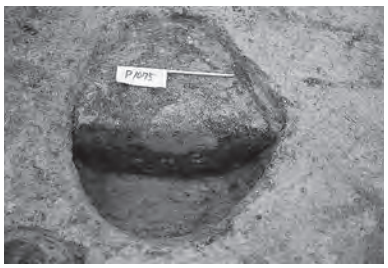
写真図版54　ＳＢ127・ＳＢ128完掘

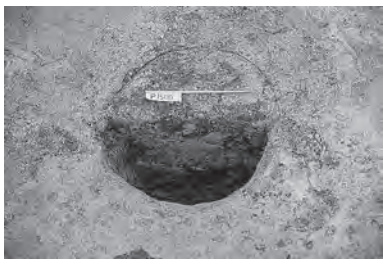

P1068（ＳＢ127）

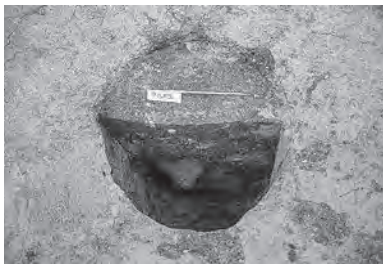

P1069（ＳＢ127）

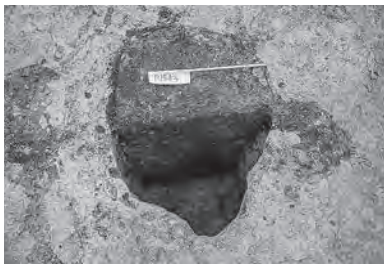

P1070（ＳＢ127）


P1074（ＳＢ127）

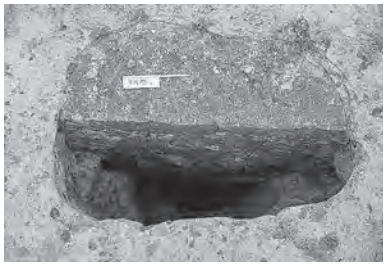

P1075（ＳＢ127）


P1500（ＳＢ128）

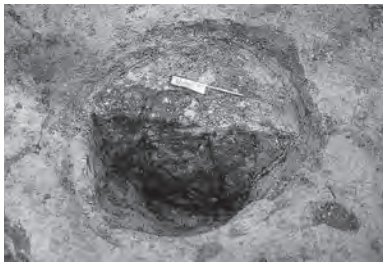

P1542（ＳＢ128）

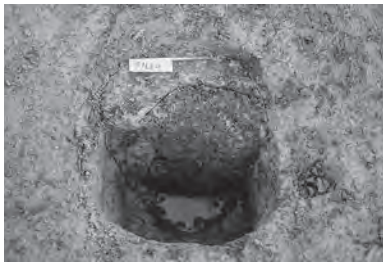

P1543（ＳＢ128）

P1545（ＳＢ128）

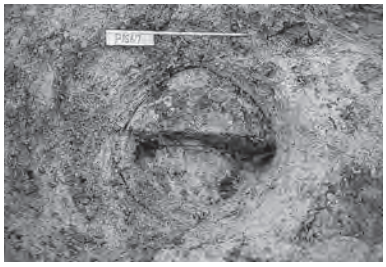

P1546（ＳＢ128）

P1680（ＳＢ128）


P1682（ＳＢ128）


P1684（ＳＢ128）

P1787（ＳＢ128）


P1867（ＳＢ128）

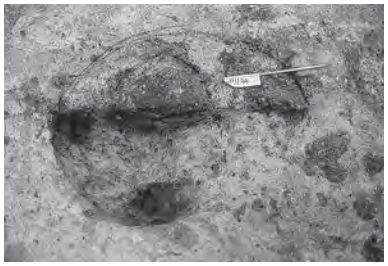
写真図版55　ＳＢ127・ＳＢ128柱穴断面

ＳＢ129　完掘

ＳＢ130　完掘

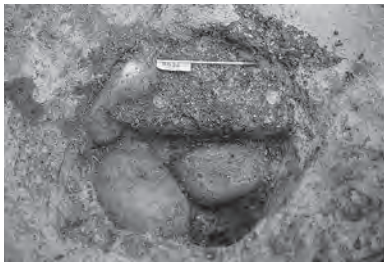
写真図版56　ＳＢ129･ＳＢ130完掘

P1617（ＳＢ129）


P1634（ＳＢ129）

P1635（ＳＢ129）

P1638（ＳＢ129）

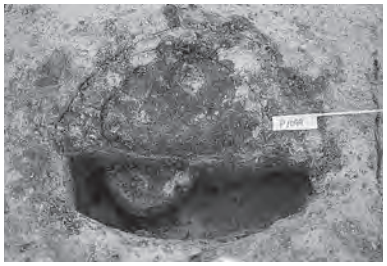

P1639（ＳＢ129）

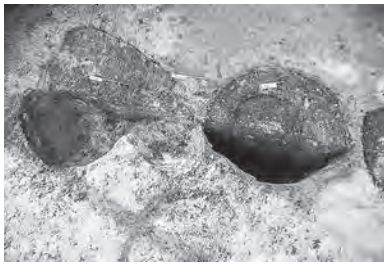
P1640（ＳＢ129）

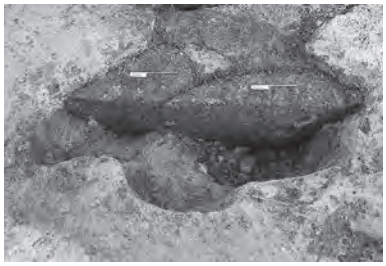
P1641（ＳＢ129）

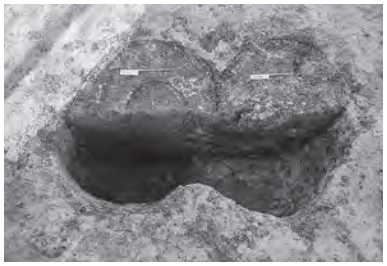
P1646（ＳＢ129）

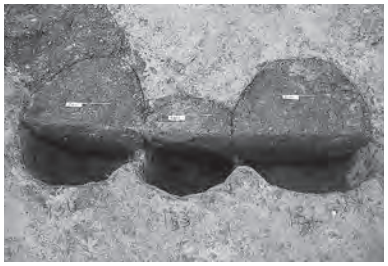
P1813（ＳＢ129）

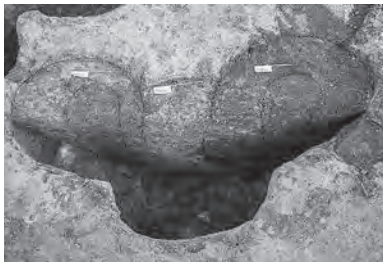

P1099（ＳＢ130）


P1109（ＳＢ130）


P1177（ＳＢ130）


P1181（ＳＢ130）


P1196（ＳＢ130）

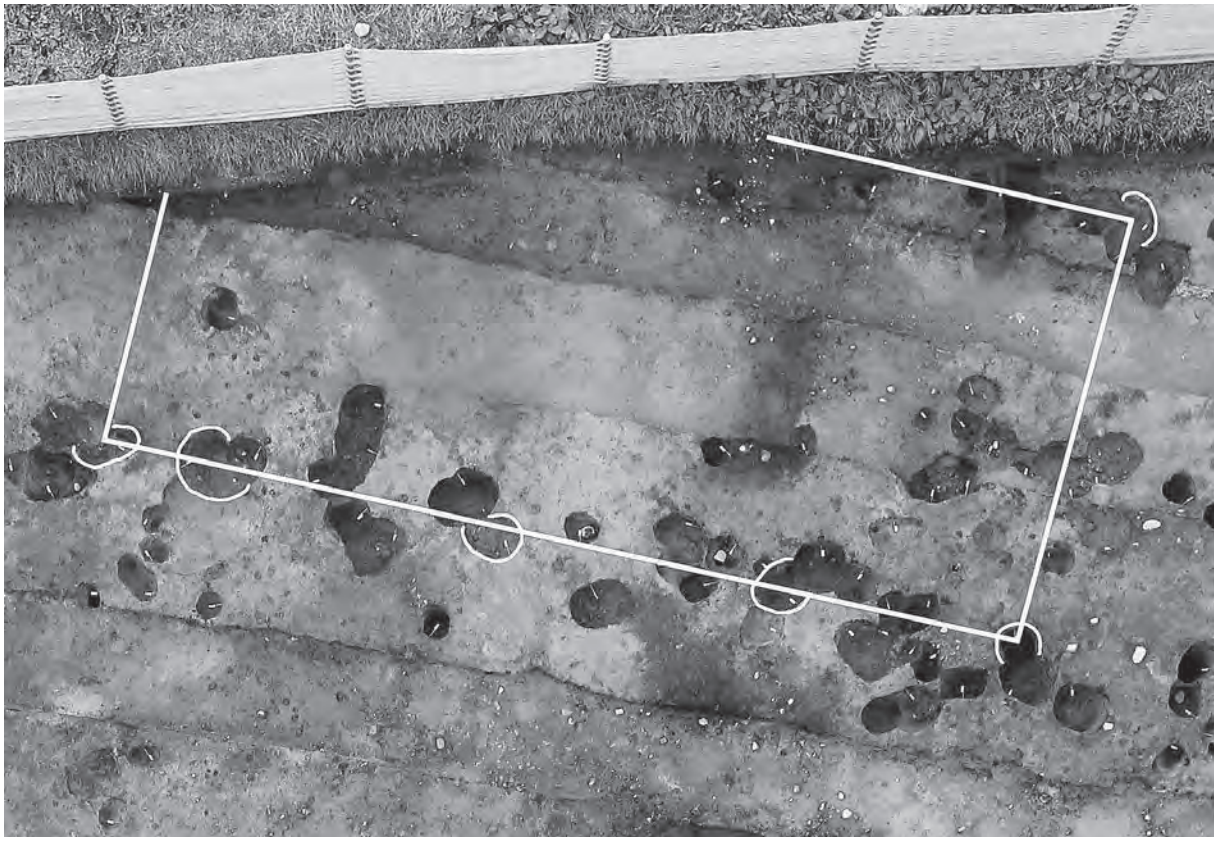

P1206（ＳＢ130）

写真図版57　ＳＢ129・ＳＢ130柱穴断面

ＳＢ131　完掘

ＳＢ132　完掘

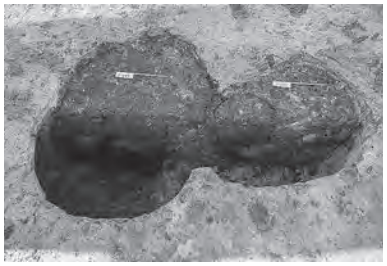
写真図版58　ＳＢ131・ＳＢ132完掘

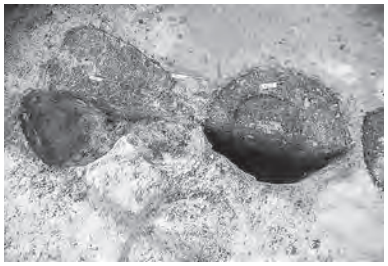


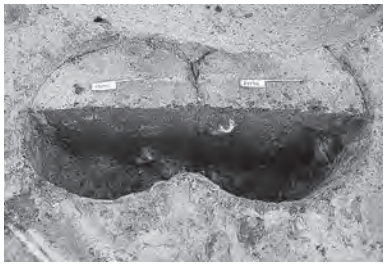
ＳＢ133　完掘

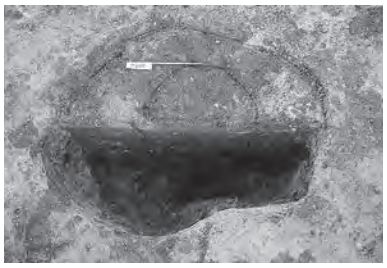
ＳＢ134　完掘

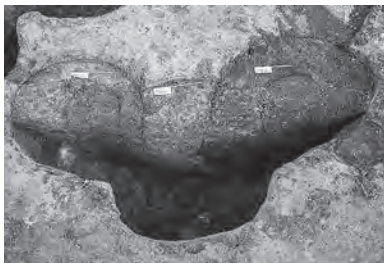
写真図版59　ＳＢ133･ＳＢ134完掘

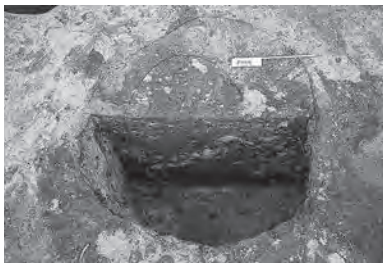

P1097（ＳＢ131）

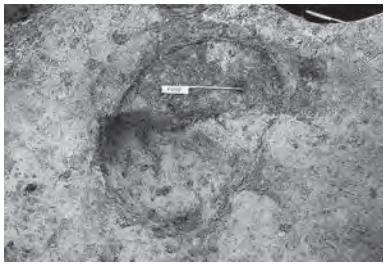

P1106（ＳＢ131）

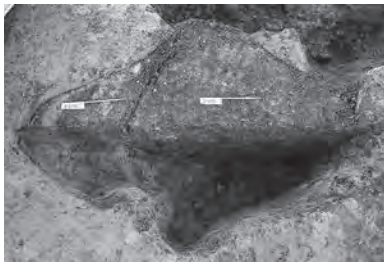

P1175（ＳＢ131）

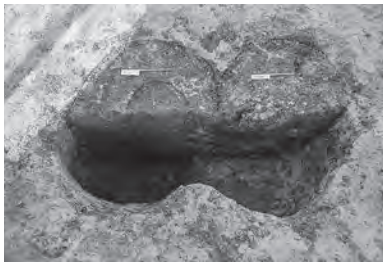

P1185（ＳＢ131）

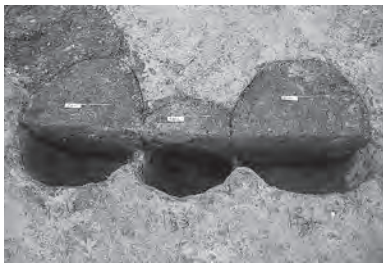

P1210（ＳＢ131）


P1104（ＳＢ132）

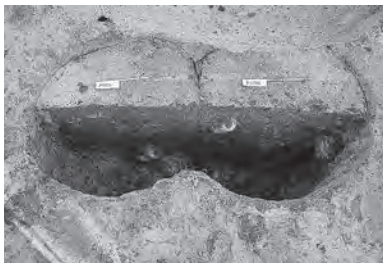

P1108（ＳＢ132）

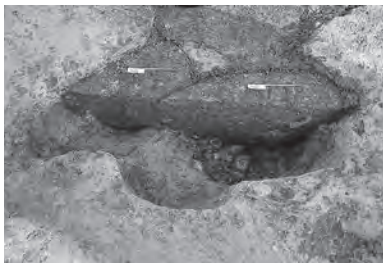

P1179（ＳＢ132）

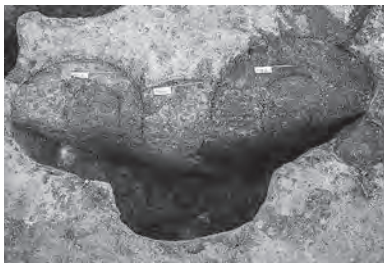

P1180（ＳＢ132）

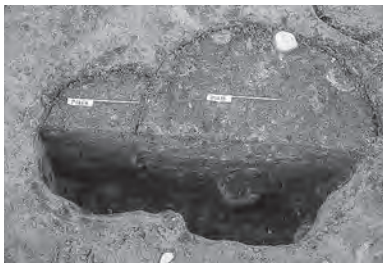

P1195（ＳＢ132）

P1212（ＳＢ132）

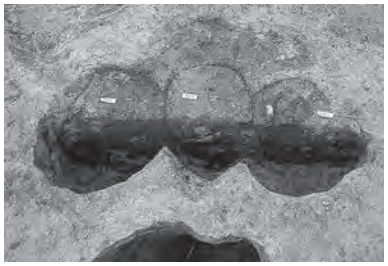

P1174（ＳＢ133）

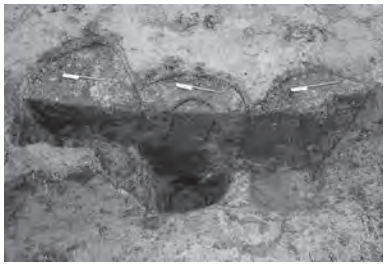

P1176（ＳＢ133）


P1208（ＳＢ133）


P1464（ＳＢ133）

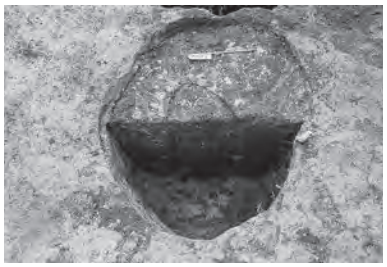
P1214（ＳＢ134）


P1478（ＳＢ134）


P1515（ＳＢ134）

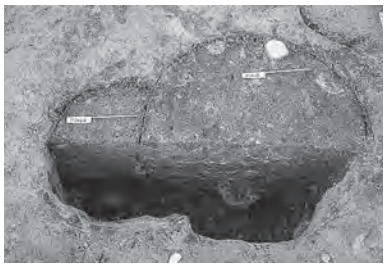
写真図版60　ＳＢ131～ＳＢ134柱穴断面

ＳＢ135　完掘



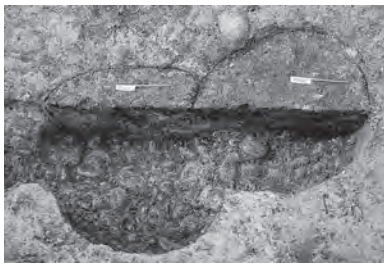
P1452（ＳＢ135）

P1458（ＳＢ135）

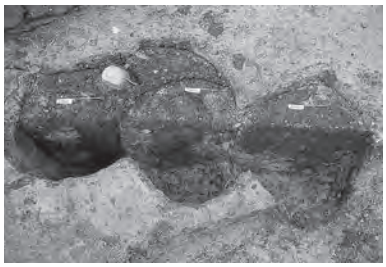


P1465（ＳＢ135）

P1473（ＳＢ135）



P1484（ＳＢ135）

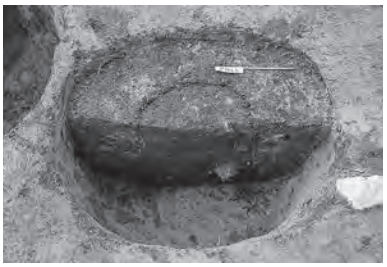


P1492（ＳＢ135）

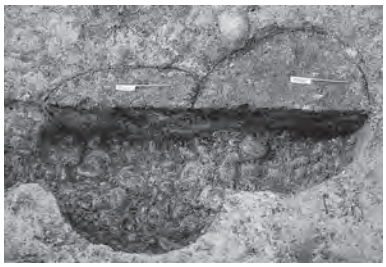
写真図版61　ＳＢ135完掘・柱穴断面

ＳＢ136　完掘

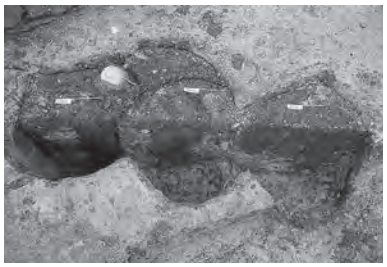
P1457（ＳＢ136）



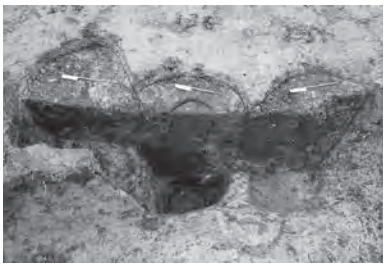
P1463（ＳＢ136）



P1485（ＳＢ136）



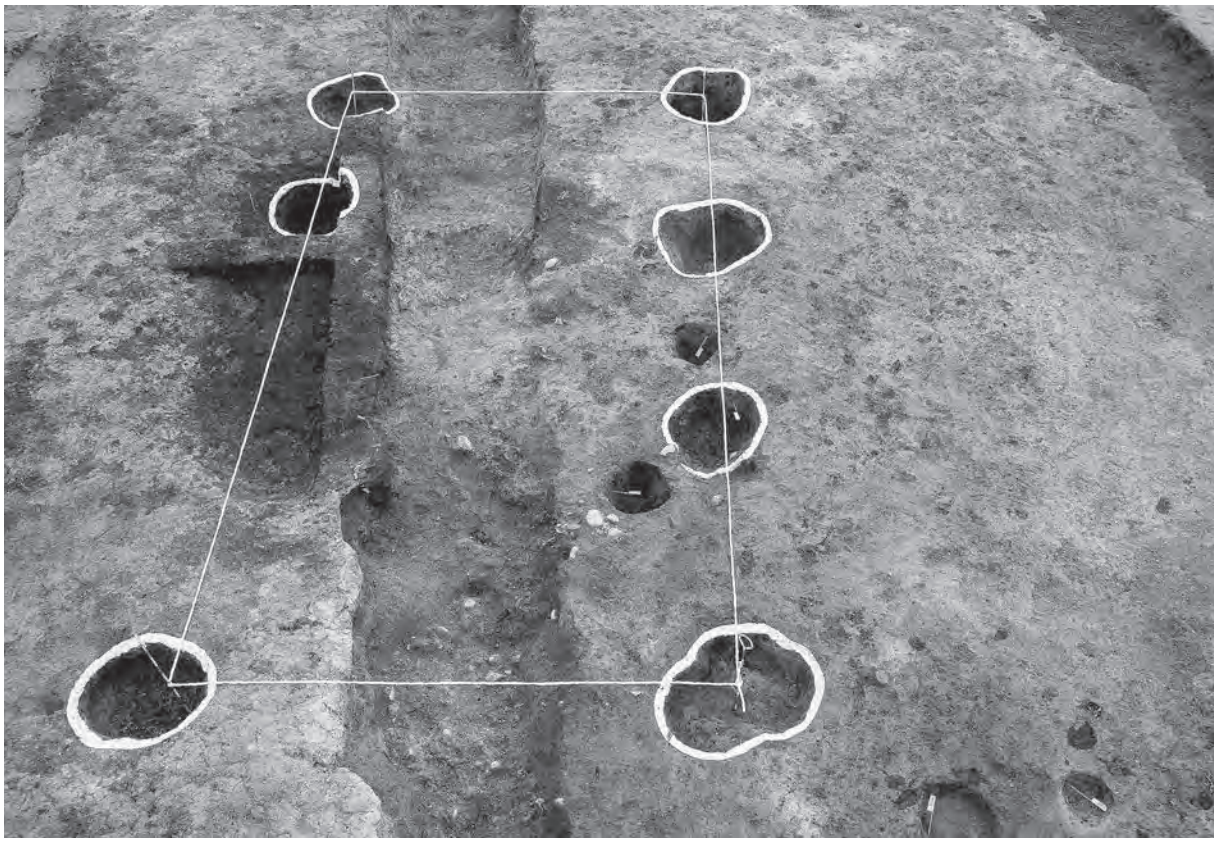
P1494（ＳＢ136）



P1514（ＳＢ136）

写真図版62　ＳＢ136完掘・柱穴断面

ＳＢ137　完掘



ＳＢ138　完掘

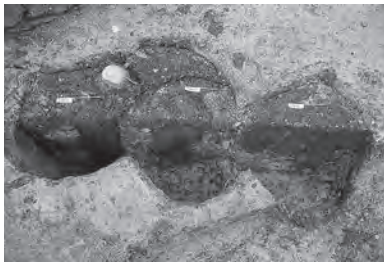
写真図版63　ＳＢ137・ＳＢ138完掘

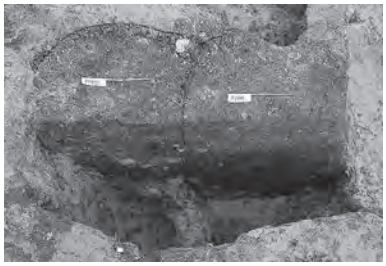
ＳＢ139　完掘

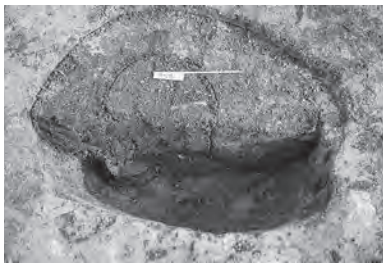
ＳＢ140　完掘

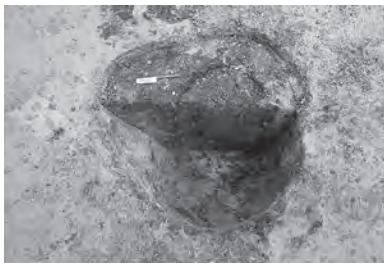
写真図版64　ＳＢ139･ＳＢ140完掘

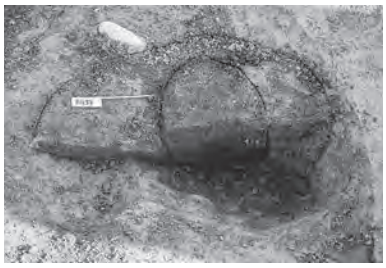
P1479（ＳＢ137）

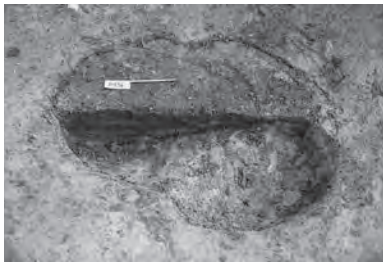

P1493（ＳＢ137）

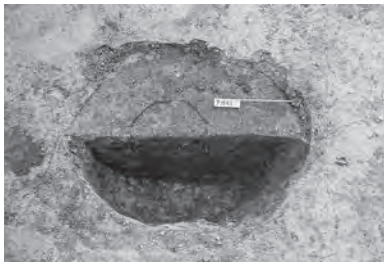

P1498（ＳＢ137）


P1518（ＳＢ138）

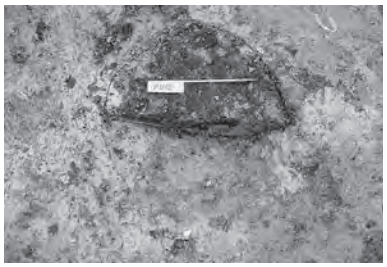

P1519（ＳＢ138）


P1533（ＳＢ138）

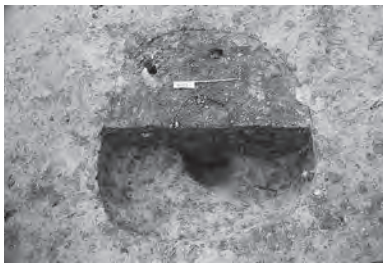

P1536（ＳＢ138）


P1541（ＳＢ138）

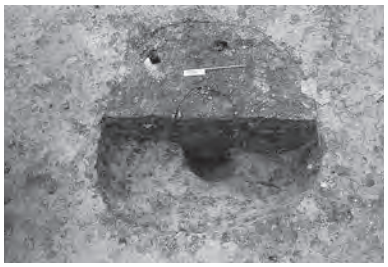
P1796（ＳＢ138）

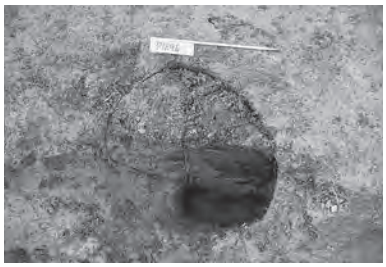

P1110（ＳＢ139）

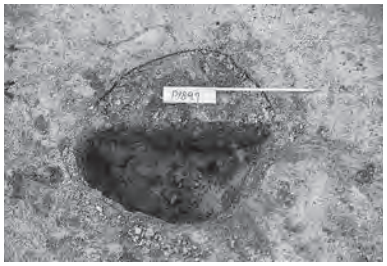
P1121（ＳＢ139）


P1122（ＳＢ139）

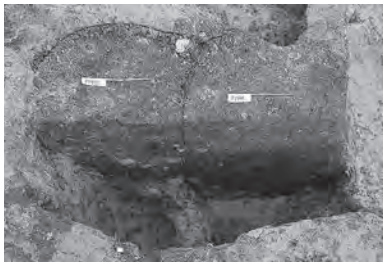
P1594（ＳＢ139）


P1795（ＳＢ139）

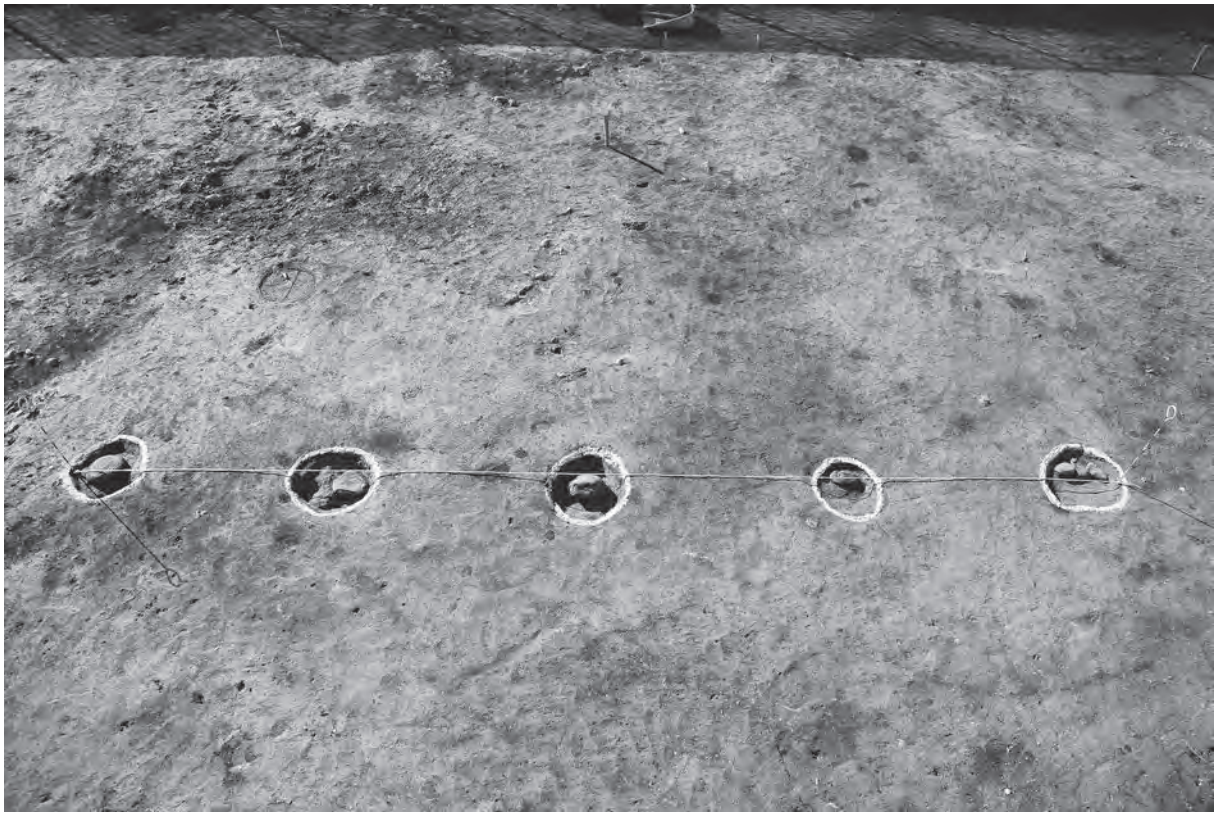

P1896（ＳＢ139）


P1897（ＳＢ139）

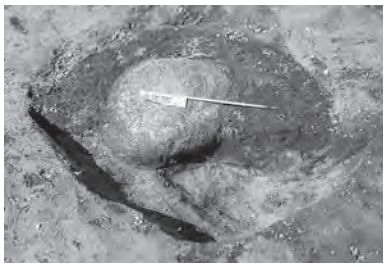
P1487（ＳＢ140）


P1499（ＳＢ140）

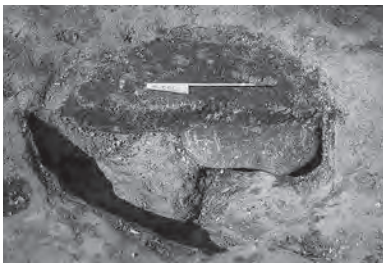
写真図版65　ＳＢ137～ＳＢ140柱穴断面



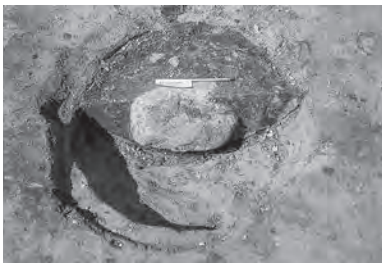
ＳＡ101　完掘



P1575（ＳＡ101）



P1576（ＳＡ101）

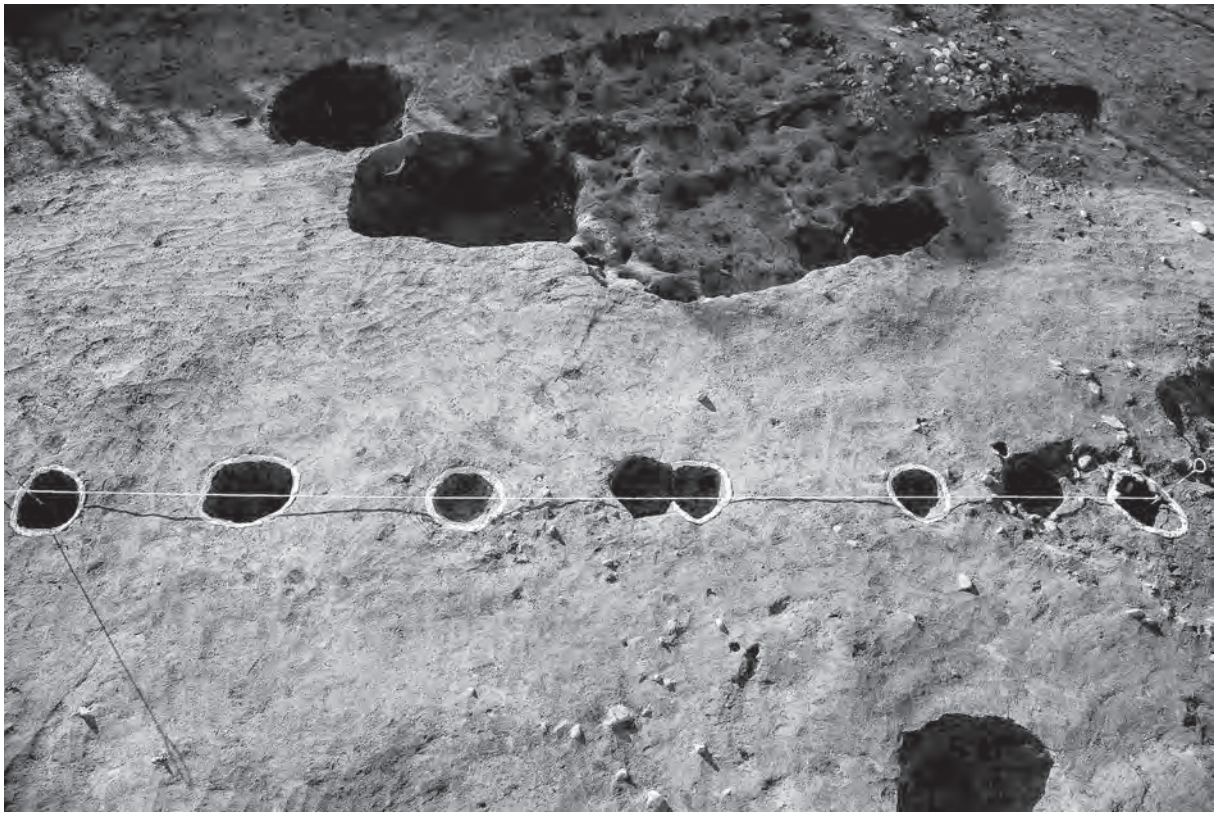


P1577（ＳＡ101）

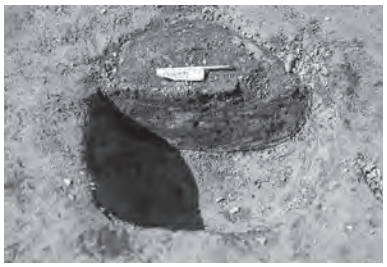
P1578（ＳＡ101）

P1579（ＳＡ101）

写真図版66　ＳＡ101完掘・柱穴断面



ＳＡ102　完掘



P1557（ＳＡ102）

P1558（ＳＡ102）

P1556（ＳＡ102）

P1568（ＳＡ102）

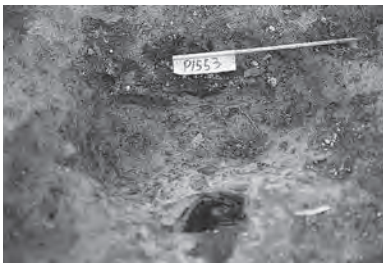
P1569（ＳＡ102）

P1572（ＳＡ102）

写真図版67　ＳＡ102完掘・柱穴断面

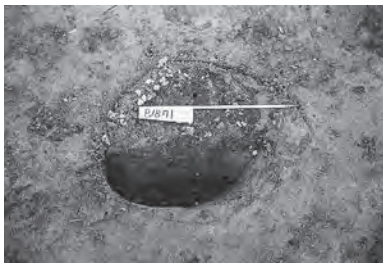
ＳＡ103　完掘

P1552（ＳＡ103）



P1553（ＳＡ103）

P1555（ＳＡ103）



P1871（ＳＡ103）

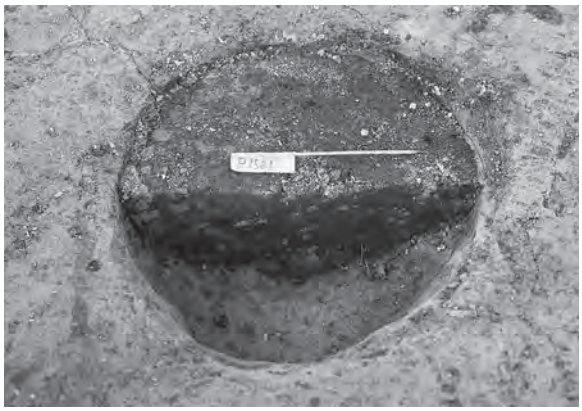
P1873（ＳＡ103）

P1874（ＳＡ103）

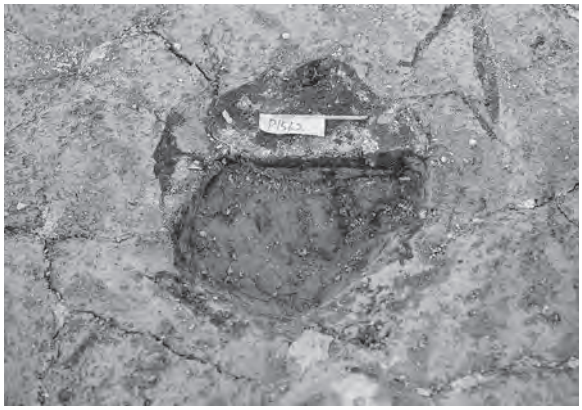
写真図版68　ＳＡ103完掘・柱穴断面

ＳＡ104　完掘

P1559（ＳＡ104）



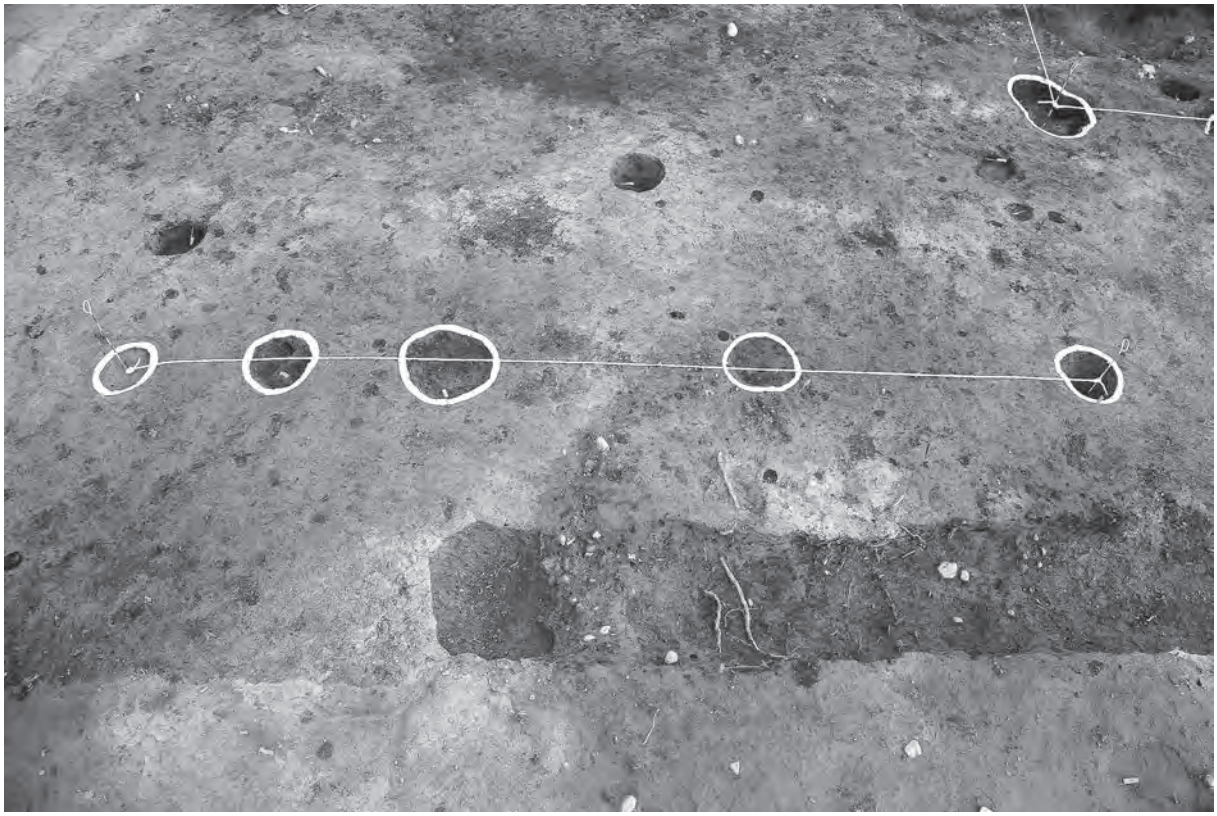
P1561（ＳＡ104）



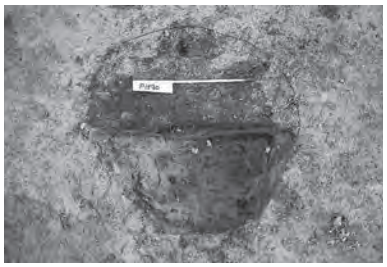
P1562（ＳＡ104）

P1563（ＳＡ104）

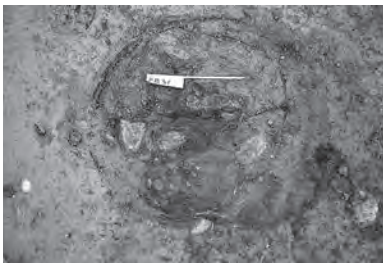
写真図版69　ＳＡ104完掘・柱穴断面



ＳＡ105　完掘

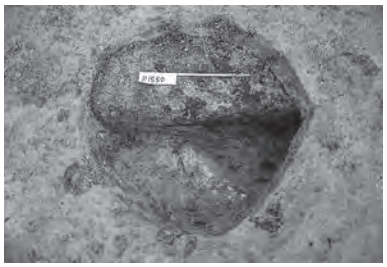


P1530（ＳＡ105）

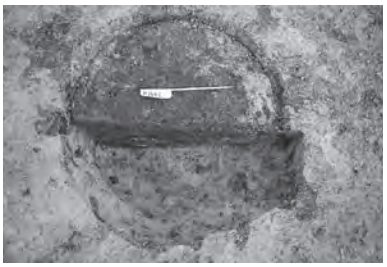


P1531（ＳＡ105）

P1549（ＳＡ105）



P1550（ＳＡ105）



P1551（ＳＡ105）

写真図版70　ＳＡ105完掘・柱穴断面

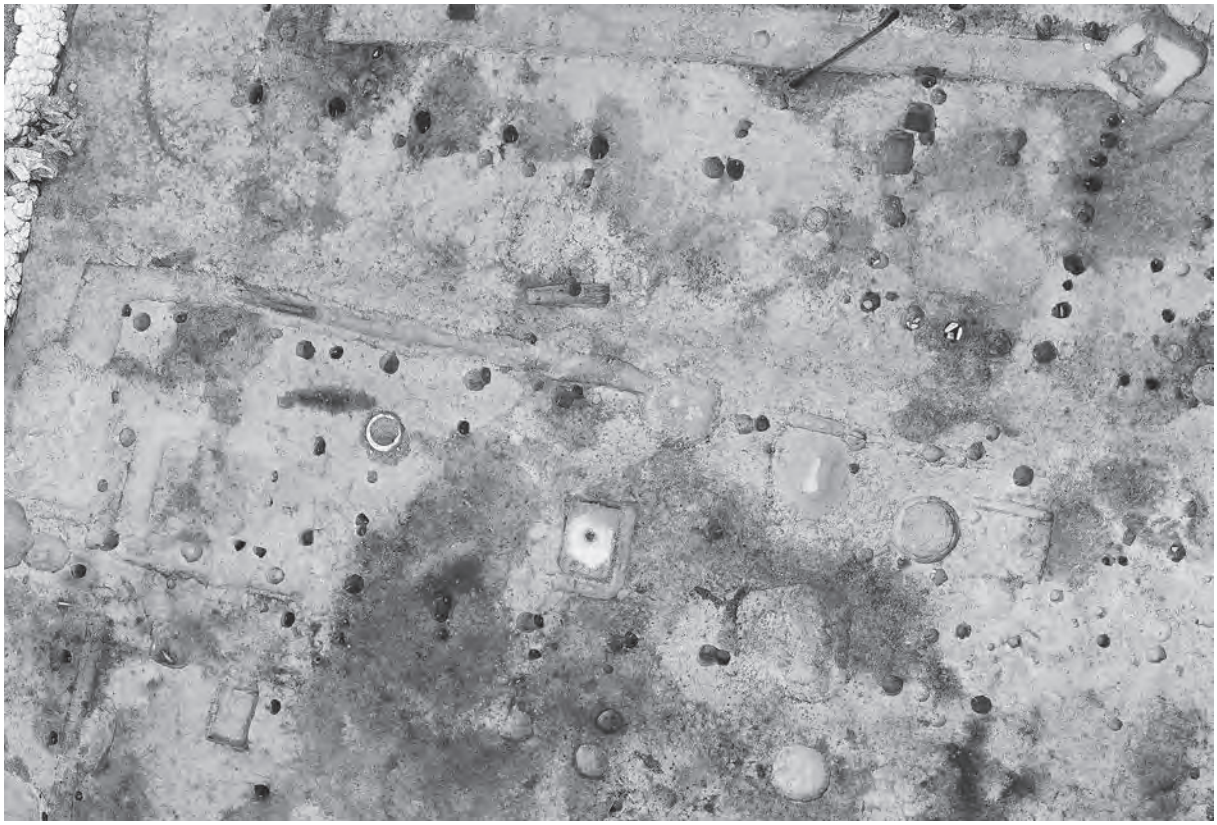
ＳＤ１　完掘

写真図版71　ＳＤ１完掘

ＳＤ２　完掘１

ＳＤ２　完掘２

写真図版72　ＳＤ２完掘

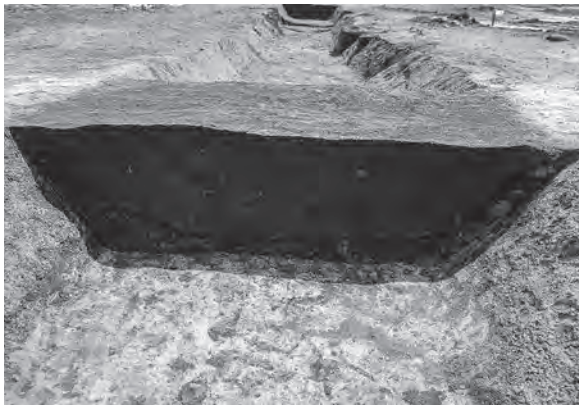


ＳＤ３　完掘１

ＳＤ３　完掘２

写真図版73　ＳＤ３完掘

ＳＤ１　断面１



ＳＤ１　断面２

ＳＤ１　断面３

ＳＤ１　断面４

ＳＤ１　断面５

ＳＤ２　断面１

ＳＤ２　断面２

ＳＤ２　断面３

写真図版74　ＳＤ１・ＳＤ２断面

ＳＤ２　断面４

ＳＤ３　断面１

ＳＤ３　断面２

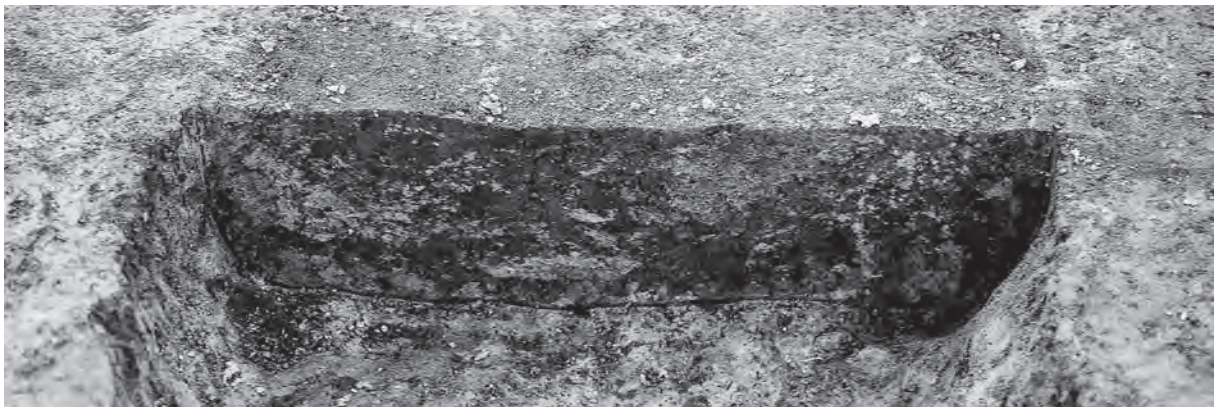
ＳＤ３　断面３

ＳＤ３　断面４

ＳＤ３　断面５

写真図版75　ＳＤ２・ＳＤ３断面

ＳＤ４　断面１

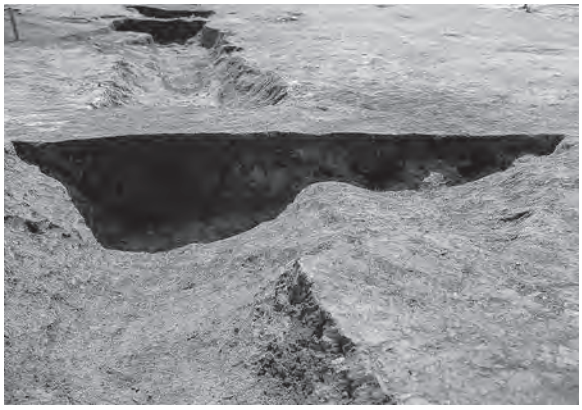


ＳＤ４　断面２

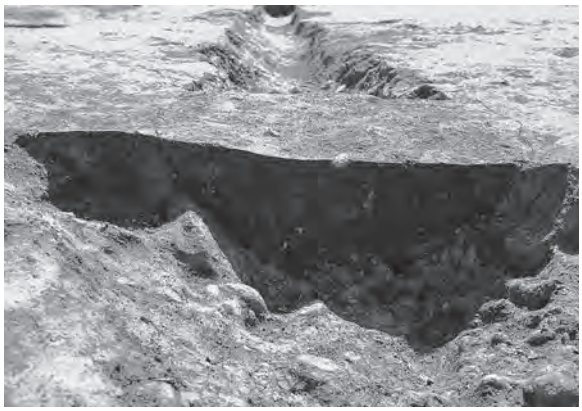
ＳＤ４　完掘１

写真図版76　ＳＤ４断面・完掘

ＳＤ101　断面１

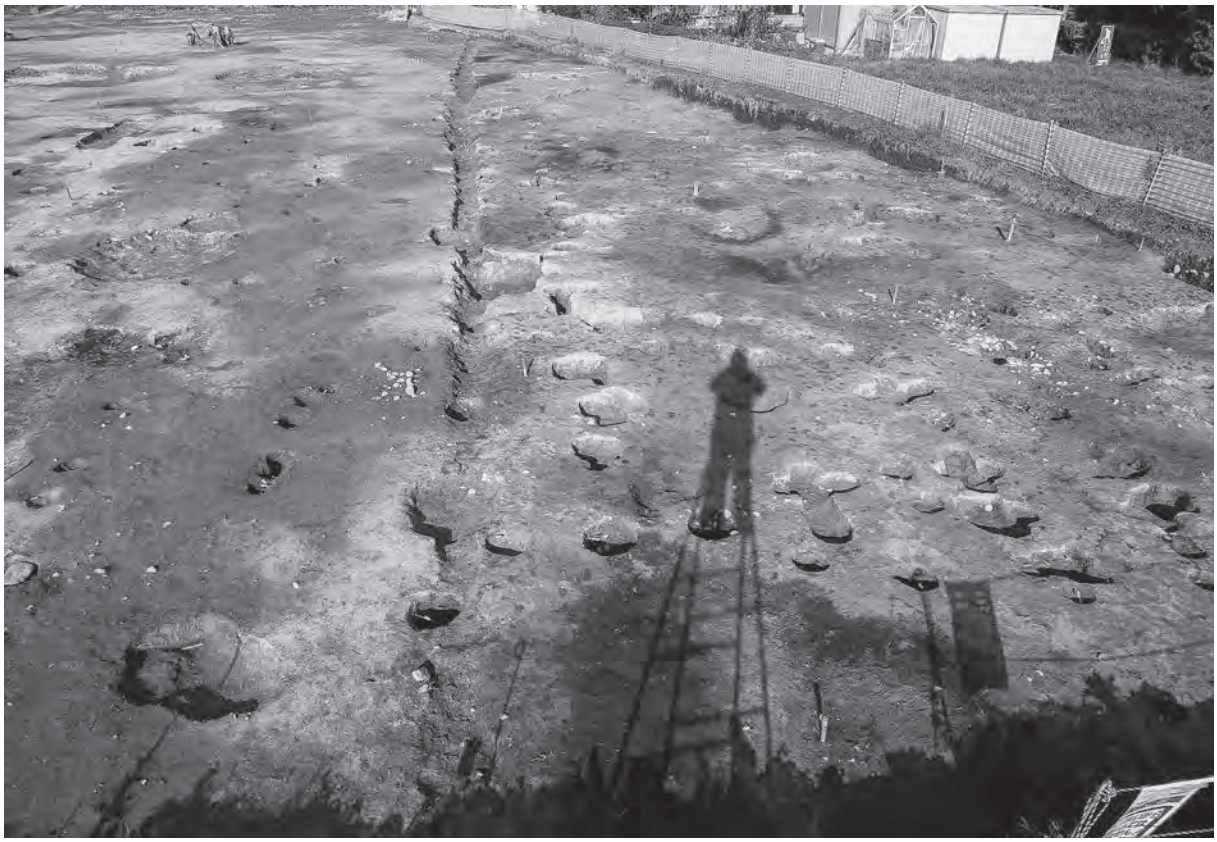


ＳＤ101　断面２



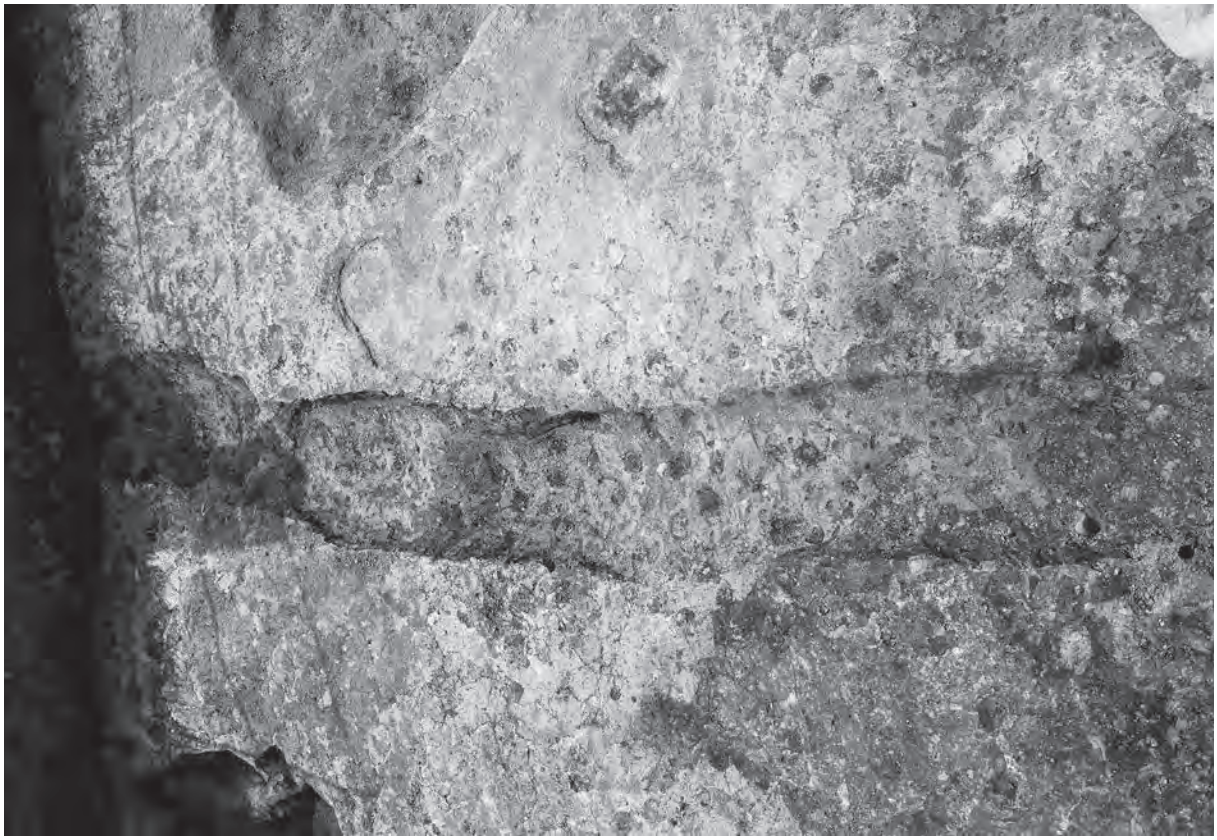
ＳＤ101　断面３

ＳＤ101　断面４

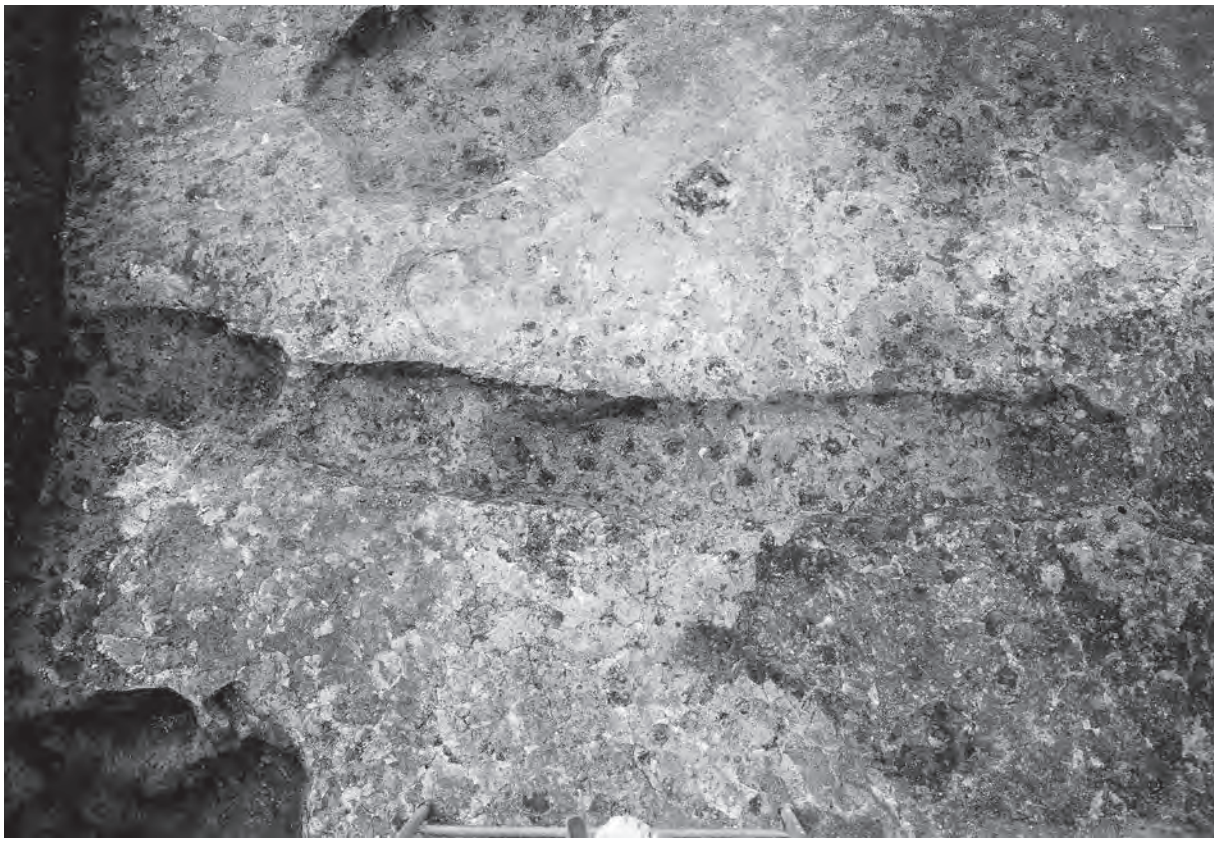


ＳＤ101　完掘

写真図版77　ＳＤ101断面・完掘



ＳＤ102　断面



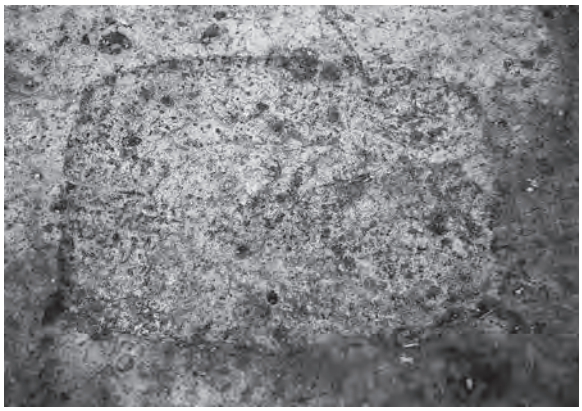
ＳＤ102　完掘

写真図版78　ＳＤ102断面・完掘

ＳＫ１　断面

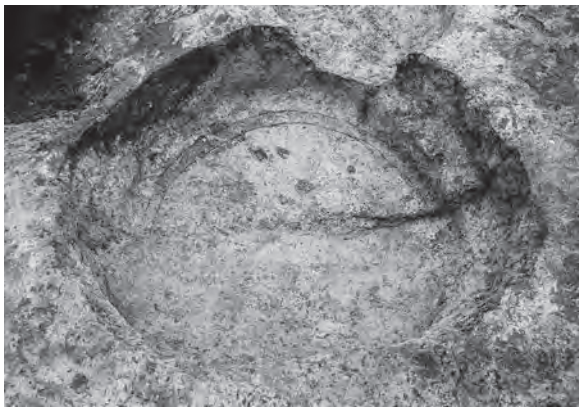
ＳＫ１　完掘

ＳＫ２　断面

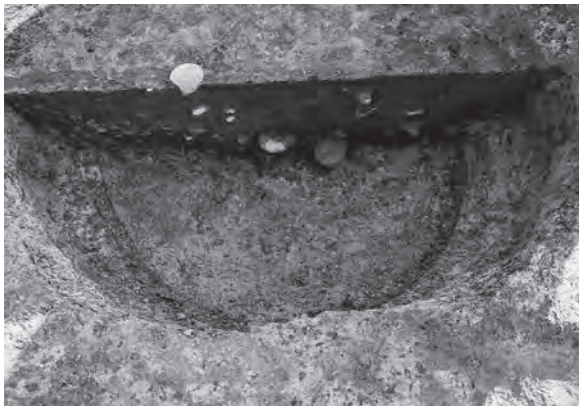


ＳＫ２　完掘

ＳＫ３　断面



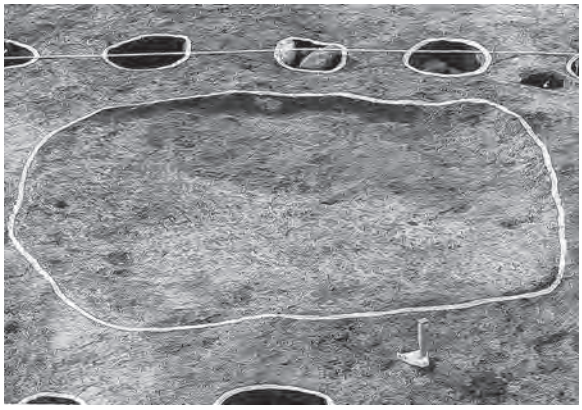
ＳＫ３　桶検出



ＳＫ３　桶埋設

写真図版79　ＳＫ１～ＳＫ３断面･完掘

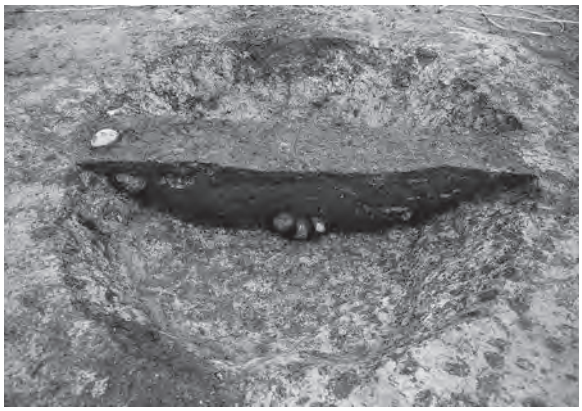
ＳＫ４　断面



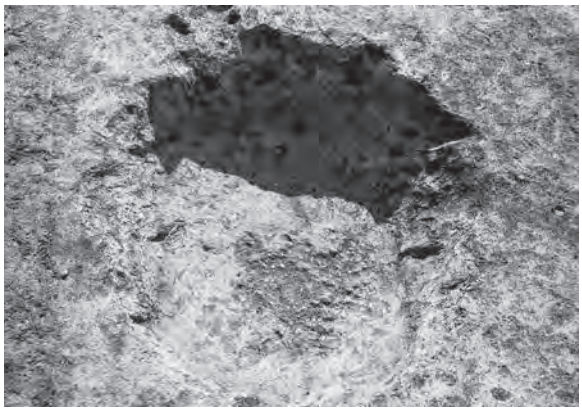
ＳＫ４　完掘

ＳＫ５　断面

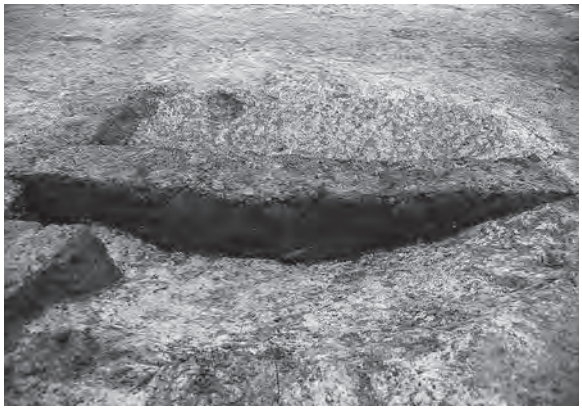
ＳＫ５　完掘



ＳＫ６　断面



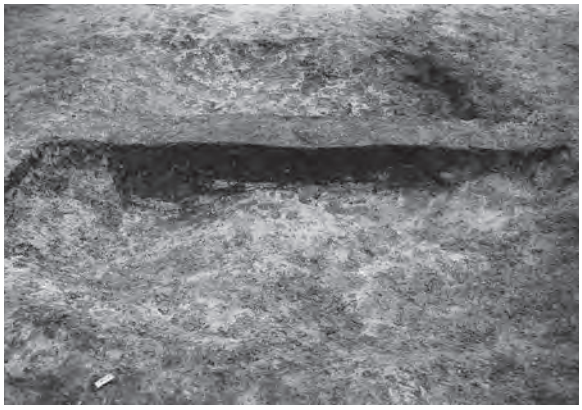
ＳＫ６　完掘



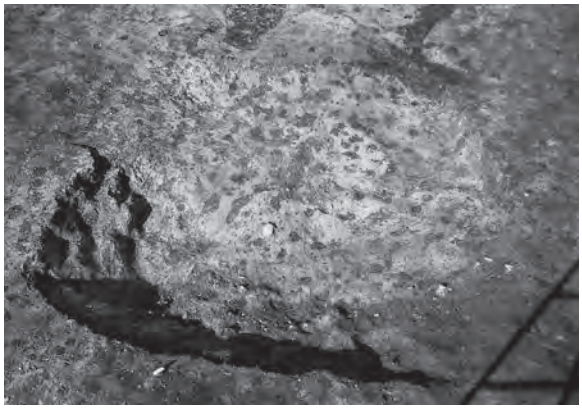
ＳＫ７　断面

ＳＫ７　完掘

写真図版80　ＳＫ４～ＳＫ７断面･完掘

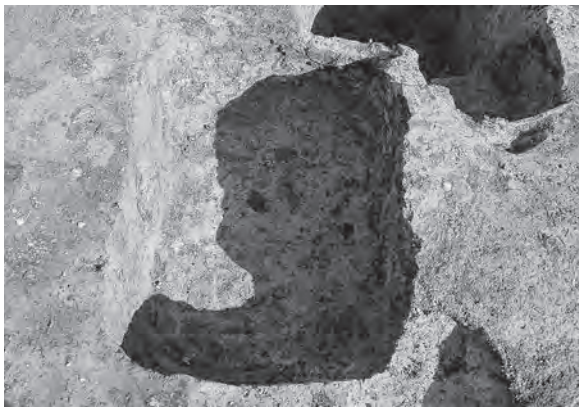


ＳＫ８　断面



ＳＫ８　完掘

ＳＫ９　断面

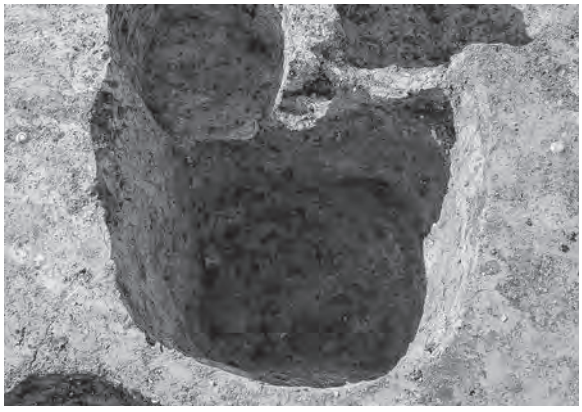


ＳＫ９　完掘

ＳＫ10　断面

ＳＫ10　完掘

ＳＫ11　断面



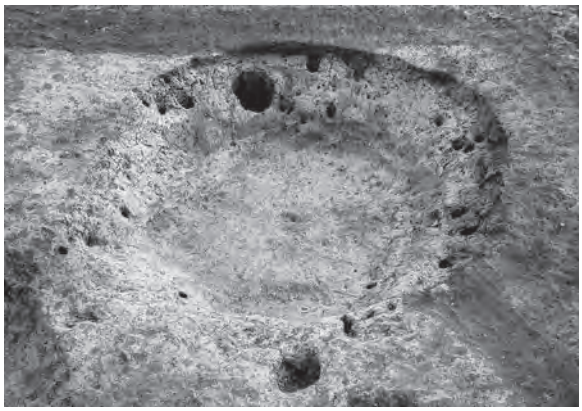
ＳＫ11　完掘

写真図版81　ＳＫ８～ＳＫ11断面・完掘

ＳＫ12　断面

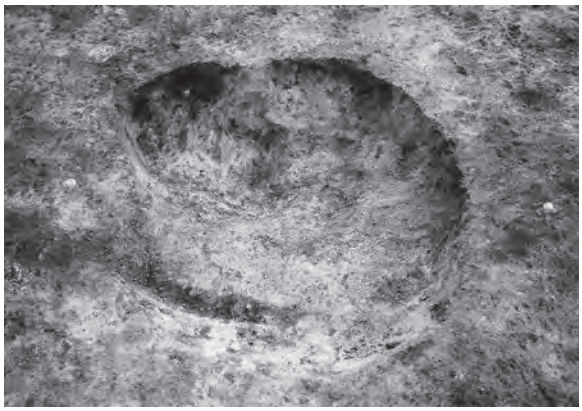
ＳＫ12　完掘

ＳＫ13　断面



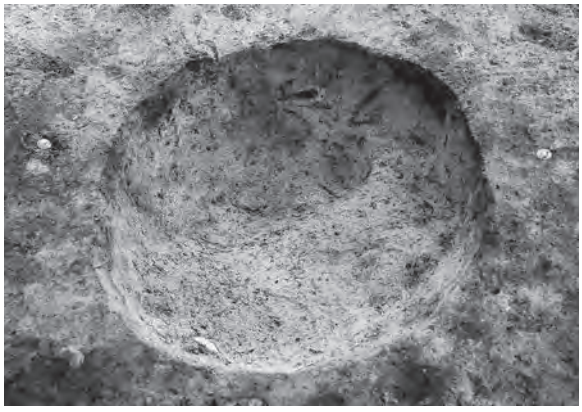
ＳＫ13　完掘

ＳＫ14　断面



ＳＫ14　完掘

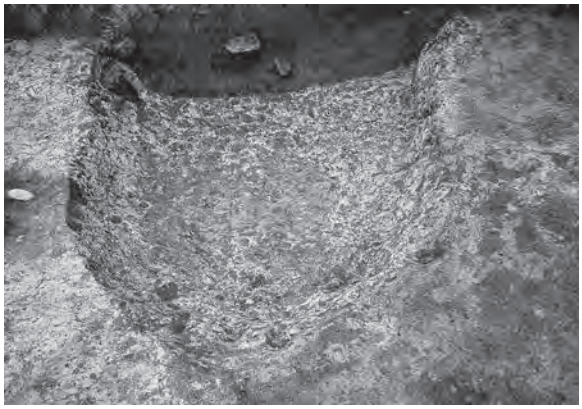
ＳＫ15　断面



ＳＫ15　完掘

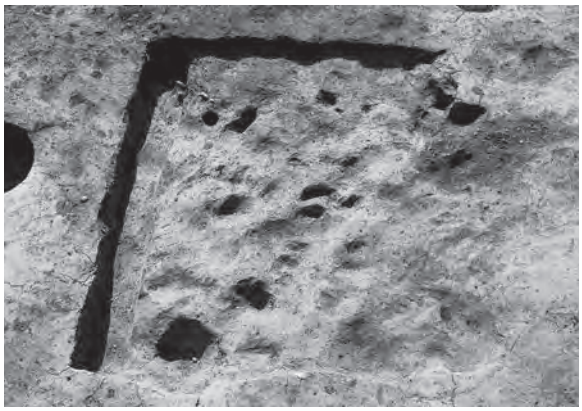
写真図版82　ＳＫ12～ＳＫ15断面･完掘

ＳＫ16　断面



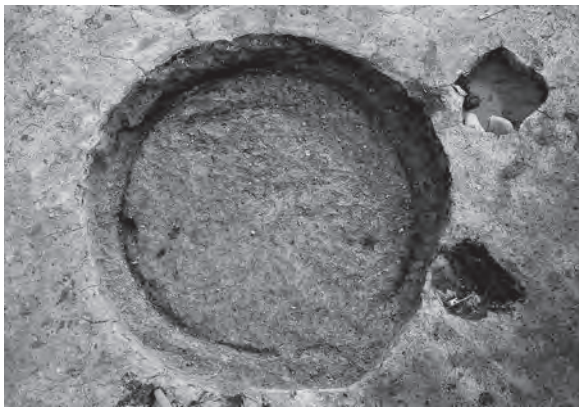
ＳＫ16　完掘

ＳＫ17　断面



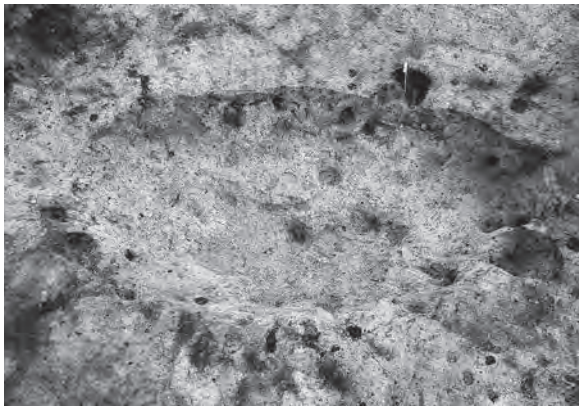
ＳＫ17　完掘

ＳＫ18　断面



ＳＫ18　完掘

ＳＫ19　断面

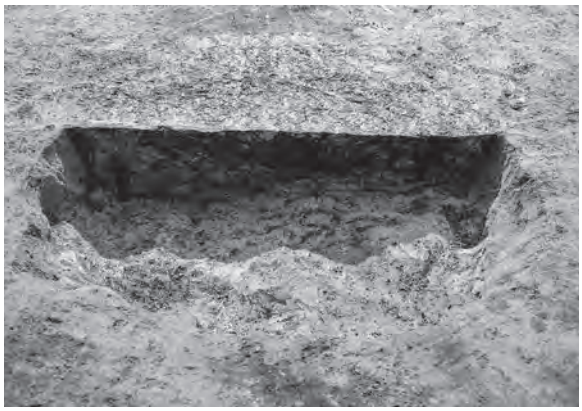


ＳＫ19　完掘

写真図版83　ＳＫ16～ＳＫ19断面･完掘

ＳＫ20　断面

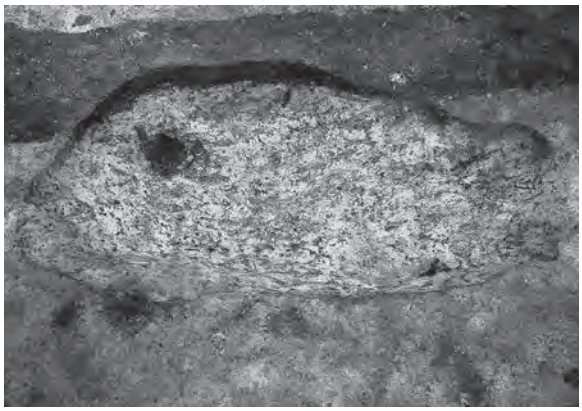
ＳＫ20　完掘



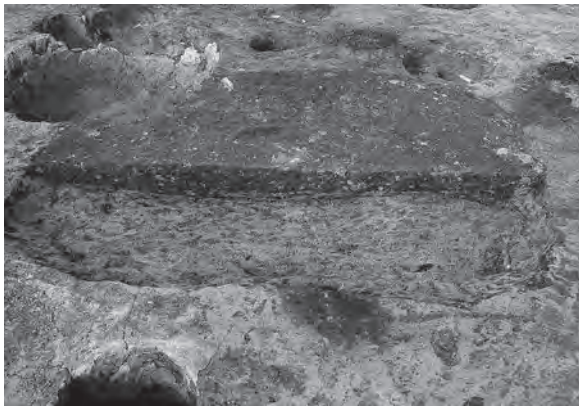
ＳＫ21　断面

ＳＫ21　完掘

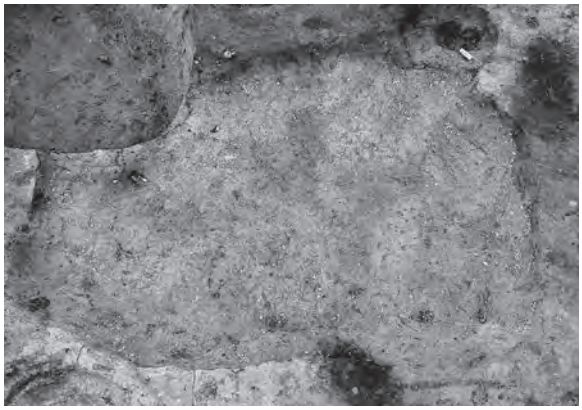
ＳＫ22　断面



ＳＫ22　完掘



ＳＫ23　断面

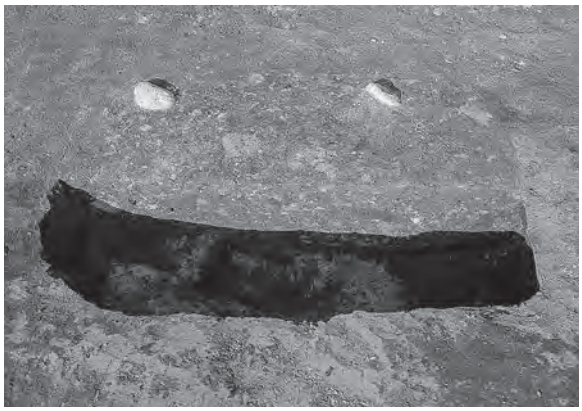


ＳＫ23　完掘

写真図版84　ＳＫ20～ＳＫ23断面・完掘

ＳＫ24　断面

ＳＫ24　完掘



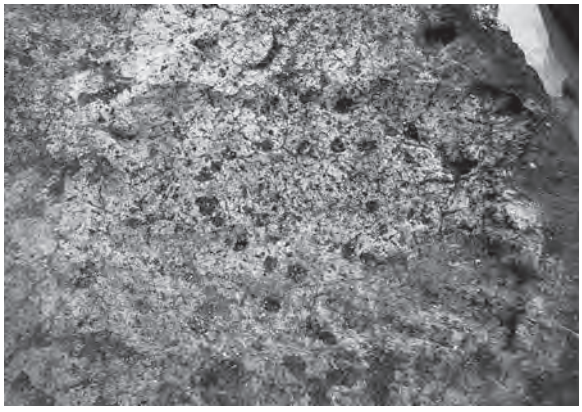
ＳＫ25　断面

ＳＫ25　完掘

ＳＫ26　断面

ＳＫ27　断面

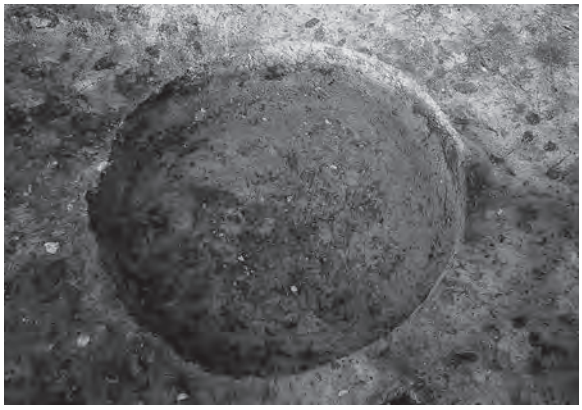
ＳＫ28　断面



ＳＫ28　完掘

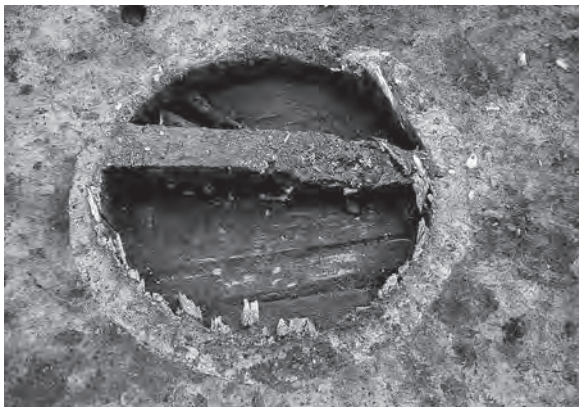
写真図版85　ＳＫ24～ＳＫ28断面･完掘

ＳＫ29　断面①



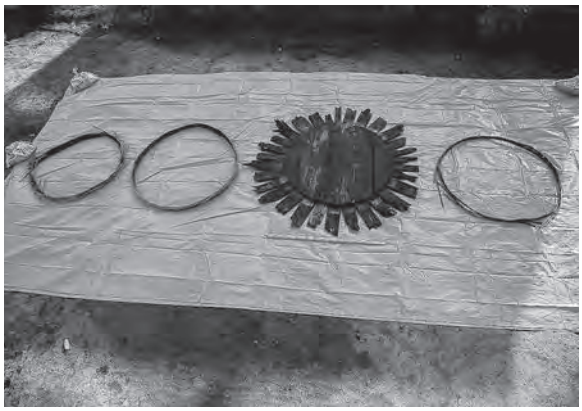
ＳＫ29　完掘

ＳＫ29　断面②



ＳＫ29　桶埋設状況①

ＳＫ29　桶埋設状況②

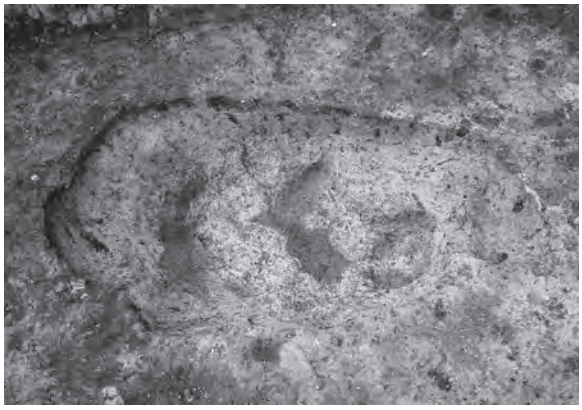


ＳＫ29　埋設されていた桶①

ＳＫ29　埋設されていた桶②

写真図版86　ＳＫ２９断面･完掘

ＳＫ30　断面

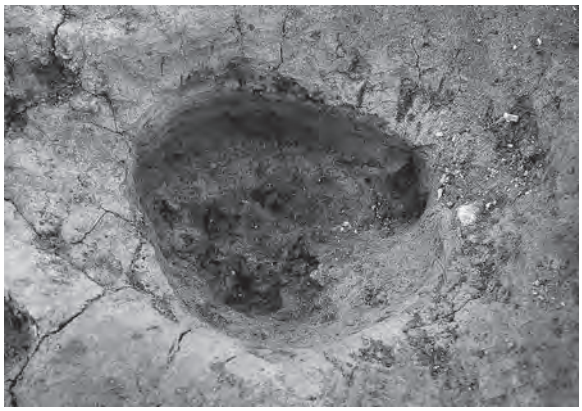


ＳＫ30　完掘

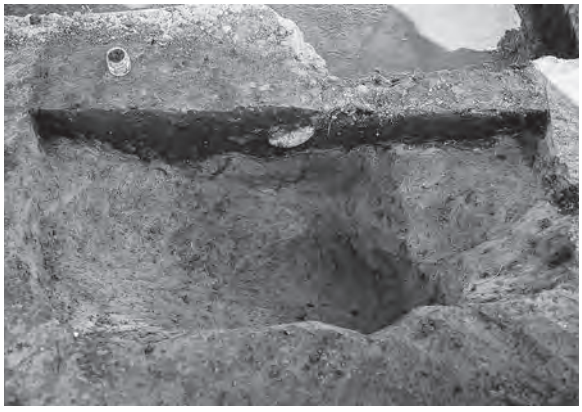
ＳＫ31　断面

ＳＫ31　完掘

ＳＫ32　断面



ＳＫ32　完掘

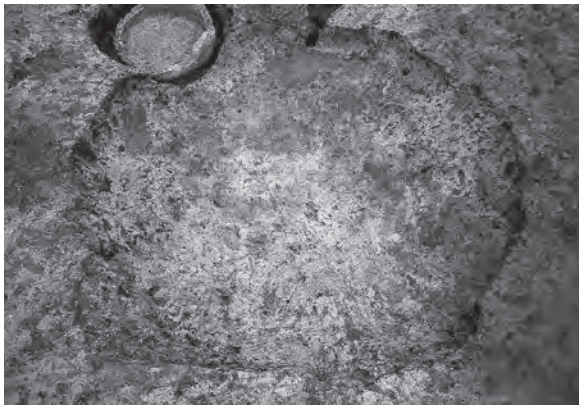


ＳＫ33　断面

ＳＫ33　完掘

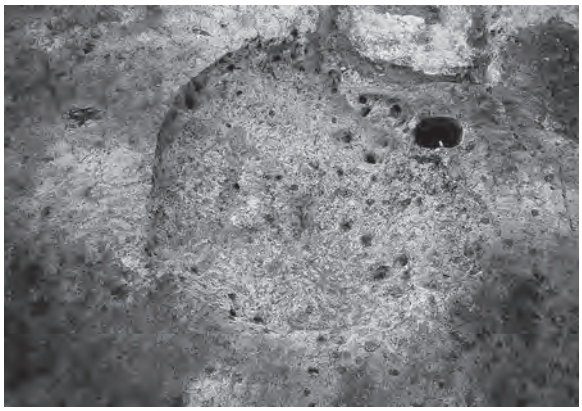
写真図版87　ＳＫ30～ＳＫ33断面・完掘

ＳＫ34　断面

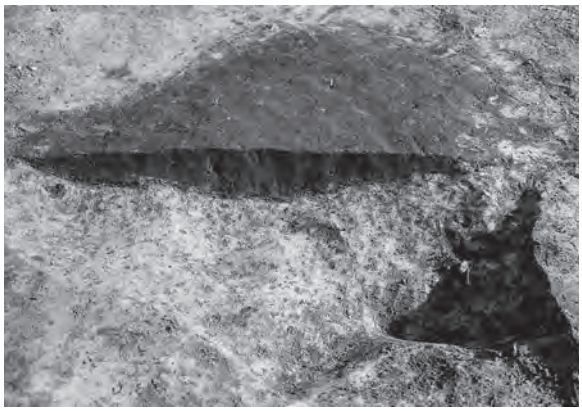


ＳＫ34　完掘

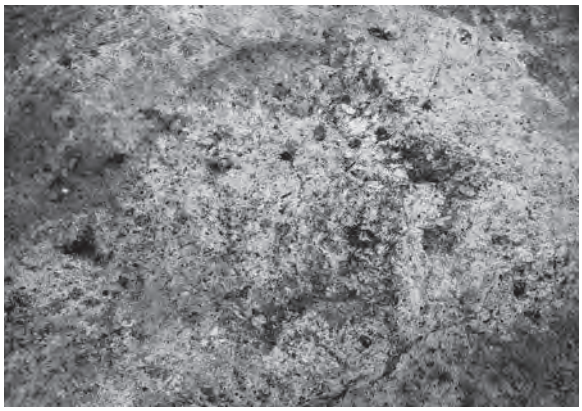
ＳＫ35　断面



ＳＫ35　完掘

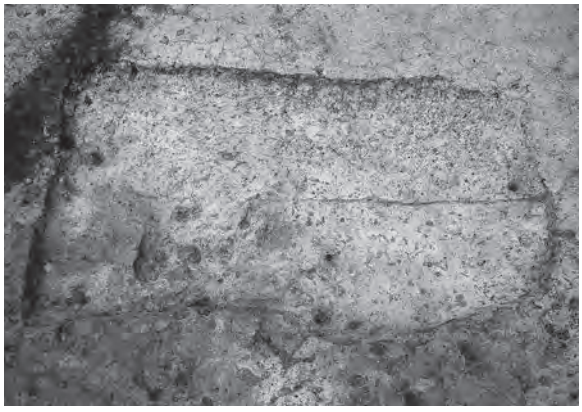


ＳＫ36　断面



ＳＫ36　完掘

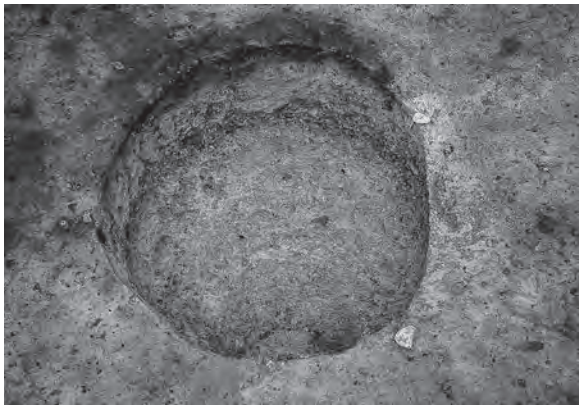
ＳＫ38　断面



ＳＫ38　完掘

写真図版88　ＳＫ34～ＳＫ36・ＳＫ38断面・完掘

ＳＫ37　断面①



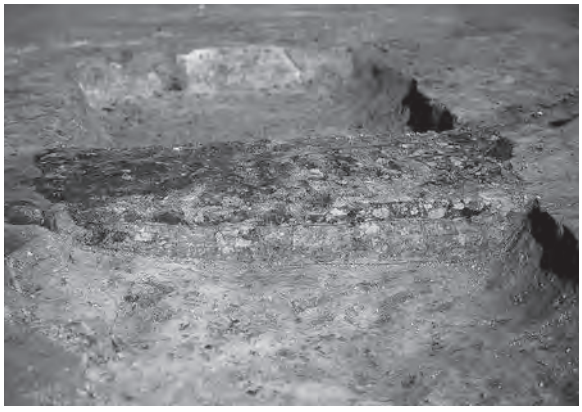
ＳＫ37　完掘

ＳＫ37　断面②

ＳＫ37　桶埋設状況①

ＳＫ37　桶埋設状況②

ＳＫ37　埋設されていた桶

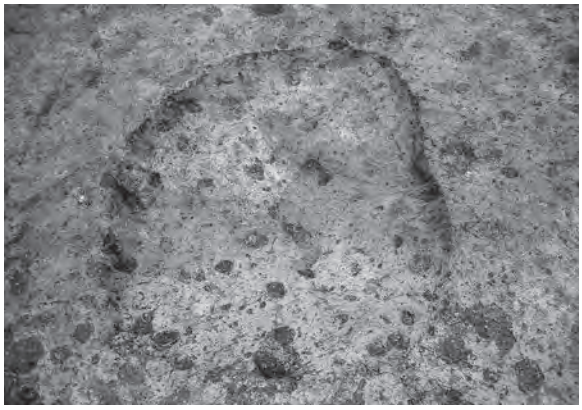


ＳＫ39　断面

ＳＫ39　完掘

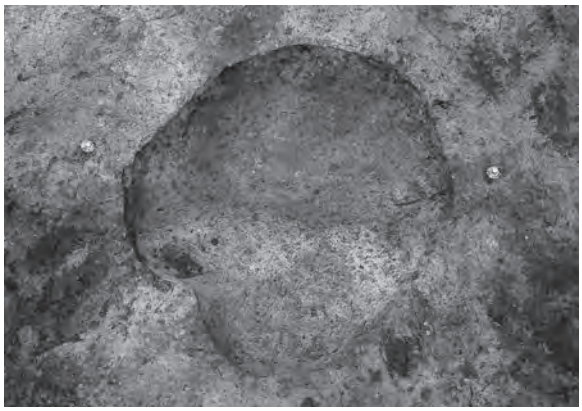
写真図版89　ＳＫ37・ＳＫ39断面・完掘

ＳＫ40　断面



ＳＫ40　完掘

ＳＫ41　断面



ＳＫ41　完掘

ＳＫ42　断面

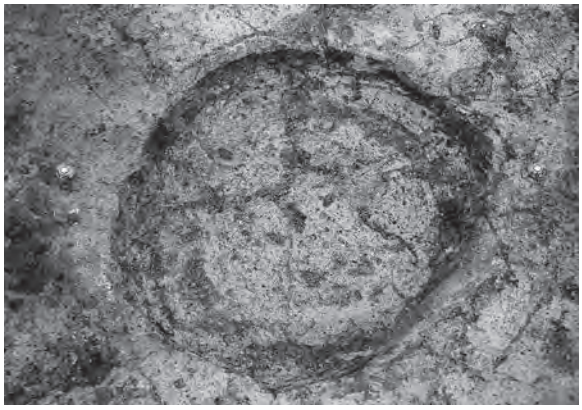
ＳＫ42　完掘

ＳＫ43　断面

ＳＫ43　完掘

写真図版90　ＳＫ40～ＳＫ43断面･完掘

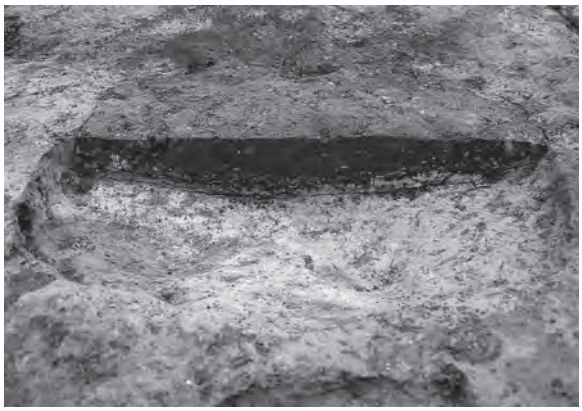
ＳＫ44　断面



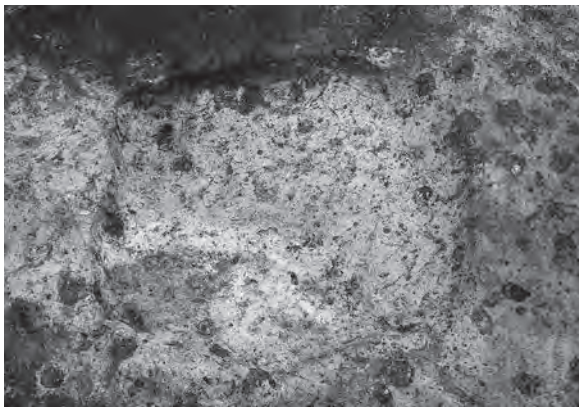
ＳＫ44　完掘

ＳＫ45　断面

ＳＫ45　完掘

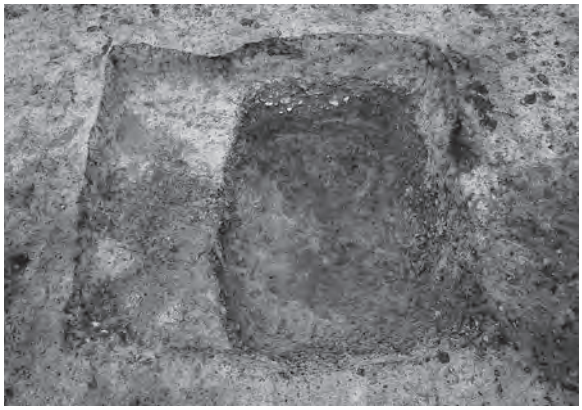


ＳＫ46　断面



ＳＫ46　完掘

ＳＫ47　断面



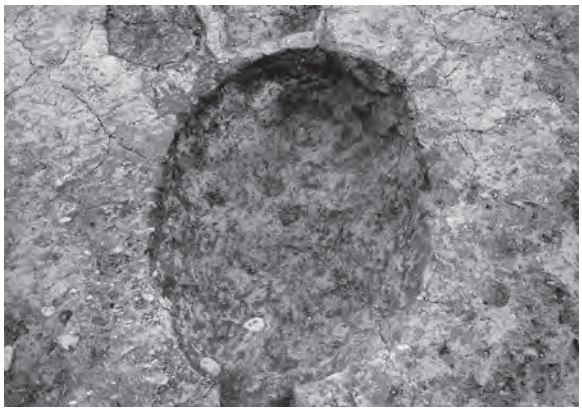
ＳＫ47　完掘

写真図版91　ＳＫ44～ＳＫ47断面･完掘

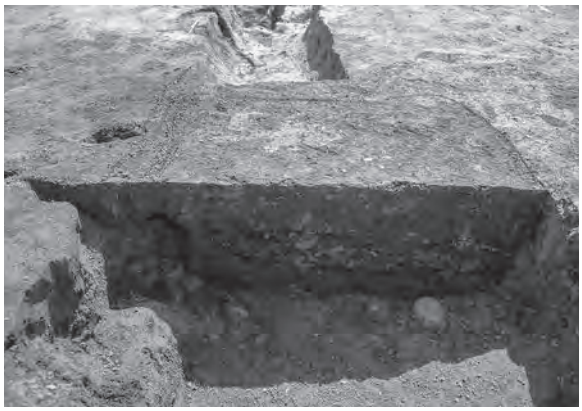
ＳＫ101　断面

ＳＫ101　完掘

ＳＫ102　断面



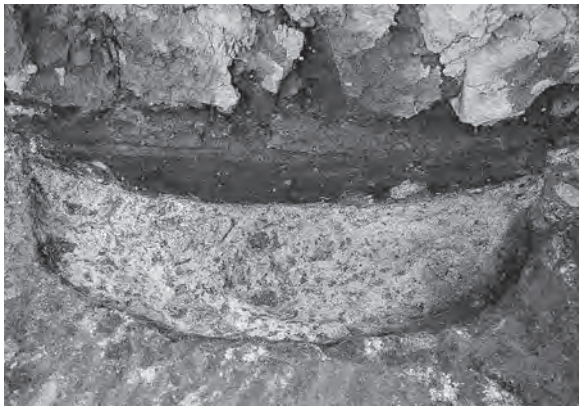
ＳＫ102　完掘



ＳＫ103　断面

ＳＫ103　完掘

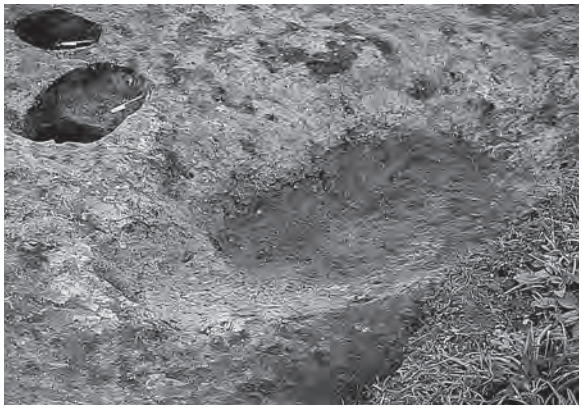
ＳＫ104　断面



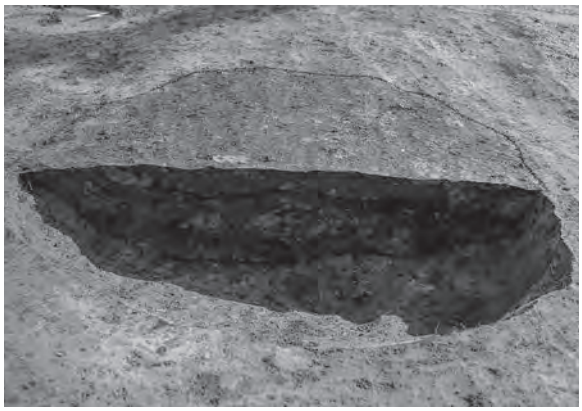
ＳＫ104　完掘

写真図版92　ＳＫ101～ＳＫ104断面・完掘

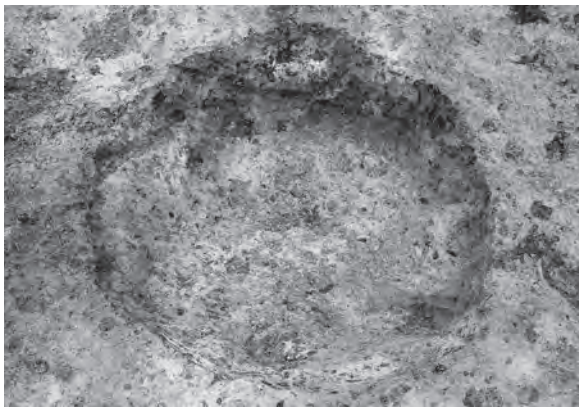
ＳＫ105　断面



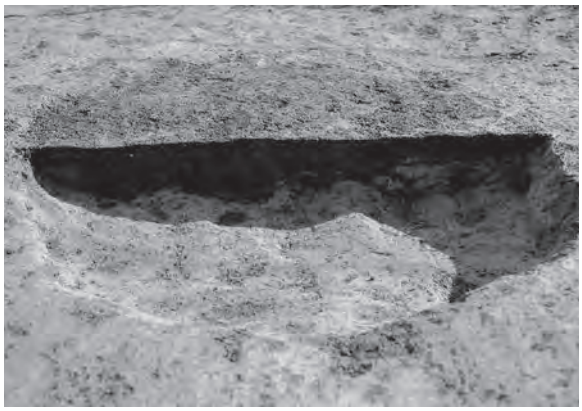
ＳＫ105　完掘



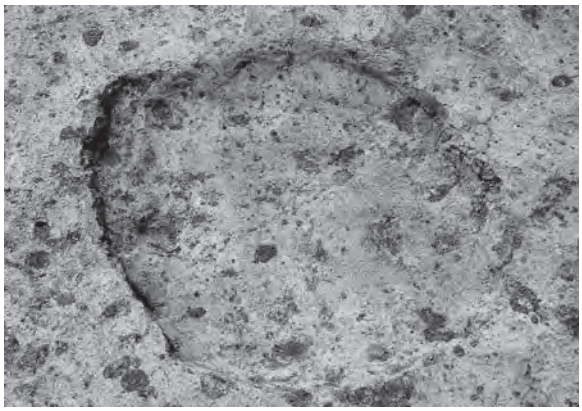
ＳＫ106　断面



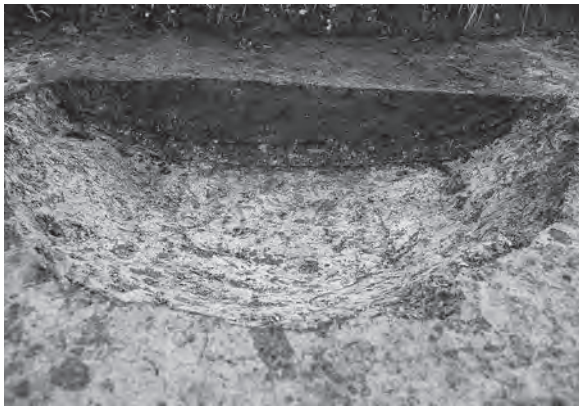
ＳＫ106　完掘



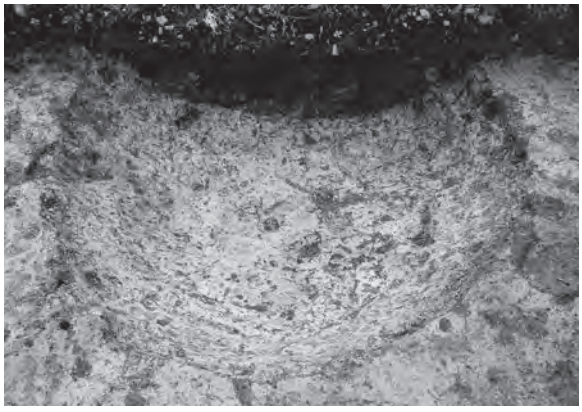
ＳＫ107　断面



ＳＫ107　完掘

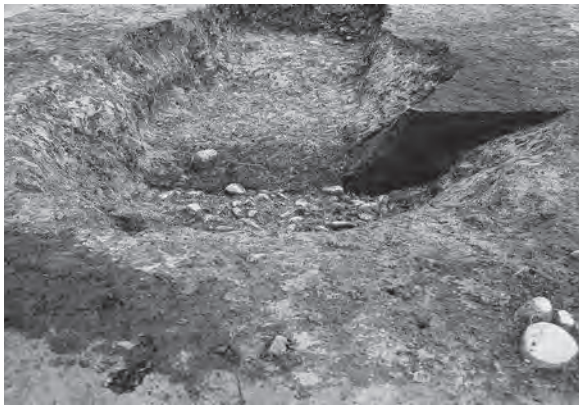


ＳＫ108　断面

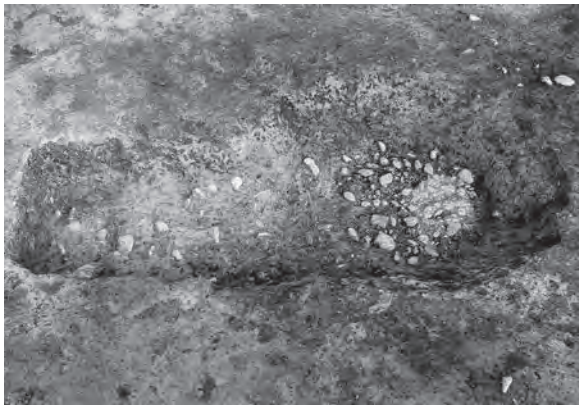


ＳＫ108　完掘

写真図版93　ＳＫ105～ＳＫ108断面・完掘

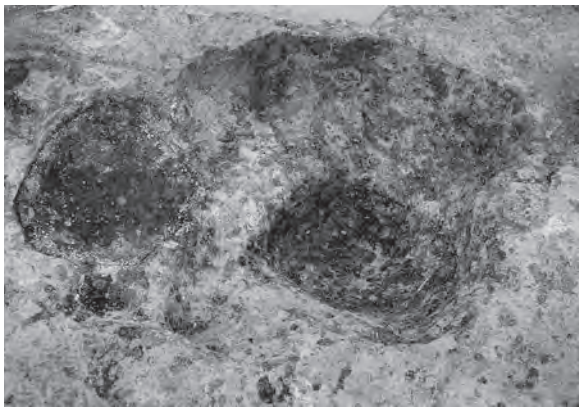


ＳＫ109　断面

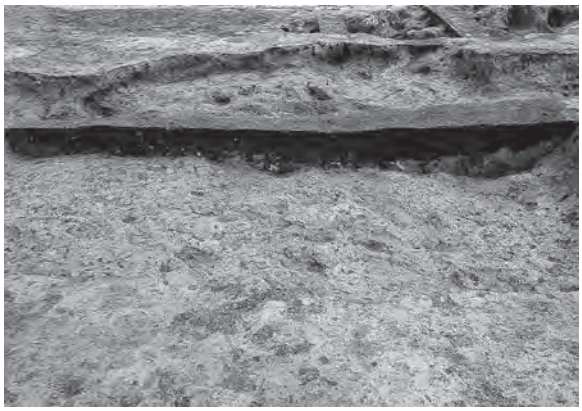


ＳＫ109　完掘

ＳＫ110　断面

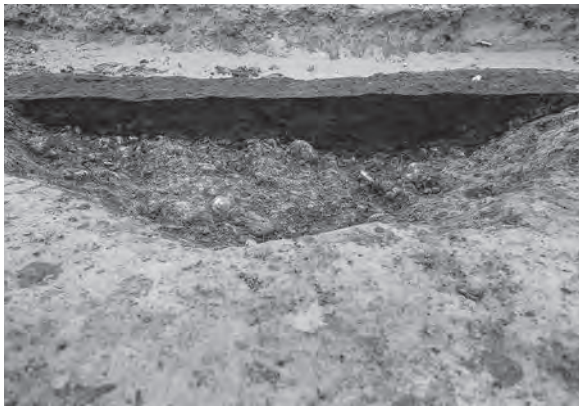


ＳＫ110　完掘

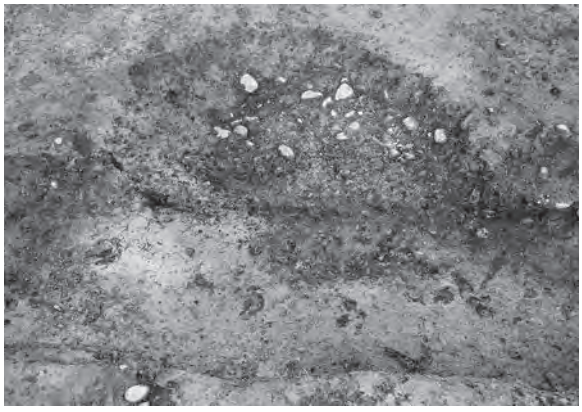


ＳＫ111　断面

ＳＫ111　完掘

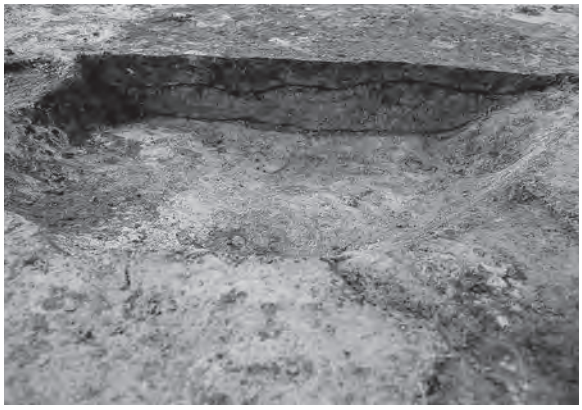


ＳＫ112　断面

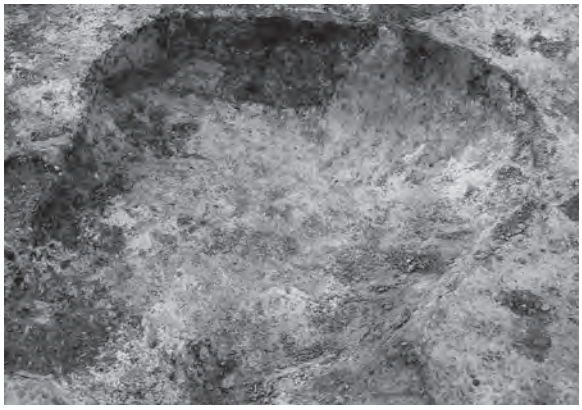


ＳＫ112　完掘

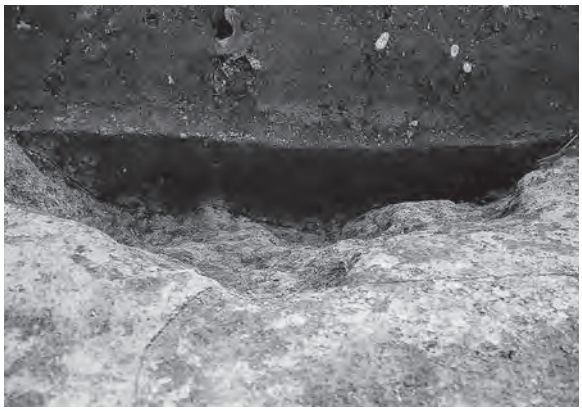
写真図版94　ＳＫ109～ＳＫ112断面・完掘



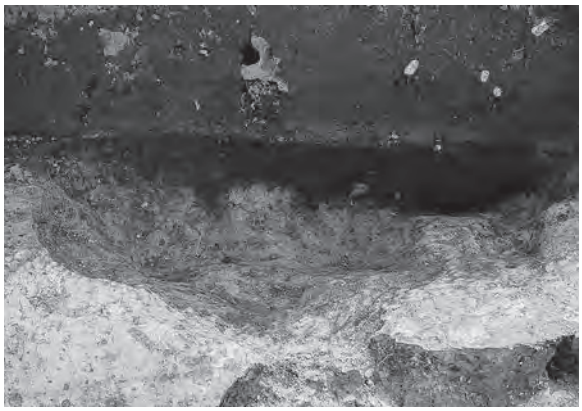
ＳＫ113　断面



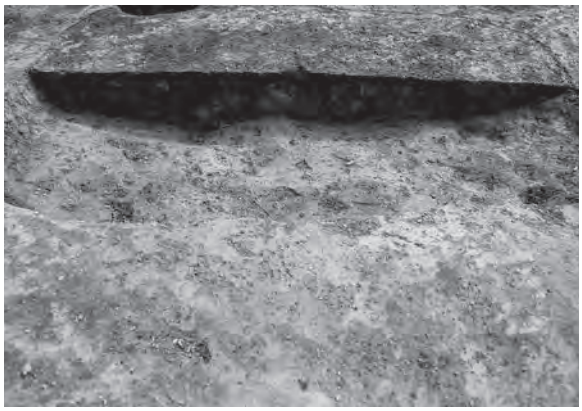
ＳＫ113　完掘



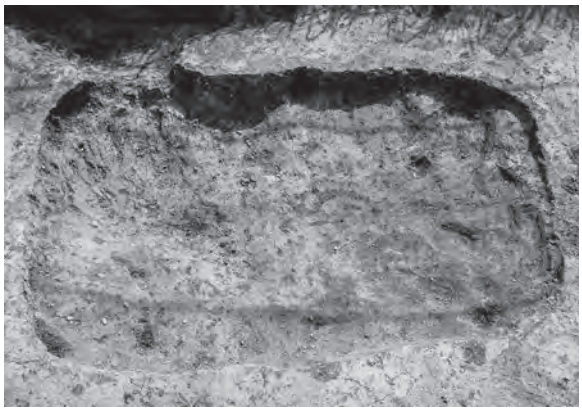
ＳＫ114　断面



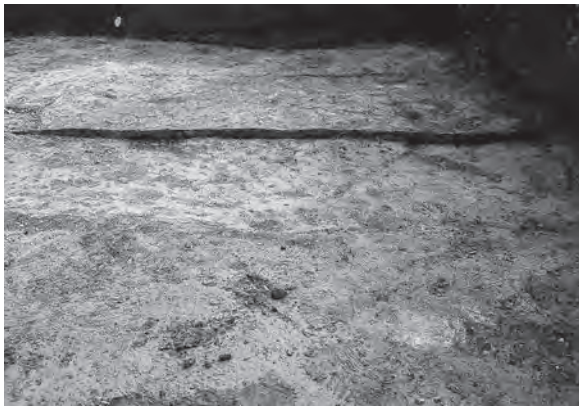
ＳＫ114　完掘



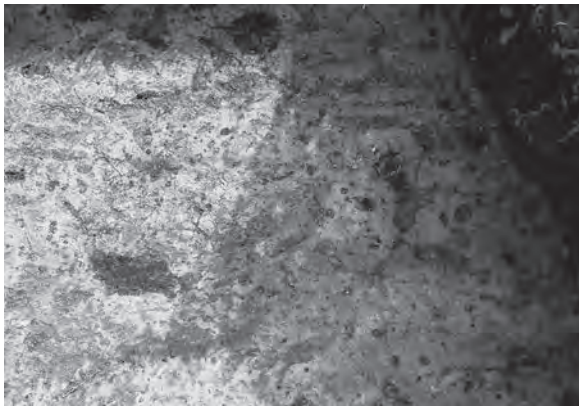
ＳＫ115　断面



ＳＫ115　完掘



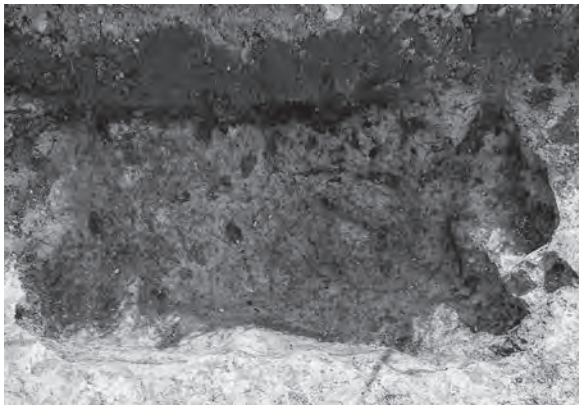
ＳＫ116　断面



ＳＫ116　完掘

写真図版95　ＳＫ113～ＳＫ116断面・完掘

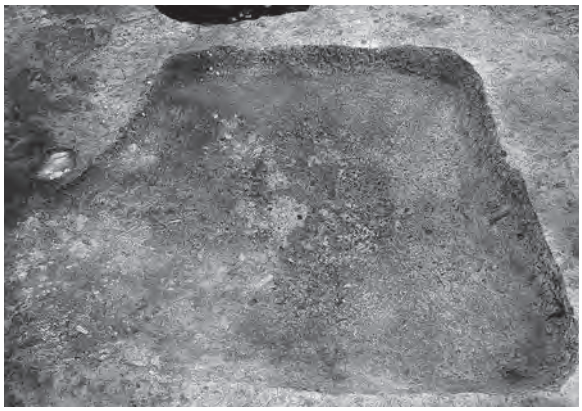
ＳＫ117　断面



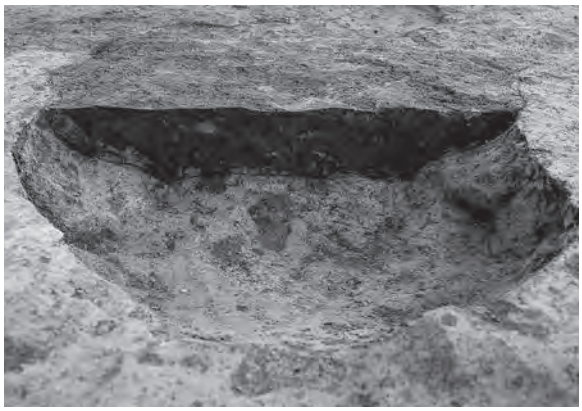
ＳＫ117　完掘

ＳＫ118　Ａ－Ａ'断面

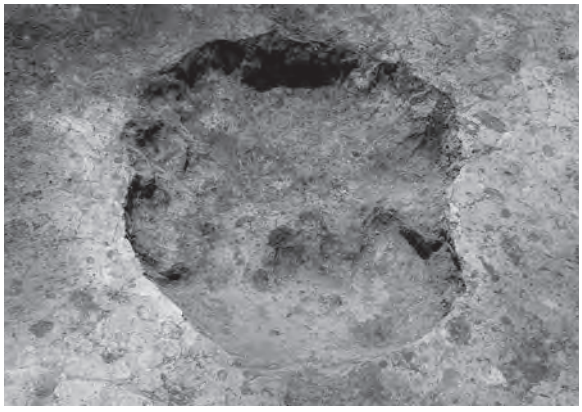
ＳＫ118　Ｂ－Ｂ'断面



ＳＫ118　完掘



ＳＫ119　断面



ＳＫ119　完掘

写真図版96　ＳＫ117～ＳＫ119断面･完掘

ＳＫ120　断面

ＳＫ120　完掘

ＳＫ121　断面

ＳＫ121　完掘

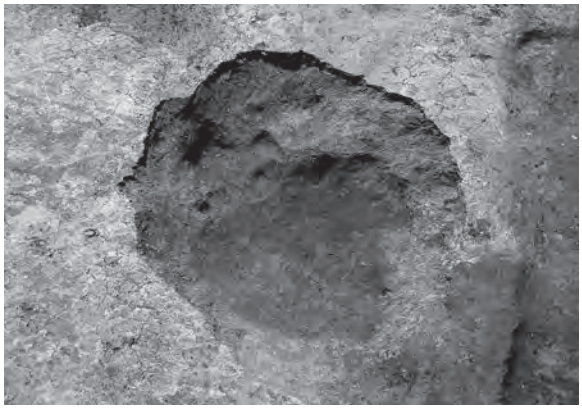
ＳＫ122　Ａ－Ａ'断面

ＳＫ122　Ｂ－Ｂ'断面

ＳＫ122　完掘

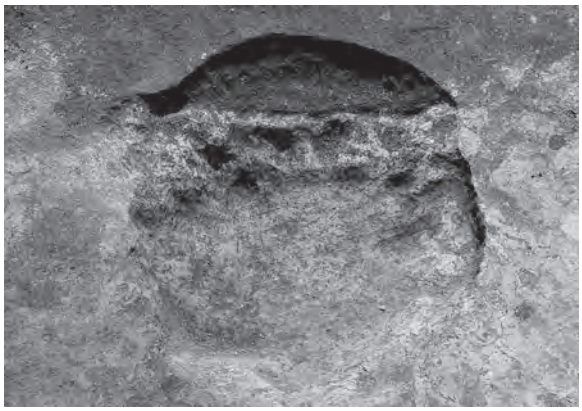
写真図版97　ＳＫ120～ＳＫ122断面・完掘

ＳＫ123　断面



ＳＫ123　完掘

ＳＫ124　断面



ＳＫ124　完掘

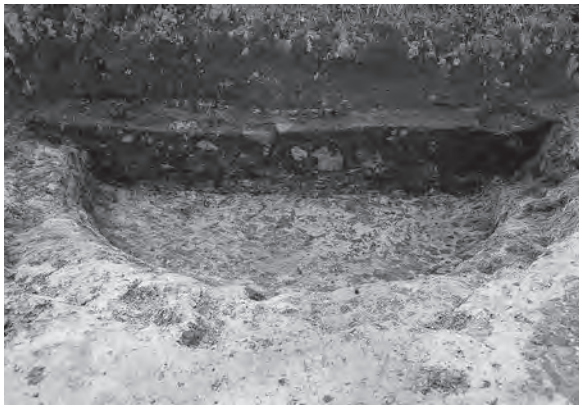
ＳＫ125　断面

ＳＫ125　完掘

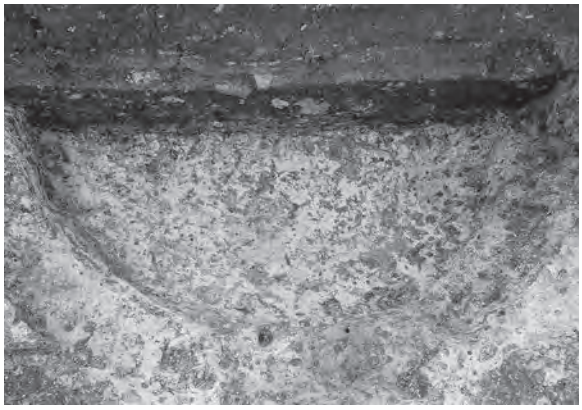
ＳＫ126　断面

ＳＫ126　完掘

写真図版98　ＳＫ123～ＳＫ126断面・完掘

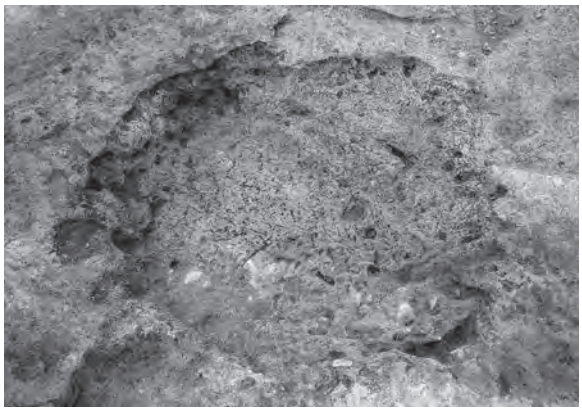


ＳＫ127　断面



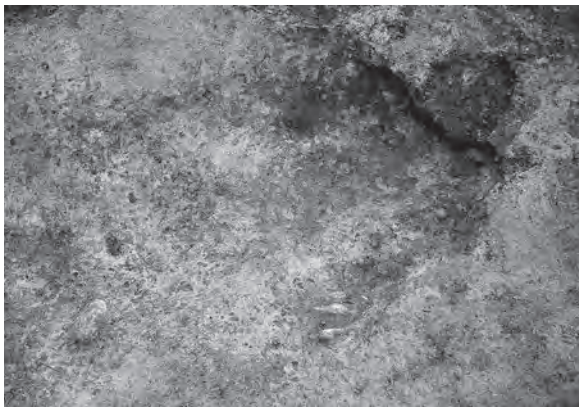
ＳＫ127　完掘

ＳＫ128　断面



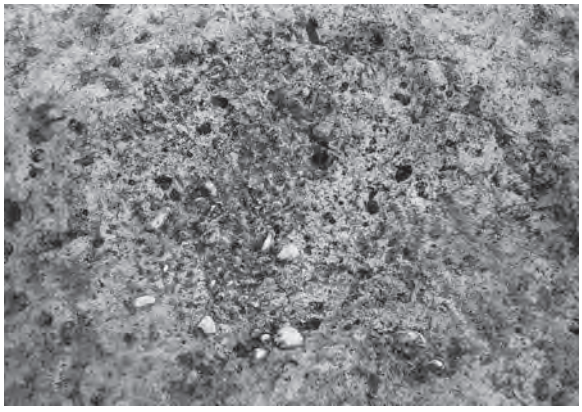
ＳＫ128　完掘

ＳＫ129　断面



ＳＫ129　完掘

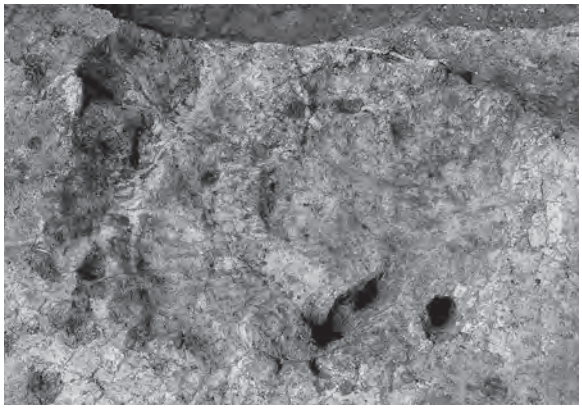
ＳＫ130　断面



ＳＫ130　完掘

写真図版99　ＳＫ127～ＳＫ130断面・完掘

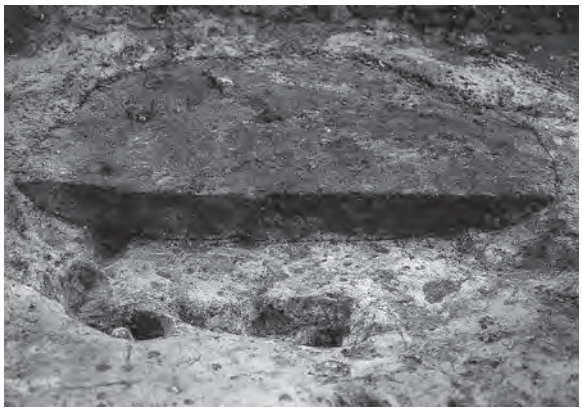
ＳＫ131　断面



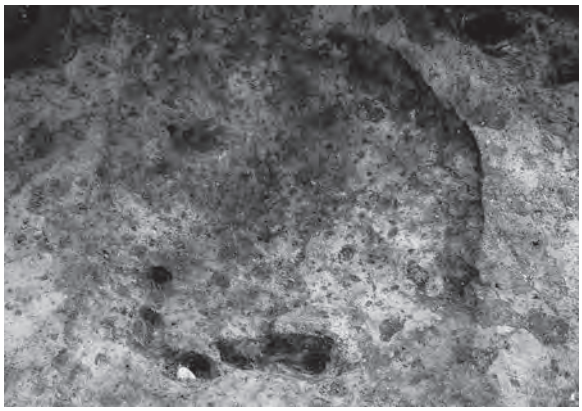
ＳＫ131　完掘

ＳＫ132　断面

ＳＫ132　完掘

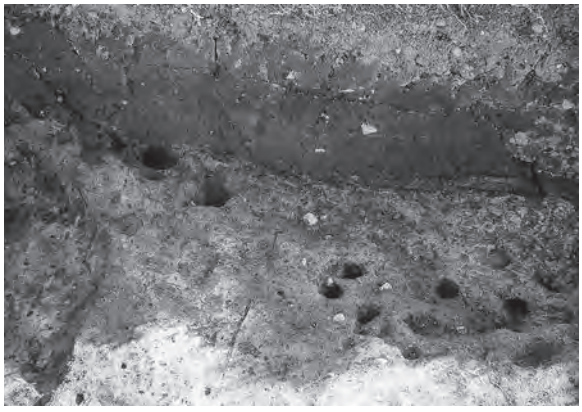


ＳＫ133　断面



ＳＫ133　完掘

ＳＫ134　断面

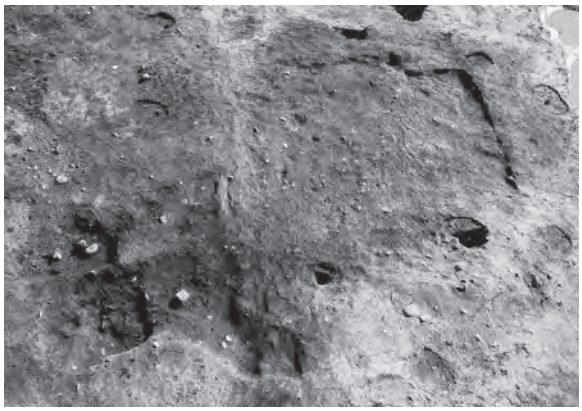


ＳＫ134　完掘

写真図版100　ＳＫ131～ＳＫ134断面・完掘

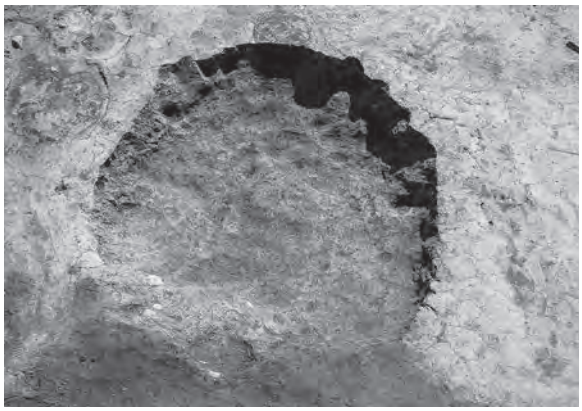
ＳＫ135　Ａ－Ａ’断面

ＳＫ135　Ｂ－Ｂ’断面



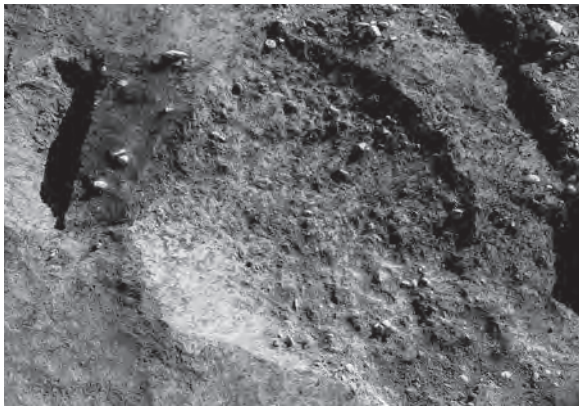
ＳＫ135　完掘

ＳＫ136　断面



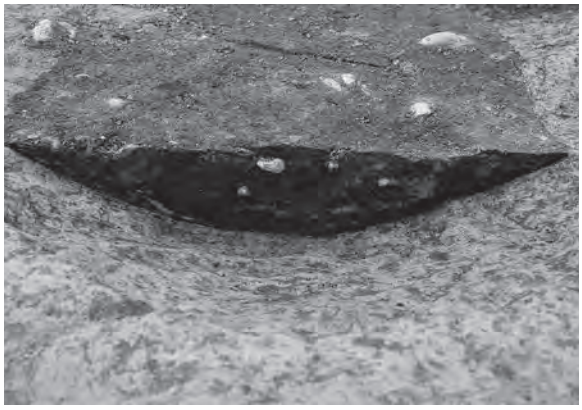
ＳＫ136　完掘

ＳＫ137　断面

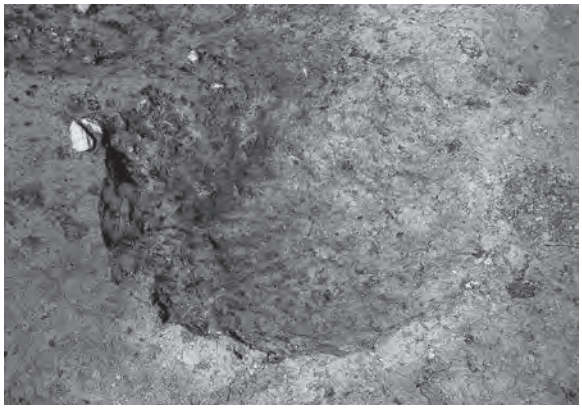


ＳＫ137　完掘

写真図版101　ＳＫ135～ＳＫ137断面・完掘

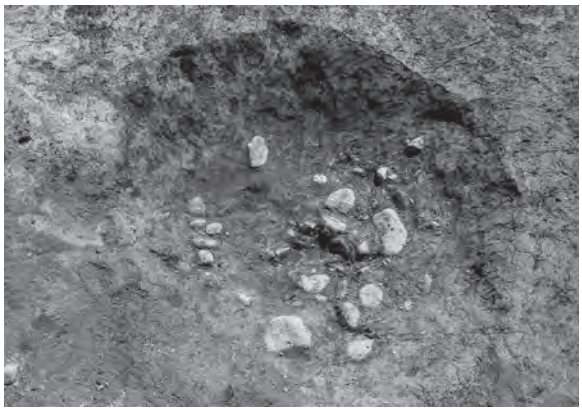


ＳＫ138　断面



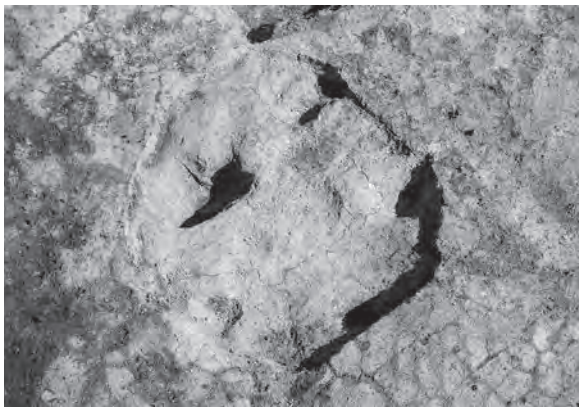
ＳＫ138　完掘

ＳＫ139　断面

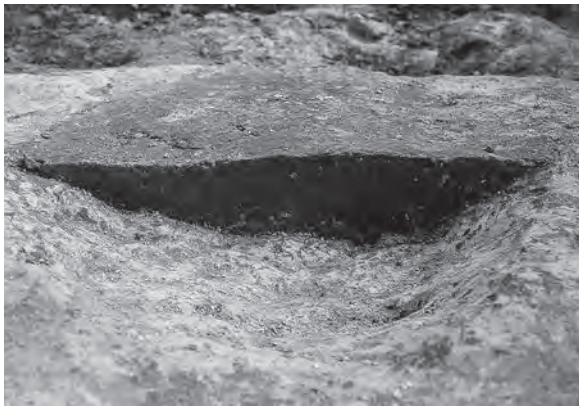


ＳＫ139　完掘

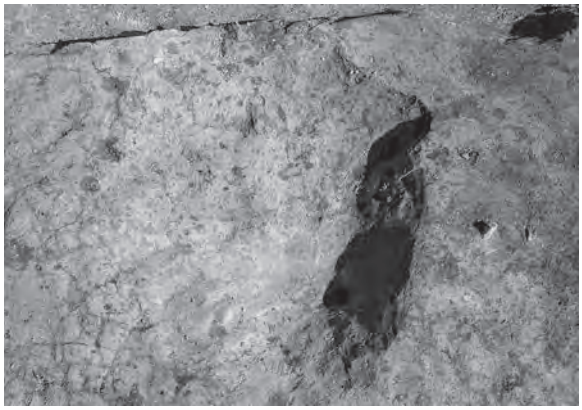
ＳＫ140　断面



ＳＫ140　完掘



ＳＫ141　断面



ＳＫ141　完掘

写真図版102　ＳＫ138～ＳＫ141断面・完掘

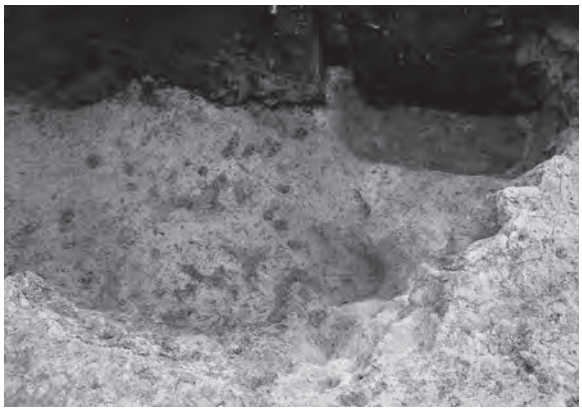
ＳＫ142　断面

ＳＫ142　完掘

ＳＫ143　断面

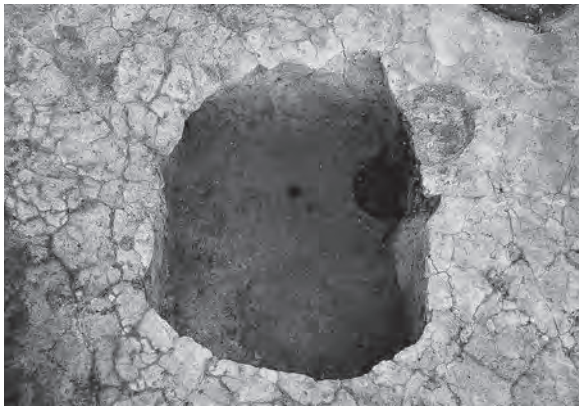
ＳＫ143　完掘

ＳＫ144　断面



ＳＫ144　完掘

ＳＫ145　断面



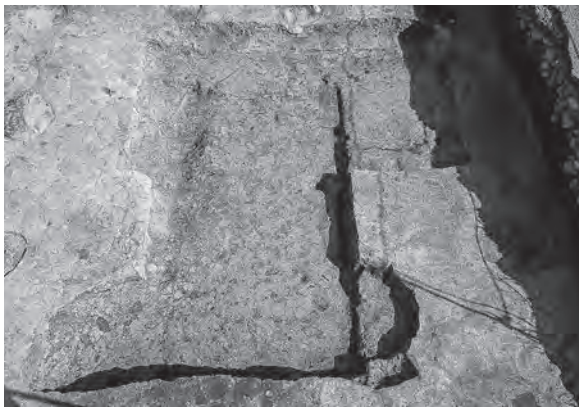
ＳＫ145　完掘

写真図版103　ＳＫ142～ＳＫ145断面・完掘

ＳＫ146　断面

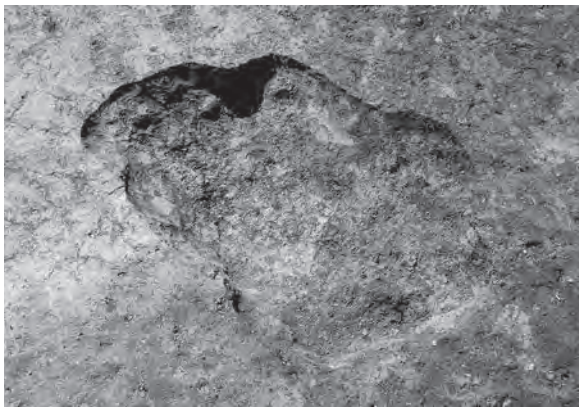
ＳＫ146　完掘

ＳＫ147　断面



ＳＫ147　完掘

ＳＫ148　断面



ＳＫ148　完掘

ＳＫ149　断面

ＳＫ149　完掘

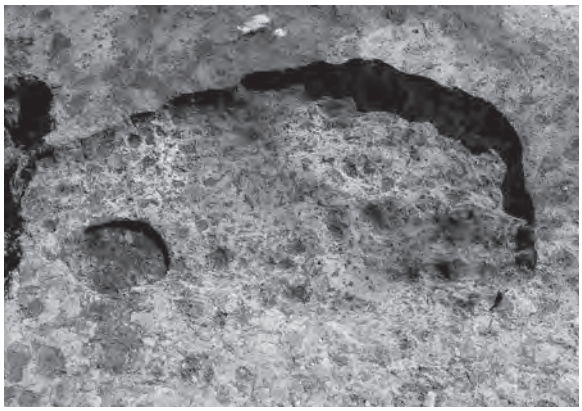
写真図版104　ＳＫ146～ＳＫ149断面・完掘

ＳＫ150　Ａ－Ａ’断面

ＳＫ150　Ｂ－Ｂ’断面

ＳＫ150　完掘

ＳＫ151　断面



ＳＫ151　完掘

ＳＫ152　断面

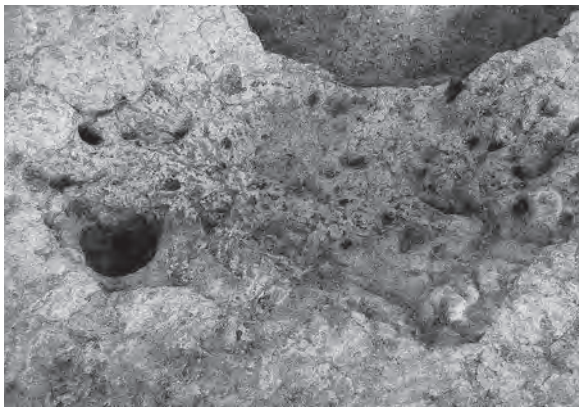
ＳＫ152　完掘

写真図版105　ＳＫ150～ＳＫ152断面・完掘

ＳＫ153　断面

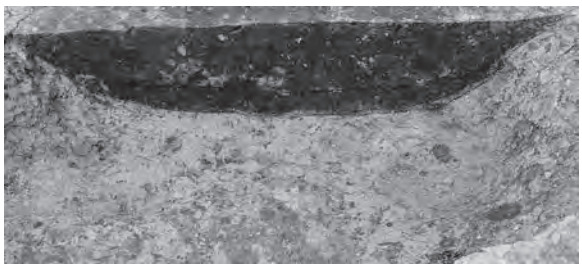
ＳＫ153　完掘

ＳＫ154　断面



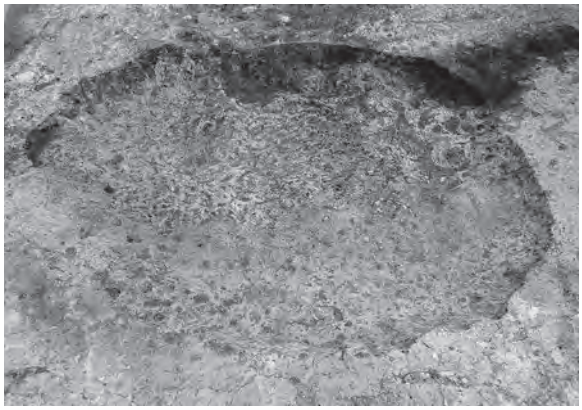
ＳＫ154　完掘

ＳＫ155　断面



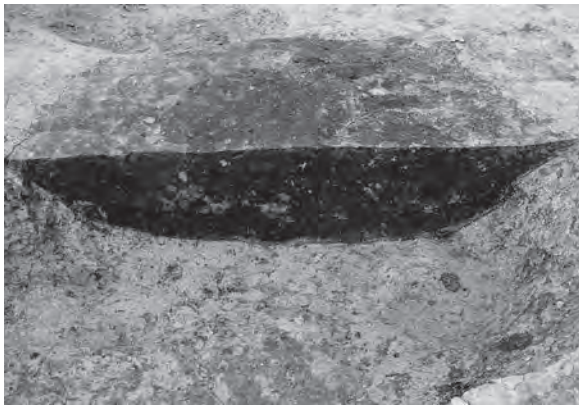
ＳＫ155　完掘

ＳＫ156　断面

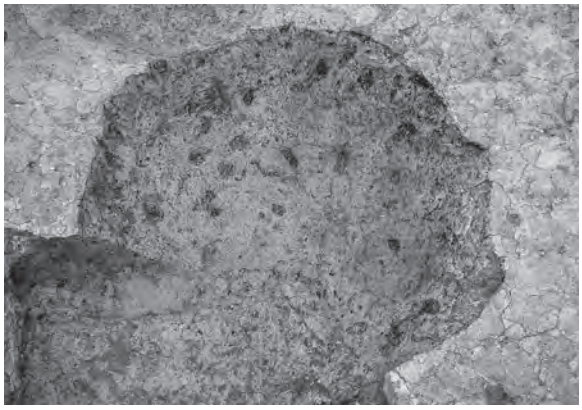


ＳＫ156　完掘

写真図版106　ＳＫ153～ＳＫ156断面・完掘



ＳＫ157　断面



ＳＫ157　完掘

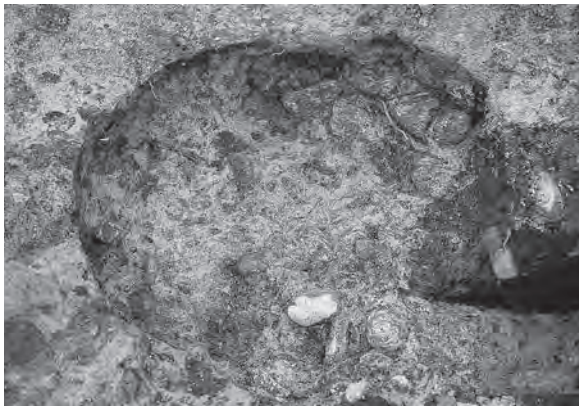
ＳＫ158　断面

ＳＫ158　完掘

ＳＫ159　断面

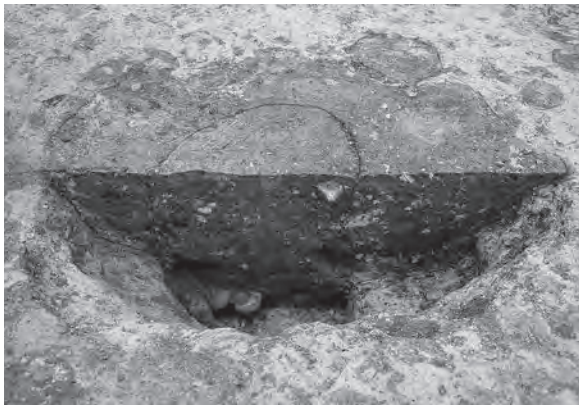
ＳＫ159　完掘

ＳＫ160　断面

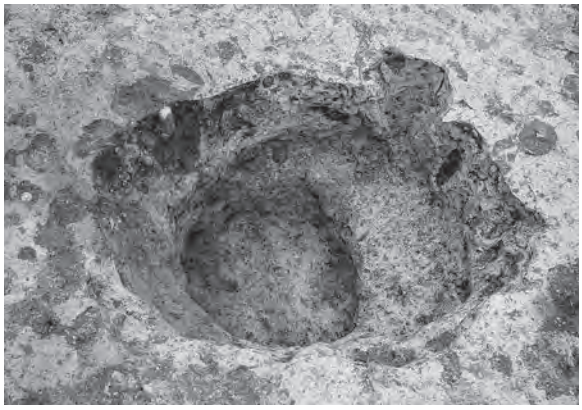


ＳＫ160　完掘

写真図版107　ＳＫ157～ＳＫ160断面・完掘

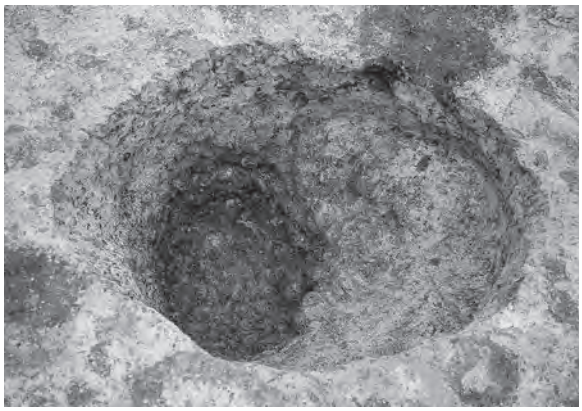


ＳＫ161　断面



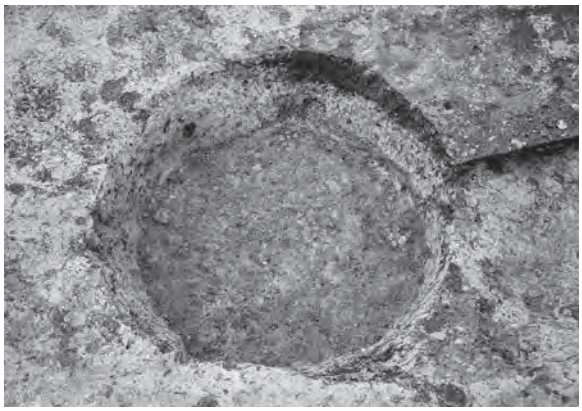
ＳＫ161　完掘

ＳＫ162　断面

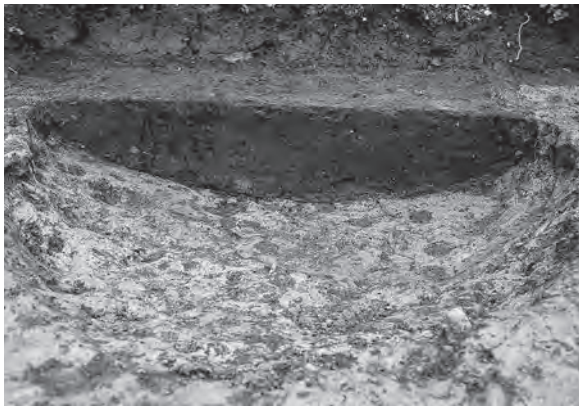


ＳＫ162　完掘

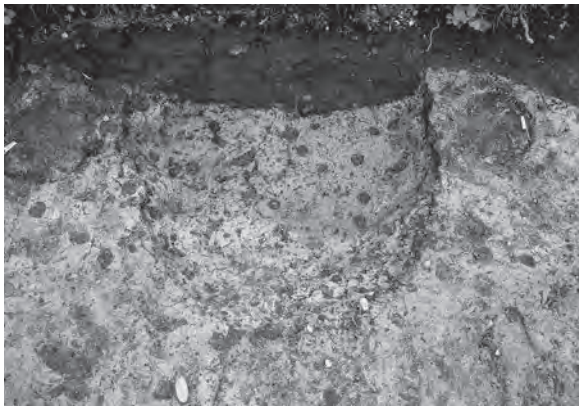
ＳＫ163　断面



ＳＫ163　完掘



ＳＫ164　断面



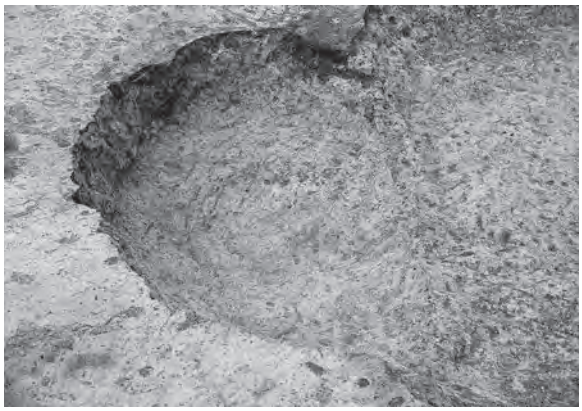
ＳＫ164　完掘

写真図版108　ＳＫ161～ＳＫ164断面・完掘

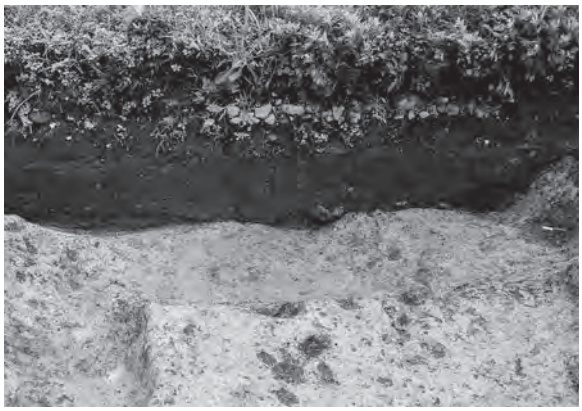
ＳＫ165　断面

ＳＫ165　完掘

ＳＫ166　断面



ＳＫ166　完掘



ＳＫ167　断面

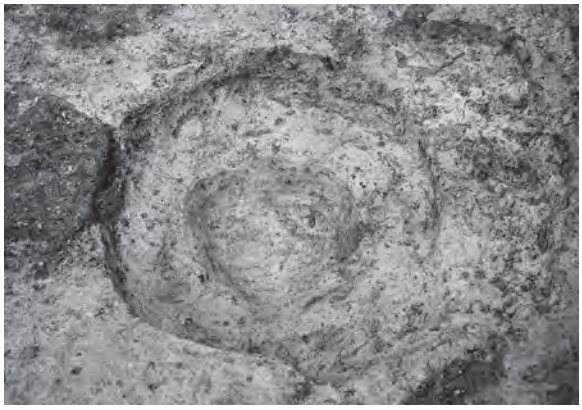
ＳＫ167　完掘

ＳＫ168　断面

ＳＫ168　完掘

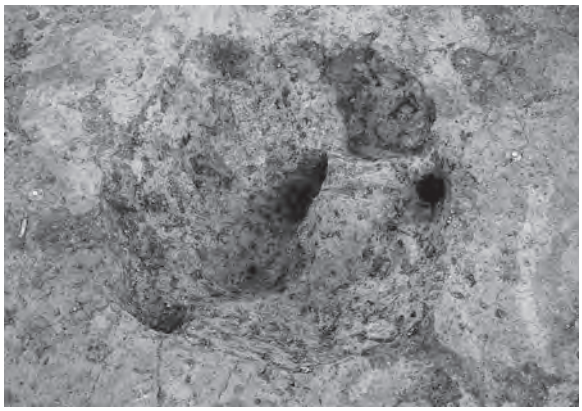
写真図版109　ＳＫ165～ＳＫ168断面・完掘

ＳＫ169　断面

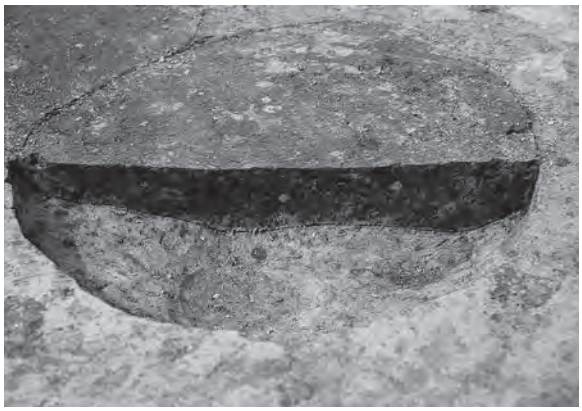


ＳＫ169　完掘

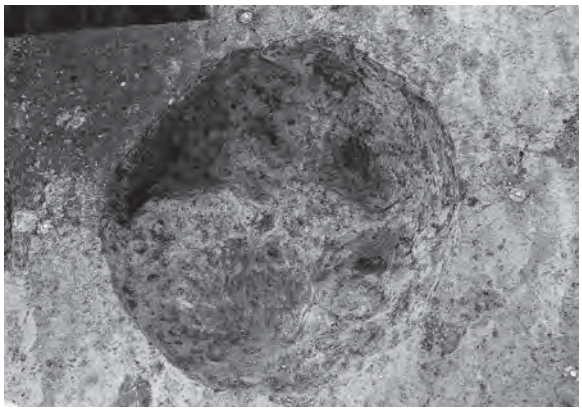
ＳＫ170　断面



ＳＫ170　完掘

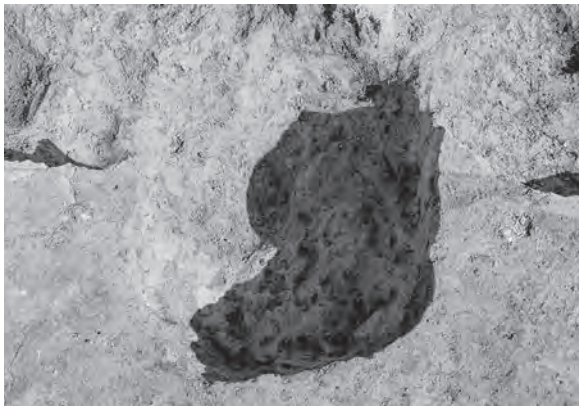


ＳＫ171　断面



ＳＫ171　完掘

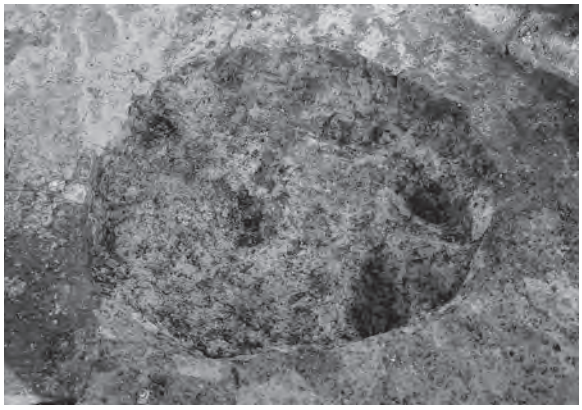
ＳＫ172　断面



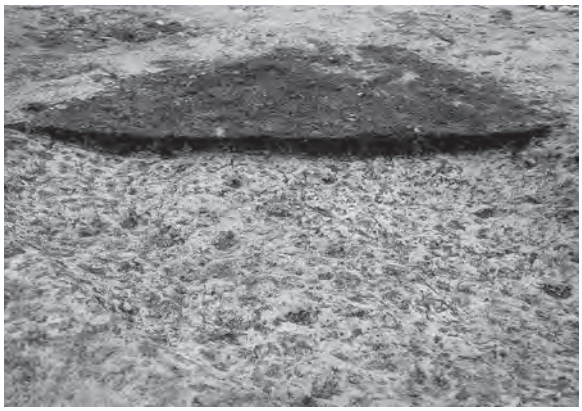
ＳＫ172　完掘

写真図版110　ＳＫ169～ＳＫ172断面・完掘

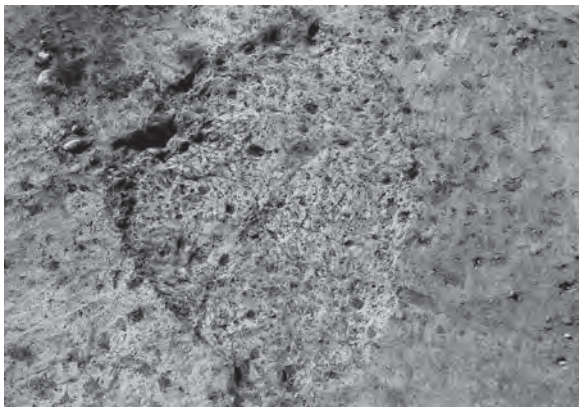
ＳＫ173　断面



ＳＫ173　完掘

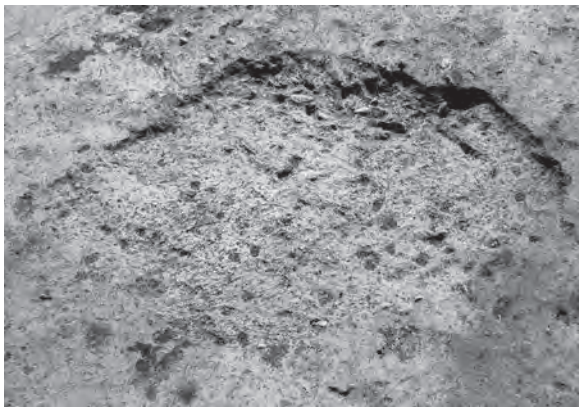


ＳＫ174　断面



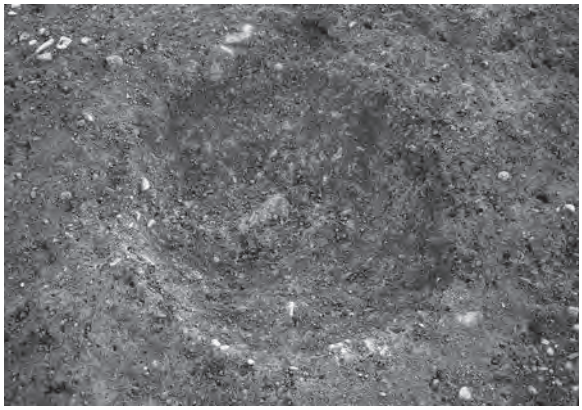
ＳＫ174　完掘

ＳＫ175　断面



ＳＫ175　完掘

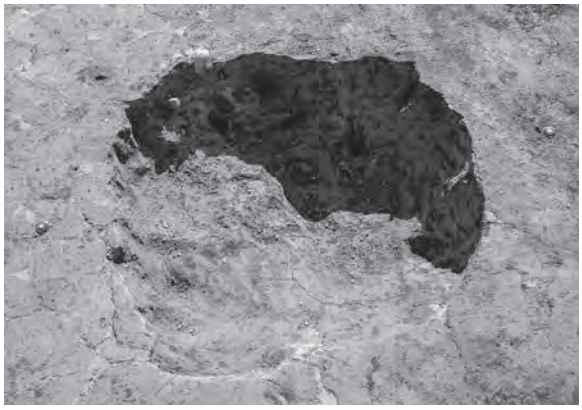
ＳＫ176　断面



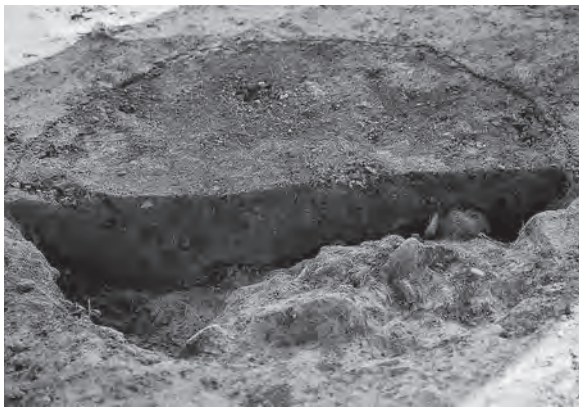
ＳＫ176　完掘

写真図版111　ＳＫ173～ＳＫ176断面・完掘

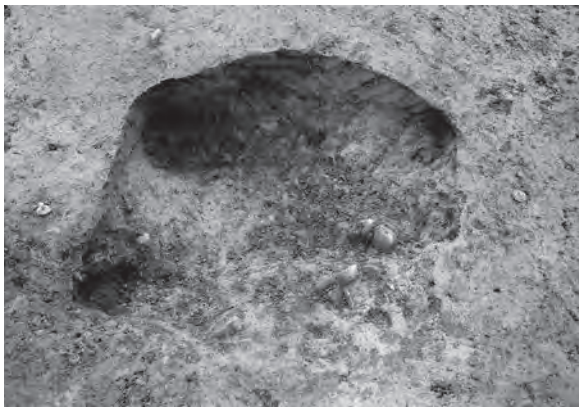
ＳＫ177　断面



ＳＫ177　完掘



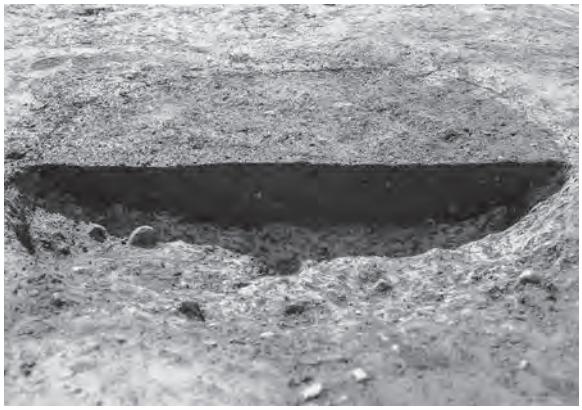
ＳＫ178　断面



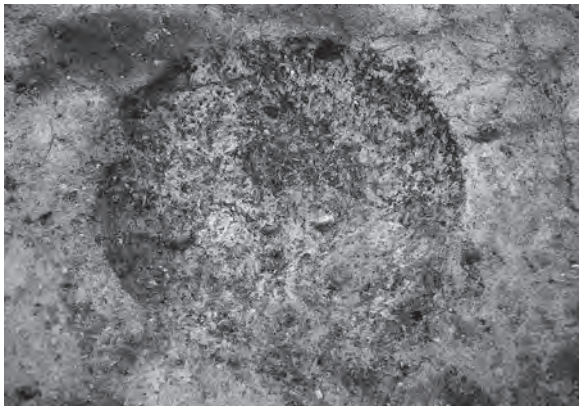
ＳＫ178　完掘

ＳＫ179　断面

ＳＫ179　完掘



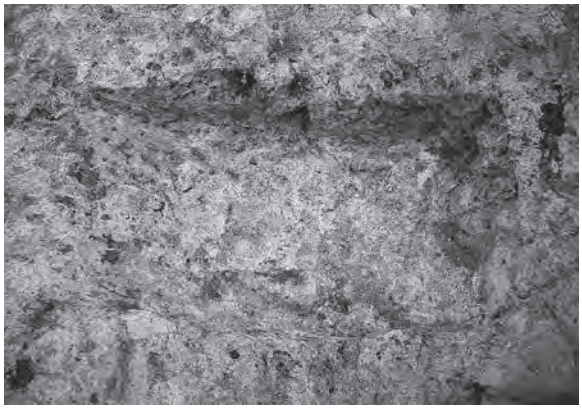
ＳＫ180　断面



ＳＫ180　完掘

写真図版112　ＳＫ177～ＳＫ180断面・完掘

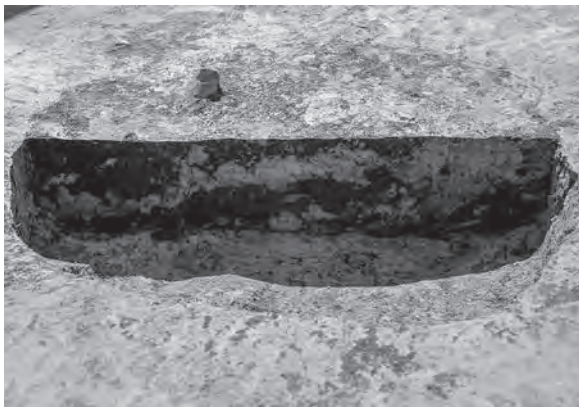
ＳＫ181　断面



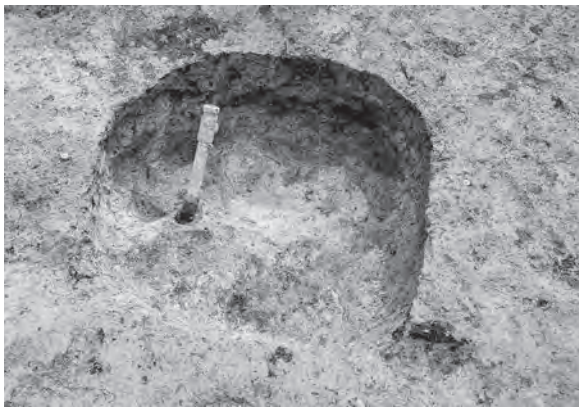
ＳＫ181　完掘

ＳＫ182　断面

ＳＫ182　完掘

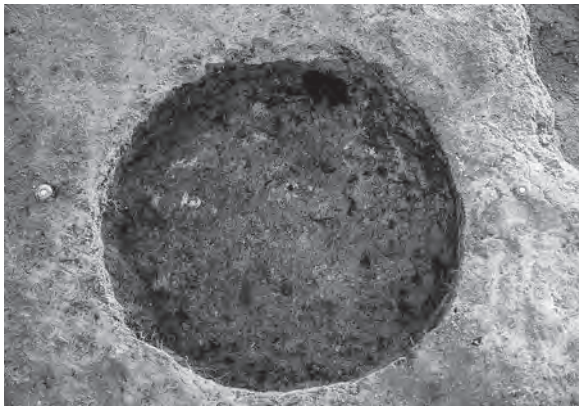


ＳＫ183　断面



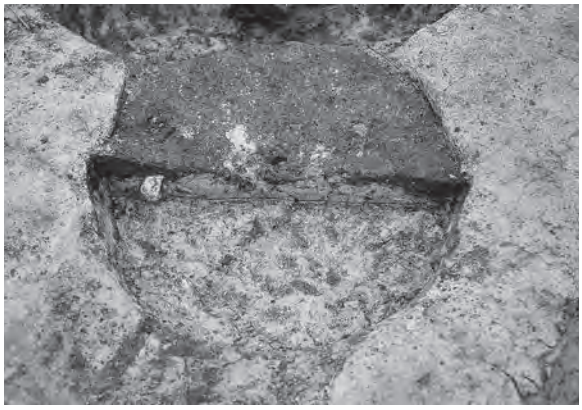
ＳＫ183　完掘

ＳＫ184　断面

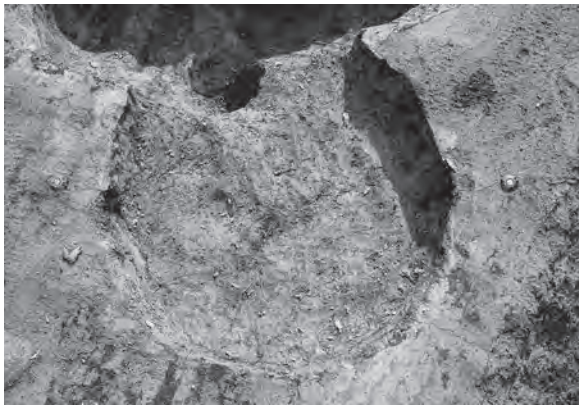


ＳＫ184　完掘

写真図版113　ＳＫ181～ＳＫ184断面・完掘

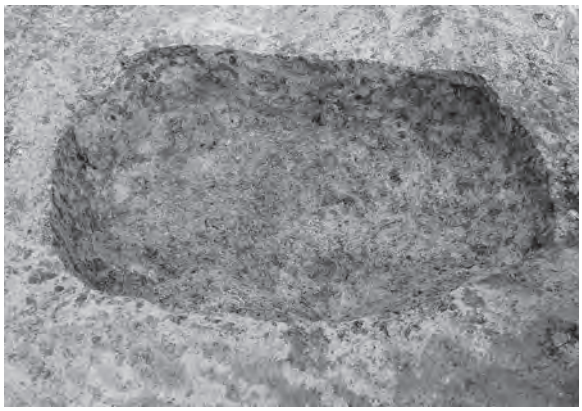


ＳＫ186　断面

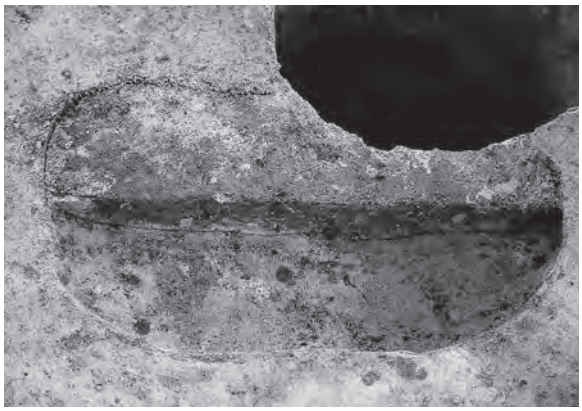


ＳＫ186　完掘

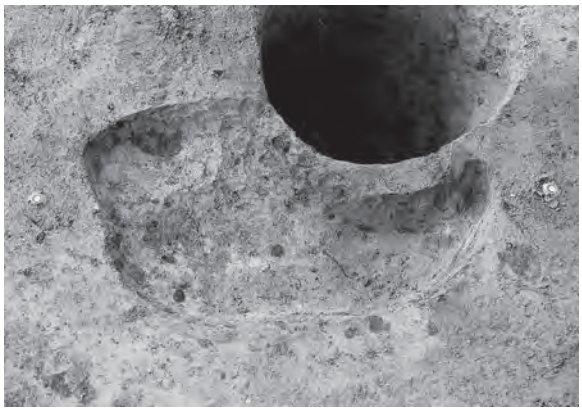
ＳＫ187　断面



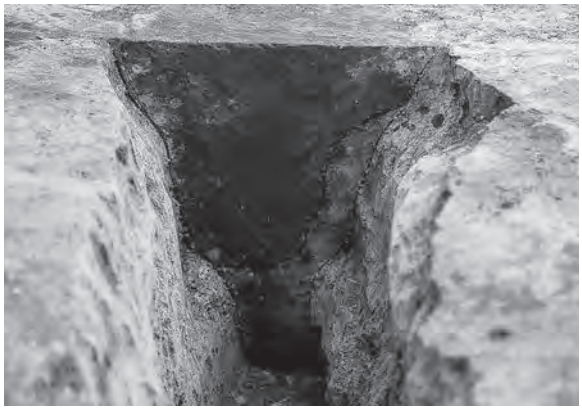
ＳＫ187　完掘



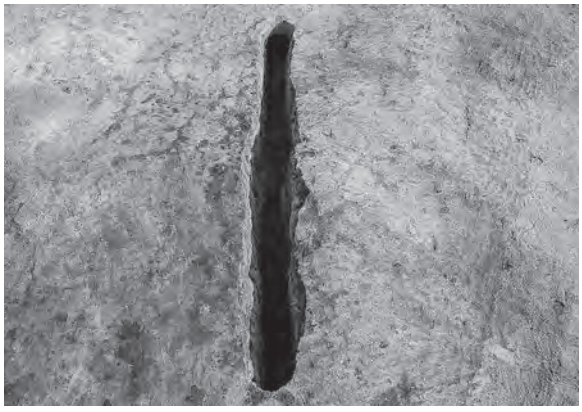
ＳＫ188　断面



ＳＫ188　完掘



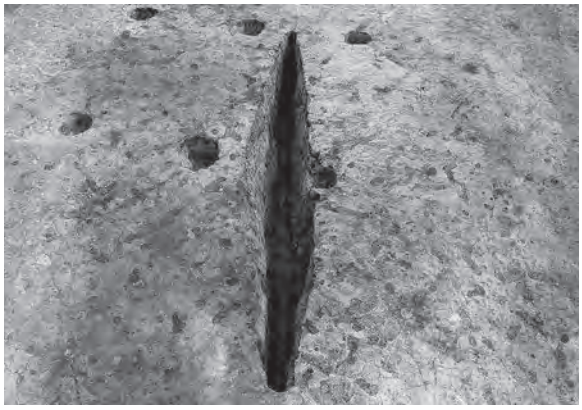
陥し穴１　断面



陥し穴１　完掘

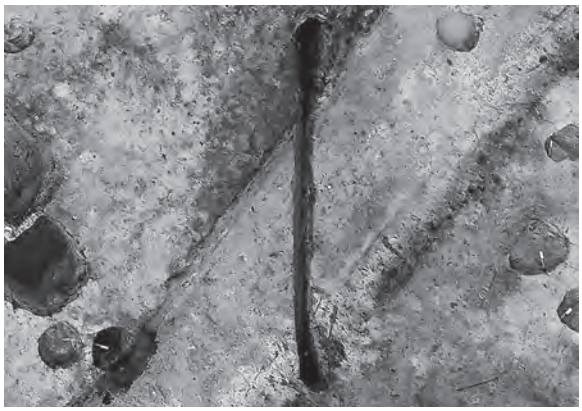
写真図版114　ＳＫ186～ＳＫ188・陥し穴１断面・完掘

陥し穴２　断面



陥し穴２　完掘

陥し穴３　断面



陥し穴３　完掘

現地説明会（１）

現地説明会（２）

現地説明会（３）

現地説明会（４）

写真図版115　陥し穴２～陥し穴３断面・完掘、現地説明会

1

2

3

4

5

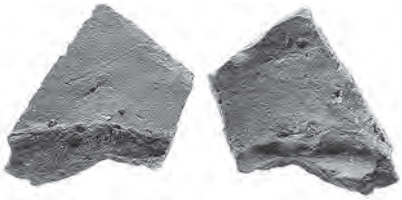
6

7

8

9

101


102

103

104

写真図版116　古代の土師器・土製品、中世の陶磁器

201

202

203

204

205

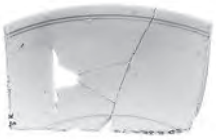
206

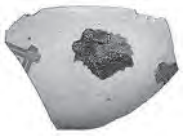
207

208

209

210


211


212

213

214

215

216

217

218

219

220

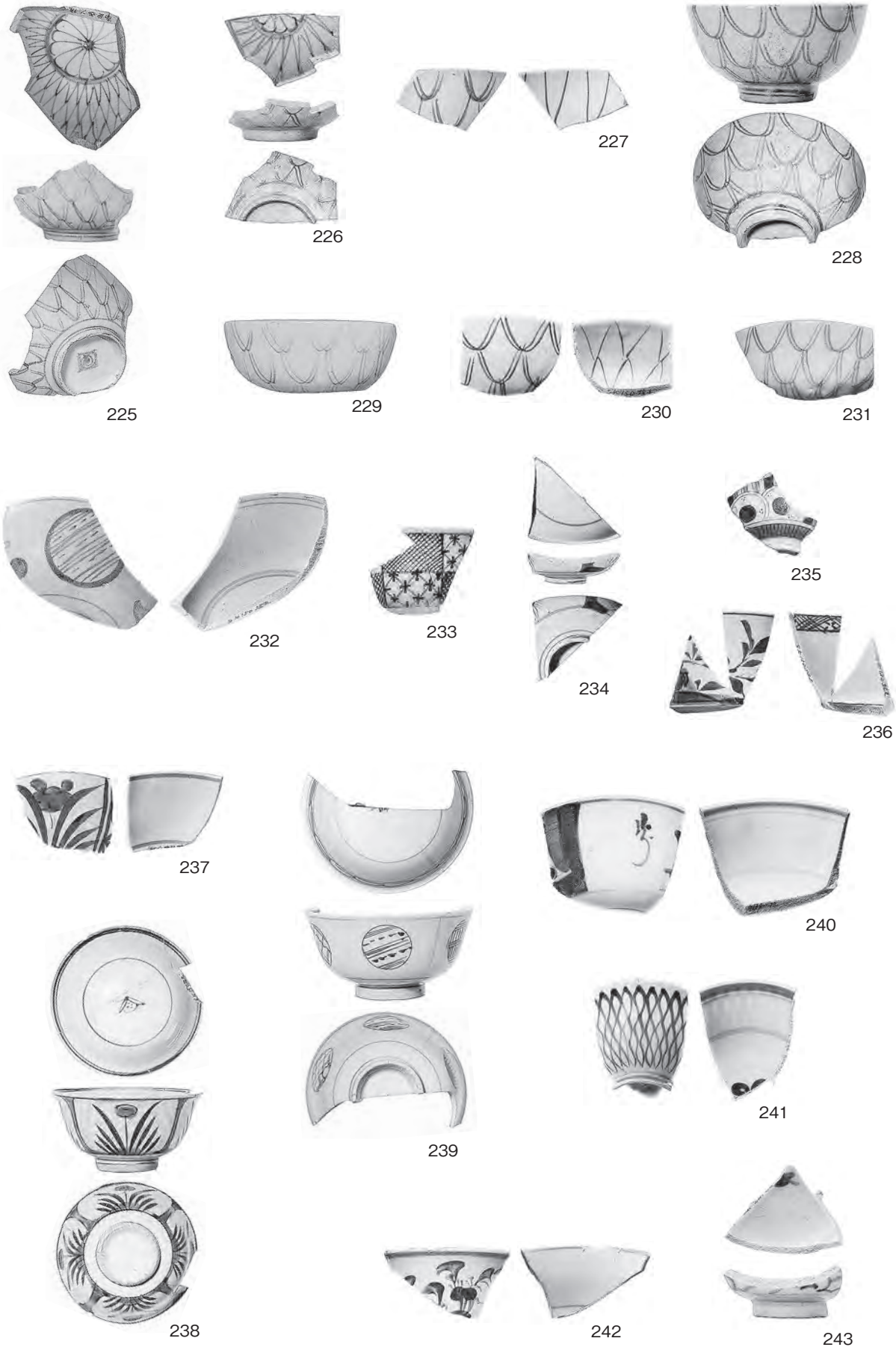
221

222

223

224

写真図版117　近世の磁器（1）



写真図版118　近世の磁器（２）

244

245

246

247

248

249

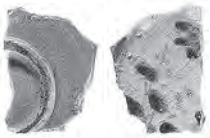
250

251

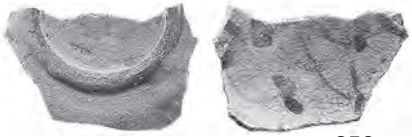
252

253

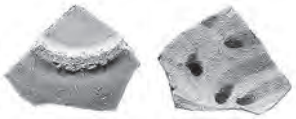
254



255



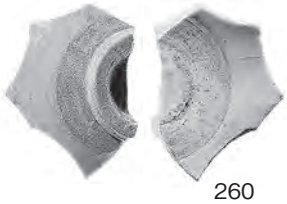
256



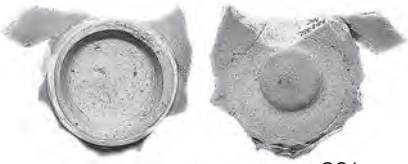
257

258

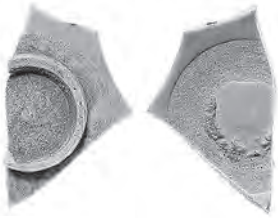
259



260



261

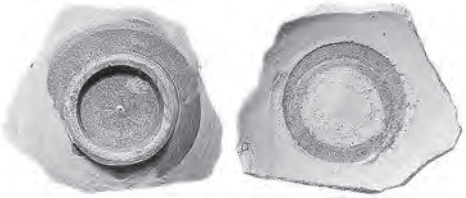


262

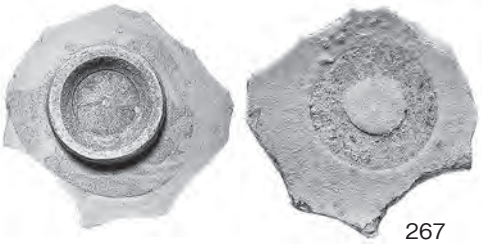
写真図版119　近世の磁器（3）

263

264


265

266


267

268

269

270

271

272

273

275

274

276

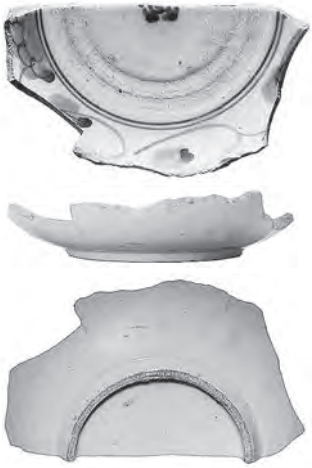
277

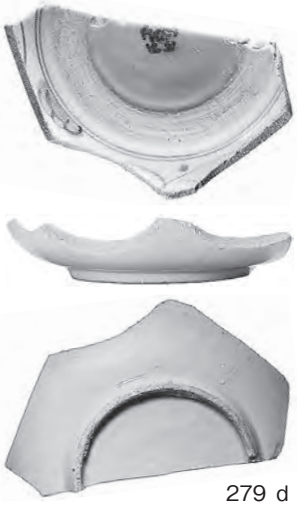
写真図版120　近世の磁器（４）

278

279 b

279 a

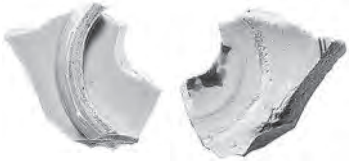

279 c


279 d

280

281

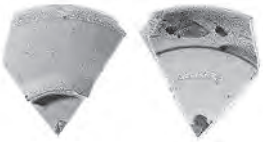
282


283

284

285

286


287

288

289

写真図版121　近世の磁器（５）

290 a

290 b

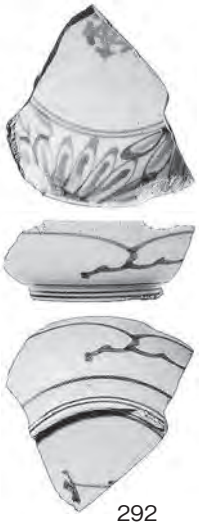
290 c

291 a

291 b

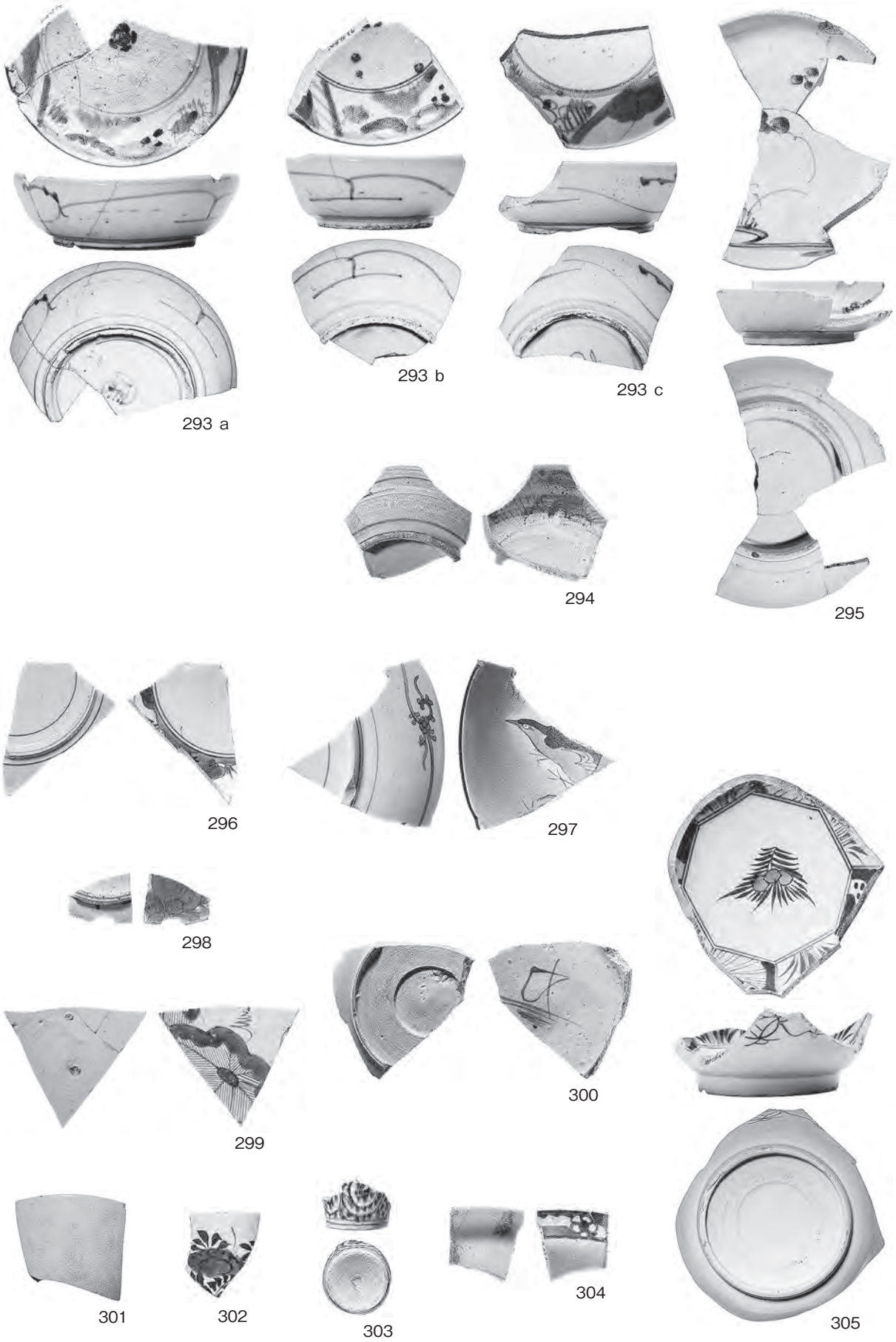
291 c

291 d



292

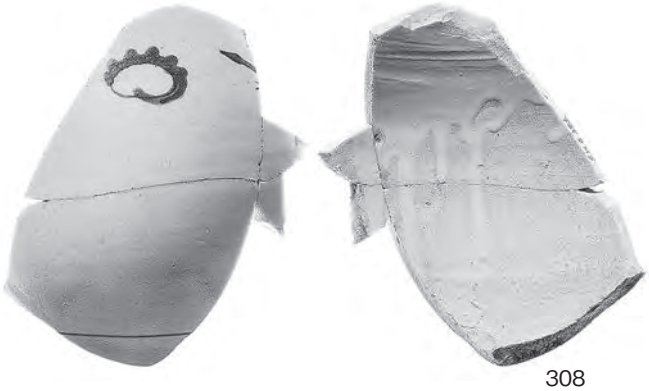
写真図版122　近世の磁器（6）



写真図版123　近世の磁器（７）

306

307



308

309

310

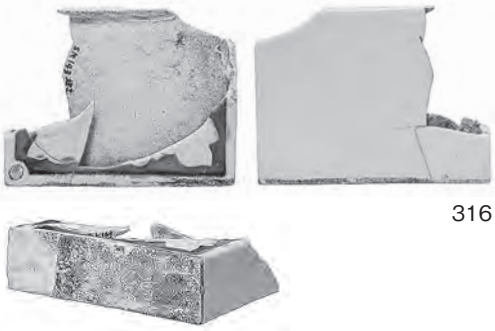
311

312

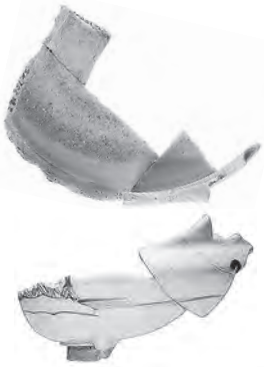
313

314

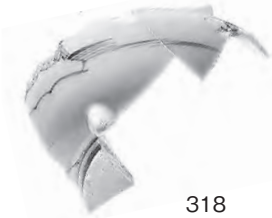
315



316

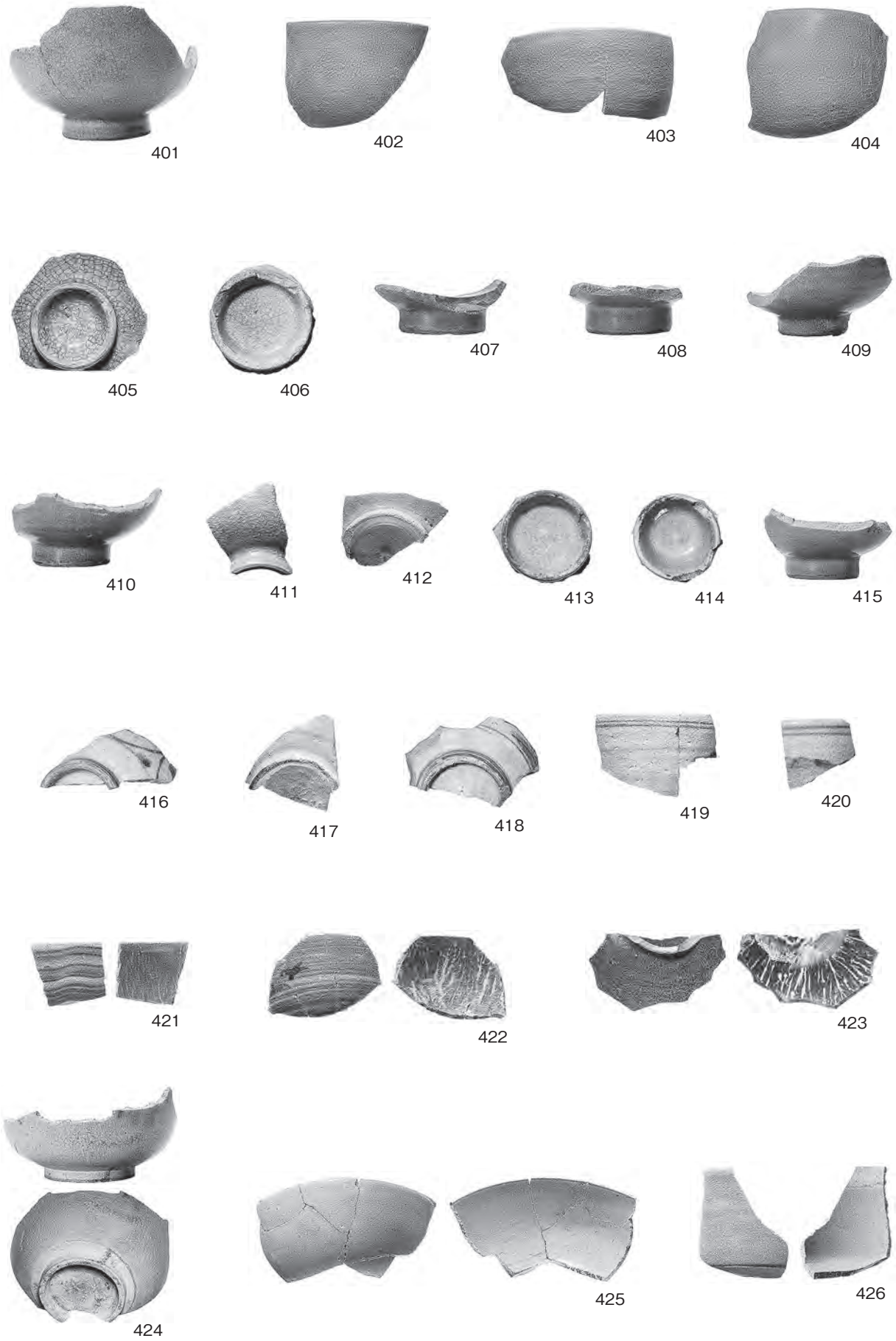


317

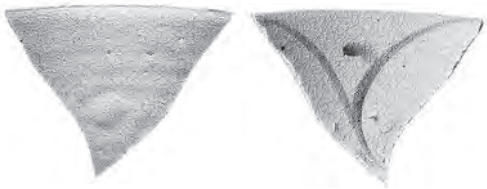


318

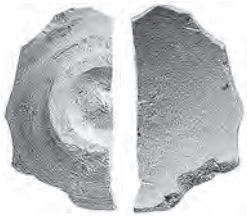
写真図版124　近世の磁器（8）



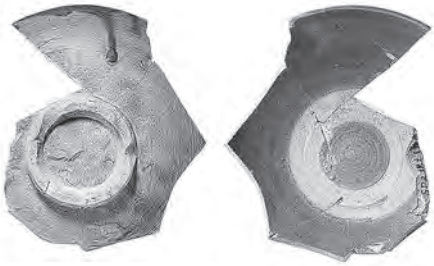
写真図版125　近世～近代の陶器（1）



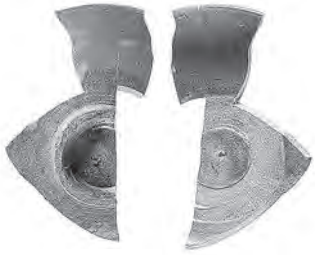
427



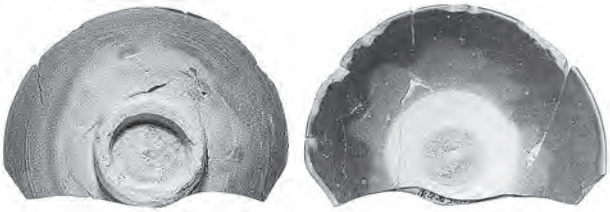
428



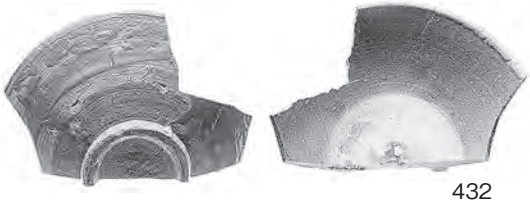
429



430

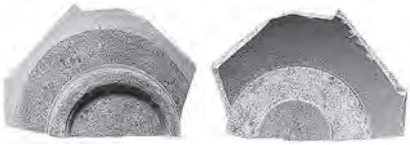


431



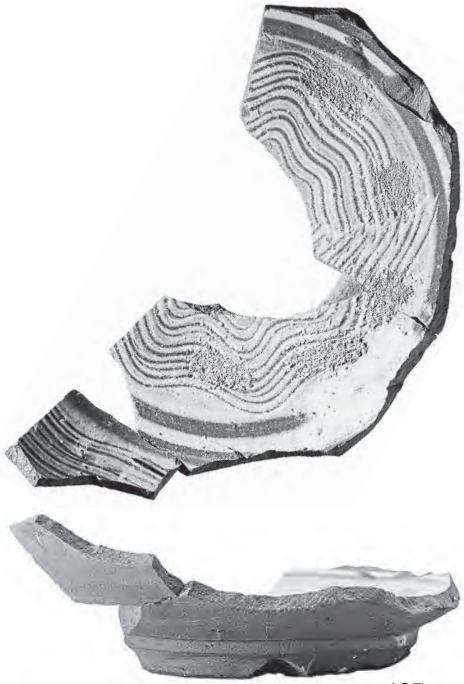
432

433



434

436



435

写真図版126　近世～近代の陶器（２）

437

438

439

440

441

442

443

444

445

446

447

448

449

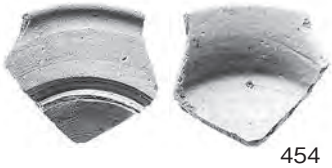
450

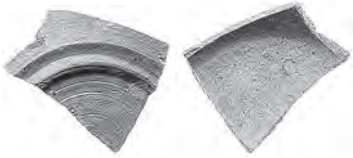
451

452

写真図版127　近世～近代の陶器（３）

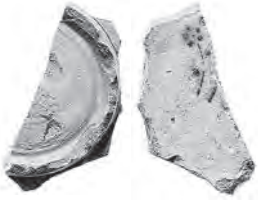
453

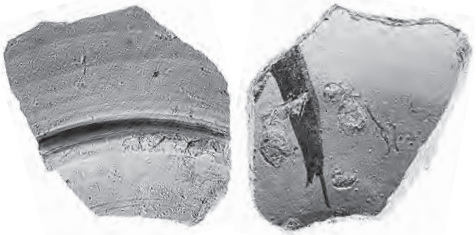

454


455

456

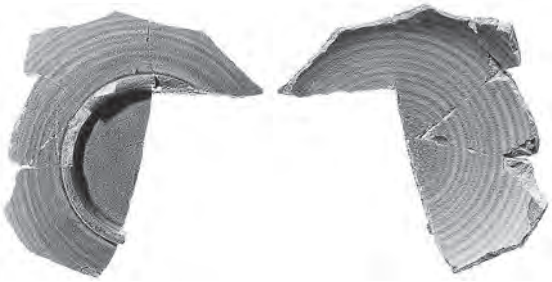
459


457


458

460

461


462

464

463

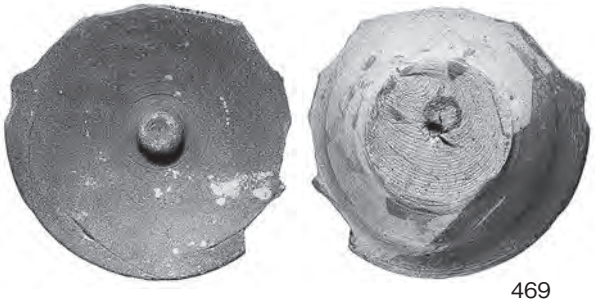
写真図版128　近世～近代の陶器（４）

465

467

468

466



469

471

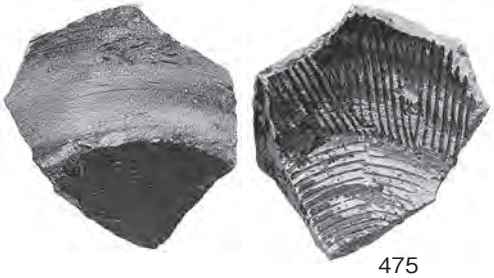
470

472

写真図版129　近世～近代の陶器（5）

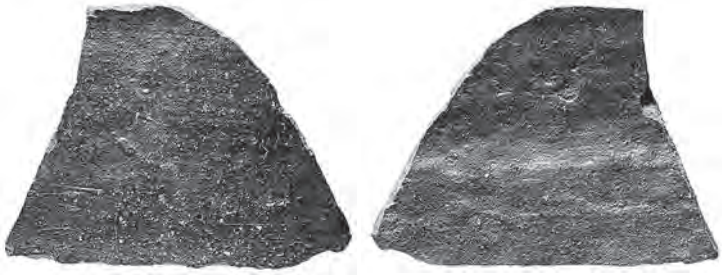
473

474

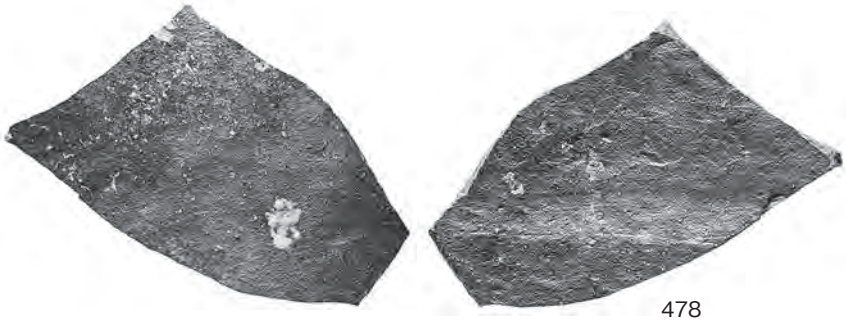


475

476

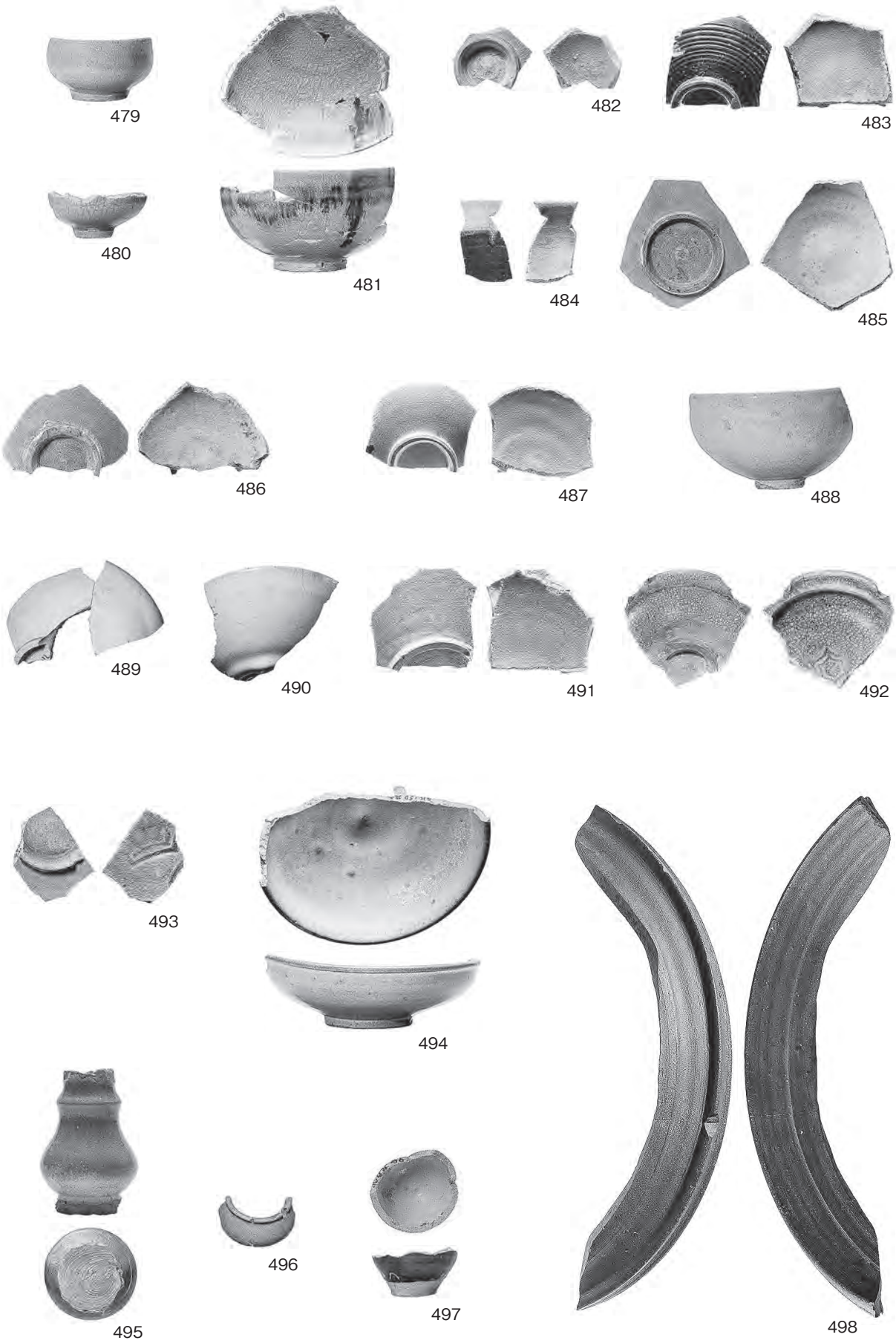


477



478

写真図版130　近世～近代の陶器（６）



写真図版131　近世～近代の陶器（７）

499

500

写真図版132　近世～近代の陶器（８）

501

502

503

写真図版133　近世～近代の陶器（９）

504

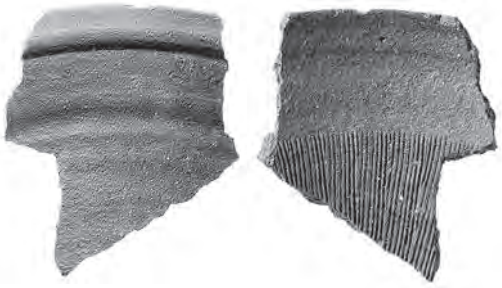
505

506

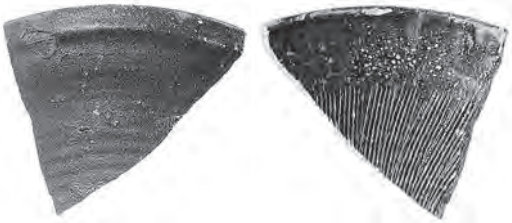
507

508

写真図版134　近世～近代の陶器(10)



509



510

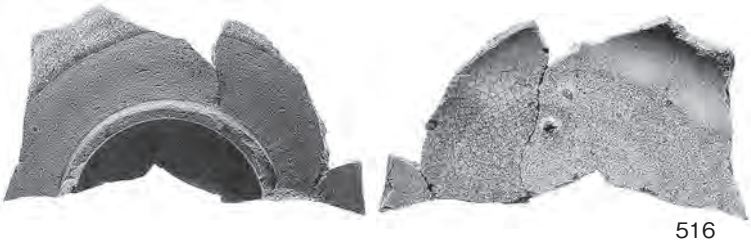
512

511

513

514

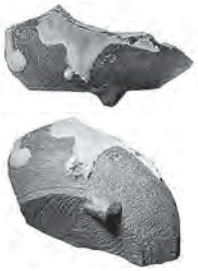
515



516

写真図版135　近世～近代の陶器(11)

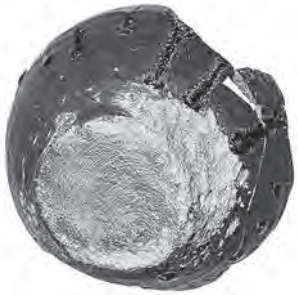
517



518

519

520



521

522

523

524

写真図版136　近世～近代の陶器(12)

525

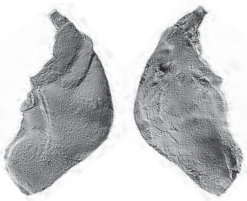
写真図版137　近世～近代の陶器(13)

526

527

528

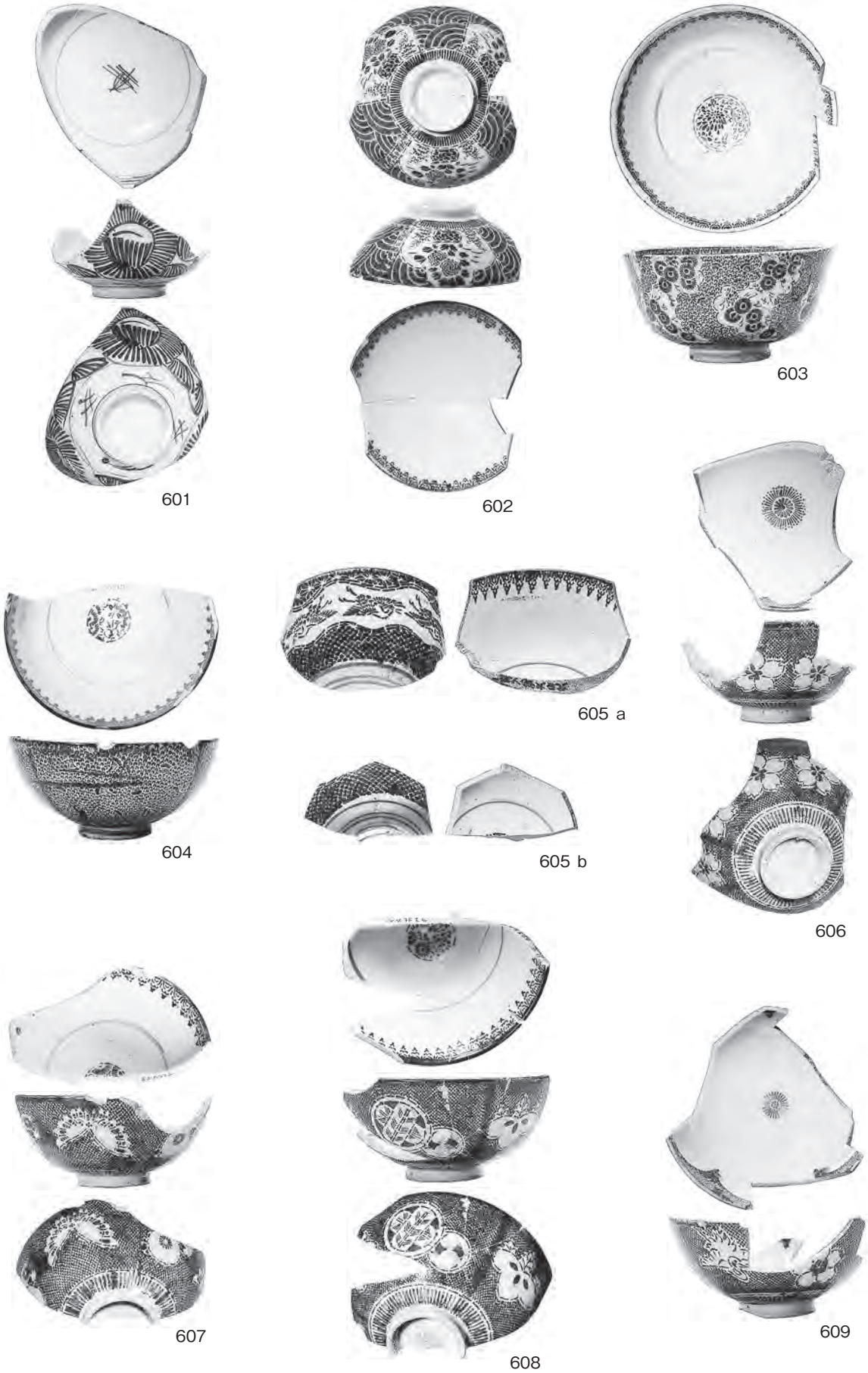
529



530

531

写真図版138　近世～近代の陶器(14)



写真図版139　近代の磁器（1）

610

611

612

613

614

615

616

617

618

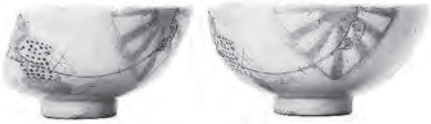
619

620

621

622

623


624

625

626

627

写真図版140　近代の磁器（２）

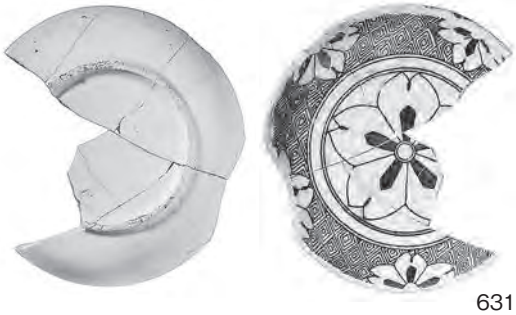
628 a

628 b

628 c

629

630



631

写真図版141　近代の磁器（3）

632

633

634

635

636

637

638

639

640

641

642

643

644

645

646

650

647

648

649

写真図版142　近代の磁器(４)、ガラス製品

651

652

653

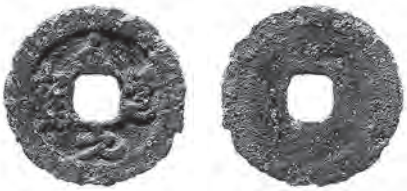
654

655

写真図版143　ガラス製品・合成樹脂製品

701

702


703

704

705

706

707

708

709

710

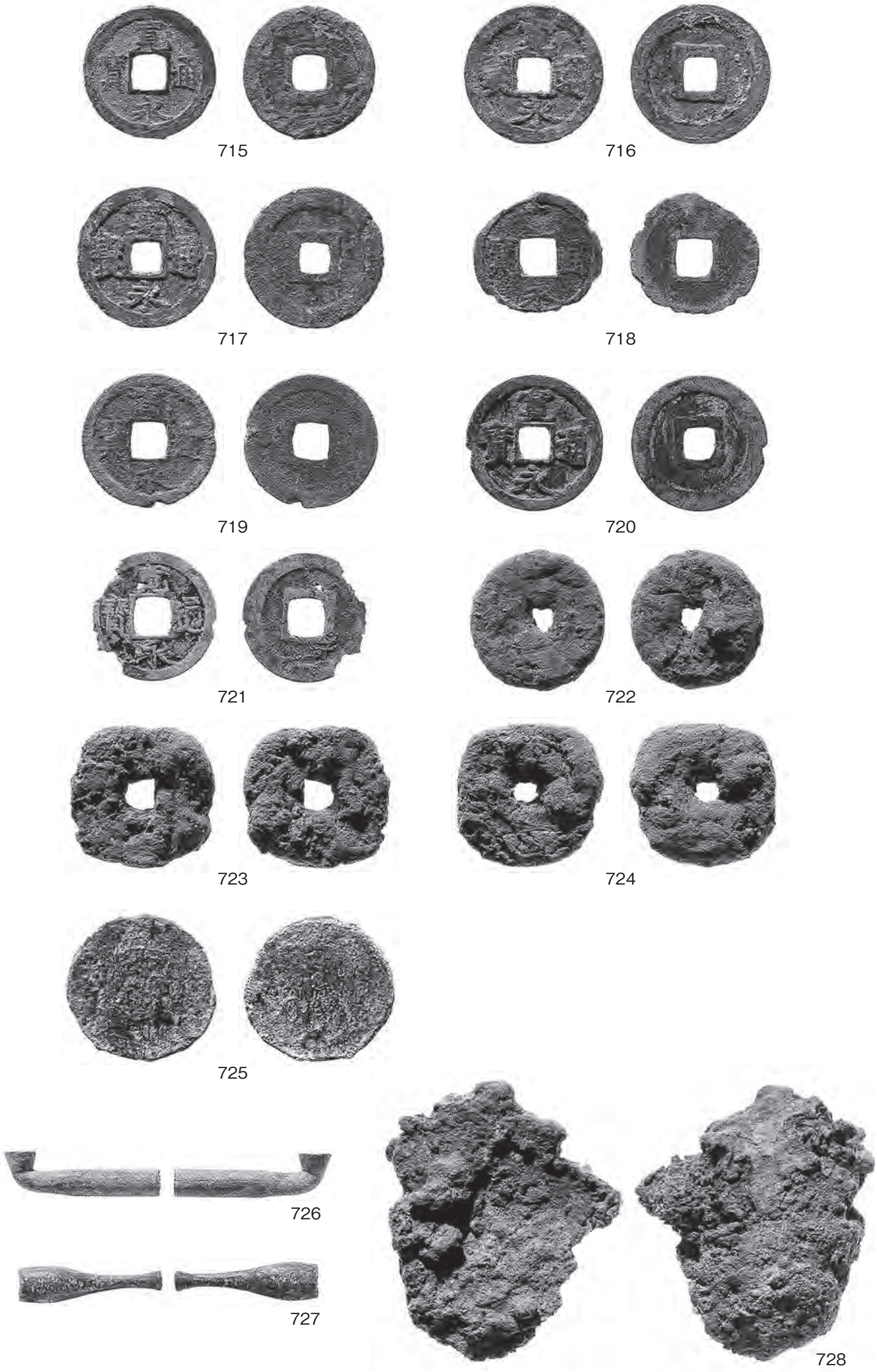
711

712

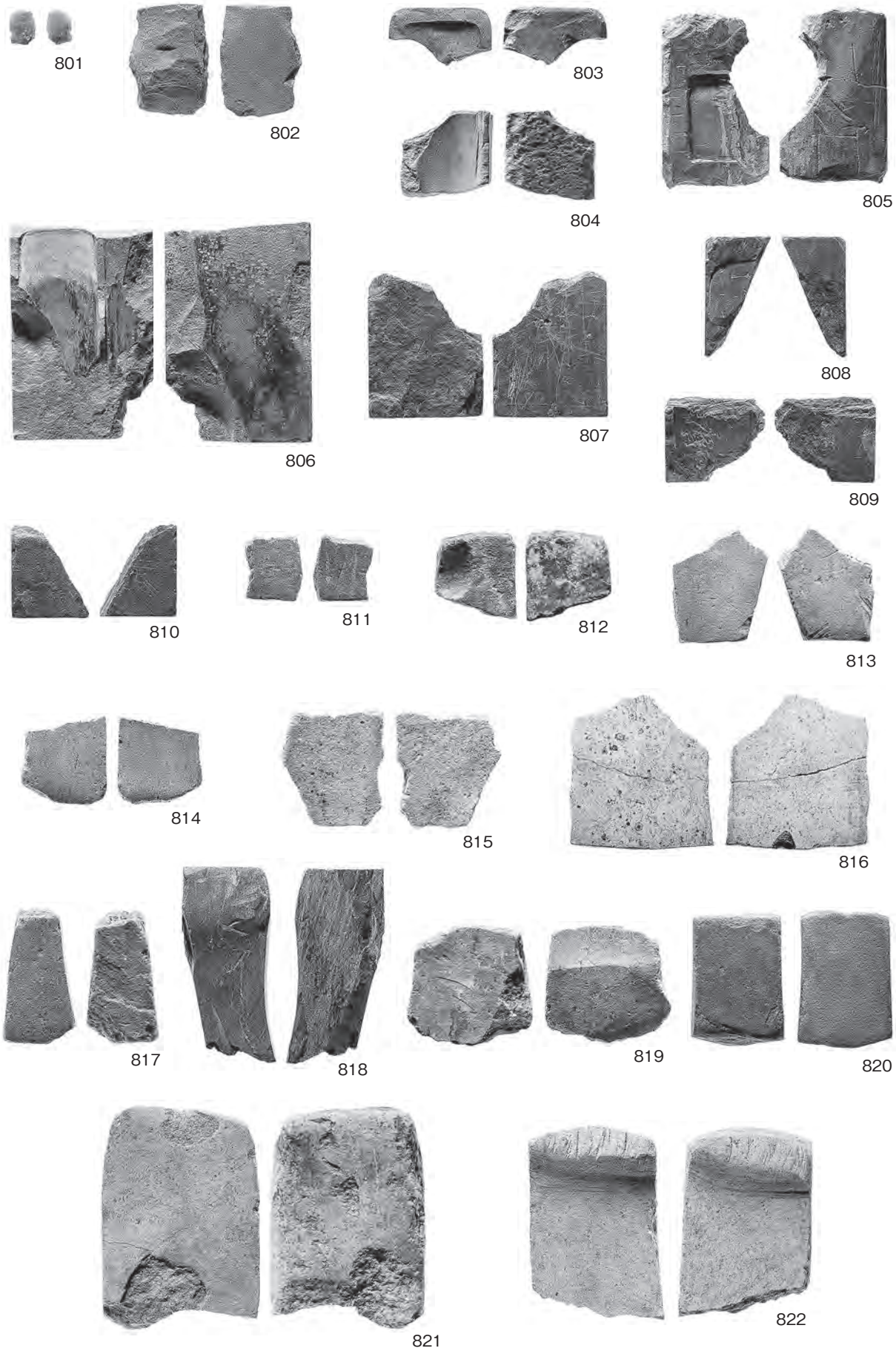
713

714

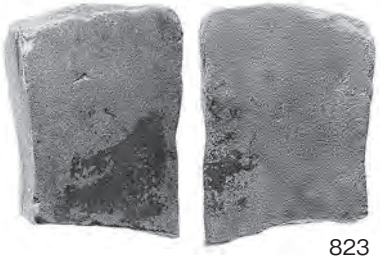
写真図版144　金属製品（1）



写真図版145　金属製品（2）



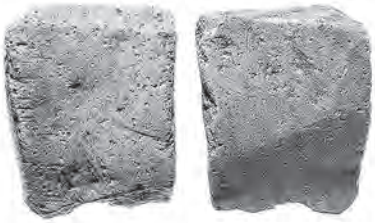
写真図版146　石製品（1）


823

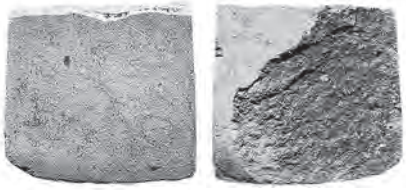
824

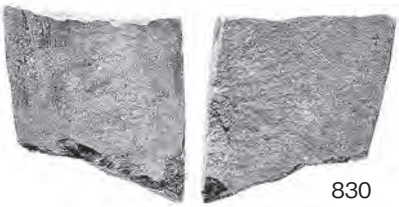
825

826

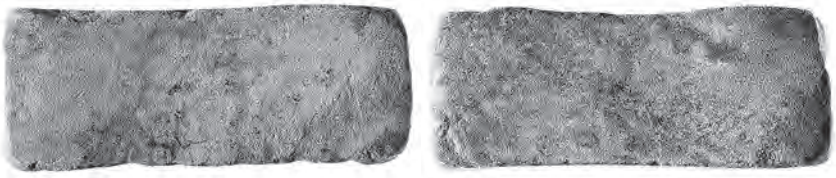

827

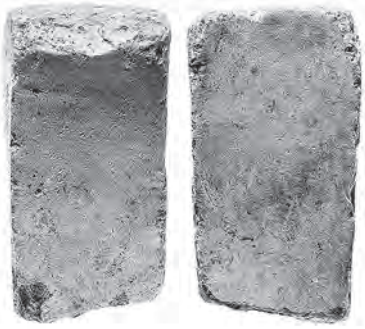
828


829


830

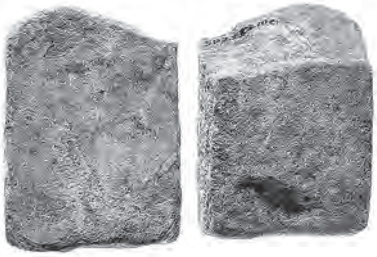
831


832


833

834

写真図版147　石製品（２）

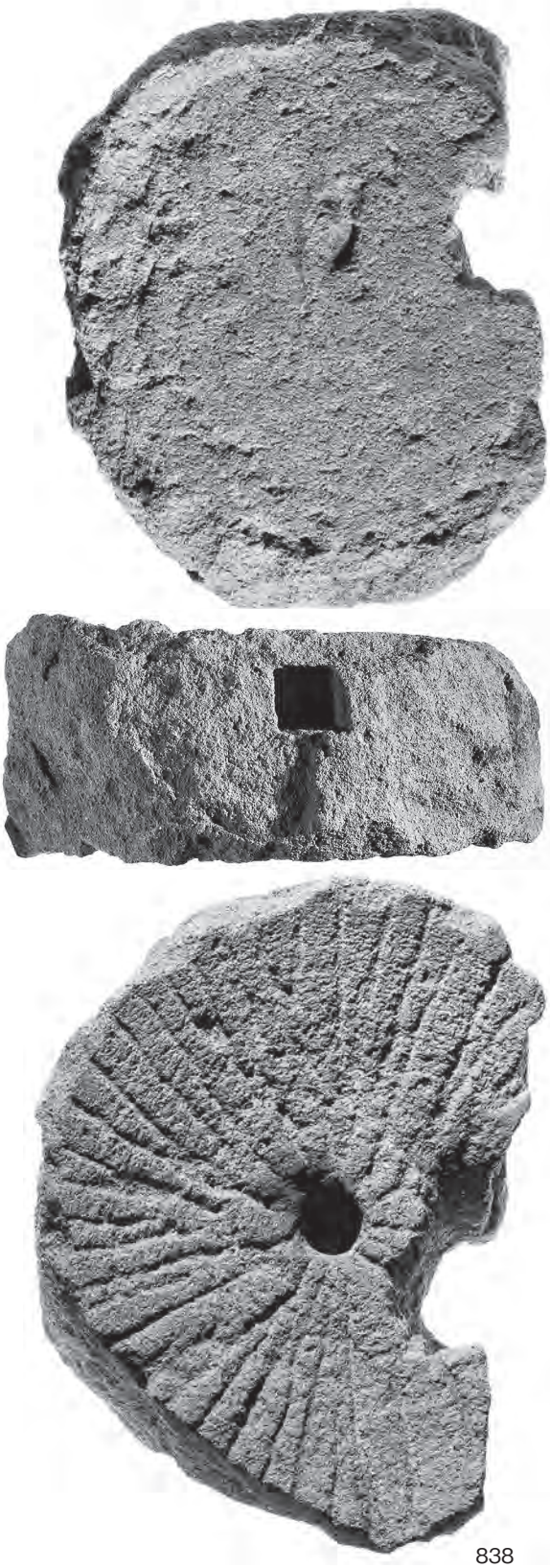


835

836

837

写真図版148　石製品（3）



写真図版149　石製品（4）

839

840

写真図版150　石製品（5）

報告書抄録

ふりがな	まちやしきいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	町屋敷遺跡発掘調査報告書
副書名	一般国道水沢東バイパス建設関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第693集
編著者名	羽柴直人、對馬利彦、出町拓也
編集機関	（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地　　TEL（019）638-9001
発行年月日	2019年３月15日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
町屋敷遺跡（まちやしきいせき）	奥州市水沢真城字町屋敷（おうしゅうしすいざわしんじょうあざまちやしき）64－1ほか	03215	NE27－1029	39度07分33秒	141度09分45秒	2017.07.04～2017.11.30	5,020㎡	一般国道４号水沢東バイパス建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
町屋敷遺跡	狩場	縄文	陥し穴　３基	石器	
	集落	奈良	竪穴住居　３棟	土師器	
				土製紡錘車	
	不明	中世		常滑産陶器広口壺	
				中国産白磁皿	
				中国産染付皿	
	屋敷	近世～近代	掘立柱建物　54棟	近世磁器	中世に属する掘立柱建物も存在する可能性がある。
			柱列　５条	近世～近代の陶器	
			（柱穴1252個）	近代の磁器	
			土坑　134基	ガラス製品	
			溝　６条	銭貨	
				砥石	
				挽臼	
				硯	

要約

町屋敷遺跡の主体をなすものは、近世の屋敷跡である。町屋敷地区には道路に沿って規格的に屋敷を配置した近世の「街村」の痕跡が見出され、これが「町屋敷」の地名の由来となっている。今回の調査範囲も「町屋敷」の一部分であり、近世以来踏襲されている市道町屋敷３号線に面する形で、南北それぞれで２か所ずつ、合計４か所の屋敷が検出されている。それぞれの屋敷では、掘立柱建物で構成される主屋、附属屋の配置が見て取れ、屋敷地どうしを区分する溝跡も検出されている。「町屋敷」の成立は今回出土した陶磁器の年代観から17世紀中頃と推測される。また、南側調査区では、屋敷を構成する掘立柱建物より古い、調査区外東側に連続する大規模な溝が検出されており、調査区外東側に所在したとされる「瀬台野御蔵場」に関連する区画溝と推測される。瀬台野御蔵場は享保３年（1718年）に廃止されており、南側調査区東側の屋敷については、その後に成立したと理解される。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第693集

町屋敷遺跡発掘調査報告書

一般国道4号水沢東バイパス建設事業関連遺跡発掘調査

印　刷　平成31年３月15日
発　行　平成31年３月15日

編　集　(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電　話（019）638－9001
発　行　国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
〒020－0066　岩手県盛岡市上田四丁目２－２
電　話（019）624－3195
(公財)岩手県文化振興事業団
〒020－0023　岩手県盛岡市内丸13番１号
電　話（019）654－2235
印　刷　トーバン印刷株式会社
〒020－0823　岩手県盛岡市門二丁目2－3
電　話（019）653－6333㈹

©（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2019